



高崎健康福祉大学

Takasaki University of Health and Welfare

2024

令和 6 年度

シラバス

健康福祉学部 社会福祉学科



本学の授業とSDGsとの関連

シラバス内で授業内容と「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」との関連を示しています。関連する目標は番号で示されておりますので、履修の参考にしてください。



17の持続可能な開発目標

目標 1.	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
目標 2.	飢餓を終わらせ、食糧安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
目標 3.	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
目標 4.	すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し生涯学習の機会を促進する
目標 5.	ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女児の能力強化を行う
目標 6.	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
目標 7.	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
目標 8.	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する
目標 9.	強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
目標 10.	各国内および各国間の不平等を是正する
目標 11.	包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市および人間居住を実現する
目標 12.	持続可能な生産消費形態を確保する
目標 13.	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
目標 14.	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
目標 15.	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
目標 16.	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
目標 17.	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

～シラバス内の表記について～

例として、授業内容が「目標 1」、「目標 3」、「目標 10」、「目標 16」と関連がある場合は下記のように表記します。特に関連のある目標を示しています。空欄であるからといって、いずれの目標にも全く関連しない、ということではありません。

SDGs との関連	①	③	⑩	⑯

アクティブラーニング(AL)とは

文部科学省の用語集によれば、「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称」とあります。具体的には、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれ、教室でのディスカッション、グループワーク等も有効なアクティブラーニングの方法です。

これらを導入することにより、主体的対話的で、より質の高い学修効果を得ることが期待できます。

本学では以下のように、アクティブラーニング(AL)を定義しています。

PBL (Project Based Learning) (課題解決型学習)	テーマに沿ったプロジェクトまたは特定の問題を提示し、それらの問題解決を通して様々な知識・スキルを学ぶ方法
反転授業	授業と予習を「反転」させ、事前に C-learning 等で知識取得を行っておき、授業では理解度の確認や課題解決型の演習等を行う方法
ディスカッション、ディベート	授業において、特定のテーマについて対話を通して理解を深める方法
グループワーク	学生を少人数グループにグループ分けし、与えられた課題の解決に向けて協同で取り組む方法。2人組によるペアワークを含む。
プレゼンテーション	学生がパワーポイント等を用いて、発表資料を作成し、他者の前で自ら発表を行う方法
演習、実験、実習、実技	能動的な学修方法を取り入れている場合には該当します。
フィールドワーク	学内外のフィールドを調査・観察場所として、調査や観察を通して情報収集を行う方法
指導案作成、模擬授業	教職課程科目において、自ら授業を実践する目的で、学習指導要領を参考に指導案を作成し、具体的な授業を実践し、教育実践力を育成する方法
リアクションペーパー	C-Learning のアンケートフォームなどを用いて、毎授業後に学生の理解度や、反応、感想を書かせる方法
その他	上記以外のアクティブラーニングを用いる場合

～シラバス内の表記について～

実施するアクティブラーニングの種別に○印がついています。また、該当する種別が無い場合は、下記のように「その他」に○印があり、その実施方法が下段の“「その他」のアクティブラーニング実施方法”に記載されています。

アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテー ション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成 模擬授業	リアクシ ョンペー パー	その他
										○
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法	小テスト・レポートに対してコメントを付し返却、授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける、 ロールプレイング 等									

令和6年度社会福祉学科シラバス目次

健大で学ぶ Well-being(教養基礎)	1	Integrated English I (リテラシー)	104
基礎教養ゼミ(教養基礎)	4	Integrated English II (リテラシー)	106
日本語表現法(教養基礎)	7	ドイツ語(リテラシー)	108
日本国憲法(教養基礎)	9	フランス語(リテラシー)	110
法学(教養基礎)	11	ポルトガル語(リテラシー)	112
経済学(教養基礎)	14	中国語(リテラシー)	115
社会学(教養基礎)	17	ハングル語(リテラシー)	117
生涯健康論(教養基礎)	20	情報リテラシー I (リテラシー)	119
生涯学習概論(教養基礎)	23	情報リテラシー II (リテラシー)	122
生命と環境の科学(教養基礎)	25	情報リテラシー III (リテラシー)	125
国際関係論(教養基礎)	29	情報リテラシー IV (リテラシー)	127
体育理論(教養基礎)	32	情報リテラシー V (リテラシー)	129
体育実技(教養基礎)	34	情報リテラシー VI (リテラシー)	131
キャリア形成論(教養基礎)	37	情報化社会を生きる ～疑う力・創る力.....	133
哲学(人間理解)	40	人間行動学(専門教養科目)	136
倫理学(人間理解)	43	健康運動実技(専門教養科目)	138
心理学(人間理解)	46	宗教と倫理(専門教養科目)	141
文学と人間(人間理解)	49	レクリエーション論(専門教養科目)	144
芸術論(人間理解)	51	社会福祉の原理と政策 I (専門導入科目)	147
ボランティア・市民活動論(人間理解)	53	社会福祉の原理と政策 II (専門導入科目)	150
人権論(人間理解)	56	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門導入科目)	153
人間関係論(人間理解)	59	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)(専門導入科目)	156
ジェンダー論(人間理解)	61	高齢者福祉(専門導入科目)	159
共生の倫理(人間理解)	63	児童・家庭福祉(専門導入科目)	161
チーム医療アプローチ論(人間理解)	65	障害者福祉(専門導入科目)	164
Introduction to Healthcare Sciences(人間理解)	71	医学概論(専門導入科目)	166
囲碁の世界(人間理解)	74	社会福祉調査の基礎(専門導入科目)	168
英語 IA(リテラシー)	77	認知症の理解(専門導入科目)	171
英語 IB(リテラシー)	79	障害の理解(専門導入科目)	173
英語 IC(リテラシー)	81	発達と老化の理解(専門導入科目)	176
英語 IIA(リテラシー)	86	精神医学と精神医療 I (専門導入科目)	179
英語 IIB(リテラシー)	88	現代の精神保健の課題と支援 I (専門導入科目)	181
英語 IIC(リテラシー)	90	ソーシャルワーク基礎講座(専門導入科目)	184
英語 IIIA(リテラシー)	92	ソーシャルワーク演習(専門基幹科目)	187
英語 IIIB(リテラシー)	94	ソーシャルワーク演習(専門) I (専門基幹科目)	190
英語 IIIC(リテラシー)	96	ソーシャルワーク演習(専門) II (専門基幹科目)	193
英語 IVA(リテラシー)	98	ソーシャルワーク演習(専門) III (専門基幹科目)	196
英語 IVB(リテラシー)	100	ソーシャルワーク演習(専門) IV (専門基幹科目)	199
英語 IVC(リテラシー)	102	特別講座 I (専門基幹科目)	202

特別講座Ⅱ(専門基幹科目).....	203	生活支援技術Ⅲ(専門展開科目).....	302
社会保障Ⅰ(専門展開科目).....	204	生活支援技術Ⅳ(専門展開科目).....	304
社会保障Ⅱ(専門展開科目).....	206	生活支援技術Ⅴ(専門展開科目).....	306
地域福祉と包括的支援体制Ⅰ(専門展開科目).....	208	介護過程Ⅰ(専門展開科目).....	310
地域福祉と包括的支援体制Ⅱ(専門展開科目).....	210	介護過程Ⅱ(専門展開科目).....	312
貧困に対する支援(専門展開科目).....	213	介護過程Ⅲ(専門展開科目).....	314
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ(専門展開科目).....	215	介護過程Ⅳ(専門展開科目).....	316
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ(専門展開科目).....	217	介護過程Ⅴ(専門展開科目).....	318
ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ(専門展開科目).....	220	介護総合演習Ⅰ(専門展開科目).....	320
ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ(専門展開科目).....	222	介護総合演習Ⅱ(専門展開科目).....	322
福祉サービスの組織と経営(専門展開科目).....	224	介護総合演習Ⅲ(専門展開科目).....	324
保健医療と福祉(専門展開科目).....	226	介護総合演習Ⅳ(専門展開科目).....	327
権利擁護を支える法制度(専門展開科目).....	228	介護実習Ⅰ(専門展開科目).....	330
刑事司法と福祉(専門展開科目).....	230	介護実習Ⅱ(専門展開科目).....	332
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ(専門展開科目).....	233	介護実習Ⅲ(専門展開科目).....	334
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ(専門展開科目).....	236	医療的ケア論Ⅰ(専門展開科目).....	336
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ(専門展開科目).....	238	医療的ケア論Ⅱ(専門展開科目).....	338
ソーシャルワーク実習Ⅰ(専門展開科目).....	241	医療的ケア論Ⅲ(専門展開科目).....	341
ソーシャルワーク実習Ⅱ(専門展開科目).....	243	医療的ケア演習(専門展開科目).....	343
精神医学と精神医療Ⅱ(専門展開科目).....	245	ケアマネジメント論(専門展開科目).....	345
現代の精神保健の課題と支援Ⅱ(専門展開科目).....	248	リハビリテーション論(専門展開科目).....	348
精神保健福祉の原理Ⅰ(専門展開科目).....	251	レクリエーション実技(専門展開科目).....	350
精神保健福祉の原理Ⅱ(専門展開科目).....	253	福祉レクリエーション論(専門展開科目).....	353
ソーシャルワークの理論と方法(精神)Ⅰ(専門展開科目).....	255	福祉レクリエーション援助論(専門展開科目).....	356
ソーシャルワークの理論と方法(精神)Ⅱ(専門展開科目).....	257	福祉レクリエーション援助技術(専門展開科目).....	359
精神障害リハビリテーション論(専門展開科目).....	260	障害のある人を取り巻く環境(専門展開科目).....	362
精神保健福祉制度論(専門展開科目).....	262	スクールソーシャルワーク論(専門展開科目).....	364
ソーシャルワーク演習(精神)Ⅰ(専門展開科目).....	264	医療ソーシャルワーク論(専門展開科目).....	367
ソーシャルワーク演習(精神)Ⅱ(専門展開科目).....	267	こども論(専門展開科目).....	369
ソーシャルワーク演習(精神)Ⅲ(専門展開科目).....	270	カウンセリング論(専門展開科目).....	371
ソーシャルワーク実習指導(精神)Ⅰ(専門展開科目).....	273	トータルボディトレーニング(専門展開科目).....	374
ソーシャルワーク実習指導(精神)Ⅱ(専門展開科目).....	276	ころとからだのしくみⅠ(専門展開科目).....	377
ソーシャルワーク実習指導(精神)Ⅲ(専門展開科目).....	279	ころとからだのしくみⅡ(専門展開科目).....	379
ソーシャルワーク実習(精神)(専門展開科目).....	282	パラスポーツ論(専門展開科目).....	382
介護の基本Ⅰ(専門展開科目).....	285	チーム医療アプローチ演習(応用専門科目).....	386
介護の基本Ⅱ(専門展開科目).....	287	介護ロボット論(専門展開科目).....	388
介護の基本Ⅲ(専門展開科目).....	290	国際福祉事情(専門展開科目).....	390
介護の基本Ⅳ(専門展開科目).....	292	総合演習Ⅰ(卒業研究及び演習).....	392
介護の基本Ⅴ(専門展開科目).....	294	総合演習Ⅰ(卒業研究及び演習).....	393
介護の基本Ⅵ(専門展開科目).....	296	総合演習Ⅰ(卒業研究及び演習).....	394
生活支援技術Ⅰ(専門展開科目).....	298	総合演習Ⅰ(卒業研究及び演習).....	395
生活支援技術Ⅱ(専門展開科目).....	300	総合演習Ⅰ(卒業研究及び演習).....	396

総合演習Ⅰ(卒業研究及び演習)	397
総合演習Ⅰ(卒業研究および演習)	398
総合演習Ⅰ(卒業研究及び演習)	400
総合演習Ⅰ(卒業研究及び演習)	401
総合演習Ⅰ(卒業研究および演習)	402
総合演習Ⅰ(卒業研究および演習)	403
総合演習Ⅰ(卒業研究及び演習)	404
総合演習Ⅰ(卒業研究および演習)	405
総合演習Ⅰ(卒業研究及び演習)	406
総合演習Ⅱ(卒業研究及び演習)	407
総合演習Ⅱ(卒業研究及び演習)	408
総合演習Ⅱ(卒業研究及び演習)	409
総合演習Ⅱ(卒業研究及び演習)	410
総合演習Ⅱ(卒業研究及び演習)	411
総合演習Ⅱ(卒業研究及び演習)	412
総合演習Ⅱ(卒業研究および演習)	413
総合演習Ⅱ(卒業研究及び演習)	415
総合演習Ⅱ(卒業研究及び演習)	417
総合演習Ⅱ(卒業研究および演習)	418
総合演習Ⅱ(卒業研究および演習)	419
総合演習Ⅱ(卒業研究及び演習)	420
総合演習Ⅱ(卒業研究および演習)	421
総合演習Ⅱ(卒業研究及び演習)	422
総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)	423
総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)	424
総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)	425
総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)	426
総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)	427
総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)	428
総合演習Ⅲ(卒業研究および演習)	429
総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)	431
総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)	432
総合演習Ⅲ(卒業研究および演習)	433
総合演習Ⅲ(卒業研究および演習)	434
総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)	435
総合演習Ⅲ(卒業研究および演習)	436
総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)	437
総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)	438
総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)	439
総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)	440
総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)	441
総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)	442

総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)	443
総合演習Ⅳ(卒業研究および演習)	444
総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)	446
総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)	448
総合演習Ⅳ(卒業研究および演習)	449
総合演習Ⅳ(卒業研究および演習)	450
総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)	451
総合演習Ⅳ(卒業研究および演習)	452
総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)	453
卒業研究(卒業論文)(卒業研究及び演習)	454
生涯学習社会と図書館(司書科目)	455
図書館概論(司書科目)	458
図書館制度・経営論(司書科目)	461
図書館情報技術論(司書科目)	464
図書館サービス概論(司書科目)	466
情報サービス論(司書科目)	468
児童サービス論(司書科目)	470
情報サービス演習(司書科目)	473
図書館情報資源概論(司書科目)	476
情報資源組織論(司書科目)	478
情報資源組織演習(司書科目)	480
図書館サービス特論(司書科目)	484
図書館情報資源特論(司書科目)	486

科目名	健大で学ぶ Well-being(教養基礎)					科目ナンバリング	LAB000				
英文名	Steps to Well-being at KENDAI.					講義形態	講義				
担当教員	【情報】: 東福寺幾夫、【福祉】: 出雲春明、内田幸子、【栄養】: 下川哲昭 【薬】: 松岡功、須藤豊、高橋恵美利、田中祐司、【看護】: 吉田久美子、倉林しのぶ、【理学】: 中川和昌、 【子ども】: 栗原幸正、【農】: 大政謙次、吉積毅、廣瀬竜郎、松岡寛樹、齋藤文信、清水庸										
科目に関連した実務経験	【子ども】栗原: 公立学校教諭・教頭・校長。教育委員会指導主事。群馬県人権教育・啓発推進懇談会座長。										
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位								
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力				1	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	1234567891011121314151617										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼン テーショ ン	演習、実験実 習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクシ ョン ペーパー	その他	
									○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①講義の目標 高崎健康福祉大学(健大)を知り、健大への理解と自身の所属学科以外の他学科の理解をもとに、多様な職種に対する理解や自校理解の礎を作る。 健大の精神「自利利他」は、「人の喜びを自分の喜びとする心」であり、学生生活から将来に至るまで様々な局面での行動・成長基盤となりうるものである。健大精神のあり方を考えるきっかけとなる講義を行い、成長につなげる。SDGs(Sustainable Development Goals)は、持続可能な未来を形成するために意識すべき目標である。SDGsを知り、また具体的な関わり方の例などから考えることで、様々な局面で貢献する為の素養を身につける。 以上を通じて、Well-being 社会に貢献する人材へ成長するための基盤構築を本講義の目標とする。 ②講義の実施方法 全講義オンデマンド式とする。 1.講義の開講について 講義は第 1 回から 9 回までの講義で構成される。原則として毎週水曜日 15 時に 1 講義分の動画が公開されるので、各自で受講時間を確保して学習を進める。公開から 1 週間以内に C-learning の教材倉庫中のリンクからアクセスし、講義動画視聴を行い、その後、C-learning から小テストを実施すること。 なお、動画へのアクセスは、高崎健康福祉大学グーグルアカウントにログオンした状態でのアクセスが必要となる。第 1 回の講義前、各学科ガイダンス等の中で受講方法に関する説明があるのでその指示に従い、各自で受講準備を行う事。 2.講義の出席について 原則、各学科が 1 回を担当し学科の理解、学科における自利利他・SDGs との関わりについて例を含めながら講義を行う。講義動画へのアクセスと小テスト実施をもって出席とする。 3. 講義後の入力提出について 講義視聴後に自身が感じた自利利他や SDGs への考え、講義の感想など思った事を C-learning のアンケートから入力すること。アンケートは自由記述とするが講義改善の指標とするので、積極的な参加を期待する。										
到達目標	1. 健大の学部・学科について知り、理解を深める。 2. 健大精神「自利利他」を知り、理解を深める。										

	3. SDGs を知り、理解を深める。■			
使用教材	各講義回で利用する資料・教材がある場合には C-learning を通じて電子ファイルで配布を行う。			
参考文献	なし			
評価方法	第 1 回の受講(4%)と各講義回の講義動画閲覧と小テスト:2〜9 回(各 12%)の合計 100%で評価する。			
課題・評価に対するフィードバック方法	小テストは点数のみ公開する。不正解の問題があった場合には講義を再視聴し、公開期間内に小テストをやり直したのち、自身の考えを醸成させること。小テストは再解答を 3 回まで認めるので、各自で適宜復習を行い、考えを発展させてほしい。			
オフィスアワー (研究室)	質問は C-learning 連絡機能やメールで受け付ける。対面による質問を希望する場合はメールで事前に相談すること。 情報:東福寺(1 号館 605 研究室) 福祉:出雲(1 号館 511 研究室) 栄養:下川(1 号館 311 研究室) 薬:松岡(7 号館 312 研究室) 看護:吉田久(5 号館 410 研究室) 理学:中川(3 号館 204 研究室) 子ども:栗原(8 号館 学部長室) 農:清水(10 号館 504 研究室)	メールアドレス (#→@)	情報:東福寺 tofukuji#takasaki-u.ac.jp 福祉:出雲 izumo-s#takasaki-u.ac.jp 栄養:下川 shimokawa-n#takasaki-u.ac.jp 薬:松岡 isao#takasaki-u.ac.jp 看護:吉田久 yoshikumi#takasaki-u.ac.jp 理学:中川 nakagawa-ka#takasaki-u.ac.jp 子ども:栗原 kurihara-y#takasaki-u.ac.jp 農:清水 shimizu-y#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	本学の歴史、大学としての自利利他、SDGsの考え(高崎健康福祉大学 学園長、学長)。		
	該当到達目標	予習	自利利他の意味、SDGsについて調べておく。 自身の端末で高崎健康福祉大学のアカウントにログインできるようにしておく(各学科ガイダンス等で受講法の説明があるので、各自で第1回講義前までにオンライン受講準備を整え、ガイダンス動画を閲覧しておくこと)。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
2	講義内容	医療情報学科(東福寺):1.健康・医療と情報技術、2.医療 DX と人材養成、3.本学の禁煙化		
	該当到達目標	予習	C-learning へのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
3	講義内容	社会福祉学科(出雲、内田):誰も置き去りにしない社会		
	該当到達目標	予習	「誰も置き去りにしない社会」や「地域社会における支え合いの意義」について、調べておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。 講義で取り扱ったケースについて調べ、周囲と話しあってみる。	1 時間
4	講義内容	健康栄養学科(下川、木村):母性行動の生理学的基盤		
	該当到達目標	予習	C-learning へのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
5	講義内容	薬学部(松岡、須藤、高橋、田中):Well-being とクスリ		
	該当到達目標	予習	薬剤師の業務について調べておく。C-learning へのログイン方法を確認しておく。オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
6	講義内容	看護学科(吉田、倉林)		
	該当到達目標	予習	C-learning へのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間

7	講義内容	理学療法学科(中川)		
	該当到達目標	予習	C-learning へのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
8	講義内容	子ども教育学科(栗原):学校教育と LGBT■		
	該当到達目標	予習	LGBT に関する新聞等の報道記事に目を通し、社会の動向を掴んでおく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身が今後どのような行動をすべきかについて、身近な友人・知人との話し合いを通して明確にする。	1 時間
9	講義内容	農学部 (大政、吉積、廣瀬、松岡、齋藤、清水)		
	該当到達目標	予習	C-learning へのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
合計時間(予習・復習)				18 時間
備考	1. 授業の時間について 記載した予習復習時間で、講義内容の不明点が残る場合には各自で補完すること。 2. 動画へのアクセスについて 各回講義動画の閲覧には、「高崎健康福祉大学のグーグルアカウント」にログオンした状態の端末でアクセスする 事が必要です。講義動画にアクセスできない場合、アカウント設定やアクセス方法などを確認するようにして下さい。 3. 質問などについて 各講義回で生じた <u>内容に関する質問は講義回担当者へ、受講法に関する事は自学科担当教員に質問する事</u> 。 連絡を C-learning 経由で行う際には、「連絡・相談機能」を活用し、所属学科と学籍番号、氏名を記載の上、誰に対 するどのような質問かを明記する事。返信がない場合には E-mail で再度連絡を行う事。 4. 成績評価について 講義回数は全 9 回で終了だが、成績付与は学期末に行われる。 本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。 なお、令和 4 年度以前の入学者が本講義を受講する場合は、単位認定時評価は「認定(N)」となり、GPA 算出、卒 業必要単位の対象外となる。また、履修登録時の CAP のカウントには含めない。 ■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名	基礎教養ゼミ(教養基礎)						科目ナンバリング	LAB001		
英文名	Freshman Seminar (FYE)						講義形態	講義		
担当教員	町田 修三、根岸 恵子、小泉 英明、永井 崇									
科目に関連した実務経験	小泉:人事、社員教育担当として企業にて勤務(経験) 永井:記者、編集者として新聞社にて勤務(経験)									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			1	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	③ ④									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼン テー ション	演習、実験実習、 実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○				○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	Think Pare & Share, Round Robin, 作文添削、個別指導など 小テスト等は採点後返却し解説する									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	充実して実り多い大学生活を送るには、どうしたらいいのだろうか？大学で失敗しないためには、初年時に学生生活の送り方を修得しておくことが極めて大切である。本講義では大学生活のキーとなる、学習方法やレポート執筆等にかかる「学習スキル」、コミュニケーション能力をはじめとした「ソーシャルスキル」、読み書きや数的能力などの「アカデミックスキル」。学生にとって必要なこうしたスキルをしっかりと身につけていくことを、講義の目標としている。受講学生には、積極的に講義に参加する受講態度が求められる。 授業では、ジェネリックスキルをつけるため、できる限りアクティブラーニングを取り入れる。日本語作文能力と数学基礎力は、学習支援センターとのコラボレーションで提出と添削を繰り返して涵養を目指す。									
到達目標	1. 大学での学習生活を確立する。 2. 基礎学力を確認し、自己学習の方向性をつかむ。 3. 社会人に必要とされる言葉使い・文章表現を習得する。■ 4. 総合適性検査(SPI)を意識し、対応するための基礎力を養成する。 5. キャリアデザインの構築を図るために、社会常識・マナー等を学び、自ら考え、自ら問える力を養う。■ 6. 効果的なアクティブラーニングを自ら体得し、実践できるようになる。									
使用教材	資料、プリント									
参考文献										
評価方法	参加貢献度 50%、提出物 50%で総合的に評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出物・レポート・小テストを返却し、解説をする。基礎力テストや実力テスト後に解説や結果を知らせる。									
オフィスアワー (研究室)	学習支援センター(2号館2階) 月～金開室 以下の時間に質問を受け付ける。				メールアドレス (#→@)		machida#takasaki-u.ac.jp			

		●数的処理→常時 ●言語関係・レポート等→木曜3時限		
1	講義内容	大学で何を学ぶか(意義と目的)		
	該当到達目標 1	予習	事前にシラバスを読み、目標を確認し、大学生活をプランニングする。	1 時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法等を確認する。	1 時間
2	講義内容	書くためのスキル(ノート、レポート・論文の書き方)		
	該当到達目標 1,2,3	予習	事前配布した資料に目を通しておく。	1 時間
		復習	ノートテータキング、レポートの書き方をマスターする。	1 時間
3	講義内容	基礎力テスト(計算／言葉)		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	言語・作文・計算や数式など基礎力を確認しておく。	1 時間
		復習	今までの学習を振り返り、復習する。	1 時間
4	講義内容	解くためのワークⅠ(計算)		
	該当到達目標 1,2,4	予習	計算方法や文章題の復習をしておく。	1 時間
		復習	配布した問題の残りを解く。	1 時間
5	講義内容	考えるためのワークⅠ(言葉の多様性①GW)■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	事前配布した教材に目を通しておく。	1 時間
		復習	添削を受けた作文を書き直す。	1 時間
6	講義内容	コミュニケーションスキルⅠ(アクティブラーニング GW)		
	該当到達目標 1,2,3	予習	事前配布した資料に目を通しておく。	1 時間
		復習	自己のコミュニケーションスキルを分析する。	1 時間
7	講義内容	考えるためのワークⅡ(言葉の多様性②)■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	事前配布した教材に目を通しておく。	1 時間
		復習	添削を受けた作文を書き直す。	1 時間
8	講義内容	解くためのワークⅡ(数的処理①)		
	該当到達目標 1,2,4	予習	前回の問題を解いておく。	1 時間
		復習	配布した問題の残りを解く。	1 時間
9	講義内容	キャリアデザイン■		
	該当到達目標 1,2,5	予習	自らの人生設計について考えておく。	1 時間
		復習	自らのキャリアを考え、自己分析する。	1 時間
10	講義内容	考えるためのスキルⅠ(新聞を読み説く)■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	事前配布した教材に目を通しておく。	1 時間
		復習	添削を受けた作文を書き直す。	1 時間
11	講義内容	解くためのワークⅢ(数的処理②)		
	該当到達目標 1,2,4	予習	前回の問題を解いておく。	1 時間
		復習	配布した問題の残りを解く。	1 時間
12	講義内容	コミュニケーションスキルⅡ(プレゼンテーション GW)		
	該当到達目標 1,2,3,5	予習	事前配布した教材に目を通しておく。	1 時間
		復習	プレゼンテーション資料を作成してみる。	1 時間
13	講義内容	シンポジウムーより充実した学生生活をめざして		
	該当到達目標 1,2	予習	事前配布した資料に目を通しておく。	1 時間
		復習	興味あるトピックについて発表できるようにする。	1 時間

14	講義内容	実力テスト		
	該当到達目標	予習	今まで学習した内容を復習しておく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	試験の内容を振り返り、学習する。	1 時間
15	講義内容	考えるためのスキルⅡ（社会を正しく理解する）		
	該当到達目標	予習	これまでの講義内容を振り返り、どう活用するかを考えておく。	1 時間
	1,2,3,5	復習	大学生活を有意義に過ごすための方策を考える。	1 時間
合計時間（予習・復習）				30 時間
備考	GW＝グループワーク 記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修や課題の作成等で各自必要な学習時間を補完すること。 ■：実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		日本語表現法(教養基礎)						科目ナンバリング	LAB002		
英文名		Japanese Expression Method						講義形態	講義		
担当教員		古澤 良文									
科目に関連した実務経験		記者として上毛新聞社に勤務。記事全般、コラムを執筆、読者欄の投稿を添削。									
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数		選択 2 単位						
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		5	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
		1	基礎的知識力			1	応用・実践する能力				
		1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連											
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		①日本人の極端な日本語能力低下が問題視される中で、「書き言葉」の表現力を向上させるために、まず自分の考えをまとめ、書くに至るプロセスを理解する。次に日本語の基礎知識の把握と、生じやすい表現上のミスを具体的に認識し、自分の考えをいかに文章化するかを修得する。同時に他者の考えを、発言や文面から把握するとともに、その内容に対する自分の意見を構築、交換、指摘する機会を設け、学士力向上を図る。 ②現代人がよく間違える慣用句や文章表現について、毎回実例を示しながら説明する。また、高校までに学ぶ機会が少なかったと思われる四字熟語・ことわざなどを、講義時間の一部を使って説明する。小論文を「書く→添削→返却」を 3 回程度実施する。									
到達目標		1. 自分の「考え」をまとめ、意思表示できる。 2. 日本語の基礎知識を表現・文法・語彙の三側面から確認し、理解できる。 3. 日本語表現の基本的ミスを確認し、理解できる。■ 4. 文章の組み立て方を理解し、習得できる。 5. 日本語表現的に正確な文章が書けるようにする。■									
使用教材		担当教員作成のプリント。									
参考文献											
評価方法		筆記試験(80%)・授業参加度(20%)によって総合的に評価する。評価方法の基準は講義時に通達する。									
課題・評価に対するフィードバック方法		提出した文章の欠点・修正点を謙虚に捉え、新たな文章作成の場に生かし、文章力向上に挑戦する。									
オフィスアワー (研究室)		授業の前後 1～2 時間。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は授業時に説明する。			
1	講義内容	原稿用紙の書き方(実際に執筆する)■									
	該当到達目標	予習	400 字詰め原稿用紙の使い方						1.5 時間		
	1	復習	カッコや句読点の書き方 その日の出来事を原稿用紙に書いてみる						1.5 時間		
2	講義内容	日常生活の心掛け 小テスト(漢字の特殊読み)									
	該当到達目標	予習	社会の変動に関心を持つ						1.5 時間		
	1,4	復習	活字を読む習慣を身に付けるにはどうすべきか考える						1.5 時間		
3	講義内容	三段論法と逆三角形 小テスト(書けそうで書けない漢字)■									
	該当到達目標	予習	新聞記事を段落ごとに考えながら読む(新聞は図書館にある)						1.5 時間		
	2,4	復習	新聞記事を「逆三角形」を意識しながら熟読する						1.5 時間		

4	講義内容	文章をうまく見せる 3 カ条 小テスト(同音異義語)■		
	該当到達目標	予習	1 回目に行った文章を見直す	1.5 時間
	2,4	復習	1 回目に行った文章を書き直してみる	1.5 時間
5	講義内容	主語と述語 小テスト(四字熟語ことわざ①)■		
	該当到達目標	予習	テキストをチェックしておく	1.5 時間
	2,3	復習	テキストの悪文例を正しく直す	1.5 時間
6	講義内容	小論文執筆(複数のテーマから 1 つを選んで書く)		
	該当到達目標	予習	4 回目のプリントチェック	1.5 時間
	1,2,3	復習	書き足りなかったことがないか	1.5 時間
7	講義内容	修飾語 俳句 小テスト(間違い探し①)■		
	該当到達目標	予習	文章はリズムが大切 俳句を作ってみる	1.5 時間
	2,4	復習	プリントの悪文例を見直す	1.5 時間
8	講義内容	話し言葉と書き言葉 小テスト(四字熟語ことわざ②)■		
	該当到達目標	予習	「ら」抜き言葉の長所短所	1.5 時間
	2,3	復習	話し言葉を書き言葉にしてみる	1.5 時間
9	講義内容	手紙を書く		
	該当到達目標	予習	誰宛に書くか、何を書くか準備する	1.5 時間
	1,4	復習	授業で書いたほかにも書いてみる	1.5 時間
10	講義内容	センテンスは短く 小テスト(同義語反対語)■		
	該当到達目標	予習	新聞のコラムを読む	1.5 時間
	3,4	復習	悪文例を直す	1.5 時間
11	講義内容	小論文執筆(同じ形容詞や動詞を何度も使わないように)■		
	該当到達目標	予習	4 回目、7 回目のプリント見直し	1.5 時間
	1,2,3	復習	別のテーマで書いてみる	1.5 時間
12	講義内容	敬語 小テスト(四字熟語ことわざ③)		
	該当到達目標	予習	敬語の種類を調べる	1.5 時間
	3,4	復習	プリントの問題を解く	1.5 時間
13	講義内容	推敲 小テスト(間違い探し②)■		
	該当到達目標	予習	書籍、新聞を声に出して読む	1.5 時間
	2,4,5	復習	自分の文章を直してみる	1.5 時間
14	講義内容	小論文執筆(小論文のテーマに沿ってタイトルを自分で書く)■		
	該当到達目標	予習	社会問題を考える	1.5 時間
	1,2,3	復習	別のテーマで書いてみる	1.5 時間
15	講義内容	覚えておきたい短詩と台詞		
	該当到達目標	予習	知っている俳句短歌を思い出してみる	1.5 時間
	3,4,5	復習	声に出して読んでおく	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■: 実務経験に基づく内容を示す			

科目名	日本国憲法(教養基礎)						科目ナンバリング	LAB003		
英文名	Japanese Constitution						講義形態	講義		
担当教員	金井 洋行									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	3 4 5 8 10 16 17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
										○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	テーマに関する課題の意見レポート→教員の意見に対するレスポンス→受講生の省察									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	憲法の基本理念と日本国憲法に関する基礎的知識を習得することを第一義的な学習目標とする。第二に、社会人として要求される価値規範意識を、憲法学習を通して醸成することを目指す。終局的に、身近な生活関係の中から人々の権利の保護や社会への参加の問題を探り出し、憲法上の課題の理解を深めることを目標とする。 講義内容はできうかぎり予定通り進行させるが、期間内に国内あるいは国際的に大きな政治の動きがあった場合には、その話題を飛び入りのに割り込ませることはある。日々の社会や政治の動きに興味をもって様々なニュースソースに接し、自分なりに考えておくことを期待する。									
到達目標	1. 日本国憲法を貫いている思考や仕組みと日本国憲法の歴史的背景を理解することができる。 2. 憲法が解決すべき紛争について、その歴史的、社会的背景を認識することができる。 3. 市民相互間の法的関係や公的部門のそれに対する機能の関連性を考察することができる。 4. 政治の世界で起きている出来事について、具体的な憲法規定と結びつけることができる。 5. 主要な学説について、その対立の背景と主張のねらいを認識することができる。									
使用教材	テーマ別レジュメ、概要・事例資料、憲法条文注釈資料(テキストの代替) * テーマによっては DVD の視聴あり。									
参考文献										
評価方法	・平常の授業に対する姿勢・課題提出(35%)、中間小テスト(15%)、期末の定期試験(50%) ・課題提出は概ね 4 回のレポート、中間小テストは概ね 3 回の知識テスト、定期試験は基本的知識と思考力のテスト									
課題・評価に対するフィードバック方法	重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する(テーマについては適宜指示)									
オフィスアワー (研究室)	出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	憲法とは何か? - 憲法学習の意義と憲法の本質 -								
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明						2 時間	
	1	復習	予備知識アンケート						0.5 時間	
2	講義内容	国家・国民・政府 - 憲法を構成する基本要素の内容 -								
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明						1 時間	
	1	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集						1.5 時間	
3	講義内容	日本国憲法の制定過程								
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明、資料:「日本国憲法の有効性」						1 時間	

	1,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
4	講義内容	日本国憲法の基本構造と特色		
	該当到達目標	予習	資料「日本国憲法の体系」熟読と疑問点の究明	1 時間
	1,2	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
5	講義内容	国民主権と天皇制		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	1,2,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
6	講義内容	平和主義と9条解釈の変遷		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	1,2,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
7	講義内容	基本的人権の沿革と観念		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	1,2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
8	講義内容	基本的人権規定の適用問題(範囲と限界)		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	2,3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
9	講義内容	日本国憲法上の諸権利の性格		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	1,2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
10	講義内容	国会の地位と国政選挙の仕組み		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	1,2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
11	講義内容	行政権の意義と内閣の組織・権限の特徴		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
12	講義内容	司法権の意義と法令審査権の性格		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
13	講義内容	財政処理の基本原則と予算の構造と機能		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
14	講義内容	権力分立制と地方自治・分権		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	1,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
15	講義内容	憲法改正と憲法保障		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	1,2,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 当日に即答できない質問や要望についてはCーラーニング・連絡メールをもって応答することを原則とする。 日々の社会や政治の動きに興味をもって様々なニュースソースに接し、自分なりに考えておくことを期待する。			

科目名	法学(教養基礎)						科目ナンバリング	LAB004		
英文名	Law						講義形態	講義		
担当教員	金井 洋行									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数		選択 2 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			1	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	3 4 5 8 10 16 17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、 実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
										○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	テーマに関する課題の意見レポート→教員の意見に対するレスポンス→受講生の省察									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①法の存在意義を人生の節目で生じる法律問題を通して理解することを基幹的目標とする。生活上生じる法律問題や法的処理事項の背景にある法社会学的意味を考える。法律関係は権利義務の変動の関係であるので、それぞれ権利義務とその変動要因にどのような種類があるかを知ることを目指す。法律関係の基本的システムを習得することによって、社会的生活者に要求される法規範意識を身につける。 ②講義内容はできうるかぎり予定通り進行させるが、期間内に大きな社会問題が発生した場合には、その話題あるいは関連する事項を飛び入りの的に割り込ませることがある。									
到達目標	1. 法の存在意義や社会的機能の全体的な姿を理解することができる。 2. 法制度の社会学的意義を理解することができる。 3. 契約関係のシステムの意義と特色を理解することができる 4. 家族関係の法的処理の方法を理解することができる。 5. 法的紛争処理の限界を知り円滑な生活関係を維持する手法を考察することができる。									
使用教材	テーマ別レジュメ、概要・事例資料(テキストに代替するプリント) *テーマによっては DVD の視聴あり。									
参考文献										
評価方法	・平常の授業に対する姿勢・課題提出(35%)、中間テスト(15%)、期末の定期試験(50%) ・課題については概ね 4 回のレポート、中間小テストは概ね 3 回の知識テスト、定期試験は基本的知識と思考力のテストを実施する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する(テーマについては適宜指示)									
オフィスアワー (研究室)	出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	法の意義と機能								
	該当到達目標	予習	高校時の社会の教科書「法分野」の箇所を読んでおくこと					2 時間		
	1,5	復習	予備知識アンケート					0.5 時間		
2	講義内容	成人と法一人の年齢と能力の法的意味								

	該当到達目標 1,2,4	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
3	該当到達目標 2,3,5	講義内容	就職と法－採用の法的意味と選別の法的問題	
		予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
4	該当到達目標 2,3	講義内容	労働と法－労働契約の内容と労働条件の保護	
		予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
5	該当到達目標 2,4,5	講義内容	結婚と法－婚姻の要件と夫婦の法律関係	
		予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
6	該当到達目標 1,2,4	講義内容	親子と法その1－出生をめぐる法律問題と親子関係の形成	
		予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
7	該当到達目標 2,4,5	講義内容	親子と法その2－親権関係と扶養関係	
		予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
8	該当到達目標 2,3	講義内容	教育と法－義務教育の意義と就学過程の法律問題	
		予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
9	該当到達目標 1,2,3	講義内容	社会活動と法－団体の法律関係と団体生活の法律問題	
		予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
10	該当到達目標 2,5	講義内容	社会負担と法－租税等の国民負担と公共生活上の法律問題	
		予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
11	該当到達目標 1,2,5	講義内容	国際化と法－出入国管理の法律関係と涉外事件の処理	
		予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
12	該当到達目標 1,2,3	講義内容	財産関係と法－取引の法律関係と契約締結上の法律問題	
		予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
13	該当到達目標 1,2	講義内容	犯罪と法－犯罪・刑罰の法的意味と科罰手続の法律問題	
		予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
14	該当到達目標 1,2,5	講義内容	争い事と法－紛争の法的処理方法と裁判の仕組み	
		予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
15	該当到達目標 1,2,4,5	講義内容	老年期と法－介護・医療の法律問題と人の死の法的意味	
		予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間

合計時間(予習・復習)		37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 当日に即答できない質問や要望については C-ラーニング・連絡メールをもって応答することを原則とする。 日々の社会の動きに興味をもって様々なニュースソースに接し、自分なりにその背景や解決策を考えておくことを期待する。	

科目名	経済学(教養基礎)						科目ナンバリング	LAB005		
英文名	Economics						講義形態	講義		
担当教員	町田 修三									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			1	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	3481217									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、 実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○					○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	授業内での問いかけ、QUIZ、質疑応答(ミニッツペーパー上の質問を含む)などを用いた双方向性授業。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①経済に関する知識は一般社会や国際社会において極めて重要であるものの、多くの学生は十分な知識を持っていない。選挙権が与えられても経済知識なしで投票に行くのは危険である。この講義では身近なトピックを通して基礎的経済の知識を習得し、国内外の社会のメカニズムや流れを理解できるようになることを目的とする。レベルとしては、新聞やテレビのニュースがしっかりと理解できるようになることを想定している。また、医療分野を専攻する学生にとっては、医療の経済面からの考察も講義に取り入れるので参考にして理解を深めてほしい。 ②授業開始時に学生から出された質問・疑問に答えながら、前回の復習をする。授業中はクイズをはじめとした問いかけを多く出し、可能な限りアクティブラーニングの導入を試みる。									
到達目標	1. 日本の経済の現状を説明できる 2. 需要と供給、市場メカニズムについて理解を深め、概説できる 3. 景気や GDP について理解を深め、概説できる 4. 国の予算や税金制度について説明できる 5. お金の流れや物価変動について説明できる 6. 経済政策について理解を深め、他者に説明できる 7. 為替レートの変動と貿易の実態について概説できる 8. 新聞やテレビのニュースが理解でき、他者に解説できる									
使用教材	必修テキストはない。講義では毎回資料、データを配布する。									
参考文献	推薦テキストは多数あるので、講義の中で必要に応じて紹介する。									
評価方法	学期末試験 80%、毎回の授業の最後に提出するコメントカード、その他の提出物(クイズ、小レポートなど)20%									
課題・評価に対するフィードバック方法	コメントカードに記載された質問事項、疑問点等に関しては、次回の講義で回答する。クイズについても次回の講義で解説する。小レポートにはコメントを付して返却する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日 4 限目、金曜日 2 限目 研究室:1 号館 6 階 603				メールアドレス (#→@)	machida#takasaki-u.ac.jp				

1	講義内容	イントロダクション(一部 AL[アクティブラーニング]実施)		
	該当到達目標 8	予習	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく	1 時間
		復習	ニュースに触れる習慣(新聞、テレビ、ネット)を開始する	1 時間
2	講義内容	日本経済の流れ(世界との比較のなかで)		
	該当到達目標 1,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
3	講義内容	経済政策の2大潮流—マーケット or ケインズ(一部 AL 実施)		
	該当到達目標 1,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
4	講義内容	需要と供給(需要曲線の意味)		
	該当到達目標 2,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
5	講義内容	市場メカニズムと価格(どうして水よりもダイヤモンドのほうが高いんだろう?)		
	該当到達目標 2,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
6	講義内容	価格の変動(どうして缶コーヒーやペットボトルのお茶は、どれも同じ値段なんだろう?)		
	該当到達目標 2,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
7	講義内容	国民所得Ⅰ(国の経済力はどう測るんだろう? GDP って何?)		
	該当到達目標 1,3,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
8	講義内容	国民所得Ⅱ(あなたが1万円使うとGDPはいくら増える?)(一部 AL 実施)		
	該当到達目標 1,3,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
9	講義内容	財政(日本の借金は大丈夫? 消費税は何%に?)		
	該当到達目標 1,4,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
10	講義内容	景気と失業(不景気で学生の就職はどうなる?)(一部 AL 実施)		
	該当到達目標 1,3,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
11	講義内容	金融(日本銀行は何をすること?)(一部 AL 実施)		
	該当到達目標 1,5,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
12	講義内容	経済政策のしくみ(アベノミクスは何をした?)		
	該当到達目標 1,6,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
13	講義内容	為替レートメカニズム(円高、円安ってどうして起こるの?)		
	該当到達目標 1,7,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
14	講義内容	世界と日本(日本の貿易は黒字? 赤字?)(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間

	1,7,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
15	講義内容	まとめと確認のためのテスト		
	該当到達目標	予習	これまで学習した事項について目を通し、理解を深めておく	3 時間
	1,2,3,4,5,6,7,8	復習	期末試験の出題意図、講義の理解度の再確認と今後の学習の方向性を考える	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				39 時間
備考	AL(アクティブラーニング)は、クローズドクエスチョン、オープンクエスチョン、ペアワーク、グループワークなど。記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修(推薦テキストの講読、新聞・雑誌の経済記事講読等)により、必要な学修時間を各自で補完すること。			

科目名	社会学(教養基礎)						科目ナンバリング	LAB006		
英文名	Sociology						講義形態	講義		
担当教員	安達 正嗣									
科目に関連した実務経験	兵庫県庁の家庭問題研究所において 3 年間、研究員ならびに主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施し調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった(経験)									
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格	社会福祉士、精神保健福祉士									
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			1	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	① ② ④ ⑤ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
										○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	毎回の講義の冒頭で、小テストを実施し、次に採点した前回の小テストを返却する際に、前回の講義の振り返りをおこない、質疑応答を実施する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	本科目は、国家資格「社会福祉士」・「精神保健福祉士」の指定科目であり、社会福祉学科学生の受講する科目である。社会学とは、中間集団(家族、地域、企業など)を媒介として、社会と個人との関係を追究する学問である。社会学を学ぶことで、社会福祉分野に関わる者にとっては不可欠となる現代社会の理解力を身につけることができる。 講義の進め方としては、毎回、前回の講義内容に関する小テストをおこない、さらにその後に前回におこなった採点済みの小テストを返却して復習的な解説をおこなった後に、その回の講義をおこなうことを繰り返すことによって、受講生が講義内容の理解を深められるようにしている。									
到達目標	1. 大学生として社会学の基本的な考え方を身につけることができる。 2. 社会学を通じて、豊かな人間性と倫理観を身につけることができる。 3. 日常の人間関係を理解することによって、コミュニケーション能力を身につける。 4. 社会の仕組みを理解して、現代社会における自分自身の立ち位置を知ることができる。 5. 現代社会の社会問題を認識して、その解決を探る能力を身につけることができる。■									
使用教材	一般社会団法人・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会学と社会システム』中央法規出版。									
参考文献	講義中に、適宜指示する。									
履修が必須となる資格	小テスト(毎回、講義時に講義の内容について数問のテスト(設問)をおこなう。遅刻は厳禁。) 50%、学期末試験 50%、合計 100%で評価する。									
学位授与方針との対応	各受講生は、小テスト(設問)で講義の理解度を把握し、復習に役立て、現代社会と福祉を理解できるようにする。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 5 限・6 限 1号館5階 510 研究室				メールアドレス (#→@)	adachi-m#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	はじめに・第 1 章社会学の視点・第 1 節社会学の意義と対象(1~12 頁)を解説する。講義に関する小テスト(設問)実施。								
	該当到達目標	予習	序章を読んでおくこと。						1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	序章の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。						1.5 時間	
2	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第 1 章社会学の視点・第 2 節社会学の歴史(13~26 頁)を解説する。								
	該当到達目標	予習	第 1 章・第 2 節を読んでおくこと。						1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	第 1 章・第 2 節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。						1.5 時間	

3	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第2章社会構造と変動・第1節社会システム(27～39頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	第2章第1節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第2章第1節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5 時間
4	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第2章社会構造と変動・第2節組織と集団(40～50頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	第2章第2節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第2章第2節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5 時間
5	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第2章社会構造と変動・第3節人口(51～64頁)・第4節グローバル化(65～76頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	第2章・第3節・第4節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第2章・第3節・第4節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5 時間
6	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第2章社会構造と変動・第5節社会変動(77～87頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	第2章・第5節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第2章・第5節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5 時間
7	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第2章社会構造と変動・第6節地域(88～103頁)・第7節環境(104～110頁)を解説する。地域社会に関して実務で得た情報などを提示する。■		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	第2章第6節・第7節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第2章第6節・第7節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5 時間
8	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第3章市民社会と公共性・第1節社会的格差(112～122頁)・第2節社会政策と社会問題(123～133頁)を解説する。地方自治体の政策・対応に関して実務で得た情報などを提示する。■		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	第3章第1節・第2節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第3章第1節・第2節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5 時間
9	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第3章市民社会と公共性・第3節差別と偏見(134～145頁)・第4節災害と復興(146～152頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	第3章第3節・第4節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第3章第3節・第4節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5 時間
10	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第4章生活と人生・第1節家族とジェンダー(155～170頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	第4章第1節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第4章第1節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5 時間
11	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第4章生活と人生・第2節健康(171～182頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	第4章第2節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第4章第2節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5 時間
12	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第4章生活と人生・第3節労働(183～194頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	第4章第3節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第4章第3節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第4章生活と人生・第4節世代(194～206頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	第4章第4節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第4章第4節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5 時間
14	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第5章自己と他者・第1節自己と他者(207～213頁)・第2節社会性(214～219頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第5章第1節・第2節を読んでおくこと。	1.5 時間

令和 6 年度 社会福祉学科シラバス

	1,2,3,4,5	復習	第 5 章・第 1 節・第 2 節の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	1.5 時間
15	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。終章社会学と社会福祉学の連携・協働(229~235 頁)		
	該当到達目標	予習	終章を読んでおくこと。	3 時間
	1,2,3,4,5	復習	終章の内容、提示された概念や考え方などを理解しておくこと。	3 時間
合計時間(予習・復習)				48 時間
備考	小テスト(設問)と学期末試験については、対面授業と遠隔授業でやり方等が異なることがある。 (重要)注意:本講義は、社会福祉学科の学生のみが受講できる社会福祉士、精神保健福祉士国家試験の指定科目である。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	生涯健康論(教養基礎)						科目ナンバリング	LAB007		
英文名	Lifelong Health Theory						講義形態	講義		
担当教員	渡邊 秀臣、五十嵐 康、蒲 章則									
科目に関連した実務経験	非常勤医師(整形外科医)として病院に勤務									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	1	3	10				16			
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、 実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○							
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	生涯を幸せで豊かに過ごすための基本は健康である。日本人は世界有数の長寿を誇っているが、自立して生活を送る健康寿命は、平均寿命より約 10 年も短い。本講義では、健康寿命の延伸に向けて生涯にわたる健康維持・管理について理解し、人々の健康寿命延伸に健康支援チームの一員として参加できる基礎知識を身に着けることを目的としている。									
到達目標	1. 健康の定義と集団の健康評価指標について理解できる。■ 2. 個体の健康を維持するため生体の調節機構について理解できる。■ 3. 環境・生活習慣の変容と疾病発症の関連について理解できる。■ 4. 健康寿命延伸にむけた取り組みについて理解できる。■									
使用教材	テキストは使用せず、配布資料及び視聴覚資料を使用する。									
参考文献	参考書として、厚生統計協会刊の「国民衛生の動向 2020/2021」を利用する。									
評価方法	授業参加内容:40 点、課題に対するレポート内容:60 点 :総合 60 点以上を合格とする。(対面講義でもオンライン講義でも同様)									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートに対し必要なコメントをする。(対面講義でもオンライン講義でも同様)									
オフィスアワー (研究室)	(金)13:00~14:30 研究室 4 号館 2 階学部長室				メールアドレス (#→@)	watanabe-h#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	健康の定義と健康評価指標(渡邊) WHO の提唱した健康の定義を知る。集団の健康評価の指標として最もよく使われるのが平均寿命であるが、寿命には、〈平均寿命〉、〈平均余命〉、〈健康寿命〉、〈最長寿命〉などの呼び方があり、現在の日本で重要なのは、健康寿命であることを理解する。■								
	該当到達目標	予習	「国民衛生の動向」より健康評価諸指標の年代推移を把握する。							1.5 時間
	1	復習	健康の定義と健康評価指標の理解を深める。							1.5 時間
2	講義内容	健康を維持するための食物と物質代謝(五十嵐) 食物(栄養素)は健康に欠かすことのできないエネルギー源である。その物質代謝(同化・異化作用)に関わる体の構造とその働きを理解しながら健康維持について学習する。								
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書で該当部分を学習する。							1.5 時間
	2	復習	食物のエネルギー代謝と健康について理解する。							1.5 時間

3	講義内容	恒常性維持機構の役割と相互作用(五十嵐) 生体には様々な生理機能をバランスよく正常に機能・維持するための調節機構、すなわち「恒常性維持機構(ホメオスタシス)」が備わっている。このシステムは主に神経系、内分泌系及び免疫系で構成される。また、食物の消化・吸収を担う腸管では細菌の侵入を防ぐ恒常性機構が働いている。これらの様々な維持機構の働きと相互作用について学習する		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書で該当部分を学習する。	1.5 時間
	2	復習	生体の恒常性機構と健康維持の関係を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	運動と健康(渡邊) 運動には、健康維持のための恒常性維持システムを正常に働かせるための運動と筋力を鍛えるための運動がある。ここでは、恒常性維持のための運動とその役割及び自立生活を支え、健康寿命を延ばすための筋力を鍛える運動について理解する。■		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	健康維持における運動の生理学的意義と健康寿命延伸に向けた運動について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	喫煙による健康障害(渡邊) たばこが、発がん性だけでなく、血液循環障害や一酸化炭素中毒などの<喫煙と健康障害>のメカニズムについて理解する。<受動喫煙の影響>についても考える。■		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	喫煙とその健康障害及び健康障害の機序を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	生活習慣病の起因となる肥満(五十嵐) 肥満は原因により原発性肥満(エネルギー摂取過多など)と二次性肥満(性腺機能低下など)に分けられるが、いずれも高血圧、糖代謝異常、脂質代謝異常などの代謝障害の基盤となり、虚血性心疾患や脳血管障害などの動脈硬化性疾患を発症する危険因子となる。それらの起因となる肥満の発症と予防について学習する。		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	肥満とメタボリックシンドロームの病態と対策を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	生活習慣病の危険因子としての糖尿病(五十嵐) 2型糖尿病(インスリン抵抗性糖尿病)は、冠状動脈や脳動脈の動脈硬化、さらには腎障害、視力障害及び神経障害の3大合併症の誘発のみならず、健康寿命短縮の危険因子でもある。危険因子としての糖尿病とその予防法について学習する。		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	糖尿病の病態と対策を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	生活習慣病(脳血管障害)と認知症(五十嵐) 血管性認知症はアルツハイマー病に次いで2番目に多い認知症である。脳は全身の20%近い血液を必要とする臓器であることから、その発症は循環器障害などの生活習慣病と密接に関係する。ここでは血管性認知症と他の認知症の病態を比較しながら、その予防と治療の現状について学習する。		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	1,3,4	復習	認知症の病態と原因、予防、治療などの現状について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	ロコモティブシンドローム(渡邊) 脳卒中と運動器障害は介護の主要原因となっている。骨粗鬆症・サルコペニア・運動器不安定を特徴とするロコモティブシンドローム対策が健康寿命の延伸に重要である。ロコモティブシンドロームの早期診断と予防の重要性について理解する。		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	3,4	復習	加齢に伴う運動器障害を理解し、早期診断と予防の重要性について理解する	1.5 時間
10	講義内容	生活習慣病(がん)と生活習慣(渡邊) 日本人の死亡原因の1位はがん、2位は心疾患、3位は脳卒中であり、いずれも生活習慣に起因する。ここでは、がんという疾患を理解し、がんを発症する生活習慣<(がん発症危険因子)>を知る。また、<がん予防のための生活習慣>及び早期発見・早期治療のための<がん検診>の重要性について理解する。■		

	該当到達目標 3,4	予習	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
		復習	生活習慣と発がんとの関係を理解し、がん対策基本計画などその対策について学習する。	1.5 時間
11	講義内容	WHO の歴史と活動内容(蒲) 第2次世界大戦後に設立された国際専門機関として、戦後から現代にいたるまでの活動変遷を検証する。WHO の取り組みを理解し、現在ある WHO の問題点、改善点を考察する。健康であることがいかにその国の活力(国力)に寄与するかを理解する。		
	該当到達目標 1,4	予習	WHO ウェブサイトで該当部分を学習する	1.5 時間
		復習	国際機関での世界の保健戦略を学習する	1.5 時間
12	講義内容	WHO の戦略(蒲) アルマータ宣言で採択された「すべての人に健康を」スローガンのもとに、「各国が公衆衛生の原点に立ち返り、保健行政戦略を作成、さらに現代進められている持続可能開発目標(SDGs)に向けたユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)にいたることを検証する。		
	該当到達目標 1,4	予習	WHO ウェブサイトで該当部分を学習する	1.5 時間
		復習	国際機関での世界の保健戦略を学習する	1.5 時間
13	講義内容	途上国の保健行政(蒲) 途上国の人種、風土、歴史的背景、宗教等を考察し、独自の保健行政戦略を実施しているが、その成果や反省点を検証し、日本における地域医療の課題を含めて、今後の対策を考察する		
	該当到達目標 1,3,4	予習	WHO ウェブサイトで該当部分を学習する	1.5 時間
		復習	国際機関で発展途上国への保健戦略を学習する	1.5 時間
14	講義内容	日本の保健行政と世界の保健行政(蒲) 膨大な医療・介護予算をどのように有効に使うか、保健医療行政の立場から検証考察をする。各国の取り組みを比較検証し、今後の行政の取り組みを考える。		
	該当到達目標 1,3,4	予習	厚生労働省のウェブサイトで該当部分を学習する。	1.5 時間
		復習	日本における厚生労働省の保健戦略と動向を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	地域における健康支援チーム構成員とその役割(チーム医療)(渡邊) これまでは、健康管理は個人が自分自身の責任で行うとされてきたが、地域における集団での支えあいに重点を置くとされた。地域における健康支援には、本人、家族を中心に、医療専門職者、診療情報管理士、管理栄養士、福祉専門職者、その他多数の職種者からなる<健康支援チームによるチーム医療>が必要である。どのような職種がどのような役割を果たしてチームを構成して健康を支えようとしているのかを理解する。■		
	該当到達目標 4	予習	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
		復習	地域包括ケアシステムを理解し、地域における健康づくりチームの構成員としての各人の役割を理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。 レポートの提出をもって出席とする。			

科目名	生涯学習概論(教養基礎)							科目ナンバリング	LAB008	
英文名	Introduction to Lifelong Learning							講義形態	講義	
担当教員	平林 茂、三村 国宏									
科目に関連した実務経験	(平林)公立小学校・中学校の教員、校長(経験)。群馬県教育委員会教育事務所指導主事・管理主監・所長。教育事務所では生涯学習教育の推進業務、社会教育主事及び地域・学校ボランティア対象の生涯学習推進に関わる研修会講師(経験)。 (三村)公立中学校の教員、高等学校、中等教育学校の校長(経験)。伊勢崎市教育委員会(指導主事、指導係長、教育プラン推進担当課長、学校教育課長)にてコミュニティ・スクール推進(経験)。大学・企業との教育連携協定推進等(経験)。									
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	4 5 8 11									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○						○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	小テスト等についてコメントを行い、授業中に振り返り質疑応答の時間を設ける。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①人が学習する場は学校だけではなく、図書館・公民館等の社会教育施設やさまざまな団体での学習機会などがある。本授業では生涯学習を実践していく上で必要な基礎的知識や多様な生涯学習施設、学校の現状を学び、理解を深めていく。 ②授業の進め方:各テーマの説明に加え、話し合い活動や調査活動などを通して課題に取り組み、その成果の発表などの学習活動を行います。今後、変化の激しい現代社会において重要になる「生涯学習」について学ぶことは、社会の一員としての自己の生き方を考える上で意義が大きいと思います。									
到達目標	1 生涯学習の理念や学校や社会教育施設などで行われる学習について理解する。■ 2 生涯学習に関わる様々な現代的課題の内容を把握しその解決に向けた考察をする。■ 3 社会を構成する一員として自らの生き方を積極的に考える。									
使用教材	『よくわかる生涯学習 改訂版』(香川正弘・鈴木眞理・永井健夫編、ミネルヴァ書房、2021 年 2,500 円(税別))									
参考文献	講義中に適宜、紹介する。									
評価方法	テストに 50%、小テストの評価 30%、日常点(授業への参加。授業態度。課題への取り組み、貢献度等)に 20%を配分して総合評価をする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業中の貢献度や発表については、その都度評価する。 試験前後に出題の意図等を説明する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜・1限、水曜・1限、 教職支援センター				メールアドレス (#→@)	平林 s-hirabayasi#takasaki-u.ac.jp 三村 k-mimura#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション、生涯学習の定義、制度(平林、三村)								
	該当到達目標 1,3	予習	シラバスを読み、講義の概要及び、「生涯学習とは何か」を理解する。							1.5 時間
		復習	テキストをまとめ、生涯学習の定義や制度について理解する。							1.5 時間
2	講義内容	生涯学習と人間形成■(三村)								
	該当到達目標 ,3	予習	生涯学習にわたる人間形成についてテキストなどで調べる。							1.5 時間
		復習	テキストや配布資料をまとめ、生涯学習について理解する。							1.5 時間
3	講義内容	生涯学習を支える思想(三村)								

	該当到達目標 1,3	予習	「生涯学習を支える思想」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5	時間
		復習	生涯学習における「生きがい・健康づくり」についてまとめ、内容を理解する。	1.5	時間
4	該当到達目標 2,3	講義内容	生涯学習の現代的課題①■(三村)		
		予習	「健康・高齢者等」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5	時間
		復習	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5	時間
		講義内容	現代的課題②■(三村)		
5	該当到達目標 2,3	予習	「高度情報化と人権等」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5	時間
		復習	テキストや資料を読んで、内容を理解する。	1.5	時間
6	該当到達目標 2,3	講義内容	現代的課題③■(三村)		
		予習	「国際交流と人権尊重」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5	時間
		復習	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5	時間
		講義内容	現代的課題④■(三村)		
7	該当到達目標 2,3	予習	「まちづくり等」についてテキストや関連する図書などで調べる。	1.5	時間
		復習	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5	時間
8	該当到達目標 1,2	講義内容	生涯学習の多様な学習方法■(三村)		
		予習	学習方法の類型等について関連する図書などで調べる。	1.5	時間
		復習	学習方法及び、持続可能な社会づくりへの取組について理解する。	1.5	時間
		講義内容	行政による生涯学習の振興(前編)(平林)		
9	該当到達目標 1,2	予習	国の行政による生涯学習支援策についてテキストなどで調べる。	1.5	時間
		復習	テキストや協議内容をまとめ、内容を理解する。	1.5	時間
10	該当到達目標 1,2	講義内容	行政による生涯学習の振興(後編)■(平林)		
		予習	都道府県レベルの生涯学習支援策についてテキストや図書などで調べる。	1.5	時間
		復習	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5	時間
		講義内容	民間団体・機関による生涯学習支援(前編)■(平林)		
11	該当到達目標 1,2	予習	それぞれの団体の活動内容について、テキストや図書などで調べる。	1.5	時間
		復習	テキストや協議・発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5	時間
12	該当到達目標 1,2	講義内容	民間団体・機関による生涯学習支援(後編)■(平林)		
		予習	NPO、カルチャーセンターやスポーツ施設について、図書などで調べる。	1.5	時間
		復習	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5	時間
		講義内容	施設に基づいた生涯学習活動(前編)(平林)		
13	該当到達目標 1,2	予習	社会教育施設についてテキストや関連する図書などで調べる。	1.5	時間
		復習	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5	時間
14	該当到達目標 1,3	講義内容	施設に基づいた生涯学習活動(後編)■(平林)		
		予習	博物館や青少年・女性教育施設についてテキストや図書などで調べる。	1.5	時間
		復習	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5	時間
		講義内容	生涯学習社会において、どう生きるか(職業能力開発の生涯学習)(平林)		
15	該当到達目標 1,2,3	予習	講義内容に関連する項目について、図書などで調べておく。	1.5	時間
		復習	図書や資料を読んで、内容を理解する。	1.5	時間
合計時間(予習・復習)				45	時間
備考	毎回小テストや資料の提示を c-learning で行いますので、パソコン等を持参してください。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	生命と環境の科学(教養基礎)						科目ナンバリング	LAB009		
英文名	Science of Environment and Life						講義形態	講義		
担当教員	奥 浩之									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			1	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	③⑥⑦⑨⑬									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、 実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	毎回、生命科学と環境科学の一つのトピックスについて、現状と問題・将来の課題など、高校までに学んだ知識をもとに、わかりやすく順を追って説明してゆく。具体的な事項を取り上げることで、漠然とした生命と環境についてのイメージを一新してもらうことを目的としている。生命分子の構造学習を行うことができるので、各自で利用できるパソコンのあることが望ましい。(パソコンは持参する必要はなく、自宅で使用できればよい。)									
到達目標	1. 地球環境について元素、物質循環、気候変動の観点から説明できる。 2. 生命を構成する分子(核酸、タンパク質)について、分子構造、反応機構、応用の観点から説明できる。 3. 私たちの生活に関連して、食品、バイオマス、プラスチックごみ、医薬品や医療機器、のトピックスについて説明できる。 4. グローバルな視点から、新しい感染症、ワクチン開発、などのトピックスについて説明できる。 5. 様々な文献や資料を参照し、レポート形式または要約・箇条書きの形式でまとめられるようになる。									
使用教材	使用しない(講義にて用いるスライドを配布予定)									
参考文献										
評価方法	レポート課題 50%、授業参加度 50%									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出されたレポート課題に対しては、コメントを付けて返却または講義時間内に課題の解説を行うことで受講学生へフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	質問等は、授業開始前もしくは終了後に 応じる。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	生命と環境ー自己紹介と研究について								
	該当到達目標 1,5	予習	(1)免疫系と免疫グロブリンについて調べてみよう。 (2)DNA 配列を測定する方法について調べてみよう。						1 時間	
		復習	(1)抗体医薬品について (2)免疫グロブリンの分子構造と役割について(特に IgG を構成する重鎖と軽鎖はどのような結合で結びついているか？着目してみよう。) (3)次世代シーケンサーについて						1.5 時間	
2	講義内容	生命と環境ー地球における元素の循環								
	該当到達目標 1,5	予習	元素周期表(http://stw.mext.go.jp/series.html)を読んでみよう。						1 時間	
		復習	(1)人体を構成する元素の存在比						1.5 時間	

			(2) 主要元素・微量・超微量元素の具体的な元素名 (3) 様々な元素の生体または医薬品における役割	
3	講義内容	生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化		
	該当到達目標 1,5	予習	(1) ヒトの活動による、水需要の増大、化石燃料の大量燃焼、窒素肥料の大量使用と地球環境への影響について調べてみよう。	1 時間
		復習	(1) 大気・土壌における物質循環 (2) 水循環、窒素循環、炭素循環、硫黄循環、リン循環の特徴 (3) 人類の活動による物質循環への影響	1.5 時間
4	講義内容	生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化		
	該当到達目標 1,5	予習	(1) 温室効果ガスとは？温室効果は何故起こるか？調べてみよう。	1 時間
		復習	(1) 地球上での物質循環は気候変動と密接に関連する (大気を暖める要因と冷やす要因) (物質循環の詳細な研究による、地球環境変化の予測) (2) IPCC 第 5 次報告書(2014 年)における RCP シナリオ (気候モデルによって予測された 21 世紀末の世界の気温) (世界全体の CO ₂ 累積排出量と気温上昇量は比例する) (3) 国連気候変動枠組条約 (日本における温室効果ガス削減目標)	1.5 時間
5	講義内容	生命と生体分子・・・DNA 二重らせんと X 線構造解析		
	該当到達目標 2,5	予習	ワトソンとクリックによる DNA 二重らせんモデル (1) 当時用いられた分子モデル(ロンドン・サイエンスミュージアム) http://www.sciencemuseum.org.uk/broughttolife/objects/display?id=6145 (2) 1953 年の論文 http://www.nature.com/nature/dna50/watsoncrick.pdf (3) DNA 構造について(英文なので、最初は図を見るのがよい) 特に Figure 5 を見て、3 種類の二重らせん構造があることに注目しよう http://www.nature.com/scitable/topicpage/discovery-of-dna-structure-and-function-watson-397	1 時間
		復習	(1) DNA の分子構造は X 線回折法によって求められる (2) ブラッグの回折条件式 (3) DNA 繊維写真の X 型パターン	1.5 時間
6	講義内容	生命と生体分子・・・タンパク質の構造と機能		
	該当到達目標 2,5	予習	(1) タンパク質を構成する 20 種類のアミノ酸とは？ (2) アミノ酸の“光学活性”とは？	1 時間
		復習	(1) アミノ酸 20 種類の分子構造 (2) X 線回折測定によるタンパク質の 3 次元構造解析 (3) NMR 測定によるタンパク質の 3 次元構造解析	1.5 時間
7	講義内容	生命と生体分子・・・さまざまなタンパク質		
	該当到達目標 2,5	予習	(1) 膜タンパク質とは？ (2) リボソームにおけるタンパク質合成 (3) アイスクリームの成分について。特に、低脂肪アイスクリームはなぜ低脂肪	1 時間

			なのか？調べてみよう。	
		復習	(1)70S リボソームと tRNA の分子構造 (PDB ID: 4v4j) (PDB ID: 2tra) (2)カルモデュリンの分子構造変化 (PDB ID: 3cln) (PDB entry 2bbm)	1.5 時間
8	講義内容	生命と生体分子・・・ヘム蛋白 (Mb、Hb、Cyt c、CYP450)		
	該当到達目標	予習	(1)ヘムタンパク質とは？ (2)ミオグロビンとヘモグロビンの違いは？ (3)CYP3A4 とは？	1 時間
	2,5	復習	(1)ミオグロビン (PDB ID, 1A6M) (2)チトクローム c (PDB ID, 2B4Z) (3)チトクローム P450 (PDB ID, 1W0E) (4)医薬品の代謝における CYP3A4 の影響について	1.5 時間
9	講義内容	ヒトの活動と環境・・・さまざまな医薬品		
	該当到達目標 2,5	予習	(1)コレステロールと高コレステロール血症 (2)認知症とコリン仮説について (3)ポリ乳酸とは？	1 時間
		復習	(1)スタチン (2)タクロリムス (3)ドネペジル (4)レボフロキサシン	1.5 時間
10	講義内容	ヒトの活動と環境・・・バイオマスとバイオリファイナリー		
	該当到達目標 3,5	予習	(1)バイオマスとは？ (2)バイオエタノールとは？ (3)プラスチックゴミ問題とは？	1 時間
		復習	(1)バイオリファイナリーとは？ (2)バイオガソリンの成分は？ (3)バイオマスプラスチックの具体的な事例は？	1.5 時間
11	講義内容	ヒトの活動と環境・・・食品の安全確保(加工食品の成分)		
	該当到達目標 3,5	予習	(1)アクリルアミドの分子構造、用途、注意点	1 時間
		復習	(1)行政(農水省)では加工食品の安全確保についてどのような活動をおこなわれているか？	1.5 時間
12	講義内容	ヒトの活動と環境:食えると甘い香りが発散するお菓子について		
	該当到達目標 3,5	予習	(1)ワインやコーヒーの香りを分析する装置について調べてみよう(ヘッドスペース装置の付いたガスクログラフィー/質量分析計) (2)ヒトにおける薬物代謝のしくみ	1 時間
		復習	(1)ヒトの体の匂いに関与する成分はどのようにして分析されたか？ (2)お菓子を食べてから、体表面から香気成分が発散するまでの経路は？ (ヒトにおける薬物代謝から説明してみよう。)	1.5 時間
13	講義内容	生命と環境・・・さまざまな感染症(AIDS, 結核, マラリアなど)		
	該当到達目標 4,5	予習	(1)感染症とは？	1 時間
		復習	(1)さまざまな感染症について (2)薬剤耐性について	1.5 時間
14	講義内容	生命と環境・・・インフルエンザワクチンの成分		
	該当到達目標 4,5	予習	(1)ワクチンによる予防免疫のしくみ	1 時間
		復習	(1)様々なインフルエンザの治療薬について	1.5 時間

			(2)様々なインフルエンザワクチンについて	
15	講義内容	生命と環境・・・グローバル化によって必要となる新しいワクチン		
	該当到達目標 4,5	予習	(1)蚊によって媒介される感染症とは？ (2)グローバル化におけるヒトの移動や経済活動の活発化について	1 時間
		復習	(1)グローバル化と感染症の拡大はどのように関係するか？ (2)新しいワクチンの開発例について	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完してください。			

科目名	国際関係論(教養基礎)						科目ナンバリング	LAB010		
英文名	International Relations						講義形態	講義		
担当教員	片桐 庸夫									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とす資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			1	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	①	②	⑤	⑥	⑩	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、 実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
										○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	毎回当日の講義内容に関する 10-15 分程度のレポートを課し、学んだ内容についての確認を求める。翌週に問題提起、結論、段落の付け方、使用すべき漢字、レポートの書き方、内容の評価、問題点を指導する。授業中に質問をすることによって学生との対話の機会を設け、参加意識を高める。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 新聞、テレビ、インターネット等のニュースを見て、世界の動きや日本の外交について理解出来るようになること。 ② 配布プリントを中心に、講義を行います。現代世界を象徴するドキュメントを収録した DVD を数回用います。また、授業の最後に毎回レポートを実施する。指導方法は上記の通り。毎回課すレポートの評価を基に成績評価を行うので、前期試験は行わない。									
到達目標	1. 現代世界の理解 2. 第 2 次世界大戦後の世界の基本構造の理解 3. 国家間の対立要因の理解 4. 国家間の相互理解の理解 5. 自由主義イデオロギーと社会主義イデオロギーの理解 6. 現代の戦争の特徴についての理解 7. 国家の安全保障の理解 8. 核の下での平和の理解 9. 国際秩序概念の理解 10. 国際秩序の喪失と国際テロ、難民、民族や宗教の違いに基づく紛争発生要因の理解 11. 戦後日本の原型についての理解 12. 戦後日本外交の歩み、「戦後」克服の意味の理解 13. 日本の課題である国際貢献問題の理解									
使用教材	配布するプリントを教材として用いる。									
参考文献	細谷雄一『国際秩序』中公新書。高坂正堯『国際政治』中公新書									
評価方法	講義の最後に毎回行うレポート評価試験(60%)、講義参加・貢献度(40%)等により総合評価を行う。									
課題・評価に対するフィードバック方法	原則としてレポートを課した翌週の講義の際に論文やレポートの書き方、文体、文の構成、意味の曖昧な表現、誤字脱字等について指導する。									
オフィスアワー (研究室)	・前期木曜日の昼休み ・非常勤講師控室 随時来てください。講義の後に直接訊ねることも可。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	講義概要(講義の展開、出席の取り方、レポートの書き方、成績評価等)についての説明を行う。								
	該当到達目標	予習	シラバスを読んでおくこと。						0	時間
		復習	講義概要の確認を行いこと。						1	時間

2	講義内容	世界の混迷した状況、中国の現状打破勢力としての台頭、米中の覇権争い等について理解する。		
	該当到達目標	予習	1週間分の新聞の1,2面の記事に目を通しておくこと。	2 時間
	1,3,7,8,10	復習	ノートテイキングした部分の加筆、整理、それに新聞記事の内容を付加すること。	2 時間
3	講義内容	「冷戦の特異性」の意味と大規模な戦争の後に起こりやすい戦勝同盟国間の対立を理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントのウィーン会議の部分をよく読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,9	復習	細谷雄一『国際秩序』中公新書の p.115-120,282 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
4	講義内容	戦勝同盟国間の対立の典型的例であるウィーン会議について理解する。		
	該当到達目標	予習	ウィーン会議参加国の価値観の共有についてプリントを利用して予習すること。	1.5 時間
	2,4,7	復習	『国際秩序』の p.121-124 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
5	講義内容	国際コミュニケーションにとって重要な価値観の共有の意味について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの価値観の共有の項を読んでおくこと。	1.5 時間
	3,4,5	復習	『国際秩序』の p.128-130 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
6	講義内容	ウィーン会議とは正反対に共通の価値観の欠如していた米ソ間の体制間対立について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの体制間対立の項を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,3,4,5,8	復習	『国際秩序』の p.237-241 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
7	講義内容	米ソ間のイデオロギー対立について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントのイデオロギー対立の項を読んでおくこと。	1.5 時間
	3,5,7	復習	『国際秩序』の p.237-241 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
8	講義内容	米ソ両国間の安全保障観の相違と戦争の性格の変化(DVD 画像による)について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの安全保障観の相違と戦争の性格の変化の項を読んでおくこと。	2 時間
	6,7,8	復習	DVD 画像を観ながらノートテイキングしたメモを参考にノートにまとめること。	2 時間
9	講義内容	冷戦の定義、それに基づく冷戦の起源と終焉について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの冷戦の定義とそれに基づく冷戦の起源と終焉についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,6,7,8	復習	永井陽之介『冷戦の起源』中央公論社の p.6-10 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
10	講義内容	世界を滅ぼすことも可能な究極の兵器である核の下の平和について理解する。		
	該当到達目標	予習	究極の兵器がもたらした核の下の平和についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,6,7,8	復習	『国際秩序』の p.253-255 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
11	講義内容	冷戦の逆説である戦後の長い平和について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントのガディスの逆説論についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,7,8,9	復習	『国際秩序』の p.256-260 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
12	講義内容	冷戦の終焉と終焉後の世界の不安定化の理由・要因について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの国際秩序維持勢力の喪失と国際秩序の喪失の項を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,7,9	復習	『国際秩序』の p.281-285 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
13	講義内容	冷戦後初の戦争「湾岸戦争」の意義、テロ・民族対立・宗教対立、難民の大量発生理由、冷戦と呼ばれた戦後の米ソ対立と今日の米中対立との違いについて理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの湾岸戦争、国際秩序なき時代についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	6,7,10	復習	『文明の衝突と 21 世紀の日本』集英社新書の P.21-36 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
14	講義内容	終戦、米国の対日占領政策、天皇制存置、SF 講和、憲法第 9 条、日米安保について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの終戦から SF 講和に至る項を読んでおくこと。	1.5 時間

	7,11,12	復習	小此木・赤木共編『冷戦期の国際政治』慶應義塾大学出版会の p.288-306 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
15	講義内容	「戦後」の克服の意味、今日の日本が直面する外交の課題について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの「戦後」の克服、国際貢献問題の項を読んでおく。	1.5 時間
	1,10,13	復習	講義中に配布する新聞の切り抜き記事を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	「復習」に挙げられている本は、参考文献も兼ねている。随時利用すること。予習・復習の結果、不明な点、理解しにくい、または出来ない点などあれば、遠慮なく質問すること。			

科目名	体育理論(教養基礎)							科目ナンバリング	LAB011	
英文名	Physical Education: Theory							講義形態	講義	
担当教員	大家 千枝子									
科目に関連した実務経験	「元気に“動こう・歩こう”」実践リーダー養成講座の講師として、リーダー養成事業に従事している。(群馬県健康長寿社会づくり推進課・2018 年度～)									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格	教職科目(栄養教諭)									
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	③									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○					○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①現代社会における運動・スポーツの意義を理解し、生涯にわたり健康・体力づくりを実践するために必要な基礎知識を学ぶ。自らの健康・体力の現状を把握し、健康・体力づくりに適した身体活動について、その効果や実践方法を知り、実際の生活に活用する能力を養う。 ②講義中心だが、自身の「体力を知る」ために体育館にて新体力テストを実施する。また新聞や文献を活用した課題を設定しているため、図書館も利用する。									
到達目標	1 現代社会における運動・スポーツの意義を理解し、具体的に述べることができる。 2 自身の健康・体力の状況とわが国の健康・体力の現状を把握し、問題点をあげることができる。■ 3 健康の保持増進を図るためのアイデアを探り、方法を創造することができる。■ 4 課題に積極的に取り組み、履修者同士でコミュニケーションをとることができる。 5 人間が創造した運動・スポーツの文化としての意味を考え、認識を深めることができる。									
使用教材	プリントを適宜配布する。									
参考文献	参考文献を適宜紹介する。									
評価方法	授業への取り組み実践点(講義後コメント、測定、コラボ企画、提出状況など)60%、 課題点(これまでの授業を踏まえた最終課題) 40%									
課題・評価に対する フィードバック方法	自分以外の履修者による課題(体力テストの結果など)や感想、評価を知ることが学生相互の刺激になるため、C-learning を使ってフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。					メールアドレス (#→@)	oie#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス、大学での学び・健康とは・上達の秘訣を考える								
	該当到達目標 1,2,5	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。						0.5	時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。						0.5	時間
2	講義内容	A 組: 体力を知る(新体力テスト)・B 組: 図書館利用術(図書館コラボ企画)								
	該当到達目標 2,4	予習	体調を整えて授業に備える。配布された資料に目をとおす。						0.5	時間
		復習	C-learning に測定結果と必要事項を入力する。						0.5	時間
3	講義内容	A 組: 図書館利用術(図書館コラボ企画)・B 組: 体力を知る(新体力テスト)								
	該当到達目標 2,4	予習	体調を整えて授業に備える。配布された資料に目をとおす。						0.5	時間
		復習	C-learning に測定結果と必要事項を入力する。						0.5	時間
4	講義内容	体力を評価する(体力とは)								
	該当到達目標 2,4	予習	体調を整えて授業に備える。配布された資料に目をとおす。						0.5	時間
		復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。						0.5	時間

5	講義内容	運動・スポーツの実施状況、運動継続の仕組みづくり、問題解決のための作戦を立てる■		
	該当到達目標	予習	配布された資料に目をとおす。	0.5 時間
	2,4	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
6	講義内容	体組成、体脂肪の測定方法、エネルギー消費量の算出方法、内臓脂肪について		
	該当到達目標	予習	配布された資料に目をとおす。フィットネスルームで体組成を測定しておく。	0.5 時間
	1,2	復習	今後どのように身体活動・運動を取り入れるか検討する。	0.5 時間
7	講義内容	トレーニングの原理・原則		
	該当到達目標	予習	配布された資料に目をとおす。	0.5 時間
	1,2	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
8	講義内容	まとめ、到達度チェックと最終課題の発表		
	該当到達目標	予習	授業でとったノートを読み直し、最終課題に備える。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				8 時間
備考	【単位修得に必要な時間について】 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ※C-learning「出席管理」の不正行為はしないこと(発覚時には厳正に対処する)。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	体育実技(教養基礎)							科目ナンバリング	LAB012	
英文名	Physical Education: Sports & Physical Activities							講義形態	実習	
担当教員	大家 千枝子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	③									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	さまざまな運動・スポーツの実践をとおして、体力の維持・向上をめざすとともに、運動・スポーツを楽しむ能力を身につける。また、運動・スポーツに関わる基礎知識を学び、健康的な生活を送るための自己管理能力を身につける。さらに、仲間や教員とのコミュニケーションを深める。 実技を中心に進める。授業開始時には整列し、出席をとる。授業終了時には、振り返りとして授業記録の提出がある。									
到達目標	1. 運動・スポーツの基礎知識、各スポーツ種目の歴史、ルール、マナーを理解し、説明できる。 2. 自らコミュニケーションをとって意欲的に活発に動ける。 3. 知識を実践に生かす健康保持増進のための自己管理能力を身につける。 4. 技術の高低や得意・不得意にとらわれず、運動・スポーツそのものを楽しむ能力を身につける 5. 種目特性によって異なる身体感覚、健康・体力に興味・関心をもち、簡潔に記録できる。									
使用教材	プリントを適宜配布する。									
参考文献	参考文献は適宜紹介する。									
評価方法	授業ごとの取り組みの評価 70%、確認テストまたは課題 15%、毎回のコメント記録 15%									
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回の授業後に授業記録カードの提出を求める。授業記録カードに付したコメントやスタンプは必ずチェックすること。また最終日には、授業で学んだことの整理・課題・目標到達度の確認(ルーブリックにて自己評価)を行う。課題は返却しないので、開示を希望するものは本人が直接申し出ること。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)		oie#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで講義目標などを理解する。要配慮の学生は申し出る。						0.5	時間
	1,3	復習	到達目標、学位記授与方針、成績評価方法などを確認する。						0.5	時間
2	講義内容	筋トレ、ストレッチ								
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。						0.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。						0.5	時間
3	講義内容	バレーボール (特有の体さばきの理解と気づき)								
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。バレーボールのルールを事前に理解しておく。						0.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。						0.5	時間
4	講義内容	バレーボール (基本スキル習得とコミュニケーションスキルをあげる。ゲーム。)								
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。バレーボールのルールを事前に理解しておく。						0.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。						0.5	時間

5	講義内容	テニス（基本スキルの習得・フォアとバックのフォームづくり）		
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。テニスのルールを事前に理解しておく。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5 時間
6	講義内容	テニス（基本スキルの習得・フォアハンドストロークとバックハンドストローク）		
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。テニスのルールを事前に理解しておく。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5 時間
7	講義内容	テニス（ローカルルール採用のゲーム）		
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。テニスのルールを事前に理解しておく。	0.5 時間
		復習	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5 時間
8	講義内容	フットサル（基本スキルの習得とコミュニケーションスキルをあげる・ゲーム）		
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。フットサルのルールを事前に理解しておく。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5 時間
9	講義内容	フットサル（基本スキルの習得とコミュニケーションスキルをあげる・ゲーム）		
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。冬の始まりで屋外の寒さに慣れる。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5 時間
10	講義内容	バスケットボール（基本スキルの習得・ボールハンドリング・ドリブル・シュート）		
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。ルールを事前に理解しておく。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5 時間
11	講義内容	バスケットボール（基本スキルの習得・パス・シュート・オフェンス・ディフェンス）		
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。ルールを事前に理解しておく。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5 時間
12	講義内容	バスケットボール（基本スキルの習得とコミュニケーションスキルをあげる・ゲーム）		
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。ルールを事前に理解しておく。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5 時間
13	講義内容	バドミントン（基本スキルの習得・簡易ゲーム）		
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。バドミントンのルールを事前に理解しておく。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5 時間
14	講義内容	バドミントン（簡易ゲーム）とフィットネス活動（フィットネスルーム体験）		
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。バドミントンのルールを事前に理解しておく。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返る。自身にあった筋トレやストレッチなどを行う。	0.5 時間
15	講義内容	まとめ、授業で学んだことの整理・確認テスト（または課題）・目標到達度の確認		
	該当到達目標	予習	これまで授業で学んだこと、自身の授業態度を振り返る。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	目標達成度の確認。今後どのように運動・スポーツを継続できるか検討する。	0.5 時間
合計時間（予習・復習）				15 時間
備考	【単位修得に必要な時間について】			
	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			
	【受講上の注意】			
	①運動に適した服装（ジャージ、Tシャツなど）とシューズ（屋内外別）を着用すること。			
	（※ジーンズ・普段着での受講は不可。スマホや時計、指輪、ブレスレット、ネックレス、ピアスなどは外しておく。）			
	②原則として見学は認めない。配慮を必要とする学生は初回ガイダンス終了までに申し出ること。			
	③貴重品は各自で管理すること。			
	④天候による施設変更の可能性がある。C-learning で確認すること。			
	⑤フットサルコートの人芝がとれやすく、靴下やウエアに付着することがある。			
	⑥屋外でのウォーミングアップの際、グラウンドの砂などで汚れる可能性がある。※汚れてもよい服装を推奨。			
	⑦授業で使用する用具は大学側で用意しているが、個人所有のラケットなどがあれば持参を推奨する。			
	【履修条件】			
	準備・後片付けなどの授業運営は受講生の積極的な姿勢を求める。また、技術の高低や得意不得意、好き嫌い、勝ち負けにとらわれず、自分の持っている技術力をいかして、スポーツそのものを楽しむ能力や積極的に体を動かすことが求められる。			

【ルール】

授業開始時には整列し、出席をとる。授業終了時には、振り返りとして授業記録カードの提出がある。次の行為は授業中にしないこと。①ガムを噛む、②授業と関係のないスマホの使用。

科目名	キャリア形成論(教養基礎)						科目ナンバリング	LAB013		
英文名	Career Development						講義形態	講義		
担当教員	小泉 英明									
科目に関連した実務経験	社員研修・人材育成・能力開発・キャリア開発のコンサルタント、トレーナーとして各企業・自治体で指導									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	④ ⑧									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○	○	○		○				○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	小テスト・レポートに対してコメントを付し返却、授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	AI(人工知能)をはじめとする各種テクノロジーの進化や地球規模的な気候変動など、社会は今、大きな激動期を迎えています。そのような中で、私たちを取り巻く経済・雇用環境も目まぐるしく変わり、生活や仕事の内容までもが大きく変わりつつあります。 本講座ではそのような社会の動きを見据え、私たちが近い将来に求められる『能力』について理解を深めるとともに、キャリア形成の基盤づくりを行います。 授業では社会で求められている高次元のコミュニケーション能力や思考力、さらには問題解決能力などの『社会人基礎力』を身につけるとともに、ケーススタディ等によって社会適応力を習得します。また本学卒業後、社会人として適切なスタートを切ることができるよう、“自身”の強化プラン策定と目標管理ができる自律的人材の養成を目指します。 【授業期間全体を通じた授業の進め方】 教員作成のレジュメを使い、要点をまとめていきます。授業では、ニュースで取り上げられる時事について考察しながら、卒業後における社会の中でどのように取り組んでいくべきか実体験を織り交ぜた説明を行います。また必要な箇所にはグループディスカッションを行うとともに、理解度を深めるための課題を課します。									
到達目標	1. 社会の出来事を理解し、社会に通用する就業観、勤労観を学ぶ。■ 2. 自己の成長に向けて、自己を正しく理解するとともに、自己効力感を養う。■ 3. 社会人基礎力を理解し、社会適応力を身につける。■ 4. コミュニケーションの本質を理解し、高次元のコミュニケーション力を身につける。■ 5. 論理を組み合わせる手法を学び、論理的思考力を高める。■ 6. アイデアの出し方を学び、創造的思考力を高める。■ 7. 気づく力を身につけ、問題発見能力を高める。■ 8. 問題解決のスキルと手法を学び、問題解決能力を高める。■ 9. 自己変革のために必要な自身の問題点を探る。■ 10. 自律型人材に向けての目標管理ができる。■ 11. 社会における人間関係を学び、社会適応力を高める。■									
使用教材	C-learning を利用し、各学生に教員作成の教材データを授業前に配信します。									
参考文献	授業内で提示します。									
評価方法	ファイナルレポート 60%、毎授業後の提出課題 30%、授業参加度・授業態度 10% それぞれの評価基準については初回授業で説明します。総合評価 60%以上を合格とします。									
課題・評価に対する	授業後の課題レポートについては、随時コメントをつけてフィードバックします。 ファイナルレポートに関するフィードバックは、出題テーマの意図など掲示等によって示します。									

フィードバック方法					
オフィスアワー (研究室)		木曜日(12～17 時)		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示します。
1	講義内容	ガイダンス／キャリア形成のために必要なこと■			
	該当到達目標	予習	事前配信教材をはじめ、新聞、テレビ、ネットなどのニュースから、社会の出来事を理解して臨む。		1.5 時間
	1	復習	キャリア形成に必要なコアコンピタンスを理解する。		1.5 時間
2	講義内容	先行きの予測が困難な時代／社会が求める人材■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 2 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間
	1,3	復習	キャリア形成に必要な「社会人基礎力」について理解を深める。		1.5 時間
3	講義内容	自己の理解■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 3 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間
	2	復習	自己理解を深め、自己効力感と自分のパーソナリティを理解する。		1.5 時間
4	講義内容	コミュニケーション力■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 4 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間
	3,4	復習	チェックシートによって自身のコミュニケーション力を客観的につかむ。		1.5 時間
5	講義内容	実践コミュニケーション力■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 5 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間
	3,4	復習	コミュニケーションの重要ポイントを理解し、自身の弱点と強化ポイントをつかむ。		1.5 時間
6	講義内容	気づく力(問題発見能力)■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 6 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間
	3,7	復習	事例研究課題に取り組む。※問題解決に繋がることを理解する。		1.5 時間
7	講義内容	考える力Ⅰ(ロジカルシンキング・クリティカルシンキング)■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 7 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間
	3,5	復習	事例研究によって論理的思考を理解する。		1.5 時間
8	講義内容	考える力Ⅱ(クリエイティブシンキング)■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 8 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間
	3,6,7,8	復習	事例研究によって創造的思考の重要性を理解する。アイデア発想の演習を行う。		1.5 時間
9	講義内容	創造力を伸ばす■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 9 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間
	3,6,7,8,9	復習	事例研究によって創造力の阻害要因を理解し、力を伸ばすポイントをつかむ。		1.5 時間
10	講義内容	問題解決能力Ⅰ(問題点を探る・WHY ツリー)■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 10 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間
	3,7,8,9	復習	自身が抱える問題の「問題点」を WHY ツリーで探る。		1.5 時間
11	講義内容	働く意味／「仕事力」と「就業力」■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 11 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間
	1,3	復習	自身の「仕事観」「就業観」を見つめ、自身の将来について深く考える。		1.5 時間
12	講義内容	問題解決能力Ⅱ(問題解決の手法・HOW ツリー／課題発見・目標設定)■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 12 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間
	3,8,9,10	復習	自身の課題を HOW ツリーで探り、今後の目標・計画を設定する。		1.5 時間
13	講義内容	社会における人間関係■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 13 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間
	3,11	復習	人との接し方と、よりよい人間関係を築く方法を理解する。		1.5 時間
14	講義内容	自己の確立(バリュープロポジションとキャリア自律)■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 14 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間
	3,10	復習	将来のキャリア形成に向けて、キャリア自律の重要性を理解する。		1.5 時間
15	講義内容	ストレスマネジメント■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 15 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間

	3,11	復習	ストレス対処法と対人耐性力を理解し、社会進出後のストレスに対する耐性力を高める。	1.5	時間
	合計時間(予習・復習)			45	時間
備考	C-learning にて配信する教材をもとに予習し、授業に臨んでください。教材はファイリングし、いつでも内容を振り返ることができるようにしてください。また、毎受講後、提示された課題についてレポートを提出してください。授業は積み上げ方式で進めていきますから、わからないことがないように授業後は必ず復習してください。新聞、テレビ、ネットなどのニュースには常に関心を持ち、社会の出来事を理解し授業に臨んでください。 〔健康福祉学部の学生に求められる基本的な資質〕 ① 人の役に立つという心構え ② 生活者本位の視点 ③ コミュニケーション能力 ④ チームワーキングへの参画 ⑤ 自己研鑽 ※オンラインで授業を行う場合(※オンデマンド) ① 教材のデータを授業日の 3 日前までに配信します。 ② 事前に配信された教材の内容を良く理解して講義に臨んでください。 ③ 毎受講後、提示された課題についてレポートを提出してください。(提出期限を厳守してください) ④ 提出されたレポートについては、随時コメントをつけてフィードバックします。 ⑤ 授業への出席は、レポートの提出をもって「出席」とします。 ⑥ 期末試験はレポート(ファイナルレポート)にて行い、第 15 回の授業後に提出の予定です。 ⑦ 評価方法は以下の通りです。 ファイナルレポート 60% 毎授業後の提出課題レポート 30% 授業参加度 10% ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	哲学(人間理解)						科目ナンバリング	LAH001		
英文名	Philosophy						講義形態	講義		
担当教員	大石 桂子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑩ ⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、 実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①「他者とうどう関わっていけばよいか」「絶対に正しいことはあるのか」、「病気や“弱さ”にとうどう向き合うか」。普段は漠然と理解しているように感じることに、改めて疑問を持ち考えるのが哲学である。本講義では身近な題材をもとに医療・福祉・健康分野に関わる者として考えておきたいトピックを取り上げる。哲学者たちの議論や、統計からみえる社会情勢などを手引きとして、論理的に考えていくための基礎力を身につける。 ②配布プリントを中心に講義を行い、定期的に課題を提示し、学生同士が意見交換する場を設ける。									
到達目標	1. 人と人、人と社会の関係、平等性、自由と責任などについて、多様な視点から説明できる。 2. 共生の意義や、弱者の排除が社会にもたらす影響を説明できる。 3. 各テーマについて、自分の意見をもつことができる。 4. 課題やグループワークを通して、自分の考えを他者に伝わりやすく表現できる。 5. 自分と異なる他者の考えを受け止め、そこから新たな発見ができる。									
使用教材	講義中にプリントを配布する。									
参考文献										
評価方法	定期試験(60%)、講義中に作成する課題(40%)に、参加態度を加えて総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出された課題の内容にコメントを付けて、授業中に紹介する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜日の 2 時限、金曜日の 2 時限。 (1 号館 6 階 601)				メールアドレス (#→@)		oishi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標 1	予習	シラバスの内容をよく読み、講義の目標や取り扱う内容を理解する。						1 時間	
		復習	「哲学」の目標、学ぶ意義について理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	自分と他者(1)「人に認められたい」のは本能?——ヘーゲル								
	該当到達目標 1,3	予習	配布プリントに目を通す。						1 時間	
		復習	ヘーゲルのいう「承認への欲求」を理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	自分と他者(2)「本当の自分」とは何か——キルケゴール								

	該当到達目標 1,3	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	キルケゴールの「大衆と実存」の違いを理解する。	1.5 時間
4	該当到達目標 1,3	講義内容	自分と他者(3)人と人の関係性——ブーバー、サルトル	
		予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	第2回から第4回までの内容を整理する。	1.5 時間
5	該当到達目標 1,3,4,5	講義内容	ディスカッション——これからの自分に大切なこと	
		予習	第2回から第4回までの内容について、自分の考えをまとめる。	1 時間
		復習	自分にとって大切なことを改めて熟考し、課題を仕上げる。	1.5 時間
6	該当到達目標 2,3	講義内容	平等と共生(1)誰もが信じられる正しさはあるか——ロールズ	
		予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	「機会の平等」と「結果の平等」を理解する。	1.5 時間
7	該当到達目標 2,3,4	講義内容	平等と共生(2)環境は人の心にどう影響するのか	
		予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	「無知のヴェール」について理解する。平等について課題を仕上げる。	2 時間
8	該当到達目標 1,3	講義内容	自由・正しい自己決定のために——カント	
		予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	「自律」の意義について理解する。	1.5 時間
9	該当到達目標 2,3	講義内容	心と身体(1)「私」を形づくるのは心か身体か——ニーチェ	
		予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	身体がものの見方や価値観に影響する例を考える。	1.5 時間
10	該当到達目標 2,3	講義内容	心と身体(2)人間の中心は脳なのか	
		予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	脳死の問題について理解する。	1.5 時間
11	該当到達目標 2,3	講義内容	エンハンスメント(1)変化する「病」の定義	
		予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	エンハンスメントや「医療化」について理解する。	1.5 時間
12	該当到達目標 2,3	講義内容	エンハンスメント(2)「弱さ」を否定する社会——ハーバーマス、サンデル	
		予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	弱さを排除した場合の社会的影響について理解する。	1.5 時間
13	該当到達目標 2,3,4,5	講義内容	ディスカッション——医療技術と自己決定	
		予習	個人の欲求でどこまで医療技術を利用してよいか、自分の考えをまとめる。	1 時間
		復習	エンハンスメントについての自分の考えをまとめる。	1.5 時間
14	該当到達目標 1,3	講義内容	責任(1)責任の範囲はどこまで？——アリストテレスほか	
		予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	責任が問われる基準について理解する。	1.5 時間
15	該当到達目標 1,3,4	講義内容	責任(2)「何もしなかった」ことに責任はあるのか——ヤスパース	
		予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	講義中にあげた事例について、自分の考えを課題にまとめる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				38 時間
備考	本講義では知識の修得だけでなく、みずから考えることを重視するので、課題など積極的に取り組むこと。 予習・復習については試験前の学習で補完すること。			

	*オンライン授業になった場合は、C-Leaning 上で講義資料(PDF ファイル等)を閲覧し、課題を提出する形式とする。

科目名	倫理学(人間理解)							科目ナンバリング	LAH002	
英文名	Ethics							講義形態	講義	
担当教員	出雲 春明									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	357101617									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 現代の医療をめぐる問題をとりあげ、それぞれのトピックを通じて、倫理学の諸理論、人々の多様な価値観について学ぶ。なるべく平易な表現を用いて講義を行う。講義中、一つの問題をめぐる様々な、そしてしばしば対立する見解が示される。自分ならどの立場をとるか、対立する相手に対してどのように反論するか、常に考えながら講義に臨んでほしい。 ② C-Learning の教材倉庫にアップした資料に基づいて講義を行い、毎回、ドリルと小テストを実施して知識の定着を図る。新型コロナの感染状況によってはオンデマンド形式に移行する。									
到達目標	1. 医療に関連する倫理的諸問題について正確な知識を習得し、 2. 自分の考えを表現することができる。 3. また、自分と対立する考えについても理解を深める。									
使用教材	講義中に資料を配布する。C-Learning の教材倉庫に毎回アップする。									
参考文献	加藤尚武『脳死・クローン・遺伝子治療—バイオ・エシックスの練習問題』、PHP 新書、1999 年。 小林亜津子『はじめて学ぶ生命倫理—「いのち」は誰が決めるのか』、筑摩書房、2011 年。									
評価方法	講義への参加態度(資料の閲覧・ドリルの実施など)・・・30% 小テストなどの課題・期末レポート・・・70%									
課題・評価に対するフィードバック方法	講義中、C-Learning「アンケート」を通じて、意見などを提出してもらう場合がある。有意義な意見に関しては講義中に紹介する。									
オフィスアワー (研究室)	1 号館 511 研究室 面談希望の場合は C-Learning「連絡・相談」あるいは左記アドレスまで。				メールアドレス (#→@)		izumo-s#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス—生命倫理学について								
	該当到達目標 1	予習	シラバスを読み講義の実施方法や目的を理解する。予習資料を確認する。						1.5 時間	
		復習	生命倫理学の成立事情について、技術の発展と人間観の変化から理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	不妊治療(1)人工授精、体外受精								
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料を確認し、人工授精(AI)の定義について知り、関連情報を取得しておく。						1.5 時間	
		復習	人工授精の特徴とそこで生じる倫理的問題について理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	不妊治療(2)代理母出産をめぐる議論								

	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料から、体外受精(IVF)とAIの差異、代理母について確認しておく。	1.5 時間	
		復習	人工授精、体外受精、代理母の特徴とその倫理的問題について理解する。	1.5 時間	
4	講義内容	遺伝子操作(1)ヒトゲノム計画がもたらす未来			
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料から、ヒトゲノム計画と現代におけるその活用について知る。	1.5 時間	
		復習	遺伝情報が現在社会においてどのように利用されようとしているか理解する。	1.5 時間	
5	講義内容	遺伝子操作(2)遺伝子診断技術がもたらす未来			
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料より遺伝子診断技術について確認する。	1.5 時間	
		復習	遺伝子診断技術がこれから社会に及ぼす変化を考えてみる。	1.5 時間	
6	講義内容	人工妊娠中絶をめぐる問題			
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料より日本における人工妊娠中絶の法的規定について調べておく。	1.5 時間	
		復習	人工妊娠中絶をめぐる現在の状況、議論について理解する。	1.5 時間	
7	講義内容	優生思想をめぐる問題			
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料より優生思想について知識を得ておく。	1.5 時間	
		復習	これまでの議論を優生思想の問題と関連させて振り返っておく。	1.5 時間	
8	講義内容	インフォームド・コンセントと患者の権利			
	該当到達目標 1,2	予習	予習資料からインフォームド・コンセントが求められた歴史的な発端を読み解く。	1.5 時間	
		復習	患者を主役とする医療という考え方について確認しておく。	1.5 時間	
9	講義内容	QOLの追求			
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料からQOLとは何かについて知識を得る。	1.5 時間	
		復習	様々なQOLのあり方について考える。	1.5 時間	
10	講義内容	告知をめぐる問題			
	該当到達目標 1,2	予習	予習資料から告知をめぐる現状について知る。	1.5 時間	
		復習	告知について自分ならどのような選択をするか考える。	1.5 時間	
11	講義内容	延命医療について			
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料をもとに延命医療について自分の考えをまとめる。	1.5 時間	
		復習	延命とQOLを関連させて考える。	1.5 時間	
12	講義内容	安楽死について			
	該当到達目標 1,2	予習	予習資料から安楽死の区分について知る。	1.5 時間	
		復習	安楽死の区分について理解し、自分の意見をまとめる。	1.5 時間	
13	講義内容	臓器移植(1)生体臓器移植			
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料から日本での生体臓器移植の位置づけについて知る。	1.5 時間	
		復習	生体臓器移植の特徴とその倫理的問題について理解する。	1.5 時間	
14	講義内容	臓器移植(2)死後移植と臓器移植法改正			
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料から日本における昨今の死後移植の位置づけについて知る。	1.5 時間	
		復習	改正臓器移植法について理解し、自分の意見をまとめる。	1.5 時間	
15	講義内容	総括			
	該当到達目標 1,2	予習	これまでのトピックの中から特に関心を持ったものを確認してみる。	1.5 時間	
		復習	紹介した文献や映像資料などを参照しつつ、自分の考えをまとめる。	1.5 時間	
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	C-learningの「教材倉庫」「ドリル」「小テスト」「アンケート」「レポート」機能を活用する。毎回、授業日の前週水曜日に予習用の教材をアップするのであらかじめ目を通しておくこと。授業終了後は復習用の資料をアップするので、よく確認し、ドリル・小テストで知識の定着を図ること。				

	詳細な成績評価の方法や、期末レポートの課題や規定など連絡事項は C-learning「ニュース」に公開するので、各自でよく確認しておくこと。 「自分ならどう考え、行動するか」を自らに問いかける姿勢を大切にしてほしい。また、授業内容と関連する「報道」などがあった場合には、通常の予習・復習とあわせて確認しておくことが望ましい。

科目名	心理学(人間理解)						科目ナンバリング	LAH003									
英文名	Psychology						講義形態	講義									
担当教員	角野 善司																
科目に関連した実務経験	カウンセラーとして臨床心理センターに勤務(経験)																
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位														
履修を必須とする資格	社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士																
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力											
	1	基礎的知識力			1	応用・実践する能力											
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力											
SDGs との関連	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他							
		○							○								
「その他」のアクティブラーニング実施方法																	
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①人間の心理的諸機能に関する理論・研究について学び、支援に必要な基礎的知識の習得を目指す。こころのしくみに関して心理的諸機能を概観し、心の発達や健康について理解したうえで、心理的支援の方法と実際を学ぶ。 ②授業期間全体を通じた授業の進め方： 毎回の予習が、知識獲得の中心である。その意識を強く持って、取り組んでもらいたい。対面授業は、難解な箇所に関する追加的な解説に重点を置く。また、理解を深めるために必要に応じて視聴覚教材を活用する。授業後には、復習課題に取り組むとともに、授業での学修を基に考察を深め、小レポートを作成し、提出することを求める。																
到達目標	1. 人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応について説明できる。 2. 人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題について説明できる。■ 3. 日常生活と心の健康との関係について説明できる。■ 4. 心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について説明できる。■																
使用教材	加藤伸司ほか「新・MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 17 心理学と心理的支援」ミネルヴァ書房 2022 年 2,800 円+税																
参考文献																	
評価方法	毎回の課題・小レポート 45%(3 点×15 回)、学期末筆記試験 30%、学期末レポート 25%																
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回の課題・小レポートは授業時に、学期末筆記試験・レポートは事後に講評解説の機会を設ける。																
オフィスアワー (研究室)	初回授業時に告知するとともに、研究室 ドアに掲出する(8 号館 405 室)				メールアドレス (#→@)	zsumino#takasaki-u.ac.jp											
1	講義内容	心理学の視点: 心理学における主要な理論と研究法															
	該当到達目標 1	予習	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。						1.5 時間								
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。						1.5 時間								
2	講義内容	人の心の基本的な仕組みと機能(こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解)(1): 心の生物学的基盤															
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。						1.5 時間								

	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
3	講義内容	人の心の基本的な仕組みと機能(こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解)(2):感情/欲求・動機づけと行動		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
4	講義内容	人の心の基本的な仕組みと機能(こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解)(3):感覚・知覚・認知		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
5	講義内容	人の心の基本的な仕組みと機能(こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解)(4):学習		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
6	講義内容	人の心の基本的な仕組みと機能(こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解)(5):記憶		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
7	講義内容	人の心の基本的な仕組みと機能(こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解)(6):人格・性格		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
8	講義内容	人の心の基本的な仕組みと機能(こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解)(7):他者と集団		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
9	講義内容	人の心の発達過程:発達概念■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
10	講義内容	日常生活と心の健康:ストレスとストレッサ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
11	講義内容	心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本(1):心理アセスメント■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
12	講義内容	心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本(2):心理的支援の基本的技法■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
13	講義内容	心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本(3):心理療法におけるアセスメントと介入技法の概要■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間

14	講義内容	心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本(4):心理の専門職■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	これまでの学習内容を振り返る。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	- 仮に諸事情により対面での学期末筆記試験の実施ができない場合には、成績評価にあたっての配点は以下のとおりとする： 毎回の課題・小レポート 75%(5点×15回)、学期末レポート 25% ■:実務経験に基づく内容を示す。 - 社会福祉学科専門展開科目「カウンセリング論」は、この科目を履修済であることを前提に授業を進める。			

科目名	文学と人間(人間理解)						科目ナンバリング	LAH004		
英文名	Literature and Humanity						講義形態	講義		
担当教員	菅野 陽太郎									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			1	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連4	4									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①近現代の文学作品を読み、文学が人間の営みや文化の形成にどのように関わっているかを考え、文学を今後の生活に役立てていけるようになるための素地を養うことを目標とする。 ②各回の授業では、予習した教材についての解説や話題提供を行った後、ディスカッションやアンケート等による意見の交流を行う。									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
到達目標	1. 文学を楽しみ、今後の生活に役立てていくことができる。 2. 授業で取り上げる文学作品の内容や特徴等を理解することができる。									
使用教材	『伊豆の踊子』川端康成, 新潮社, 1950, 473 円									
参考文献	『〈転生〉する川端康成 I 引用・オマージュの諸相』, 仁平政人・原善, 文学通信, 2022, 2700 円									
評価方法	各回の課題(30%)、レポート(70%)									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートは評価とコメントを付して返却する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 2 限、金曜 2 限(8 号館 508 研究室)				メールアドレス (#→@)	kanno-y#@takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス、「物語」とその効用								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、これまでに読んだ文学作品について振り返る。						1 時間	
	1	復習	授業内容を振り返り、課題に取り組む。						2 時間	
2	講義内容	文学のジャンルと要素								
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。						2 時間	
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。						1 時間	
3	講義内容	作品構造の理解①(あまんきみこ『山ねこ、おことわり』など)								
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。						2 時間	
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。						1 時間	
4	講義内容	作品構造の理解②(星新一『ある占い』など)								
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。						2 時間	
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。						1 時間	
5	講義内容	比喩表現の理解と効用(村上春樹『パン屋再襲撃』など)								
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。						2 時間	
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。						1 時間	

6	講義内容	アフォリズムの魅力(村上春樹『中国行きのスロウ・ボート』など)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
7	講義内容	比べるという思考①(二つの文学作品)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
8	講義内容	比べるという思考②(J-POP と文学作品)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
9	講義内容	引用・オマージュ①(川端康成『バッタと鈴虫』)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
10	講義内容	引用・オマージュ②(川端康成『バッタと鈴虫』)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
11	講義内容	アダプテーション①(川端康成『伊豆の踊子』)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
12	講義内容	引用・オマージュ③(川端康成『伊豆の踊子』)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
13	講義内容	アダプテーション②(川端康成『伊豆の踊子』)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
14	講義内容	アダプテーション③(芥川龍之介『羅生門』など)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
15	講義内容	他学問との関わり		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	授業時に C-learning を使用した意見の交流を行うので、ノート PC やタブレット、スマートフォン等の情報端末を用意すること。			

科目名	芸術論(人間理解)						科目ナンバリング	LAH005		
英文名	Art Theory						講義形態	講義		
担当教員	石原 綱成、志尾 睦子									
科目に関連した実務経験	志尾:映画上映・宣伝・企画・製作、イベントプロデュース									
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、 実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	この講義は芸術を通して、人間の営為の総体として芸術を学ぶ。それによって、豊かな人間性と教養を身につける。また、あらゆるジャンルの芸術(絵画、映像等)を深く理解する。									
①講義の目標	講義は前半が石原による芸術史、後半は志尾による映画芸術論となる(オムニバス形式)となる。									
②講義の実施方法										
到達目標	1. 視覚芸術の歴史を理解できる 2. 芸術を人間の営為の総体として理解できる。 3. 映像芸術を通して、映画の文化史的意義を理解できる。■ 4. 様々な文化を理解することで、グローバルな教養が身につく■									
使用教材	講義スライドの資料を配布する。									
参考文献	担当教員が逐次紹介する。									
評価方法	試験を実施する。(石原 50 点、志尾 50 点、計 100 点)									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出された感想シートやレポートについて逐一コメントなどを提示する。									
オフィスアワー (研究室)	石原:月曜 3 限、金曜 2 限、 志尾:火曜日 2 限				メールアドレス (#→@)	石原: ishihara#takasaki-u.ac.jp 志尾: m-shio#takasaki-cc.jp				
1	講義内容	ガイダンス(石原・志尾)								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を理解し授業の目標を理解する					1.5	時間	
	2	復習	授業内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する					1.5	時間	
2	講義内容	芸術とは何かー芸術のイメージの調査ー								
	該当到達目標	予習	芸術における各自のイメージを箇条書きできるようにしておく					1.5	時間	
	1,2,4	復習	配布したプリントをもとに芸術のジャンルを理解する					1.5	時間	
3	講義内容	芸術史概説								
	該当到達目標	予習	芸術史の流れを体系的に理解しておく					1.5	時間	
	1,2,4	復習	配布した資料を基に芸術史の歴史を理解する					1.5	時間	
4	講義内容	宗教芸術とは何か								
	該当到達目標	予習	世界の主要な宗教の特色を理解する					1.5	時間	
	1,2,4	復習	配布した資料を基にキリスト教の教義を理解する					1.5	時間	
5	講義内容	キリスト教美術とシンボル								
	該当到達目標	予習	シンボルの本質について理解する					1.5	時間	

	1,2,4	復習	キリスト教のシンボルの法則性を理解する	1.5 時間
6	講義内容	ルネサンス美術—古典古代の芸術—		
	該当到達目標	予習	配布したプリントをもとに遠近法とは何かを理解する	1.5 時間
	1,2,4	復習	遠近法と人間の「主体」への意識を考える	1.5 時間
7	講義内容	ルネサンス美術—図像解釈学と美術—		
	該当到達目標	予習	配布したプリントをもとにプラトンとアリストテレスの相違を理解する	1.5 時間
	1,2,4	復習	イデア論の違いが視覚芸術にいかに現れるかを理解する	1.5 時間
8	講義内容	中間テスト		
	該当到達目標	予習	今まで学んだ内容を理解しておく	1.5 時間
	1,2,4	復習	試験内容を自分なりに再考する	1.5 時間
9	講義内容	メディア芸術とは何か 映画芸術の入り口に立つ■		
	該当到達目標	予習	メディア と称されるもののイメージを箇条書きできるようにしておく	1.5 時間
	2,3,4	復習	配布した資料をもとに映画の成り立ちを理解する	1.5 時間
10	講義内容	映画の誕生と変遷を辿る■		
	該当到達目標	予習	映画の仕組みを理解する	1.5 時間
	2,3,4	復習	配布した資料をもとに映画史を体系的に理解する	1.5 時間
11	講義内容	映画の表現方法について学ぶ■		
	該当到達目標	予習	様々な映像ジャンルを箇条書きできるようにしておく	1.5 時間
	2,3,4	復習	配布した資料をもとに表現方法の多様性を理解する	1.5 時間
12	講義内容	映画の構造を知る■		
	該当到達目標	予習	映画を組み立てているものの役割を理解する	1.5 時間
	2,3,4	復習	映画が総合芸術であるという本質を理解する	1.5 時間
13	講義内容	演習 1: 見えるもの 見えないもの 映画が伝えることを意識する■		
	該当到達目標	予習	映画を観てみる	1.5 時間
	2,3,4	復習	感想を自分なりの言葉にしてみる	1.5 時間
14	講義内容	演習 2: 演出とは何か■		
	該当到達目標	予習	課題のシナリオを読み、イメージを組み立ててみる	1.5 時間
	2,3,4	復習	映像表現の可能性と奥深さを楽しむ	1.5 時間
15	講義内容	総論: 映画は時代を映す鏡である 映画で世界を知る■		
	該当到達目標	予習	興味のある国について調べる	1.5 時間
	2,3,4	復習	映画が語る文化、時代性を考える	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	ボランティア・市民活動論(人間理解)						科目ナンバリング	LAH006		
英文名	Civil and Voluntary Activities						講義形態	講義		
担当教員	金井 敏									
科目に関連した実務経験	前職でボランティア・市民活動支援センターの運営支援に従事。また、様々なボランティア活動実践者と交流がある。 現在、大学ボランティア・市民活動支援センター(VSC)でセンター長として VSC を運営している。									
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格	「初級パラスポーツ指導員」指定科目									
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑪ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼン テー ション	演習、実験実習、 実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○			○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	ボランティア・市民活動は、手助けを求めている個人や団体に対して自主的に貢献する活動である。身近な地域や福祉、環境、情報、国際協力まで幅広く取り込まれ、今日の社会に不可欠な存在である。この講義では、具体的なボランティア・市民活動の考え方や実践方法を学び、学生が自ら実践する力を養成する。 毎回の授業は、ボランティアに関する映像視聴、テーマに基づく講義、ゲストスピーカー講義(7 回予定)、ディスカッション、振り返り、次週の予定、という流れで進める。									
到達目標	1.ボランティア・市民活動の対象者のニーズを学び、ボランティア・市民活動の意義を説明できる。■ 2.ボランティア・市民活動の多様な実践例を学ぶことにより、活動の実際の展開を説明できる。■ 3.ボランティア・市民活動支援センターを活用して、自身の関心に即した活動に参加する。■ 4.参加したボランティア・市民活動の実践を振り返り、成果や課題、次のチャレンジについて考察できる。■									
使用教材	各講義に即したオリジナル・レジュメや関係資料は授業にて配布する。テキストは使用しない。									
参考文献	その他、講義に必要な教材・資料は適宜プリントして配付する。									
評価方法	成績評価 ①毎回の授業後に作成するリアクションペーパーによる評価(80%)。 ②ボランティア活動に参加して作成する実践レポートによる評価(20%)。評価方法は、ボランティア実践の回数や時間ではなく、ボランティア活動に参加することによる学びを評価する。 ③追再試は実施しない。 その他の評価 ①授業開講数の 2/3 以上を出席することにより、成績の評価対象とします。 ②忌引きや実習、就職活動などによる欠席は、届け出(要添付書類)を提出すれば出席扱いとする。なお、15 分以上の遅刻は欠席とみなす。 ③ボランティア実践の時間(1 回当たり 4 時間×4 回=16 時間相当)も本時の講義時間に含める。									
	質問や相談については Clearning で適時回答するほか、必要に応じて授業時に学生全体にフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	質問は授業の前後、または Clearning やメールでも受け付ける。				メールアドレス (#→@)	kanai#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ボランティア・市民活動～新しい世界への誘い■ ボランティア・市民活動支援センター(VSC)の活用方法、授業の進め方を確認する。								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容をよく読んで、現時点でのボランティアの理解を把握する。						1.5	時間
	1、3	復習	講義内容、学位授与方針、成績評価方法、VSC 利用方法などを確認する。						1.5	時間

2	講義内容	ボランティアの力を活かす仕組み～ボランティアセンターの役割■		
	該当到達目標	予習	自分の地元市町村のボランティアセンターの組織や活動内容を調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	ボランティアセンターの活用方法を理解する。	1.5 時間
3	講義内容	子どもの明日と子育てをサポートするボランティア活動■（ゲストスピーカーあり）		
	該当到達目標	予習	児童を対象としたボランティア活動を調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	児童を対象としたボランティアの意義や活動上の注意事項などを理解する。	1.5 時間
4	講義内容	人々はどのようにボランティアに取り組んできたか ～欧米と日本の歴史		
	該当到達目標	予習	世界の国々でボランティア活動がどのように取り組まれているか調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	欧米と日本のボランティア活動の歴史の違いや長所を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	障害者スポーツ・レクリエーションをサポートするボランティア活動■（ゲストスピーカーあり）		
	該当到達目標	予習	障害者を対象としたスポーツやレクリエーションについて調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	障害者との接し方や支援の内容や方法を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	被災地に届け、災害支援ボランティア活動■		
	該当到達目標	予習	我が国における災害ボランティア活動について調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	被災地におけるボランティア活動の内容や活動上の注意事項などを理解する。	1.5 時間
7	講義内容	ユニバーサルデザイン・バリアフリーとボランティア活動■（ゲストスピーカーあり）		
	該当到達目標	予習	バリアフリーに関わるボランティア活動を調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	バリアフリーをすすめるボランティア活動のあり方を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	身近な動物とボランティアの良い関係（ゲストスピーカーあり）		
	該当到達目標	予習	動物を対象としたボランティア活動について調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	動物に対するボランティア活動の実際や人間との共生について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	地域ささえあいのボランティア ～ふれあい・いきいきサロン～■		
	該当到達目標	予習	地域で取り組まれているふれあい・いきいきサロンについて調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	高齢者の介護予防や健康、子育て家庭を住民で支える活動について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	心と命をつなぐボランティア活動 ～いのちの電話の実践から考える■（ゲストスピーカーあり）		
	該当到達目標	予習	心の悩みや自殺予防に取り組むボランティア活動を調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	いのちの電話の役割と学生でもできる活動について考察する。	1.5 時間
11	講義内容	ボランティアとNPO ～学生でも創れるNPO 法人■		
	該当到達目標	予習	NPO 法人とは何かについて調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	NPO 法人の活動内容や設立の要件、ボランティアとの違いなどを理解する。	1.5 時間
12	講義内容	国際貢献・多文化共生とボランティア活動■（ゲストスピーカーあり）		
	該当到達目標	予習	海外で活躍するボランティア活動について調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	国際貢献や多文化共生のボランティア活動のあり方を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	行政に協力するボランティア ～民生委員・児童委員の活躍～■		
	該当到達目標	予習	行政に協力するボランティアについて調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	民生委員・児童委員の活動を理解し、自分の地域の民生委員を確認する。	1.5 時間
14	講義内容	分かちあう寄付の文化で花咲く貢献社会～赤い羽根共同募金■（ゲストスピーカーあり）		
	該当到達目標	予習	赤い羽根共同募金の概要や寄付の実際について調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	赤い羽根共同募金のあり方や寄付の文化とは何かを理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ～新しい支え合いと20年後の自分の生き方■		
	該当到達目標	予習	さまざまなボランティア活動を通じて理解した人々の生活のしづらさや今後の課題について考える。	1.5 時間
	1、3、4	復習	ボランティア活動の講義と実際の実践活動を踏まえて、ボランティア活動のあり方や自身の将来の役割について考察する。	1.5 時間
合計時間（予習・復習）				45 時間
備考	●ボランティア実践は、もちろん強制ではないので、自分の興味や関心のある分野や活動に参加する契機として設定している。大学生として様々な活動にチャレンジすること。授業の理解を深めるために現場で活躍するゲストスピーカーから実践を紹介してもらう（7回予定）。			

	●ボランティア・市民活動支援センター(VSC、9 号館 1 階)を活用すること。活動を始める前には必ず、ボランティア活動保険に加入すること。そのほかボランティアの相談に何でも応じる。 VSC 直通 TEL:027-352-1108、VSC メールアドレス:vsc@takasaki-u.ac.jp ●シラバス中の■は実務経験に基づく授業内容を表す。

科目名	人権論(人間理解)						科目ナンバリング	LAH007		
英文名	Theory of Human Right						講義形態	講義		
担当教員	金井 洋行									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			1	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	3 4 5 8 10 16 17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
										○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	テーマについての課題の意見レポート→教員の意見に対するレスポンス→受講生の省察									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①人権の観念について、他の観念－人道、倫理、文化規範、宗教的信念、条理原則等－との比較を通して分析し、人間の本性(human nature)との関係を理解する。日本国憲法に規定する「国民の権利」の内容を知り、その効力にどのような制約や限界があるかについて認識する。身近な生活体験から感得した権利侵害や不条理の発生について、人権の観点から考察する姿勢を身につける。 ②講義内容はできうるかぎり予定通り進行させるが、期間内に国内的にあるいは国際的に大きな人権をめぐる事象があった場合には、その話題を飛び入りの的に割り込ませることがある。									
到達目標	1. 人権について特にヨーロッパの歴史的発展を背景に人道等の他の価値観との比較で観念できる。 2. 人権の様々な観念から憲法の人権規定の適用関係を認識できる。 3. 個々の人権の性格を、内面的と外面的、精神的と経済的、消極的と積極的、等の区分で理解できる。 4. 人権の擁護がどのような考え方と仕組みによって行われるのかについて、憲法規定を通して認識できる。 5. 人権に関する主要な争点について裁判所、特に最高裁判所の考え方を整理できる。									
使用教材	テーマ別レジュメ、基礎知識資料(テキストに代替するプリント) *テーマによって DVD の視聴あり									
参考文献										
評価方法	・平常の授業に対する姿勢・課題提出(35%)、中間小テスト(15%)、期末の定期試験(50%) ・課題は概ね 4 回のレポート、中間小テストは概ね 3 回の知識テスト、定期試験は基本的知識と思考力のテスト									
課題・評価に対するフィードバック方法	重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する(テーマについては適宜指示)									
オフィスアワー(研究室)	出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。				メールアドレス(#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	人権の観念と内容								
	該当到達目標	予習	日本国憲法における基本的人権の項目の資料等による再チェック						2 時間	
	1	復習	予備知識アンケート						0.5 時間	

2	講義内容	人権の享有主体と人権規定の適用関係		
	該当到達目標 1,2	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
3	講義内容	人権の制約と限界		
	該当到達目標 1,2,4	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
4	講義内容	個人主義の観念と幸福追求権の意義		
	該当到達目標 1,2,4	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
5	講義内容	法の下での平等－平等権と平等原則－		
	該当到達目標 1,2,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
6	講義内容	人間の内心の価値と保護		
	該当到達目標 1,3,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
7	講義内容	自由と自由主義		
	該当到達目標 1,3,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
8	講義内容	表現の自由とその抑制		
	該当到達目標 3,4,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
9	講義内容	経済活動の自由と財産権		
	該当到達目標 3,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
10	講義内容	人身の自由と刑事手続の保障		
	該当到達目標 3,4,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
11	講義内容	政治活動の自由と参政権		
	該当到達目標 3,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
12	講義内容	生存権の意義と福祉国家の諸権利		
	該当到達目標 3,4,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
13	講義内容	教育を受ける権利と学習権		
	該当到達目標 3,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
14	講義内容	世界の現況と人権(AIと人権、戦争と人権等)		
	該当到達目標 3,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
15	講義内容	人権の国際化		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間

	1,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 当日に即答できない質問や要望については C-ラーニング・連絡メールをもって応答することを原則とする。 日常の身の回りに起こる権利侵害や条理違反に目を向け、人権擁護の観点から自分なりに考えておくことを期待する。			

科目名	人間関係論(人間理解)							科目ナンバリング	LAH008	
英文名	Theory of Human Relations							講義形態	講義	
担当教員	富田 純喜									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年	後期	選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○							○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①人間関係論という言葉は、大別すると二通りの意味がある。一つは、ホーソン実験を基盤として体系化された、主に経営学で用いられる理論のことである。もう一つは、人間の行為や生活上の諸現象を、人と人との関係において研究しようとする社会科学における研究アプローチのことである。本講義では本学の特性を考慮し、後者の観点から、生活上のひとひととの関係を理解することを目的とする。ただし、本講義を受講することで、すぐに良好な人間関係を築けるようになるわけではない。人と人との関係とはいかなるものか、人と人との関係において喜びや苦しみが生まれるのはなぜか、といった根本的な問いを探ることが中心的な課題となる。 ②授業は主に講義形式で進めるが、事前課題や授業内のワークを随時取り入れる。なお、授業内で扱える内容は限られているため、紹介する参考文献などを使って理解を深めること。									
到達目標	1.人間関係論の基礎的内容を理解している。 2.社会状況・生活形態と人間関係との関連を説明できる。 3.身の回りの人間関係を多角的な視点から説明できる。 4.現代社会で生じている人間関係に関する諸問題への対応について考察できる。									
使用教材	菅野仁(2008)『友だち幻想―人と人のくつながりを考える―(ちくまプリマー新書)』筑摩書房。									
参考文献	授業内で適宜紹介する。									
評価方法	レポート(50%)、試験(30%)、課題・参画度(20%)									
課題・評価に対するフィードバック方法	試験前後に出題の意図等を説明する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 5 限、木曜 5 限(8 号館 406)				メールアドレス (#→@)	tomita-t#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	各回の授業内容を確認し、人間関係について考えてみる。						1.0	時間
	1	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。						1.0	時間
2	講義内容	ホーソン実験と人間関係論								
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。						1.5	時間
	1	復習	人間関係論の成り立ちについて理解する。						1.5	時間
3	講義内容	「友人重視指向」の日本の高校生(はじめに)								
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。						1.5	時間
	1	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。						1.5	時間
4	講義内容	人は一人では生きられない？(第一章)								

	該当到達目標 2,3,4	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5	時間
		復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5	時間
5	講義内容	幸せも苦しみも他者がもたらす(第二章)①前半			
	該当到達目標 2,3,4	予習	テキストの該当ページ(p.27-37)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5	時間
		復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5	時間
6	講義内容	幸せも苦しみの他者がもたらす(第二章)②後半			
	該当到達目標 2,3,4	予習	テキストの該当ページ(p.37-46)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5	時間
		復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5	時間
7	講義内容	共同性の幻想——なぜ「友だち」のことで悩みは尽きないのか(第三章)①前半			
	該当到達目標 2,3,4	予習	テキストの該当ページ(p.47-58)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5	時間
		復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5	時間
8	講義内容	共同性の幻想——なぜ「友だち」のことで悩みは尽きないのか(第三章)②後半			
	該当到達目標 2,3,4	予習	テキストの該当ページ(p.58-79)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5	時間
		復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5	時間
9	講義内容	「ルール関係」と「フィーリング共有関係」(第四章)			
	該当到達目標 2,3,4	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5	時間
		復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5	時間
10	講義内容	熱心さゆえの教育幻想(第五章)			
	該当到達目標 2,3,4	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5	時間
		復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5	時間
11	講義内容	家族との関係と、大人になること(第六章)①前半			
	該当到達目標 2,3,4	予習	テキストの該当ページ(p.106-113)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5	時間
		復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5	時間
12	講義内容	家族との関係と、大人になること(第六章)②後半			
	該当到達目標 2,3,4	予習	テキストの該当ページ(p.113-120)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5	時間
		復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5	時間
13	講義内容	「傷つきやすい私」と友だち幻想(第七章)			
	該当到達目標 2,3,4	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5	時間
		復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5	時間
14	講義内容	言葉によって自分を作り変える(第八章)			
	該当到達目標 2,3,4	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5	時間
		復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5	時間
15	講義内容	まとめ(これまでの授業の復習をとおして理解を深める)			
	該当到達目標 4	予習	第1～14回の内容を復習し、疑問点などを整理する。	2.0	時間
		復習	現代社会における人間関係について自身の考えをまとめる。	2.0	時間
合計時間(予習・復習)				45	時間
備考	オンライン授業の場合は、オンデマンド型で実施する。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。				

科目名	ジェンダー論(人間理解)							科目ナンバリング	LAH009		
英文名	Gender Theory							講義形態	講義		
担当教員	山田 秀頌										
科目に関連した実務経験											
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位								
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力				1	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	5 10										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
										○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法	教員が各回に提示するトピックや課題について、各自で・周りの人と議論しながら考えをまとめる時間を設ける。										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①ジェンダーをめぐるさまざまな問題についての正しい知識と考え方を身につけることは、自分が生きていく上ではもちろんのこと、多様化する社会においてプロフェッショナルとして働いていく上でも重要なこととがらとなっている。この授業では、主に女性やセクシュアル・マイノリティに対する不利益がどのような社会的なしくみの下で生み出されているのか、そうしたしくみに対してどのような批判がなされてきたのかを学ぶことで、性にかかわる社会問題について多面的に考えるための方法を獲得する。 ②教科書および配布資料の内容をふまえながら、各回のテーマについて主要な問題や概念について解説する。教員が各回に提示するトピックや課題について、各自で・周りの人と議論しながら考えをまとめる時間を設ける。										
到達目標	1. 性にかかわる社会問題について幅広く思考するための知識を身につける。 2. 多様な性を生きる人々とともに性にかかわる社会問題を解決するための視点を身につける。										
使用教材	教科書：『フェミニズムってなんですか？』清水晶子著、文春新書、2022 年。他に文献資料を適宜配布する。										
参考文献											
評価方法	3本のレポートで評価する。(配点は 30%, 30%, 40%の配分) 総合評価 60%以上で合格とする。										
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートごとに問題出題意図を解説する。										
オフィスアワー (研究室)	質問等は、授業中もしくは終了後に応じる。					メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容	講義全体の説明									
	該当到達目標	予習	性にかかわる身近な問題について考える。							1.5	時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価法などを確認する。							1.5	時間
2	講義内容	フェミニズムの歴史									
	該当到達目標 1,2	予習	教科書の「はじめに」、第1章、第2章を読む。							1.5	時間
		復習	フェミニズムの4つの波について理解する。							1.5	時間
3	講義内容	公的領域と私的領域									
	該当到達目標 1,2	予習	教科書第3章、第7章を読む。							1.5	時間
		復習	公的領域と私的領域の違いを理解する。							1.5	時間
4	講義内容	資本主義と個人									

令和6年度 社会福祉学科シラバス

	該当到達目標	予習	教科書第4章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	商業主義的な自由の問題を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	インターセクショナリティ		
	該当到達目標	予習	教科書第5章、第6章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	さまざまな差別の重なりについて再確認する。	1.5 時間
6	講義内容	リプロダクティブ・ヘルス／ライツ		
	該当到達目標	予習	教科書第10章、第14章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	リプロダクティブ・ヘルス／ライツという概念について再確認する。	1.5 時間
7	講義内容	セクシュアル・ハラスメントと性暴力		
	該当到達目標	予習	教科書第8章、第12章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	権力関係の問題として理解する。	1.5 時間
8	講義内容	結婚と家族		
	該当到達目標	予習	教科書第11章、第13章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	伝統的家族観と制度の問題について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	ケアの倫理		
	該当到達目標	予習	教科書第9章、第16章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	どのようにケアが重要なのかについて考える。	1.5 時間
10	講義内容	セックス／ジェンダー／セクシュアリティの概念		
	該当到達目標	予習	教科書第15章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	ジェンダー論の基本概念について再確認する。	1.5 時間
11	講義内容	ホモソーシャルとミソジニー		
	該当到達目標	予習	指定する文献資料を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	身近な問題に引き付けて考える。	1.5 時間
12	講義内容	LGBTをめぐる問題		
	該当到達目標	予習	指定する文献資料を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	社会問題としての理解を深める。	1.5 時間
13	講義内容	トランスジェンダーをめぐる問題		
	該当到達目標	予習	教科書「対談Ⅱ」「対談Ⅲ」を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	インターセクショナリティの視点から理解する。	1.5 時間
14	講義内容	トランスジェンダーと医療		
	該当到達目標	予習	指定する文献資料を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	トランスジェンダーに対するケアのあり方について理解を深める。	1.5 時間
15	講義内容	全体のまとめ		
	該当到達目標	予習	教科書「対談Ⅰ」「おわりに」を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	社会を変える方法について考える。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	教科書と事前配布する資料を読み込み、授業での理解を深めるよう努力すること。			

科目名	共生の倫理(人間理解)						科目ナンバリング	LAH010						
英文名	Ethics of Symbiosis						講義形態	講義						
担当教員	大石 桂子													
科目に関連した実務経験														
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位									
履修を必須とする資格														
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力							
	1	基礎的知識力				1	応用・実践する能力							
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力							
SDGs との関連	①	②	③	④	⑤	⑦	⑧	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑯	⑰
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、 実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他				
									○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法														
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①現代では多様な価値観・文化をもつ人々が、性別や年齢、職業や病気・障がいの有無などを超えて「共生」することが求められている。誰もがもちやすい偏見や排除をのりこえ、共生を実現するためどのような取り組みができるか。多くの事例から基礎的な理論と方法の知識を習得し、今後の生活に生かす基盤を培うことを目標にする。 ②授業ではパワーポイントを用いる。定期的に資料分析、考察する機会を設ける。													
到達目標	1. 現代社会での共生の意義について理解し、説明できる。 2. 共生の歴史について理解し、説明できる。 3. 共生を支える社会学、倫理学、心理学また教育的・臨床的なアプローチを理解し、説明できる。 4. 共生の具体的なあり方や事例について理解し、説明できる。 5. 各テーマについて自分の考えをもつことができる。													
使用教材	講義中にプリントを配布する。													
参考文献	講義中に指示する。													
評価方法	定期試験(60%)、講義中に作成する課題(40%)に、参加態度を加えて総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。													
課題・評価に対するフィードバック方法	提出課題の内容にコメントを添えて、講義中に紹介する。													
オフィスアワー (研究室)	月曜日の 3 時限、金曜日の 2 時限。 (1 号館 6 階 601)					メールアドレス (#→@)	oishi#takasaki-u.ac.jp							
1	講義内容	ガイダンス												
	該当到達目標	予習	シラバスの内容に目を通し、到達目標などを確認する。										1 時間	
	1	復習	講義の目的や学ぶ意義を理解する。										1.5 時間	
2	講義内容	ノーマライゼーションから当事者主権へ												
	該当到達目標	予習	ノーマライゼーションの定義を調べる。										1 時間	
	1,2	復習	障害者の権利をめぐる歴史を理解する。										1.5 時間	
3	講義内容	障害者権利条約と意思決定支援												
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。										1 時間	

	1,3,5	復習	各国での意思決定支援の制度・取り組みを理解し、課題を作成する。	1.5 時間
4	講義内容	ユニバーサルデザイン		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3,5	復習	ユニバーサルデザインの意義を理解し、身近な実例を考える。	1.5 時間
5	講義内容	優生思想		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,5	復習	20 世紀初頭～現在の優生思想について、問題点を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	援助行為の動機とは		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	人がなぜ他者を援助できるのか、様々な理論を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	偏見といかに向き合うか		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	偏見が生じるメカニズムを理解し、その解消に向けた取り組みについて考える。	1.5 時間
8	講義内容	認知症介護・ケアへの取り組み①社会制度の側面から		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3	復習	認知症介護をめぐる現代の課題を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	認知症介護・ケアへの取り組み②身体拘束を減らすために		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	拘束を減らす手法、コミュニケーション改善の取り組みを理解し、考察する	1.5 時間
10	講義内容	いじめ問題にどう取り組むか①いじめが発生するメカニズム		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,5	復習	国内でのいじめの状況、発生メカニズムを理解する。	1.5 時間
11	講義内容	いじめ問題にどう取り組むか②いじめへの対応策		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	国内外でのいじめ予防・対応の実践例を理解し、有効な手段を考察する。	1.5 時間
12	講義内容	環境問題と世代間倫理①ヨナスの世代間倫理		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	現在世代が未来世代への責任をどのようにもつか、理解できる。	1.5 時間
13	講義内容	環境問題と世代間倫理②環境問題をめぐる論争		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,2,3,5	復習	環境問題についての議論を理解し、みずからの考えをもつ。	1.5 時間
14	講義内容	社会のレジリエンスを高める		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	災害復興支援、暴力犯罪の低減などの事例をもとに、有効な手段を考察する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ・共生社会へ向けて		
	該当到達目標	予習	これまでのノート・資料に目を通す。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	共生の意義、方法について理解し、自分の考えをまとめる。	2 時間
合計時間(予習・復習)				38 時間
備考	予習・復習については試験前の学習で補完すること。 *オンライン授業となった場合は、C-Learning 上で講義資料(PDF ファイル等)を閲覧し、課題を提出する形式とする。			

科目名	チーム医療アプローチ論(人間理解)						科目ナンバリング	LAH011		
英文名	Team Approach to Health Care						講義形態	講義		
担当教員	大川喜代美、加藤大輔、竹内真理、梅原里実、渡邊秀臣、篠原智行、小竹利夫、高橋雄太									
科目に関連した実務経験	大川(情報): 診療報管理士として診療情報管理業務および医事課に勤務(経験) 加藤(福祉): 医療ソーシャルワーカーとしてケアミックス病院に勤務(経験) 竹内(栄養): 管理栄養士として国立病院機構に勤務(経験)。健大附属クリニック管理栄養士兼務 梅原(看護): 看護師として病院に勤務、病棟・外来・地域医療連携室の管理業務(経験) 渡邊(理学): 整形外科医として医療機関に勤務(非常勤) 篠原(理学): 急性期、回復期病院に勤務経験あり。現在は生活期病院に非常勤勤務 小竹(子ども): 障害児母子通所支援施設に勤務(経験) 高橋(薬学): 薬剤師として大学病院に勤務(経験)、調剤薬局に非常勤勤務									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	1 2 3 4 11 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
		○							○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	①福祉・医療系の専門職育成を担う大学として、チーム医療を推進する上で各学科の学生が各専門職の役割・活動を理解する。									
①講義の目標	②各講義ではテーマについて概要を説明する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。									
②講義の実施方法										
到達目標	1. チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について理解できる。■ 2. 各専門職の役割と活動について理解できる。■ 3. チーム医療における専門職の連携を促進するための課題について考察できる。■									
使用教材	講義のスライドのファイルおよび資料を C-learning に公開する。									
参考文献										
評価方法	授業参加への積極性 40%、レポート 60%									
課題・評価に対するフィードバック方法	・多学科の学生が参加していることから C-learning の協働板機能を用いてパソコン上での双方向の通信手段によって行い、学生の考えや意見を導入しながら講義を展開する。 ・課題レポートや小テストの成果から感じた点や補足すべき点について文章化し、C-learning を用いて受講生にフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	大川(情報) 木曜 3 限(1 号館 609 研究室) 加藤(福祉) 木曜 2 限(1 号館 5 階研究室) 竹内(栄養) 金曜 3 限(1 号館 308 研究室) 梅原(看護) 金曜 1~2 限(4 号館 506 研究室) 渡邊(理学) 金曜 3 限(4 号館 2 階学部長室) 篠原(理学) 水曜 3 限(3 号館 206 研究室) 小竹(子ども)				メールアドレス (#→@)		大川(情報) okawa-ki#takasaki-u.ac.jp 加藤(福祉) kato-d#takasaki-u.ac.jp 竹内(栄養) mtakeuchi#takasaki-u.ac.jp 梅原(看護) umehara#takasaki-u.ac.jp 篠原(理学) shinohara-t#takasaki-u.ac.jp 小竹(子ども) kotake#takasaki-u.ac.jp 高橋(薬学)			

		水曜 3 時限(8 号館 403 研究室) 高橋(薬学) 水曜 2 限、7 号館 323 研究室		takahashi-yu#takasaki-u.ac.jp ※メールでの質問可の教員のみ掲載
1	講義内容	チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について■		
	該当到達目標	予習	チーム医療とはどのようなものなのか、学習する。	1.5 時間
	1	復習	21 世紀の医療では、なぜ多職種協働のチーム医療が必須であるか理解する。	1.5 時間
2	講義内容	チーム医療における看護師の役割と活動■		
	該当到達目標	予習	看護師の役割や業務について調べる	1.5 時間
	1,2,3	復習	看護師の役割・活動、チーム医療における看護職の役割について講義内容から復習しておく。	1.5 時間
3	講義内容	チーム医療における理学療法士の役割と活動■		
	該当到達目標	予習	理学療法士の一般的な役割について調べる	1.5 時間
	1,2,3	復習	チームにおけるリハビリテーションの位置づけを復習し、チーム医療に求められる個人の資質について考察する。	1.5 時間
4	講義内容	チーム医療における薬剤師の役割と活動■		
	該当到達目標	予習	チーム医療(病院・薬局)における薬剤師の役割と活動についてインターネット等の電子媒体を用いて調査する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	医薬品が患者や社会に与える影響(メリットとデメリット)を考え、その上でチーム医療を行うことの有益性についてレポートにまとめる。	1.5 時間
5	講義内容	チーム医療における管理栄養士の役割と活動■		
	該当到達目標	予習	今までに学習した 1~4 のコメディカルの役割と活動について復習し、一般的な管理栄養士の役割と活動について各自で調査する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	管理栄養士と他のコメディカルとの関わりについて理解し、それぞれの立場においてチーム医療で求められる役割・活動と、多職種連携について考察する	1.5 時間
6	講義内容	チーム医療における社会福祉士の役割と活動■		
	該当到達目標	予習	①高齢化社会の現状を調べる ②地域における医療・介護・福祉の連携、地域包括ケアシステムの進展を調べる。 ③医療ソーシャルワーカーについて調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	地域での自立生活に必要となる、チーム医療における社会福祉士の役割を考察する。	1.5 時間
7	講義内容	チーム医療における特別支援学校教諭の役割と活動■		
	該当到達目標	予習	乳幼児期・学齢期に罹患しやすい病気の概要や主要な障害について予習をすること。	1.5 時間
	1,2,3	復習	保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭と各種医療職との連携のあり方について復習をすること。	1.5 時間
8	講義内容	チーム医療における診療情報士の役割と活動■		
	該当到達目標	予習	診療情報管理士と病院事務職について調べてみる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	診療情報管理士と病院事務職について得た知識を整理する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	【キーワード】専門職、チーム医療、チームアプローチ、多職種連携 「チーム医療アプローチ演習」(3 または 4 年次開講)履修には、原則として本科目の単位修得が必要となる。 本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『他職種連携コース』の対象科目である。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	国際保健医療論(人間理解)						科目ナンバリング	LAH012		
英文名	Theory of International Health						講義形態	講義		
担当教員	李孟蓉、町田修三									
科目に関連した実務経験	開発途上国の健康支援(経験) 元 JICA 専門家をゲストスピーカーとして招く(第 11 回) 元 青年海外協力隊をゲストスピーカーとして招く(第 12 回)									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	1 2 3 4 10 16 17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼン テーショ ン	演習、実験実 習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○		○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①世界における健康格差の実態を知り、医療従事者として世界平和・全人類の繁栄と福祉を願いつつ、新たな国連の目標である SDGs を軸に、グローバルヘルスの基本理念と戦略を学び、国際保健医療の活動の場を地球的視野で認識できる。また、地球規模の健康課題やその影響要因、国際保健医療の関連分野の活動の理念と実際を学びながら、国際協力に必要な知識や方法を習得し、グローバル化の時代に活躍する医療職を目指すことができる。また本講義では、学生の国際化促進とグローバル人材の養成を目的に、学生が実際に海外に赴き実体験として諸外国の医療事情を見聞することにより、単位を取得することができる。 ②授業方法は講義内容の要点について説明し、質問などに対して具体的に説明する。到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう学習内容を体系的に提示し進めいく。また、学生が自律的に学習を進められるようグループワークを取り入れ、発表させる。									
到達目標	1. 国際保健医療学、国際保健医療協力の概念と変遷を理解できる。 2. 保健医療分野での国際協力の必要性と意義を理解できる。 3. 諸外国の医療教育や医療の実態、医療制度、福祉を理解し、日本との違いを説明できる。 4. 国際保健医療協力の実際や実践手法を理解できる。■ 5. 異文化を理解し、異文化適応のプロセスを理解できる。■ 6. 日本の医療教育や医療事情について、英語で解説ができる(海外研修参加者)									
使用教材	配布資料、各自自分のリサーチ目的に沿った文献、教材を探すこと									
参考文献	①「国際保健医療学」第 3 版 国際保健医療学会編 杏林書院 ②「世界で一番いのちの短い国 シェアラオネの国境なき医師団」 山本敏晴 小学館 ③「国際協力―その新しい潮流」 下村恭人 有斐閣 ④世界の厚生労働 2019 有限会社正陽文庫/ 厚生労働省. 2020 年海外情勢報告 https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kaigai/21/ ⑤「国民衛生の動向 2020/2021」 厚生労働統計協会 ⑥「SDGsを学ぶ 国際開発・国際協力入門 法律文化社」(電子ブック) ⑦「世界の貧国 1 日 1 ドルで暮らす人びと」 ジェレミーシーブルック 青土社 適宜参考書を紹介する									
評価方法	【学内授業の場合】									

		・定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、発表・討論の参加度 30 点 (30%) (個人/グループワーク、プレゼンテーション)、期末レポート 70 点 (70%) の配分で合計 60 点以上を合格とする。 海外研修参加者は、事前・事後研修および発表のパフォーマンス (30%)、研修レポート (30%)、研修中のパフォーマンス (40%) 【オンライン授業の場合】 ・定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、レポート 10 点 (10%)、授業参加・貢献度 20 点 (20%) (個人/グループワーク、プレゼンテーション)、期末レポート 70 点 (70%) の配分で合計 60 点以上を合格とする。			
課題に対するフィードバック		授業後にアンケートを行い、次の授業初めに振り返りを行う。 発表や討論については、その都度コメントやアドバイスをする。レポートについては、コメントを付して返却する。(対面授業・オンライン授業とも共通)			
オフィスアワー (研究室)		【李】 木曜日・金曜日の3限目、 研究室:3号館2階 208 【町田】 月曜日4限目、金曜日2限目 研究室:1号館6階 603	メールアドレス (#→@)	ri#takasaki-u.ac.jp machida#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	講義オリエンテーション、国際保健、国際保健医療学の定義、国際保健医療協力の概念(一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく。国際保健医療協力に関する新聞・雑誌などの記事を読むこと。		1.5 時間
	1,2	復習	配布資料を目を通し、国際保健協力の定義、世界や国内の国際協力の概念についてまとめ、理解を深めること。また、自分の興味のある国の医療事情リサーチを開始する。		1.5 時間
2	講義内容	グローバルヘルスと開発理念の変遷 (プライマリーヘルスケア～SDGs) (一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	参考文献①「国際保健医療学」第3版の第I部1～4、10～11まで目を通しておくこと。		1.5 時間
	1,2	復習	配布資料に目を通し、世界の歴史の中でのプライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション、MDGsの基本理念と変遷について理解を深め、SDGsの目標と活動について興味関心をまとめること。		1.5 時間
3	講義内容	国際保健医療関連の国際機関、NGO の取り組みと日本の国際協力 (一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	参考文献②「世界で一番いのちの短い国 シェラレオネの国境なき医師団」、③国際協力—その新しい潮流に目を通しておくこと。		1.5 時間
	1,2	復習	配布資料に目を通し、国際保健医療協力の仕組み、国際保健医療関連の国際機関や NGO 団体、ODA の活動についてまとめ、理解を深めること。		1.5 時間
4	講義内容	日本の医療教育、医療制度、医療制度 (一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく		1.5 時間
	3	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ		1.5 時間
5	講義内容	諸外国(イギリス)における医療教育・医療制度(一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく		1.5 時間
	3	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ		1.5 時間
6	講義内容	諸外国(ヨーロッパ①)における医療教育・医療制度(一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく		1.5 時間
	3	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ		1.5 時間
7	講義内容	諸外国(ヨーロッパ②)における医療教育・医療制度(一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく		1.5 時間
	3	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ		1.5 時間
8	講義内容	諸外国(アメリカ)における医療教育・医療制度(一部 AL 実施)			

3	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1.5 時間
		復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
9	講義内容	諸外国(発展途上国、インドネシア)における健康の格差①(保健指標、母子保健)(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	参考文献④世界の厚生労働 2019 p.102-136、⑤「国民衛生の動向 2019/2020」を参考し、日本における衛生の主要指標、保健と医療の動向(人口動態、生命表、母子保健など)について目を通しておくこと。	1.5 時間
	2,3,4	復習	配布資料に目を通し、世界で生じている健康格差の実態とその原因についてまとめ、理解を深めること。	1.5 時間
10	講義内容	諸外国(発展途上国、タイ・ベトナム)における健康の格差②(感染症と非感染性疾患)(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	参考文献⑥SDGsを学ぶ 国際開発・国際協力入門 法律文化社(電子ブック)第2章 保健・健康 SDG3 に目を通しておくこと。	1.5 時間
	2,3,4	復習	開発途上国の保健医療課題とその原因についてまとめて、理解を深めること。	1.5 時間
11	講義内容	国際保健医療協力と異文化理解 ■ (一部 AL 実施) 元 JICA 専門家を招き、異文化の中での国際協力活動について事例をもとに解説を加えて講義する		
	該当到達目標	予習	世界で行われてる国際保健医療協力を調べておくこと。	1.5 時間
	2,3,4,5	復習	配布資料に目を通し、国際協力として行われている支援について、目的、実際の活動内容、異文化適応について考察したことをまとめ、理解を深めること。	1.5 時間
12	講義内容	「持続可能な開発目標の達成に向けて」を考えるワークショップ■ (一部 AL 実施) SDGsの目標にて世界の課題、日本ができること、自分にできることを考えるワークショップという形で取り入れて、各グループが円滑にディスカッションを進めるように指導をしながら行う		
	該当到達目標	予習	第2回目の授業内容を再度確認しておくこと。	1.5 時間
	2,3,4	復習	ワークショップに参加し、世界の不平等や格差に気づき、国の豊かさについて考えを深めること。 興味ある国の医療事情やSDGsの発表準備。自分たちが取り組めることについて考えておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	諸外国の医療事情、グローバルヘルス 個人ワーク/グループワーク① (一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	興味ある国の医療事情や興味関心のあるSDGの目標について調べておくこと。	1.5 時間
	2,3,4,5,5	復習	興味ある国の医療事情の発表準備、興味関心のあるSDGの目標やターゲットについてまとめて、発表の準備をすること。	1.5 時間
14	講義内容	諸外国の医療事情、グローバルヘルス 個人ワーク/グループワーク② (一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	興味ある国の医療事情の発表準備、興味関心のあるSDGにおける諸外国、国際機関や世界でのNGO、企業等の活動・取り組みを調べておくこと。	1.5 時間
	2,3,4,5,6	復習	調べてまとめた興味関心のあるSDGについて、第12回講義と関連付けて自分たちが取り組めることをまとめて、発表の準備をすること。	1.5 時間
15	講義内容	学生プレゼンテーションとまとめ		
	該当到達目標	予習	第13回～第14回の個人ワーク/グループワークの発表資料と発表の準備。	1.5 時間
	2,3,4,5,6	復習	学生プレゼンテーションの復習とコメント記入。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間

備考	AL(アクティブラーニング)は、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、クローズドクエスチョン、オープンクエスチョンなど。 1. ルール 1) 能動的に、積極的に学ぶ姿勢で授業に臨むこと。 2) 他学生の学習の妨げとなるような行為を慎むこと。 2. 出席登録の方法 出席の登録は、C-learning の下記1)～2)のいずれかの方法で行う。方法は授業、「ニュース」で確認すること。 1) 「レポート」の課題をする。 2) 「アンケート」を提出する。 3. グループワークとレポートの詳細については授業を進めながら提示する。 4. オンライン講義を実施する場合には、講義内容のワークショップを変更することがある。 ■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	Introduction to Healthcare Sciences(人間理解)						科目ナンバリング	LAH013		
英文名	Introduction to Healthcare Sciences						講義形態	講義		
担当教員	町田 修三、小澤 漣司、東福寺 幾夫、松尾 仁司、クリストファー・ターン、應本 真、今井 純、大石 時子、富田 洋介									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			1	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○					○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	QUIZ、問いかけ、授業内カンバセーション等による双方向性授業									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①学生の国際化推進とグローバル人材の育成を目的に設置された講義科目であり、授業は原則英語で行う。日本では医療分野の国際化はまだ遅れているが、世界的には急速に拡大しつつある。本講義では、国際的な医療人養成のため、世界共通語である英語を用いて、医療に関する基礎的な事項を易しく解説していく。複数の教員がオムニバス形式で担当するが、学生の理解度を確認しながら平易な英語で解説するので、受講に際して特に高度な英語力は要求しない。英語による授業を学生がしっかりと理解し、医療コミュニケーション能力を高めることで、医療教育の国際化を先取りするような講義へと発展させることを目指す。 ②数人の教員がオムニバス形式で英語にて、学生の理解度を確認しながら講義を展開する。英語を使用する授業であるので、予習用に授業で用いる教材・資料・データ等をあらかじめ配布する。授業にはこれらの資料を十分に下調べしたうえで臨むことが特に重要である。									
到達目標	1. 医療に関する基礎的な内容に関して、英語での説明を理解できる 2. 理解した内容について、第三者に説明できる 3. 医療に関するトピックに関して、英語での基礎的なプレゼンテーションやディスカッションができる 4. 医療に関するトピックについて、外国の学生と話をすることができる									
使用教材	各教員が作成した資料やデータを用いて講義する									
参考文献										
評価方法	担当各教員による評価を総合して決定する。各教員は、毎回の授業参加度(20%程度)や講義終了時に課す提出物または小レポート(80%程度)により、それぞれの持ち点に応じて学生を評価する									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出物や小レポートには、コメントを付して返却する									
オフィスアワー (研究室)	月曜日 4 限目、金曜日 2 限目 研究室:1 号館 6 階 603				メールアドレス (#→@)	machida#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	Introduction of the course (町田)								

	該当到達目標 1	予習	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく	1 時間
		復習	講義内容の復習、特に専門用語(英語)を覚える	1 時間
2	講義内容	Medical globalization and Japan's healthcare system (町田)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語(英語)を予習しておく き、授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
3	講義内容	Healthcare system of foreign countries (町田)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語(英語)を予習しておく き、授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
4	講義内容	Introduction of nursing education in Japan and other countries (大石)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語(英語)を予習しておく き、授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
5	講義内容	Introduction to telemedicine (東福寺)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語(英語)を予習しておく き、授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
6	講義内容	Using Medline Plus to obtain medical information in English I (小澤)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語(英語)を予習しておく き、授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
7	講義内容	Using Medline Plus to obtain medical information in English II (小澤)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語(英語)を予習しておく き、授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
8	講義内容	Immunity and diseases I (今井)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語(英語)を予習しておく き、授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
9	講義内容	Immunity and diseases II (今井)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語(英語)を予習しておく き、授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
10	講義内容	Medical information system (松尾)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語(英語)を予習しておく き、授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
11	講義内容	Introduction to sensory science (應本)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語(英語)を予習しておく き、授業に参加する準備をしておく	1.5 時間

	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
12	講義内容	The integration of Biomechanics and Neuroscience to optimize rehabilitation I (富田)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
13	講義内容	The integration of Biomechanics and Neuroscience to optimize rehabilitation II (富田)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
14	講義内容	Mental health and social skills (ターン)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
15	講義内容	Summary and concluding remarks (ターン)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				44 時間
備考	講義内容は学生の興味を持つような分野から、基礎的なものを選んでいる。学生の積極的な授業参加が求められる。 記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修により医療の国際化に関する理解を深め、単位修得に必要な時間を各自確保すること。			

科目名		囲碁の世界(人間理解)						科目ナンバリング	LAH014		
英文名		Introduction to Igo						講義形態	講義		
担当教員		三谷 哲也									
科目に関連した実務経験		2002 年に公益財団法人日本棋院に入段。囲碁教室や他大学の囲碁授業の講師（現在）									
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数		選択 2 単位						
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		5	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
		1	基礎的知識力			1	応用・実践する能力				
		1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連											
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○		○			○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法		インターネット・携帯電話アプリケーションでの対局を指示する場合あり									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 講義の目標 近年、囲碁は脳を活性化し考える力を養うということで注目されている。囲碁を学ぶことで「考える力」と「集中力」を磨き、「先を読む力」を身につける。 また、日本の伝統文化である囲碁を体得することで、言葉と世代を超えたコミュニケーション力を身につけ、国際交流のコミュニケーション力を高める。 ② 実施方法 ・ 講義形式で打ち方の解説をした後、受講生同士で対局を行う。 ・ 囲碁の心得や法則「ナナメにご用心」等、言葉で表したものを積極的に使い上達を図る。 ・ 決め打ち碁(模範的な碁を並べ、途中から打つ)で布石の考え方を身につけ、初心者でもすぐに終局まで打てるようにする。									
到達目標		1. 囲碁を全く知らない状態から囲碁の世界を知り、19 路盤で最後まで打てるようになる。■ 2. 「囲碁の心得、法則」の形を言葉で覚え、積極的に使い囲碁の考え方を身につける。■									
使用教材		光文社新書「東大教養囲碁講座」（備考欄を要確認）									
参考文献		日本棋院「実践囲碁総合演習」									
評価方法		毎回の授業貢献度、コメントシート、技術の習熟度を総合的に判断する(60%) 試験(20%)×2 回 ※対局結果は成績評価に含まない									
課題・評価に対するフィードバック方法		試験後に解説を行う。									
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談は授業の前後に応じる。状況により次回の授業での対応となる場合がある。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	囲碁の歴史と基本ルール■									
	該当到達目標	予習	教科書 第 1 章 1～3 に目を通し講義の目的を理解する。						1.5 時間		
	1,2	復習	囲碁の基本的なルールを理解する。						1.5 時間		
2	講義内容	ルールの復習(1)■									
	該当到達目標	予習	教科書 第 2 章 1-1～1-3 に目を通し基本ルールを確認する。						1.5 時間		
	1,2	復習	囲碁の 5 つの基本ルールを理解する。						1.5 時間		
3	講義内容	ルールの復習(2)■									
	該当到達目標	予習	教科書 第 2 章 1-4～1-5 に目を通し基本ルールを確認する。						1.5 時間		

	1,2	復習	打てない場所、打てる場所を理解する。インターネットやスマートフォンで対局する。	1.5 時間
4	講義内容	ルールの復習及び初歩技術(1)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P97に目を通し、囲碁の打ち方のポイントを確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	基本的な 3 つの心得を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	ルールの復習及び初歩技術(2)■		
	該当到達目標	予習	教科書 第 3 章 2 に目を通し、石の取り方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	取れている石、シチョウを理解する。	1.5 時間
6	講義内容	問題演習■		
	該当到達目標	予習	教科書 第 2 章 1～2 に目を通し基本的な考え方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	地の数え方、石のつながりを理解する。	1.5 時間
7	講義内容	技術の解説(1)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P188～199 に目を通し終盤の考え方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	19 路盤の終盤の考え方を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	技術の解説(2)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P173～188 に目を通し中盤の考え方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	19 路盤の中盤の考え方を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	技術の解説(3)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P158～172 に目を通し序盤の考え方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	19 路盤の序盤の考え方を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	9 子局の解説・連碁(対局)■		
	該当到達目標	予習	教科書 第 5 章 1 に目を通し 9 子局の打ち方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	9 子局の打ち方を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	技術の解説(4)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P207～220 に目を通し決め打ち碁のポイントを理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	隅の死活を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	技術の解説(5)とペア碁■		
	該当到達目標	予習	教科書 第 4 章に目を通し、19 路盤の考え方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	19 路盤の中盤の打ち方を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	問題演習■		
	該当到達目標	予習	教科書 第 2 章 4 に目を通し、石の追い方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	石の取り方、死活、終局の仕方を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	技術の解説(6)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P259～267 に目を通し、総合的な石の取り方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	19 路盤の序盤～中盤の打ち方を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	イベント対局とまとめ■		
	該当到達目標	予習	教科書 第 4 章～5 章に目を通し、これまで習ってきたことを確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	インターネットやスマートフォンで対局する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	●履修条件 ・ 本講義は、囲碁を知らない状態から 19 路盤で最後まで打てるようになることが目標です。 ・ 囲碁の未経験者や囲碁のルールを知らない者を強く求めます。 ●その他、授業に関する事項 ・ 第 5 回目の授業までは基本的なルールを学び復習します。欠席や遅刻などしないこと。 ・ 使用教材(教科書)は、授業形態(オンラインや録画配信)への変更により使用しない場合があります。 ・ 授業では毎回対局を行います。道具の準備や片づけも授業の一環であるため、積極的に関わること。 ・ PC や携帯端末で囲碁の対局ソフト(アプリ)を指示、使用する場合があります。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	英語 IA(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL001		
英文名	English IA						講義形態	演習		
担当教員	Louise Arai									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性				学際的な視点から取り組む力				
		基礎的知識力				応用・実践する能力				
	4	問題解決能力・コミュニケーション能力				専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。 授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。									
到達目標	1. 福祉を学ぶ学生にとって基本的な英語の語彙を獲得する。 2. 福祉についての英語を読めるようになる。 3. 福祉について英語で話せるようになる。									
使用教材	Everything will be provided by the instructor									
参考文献										
評価方法	Classroom participation and attitude 30%, Flipgrid videos 30%, Assignments 10%, Final report 30%,									
課題・評価に対するフィードバック方法	Most results from videos, assignments and reports will be returned to students after marking.									
オフィスアワー (研究室)	授業の前後に対応する。				メールアドレス (#→@)	louisebarnett75@yahoo.co.nz				
1	講義内容	Introductions, review course syllabus, general review and assessment, useful English								
	該当到達目標	予習	Look at syllabus and make name cards						0.5	時間
	1,2,3	復習	Self introductions and read Useful Classroom/online English						0.5	時間
2	講義内容	Learn how to write an email								
	該当到達目標	予習	Read handout						0.5	時間
	1,2,3	復習	Send email to teacher						0.5	時間
3	講義内容	Meeting people and Flipgrid introduction								
	該当到達目標	予習	Read handout						0.5	時間
	1,2,3	復習	Submit video on Fripgrid						0.5	時間
4	講義内容	Restaurant English and Movies								
	該当到達目標	予習	Read handout						0.5	時間
	1,2,3	復習	Introduce your favorite movie						0.5	時間
5	講義内容	Talking about events and festival								
	該当到達目標	予習	Prepare to talk about your favorite festival						0.5	時間

令和 6 年度 社会福祉学科シラバス

	1,2,3	復習	Introduce your favorite festival	0.5 時間
6	講義内容	Food Culture and Cooking in English		
	該当到達目標	予習	Be ready to talk about your favorite recipe	0.5 時間
	1,2,3	復習	Introduce a healthy recipe	0.5 時間
7	講義内容	Emergencies		
	該当到達目標	予習	Think about emergency kit	0.5 時間
	1,2,3	復習	Prepare an emergency kit	0.5 時間
8	講義内容	Useful travel English		
	該当到達目標	予習	Read hand out. Be ready to talk about the best place you have visited	0.5 時間
	1,2,3	復習	Write about your favorite place	0.5 時間
9	講義内容	Talking about pets		
	該当到達目標	予習	Be ready to talk about your pet or your favorite animal	0.5 時間
	1,2,3	復習	Review the benefits of having pets	0.5 時間
10	講義内容	Online Friends		
	該当到達目標	予習	Be ready to talk about if you prefer online or in person communication	0.5 時間
	1,2,3	復習	Write about the benefits of both	0.5 時間
11	講義内容	Corona Virus and stress		
	該当到達目標	予習	Read handout	0.5 時間
	1,2,3	復習	Discuss in groups	0.5 時間
12	講義内容	A healthy lifestyle		
	該当到達目標	予習	Read handout	0.5 時間
	1,2,3	復習	Discuss in groups	0.5 時間
13	講義内容	Make a blog		
	該当到達目標	予習	Prepare blog	0.5 時間
	1,2,3	復習	Prepare blog	0.5 時間
14	講義内容	Blog presentation		
	該当到達目標	予習	Prepare blog	0.5 時間
	1,2,3	復習	Review blogs in groups	0.5 時間
15	講義内容	Communication activities		
	該当到達目標	予習	Prepare for fun!	0.5 時間
	1,2,3	復習	Review the activities	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	Syllabus may change a little.			

科目名	英語 IB(リテラシー)							科目ナンバリング	LAL001	
英文名	English IB							講義形態	演習	
担当教員	岩田 道子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性					学際的な視点から取り組む力			
		基礎的知識力					応用・実践する能力			
	4	問題解決能力・コミュニケーション能力					専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。 授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。									
到達目標	1. 大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。 2. 一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得する。 3. リスニング・ライティング・コミュニケーション等の総合的な英語運用能力を高める。									
使用教材	Linda Lee & Erik Gundersen, <i>Select Readings Intermediate</i> , Oxford University Press, 2011.									
参考文献										
評価方法	期末試験 60% 平常点 40%(授業への参加度、課題など)の総合評価とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	添削のうえ返却する、またはクラス全体で問題解決する。									
オフィスアワー (研究室)	授業の前後で対応する。				メールアドレス (#→@)		初回に指示する。			
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	学習内容の確認						0.5	時間
	1,2,3	復習	新出単語・表現の復習						0.5	時間
2	講義内容	Chapter 1 ①								
	該当到達目標	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく						0.5	時間
	1,2,3	復習	新出単語・表現の復習						0.5	時間
3	講義内容	Chapter 1 ②								
	該当到達目標	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく						0.5	時間
	1,2,3	復習	新出単語・表現の復習						0.5	時間
4	講義内容	Chapter 1 ③								
	該当到達目標	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく						0.5	時間
	1,2,3	復習	新出単語・表現の復習						0.5	時間
5	講義内容	Chapter 2 ①								

令和6年度 社会福祉学科シラバス

	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
6	講義内容	Chapter 2 ②			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
7	講義内容	Chapter 2 ③			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
8	講義内容	Chapter 3 ①			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
9	講義内容	Chapter 3 ②			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
10	講義内容	Chapter 3 ③			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
11	講義内容	Chapter 4 ①			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
12	講義内容	Chapter 4 ②			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
13	講義内容	Chapter 5 ①			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
14	講義内容	Chapter 5 ②			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
15	講義内容	まとめ			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
合計時間(予習・復習)					15 時間
備考					

科目名	英語 IC(リテラシー)							科目ナンバリング	LAL001	
英文名	English IC							講義形態	演習	
担当教員	Angela Karsten									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性					学際的な視点から取り組む力			
		基礎的知識力					応用・実践する能力			
	4	問題解決能力・コミュニケーション能力					専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 講義の目標 講義の実施方法	<u>Course Objectives:</u> 1. Improve self-confidence and accurateness in English skills (writing, reading, speaking, listening) 英語の 4 技能と自信の向上 2. Gain experience in making use of technology while using English. デバイスや機器を利用しての英語学習 3. Gain a better understanding of oneself and of human life & culture related topics, while relating these to the use of English language. 自己理解、人間関係、文化といったトピックスについて英語を通じて学ぶ 4. Practice of interactions and presentations in English 英語での相互作用とプレゼンテーションの練習									
	<u>Overview of Course Content:</u> (Topics to be presented and discussed in class. Target English sentences related to each topic will be practiced, while enhancing vocabulary, grammar and communication skills)									
	<u>Weeks 1~4</u> ● TALKING ABOUT MYSELF 1 自己紹介 (Introduction). COURSE GUIDANCE DAY. コースガイダンスデー ● TALKING ABOUT MYSELF 2 自己紹介 (Review, practice, production) ● HUMAN RELATIONSHIPS 1 人間関係 (Introduction, practice, production) ● HUMAN RELATIONSHIPS 2 人間関係 (Review, practice, production)									
	<u>Weeks 5~8</u> ● FIRST ASSIGNMENT PRESENTATION DAY レポート発表日 ● INTERESTS 1 各人の興味について (Introduction, practice, production) ● INTERESTS 2 各人の興味について (Review, practice, production) ● INTERESTS 3 各人の興味について (Review, practice, production)									
	<u>Weeks 9~12</u> ● MID-TERM ASSIGNMENT PRESENTATION DAY レポート発表日 ● HEALTH AND WELL-BEING 1 健康と福祉 (Introduction, practice, production) ● HEALTH AND WELL-BEING 2 健康と福祉 (Review, practice, production) ● HEALTH AND WELL-BEING 3 健康と福祉 (Review, practice, production)									
	<u>Weeks 13~15</u>									

		● OPINIONS & REFLECTIONS 1 まとめ、フィードバック (Introduction, practice, production) ● FINAL REPORT PRESENTATION DAY ファイナルレポートプレゼンテーションデー ● OPINIONS & REFLECTIONS 2 まとめ、フィードバック (Review, practice, production)	
到達目標		Attainment Target ● Being able to understand English vocabulary related to daily life at university; 大学生活に関わる英語の語彙が理解できる。 ● Being able to engage in simple English conversation related to common daily topics; 日常的な話題に関連した簡単な英会話ができる ● Being able to make effective use of online tools to improve English skills in general; オンラインツールを効果的に活用して、英語力全般を向上させることができる。 ● Being able to perform short presentations in English while using classroom tools; 教室のツールを使用しながら英語で短いプレゼンテーションを行うことができる。 ● Being able to recognize and effectively write the parts of an English paragraph; 英語の段落の各部分を認識し、効果的に書くことができる。 ● Being able to express opinions in simple English; 簡単な英語で意見を述べるすることができる。	
使用教材		Reference books 参考書籍: ※購入の必要はありません。 Topic Talk – David Martin Talk a Lot Book Two – David Martin Now You're Talking! – Chris Elvin <i>(You do not need to buy these books. Content will be provided by the instructor).</i>	
参考文献		https://www.allthingstopics.com https://www.allthingsgrammar.com	
評価方法		Active participation in class (クラスへの積極的な参加).....15% Participation in online questionnaires (アンケートへの参加).....15% Assignments & Presentations (2 X) 月次レポートとプレゼンテーション (2X) 30% Homework (大学の宿題).....20% Final Report & Presentation (once in the end of the term) 20% 最終レポート、プレゼンテーション (学期末 1 回)	
課題・評価に対するフィードバック方法		● Self-assessment 自己評価 and Peer assessment ピアアセスメント ● Instructor's comments 教員によるコメント ● Assignments/Final Report assessment 課題、最終レポート評価	
オフィスアワー (研究室)		Please send me a message when you need. I will answer as soon as possible. 学生からの質問などは C-Learning で受け付け、教員より回答する	メールアドレス (#→@) Please message me through C-Learning. C-Learning 上(連絡・相談)を通して
1	講義内容	TALKING ABOUT MYSELF 1	
	該当到達目標	予習 ● Please read this syllabus carefully and send me any questions you may have. You can use C-learning → messages for this. シラバスを読み、質問がある場合は C-ラーニング、Message(連絡・相談)から質問する。 ● Please take a look at C-learning using the English display (Change display) C-learning 上の英語ディスプレイを確認	1.5 時間
		復習 ● Reread this syllabus. シラバスの再確認 ● Review vocabulary, phrases and sentences 単語、表現、文の復習	1.5 時間

			(check "Teaching Materials") C-learning⇒教材倉庫より ● Please do your weekly homework 毎週宿題をしてください	
2	講義内容	TALKING ABOUT MYSELF 2		
	該当到達目標	予習	● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答	1.5 時間
		復習	● Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") 単語、表現、文の復習 ● Please work on your First Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーション準備をすすめる ● Please work on your weekly homework. 宿題への取組み	1.5 時間
3	講義内容	HUMAN RELATIONSHIPS 1		
	該当到達目標	予習	● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ⇒ questionnaire)	1.5 時間
		復習	● Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") 単語、表現、文の復習 ● Please work on your weekly homework. 宿題への取組み ● Please work on your First Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーション準備をすすめる	1.5 時間
4	講義内容	HUMAN RELATIONSHIPS 2		
	該当到達目標	予習	● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ⇒ questionnaire)	1.5 時間
		復習	● Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") 単語、表現、文の復習 ● Please work on your First Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーション準備をすすめる	1.5 時間
5	講義内容	FIRST ASSIGNMENT PRESENTATION DAY レポート発表日		
	該当到達目標	予習	● <u>First Assignment Deadline! Please send it to the instructor.</u> <u>課題提出期限！(教員へ Web 上の提出)</u> ● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ⇒ questionnaire)	1.5 時間
		復習	● Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") 単語、表現、文の復習 ● Please work on your weekly homework. 宿題への取組み	1.5 時間
6	講義内容	INTERESTS 1		
	該当到達目標	予習	● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ⇒ questionnaire)	1.5 時間
		復習	● Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") 文、表現、文の復習 ● Please work on your Mid-term Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーションへの取組み ● Please work on your weekly homework 宿題への取組み	1.5 時間
7	講義内容	INTERESTS 2		
	該当到達目標	予習	● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ⇒ questionnaire)	1.5 時間
		復習	● Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") 単語、表現、文の復習 ● Please work on your Mid-term Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーションへの取組み ● Please work on your weekly homework 宿題への取組み	1.5 時間
8	講義内容	INTERESTS 3		

	該当到達目標	予習	● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire)	1.5 時間
		復習	● Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習 ● Please work on your Mid-term Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーションへの取り組み	1.5 時間
9	講義内容	MID-TERM ASSIGNMENT PRESENTATION DAY レポート発表日		
	該当到達目標	予習	● <u>MID-TERM Assignment Deadline! Please send it to the instructor.</u> <u>課題提出期限！（教員へ Web 上の提出）</u> ● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire)	1.5 時間
		復習	● Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習 ● Please work on your weekly homework. 宿題への取り組み	1.5 時間
	講義内容	HEALTH AND WELL-BEING 1 /FINAL REPORT INSTRUCTIONS 最後のレポートの指示		
10	該当到達目標	予習	● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire)	1.5 時間
		復習	● Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習 ● Please work on your weekly homework 宿題への取り組み ● Please review the instructions for the FINAL REPORT and start working on it 最終レポートについて内容確認し取り組み開始	1.5 時間
11	講義内容	HEALTH AND WELL-BEING 2		
	該当到達目標	予習	● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire)	1.5 時間
		復習	● Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習 ● Please work on your FINAL REPORT 最終レポートへの取り組み	1.5 時間
12	講義内容	HEALTH AND WELL-BEING 3		
	該当到達目標	予習	● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire)	1.5 時間
		復習	● Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習 ● Please work on your weekly homework 宿題への取り組み ● Please work on your FINAL REPORT 最終レポートへの取り組み	1.5 時間
13	講義内容	OPINIONS & REFLECTIONS 1		
	該当到達目標	予習	● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire)	1.5 時間
		復習	● Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習 ● Please work on your FINAL REPORT 最終レポートへの取り組み	1.5 時間
14	講義内容	FINAL REPORT PRESENTATION DAY ファイナルレポートプレゼンテーションデー		
	該当到達目標	予習	● <u>FINAL REPORT Deadline! Please send it to the instructor.</u> <u>最終レポート提出期限！（教員へ Web 上の提出）</u> ● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire)	1.5 時間
		復習	● Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習 ● Please work on your weekly homework 宿題への取り組み	1.5 時間
15	講義内容	OPINIONS & REFLECTIONS 3		

	該当到達目標	予習	● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire)	1.5 時間
		復習	● Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考				

科目名	英語 IIA(リテラシー)							科目ナンバリング	LAL002		
英文名	English IIA							講義形態	演習		
担当教員	クリストファー・ターン										
科目に関連した実務経験											
学年・開講期	1 年	後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性					学際的な視点から取り組む力				
		基礎的知識力					応用・実践する能力				
	4	問題解決能力・コミュニケーション能力					専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連											
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	英語をコミュニケーションの道具としてとらえ、英語によるコミュニケーション能力基礎の確立を目指す。この目的のために、まずジェスチャーや one word English、one phrase English から始めて、便利かつ最低限必要な英語表現を繰り返し練習する。複雑な文法や語法を無視してこうした練習を繰り返すことで、気楽に感じたことをそのまま口に出すくせをつけさせたい。 授業は主に教員が自ら用意した教材を用いて行うが、ゲーム、ペアワーク、写真、ビデオ、音楽等を多く利用して、学生が積極的に授業に参加できるような雰囲気をつくっていきたい。発表の機会が増えると思う。学生の習熟度に応じ、講義のレベルを調整していく。										
到達目標	1. 英語によるコミュニケーション能力の基礎を確立する。 2. 英語による口語表現に親しむ。 3. 英語によるプレゼンテーションを行う。										
使用教材	特に定めない。										
参考文献											
評価方法	期末試験 50%、平常点 50%(授業への参加度、発言、発表課題など)の総合評価とする。										
課題・評価に対するフィードバック方法	課題はコメントの上返却する。										
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3 限、金曜日 3 限 (1 号館 3 階 315 研究室)				メールアドレス (#→@)		tarn#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	イントロダクション:講義の解説・自己紹介									
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで学習内容を確認しておく							0.5	時間
	1,2,3	復習	口語表現の復習							0.5	時間
2	講義内容	自己紹介してみよう									
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習							0.5	時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認							0.5	時間
3	講義内容	サバイバル・イングリッシュ ① Where do I get the bus?									
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習							0.5	時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認							0.5	時間
4	講義内容	サバイバル・イングリッシュ ② Could you repeat that?									
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習							0.5	時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認							0.5	時間

5	講義内容	便利な one phrase English ① How is your family?		
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
6	講義内容	便利な one phrase English ② Where do you live?		
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
7	講義内容	英語の話し方・意思の伝え方		
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
8	講義内容	英語と日本語の違い		
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
9	講義内容	外国について知ろう		
	該当到達目標	予習	外国について調べてくる	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
10	講義内容	外国や日本について知ろう		
	該当到達目標	予習	外国と日本の比較点をまとめる	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
11	講義内容	外国や日本について話そう		
	該当到達目標	予習	スピーチの準備	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
12	講義内容	英語だけで 1 時間過ごしてみよう(Q&A)		
	該当到達目標	予習	質問内容を考えてくる	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
13	講義内容	英語だけで 1 時間過ごしてみよう(何かを説明する)		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションの準備	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
14	講義内容	大学生活についてのスモール・トーク		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションの準備	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
15	講義内容	英語でプレゼンテーションにチャレンジしてみよう		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションの準備	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考				

科目名	英語 IIB(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL002		
英文名	English IIB						講義形態	演習		
担当教員	Louise Arai									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数	必修 1 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性				学際的な視点から取り組む力				
		基礎的知識力				応用・実践する能力				
	4	問題解決能力・コミュニケーション能力				専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。 授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。									
到達目標	1. 福祉を学ぶ学生にとって基本的な英語の語彙を獲得する。 2. 福祉についての英語を読めるようになる。 3. 福祉について英語で話せるようになる。									
使用教材	Everything will be provided by the instructor									
参考文献										
評価方法	Classroom participation and attitude 30%, Flipgrid videos 30%, Assignments 10%, Final report 30%									
課題・評価に対するフィードバック方法	Most results from videos, assignments and reports will be returned to students after marking									
オフィスアワー (研究室)	授業の前後に対応する。				メールアドレス (#→@)	louisebarnett75@yahoo.co.nz				
1	講義内容	Introductions, review course syllabus, general review and assessment, useful English								
	該当到達目標	予習	Look at syllabus and make name cards						0.5 時間	
	1,2,3	復習	Self introductions and read Useful Classroom/online English						0.5 時間	
2	講義内容	Learn how to write an email								
	該当到達目標	予習	Read handout						0.5 時間	
	1,2,3	復習	Send email to teacher						0.5 時間	
3	講義内容	Meeting people and Flipgrid introduction								
	該当到達目標	予習	Read handout						0.5 時間	
	1,2,3	復習	Submit video on Fripgrid						0.5 時間	
4	講義内容	Restaurant English and Movies								
	該当到達目標	予習	Read handout						0.5 時間	
	1,2,3	復習	Introduce your favorite movie						0.5 時間	
5	講義内容	Talking about events and festival								
	該当到達目標	予習	Prepare to talk about your favorite festival						0.5 時間	

令和 6 年度 社会福祉学科シラバス

	1,2,3	復習	Introduce your favorite festival	0.5 時間
6	講義内容	Food Culture and Cooking in English		
	該当到達目標	予習	Be ready to talk about your favorite recipe	0.5 時間
	1,2,3	復習	Introduce a healthy recipe	0.5 時間
7	講義内容	Emergencies		
	該当到達目標	予習	Think about emergency kit	0.5 時間
	1,2,3	復習	Prepare an emergency kit	0.5 時間
8	講義内容	Useful travel English		
	該当到達目標	予習	Read hand out. Be ready to talk about the best place you have visited.	0.5 時間
	1,2,3	復習	Write about your favorite place	0.5 時間
9	講義内容	Talking about pets		
	該当到達目標	予習	Be ready to talk about your pet or your favorite animal	0.5 時間
	1,2,3	復習	Review the benefits of having pets	0.5 時間
10	講義内容	Online Friends		
	該当到達目標	予習	Be ready to talk about if you prefer online or in person communication	0.5 時間
	1,2,3	復習	Write about the benefits of both	0.5 時間
11	講義内容	Corona Virus and stress		
	該当到達目標	予習	Read handout	0.5 時間
	1,2,3	復習	Discuss in groups	0.5 時間
12	講義内容	A healthy lifestyle		
	該当到達目標	予習	Read handout	0.5 時間
	1,2,3	復習	Discuss in groups	0.5 時間
13	講義内容	Make a blog		
	該当到達目標	予習	Prepare blog	0.5 時間
	1,2,3	復習	Prepare blog	0.5 時間
14	講義内容	Blog presentation		
	該当到達目標	予習	Prepare blog	0.5 時間
	1,2,3	復習	Review blogs in groups	0.5 時間
15	講義内容	Communication activities		
	該当到達目標	予習	Prepare for fun!	0.5 時間
	1,2,3	復習	Review the activities	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	Syllabus may change a little.			

科目名	英語 IIC(リテラシー)							科目ナンバリング	LAL002	
英文名	English IIC							講義形態	演習	
担当教員	戸鹿野 友梨									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数	必修 1 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性					学際的な視点から取り組む力			
		基礎的知識力					応用・実践する能力			
	4	問題解決能力・コミュニケーション能力					専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	幅広いトピックに関するテキストに触れながら大学生に必要とされる英語の知識・技能を身につけることを目標として、主にリーディング、コミュニケーション・スキルを獲得するための講義を行う。授業は基本的に演習形式で進め、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。									
到達目標	1. 日常的な話題についての基本的な語彙・文法に関する知識を獲得する。 2. 英文の内容を正確に読み解けるようになる。 3. 文章の内容やそこから理解したことを、自分の言葉で表現できるようになる。									
使用教材	Arnold Arao 他『Answers to Everyday Questions 2 <Pre-Intermediate>』(南雲堂、2022 年)									
参考文献										
評価方法	期末試験 60%、平常点(課題、小テストなど)40%から総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題・試験はコメントをつけて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	授業時間前後に対応する。				メールアドレス (#→@)		初回授業時に提示する。			
1	講義内容	ガイダンス・Unit 1: What is “Black Friday”?								
	該当到達目標	予習	教科書のはじめに、シラバスを読んで、授業の目標などを確認する。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	講義におけるテキストの使用法を確認する。Quiz に取り組む。						0.5	時間
2	講義内容	Unit 2: What is a “leap year”?								
	該当到達目標	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Quiz に取り組む。						0.5	時間
3	講義内容	Unit 3: Why do big ceremonies have a “red carpet”?								
	該当到達目標	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Quiz に取り組む。						0.5	時間
4	講義内容	Unit 4: Where did “mouthwash” come from?								
	該当到達目標	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Quiz に取り組む。						0.5	時間
5	講義内容	Unit 5: What is “Viking”?								
	該当到達目標	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。						0.5	時間
	1,2,3	復習	Quiz に取り組む。						0.5	時間
6	講義内容	Unit 6: Why are oranges “orange”?								

	該当到達目標 1,2,3	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。	0.5 時間
		復習	Quiz に取り組む。	0.5 時間
7	該当到達目標 1,2,3	講義内容	Unit 7: Where did “Vaseline” come from?	
		予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。	0.5 時間
		復習	Quiz に取り組む。	0.5 時間
8	該当到達目標 1,2,3	講義内容	Unit 8: Why are flamingos “pink”?	
		予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。	0.5 時間
		復習	Quiz に取り組む。	0.5 時間
9	該当到達目標 1,2,3	講義内容	Unit 9: What is a movie “trailer”?	
		予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。	0.5 時間
		復習	Quiz に取り組む。	0.5 時間
10	該当到達目標 1,2,3	講義内容	Unit 10: Where did “bubble wrap” come from?	
		予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。	0.5 時間
		復習	Quiz に取り組む。	0.5 時間
11	該当到達目標 1,2,3	講義内容	Unit 11: Why is a billiard table “green”?	
		予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。	0.5 時間
		復習	Quiz に取り組む。	0.5 時間
12	該当到達目標 1,2,3	講義内容	Unit 12: Why is film called “footage”?	
		予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。	0.5 時間
		復習	Quiz に取り組む。	0.5 時間
13	該当到達目標 1,2,3	講義内容	Unit 13: Where did “Coca-Cola” come from?	
		予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。	0.5 時間
		復習	Quiz に取り組む。	0.5 時間
14	該当到達目標 1,2,3	講義内容	Unit 14: Why are social media apps “blue”?	
		予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。	0.5 時間
		復習	Quiz に取り組む。	0.5 時間
15	該当到達目標 1,2,3	講義内容	Unit 15: Where did “makeup” come from?	
		予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。	0.5 時間
		復習	Quiz に取り組む。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	辞書とテキストを必ず持参すること。			

科目名	英語 IIIA(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL003		
英文名	English IIIA						講義形態	演習		
担当教員	戸鹿野 友梨									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数	必修 1 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性				学際的な視点から取り組む力				
		基礎的知識力				応用・実践する能力				
	4	問題解決能力・コミュニケーション能力				専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	幅広いトピックに関するテキストに触れながら大学生に必要とされる英語の知識・技能を身につけることを目標として、主にリーディング、コミュニケーション・スキルを獲得するための講義を行う。授業は基本的に演習形式で進め、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。									
到達目標	1. 日常的な話題についての基本的な語彙・文法に関する知識を獲得する。 2. 英文の内容を正確に読み解けるようになる。 3. 文章の内容やそこから理解したことを、自分の言葉で表現できるようになる。									
使用教材	Arnold Arao 他『Answers to Everyday Questions 2 <Pre-Intermediate>』(南雲堂、2022 年)									
参考文献										
評価方法	期末試験 60%、平常点(課題、小テストなど)40%から総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題・試験はコメントをつけて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	授業時間前後に対応する。				メールアドレス (#→@)	初回授業時に提示する。				
1	講義内容	ガイダンス・Unit 1: What is “Black Friday”?								
	該当到達目標	予習	教科書のはじめに、シラバスを読んで、授業の目標などを確認する。					0.5	時間	
	1, 2, 3	復習	講義におけるテキストの使用法を確認する。Quiz に取り組む。					0.5	時間	
2	講義内容	Unit 2: What is a “leap year”?								
	該当到達目標	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。					0.5	時間	
	1, 2, 3	復習	Quiz に取り組む。					0.5	時間	
3	講義内容	Unit 3: Why do big ceremonies have a “red carpet”?								
	該当到達目標	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。					0.5	時間	
	1, 2, 3	復習	Quiz に取り組む。					0.5	時間	
4	講義内容	Unit 4: Where did “mouthwash” come from?								
	該当到達目標	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。					0.5	時間	
	1, 2, 3	復習	Quiz に取り組む。					0.5	時間	
5	講義内容	Unit 5: What is “Viking”?								
	該当到達目標	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。					0.5	時間	
	1, 2, 3	復習	Quiz に取り組む。					0.5	時間	
6	講義内容	Unit 6: Why are oranges “orange”?								

	該当到達目標 1, 2, 3	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。		0.5 時間
		復習	Quiz に取り組む。		0.5 時間
7	講義内容	Unit 7: Where did “Vaseline” come from?			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。		0.5 時間
		復習	Quiz に取り組む。		0.5 時間
8	講義内容	Unit 8: Why are flamingos “pink”?			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。		0.5 時間
		復習	Quiz に取り組む。		0.5 時間
9	講義内容	Unit 9: What is a movie “trailer”?			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。		0.5 時間
		復習	Quiz に取り組む。		0.5 時間
10	講義内容	Unit 10: Where did “bubble wrap” come from?			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。		0.5 時間
		復習	Quiz に取り組む。		0.5 時間
11	講義内容	Unit 11: Why is a billiard table “green”?			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。		0.5 時間
		復習	Quiz に取り組む。		0.5 時間
12	講義内容	Unit 12: Why is film called “footage”?			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。		0.5 時間
		復習	Quiz に取り組む。		0.5 時間
13	講義内容	Unit 13: Where did “Coca-Cola” come from?			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。		0.5 時間
		復習	Quiz に取り組む。		0.5 時間
14	講義内容	Unit 14: Why are social media apps “blue”?			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。		0.5 時間
		復習	Quiz に取り組む。		0.5 時間
15	講義内容	Unit 15: Where did “makeup” come from?			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。		0.5 時間
		復習	Quiz に取り組む。		0.5 時間
合計時間(予習・復習)					15 時間
備考	辞書とテキストを必ず持参すること。				

科目名	英語 IIIB(リテラシー)							科目ナンバリング	LAL003	
英文名	English IIIB							講義形態	演習	
担当教員	クリストファー・ターン									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数	必修 1 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性				学際的な視点から取り組む力				
		基礎的知識力				応用・実践する能力				
	4	問題解決能力・コミュニケーション能力				専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	英語をコミュニケーションの道具としてとらえ、英語によるコミュニケーション能力基礎の確立を目指す。この目的のために、まずジェスチャーや one word English、one phrase English から始めて、便利かつ最低限必要な英語表現を繰り返し練習する。複雑な文法や語法を無視してこうした練習を繰り返すことで、気楽に感じたことをそのまま口に出すくせをつけさせたい。 授業は主に教員が自ら用意した教材を用いて行うが、ゲーム、ペアワーク、写真、ビデオ、音楽等を多く利用して、学生が積極的に授業に参加できるような雰囲気をつくっていきたい。発表の機会が増えると思う。学生の習熟度に応じ、講義のレベルを調整していく。									
到達目標	1. 英語によるコミュニケーション能力の基礎を確立する。 2. 英語による口語表現に親しむ。 3. 英語によるプレゼンテーションを行う。									
使用教材	特に定めない。									
参考文献										
評価方法	期末試験 50%、平常点 50%(授業への参加度、発言、発表課題など)の総合評価とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題はコメントの上返却する。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3 限、金曜日 3 限 (1 号館 3 階 315 研究室)				メールアドレス (#→@)	tarn#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	イントロダクション: 講義の解説・自己紹介								
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで学習内容を確認しておく							0.5 時間
	1,2,3	復習	口語表現の復習							0.5 時間
2	講義内容	自己紹介してみよう								
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習							0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認							0.5 時間
3	講義内容	サバイバル・イングリッシュ ① Where do I get the bus?								
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習							0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認							0.5 時間
4	講義内容	サバイバル・イングリッシュ ② Could you repeat that?								
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習							0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認							0.5 時間

5	講義内容	便利な one phrase English ① How is your family?		
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
6	講義内容	便利な one phrase English ② Where do you live?		
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
7	講義内容	英語の話し方・意思の伝え方		
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
8	講義内容	英語と日本語の違い		
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
9	講義内容	外国について知ろう		
	該当到達目標	予習	外国について調べてくる	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
10	講義内容	外国や日本について知ろう		
	該当到達目標	予習	外国と日本の比較点をまとめる	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
11	講義内容	外国や日本について話そう		
	該当到達目標	予習	スピーチの準備	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
12	講義内容	英語だけで 1 時間過ごしてみよう(Q&A)		
	該当到達目標	予習	質問内容を考えてくる	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
13	講義内容	英語だけで 1 時間過ごしてみよう(何かを説明する)		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションの準備	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
14	講義内容	大学生活についてのスモール・トーク		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションの準備	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
15	講義内容	英語でプレゼンテーションにチャレンジしてみよう		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションの準備	0.5 時間
	1,2,3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考				

科目名	英語 IIIC(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL003		
英文名	English IIIC						講義形態	演習		
担当教員	Louise Arai									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性				学際的な視点から取り組む力				
		基礎的知識力				応用・実践する能力				
	4	問題解決能力・コミュニケーション能力				専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。 授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。									
到達目標	1. 福祉を学ぶ学生にとって基本的な英語の語彙を獲得する。 2. 福祉についての英語を読めるようになる。 3. 福祉について英語で話せるようになる。									
使用教材	Everything will be provided by the instructor									
参考文献										
評価方法	Classroom participation and attitude 30%, Flipgrid videos 30%, Assignments 10%, Final report 30%									
課題・評価に対するフィードバック方法	Most results from videos, assignments and reports will be returned to students after marking									
オフィスアワー (研究室)	授業の前後に対応する。				メールアドレス (#→@)		louisebarnett75@yahoo.co.nz			
1	講義内容	Introductions, review course syllabus, general review and assessment, useful English								
	該当到達目標	予習	Look at syllabus and make name cards						0.5 時間	
	1,2,3	復習	Self introductions and read Useful Classroom/online English						0.5 時間	
2	講義内容	Learn how to write an email								
	該当到達目標	予習	Read handout						0.5 時間	
	1,2,3	復習	Send email to teacher						0.5 時間	
3	講義内容	Meeting people and Flipgrid introduction								
	該当到達目標	予習	Read handout						0.5 時間	
	1,2,3	復習	Submit video on Fripgrid						0.5 時間	
4	講義内容	Restaurant English and Movies								
	該当到達目標	予習	Read handout						0.5 時間	
	1,2,3	復習	Introduce your favorite movie						0.5 時間	
5	講義内容	Talking about events and festival								
	該当到達目標	予習	Prepare to talk about your favorite festival						0.5 時間	

令和 6 年度 社会福祉学科シラバス

	1,2,3	復習	Introduce your favorite festival	0.5 時間
6	講義内容	Food Culture and Cooking in English		
	該当到達目標	予習	Be ready to talk about your favorite recipe	0.5 時間
	1,2,3	復習	Introduce a healthy recipe	0.5 時間
7	講義内容	Emergencies		
	該当到達目標	予習	Think about emergency kit	0.5 時間
	1,2,3	復習	Prepare an emergency kit	0.5 時間
8	講義内容	Useful travel English		
	該当到達目標	予習	Read hand out. Be ready to talk about the best place you have visited.	0.5 時間
	1,2,3	復習	Write about your favorite place	0.5 時間
9	講義内容	Talking about pets		
	該当到達目標	予習	Be ready to talk about your pet or your favorite animal	0.5 時間
	1,2,3	復習	Review the benefits of having pets	0.5 時間
10	講義内容	Online Friends		
	該当到達目標	予習	Be ready to talk about if you prefer online or in person communication	0.5 時間
	1,2,3	復習	Write about the benefits of both	0.5 時間
11	講義内容	Corona Virus and stress		
	該当到達目標	予習	Read handout	0.5 時間
	1,2,3	復習	Discuss in groups	0.5 時間
12	講義内容	A healthy lifestyle		
	該当到達目標	予習	Read handout	0.5 時間
	1,2,3	復習	Discuss in groups	0.5 時間
13	講義内容	Make a blog		
	該当到達目標	予習	Prepare blog	0.5 時間
	1,2,3	復習	Prepare blog	0.5 時間
14	講義内容	Blog presentation		
	該当到達目標	予習	Prepare blog	0.5 時間
	1,2,3	復習	Review blogs in groups	0.5 時間
15	講義内容	Communication activities		
	該当到達目標	予習	Prepare for fun!	0.5 時間
	1,2,3	復習	Review the activities	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	Syllabus may change a little.			

科目名	英語 IVA(リテラシー)							科目ナンバリング	LAL004		
英文名	English IVA							講義形態	演習		
担当教員	柳澤 順一										
科目に関連した実務経験											
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性					学際的な視点から取り組む力				
		基礎的知識力					応用・実践する能力				
	4	問題解決能力・コミュニケーション能力					専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連											
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。 授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。										
到達目標	1. 大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。 2. 一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得する。 3. リスニング・ライティング・コミュニケーション等の総合的な英語運用能力を高める。										
使用教材	New English Upgrade (Student Book 2), Steven Gershon & Chris Mares, Macmillan Language House (2008)										
参考文献											
評価方法	期末試験 50% 平常点 50%(出席率、発表課題、授業での発言など)の総合評価とする。										
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートは評価またはショートコメントを付した後返却する(学期末課題については返却しないことがある)。期末試験は採点后、得点を通知する(通知方法については授業内で連絡する)。										
オフィスアワー (研究室)	授業の前後に対応する。				メールアドレス (#→@)		jyanagisawa555#gmail.com				
1	講義内容	Introduction (1), Introductory DVD-Watching									
	該当到達目標	予習	特になし(語彙調べ)							0.5	時間
	1,2,3	復習	プリント練習問題の解法							0.5	時間
2	講義内容	Introduction (2), 英検 CAT の利用法									
	該当到達目標	予習	特になし							0.5	時間
	1,2,3	復習	プリント練習問題のパラグラフ作成							0.5	時間
3	講義内容	Unit 1 Meeting people									
	該当到達目標	予習	Listen in & Build up オーラル・プラクティス							0.5	時間
	1,2,3	復習	Express yourself 別バージョン作成							0.5	時間
4	講義内容	Unit 2 Family and friends									
	該当到達目標	予習	Listen in & Build up オーラル・プラクティス							0.5	時間
	1,2,3	復習	Express yourself 別バージョン作成							0.5	時間

5	講義内容	Unit 3 Lifestyles		
	該当到達目標	予習	Listen in & Build up オーラル・プラクティス	0.5 時間
	1,2,3	復習	Express yourself 別バージョン作成	0.5 時間
6	講義内容	Unit 4 Work, work, work!		
	該当到達目標	予習	Listen in & Build up オーラル・プラクティス	0.5 時間
	1,2,3	復習	Express yourself 別バージョン作成	0.5 時間
7	講義内容	Unit 5 Having fun		
	該当到達目標	予習	Listen in & Build up オーラル・プラクティス	0.5 時間
	1,2,3	復習	Express yourself 別バージョン作成	0.5 時間
8	講義内容	Unit6 Review; Additional DVD-Watching (1)		
	該当到達目標	予習	Review unit ディクテーション問題解法	0.5 時間
	1,2,3	復習	練習問題プリントの解法	0.5 時間
9	講義内容	Additional DVD-Watching (2)		
	該当到達目標	予習	特になし(語彙調べ)	0.5 時間
	1,2,3	復習	練習問題プリントの解法	0.5 時間
10	講義内容	Unit 7 Spend, spend, spend!		
	該当到達目標	予習	Listen in & Build up オーラル・プラクティス	0.5 時間
	1,2,3	復習	Express yourself 別バージョン作成	0.5 時間
11	講義内容	Unit 8 Looking back		
	該当到達目標	予習	Listen in & Build up オーラル・プラクティス	0.5 時間
	1,2,3	復習	Express yourself 別バージョン作成	0.5 時間
12	講義内容	Unit 9 Life's experiences		
	該当到達目標	予習	Listen in & Build up オーラル・プラクティス	0.5 時間
	1,2,3	復習	Express yourself 別バージョン作成	0.5 時間
13	講義内容	Unit 10 Around town		
	該当到達目標	予習	Listen in & Build up オーラル・プラクティス	0.5 時間
	1,2,3	復習	Express yourself 別バージョン作成	0.5 時間
14	講義内容	Unit 11 Looking ahead		
	該当到達目標	予習	Listen in & Build up オーラル・プラクティス	0.5 時間
	1,2,3	復習	Express yourself 別バージョン作成、英検 CAT ポートフォリオ作成	0.5 時間
15	講義内容	Unit 12 Review		
	該当到達目標	予習	Review unit ディクテーション問題解法	0.5 時間
	1,2,3	復習	Reading file 指定問題のスラッシュ・リーディング	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	PC/CALL 教室を使用する。データ保存用の USB メモリを必ず持参すること。左記以外の教室の場合、C-Learning 上の指定ファイル(音声・テキスト)をダウンロードの上、携帯またはタブレット端末に入れて教室持参のこと。			

科目名	英語 IVB(リテラシー)							科目ナンバリング	LAL004	
英文名	English IVB							講義形態	演習	
担当教員	下田尾 誠									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性					学際的な視点から取り組む力			
		基礎的知識力					応用・実践する能力			
	4	問題解決能力・コミュニケーション能力					専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○	○							
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	大学生に必要とされる基礎的な英語運用能力のうち、とりわけリーディング・スキル獲得のための講義を行う。									
①講義の目標	授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。									
②講義の実施方法										
到達目標	1. 大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。 2. 一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得する。 3. リスニング・ライティング・コミュニケーション等の総合的な英語運用能力を高める。									
使用教材	Better Health for Every Day, Kinseido, 1,900 円									
参考文献	授業内で紹介する。									
評価方法	授業への参加度、課題(50%)、テスト(50%)で総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題はコメントを付けて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	授業の前後で対応する。				メールアドレス (#→@)		shimotao.makto#chuo.ac.jp			
1	講義内容	Introduction								
	該当到達目標	予習	特になし(語彙調べ)						0.5	時間
	1,2,3	復習	基礎語彙力テストの復習、プリント問題の解法						0.5	時間
2	講義内容	Chapter 1 Fuel Your Body and Mind								
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読						0.5	時間
	1,2,3	復習	Vocabulary Exercise						0.5	時間
3	講義内容	Chapter 2 What Helps Keep a Doctor Away?								
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読						0.5	時間
	1,2,3	復習	Vocabulary Exercise						0.5	時間
4	講義内容	Chapter 3 Laughing Will Save You From Going Crazy								
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読						0.5	時間
	1,2,3	復習	Vocabulary Exercise						0.5	時間
5	講義内容	Chapter 4 The French Paradox								
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読						0.5	時間

令和 6 年度 社会福祉学科シラバス

	1,2,3	復習	Vocabulary Exercise	0.5 時間
6	講義内容	Chapter 5 American's Interest in Sushi		
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読	0.5 時間
	1,2,3	復習	Vocabulary Exercise	0.5 時間
7	講義内容	Chapter 6 Don't Stay Away from Natto		
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読	0.5 時間
	1,2,3	復習	Vocabulary Exercise	0.5 時間
8	講義内容	Chapter 7 Acute Alcohol Intoxication Can Kill You		
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読	0.5 時間
	1,2,3	復習	Vocabulary Exercise	0.5 時間
9	講義内容	Chapter 8 Is Snoring a Bad Sign?		
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読	0.5 時間
	1,2,3	復習	Vocabulary Exercise	0.5 時間
10	講義内容	Chapter 9 Getting a Good Night's Sleep in a Challenge		
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読	0.5 時間
	1,2,3	復習	Vocabulary Exercise	0.5 時間
11	講義内容	Chapter 10 Chocolate and its Magical Power		
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読	0.5 時間
	1,2,3	復習	Vocabulary Exercise	0.5 時間
12	講義内容	Chapter 11 The Health Risks of Eating Processed Food		
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読	0.5 時間
	1,2,3	復習	Vocabulary Exercise	0.5 時間
13	講義内容	Chapter 12 Is Genetically Modified Food Safe Enough?		
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読	0.5 時間
	1,2,3	復習	Vocabulary Exercise	0.5 時間
14	講義内容	Chapter 13 Environmental Health Threats		
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読	0.5 時間
	1,2,3	復習	Vocabulary Exercise	0.5 時間
15	講義内容	Chapter Reviews: Unit 1 ~ 14		
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読	0.5 時間
	1,2,3	復習	スラッシュ・リーディング練習	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考				

科目名	英語 IVC(リテラシー)							科目ナンバリング	LAL004	
英文名	English IVC							講義形態	演習	
担当教員	山田敏幸									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数	必修 1 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性					学際的な視点から取り組む力			
		基礎的知識力					応用・実践する能力			
	4	問題解決能力・コミュニケーション能力					専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○						
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①テキストを主な教材として、日常的な話題、福祉に関わる際に必要とされる基本的な英語の語彙・表現を身につけ、自身のことについて英語で表現できるようになることを目標とする。 ②基本的に演習形式で進め、受講者一人ひとりの実践的な英語運用能力、英語でのコミュニケーション能力を高めるために、ペア・ワークやグループ・ワークを適宜取り入れて協働学習を行なう。									
到達目標	1. 日常的な話題に関する基本的な英語の語彙・表現を使うことができるようになる。 2. 福祉に関わる際に必要とされる基本的な英語の語彙・表現を使うことができるようになる。 3. 自身のことについて英語で表現できるようになる。									
使用教材	西原俊明・西原真弓・Amy Mukamuri (2014) <i>Better Health for Every Day</i> . 東京, 金星堂. 2090 円.									
参考文献	授業中に随時提示する。									
評価方法	授業への積極的な参加(発言、グループワークなど)20%、課題 30%、中間・期末試験 50%の割合で、上記「到達目標」を達成できたか総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	クラス全体へのフィードバックをとおして、全体で問題解決する。									
オフィスアワー (研究室)	授業の前後で対応する。				メールアドレス (#→@)		初回に提示する。			
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	シラバスの確認						0.5 時間	
	1, 2, 3	復習	学習内容の確認						0.5 時間	
2	講義内容	Unit 1. Fuel Your Body and Mind								
	該当到達目標	予習	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く						0.5 時間	
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習						0.5 時間	
3	講義内容	Unit 2. What Helps Keep a Doctor Away?								
	該当到達目標	予習	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く						0.5 時間	
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習						0.5 時間	
4	講義内容	Unit 3. Laughing Will Save You from Going Crazy								
	該当到達目標	予習	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く						0.5 時間	

	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	0.5 時間
5	講義内容	Unit 4. The French Paradox		
	該当到達目標	予習	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	0.5 時間
6	講義内容	Unit 5. Americans' Interest in Sushi		
	該当到達目標	予習	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	0.5 時間
7	講義内容	Unit 6. Don't Stay Away from Natto		
	該当到達目標	予習	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	0.5 時間
8	講義内容	中間試験		
	該当到達目標	予習	中間試験の準備	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	0.5 時間
9	講義内容	Unit 7. Acute Alcohol Intoxication Can Kill You		
	該当到達目標	予習	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	0.5 時間
10	講義内容	Unit 8. Is Snoring a Bad Sign?		
	該当到達目標	予習	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	0.5 時間
11	講義内容	Unit 9. Getting a Good Night's Sleep is a Challenge		
	該当到達目標	予習	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	0.5 時間
12	講義内容	Unit 10. Chocolate and its Magical Power		
	該当到達目標	予習	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	0.5 時間
13	講義内容	Unit 11. The Health Risks of Eating Processed Food		
	該当到達目標	予習	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	0.5 時間
14	講義内容	Unit 12. Is Genetically Modified Food Safe Enough?		
	該当到達目標	予習	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	0.5 時間
15	講義内容	Unit 13. Environmental Health Threats		
	該当到達目標	予習	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	テキストと辞書、および PC を毎回必ず持参すること。			

科目名	Integrated English I（リテラシー）							科目ナンバリング	LAL005	
英文名	Integrated English I							講義形態	演習	
担当教員	クリストファー・ターン									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年	前期	選必・単位数	選択 1 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性					学際的な視点から取り組む力			
		基礎的知識力					応用・実践する能力			
	4	問題解決能力・コミュニケーション能力					専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	本講義では、海外英語研修参加希望者を対象とする。英語による日常英会話レベルのコミュニケーション能力を獲得することを講義目標としている。 教員より、コミュニケーションをとる必要がある様々な場面設定が提示される。受講生はその対応を考え、実践演習を行う。その後課題を分析し、再度実践演習を行う。また、学生生活で学んだ英語をまとめてノートを作成する。									
到達目標	1. コミュニケーションの基礎知識を学ぶ 2. 海外での様々な場面を想定した英会話の練習をする 3. プレゼンテーションの実践演習を行う また海外英語研修に向けた事前準備や説明を行う。									
使用教材	特に定めない。									
参考文献										
評価方法	授業内パフォーマンス 90%、提出物 10%									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出物にはコメントをつけて返却する。個人面談を行う。									
オフィスアワー （研究室）	火曜 3 限、金曜 3 限 （1 号館 315 研究室）				メールアドレス （#→@）	tarn#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	What is communication?								
	該当到達目標	予習	なし						0.5	時間
	1,2,3	復習	授業内容について要約する						0.5	時間
2	講義内容	Cognitive Psychology: Get to Know Yourself								
	該当到達目標	予習	自分自身について書く						0.5	時間
	1,2,3	復習	自分のインターナショナル・スキルについて書く						0.5	時間
3	講義内容	Social Skills								
	該当到達目標	予習	社会心理学について事前調べを行う						0.5	時間
	1,2,3	復習	改善すべき自分の社会的スキルについて書く						0.5	時間
4	講義内容	The Power of Imagination and Innovation								
	該当到達目標	予習	行きたい国、行きたい理由を挙げる						0.5	時間
	1,2,3	復習	その国について調べる						0.5	時間
5	講義内容	Learning to Control a Conversation								

	該当到達目標 1,2,3	予習	言葉が理解できない状況でどういくコミュニケーションが有効か考える	0.5	時間
		復習	ホストファミリーとの会話例を考える	0.5	時間
6	講義内容	Listening Strategies			
	該当到達目標 1,2,3	予習	訪問国の英語発音について調べる	0.5	時間
		復習	訪問国の短編映画やアニメを見る	0.5	時間
7	講義内容	Basic English: Self Introduction and First Step for Communication in English			
	該当到達目標 1,2,3	予習	自己紹介文を書く	0.5	時間
		復習	自己紹介文を仕上げる	0.5	時間
8	講義内容	Create your own English Database			
	該当到達目標 1,2,3	予習	ノートの準備をする	0.5	時間
		復習	English Database を作成する	0.5	時間
9	講義内容	Meet a Foreigner			
	該当到達目標 1,2,3	予習	外国人ゲストとの会話を考える	0.5	時間
		復習	外国人ゲストとの会話から、スピーキングの課題を見つける	0.5	時間
10	講義内容	Speech Basics: Talking to Audience			
	該当到達目標 1,2,3	予習	相手に伝わるプレゼンテーションについて調べる	0.5	時間
		復習	大学紹介についてのパワーポイントを作成する	0.5	時間
11	講義内容	Presentation 1			
	該当到達目標 1,2,3	予習	自分の学科(専門)についてのプレゼンテーションを作成する	0.5	時間
		復習	プレゼンテーションの直しと仕上げをする	0.5	時間
12	講義内容	Presentation 2			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テーマについてのプレゼンテーションの準備をする	0.5	時間
		復習	プレゼンテーションの直しと仕上げをする	0.5	時間
13	講義内容	Make your own Textbook 1			
	該当到達目標 1,2,3	予習	海外研修・ホームステイを想定し自分自身のテキストブックを作成する	0.5	時間
		復習	海外研修・ホームステイを想定し自分自身のテキストブックを作成する	0.5	時間
14	講義内容	Do Group Work to Improve your Textbook			
	該当到達目標 1,2,3	予習	グループごとに各自のテキストブックについて話し合い改善する	0.5	時間
		復習	想定した研修やホームステイについてレポートを書く	0.5	時間
15	講義内容	Conclusion			
	該当到達目標 1,2,3	予習	これまでの授業の復習をする	0.5	時間
		復習	全講義を通して学んだことをレポートにする	0.5	時間
合計時間(予習・復習)					15 時間
備考	本講義は海外英語研修参加者を対象とする。予習復習時間については各自補完すること。				

科目名	Integrated English II (リテラシー)							科目ナンバリング	LAL006	
英文名	Integrated English II							講義形態	演習	
担当教員	高橋 栄作									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数	選択 1 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性				学際的な視点から取り組む力				
		基礎的知識力				応用・実践する能力				
	4	問題解決能力・コミュニケーション能力				専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○				○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	英語の基礎文法事項を整理し、語彙力をつけながら TOEIC®テスト受験に必要とされる基礎的な英語力養成を目指す。 そのため授業では、TOEIC®テスト形式の問題演習を中心に、英語の基礎力を主にリスニングとリーディングの面から強化する。練習問題の音声をリピートしたり、スクリプトを音読したり、耳に英語が入った瞬間に理解できるようにインプットする。リーディングでは正解不正解の確認だけでなく、解答の根拠を理解し、応用可能な解法を身につける。									
到達目標	1. TOEIC®テストの形式と内容を理解できる。 2. 語彙力が身につく。 3. 文法事項を理解できる。 4. リスニング力が身につく。 5. リーディング力が身につく。									
使用教材	Ayako Yokogawa and Tony Cook. (2016). <i>Level-up Trainer for the TOEIC® TEST</i> . 東京: センゲージラーニング.									
参考文献	授業内で紹介する。									
評価方法	授業への参加度、発表、課題(40%)、期末試験(60%)で評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題の解説をする。									
オフィスアワー (研究室)	授業終了後				メールアドレス (#→@)	eisaku #tcue.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス・TOEIC テストとは								
	該当到達目標	予習	教科書の「はじめに」「目次」「本書の使い方」「シラバス」などの内容を読んで、講義の目標などを理解する。						0.5	時間
	1	復習	Pre-test を解いて現在の実力を把握しよう。						0.5	時間
2	講義内容	Unit 1: テスト形式を知る								
	該当到達目標	予習	Unit 1 の語彙の意味を調べる。						0.5	時間
	2,3,4,5	復習	Unit 1 の練習問題の内容を理解する。						0.5	時間
3	講義内容	Unit 2: 基本戦略①								
	該当到達目標	予習	Unit 2 の語彙の意味を調べる。						0.5	時間

	2,3,4,5	復習	Unit 2 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
4	講義内容	Unit 3: 基本戦略②		
	該当到達目標	予習	Unit 3 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 3 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
5	講義内容	Unit 4: 英文の基本構造を見抜く		
	該当到達目標	予習	Unit 4 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 4 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
6	講義内容	Unit 5: 解答根拠の登場順		
	該当到達目標	予習	Unit 5 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 5 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
7	講義内容	Unit 6: 正解の言い換えパターンを知る		
	該当到達目標	予習	Unit 6 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 6 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
8	講義内容	Units 1-6 のまとめ		
	該当到達目標	予習	指定されたリスニング・リーディングの問題を解く。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	解説を聞いて理解し、間違えたところを確認する。	0.5 時間
9	講義内容	Unit 7: 機能疑問文を聞き取る		
	該当到達目標	予習	Unit 7 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 7 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
10	講義内容	Unit 8: 動詞の時制を見極める		
	該当到達目標	予習	Unit 8 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 8 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
11	講義内容	Unit 9: 接続詞 vs. 前置詞		
	該当到達目標	予習	Unit 9 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 9 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
12	講義内容	Unit 10: 複数パッセージ問題の攻略		
	該当到達目標	予習	Unit 10 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 10 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
13	講義内容	Unit 11: 接続副詞に強くなる		
	該当到達目標	予習	Unit 11 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 11 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
14	講義内容	Unit 12: NOT 型設問のコツ		
	該当到達目標	予習	Unit 12 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 12 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
15	講義内容	Units 7-12 のまとめ		
	該当到達目標	予習	Post-test の問題を解く。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	解説を聞いて理解し、間違えたところを確認する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考				

科目名		ドイツ語(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL007		
英文名		German						講義形態	講義		
担当教員		出雲 春明									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		3	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
		2	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
		2	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連		7131415									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① ドイツの文化や取り組み、また基礎的な文法を知ることを通じて、多様な価値観への関心を深め、日本の文化と比較することで、自己理解の参照項とする。 ② C-Learning「教材倉庫」に公開する資料などを用いて講義を実施する。文化などに関しては、学生による調査やそれにもとづいたディスカッションを組み込みながら行う。語学の部分に関しては、ドイツ語でのコミュニケーションに最低限必要な文法や挨拶などの定型表現を練習する。毎回、C-Learningの「ドリル」「小テスト」で知識の定着を図る。									
到達目標		1. ドイツの文化や現代の取り組みを知り、自らと比較し、意見を述べることができる。 2. ドイツ語の初級文法を用いて挨拶や平易な表現をすることができる。									
使用教材		C-Learning「教材倉庫」に予習・復習資料を公開する。									
参考文献		なし									
評価方法		授業への参加態度(授業内での課題の実施状況など)・・・30% 小テストなどの課題、確認テスト・・・70%									
課題・評価に対するフィードバック方法		C-Learning「ドリル」「小テスト」「アンケート」「レポート」などに対して解説、コメントを行う。									
オフィスアワー (研究室)		1 号館 511 研究室 面談希望の場合は C-Learning「連絡・相談」あるいは左記アドレスまで。				メールアドレス (#→@)		izumo-s#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンスー日本とドイツ、外来語としてのドイツ語とそのアルファベットー									
	該当到達目標	予習	シラバスを読み講義内容を理解する。教材倉庫の予習用資料に目を通しておく							1.5	時間
	1, 2	復習	ドリル、小テストで復習する。外来語としてのドイツ語について調べてみる。							1.5	時間
2	講義内容	ドイツ語(1) 母音の発音①、あいさつ ドイツ人の精神における「森」									
	該当到達目標	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。							1.5	時間
	1, 2	復習	ドリル、小テストで復習する。ドイツの森林について調べてみる							1.5	時間
3	講義内容	ドイツ語(2)母音の発音②、お店での注文 ドイツの食事、料理									
	該当到達目標	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。							1.5	時間
	1, 2	復習	ドリル、小テストで復習する。ドイツの料理について調べてみる。							1.5	時間
4	講義内容	ドイツ語(3)子音の発音① 首都ベルリン、ユダヤ人慰霊碑、ベルリンの壁									

	該当到達目標 1, 2	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。		1.5 時間
		復習	ドリル、小テストで復習する。現代ドイツが直面した歴史について調べてみる。		1.5 時間
5	講義内容	ドイツ語(4)子音の発音② オクトーバーフェスト			
	該当到達目標 1, 2	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。		1.5 時間
		復習	ドリル、小テストで復習する。オクトーバーフェストと日本のイベントについて調べてみる。		1.5 時間
6	講義内容	ドイツ語(5)子音の発音③ 第三の都市ミュンヘン			
	該当到達目標 1, 2	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。		1.5 時間
復習		ドリル、小テストで復習する。ミュンヘンについて調べてみる。		1.5 時間	
7	講義内容	ドイツ語(6)ドイツ語の文の作り方(一般動詞①) 第二の都市ハンブルク			
	該当到達目標 1, 2	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。		1.5 時間
		復習	ドリル、小テストで復習する。ハンブルクについて調べてみる。		1.5 時間
8	講義内容	ドイツ語(7) ドイツ語の文の作り方(一般動詞②) ドイツの気候・住居			
	該当到達目標 1, 2	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。		1.5 時間
復習		ドリル、小テストで復習する。ドイツの住居について調べてみる。		1.5 時間	
9	講義内容	ドイツ語(8)ドイツ語の文の作り方(haben) ドイツの城・宮殿・美意識			
	該当到達目標 1, 2	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。		1.5 時間
復習		ドリル、小テストで復習する。ドイツの建築文化について調べてみる。		1.5 時間	
10	講義内容	ドイツ語(9)ドイツ語の文の作り方(sein 動詞①) ドイツの美術			
	該当到達目標 1, 2	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。		1.5 時間
復習		ドリル、小テストで復習する。ドイツにおけるアートについて調べてみる。		1.5 時間	
11	講義内容	ドイツ語(10)ドイツ語の文の作り方(sein 動詞②) ドイツの音楽 クラシック、テクノ、ラブパレード			
	該当到達目標 1, 2	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。		1.5 時間
復習		ドリル、小テストで復習する。ドイツの音楽について調べてみる。		1.5 時間	
12	講義内容	ドイツ語(11)自己紹介① ドイツのビオ食品			
	該当到達目標 1, 2	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。		1.5 時間
復習		ドリル、小テストで復習する。ドイツのビオの認定基準について調べてみる。		1.5 時間	
13	講義内容	ドイツの年末年始			
	該当到達目標 1, 2	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。		1.5 時間
復習		ドリル、小テストで復習する。ドイツの年末年始について調べてみる。		1.5 時間	
14	講義内容	ドイツ語(12)自己紹介② ドイツにおけるエコ			
	該当到達目標 1, 2	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。		1.5 時間
復習		ドリル、小テストで復習する。環境先進国ドイツの取り組みを調べてみる。		1.5 時間	
15	講義内容	まとめ			
	該当到達目標 1, 2	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。		1.5 時間
復習		必要に応じて、補習課題を実施する。ドイツに対する関心を深める。		1.5 時間	
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	毎回、授業の前週の水曜日に、C-Learning「教材倉庫」に予習用の教材をアップする。授業終了後は、復習用の教材やドリル・小テストを用いて知識の定着を図ること。 詳細な成績評価の方法や、課題などについての連絡事項は C-learning「ニュース」に公開するので、各自でよく確認しておくこと。				

科目名	フランス語(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL008		
英文名	French						講義形態	講義		
担当教員	松島 洋子									
科目に関連した実務経験	医療通訳・翻訳(産婦人科、形成外科、外科)									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	2	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
	2	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	417									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	フランス語を通じて世界に関心を持ち、豊かな人間性を育む。 ①フランスの文化や習慣に触れ、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。 ②毎回1つのテーマを中心に、「伝わるフランス語」を学ぶ。文法は会話に取り入れ、生徒が楽しんで身に付けられるように進める。									
到達目標	1. フランス語で簡単な会話ができる■ 2. フランス語検定4級相当の文法を理解する■									
使用教材	①今すぐ話せる！いちばんはじめのフランス語単語・CD・ROM 付き 東進ブック ISBN978-4-89085-719-7 ②フランス語をひとつひとつわかりやすく。―超基礎からの個人授業 学研教育出版 ISBN978-4-05-303813-5									
参考文献										
評価方法	授業内の課題及び期末テストにて文法理解度を確認 50%、 授業内の発言・質問・ロールプレイ等 50%									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業内で取り組んだ課題とテストをチェックして返却する。									
オフィスアワー (研究室)	質問等は、開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス	連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容	フランス語の基本／アルファベの発音、発音記号、挨拶、仏語の特性■								
	該当到達目標	予習	第 1 回で取り組む単元を CD で聞いておく。						0.5 時間	
	1,2	復習	第 1 回で取り組んだ単元を再確認しておく。						0.5 時間	
2	講義内容	名詞／男性名詞と女性名詞の単数形、複数形■								
	該当到達目標	予習	第 2 回で取り組む単元を CD で聞いておく。						0.5 時間	
	1,2	復習	第 2 回で取り組んだ単元を再確認しておく。						0.5 時間	
3	講義内容	動詞の活用① フランス語の基礎となる動詞／名詞「性格」「国」■								
	該当到達目標	予習	第 3 回で取り組む単元を CD で聞いておく。						0.5 時間	
	1,2	復習	第 3 回で取り組んだ単元を再確認しておく。						0.5 時間	
4	講義内容	動詞の活用② 規則動詞と不規則動詞 動詞 avoir の使い方■								
	該当到達目標	予習	第 4 回で取り組む単元を CD で聞いておく。						0.5 時間	
	1,2	復習	第 4 回で取り組んだ単元を再確認しておく。						0.5 時間	

5	講義内容	動詞の活用③ 不規則動詞「GO」の意味を持つ「aller」／場所につける前置詞■		
	該当到達目標	予習	第 5 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 5 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
6	講義内容	所有形容詞「私の」「彼の」／名詞「家族・友人・身の回りのもの」■		
	該当到達目標	予習	第 6 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 6 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
7	講義内容	否定文の作り方／動詞「話す」、名詞「職業」■		
	該当到達目標	予習	第 7 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 7 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
8	講義内容	動詞の活用④ 「ER 動詞」の使い方／数えられる名詞と数えられない名詞■		
	該当到達目標	予習	第 8 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 8 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
9	講義内容	疑問文① 「はい・いいえ」で答える疑問文と具体的な答えを求める疑問文■		
	該当到達目標	予習	第 9 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 9 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
10	講義内容	動詞の活用⑤ 「faire～する」の使い方／日常生活「宿題、家事等」■		
	該当到達目標	予習	第 10 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 10 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
11	講義内容	疑問文② 「どこですか?」「誰ですか?」／動詞「～を知っている」、人を紹介する■		
	該当到達目標	予習	第 11 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 11 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
12	講義内容	疑問文③ 方向、位置を尋ねる／方向を示す名詞「上下」「左右」等■		
	該当到達目標	予習	第 12 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 12 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
13	講義内容	動詞の活用⑥ 「faire」の使い方・応用／名詞「スポーツ」■		
	該当到達目標	予習	第 13 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 13 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
14	講義内容	時計の読み方／時間、曜日、月、季節■		
	該当到達目標	予習	第 14 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 14 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
15	講義内容	動詞の活用⑦ 「〇〇が欲しい」／「〇〇ができる」基礎～応用		
	該当到達目標	予習	第 15 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 15 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名	ポルトガル語(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL009		
英文名	Portuguese						講義形態	講義		
担当教員	カルステン アンジェラ									
科目に関連した実務経験	第二言語としてのポルトガル語教授、25 年の経験									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 2単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	2	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
	2	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○						○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	ロールプレイングと教育的ゲーム									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	1. クラスでは、基本的なポルトガル語を紹介し、練習しながら、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング、および基本的な文法知識の習得と語学スキルの向上を目指す。 2. クラスは、ディスカッションやビデオ視聴による日常会話に役立つポルトガル語の導入と、練習で構成され、その後、ロールプレイ、教育的ゲーム、グループ活動を通じて実用性を高める。									
到達目標	1. 初級レベルの日常会話■ 2. 各回に、ポルトガルの文化に触れる時間を設け、自身の文化と比較し、多様な価値観への関心を深める。■									
使用教材	教材プリント									
参考文献	ブラジル人による生きたブラジルポルトガル語著者：Silvia Noriko Kaneyasu									
評価方法	15%・授業への積極的な参加 15%・アンケートへの参加 20%・宿題 25%・中間グループプレゼンテーション 25%・最終グループプレゼンテーション									
課題・評価に対するフィードバック方法	教員は学生の授業活動をチェックしながら、実践的な活動や内容についてアドバイスや指導を行う。									
オフィスアワー (研究室)	授業日の授業開始前もしくは終了後に 教室等で相談に応じる。				メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容	コースとクラスの紹介								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、疑問点があればメモしておく。							1,5 時間
	1,2	復習	1. 授業で練習した自己紹介や挨拶を覚える。 2. ビデオを見てポルトガル語のアルファベットを覚える。							1,5 時間
2	講義内容	ブラジルについて。自分自身について話す。(ポルトガル語の“Be”動詞 - <i>ser/estar</i>) ■								
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。							1,5 時間

	1,2	復習	自己紹介文を見直す。	1,5 時間
3	講義内容	家族について（私の、あなたの、彼女の、彼の... <i>meu, seu, dele, dela</i> ...）■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。	1,5 時間
	1,2	復習	家族についての話し、文を見直す。	1,5 時間
4	講義内容	数字、曜日、月、天気、について。■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
	1,2	復習	ポルトガル語で曜日、1 から 10 までの数字、月を学ぶ。	1,5 時間
5	講義内容	好き嫌いについて 動詞「gostar」（ポルトガル語で色、食べ物、飲み物など）■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
	1,2	復習	好きなことや嫌いなことについての話し方、文を見直す。	1,5 時間
6	講義内容	物事の説明（形容詞、反対語）■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
	1,2	復習	ポルトガル語の便利な形容詞とその反対語を見直す。	1,5 時間
7	講義内容	日常の活動について（よく使われる規則動詞）■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
	1,2	復習	動詞「comprar」、「estudar」、「trabalhar」、「comer」、「beber」、「escrever」、partir、abrir の活用と使い方の練習。	1,5 時間
8	講義内容	これまでの内容の復習、中間グループ発表■		
	該当到達目標	予習	中間グループプレゼンテーション準備。	1,5 時間
	1,2	復習	授業で示される重要語彙の復習。	1,5 時間
9	講義内容	疑問詞の使い方(Como? Onde?, O que? Quem?...) ■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
	1,2	復習	ポルトガル語での質問文を見直す。（どのように、いつ、どこで、誰...）	1,5 時間
10	講義内容	時間について■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
	1,2	復習	ポルトガル語で時間を言う練習をする。	1,5 時間
11	講義内容	ポルトガル語の動詞「estar」の使い方（前置詞、動詞の動名詞形）■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
	1,2	復習	動詞の継続時制を使う練習をする。	1,5 時間
12	講義内容	私たちが持っているもの、欲しいもの、やっていること。（不規則動詞「ter」、「querer」、「fazer」）■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
	1,2	復習	あなたが持っているもの、欲しいもの、やっていることについて書き、話す練習をする。	1,5 時間

13	講義内容	予定について(動詞「行く」と「来る」 - 「ir」と「vir」)■		
	該当到達目標 1,2	予習	宿題、アンケートの実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
		復習	予定の短いリストを書き、読む練習をする。	1,5 時間
14	講義内容	知っていること、できることについて。(動詞「saber」と「conhecer」の使い方)		
	該当到達目標 1,2	予習	宿題、 アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
		復習	自分にできることについて書き、話す練習をする。	1,5 時間
15	講義内容	プレゼンテーション クラス全体でのディスカッション■		
	該当到達目標 1,2	予習	グループプレゼンテーションの準備。	1,5 時間
		復習	学習した動詞を使用しながら自分自身について話す練習をする。	1,5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		中国語(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL010		
英文名		Chinese						講義形態	講義		
担当教員		渡邊 賢									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		2 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		3	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
		2	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
		1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連											
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		①中国語を学ぶ上で不可欠である発音とその表記と、また最も基礎的な語彙と構文とを身に付け、簡単なコミュニケーションができる語学力の養成を目指す。同時に中国文化の全般に関する興味を喚起したい。 ②1)授業は全 15 回を通じて、音声および表記の反復学習を徹底する形で展開し、中国語基礎学力の定着を目指す。失敗を恐れず、積極的に楽しく学んでほしい。外国語学習には習慣性とある程度の忍耐が必要である。学生諸君には外国語の学習を通じて、習慣的学習や知的忍耐力を身に付けられたい。 2)毎回、中国の文化に触れる時間を設け、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。									
到達目標		1. 中国の地理、風俗および言語とその多様性を理解する。 2. 中国語音を表記する音声記号を習得する。 3. 中国語音を表記する音声記号を正確に発音する能力を育成する。 4. 中国語音を聞いて、弁別する聴力を育成する。 5. 日常会話に不自由しない程度の語彙と語法とを習得する。									
使用教材		教科書『大学一年生のための合格中国語』小幡敏行著(朝日出版社) ISBN97-4-255-45224-1C1087									
参考文献											
評価方法		毎回の小試験 20%、発音中間試験 30%、学期末筆記試験 50%により評価する。 総合評価 60%以上を合格とみなす。									
課題・評価に対するフィードバック方法		毎回の小試験は採点の上、返却する。各自、未熟な点をよく自覚し克服されたい。									
オフィスアワー (研究室)		授業開始前もしくは授業終了後に応じる。				メールアドレス		連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	ガイダンス									
	該当到達目標	予習	シラバス内容、教科書第 8 頁「中国語について」を読み、講義目標や中国語の特性などについて理解する。							1 時間	
	1	復習	不要							0 時間	
2	講義内容	発音の基礎Ⅰ:ピンイン字母、単母音、四声などを学習する。									
	該当到達目標	予習	不要							0 時間	
	2,3,4	復習	授業で学習したことを、毎日、一日 10 分程度、発音する。							1 時間	
3	講義内容	発音の基礎Ⅱ:複合母音、「声(子音)」の唇音・舌尖音・舌根音などを学習する。									

	該当到達目標	予習	不要	0 時間
	2,3,4	復習	授業で学習したことを、毎日、一日 10 分程度、発音する。	1 時間
4	講義内容	発音の基礎Ⅲ：鼻母音、「声(子音)」の舌面音・捲舌音・舌歯音などを学習する。		
	該当到達目標	予習	不要	0 時間
	2,3,4	復習	授業で学習したことを、毎日、一日 10 分程度、発音する。	1 時間
5	講義内容	教科書第 1 課、名前の聞き方・答え方、人称代名詞などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 1 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
6	講義内容	教科書第 2 課、指示代名詞、「是」を用いた判断文などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 2 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
7	講義内容	教科書第 3 課、形容詞述語文や数量表現などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 3 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
8	講義内容	教科書第 4 課、存在文や構造助詞「的」などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 4 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
9	講義内容	教科書第 5 課、介詞構造や方位詞などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 5 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
10	講義内容	教科書第 6 課、連動文や能願動詞などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 7 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
11	講義内容	教科書第 7 課、数量補語や動態助詞の「了」と語気詞の「了」などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 7 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
12	講義内容	教科書第 8 課、動態助詞「過」や程度補語などについての学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 8 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
13	講義内容	教科書第 9 課、能願動詞「会」「能」「可以」などについての学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 9 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
14	講義内容	教科書第 10 課、方向補語や結果補語などについての学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 10 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
15	講義内容	教科書第 11 課、主述述語文や比較表現などについての学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 11 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				26 時間
備考	復習は机に向かうには及ばない。通学時などわずかな余暇を利用して、10 分程度で構わぬので、必ず毎日、口や舌を動かして毎回の授業の内容を消化することが望ましい。毎回の積み重ねが肝要。後刻、自力でマスターしようとしてもほとんど不可能と心得よ。記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			

科目名	ハングル語(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL011		
英文名	Korean						講義形態	講義		
担当教員	丁 美貞									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	2	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
	2	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼン テーショ ン	演習、実験実 習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○						
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① はじめて韓国語をまなぶ学生を対象とする。表音文字であるハングルの表記を覚え、単語や文章を正確に発音する練習をする。会話の練習を通して簡単な挨拶や自己紹介、身の回りのものについて覚える。 ② ハングルの文字と単語の書き方、読み方から発音練習や会話表現の練習を行う。毎回、韓国の文化に触れる時間を設け、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。									
到達目標	1. 正確なハングル文字の表記及び発音を習得する。 2. 합니다体の叙述・疑問に関する表現を習得する。 3. 100 語程度を用いた簡単な挨拶や自己紹介などの基本文型を習得する。 4. 日常生活でよく使われる基本的な表現や言い回しを理解し、簡単な会話ができる。									
使用教材	朴庚卿,仲島淳子,金美順,徐明煥(2023)『ワンアクション韓国語』朝日出版社									
参考文献	斉藤明美(2005)『ことばと文化の日韓比較―相互理解をめざして』世界思想社									
評価方法	授業への参加度 10%、課題・小テスト 30%、定期試験 60%									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題にはコメントを付けて返却する。小テストを毎回返却し解説する。									
オフィスアワー (研究室)	質問等がある場合は授業の前後に応じる。もしくはメールで連絡すること。				メールアドレス (#→@)	mjjeong621#gmail.com				
1	講義内容	授業概要、ハングルについて、基本母音								
	該当到達目標	予習	テキストを用意し、2 頁～6 頁を読んでくる。韓国語のノートを用意すること。						1.5 時間	
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。						1.5 時間	
2	講義内容	基本子音 (平音、激音、濃音)								
	該当到達目標	予習	7 頁～17 頁を読んでくる。						1.5 時間	
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。						1.5 時間	
3	講義内容	複合母音								
	該当到達目標	予習	18 頁～21 頁を読んでくる。						1.5 時間	
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。						1.5 時間	
4	講義内容	終声(パッチム)								
	該当到達目標	予習	22 頁～25 頁を読んでくる。						1.5 時間	
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。						1.5 時間	
5	講義内容	発音の変化								
	該当到達目標	予習	26 頁～30 頁を読んでくる。						1.5 時間	

	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
6	講義内容	基礎まとめ、日本語のハングル表記、ハングル入力(メール)		
	該当到達目標	予習	31 頁～32 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
7	講義内容	「挨拶をする」입니다、助詞「는/은」、助詞「도」、라고/이라고 합니다		
	該当到達目標	予習	32 頁～35 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
8	講義内容	「挨拶をする」입니다、助詞「는/은」、助詞「도」、라고/이라고 합니다、作文練習		
	該当到達目標	予習	34 頁～43 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
9	講義内容	「状況を説明する」합니다体、助詞「를/을」		
	該当到達目標	予習	44 頁～47 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
10	講義内容	「状況を説明する」助詞「에서」、助詞「에」(位置)、否定形「지 않다」、作文練習		
	該当到達目標	予習	48 頁～53 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
11	講義内容	「買い物をする」指示語、助詞「가/이」、助詞「와/과」		
	該当到達目標	予習	54 頁～59 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
12	講義内容	「買い物をする」漢数詞、가/이 아니다、作文練習		
	該当到達目標	予習	60 頁～65 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	「予定を述べる」固有数詞、助詞「에」(時間)、助詞「에」(方向)		
	該当到達目標	予習	66 頁～71 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
14	講義内容	「予定を述べる」助詞「에서/부터～까지」、否定形「안」、를/을 좋아합니다、作文練習		
	該当到達目標	予習	72 頁～77 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
15	講義内容	総まとめ		
	該当到達目標	予習	今まで勉強した内容をもう一度、確認して理解しておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習		1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	毎回課題や小テストを行うため必ず予習・復習を行うこと。音源を活用しテキストの読みを練習すること。 メールを送る際は「件名」に「高崎健康福祉大学ハングル語:名前」を必ず記入すること。			

科目名		情報リテラシー I (リテラシー)						科目ナンバリング	LAL012												
英文名		Information Literacy I						講義形態	講義												
担当教員		白鳥 浩丈、檜府 憲太、木幡 直樹																			
科目に関連した実務経験																					
学年・開講期		1 年 前期		選必・単位数		選択 1 単位															
履修を必須とする資格																					
学位授与方針との対応		3		豊かな人間性			1		学際的な視点から取り組む力												
		2		基礎的知識力			1		応用・実践する能力												
		2		問題解決能力・コミュニケーション能力			1		専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力												
SDGs との関連		4																			
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)		反転授業		ディスカッション、 ディベート		グループ ワーク		プレゼンテ ーション		演習、実験 実習、実技		フィールド ワーク		指導案作成、 模擬授業		リアクション ペーパー		その他	
								○		○		○						○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法		社会福祉学科の学生に求められる福祉現場での基礎的技能を紹介し、模擬的な課題に取り組み、本講義で得られた知見を復習し、総括する(対面授業日に実施予定)																			
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		①大学での学習に必要なパソコンを利用に関わる基礎的技能を身につけることを目標とする。 ②授業は基本的にオンライン・オンデマンドとし、対面授業日を設けて学習到達状況等を確認する。																			
到達目標		1. 書誌的事項を過不足なく記載でき、参考資料や引用文献を適切に取り扱い、レポートが作成できる。 2. メールや SNS を正しく扱うことができる。 3. 授業における調べものやレポート作成に使用するパソコンを適切に取り扱うことができる。 4. 大学のメールや学生ポータルサイト、学習支援サイトを適切に利用できる。 5. 情報倫理やアクセシビリティを理解し、パソコンや情報機器を利用できる。																			
使用教材		オンラインで PDF 資料を配布、動画閲覧																			
参考文献																					
評価方法		各単元で実施する小テストの合計を 100 点満点に換算し、60 点以上を合格とする。																			
課題・評価に対するフィードバック方法		C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点等を収集し、次回講義に回答する。																			
オフィスアワー (研究室)		随時相談に応じる						メールアドレス (#→@)		白鳥:shiratori#takasaki-u.ac.jp 檜府:narafu#takasaki-u.ac.jp 木幡:kohata#takasaki-u.ac.jp											
1	講義内容	レポートの書き方 ①レポートの記載事項 ②参考文献・資料引用の注意点 ③知的財産権・著作権の取り扱い上の注意点																			
		予習	1 回目の講義内容を予め読んでおく													1.5		時間			
	該当到達目標 1	復習	1 回目の講義内容を復習する													1.5		時間			
2	講義内容	メール・SNS 利用のマナーと注意点 ①メールの書き方(件名、本文の書き方、TO/CC/BCC の使い分け、署名) ②ファイルの添付/添付ファイルのダウンロード ③不審メールへの対処 ④SNS 利用上の注意(マナー、リスク、注意事項)																			

		⑤クラウドサービス利用上の注意事項		
	該当到達目標 2,4	予習	2 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	2 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
3	講義内容	Widows PC の操作1(基本操作編) ①起動、シャットダウン、スリープ、ロック、サインアウト/サインイン ②文字入力とカナ漢字変換 ③ネットワークの接続設定(無線/有線)と Web サイトへの接続 ④Web ブラウザの便利機能とセキュリティ管理		
		該当到達目標 3	予習	3 回目の講義内容を予め読んでおく
		復習	3 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
4	講義内容	Widows PC の操作2(エクスプローラ操作編) ①各種表示機能の ON/OFF ②フォルダ・ファイル操作に関する基本機能と応用機能 ③ファイル情報の表示と検索 ④ショートカットの作成		
		該当到達目標 3	予習	4 回目の講義内容を予め読んでおく
		復習	4 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
5	講義内容	Widows PC の操作3(実用操作編) ①画面キャプチャ、アプリ強制終了、スタートアップ設定 ②Windows の各種設定とメンテナンス ③アプリのインストール/アンインストール、関連付け、メニュー登録 ④パーティションの作成 ⑤クラウドの利用(OneDrive、GoogleDrive)		
		該当到達目標 3	予習	5 回目の講義内容を予め読んでおく
		復習	5 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
6	講義内容	Gメールの設定と利用(演習) ①本学メールシステムへのログイン・ログアウト ②画面構成(受信トレイ・送信済み・迷惑メール・ゴミ箱) ③メールの作成・送信(To/Cc/Bcc)・返信・転送 ④署名の設定、ファイルの添付 ⑤実践(履修者同士での練習)		
		該当到達目標 2,4	予習	6 回目の講義内容を予め読んでおく
		復習	6 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
7	講義内容	情報の倫理とモラル ①個人情報保護と情報倫理 ②情報利用のモラル		
		該当到達目標 5	予習	7 回目の講義内容を予め読んでおく
		復習	7 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
8	講義内容	情報通信のアクセシビリティ ①アクセシビリティについて ②キーボード補助機能・マウス補助機能・見やすさの機能・他機能 ③音声認識アプリ・会話補助装置・意思伝達装置・他		
		該当到達目標 5	予習	8 回目の講義内容を予め読んでおく
		復習	8 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間

備考	別途対面授業日を設けて授業を行う(日程は別途アナウンスする)。対面授業日には PC を持参すること。

科目名		情報リテラシーⅡ（リテラシー）						科目ナンバリング	LAL013		
英文名		Information Literacy Ⅱ						講義形態	講義		
担当教員		白鳥 浩丈、檜府 憲太、木幡 直樹									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		1 年 前期		選必・単位数		選択 1 単位					
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		3	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
		2	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
		2	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連		4									
アクティブラーニング実施方法		PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
										○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要		①大学での学習に必要なパソコンを利用に関わる基礎的スキルを身につけることを目標とする。									
①講義の目標		②授業は基本的にオンライン・オンデマンドとし、対面授業日を設けて学習到達状況等を確認する。									
②講義の実施方法											
到達目標		1. 情報量の表示に関わる接頭語が理解でき、正しく使える。 2. 論理演算が理解でき、真理値表やベン図で説明できる。 3. コンピュータの 5 大要素を説明でき、主要な入出力装置やインターフェースを適切に利用できる。 4. OS の役割を説明できる。									
使用教材		オンラインで PDF 資料を配布、動画閲覧									
参考文献											
評価方法		各単元で実施する小テストの合計を 100 点満点に換算し、60 点以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法		C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点等を収集し、次回講義時に回答する。									
オフィスアワー（研究室）		随時相談に応じる。				メールアドレス（#→@）		白鳥：shiratori#takasaki-u.ac.jp 檜府：narafu#takasaki-u.ac.jp 木幡：kohata#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	コンピュータの仕組み1 ①情報量と補助単位（接頭語） ②2 進数、8 進数、16 進数									
	該当到達目標 1	予習	1 回目の講義内容を予め読んでおく						1.5 時間		
		復習	1 回目の講義内容を復習する						1.5 時間		
2	講義内容	コンピュータの仕組み2 ①2値論理 ②真理値表 ③ベン図									
	該当到達目標	予習	2 回目の講義内容を予め読んでおく						1.5 時間		

	2	復習	2 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
3	講義内容	コンピュータの仕組み3 ①コンピュータの概要(5 大要素) ②コンピュータの種類		
	該当到達目標	予習	3 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	3 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
4	講義内容	コンピュータの仕組み4 ①入力装置 ②出力装置 ③記憶装置 ④演算装置 ⑤制御装置		
	該当到達目標	予習	4 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	4 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
5	講義内容	コンピュータの仕組み5 ① 周辺装置(入力装置・出力装置) ② 周辺装置(補助記憶装置) ③ ドライバ		
	該当到達目標	予習	5 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	5 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
6	講義内容	コンピュータの仕組み6 ① OS の種類 ② OS の役割(ファイル管理) ③ OS の役割(タスク管理・メモリ管理・デバイス管理) ④ OS と GUI インターフェイス		
	該当到達目標	予習	6 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	6 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
7	講義内容	コンピュータの仕組み7 ① LAN とインターネット ② IP アドレスとルーティング ③ ファイヤーウォール ④ Web と Web アプリ		
	該当到達目標	予習	7 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	4	復習	7 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
8	講義内容	コンピュータの仕組み8 ① パソコンの構造 ② 筐体 ③ マザーボード ④ 各種拡張ボード		
	該当到達目標	予習	8 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	8 回目の講義内容を復習する	1.5 時間

		合計時間(予習・復習)	24 時間
備考	別途対面授業日を設けて授業を行う(日程は別途アナウンスする)。対面授業日には PC を持参すること。		

科目名	情報リテラシーⅢ（リテラシー）						科目ナンバリング	LAL014		
英文名	Information Literacy Ⅲ						講義形態	演習		
担当教員	白鳥 浩丈、檜府 憲太、木幡 直樹									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	2	基礎的知識力			1	応用・実践する能力				
	2	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	4 9									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○	○			○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	社会福祉学科の学生に求められる福祉現場での基礎的スキルを紹介し、模擬的な課題に取り組み、本講義で得られた知見を復習し、総括する（対面授業日に実施予定）									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①大学での学習に必要な文書作成やプレゼンテーションの基礎的スキルを身につけることを目標とする。 ②授業は基本的にオンライン・オンデマンドとし、対面授業日を設けて学習到達状況等を確認する。									
到達目標	1. Word を使って各種文書を作成できる。 2. PowerPoint を使ってスライドを作成でき、プレゼンテーションが出来る。									
使用教材	30 時間でマスターOffice2021 実教出版									
参考文献										
評価方法	単元毎のテストを行い、合計点を 100 点に換算して、60 点以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点等を収集し、次回講義時に回答する。									
オフィスアワー （研究室）	随時相談に応じる				メールアドレス （#→@）	白鳥：shiratori#takasaki-u.ac.jp 檜府：narafu#takasaki-u.ac.jp 木幡：kohata#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	Word 利用の基礎（演習）1 ①Word の起動と画面構成 ②文書の入力と編集 ③ページ設定								
		該当到達目標	1	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。				1.5 時間	
	1	復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。				1.5 時間			
2	講義内容	Word 利用の基礎（演習）2 ①文書の作成 ②文字の配置 ③文字の修飾								
		該当到達目標	1	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。				1.5 時間	
	1	復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。				1.5 時間			
3	講義内容	Word 利用の基礎（演習）3 ①表の作成 ②表のレイアウトの変更 ③表の編集								
		該当到達目標	1	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。				1.5 時間	
	1	復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。				1.5 時間			

4	講義内容	Word 利用の基礎(演習)4 ①ページの色や罫線 ②ワードアートの利用 ③図形の挿入 ④テキストボックスの挿入			
	該当到達目標 1	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5	時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5	時間
5	講義内容	Word 利用の基礎(演習)5 ①文書作成のまとめ(文書資料の作成)			
	該当到達目標 1	予習	ここまで学習した内容を確認しておくこと。	2	時間
		復習	課題内容に関する課題を行い提出すること。	1	時間
6	講義内容	PowerPoint 利用の基礎(演習)1 ①PowerPoint の画面構成 ②プレゼンテーションの作成 ③文字修飾と図形の活用			
	該当到達目標 2	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5	時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5	時間
7	講義内容	PowerPoint 利用の基礎(演習)2 ①グラフの活用 ②スマートアートの活用 ③アニメーション効果 ④その他の機能			
	該当到達目標 2	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5	時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5	時間
8	講義内容	PowerPoint 利用の基礎(演習)3 ①プレゼンテーション資料作成のまとめ(プレゼンテーション資料の作成)			
	該当到達目標 2	予習	ここまで学習した内容を確認しておくこと。	2	時間
		復習	課題内容に関する課題を行い提出すること。	1	時間
合計時間(予習・復習)					24 時間
備考	講義での演習は、大学から推奨された性能の PC で進めること。なお、講義では office 系ソフト(Word、PowerPoint)を使用するものとする。 別途対面授業日を設けて授業を行う(日程は別途アナウンスする)。対面授業日には PC を持参すること。				

科目名		情報リテラシーⅣ(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL015		
英文名		Information Literacy Ⅳ						講義形態	演習		
担当教員		白鳥 浩丈、檜府 憲太、木幡 直樹									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		1 年 前期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		3	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
		2	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
		2	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連		4									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
					○	○	○			○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法		社会福祉学科の学生に求められる福祉現場での基礎的スキルを紹介し、模擬的な課題に取り組み、本講義で得られた知見を復習し、総括する(対面授業日に実施予定)									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		①大学での学習に必要な表計算処理の基礎的スキルを身につけることを目標とする。 ②授業は基本的にオンライン・オンデマンドとし、対面授業日を設けて学習到達状況等を確認する。									
到達目標		1. Excel を使って基本的な集計ができる。 2. Excel の簡単な関数機能が利用できる。 3. Excel の表データからグラフを作成できる。 4. Excel でデータの検索や並べ替えができる。									
使用教材		30 時間でマスターOffice2021 実教出版									
参考文献											
評価方法		単元毎のテストを行い、合計点を 100 点に換算して、60 点以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法		C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点等を収集し、次回講義時に回答する。									
オフィスアワー (研究室)		随時相談に応じる				メールアドレス (#→@)		白鳥:shiratori#takasaki-u.ac.jp 檜府:narafu#takasaki-u.ac.jp 木幡:kohata#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)1 ①Excel の画面構成 ②ブックの操作 ③データの入力と編集 ④オートフィル									
		該当到達目標	1	予習 1 回目の講義内容を予め読んでおく						1.5 時間	
	1		復習	1	1 回目の講義内容を復習する						1.5 時間
2	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)2 ①計算式の入力 ②表示形式の変更 ③書式の変更									
		該当到達目標	1	予習 2 回目の講義内容を予め読んでおく						1.5 時間	
	1		復習	2	2 回目の講義内容を復習する						1.5 時間

3	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)3 ①合計(SUM)関数 ②平均(AVERAGE)関数 ③最大(MAX)最小(MIN)		
	該当到達目標 2	予習	3 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	3 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
4	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)4 ①グラフの作成		
	該当到達目標 3	予習	4 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	4 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
5	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)5 ①条件判定(IF 関数)と順位付け(RANK.EQ 関数)I		
	該当到達目標 3	予習	5 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	5 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
6	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)6 ①条件判定(IF 関数)と順位付け(RANK.EQ 関数)II ②検索関数の利用		
	該当到達目標 4	予習	6 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	6 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
7	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)7 ①セルの参照機能 ②文字列の結合 ③セルの条件付き書式 ④並び替え		
	該当到達目標 4	予習	7 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	7 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
8	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)8 ①フィルター ②文字の結合 ③Word と Excel の活用		
	該当到達目標 4	予習	8 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	8 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	講義での演習は、大学から推奨された性能の PC で進めること。なお、講義では office 系ソフト(Excel)を使用するものとする。 別途対面授業日を設けて授業を行う(日程は別途アナウンスする)。対面授業日には PC を持参すること。			

科目名	情報リテラシーⅤ(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL016		
英文名	Information Literacy Ⅴ						講義形態	講義		
担当教員	白鳥 浩丈、檜府 憲太、木幡 直樹									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		選択 1 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	2	基礎的知識力			1	応用・実践する能力				
	2	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	② ③ ④									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ① 講義の目標 ② 講義の実施方法	① ネットワークに情報機器を接続し、安全かつ適切に利用できる基礎的知識と技能を身につけることを目標とする。 ② 授業は基本的にオンライン・オンデマンドとし、対面授業日を設けて学習到達状況等を確認する。									
到達目標	1. ネットワーク利用に必要な基礎知識があり、利用できる。 2. 情報セキュリティに関する基礎知識があり、安全に気を配り情報機器やシステムを利用できる。 3. 専攻領域における ICT の利用事例や先進的利用について、説明できる。									
使用教材	配布資料									
参考文献										
評価方法	単元毎のテストを行い、合計点を 100 点に換算して、60 点以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点等を収集し、次回講義時に回答する。									
オフィスアワー (研究室)	随時相談に応じる				メールアドレス (#→@)		白鳥:shiratori#takasaki-u.ac.jp 檜府:narafu#takasaki-u.ac.jp 木幡:kohata#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ネットワークの基礎知識1 ①DHCP(IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS) ②ブラウザ ③プロバイダと回線接続業者								
		該当到達目標	予習	1 回目の講義内容を予め読んでおく					1.5 時間	
	1	復習	1 回目の講義内容を復習する					1.5 時間		
2	講義内容	ネットワークの基礎知識2 ①Wi-Fi によるネットワーク接続(SSID とパスワード、接続周波数) ②4G と 5G・無線 LAN 規格、テザリング ③セキュリティの選択、トラブル対策								
		該当到達目標	予習	2 回目の講義内容を予め読んでおく					1.5 時間	
	1	復習	2 回目の講義内容を復習する					1.5 時間		
3	講義内容	情報セキュリティの基礎1								

		①情報資産の脅威・脆弱性とリスク ②サイバー攻撃 ③マルウェア対策			
	2	該当到達目標	予習	3 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	3 回目の講義内容を復習する	1.5 時間	
4	講義内容	情報セキュリティの基礎2 ①アクセス管理と認証 ②不正アクセス対策 ③暗号とデジタル署名			
	2	該当到達目標	予習	4 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	4 回目の講義内容を復習する	1.5 時間	
5	講義内容	情報セキュリティの基礎3 ①組織のセキュリティ対策 ②情報セキュリティ関連の法規と制度 ③知的財産保護と個人情報保護			
	2	該当到達目標	予習	5 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	5 回目の講義内容を復習する	1.5 時間	
6	講義内容	社会と ICT 活用1 ① 医療・健康分野での ICT の活用 ② 社会福祉分野での ICT の活用 「※健康・医療・福祉分野の ICT 活用」			
	3	該当到達目標	予習	6 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	6 回目の講義内容を復習する	1.5 時間	
7	講義内容	社会と ICT 活用 2 ① 教育分野での ICT の活用			
	3	該当到達目標	予習	7 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	7 回目の講義内容を復習する	1.5 時間	
8	講義内容	社会と ICT 活用3 ① 農業・食糧生産分野での ICT の活用 ② 食品産業分野での ICT の活用 「※食品・農業分野の ICT の活用」			
	3	該当到達目標	予習	8 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	8 回目の講義内容を復習する	1.5 時間	
合計時間(予習・復習)					24 時間
備考	別途対面授業日を設けて授業を行う(日程は別途アナウンスする)。対面授業日には PC を持参すること。				

科目名	情報リテラシーⅥ(リテラシー)						科目 ナンバリング	LAL017		
英文名	Information Literacy Ⅵ						講義形態	講義		
担当教員	白鳥 浩丈、檜府 憲太、木幡 直樹									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	3	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	2	基礎的知識力			1	応用・実践する能力				
	2	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	34									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○	○			○	○
「その他」のアクティブ ラーニング実施方法	社会福祉学科の学生に求められる福祉現場での基礎的スキルを紹介し、模擬的な課題に取り組み、本講義で得られた知見を復習し、総括する(対面授業日に実施予定)									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①情報数理統計・データサイエンスの基礎的知識と処理のスキルを身につけることを目標とする。 ②授業は基本的にオンライン・オンデマンドとし、対面授業日を設けて学習到達状況等を確認する。									
到達目標	1. 度数分布表、累積度数分布表によるデータの整理ができ、 ヒストグラムによるデータの可視化ができる。 2. 最頻値、中央値、平均値の定義と計算方法が説明できる。 3. 四分位数、5 数要約、レンジ、四分位範囲の定義と計算方法を理解し、説明できる。 4. 分散と標準偏差の意味、定義、計算方法を理解し、説明できる。									
使用教材	オンラインで PDF 資料を配布、動画閲覧									
参考文献										
評価方法	各単元で実施する小テストの合計を 100 点満点に換算し、60 点以上を合格とする。									
課題・評価に対する フィードバック方法	C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点等を収集し、次回講義時に回答する。									
オフィスアワー (研究室)	随時相談に応じる				メールアドレス (#→@)	白鳥:shiratori#takasaki-u.ac.jp 檜府:narafu#takasaki-u.ac.jp 木幡:kohata#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	データサイエンスの基礎1 ①データサイエンスとは何か、 ②度数分布表、累積度数分布表によるデータの整理 ③ヒストグラムによるデータの可視化 ④ヒストグラムから読み取るデータの特徴								
		該当到達目標	予習	1 回目の講義内容を予め読んでおく				1.5 時間		
	1	復習	1 回目の講義内容を復習する				1.5 時間			
2	講義内容	データサイエンスの基礎2 ①Excel を使った度数分布とヒストグラムの作成								
	該当到達目標	予習	2 回目の講義内容を予め読んでおく				1.5 時間			

	1	復習	2 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
3	講義内容	データサイエンスの基礎3 ①最頻値、中央値、平均値の定義と計算方法 ②最頻値、中央値、平均値と度数分布、累積度数分布、ヒストグラムの関係		
	該当到達目標	予習	3 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	2	復習	3 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
4	講義内容	データサイエンスの基礎4 ①Excel を使った代表値の算出		
	該当到達目標	予習	4 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	2	復習	4 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
5	講義内容	データサイエンスの基礎5 ①分位数の考え方 ②四分位数、5 数要約、レンジ、四分位範囲の定義と計算方法 ③箱ひげ図による 5 数要約の可視化 ④箱ひげ図とヒストグラムの形状との関係		
	該当到達目標	予習	5 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	5 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
6	講義内容	データサイエンスの基礎6 ①Excel を使った 5 数要約の算出、箱ひげ図の作成		
	該当到達目標	予習	6 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	6 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
7	講義内容	データサイエンスの基礎7 ① Σ 記号の定義と性質 ②分散と標準偏差の意味、定義、計算方法 ③データの一次変換と平均、分散、標準偏差 ④変動係数の定義と性質		
	該当到達目標	予習	7 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	4	復習	7 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
8	講義内容	データサイエンスの基礎8 ①Excel を使った分散、標準偏差、変動係数の算出		
	該当到達目標	予習	8 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	4	復習	8 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	別途対面授業日を設けて授業を行う(日程は別途アナウンスする)。対面授業日には PC を持参すること。 情報リテラシーⅣにおいて、情報リテラシーⅥで扱う課題を課すことがある。			

科目名	情報化社会を生きる ～疑う力・創る力～							科目 ナンバリング	LSH001		
英文名	Confronting the Information Oriented Society: The Power of Doubt and the Power of Creation							講義形態	講義		
担当教員	岡田 豊										
科目に関連した 実務経験	日本経済新聞記者 共同通信記者 テレビ朝日(経済部記者・外報部デスク・プロデューサー・アメリカ総局長・コメンテーター)										
学年・開講期	2年 後期		選必・単位数		選択		2単位				
履修を必須とする 資格											
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性				3	学際的な視点から取り組む力				
	3	基礎的知識力				1	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門職としての倫理性・福祉社会への貢献力				
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
			○	○	○				○		
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法	授業の中で質疑応答を随時実施する。										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①フェイク情報・フェイク映像が氾濫する今の情報化社会において、正確な情報は、水や空気のように欠かさない存在になっている。正確な情報を得られなければ、的確な判断ができないからだ。何も考えず、ただ情報の渦に身を委ねているとすれば、かけがえのない自分の人生の選択を見誤るようなことになりかねない。まず、この基本的な認識を自覚したい。 講義の最大の目標は、情報の「受け手」として、情報をきちんと疑い、正確な事実をしっかりと見極める力を修養することにある。同時に、情報の「送り手」として、正確な事実、的確な見識や、社会創生につながるアイデアを発信する力を修養する。つまり、情報の「受け手」「送り手」双方の立場において、質の高いリテラシーを身に付けるのである。このリテラシーは、学問のみならず、日常生活、仕事など、人間の活動において基本素養と位置付けられよう。 その際、古びた常識に流されずに、自分の心で感じ、自分の頭でオリジナルに考え抜くこと、つまり自考(じこう)をベースにしたい。自考は、今の日本人にとって必要不可欠な思考法だと考える。 ②授業は、時事問題や身近な社会的課題、あるいはみなさんが抱える課題や疑問などを題材にし、グループ討論などを展開する。みなさんが感じていること、考えていることを遠慮なく口に出し合い、大胆に論考していく。予習で求めた課題は、各自が授業で披露する前提である。また、適宜求めるリアクションペーパーには、みなさんのオリジナルな考え方を遠慮なく記してほしい。定期試験も実施する。素の自分をさらけ出し、楽しみつつ、本授業がみなさんの成長のきっかけの1つになることを期待している。										
到達目標	1.情報化社会の諸課題を理解し、それらの解決策を提案できる。■ 2.ジャーナリズムの意義を理解し、市民ジャーナリストとして実践できるリテラシーを身に付ける。■ 3.情報の「受け手」として、情報を疑い、正確な事実を見極めるリテラシーを身に付ける。■ 4.情報の「送り手」として、正確な事実、的確な見識、社会創生につながるアイデアを発信するリテラシーを身に付ける。■ 5.日本の衰退が加速する中、社会創生の意義と必要性を理解する。■ 6.自分の心で感じ、自分の頭で考える自考の意味と意義を理解し、実践できる。■										
使用教材	指定教材なし。録画画像、ニュース記事などを適宜講義で活用する										
参考文献	「自考」岡田豊著(プレジデント社)「他人から教えられた“常識”ではなく、自分自身の頭で考え抜く」という思考法のヒントが書かれている。この授業の理解が深まるので、もし経済的な余裕があれば、購入して読むことをお勧めする。										
評価方法	定期試験 40%、レポート 30%、発言・プレゼンなど授業中のアクション 30%、で評価する。 総合評価 65%以上を合格とする。										

課題・評価に対する フィードバック方法		レポートにはコメントを付けて返却する。授業での発言・プレゼンにはその場で必要に応じて適宜コメントする。定期試験の後に、出題の意図を掲示で示す。			
オフィスアワー (研究室)		授業後の1～2 時間		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する
1	講義内容	ガイダンス			
	該当到達目標	予習	シラバス全体を読み、講義の目標を理解し、講義をどう活用するか考える		1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する		1.5 時間
2	講義内容	基礎的な思考法「自考」を知る■			
	該当到達目標	予習	日本の衰退が進んでいる現状を認識し、その理由について考えておく		1.5 時間
	2,5,6	復習	自考について 3 回目の授業以降に実践できるよう理解する		1.5 時間
3	講義内容	情報・映像のフェイクがあふれる社会■			
	該当到達目標	予習	フェイクの実例を見つけ、それがどんな支障を招いたか、考えておく		1.5 時間
	1,2,3,6	復習	フェイク情報の存在に伴う社会の諸課題を理解し、解決策を見いだす		1.5 時間
4	講義内容	生成AIの功罪			
	該当到達目標	予習	無料の簡単な生成AIソフトで合成画像を作ってみる		1.5 時間
	1,2,3,6	復習	生成AIのメリットとデメリットを整理して理解する		1.5 時間
5	講義内容	事実にとどり着く難しさ■			
	該当到達目標	予習	事実と思っていたのに事実でなかったケースを自らの経験から見つけておく		1.5 時間
	1,2,3,6	復習	事実を得ることは簡単ではないということを理解する		1.5 時間
6	講義内容	ジャーナリズムという社会機能の意義■			
	該当到達目標	予習	1つの情報や提案が社会を良くしたり人を助けたりしたケースを見つけておく		1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	ジャーナリズムが市民や社会にいかに重要か、理解する		1.5 時間
7	講義内容	新聞・テレビへの不信 「マスゴミ」と呼ばれるワケ■			
	該当到達目標	予習	新聞、テレビがジャーナリズム機能を果たしていないケースを見つけておく		1.5 時間
	1,2,3,5,6	復習	新聞、テレビが抱えるジャーナリズムの課題を理解し、解決策を見いだす		1.5 時間
8	講義内容	企業広報とマスメディア■			
	該当到達目標	予習	トヨタ自動車の独自メディア「トヨタタイムズ」の HP を見ておく		1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	自分が組織の広報担当となった場合に情報をどう発信するのかヒントを得る		1.5 時間
9	講義内容	ジャーナリズム先進国アメリカの事情 中国メディアの特性■			
	該当到達目標	予習	日米中のマスメディアの違いについて簡単に調べておく		1.5 時間
	1,2,3,4,6	復習	大手メディアのあり方が社会のあり方にどう影響を与えるかを理解する		1.5 時間
10	講義内容	大きく立ち遅れた日本の「リテラシー教育」■			
	該当到達目標	予習	情報やメディアをめぐるリテラシー教育を自ら受けた経験を整理しておく		1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	情報やメディアをめぐる日本のリテラシー教育の遅れによる弊害を理解する		1.5 時間
11	講義内容	「受け手」と「送り手」の双方の機能を持った市民の課題■			
	該当到達目標	予習	情報の「送り手」として自らがどんな発信をしているのか、まとめておく		1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	個々の市民が健全な情報化社会のカギを握っていることを理解する		1.5 時間
12	講義内容	「疑う力」 情報をどう見極めるか■			
	該当到達目標	予習	情報の疑い方、見極め方について自分がどうやっているか、まとめておく		1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	情報を見極めるためのリテラシーを理解する		1.5 時間
13	講義内容	「新聞・テレビ・SNS」依存から「市民」の自己責任に■			
	該当到達目標	予習	新聞、テレビ、SNS を自らがどう活用し、どう向き合っているかまとめておく		1.5 時間

	1,2,3,4,5,6	復習	情報を自己責任で見極めるという意義を理解する	1.5 時間
14	講義内容	「創る力」市民のジャーナリズムが社会を変える■		
	該当到達目標	予習	社会の課題を自らが発信する情報でどう改善できるのか、案を考えておく	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	ジャーナリズムを支え、社会創生するのは個々の市民だと理解する	1.5 時間
15	講義内容	「疑う力」「創る力」2つのリテラシー普及の意義■		
	該当到達目標	予習	「疑う力」と「創る力」のリテラシーを社会に普及させるための案を考えておく	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	「疑う力」と「創る力」の2つのリテラシーを社会に普及させる意義を理解する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	次の3点を抱いて授業に臨むこと。 1. 「自分の人生を切り拓くのは自分以外にいない」という自覚を持つ。 2. 「自分が生きるこの社会を良くするのは自分だ」という志を持つ。 3. この授業の主人公は自分であり、授業を楽しむマインドを持つ。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	人間行動学(専門教養科目)						科目ナンバリング	LSH002		
英文名	Theory of Human Behavior						講義形態	講義		
担当教員	上原 徹、服部 卓									
科目に関連した実務経験	精神科医として大学病院等で勤務経験 35 年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている(上原)。臨床心理士として大学病院等で勤務経験は約 35 年、現在に至る(服部)。									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	10	豊かな人間性				学際的な視点から取り組む力				
		基礎的知識力				応用・実践する能力				
		問題解決能力・コミュニケーション能力				専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	③16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
										○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	前半の授業で、一部実技や演習を取り入れる									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 学生が行動科学の基礎と応用を学ぶことで、臨床や対人支援の場面におけるクライアントの行動や、支援者である自らの行動との相互作用を理解することができる。前半を服部、後半を上原が担当する。 ② 授業では配布資料も使って要点をまとめ、一部 DVD を視聴しつつ進める。									
到達目標	1. 医療などの対人支援における基本的姿勢を身につける 2. ケアを受ける人の心理や行動を理解できる 3. 適切な対人的交流のための知識と技術が説明できる 4. 他職種と機能的に連携する視点を持てる■ 5. 行動科学や心理学の初級知識を解説できる									
使用教材	特定の教科書は指定しない。C-learning 上に資料をアップする。DVD 教材を用いた授業も行う。									
参考文献	福村出版「行動科学への招待〔改訂版〕現代心理学のアプローチ」など									
評価方法	レポートを 90%とし、授業中の態度を 10%程度参考にして総合評価する。授業態度(不適切な授業態度、不必要な私語など)に問題がある場合は、個別に減点する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートについては、事前に課題内容を告知し、記載方法や出題意図、基準をフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	月 4 金 3 研究室:1 号館 5 階 501				メールアドレス (#→@)		授業で提示する			
1	講義内容	青年期の心理と性格								
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。						0.5 時間	
	3,5	復習	ノートを読むこと。						2.5 時間	
2	講義内容	対人行動								
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。						1 時間	
	1,2	復習	ノートを読むこと。						2 時間	
3	講義内容	集 団■								
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。						1 時間	
	2,3,4	復習	ノートを読むこと。						2 時間	
4	講義内容	異文化と自己								
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。						1 時間	
	3,5	復習	ノートを読むこと。						2 時間	

5	講義内容	ヒューマンファクター——労働の心理学		
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	1,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
6	講義内容	きずなの発達		
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	2,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
7	講義内容	自己の形成と発達		
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	2,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
8	講義内容	医療における人間関係		
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	1,2,3	復習	ノートを読むこと。	2 時間
9	講義内容	健 康		
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	1,2,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
10	講義内容	学習と学習支援		
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
11	講義内容	知 覚		
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
12	講義内容	記 憶		
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
13	講義内容	思 考		
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
14	講義内容	疲労・メンタルヘルスと現代の職場■		
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	4,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
15	講義内容	音楽と脳・まとめ■		
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	複数の学科学生が多人数で聴講し、非常勤講師を迎え行うので、静粛に臨むこと。授業中の不必要な私語や不謹慎な態度は、厳に慎むこと(成績評価に影響する)。DVD 上映による映像授業を多用する。場合によって代替えとなるパワーポイントおよびウェブサイト動画の紹介を行う。 予習・復習については、試験前後の学習で補完すること。オフィスアワーや連絡先は、主任講師の上原がオリエンテーション時に案内する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	健康運動実技(専門教養科目)							科目ナンバリング	LSH003		
英文名	Health Exercise Skills							講義形態	実習		
担当教員	大家 千枝子										
科目に関連した実務経験	「元気に“動こう・歩こう”」実践リーダー養成講座の講師として、リーダー養成事業に従事している。(群馬県健康長寿社会づくり推進課・2018 年度～現在)										
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位								
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性				3	学際的な視点から取り組む力				
		基礎的知識力					応用・実践する能力				
	4	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	③ ⑤										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
				○		○			○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要	健康保持増進のための運動実践力育成と体力の向上を図り、生涯にわたって豊かなスポーツライフを										
①講義の目標	継続する資質と能力を身につける。										
②講義の実施方法	実技を中心に授業を進めていく。										
到達目標	1. 運動に対する欲求や運動が好きであることを感じることができる。 2. 運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる。■ 3. 公正・協力・責任・参画・勇気などに対する意欲をもつことができる。 4. 仲間や教員と積極的にコミュニケーションを図ることができる。 5. 健康・安全を確保して、運動を継続するための工夫や仕組みを創造することができる。■										
使用教材	プリントを適宜配布する。										
参考文献	参考文献を適宜紹介する。										
評価方法	授業ごとの取り組みの評価点 65%、課題 20%、記録(提出物・コメント)15%										
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回の授業後に授業記録カードの提出を求める。授業記録カードに付したコメントやスタンプは必ずチェックすること。また最終日には、授業で学んだことの整理・課題・目標到達度の確認(ルーブリックにて自己評価)を行う。課題は返却しないので、開示を希望するものは本人が直接申し出ること。										
オフィスアワー(研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)		oie#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス・履修者からの需要調査									
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで講義目標などを理解する。要配慮の場合は申し出ること。						0.5	時間	
	3,4,5	復習	到達目標、学位記授与方針、成績評価方法などを確認する。						0.5	時間	
2	講義内容	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施									
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。						0.5	時間	
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。						0.5	時間	
3	講義内容	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施									
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。						0.5	時間	
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。						0.5	時間	
4	講義内容	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施									
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。						0.5	時間	
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。						0.5	時間	
5	講義内容	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施									

	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
		復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
6	講義内容	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施		
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
7	講義内容	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施		
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
8	講義内容	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施		
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
9	講義内容	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施		
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
		復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
10	講義内容	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施		
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
11	講義内容	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施		
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
12	講義内容	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施		
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
13	講義内容	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施		
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
14	講義内容	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施		
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
15	講義内容	まとめ、授業で学んだことの整理・確認テスト(または課題)・目標到達度の確認		
	該当到達目標	予習	これまで授業で学んだこと、自身の授業態度を振り返る。	0.5 時間
		復習	目標達成度の確認。今後どのように運動・スポーツを継続できるか検討する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	【単位修得に必要な時間について】 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 【受講上の注意】 ①運動に適した服装(ジャージ、Tシャツなど)とシューズ(屋内外別)を着用すること。 (※ジーンズ・普段着での受講は不可。スマホや時計、指輪、ブレスレット、ネックレス、ピアスなどは外しておく。) ②原則として見学は認めない。配慮を必要とする学生は初回ガイダンス終了までに申し出ること。 ③貴重品は各自で管理すること。 ④授業で使用する用具は基本的に大学側で用意するが、個人所有のラケットなどがあれば持参を推奨する。 ⑤天候による施設変更がある。C-learning で確認すること。 ⑥フットサルコートの人芝がとれやすく、靴下やウエアに付着することがある。 ⑦屋外でウォーミングアップの際、グラウンドの砂で汚れることがある。※屋外の際は、汚れてもよい服装を推奨。 【履修条件】 準備・後片付けなどの授業運営は受講生の積極的な姿勢を求める。また、技術の高低や得意不得意、好き嫌い、勝ち負けにとらわれず、自分の持っている技術力をいかして、スポーツそのものを楽しむ能力や積極的に体を動かすことが求められる。			

【ルール】

授業開始時には整列し、出席をとる。授業終了時には、振り返りとして授業記録カードの提出がある。次の行為は授業中にしないこと。①ガムを噛む、②授業と関係のないスマホ使用。

■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名		宗教と倫理(専門教養科目)						科目ナンバリング	LSH004		
英文名		Religion and Ethics						講義形態	講義		
担当教員		出雲 春明									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		6	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
			基礎的知識力					応用・実践する能力			
		3	問題解決能力・コミュニケーション能力					専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連		10 16									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
										○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 東西の代表的な宗教・倫理思想に触れることで、世の多様な価値観への理解を養うことを目的とする。また、それによって自己の在り方に対する客観的・批判的な視座を養う。なるべく平易な表現を用いて講義を行う。「宗教」は「非日常的なもの」として敬遠されることも多い。しかし、だからこそ、そこで語られる教えや物語は、しばしば漠然と過ごされている私たちの日常を省みる絶好の機会を提供してくれる。自分が普段どのような判断や行動をしているか常に考えつつ、講義に臨んでほしい。 ② C-learning の教材倉庫にアップした資料に基づいて講義を行い、毎回アンケートに意見を記述してもらう。また、定期的にドリルと小テストを実施して知識の定着を図る。									
到達目標		1. 講義で取り扱った諸宗教・倫理思想の基本について説明することができる。 2. そして、それを自己理解、他者理解に役立てることができる。									
使用教材		C-learning の教材倉庫に資料をアップする。									
参考文献		関根正雄(訳)『旧約聖書 ヨブ記』、岩波文庫、1971 年。 金子大栄『歎異抄』、岩波文庫、改版、1981 年。									
評価方法		授業への取り組み(資料の閲覧状況など)・・・30% 毎回の課題(アンケートの実施状況)、ドリル・小テスト、期末レポート・・・70%									
課題・評価に対するフィードバック方法		毎回、授業終了時に意見や質問などを C-Learning「アンケート」に記述してもらい、それらに対してコメントを返す。有意義な意見に関しても紹介の時間を設ける。									
オフィスアワー(研究室)		1 号館 511 研究室 面談希望の場合は C-Learning「連絡・相談」あるいは左記アドレスまで。				メールアドレス (#→@)		izumo-s#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス									
	該当到達目標	予習	シラバスと予習資料を読み、授業の方法やアウトラインについて理解しておく。						1.5 時間		
	1	復習	自分自身の内にある「思い込み」について考えてみる。						1.5 時間		
2	講義内容	『聖書』の思想:一神教の系譜									
	該当到達目標	予習	予習資料から一神教について知識を得ておく。						1.5 時間		
	1,2	復習	ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、それぞれの特徴について確認しておく。						1.5 時間		

3	講義内容	善人とは何か—『旧約聖書』(『ヨブ記』)より(1)「契約」について		
	該当到達目標	予習	予習資料から、「契約」について知識を得ておく。	1.5 時間
	1,2	復習	「旧約」、「新約」とは何か、「応報主義」とは何か理解する。	1.5 時間
4	講義内容	善人とは何か—『ヨブ記』より(2)生誕の災い		
	該当到達目標	予習	予習資料から『ヨブ記』のプロローグを確認しておく。	1.5 時間
	1,2	復習	ヨブ記、ギリシア神話、仏教などにおけるペシミスティックな人間観を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	善人とは何か—『ヨブ記』より(3)自己の在り方を省みる		
	該当到達目標	予習	予習資料をもとに『ヨブ記』の登場人物の関係性について考えておく。	1.5 時間
	1,2	復習	自己と他者の間にある鏡像的な相互関係について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	善人とは何か—『ヨブ記』より(4)現代の事例から考える		
	該当到達目標	予習	予習資料からヨブと彼の友人たちの議論を確認しておく。	1.5 時間
	1,2	復習	自己批判の欠如がもたらす事態について歴史的事件を通じて理解する。	1.5 時間
7	講義内容	善人とは何か—『ヨブ記』より(5)「懺悔」ということ		
	該当到達目標	予習	予習資料から『ヨブ記』エピローグについて確認しておく。	1.5 時間
	1,2	復習	聖書の思想における「懺悔」の位置づけについて理解する。	1.5 時間
8	講義内容	旧約から新約へ：イエスの教え		
	該当到達目標	予習	予習資料よりイエスの教えについて知識を得ておく。	1.5 時間
	1,2	復習	イエスの教えが登場してくる背景とその意義について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(1)『歎異抄』について		
	該当到達目標	予習	予習資料から『歎異抄』という書について知識を得ておく。	1.5 時間
	1	復習	『歎異抄』第三条の特異性について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(2)罪の意識		
	該当到達目標	予習	予習資料から『歎異抄』第三条に関する様々な見解を確認しておく。	1.5 時間
	1	復習	親鸞の内面を支配していた深い罪の意識を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(3)浄土思想の展開(1)		
	該当到達目標	予習	予習資料から親鸞の師である法然が登場してきた時代背景について知る。	1.5 時間
	1,2	復習	当時の人々の心に去来していた思いについて理解する。	1.5 時間
12	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(4)浄土思想の展開(2)		
	該当到達目標	予習	予習資料から親鸞の生涯について知る。	1.5 時間
	1,2	復習	親鸞の罪の意識の由来について理解し、自らに引きつけて考える。	1.5 時間
13	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(5)「悪人正機説」		
	該当到達目標	予習	予習資料とあわせてこれまでの議論を確認しておく。	1.5 時間
	1,2	復習	『歎異抄』第三条の悪人正機説の意味を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(6)悪の不可避性とそれゆえの無力		
	該当到達目標	予習	予習資料をもとに親鸞における悪について自らに引きつけて考えておく。	1.5 時間
	1,2	復習	我々が気づかず捕らわれている自己中心的な考え方について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	総括—東西の宗教		
	該当到達目標	予習	聖書の思想と浄土思想の核心部分について確認しておく。	1.5 時間
	1,2	復習	東西の宗教、倫理思想の共通点について理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間

備考	C-learning の「教材倉庫」「ドリル」「小テスト」「アンケート」「レポート」機能を活用する。毎回、授業日の前週木曜日に予習用の教材をアップするのであらかじめ目を通しておくこと。授業終了後は復習用の資料をアップするので、よく確認し、アンケートにコメントを記入すること。 詳細な成績評価の方法や、期末レポートの課題や規定など連絡事項は C-learning「ニュース」に公開するので、各自でよく確認しておくこと。 「自分ならどう考え、行動するか」を自らに問いかける姿勢を大切にしてほしい。

科目名	レクリエーション論(専門教養科目)						科目ナンバリング	LSH005		
英文名	Recreation Theory						講義形態	講義		
担当教員	大家 千枝子									
科目に関連した実務経験	レクリエーション・インストラクター養成講習会講師として、公認指導者養成に従事(現在)。(公益財団法人日本レクリエーション協会公認・群馬県レクリエーション協会主催、2015 年度より)									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				3	学際的な視点から取り組む力			
	3	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	③									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	人びとの「心を元気にする」ための手助けができるレクリエーション支援の強み(専門性)を理解する。支援の目的とそれを達成するための方法の裏付けとなる人の心の仕組みを学ぶ。 教員による講義がベースとなるが、グループワークによるテーマに沿った共同作業も予定している。「心を元気にする」ための理論をその実践へと結び付けるため、各グループによるレクリエーション活動を用いた短時間のレクリエーション支援を行い、「集団をリードする」、「コミュニケーションを促進する」、「楽しい空間をつくる」という感覚を養う。									
到達目標	1. レクリエーション支援の目的と手段について、理解し、説明できる。■ 2. レクリエーション活動の楽しさが心を元気にすることについて、理解できる。■ 3. コミュニケーションの促進がレクリエーション支援の基盤であることを理解し、説明できる。■ 4. 授業の性質やグループ内での個人の役割について、理解し、行動することができる。 5. 必要な資料や情報を収集し、意見をまとめ、期日を守って提出できる(C-learning も含む)。									
使用教材	「楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」、公益財団法人日本レクリエーション協会、1,800 円+税 ISBN978-4-931180-95-6									
参考文献	「基本のアイスブレーキング・ゲーム」、公益財団法人日本レクリエーション協会、2,530 円(税込) ISBN978-4-931180-92-5 C2076									
評価方法	授業の取り組み実践点 30%、課題点(小テスト、確認テスト、レク支援経験)70%									
課題・評価に対するフィードバック方法	自分以外の履修者による課題や感想、評価を知ることが学生相互の刺激になるため、C-learning を使ってフィードバックする。また紙媒体の提出課題は、適宜返却を予定している。ただし最終日の確認テストは返却予定がないので、開示を希望するものは本人が直接申し出ること。									
オフィスアワー(研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス(#→@)		oie#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス、さまざまな現場でのレク支援について理解を深める(視聴覚教材使用)■								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。					0.5	時間	
	1,2,3,4,5	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。					0.5	時間	
2	講義内容	レクリエーション支援の方法(アイスブレーキングのプログラムを体験する)■、グループわけ								
	該当到達目標	予習	自身がこれまで体験したレクリエーション活動について振り返る。					0.5	時間	
	1,2,3,4,5	復習	楽しさをとおした心の元気づくりについて授業を振り返って、イメージをもつ。					0.5	時間	
3	講義内容	レクリエーション概論(レクリエーションの主旨と手段を理解する)■、レク支援の説明と日程抽選								
	該当到達目標	予習	テキスト第 1 章(p.9~17)を読んでおくこと。					0.5	時間	

	1,2,3,4,5	復習	楽しさをとおした心の元気づくりについて授業を振り返って、イメージをもつ。	0.5 時間
4	講義内容	楽しさと心の元気づくりの理論(楽しさをとおした心の元気づくりを理解する)		
	該当到達目標	予習	テキスト第2章(p.19～32)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	楽しさをとおした心の元気づくりについて授業を振り返って、イメージをもつ。	0.5 時間
5	講義内容	楽しさと心の元気づくりの理論(楽しさをとおした心の元気づくりを理解する)		
	該当到達目標	予習	テキスト第2章(p.33～36)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
6	講義内容	レクリエーション支援の理論(コミュニケーションと信頼関係づくりの理論)		
	該当到達目標	予習	テキスト第3章(p.37～43)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
7	講義内容	レクリエーション支援の理論(良好な集団づくりの理論)		
	該当到達目標	予習	テキスト第3章(p.44～49)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
8	講義内容	レクリエーション支援の理論(自主的、主体的に楽しむ力を高める理論)		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章(p.50～55)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
9	講義内容	レクリエーション支援の方法(信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ)		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章(p.57～65)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
10	講義内容	レクリエーション支援の方法(ホスピタリティの体験的理解 その1・その)		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章(p.66～69)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
11	講義内容	レクリエーション支援の方法(ハードル設定の習得)		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章(p.70～82)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
12	講義内容	レクリエーション支援の方法(アレンジ方法の習得)		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章(p.70～82)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
13	講義内容	レクリエーション支援の方法(CSSプロセスの習得)		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章(p.70～82)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
14	講義内容	安全管理の方法■		
	該当到達目標	予習	これまでの自身のレク活動における安全管理について振り返る。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
15	講義内容	授業で学んだことの整理・確認テスト(または課題)・目標到達度の確認		
	該当到達目標	予習	これまでの授業を振り返る。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	確認テストについて、授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	【単位修得に必要な時間について】 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			
	【履修条件】 ・心を元気にする知識と技術を習得して人前に立つことを目指すため、積極的に参加する学生を求める。 ・学内外のレクリエーション活動に関心をもち、問題意識をもつことや自らすすんで支援に関わる姿勢を求める。			
	【ルール】 レクリエーション論を学ぶうえで、信頼関係づくりの方法における「あたたかくもてなす意識と配慮」の観点より、次の行為は授業中にしないこと。①ガムを噛む、②授業と関係のないスマホ使用、③私語、わがまま、ふざけた態度をとる、④C-learning「出席管理」の不正行為(発覚時には厳正に対処する)			

	■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	社会福祉の原理と政策Ⅰ（専門導入科目）					科目ナンバリング	SWI101			
英文名	The Principle and Policy of Social WelfareⅠ					講義形態	講義			
担当教員	安達 正嗣									
科目に関連した実務経験	兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員ならびに主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施し調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった（経験）									
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	必修 2単位							
履修を必須とする資格	社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			3	学際的な視点から取り組む力				
	3	基礎的知識力			1	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGsとの関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
										○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	毎回の講義の冒頭で、小テストを実施し、次に採点した前回の小テストを返却する際に、前回の講義の振り返りをおこない、質疑応答を実施する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①現代社会と福祉との関係を具体的に明らかにするなかで、社会と生活のしくみならびに生活と福祉（具体的には家族、地域、社会組織、社会構造の変容などとの関連）について解説することによって、社会福祉や福祉政策について包括的かつ体系的に身につける。 ②毎回、講義内容に関する小テスト（設問）をおこない、受講生が講義内容に対する理解を深めるようにする。									
到達目標	1. 現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、豊かな人間性と倫理観を身につけることができる。 2. 現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、社会福祉に関する基本的な知識力を身につけることができる。 3. 現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、社会福祉問題の解決能力や対人間コミュニケーション能力を身につけることができる。 4. 現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、多分野との連携を考える学際的な視点から取り組む力を身につけることができる。 5. 現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、その解決を探るための応用・実践的な能力を身につけることができる。■ 6. 現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、福祉専門家としての倫理性を会得して、社会福祉への貢献力を身につけることができる。									
使用教材	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉の原理と政策』中央法規									
参考文献	講義中に、適宜指示する。									
評価方法	小テスト（毎回、講義時に講義内容について数問のテスト（設問）をおこなう。遅刻は厳禁。）50%、学期末試験 50%、合計 100%で評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	各受講生は、小テスト（設問）で講義の理解度を自分自身で把握し、質疑応答をおこない、復習に役立てれば、現代社会と福祉について理解できるようになる。									
オフィスアワー（研究室）	火曜日 5限・6限 1号館 6階 510 研究室				メールアドレス （#→@）	adachi-m#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	教科書の序章「社会福祉の原理—その意味と展開」（1～14頁）を解説する。講義に関する小テスト（設問）実施。								
	該当到達目標 1,2,6	予習	序章を読んでおくこと。						1.5 時間	
		復習	序章の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。						1.5 時間	
2	講義内容	講義に関する小テスト（設問）実施。第1章社会福祉の歴史・第1節社会福祉の歴史を学ぶ視点（15～21頁）を解説する。								

	該当到達目標 2,3,6	予習	第1章・第1節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第1章・第1節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
3	該当到達目標 2,3,6	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第1章 <u>社会福祉の歴史</u> ・第2節欧米の社会福祉の歴史的展開(22～33頁)を解説する。	
		予習	第1章・第2節を読んでおくこと。	1.5 時間
4	該当到達目標 2,3,6	復習	第1章・第2節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
		講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第1章 <u>社会福祉の歴史</u> ・第3節日本の社会福祉の歴史的展開(34～45頁)を解説する。	
5	該当到達目標 2,3,6	予習	第2章・第3節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第2章・第3節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
6	該当到達目標 1,2,4,6	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第2章 <u>社会福祉の思想・哲学・理論</u> ・第1節社会福祉の思想・哲学(47～59頁)を解説する。	
		予習	第2章・第1節を読んでおくこと。	1.5 時間
7	該当到達目標 1,2,4,6	復習	第2章・第1節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
		講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第2章 <u>社会福祉の思想・哲学・理論</u> ・第2節社会福祉の理論(60～69頁)を解説する。	
8	該当到達目標 2,3,4,6	予習	第2章・第2節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第2章・第2節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
9	該当到達目標 2,3,4,5,6	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第2章 <u>社会福祉の思想・哲学・理論</u> ・第3節社会福祉の論点(70～79頁)を解説する。	
		予習	第2章・第3節を読んでおくこと。	1.5 時間
10	該当到達目標 2,3,4,5,6	復習	第3章・第3節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
		講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第2章 <u>社会福祉の思想・哲学・理論</u> ・第4節社会福祉の対象とニーズ(80～88頁)を解説する。	
11	該当到達目標 2,3,4,6	予習	第2章・第4節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第2章・第4節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
12	該当到達目標 2,3,4,5,6	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第3章 <u>社会問題と社会構造</u> ・第1節現代における社会問題(89～99頁)を解説する。実務経験で得た地域社会に関する調査の経験などを提示する。■	
		予習	第3章・第1節を読んでおくこと。	1.5 時間
13	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	復習	第3章・第1節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
		講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第3章 <u>社会問題と社会構造</u> ・第2節社会問題の構造的背景(100～108頁)を解説する。実務経験で得た地域社会に関する調査の経験などを提示する。■	
14	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	第3章・第2節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第3章・第2節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
15	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第4章 <u>福祉政策の基本的な視点</u> ・第1節福祉政策とは何か(109～118頁)を解説する。	
		予習	第4章・第1節を読んでおくこと。	1.5 時間
16	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	復習	第4章・第1節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
		講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第4章 <u>福祉政策の基本的な視点</u> ・第2節福祉政策において重要な概念・理念(119～131頁)を解説する。	
17	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	第4章・第2節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第4章・第2節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
18	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第5章 <u>福祉政策におけるニーズと資源</u> ・第1節ニーズ(必要)・前半(133～144頁)を解説する。	
		予習	第5章・第1節・前半を読んでおくこと。	1.5 時間
19	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	復習	第5章・第1節・前半の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
		講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第5章 <u>福祉政策におけるニーズと資源</u> ・第1節ニーズ(必要)・後半(179～202頁)を解説する。	
20	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	第5章・第1節・後半を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第5章・第1節・後半の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間

	1,2,3,4,5,6	復習	第 5 章・第 1 節・後半の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
15	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第 5 章福祉政策におけるニーズと資源・第 2 節資源(リソース)(152~163 頁)		
	該当到達目標	予習	第 5 章・第 2 節を読んでおくこと。	3 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	第 5 章・第 2 節の内容。提示された概念や制度などを理解しておくこと。	3 時間
合計時間(予習・復習)				48 時間
備考	小テスト(設問)と学期末試験については、対面授業と遠隔授業でやり方等が異なることがある。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	社会福祉の原理と政策Ⅱ（専門導入科目）					科目ナンバリング	SWI102							
英文名	The Principle and Policy of Social Welfare Ⅱ					講義形態	講義							
担当教員	安達 正嗣													
科目に関連した実務経験	兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員ならびに主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施し調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった（経験）													
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	必修 2 単位											
履修を必須とする資格	社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士													
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			3	学際的な視点から取り組む力								
	3	基礎的知識力			1	応用・実践する能力								
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力								
SDGs との関連	①	②	③	④	⑤	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑯	⑰
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他				
										○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法	毎回の講義の冒頭で、小テストを実施し、次に採点した前回の小テストを返却する際に、前回の講義の振り返りをおこない、質疑応答を実施する。													
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	現代社会と福祉との関係を具体的に明らかにするなかで、社会と生活のしくみならびに生活と福祉（具体的には家族、地域、社会組織、社会構造の変容などとの関連）について解説することによって、社会福祉や福祉政策について包括的かつ体系的に身につける。 毎回、講義内容に関する小テスト（設問）をおこない、受講生が講義内容に対する理解を深めるようにする。													
到達目標	1. 現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、豊かな人間性と倫理観を身につけることができる。 2. 現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、社会福祉に関する基本的な知識力を身につけることができる。 3. 現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、社会福祉問題の解決能力や対人間コミュニケーション能力を身につけることができる。 4. 現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、多分野との連携を考える学際的な視点から取り組む力を身につけることができる。 5. 現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、その解決を探るための応用・実践的な能力を身につけることができる。■ 6. 現代社会における福祉の状況・問題を理解することで、福祉専門家としての倫理性を会得して、社会福祉への貢献力を身につけることができる。													
使用教材	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉の原理と政策』中央法規													
参考文献	講義中に、適宜指示する。													
評価方法	小テスト（毎回、講義時に講義内容について数問のテスト（設問）をおこなう。遅刻は厳禁。）50%、学期末試験 50%、合計 100%で評価する。													
課題・評価に対するフィードバック方法	各受講生は、小テスト（設問）で講義の理解度を自分自身で把握し、質疑応答をおこない、復習に役立てれば、現代社会と福祉について理解できるようになる。													
オフィスアワー（研究室）	火曜日 5 限・6 限					メールアドレス（#→@）	adachi-m#takasaki-u.ac.jp							
1	講義内容	第 6 章福祉政策の構成要素と過程・第 1 節福祉政策の構成要素（165～177 頁）を解説する。講義に関する小テスト（設問）実施。												
	該当到達目標	予習	第 6 章・第 1 節を読んでおくこと。										1.5 時間	
	1,2,3,4,5,6	復習	第 6 章・第 1 節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。										1.5 時間	

2	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第6章福祉政策の構成要素と過程・第2節福祉政策の過程と評価(178～192頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	第6章・第2節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第6章・第2節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
3	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第7章福祉政策の動向と課題・第1節福祉政策と包括的支援の現状(194～213頁)を解説する。 <u>地域共生社会の実現に向けた制度や施策、介護実践に関連する諸制度を含む。</u>		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	第7章・第1節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第7章・第1節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
4	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第7章福祉政策の動向と課題・第2節福祉政策と包括的支援の課題(214～221頁)を解説する。 <u>地域共生社会の実現に向けた制度や施策、介護実践に関連する諸制度を含む。</u>		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	第7章・第2節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第7章・第2節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
5	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第8章福祉政策と関連施策・第1節保健医療政策(223～227頁)を解説する。		
	該当到達目標 4,5,6	予習	第8章・第1節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第8章・第1節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
6	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第8章福祉政策と関連施策・第2節教育政策(228～232頁)を解説する。		
	該当到達目標 4,5,6	予習	第8章・第2節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第8章・第2節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
7	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第8章福祉政策の関連領域・第3節住宅政策(233～238頁)を解説する。		
	該当到達目標 4,5,6	予習	第8章・第3節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第8章・第3節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
8	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第8章福祉政策の関連領域・第4節労働政策(239～244頁)を解説する。		
	該当到達目標 4,5,6	予習	第8章・第4節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第8章・第4節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
9	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第8章福祉政策と関連領域・第5節災害政策(245～251頁)を解説する。 <u>実務経験で得た地域社会の災害に関する調査の経験などを提示する。■</u>		
	該当到達目標 4,5,6	予習	第8章・第5節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第8章・第5節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
10	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第9章福祉サービスの供給と利用の過程・第1節福祉供給部門(253～262頁)を解説する。 <u>社会保障制度、高齢者福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度を含む。実務経験で得た行政機関の福祉部門などに関する情報などを提示する。■</u>		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	第9章・第1節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第9章・第1節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
11	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第9章福祉サービスの供給と利用の過程・第2節福祉供給過程(253～262頁)を解説する。 <u>社会保障制度、高齢者福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度を含む。実務経験で得た行政機関の福祉部門などに関する情報などを提示する。■</u>		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	第9章・第1節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第9章・第1節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
12	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第9章福祉サービスの供給と利用の過程・第3節福祉利用過程(272～280頁)を解説する。 <u>社会保障制度、高齢者福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度を含む。実務経験で得た行政機関の福祉部門などに関する情報などを提示する。■</u>		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	第9章・第3節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第9章・第3節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間

13	講義内容	講義に関する小テスト実施。第 10 章福祉政策の国際比較・第 1 節国際比較の視点(281～288 頁)・第 2 節福祉政策の動向: 欧米(289～295 頁)を解説する。		
	該当到達目標 2,4,5,6	予習	第 10 章・第 1 節・第 2 節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第 10 章・第 1 節・第 2 節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
14	講義内容	講義に関する小テスト実施。第 10 章福祉政策の国際比較・第 3 節福祉政策の動向: 東アジア(296～300 頁)・第 4 節福祉政策の新しい潮流と国際比較の新しい課題(301～303 頁)を解説する。日本と韓国の高齢者福祉と介護保険制度を含む。		
	該当到達目標 2,4,5,6	予習	第 10 章・第 3 節・第 4 節を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第 10 章・第 3 節・第 4 節の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	1.5 時間
15	講義内容	講義に関する小テスト実施。終章これからの社会福祉－出発点・到達点・展望－(305～325 頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	終章を読んでおくこと。後期の講義内容を復習しておくこと。	3 時間
		復習	終章、後期全体の内容、提示された概念や制度などを理解しておくこと。	3 時間
合計時間(予習・復習)				48 時間
備考	小テスト(設問)と学期末試験については、対面授業と遠隔授業でやり方等が異なることがある。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		ソーシャルワークの基盤と専門職(専門導入科目)						科目ナンバリング	SWI103		
英文名		Basic Social Work Theory						講義形態	講義		
担当教員		青木 尚人									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		1 年 前期		選必・単位数		必修 2 単位					
履修を必須とする資格		「社会福祉士」「精神保健福祉士」「介護福祉士」指定科目									
学位授与方針との対応		1	豊かな人間性				3	学際的な視点から取り組む力			
		3	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
		1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連		① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑪ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○		○	○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		①ソーシャルワーク専門職である社会福祉士・精神保健福祉士の法的な位置づけとその社会的意義について学ぶ。また、ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解を深める。さらに、ソーシャルワーク実践における価値規範と倫理について学ぶ。 ②授業は、指定した教科書の中から重要な部分を抜粋し、ソーシャルワークの具体例を示しながら、社会福祉士・精神保健福祉士としてのあり方を教授する。また、本科目は社会福祉士・精神保健福祉士国家試験指定科目であるため、国家試験で頻出する内容についても、整理して説明する。									
到達目標		1. 社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて説明できる。 2. ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について説明できる。 3. ソーシャルワークの価値規範と倫理について説明できる。									
使用教材		『最新 社会福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(中央法規出版) 講義は教科書を中心に進めるが、レジュメ及び資料を毎回配布する。									
参考文献		参考文献等は随時紹介する。									
評価方法		期末試験 60%、課題提出 40%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法		毎回の授業で、予習・復習の状況及び授業内容の理解度、感想、質問について確認しフィードバックを行う。授業の感想については、次の授業の冒頭で紹介し振り返りを行う。									
オフィスアワー (研究室)		オフィスアワーは初回授業時に提示する。質問や意見はメールでも随時受け付ける。				メールアドレス (#→@)		メールアドレスは初回授業時に提示する。			
1	講義内容	ガイダンス、ソーシャルワーク専門職である社会福祉士及び精神保健福祉士									
	該当到達目標 1	予習	カリキュラムにおける本科目の位置づけ及び、講義目標、到達目標等を把握する。該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。							1.5 時間	
		復習	当日の講義内容から、本科目の講義目標、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する。ソーシャルワーク専門職である社会福祉士及び精神保健福祉士について授業内容を復習し、内容を理解する。							1.5 時間	
2	講義内容	社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性とコンピテンシー									
	該当到達目標 1,2	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。							1.5 時間	
		復習	社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性とコンピテンシーについて授業内容を復習し、内容を理解する。							1.5 時間	
3	講義内容	ソーシャルワークの定義									
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。							1.5 時間	

	2	復習	ソーシャルワークの定義について授業範囲を復習し、内容を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	ソーシャルワークの構成要素		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	2	復習	ソーシャルワークの構成要素について授業範囲を復習し、内容を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	ソーシャルワークの原理		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	2	復習	ソーシャルワークの原理について授業範囲を復習し、内容を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	ソーシャルワークの理念、人間の尊厳と自立		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	ソーシャルワークの理念、人間の尊厳と自立について授業範囲を復習し、内容を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	ソーシャルワークの源流と基礎確立期		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	ソーシャルワークの源流と基礎確立期について授業範囲を復習し、内容を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	ソーシャルワークの発展期		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	ソーシャルワークの発展期について授業範囲を復習し、内容を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	ソーシャルワークの展開期と統合化		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	ソーシャルワークの展開期と統合化について授業範囲を復習し、内容を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	日本におけるソーシャルワークの形成過程		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	日本におけるソーシャルワークの形成過程について授業範囲を復習し、内容を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	ソーシャルワークの基盤としての地域社会		
	該当到達目標	予習	ソーシャルワークの基盤としての地域社会という観点から、自身が関係する地域社会の現状について調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	ソーシャルワークの基盤としての地域社会について授業範囲を復習し、内容を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	専門職倫理の概念と倫理綱領		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	3	復習	専門職倫理の概念と倫理綱領について授業範囲を復習し、内容を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	倫理的ジレンマ		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	3	復習	倫理的ジレンマについて授業範囲を復習し、内容を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	ソーシャルワーカーに求められる基本的態度と自己覚知		
	該当到達目標	予習	バイステックの7原則、自己覚知について調べる。	1.5 時間
	3	復習	ソーシャルワーカーに求められる基本的態度と自己覚知について授業範囲を復習し、内容を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ・期末試験		
	該当到達目標	予習	今までの学習内容を振り返り、知識の定着度を確認する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	期末試験において間違えた箇所を復習する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間

備考	オンラインで実施する場合は、別途 C ラーニング等で学習方法を周知する。

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)(専門導入科目)						科目ナンバリング	SWI104		
英文名	Basic Social Work Theory (advanced)						講義形態	講義		
担当教員	青木 尚人									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		必修 2 単位					
履修を必須とする資格	「社会福祉士」「介護福祉士」指定科目									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			3	学際的な視点から取り組む力				
	3	基礎的知識力			1	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑪ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
		○		○	○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①ジェネラリスト・ソーシャルワークの概要を理解することを目標に、社会福祉士としての職域と求められる役割、ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性、総合的かつ包括的な支援と多職種連携のあり方について学修する。 ②授業は、指定した教科書の中から重要な部分を抜粋して講義し、ソーシャルワークの具体例を示しながら、社会福祉士としてのあり方を教授する。また、本科目は社会福祉士国家試験指定科目であるため、国家試験で頻出する内容についても、整理して説明する。									
到達目標	1. 社会福祉士の職域と求められる役割について説明できる。 2. ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について説明できる。 3. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について説明できる。 4. 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について説明できる。									
使用教材	『最新 社会福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(中央法規出版) 講義は教科書を中心に進めるが、レジュメ及び資料を毎回配布する。									
参考文献	参考文献等は随時紹介する。									
評価方法	期末試験 60%、課題提出 40%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回の授業で、予習・復習の状況及び授業内容の理解度、感想、質問について確認しフィードバックを行う。授業の感想については、次の授業の冒頭で紹介し振り返りを行う。									
オフィスアワー (研究室)	初回授業時に提示する。質問や意見はメールでも随時受け付ける。				メールアドレス (#→@)		メールアドレスは初回授業時に提示する。			
1	講義内容	ガイダンス、ソーシャルワーク専門職の概念と範囲								
	該当到達目標 1,2	予習	カリキュラムにおける本科目の位置づけ及び、講義目標、到達目標等を把握する。該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。						1.5 時間	
		復習	当日の講義内容から、本科目の講義目標、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する。ソーシャルワーク専門職の概念と範囲について授業内容を復習し、内容を理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	社会福祉士の職域と役割								
	該当到達目標 1,2	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。						1.5 時間	
		復習	社会福祉士の職域と役割について授業内容を復習し、内容を理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	諸外国の動向								
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。						1.5 時間	

	1,2	復習	諸外国の動向について授業内容を復習し、内容を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	多様な組織・機関・団体における専門職		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	多様な組織・機関・団体における専門職について授業内容を復習し、内容を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	様々な構造に働きかけるソーシャルワーク		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	3	復習	ソーシャルワークの対象について授業内容を復習し、内容を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	ミクロ・メゾ・マクロレベルのソーシャルワーク		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	3	復習	ミクロ・メゾ・マクロレベルのソーシャルワークについて授業内容を復習し、内容を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	3,4	復習	総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点について授業内容を復習し、内容を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	3,4	復習	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容、その際に求められる人間関係の形成とコミュニケーションの基礎について授業内容を復習し、内容を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	多職種連携の意義と内容		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	4	復習	多職種連携およびチームアプローチ、チームマネジメントの意義と内容について授業内容を復習し、内容を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	ソーシャルサポートネットワークの意義と内容		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	4	復習	ソーシャルサポートネットワークの意義と内容について授業内容を復習し、内容を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	エンパワメントとセルフヘルプ		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	4	復習	エンパワメントとセルフヘルプについて授業内容を復習し、内容を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	総合的かつ包括的な支援の具体的展開		
	該当到達目標	予習	総合的かつ包括的な支援の具体的展開例について調べる。	1.5 時間
	3,4	復習	総合的かつ包括的な支援の具体的展開について授業内容を復習し、内容を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	地域を基盤としたソーシャルワーク		
	該当到達目標	予習	地域を基盤としたソーシャルワークについて調べる。	1.5 時間
	3,4	復習	地域を基盤としたソーシャルワークについて授業内容を復習し、内容を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	ソーシャルワークの基盤と専門職		
	該当到達目標	予習	専門職としてのソーシャルワーカーに必要な基盤とは何か、これまでの学習内容を振り返り、言語化する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ソーシャルワークの基盤と専門職の授業内容を復習し、内容を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ・期末試験		
	該当到達目標	予習	今までの学習内容を振り返り、知識の定着度を確認する。	1.5 時間

令和 6 年度 社会福祉学科シラバス

	1,2,3,4	復習	期末試験において間違えた箇所を復習する。	1.5	時間
合計時間(予習・復習)				45	時間
備考	オンラインで実施する場合は、別途 C ラーニング等で学習方法を周知する。				

科目名	高齢者福祉(専門導入科目)							科目ナンバリング	SWI105	
英文名	Social Welfare for the Elderly							講義形態	講義	
担当教員	原田 欣宏									
科目に関連した実務経験	介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする資格	社会福祉士、介護福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	5	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	3 5 10 11 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○							○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①高齢者の生活を理解するために、高齢者に特徴的な健康に関する基礎的知識を理解する。そのうえで、専門職がどのような視点で支援を行うべきか、対象者や場面による違いをふまえた支援の方法について理解する。 ②各講義ではテーマについて概要を説明する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。									
到達目標	1. 高齢者の身体的特徴と、その介護方法について説明することができる 2. 高齢者に関する社会問題への福祉専門職としての役割を説明することができる 3. 高齢者福祉制度の発展過程の概要について説明することができる 4. 介護の概要と専門職としての対応方法を説明することができる									
使用教材	「新エッセンシャル高齢者福祉論」田中康雄編著 みらい									
参考文献	授業時に紹介する									
評価方法	期末テスト 80%、レポートなどの課題 20%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートなどの課題は提出後の授業で出題の意図と解答例を提示して説明する。 期末試験の後に、出題の意図を掲示によって示す。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3 時限 質問はメールでも受け付ける。 (1 号館 5 階 506 研究室)				メールアドレス (#→@)		harada#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス／少子高齢社会の到来								
	該当到達目標	予習	教科書「第1章」に目を通す。シラバスを読んで講義の目標などを理解する。						1.5 時間	
	1,2	復習	人口動向、世帯動向、人口減少社会と課題を理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	高齢者の定義と特性								
	該当到達目標	予習	教科書「第2章」に目を通す。						1.5 時間	
	1,2	復習	高齢者支援の基本的支援を理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	高齢者の生活 老化に伴うこころとからだの変化と生活								
	該当到達目標	予習	教科書「第 3 章」に目を通す。						1.5 時間	
	1,2	復習	地域社会の変化と少子高齢化問題の関係、社会参加と就労を理解する。						1.5 時間	
4	講義内容	高齢者を取り巻く社会環境								
	該当到達目標	予習	教科書「第 4 章」に目を通す。						1.5 時間	
	1,2	復習	高齢者の世帯状況について整理する。						1.5 時間	

5	講義内容	高齢者福祉の歴史と理念,		
	該当到達目標	予習	教科書「第5章」に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	高齢者福祉の歴史的展開から制度発達の過程を整理する。	1.5 時間
6	講義内容	老人福祉法		
	該当到達目標	予習	教科書「第6章」に目を通す。	1.5 時間
	2,3	復習	高齢者保健福祉の法体系、老人福祉法の制度移行過程を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	介護保険制度		
	該当到達目標	予習	教科書「第7章」に目を通す。	1.5 時間
	2,3	復習	介護保険制度の概要を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	介護保険サービス:居宅・予防・地域支援■		
	該当到達目標	予習	教科書「第8章」に目を通す。	1.5 時間
	2,3	復習	介護保険サービスの内容と地域包括支援センターの役割を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	介護保険サービス:施設サービス		
	該当到達目標	予習	教科書「第9章」に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	施設サービスが目指す地域社会、専門職の役割を整理する。	1.5 時間
10	講義内容	高齢者医療確保法、高齢者虐待防止法		
	該当到達目標	予習	教科書「第10章」に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	高齢者の医療と福祉の連携方法を整理する。	1.5 時間
11	講義内容	高齢者の権利擁護 パリアフリー法、高齢者住まい法、高齢者雇用安定法		
	該当到達目標	予習	教科書「第11章」に目を通す。	1.5 時間
	1,4	復習	高齢者の住居を安定的に確保する方法について整理する。	1.5 時間
12	講義内容	高齢者のための様々な環境の整備 育児・介護休業法、市町村独自の高齢者支援		
	該当到達目標	予習	教科書「第12章」に目を通す。	1.5 時間
	1,4	復習	企業、地域の取り組みと制度の連携について整理する。	1.5 時間
13	講義内容	高齢者の雇用安定と家族の就労上の介護休業支援		
	該当到達目標	予習	教科書「第13章」に目を通す。	1.5 時間
	1,4	復習	高齢者と家族等に対する支援の実際を整理する。	1.5 時間
14	講義内容	高齢者と家族を支援する組織と専門職、市民の役割と連携		
	該当到達目標	予習	教科書「第14章」に目を通す。	1.5 時間
	1,4	復習	高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割■	1.5 時間
15	講義内容	高齢者と家族等への相談援助		
	該当到達目標	予習	教科書「第15章」に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	地域包括ケアシステムの概要を整理する■。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	「予習」欄にある「目を通す」とは、「通読し不明な語句を事前に調べること」を指す。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	児童・家庭福祉(専門導入科目)							科目ナンバリング	SWI106		
英文名	Welfare Services for Children and Their Families							講義形態	講義		
担当教員	大川 健次郎										
科目に関連した実務経験	市区町村社会福祉協議会に勤務(経験)										
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位								
履修を必須とする資格	「社会福祉士」指定科目、「介護福祉士」指定科目										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				3	学際的な視点から取り組む力				
	3	基礎的知識力				1	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	①	③	④	⑤		⑩	⑪	⑫		⑯	
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
									○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境、福祉需要(子育て・ひとり親家庭、児童虐待及びDVの実態を含む)について理解できるようにする。児童・家庭福祉制度の発展過程について理解できるようにする。児童の権利について理解できるようにする。相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉に関わる法制度について理解できるようにする。支援を必要とする子ども・家族に対する援助についても学習する。 ②授業は、教科書とパワーポイントを使用して要点をまとめて進めていく。スライドは随時プリントして配布するので、必要に応じてこれに記入して学習を進めること。支援を必要とする子ども・家族に対する援助についても学習する。										
到達目標	1.児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とこれを取り巻く社会環境について理解できる。 2.児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について理解できる。 3.児童や家庭福祉に係る法制度について理解できる。 4.児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について理解できる。 5.児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解できる。■										
使用教材	教科書「社会福祉学習双書 児童・家庭福祉」 全国社会福祉協議会										
参考文献	授業内で指示する										
評価方法	定期試験 80% 授業参加度 20%										
課題・評価に対するフィードバック方法	授業参加度をミニレポートで測る。ミニレポートにコメントをつけて返却し学生にフィードバックする。										
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。研究室 508 号室					メールアドレス (#→@)	okawa#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境									
	該当到達目標	予習	教科書の「児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境」部分を熟読する							1.5	時間
	1	復習	ひとり親家庭、児童虐待、DV 地域における子育て支援、青少年の実態を理解する							1.5	時間
2	講義内容	児童・家庭福祉の歴史と児童・家庭の定義と権利									
	該当到達目標	予習	教科書の「子どもの人権・権利保障」「児童家庭福祉の理念と基本的理解」部分を熟読する							1.5	時間
	1, 2, 3	復習	児童と家庭の権利保障、児童・家庭福祉の歴史を理解する							1.5	時間

3	講義内容	児童福祉法の理念と概要・こども基本法の目的・定義・基本理念等		
	該当到達目標	予習	教科書「児童家庭福祉の理念と基本的理解」の「児童家庭福祉の理念」部分を熟読する	1.5 時間
	1, 2	復習	児童福祉法の理念、児童憲章の理念、児童の権利に関する条約を理解する	1.5 時間
4	講義内容	児童・家庭福祉の相談機関(児童相談所の役割と実際)		
	該当到達目標	予習	教科書「児童家庭福祉制度における関係機関と専門職の役割」の「児童相談所役割」部分を熟読する	1.5 時間
	1, 4	復習	児童・家庭福祉制度における相談体制、主に児童相談所の枠割と組織を理解する	1.5 時間
5	講義内容	児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際		
	該当到達目標	予習	教科書「児童家庭福祉制度における関係機関と専門職の役割」部分を熟読する	1.5 時間
	1, 2, 4	復習	児童・家庭福祉制度に関わる行政、NPO などの役割を理解する	1.5 時間
6	講義内容	児童・家庭に対する法制度① 児童虐待対策(児童虐待の防止等に関する法律を中心に)		
	該当到達目標	予習	教科書「児童虐待への対応」部分を熟読する	1.5 時間
	4	復習	児童虐待の現状、それに対応する児童虐待の防止等に関する法律を理解する	1.5 時間
7	講義内容	児童・家庭に対する法制度② ひとり親家庭に関する福祉(母子及び父子並びに寡婦福祉法・児童扶養手当法を中心に)		
	該当到達目標	予習	教科書「子どもと家庭にかかわる貧困、女性の福祉」部分を熟読する	1.5 時間
	4	復習	母子及び父子並びに寡婦福祉法、児童扶養手当法、売春防止法を理解する	1.5 時間
8	講義内容	児童・家庭に対する法制度③ 子ども・子育て制度		
	該当到達目標	予習	教科書「子育て支援・保育・児童健全育成」部分を熟読する	1.5 時間
	4	復習	保育をめぐる制度の流れ・概要、地域子育て支援の意味と歴史的経緯、地域子ども・子育て支援事業を理解する	1.5 時間
9	講義内容	児童・家庭に対する法制度④ ドメスティック・バイオレンスへの対応(DV 法・女性支援法・売春防止法を中心に)		
	該当到達目標	予習	教科書「子どもと家庭にかかわる貧困、女性の福祉」の「DV 防止の支援」部分を熟読する	1.5 時間
	4	復習	女性福祉の歴史的経緯、DV 防止法、女性支援法について理解する	1.5 時間
10	講義内容	児童・家庭に対する法制度⑤ 母子保健(母子保健法を中心に)		
	該当到達目標	予習	教科書「母子保健」部分を熟読する	1.5 時間
	4	復習	母子保健の目的と趣旨、母子保健施策の現状と今後の課題について理解する	1.5 時間
11	講義内容	児童・家庭に対する法制度⑥ 健全育成(児童手当法を中心に)		
	該当到達目標	予習	教科書「子育て支援・保育・児童健全育成」の「児童健全育成」部分を熟読する	1.5 時間
	4	復習	少子化対策の流れ、児童手当法について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	児童・家庭に対する法制度⑦ 子育て支援(次世代育成支援対策推進法、少子化社会対策基本法を中心に)		
	該当到達目標	予習	教科書「子育て支援・保育・児童健全育成」の「子育て支援」部分を熟読する	1.5 時間
	4	復習	次世代育成支援対策推進法、少子化社会対策基本法について理解する	1.5 時間
13	講義内容	児童・家庭に対する法制度⑧ 障害児に関する福祉(特別児童扶養手当等の支給に関する法律を中心に)		
	該当到達目標	予習	教科書「障害児支援」部分を熟読する	1.5 時間
	4	復習	特別児童扶養手当について理解する	1.5 時間
14	講義内容	児童・家庭に対する支援における関係機関と専門職の役割		
	該当到達目標	予習	教科書「児童家庭福祉制度における関係機関と専門職の枠割」の「関連する専門職等の役割」部分を熟読する	1.5 時間
	4	復習	児童・家庭福祉に関わる行政機関と専門職、児童福祉施設の専門職員と資格、その他の専門職員と資格について理解する	1.5 時間
15	講義内容	児童・家庭に対する支援の実際■		
	該当到達目標	予習	教科書「児童家庭福祉の支援の実際」部分を熟読する	1.5 時間
	4	復習	相談援助活動の必要性、基本的視点、方法、他専門実践について理解する	1.5 時間

		合計時間(予習・復習)	45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。		

科目名	障害者福祉(専門導入科目)							科目ナンバリング	SWI107	
英文名	Welfare for Persons with Disabilities							講義形態	講義	
担当教員	根岸 洋人									
科目に関連した実務経験	高崎市障害者虐待防対策協議会会長(現在) 高崎市社会福祉審議会委員(現在)									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする資格	社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、初級パラスポーツ指導員									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				3	学際的な視点から取り組む力			
	3	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	3 4 10 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 障害を持つ人々の存在は太古の昔から知られている。そしてその処遇は、その時代背景とともに変化してきている。現代を生きる我々には何が必要とされ、どんな課題が積み上げられているのだろうか。本講義では障害者福祉に関する基本的事項を理解し、歴史的背景にたつ現代の問題点を学修していく。 ② 授業は講義形式で行う。授業内容によってはパワーポイントや映像資料を活用することもある。毎回授業終了後に C-learning を利用したリアクションペーパーの作成を課す。授業の復習も含めて期限までの提出を求めます。									
到達目標	1. 障害のある人の暮らしを理解し、現代社会の問題点と関連づけ説明することができる 2. 障害者福祉の制度を理解し、その意義、問題点を指摘できる■ 3. 歴史や制度を関連づけて障害のある人の自立とその支援方法を説明できる■									
使用教材	最新社会福祉士養成講座 障害者福祉 中央法規									
参考文献	授業中に指示する									
評価方法	期末試験を実施し評価を行う。配分は以下の通りとする。 1. 授業時のリアクションペーパーによる参加 20%(C-learning を使用) 2. 期末試験 80%									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業中に行う。さらに質問等がある場合はオフィスアワーを活用すること									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 5 限及び金曜日 5 限					メールアドレス (#→@)	negishi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション(障害者の生活実態とこれを取り巻く環境・社会情勢・介護需要)								
	該当到達目標	予習	1 年次に履修した障害に関する科目内容を確認する							1 時間
	1,3	復習	インターネット等を使用し、授業で取り上げた歴史上の事項を復習しておく							1 時間
2	講義内容	障害概念と特性・定義・理念(障害者基本法を含む)								
	該当到達目標	予習	ノーマライゼーションの理念について確認する							1 時間
	1,3	復習	ICF の概念について整理する							1 時間
3	講義内容	知的障害者福祉法とその関連制度(障害者に対する法制度)								
	該当到達目標	予習	知的障害者福祉法について教科書を読む							1 時間
	1,2,3	復習	知的障害の障害特性や統計などを確認する							1 時間
4	講義内容	身体障害者福祉法とその関連制度(バリアフリー法を含む)								

	該当到達目標 1,2,3	予習	身体障害者福祉法について教科書を読む	1 時間
		復習	身体障害の特性や手帳制度などを整理し確認する	1 時間
5	講義内容	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の理解(医療観察法を含む)		
	該当到達目標 1,2,3	予習	精神保健福祉法について教科書を読む	1 時間
		復習	精神障害の特性や医療との関わりについて整理する	1 時間
6	講義内容	発達障害者支援法とその関連制度		
	該当到達目標 1,2,3	予習	発達障害者支援法について教科書を読む	1 時間
		復習	発達障害の特性や近年の状況についてインターネットで調べる	1 時間
7	講義内容	障害者福祉の歴史		
	該当到達目標 1,2,3	予習	戦後の法制定の過程について教科書を読む	1 時間
		復習	インターネット等を使い、障害者自立支援法反対運動などを調べる	1 時間
8	講義内容	障害者総合支援法について(相談支援事業所及び専門職の役割と実際を含む)■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	障害者総合支援法について教科書を読む	1 時間
		復習	総合支援法の規定するサービスについて整理する	1 時間
9	講義内容	障害のある人の所得保障		
	該当到達目標 1,2,3	予習	障害のない人の社会保障について学ぶ	1 時間
		復習	自分の住んでいる自治体の実施している障害者優遇について調べる	1 時間
10	講義内容	障害者の雇用・就労(地域移行や就労の実態を含む)		
	該当到達目標 1,2,3	予習	障害者雇用促進法について教科書を読む	1 時間
		復習	インターネット等を使用し、障害者の雇用の先進事例を調べる	1 時間
11	講義内容	障害のある人の教育		
	該当到達目標 1,2,3	予習	特別支援教育について学ぶ	1 時間
		復習	学校の種類や問題点等について整理する	1 時間
12	講義内容	障害者虐待防止法とその対策■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	障害者虐待防止法について教科書を読む	1 時間
		復習	過去の虐待事件などを新聞記事やインターネットを通じて調べる	1 時間
13	講義内容	障害者の地域生活(障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割)■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	生活のしづらさに関する調査を確認する	1 時間
		復習	地域生活を進めるための制度、相談員の役割について確認する	1 時間
14	講義内容	障害者と家族(障害者と家族等に対する支援の実際)		
	該当到達目標 1,2,3	予習	地域生活の実態について家族との同居の視点で統計を見る	1 時間
		復習	障害者家族の手記などを読む	1 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標 3	予習	これまでの授業を振り返り整理しておく	1 時間
		復習	定期試験に向けて学習を行う	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	夏休み等の期間を利用して実際に障害のある人と接する機会(ボランティア活動等)をもつこと。ボランティア等の活動によってこの授業の内容は深まります。最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完してください。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		医学概論(専門導入科目)						科目ナンバリング	SWI108		
英文名		Introduction to Medicine						講義形態	講義		
担当教員		上原 徹									
科目に関連した実務経験		精神科医として大学病院等で勤務経験 30 年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている									
学年・開講期		1 年 前期	選必・単位数		必修 2 単位						
履修を必須とする資格		社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士									
学位授与方針との対応		1	豊かな人間性			3	学際的な視点から取り組む力				
		3	基礎的知識力			1	応用・実践する能力				
		1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連		③16									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
											○
「その他」のアクティブラーニング実施方法		毎回国家試験形式の小テストを複数問開示し、提出者には正解を教示する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		学生が、ライフステージにおける心身の変化と健康課題、健康及び疾病の捉え方、身体構造と心身機能、疾病障害の成り立ちと回復過程、公衆衛生について理解する。人の成長と発達、解剖生理学の基礎、主な疾病や障害の概要、リハビリテーションや ICF・健康の概念、関連職種の業務、障害者総合支援法等の改正など、社会福祉士として必要な医学・保健知識を学ぶ。 授業は教科書(電子版)を上映しつつ要点を解説指示し、資料で補足する。後半、DVD による知識のまとめと解説を導入する。									
到達目標		1. 人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解する。 2. 健康・疾病の捉え方について理解する。 3. 人の身体構造と心身機能について理解する。■ 4. 疾病と障害の成り立ち及び回復過程について理解する。■ 5. 公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を理解する。■									
使用教材		最新・社会福祉士養成講座 1 医学概論 中央法規(冊子版)、を教科書に用いる									
参考文献											
評価方法		期末筆記試験 90%、C ラーニングによる小テスト提出 10%で評価するが、授業態度(不必要な私語、真摯な姿勢など)に問題がある場合は個別に減点する。									
課題・評価に対するフィードバック方法		必要に応じて、期末試験問題や国家試験問題の解説やフィードバックを行う。									
オフィスアワー (研究室)		月 4 金 3 研究室:1 号館 5 階 501 研究室				メールアドレス (#→@)		授業で提示する			
1	講義内容	健康に関するイントロダクション■									
	該当到達目標	予習	関心のあるテーマを調べておく							1 時間	
	3,5	復習	授業の内容をまとめる							2 時間	
2	講義内容	身体精神の成長と発達と老化■									
	該当到達目標	予習	講義担当部分をノートにまとめること。							1 時間	
	1,3,5	復習	小テストを参考に復習を徹底すること							2 時間	
3	講義内容	健康の概念■									
	該当到達目標	予習	講義担当部分をノートにまとめること。							1 時間	
	1,3,5	復習	小テストを参考に復習を徹底すること							2 時間	

4	講義内容	疾病の概念■			
	該当到達目標 1,3,5	予習	講義担当部分をノートにまとめること。	1 時間	
		復習	小テストを参考に復習を徹底すること	2 時間	
5	講義内容	ICF の概要			
	該当到達目標 2,5	予習	講義担当部分をノートにまとめること。	1 時間	
		復習	小テストを参考に復習を徹底すること	2 時間	
6	講義内容	人体部位の名称■			
	該当到達目標 2,5	予習	講義担当部分をノートにまとめること。	1 時間	
		復習	小テストを参考に復習を徹底すること	2 時間	
7	講義内容	基幹系と臓器の役割■			
	該当到達目標 2,5	予習	講義担当部分をノートにまとめること。	1 時間	
		復習	小テストを参考に復習を徹底すること	2 時間	
8	講義内容	疾病の発生要因■			
	該当到達目標 2,5	予習	講義担当部分をノートにまとめること。	1 時間	
		復習	小テストを参考に復習を徹底すること	2 時間	
9	講義内容	疾病の成立機序■			
	該当到達目標 2,5	予習	講義担当部分をノートにまとめること。	1 時間	
		復習	小テストを参考に復習を徹底すること	2 時間	
10	講義内容	障害の概要■			
	該当到達目標 2,5	予習	講義担当部分をノートにまとめること。	1 時間	
		復習	小テストを参考に復習を徹底すること	2 時間	
11	講義内容	リハビリテーションの概要と範囲			
	該当到達目標 4,5	予習	講義担当部分をノートにまとめること。	1 時間	
		復習	小テストを参考に復習を徹底すること	2 時間	
12	講義内容	予防・治療・予後■			
	該当到達目標 4,5	予習	講義担当部分をノートにまとめること。	1 時間	
		復習	小テストを参考に復習を徹底すること	2 時間	
13	講義内容	公衆衛生の概要■			
	該当到達目標 3,4,5	予習	講義担当部分をノートにまとめること。	1 時間	
		復習	小テストを参考に復習を徹底すること	2 時間	
14	講義内容	健康増進と保健医療対策■			
	該当到達目標 3,4,5	予習	講義担当部分をノートにまとめること。	1 時間	
		復習	小テストを参考に復習を徹底すること	2 時間	
15	講義内容	まとめ			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	講義担当部分をノートにまとめること。	1 時間	
		復習	小テストを参考に復習を徹底すること	2 時間	
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	予習・復習については、試験前後の学習で補完すること。一部オンラインで行う可能性があるが、電子版教科書と資料画像などを用いた動画および音声により要点を講義する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名		社会福祉調査の基礎(専門導入科目)						科目 ナンバリング		SWI109		
英文名		Social Welfare Research: Basic Level						講義形態		講義		
担当教員		安達 正嗣										
科目に関連した 実務経験		兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員および主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施して調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった(経験)										
学年・開講期		3年 前期		選必・単位数		必修 2単位						
履修を必須とする 資格		社会福祉士、精神保健福祉士										
学位授与方針 との対応		1	豊かな人間性				3	学際的な視点から取り組む力				
		3	基礎的知識力				1	応用・実践する能力				
		1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連		① ② ③ ④ ⑤ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑯ ⑰										
アクティブラーニング 実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
											○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法		毎回の講義の冒頭で、小テストを実施し、次に採点した前回の小テストを返却する際に、前回の講義の振り返りをおこない、質疑応答を実施する。										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		①社会調査の基本的な知識や技法について解説することによって、現代の社会福祉の業務における社会調査の大きな意義を理解する。 ②毎回、講義内容に関する小テスト(設問)をおこない、受講生が講義内容の理解を深められるようにしている。										
到達目標		1. 大学生としての基礎的な知識力として、社会調査の基本を身につけることができる。 2. 社会調査を学ぶことを通じて、豊かな人間性と倫理性を身につけることができる。 3. 社会調査の技法を学ぶことで、問題解決能力やコミュニケーション能力を身につけることができる。 4. 社会調査を学ぶことで、他分野との連携に役立ち、学際的な視点を身につけることができる。 5. 社会調査の技法を会得することで、社会福祉現場での応用・実践力を身につけることができる。■ 6. 社会調査の基礎を身につけることで、専門家としての倫理性を持って、社会福祉への貢献力を身につけることができる。										
使用教材		一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『社会福祉調査の基礎』中央法規出版。										
参考文献		講義中、適宜指示する。										
評価方法		小テスト(毎回、講義後に講義内容について数問のテスト(設問)をおこなう。遅刻は厳禁。)50%、学期末試験 50%、合計 100%で評価する。										
課題・評価に対する フィードバック方法		各受講生は、小テストで講義の理解度を把握し、次回の講義時に返却された答案に関する解説を通じて、復習に役立て、現代社会と福祉を理解できるようになる。										
オフィスアワー (研究室)		火曜日 5限・6限 1号館5階 510 研究室				メールアドレス (#→@)		adachi-m#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	はじめに、第1章社会福祉調査の意義と目的・第1節社会福祉調査の意義と目的(1～6頁)・第2節福祉サービスと社会福祉調査(7～9頁)を解説する。講義に関する小テスト(設問)実施。										
	該当到達目標 1,2,3,6	予習	はじめに、第1章・第1節・第2節を読んでおくこと。								1.5 時間	
		復習	はじめに、第1章・第1節・第2節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。								1.5 時間	
2	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第1章社会福祉調査の意義と目的・第3節社会福祉調査と社会福祉の歴史的関係(10～14頁)・第4節統計法(15～20頁)を解説する。										
	該当到達目標	予習	第1章・第3節・第4節を読んでおくこと。								1.5 時間	

	1,2,3,6	復習	第1章・第3節・第4節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5 時間
3	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第2章社会福祉における倫理と個人情報保護・第1節社会福祉調査における倫理と個人情報保護(21～26頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第2章・第1節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	第2章・第1節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5 時間
4	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第3章社会福祉調査のデザイン・第1節調査における考え方・論理(29～34頁)・第2節社会福祉調査のプロセス(35～40頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第3章・第1節・第2節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	第3章・第1節・第2節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5 時間
5	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第3章社会福祉調査のデザイン・第3節社会福祉調査の目的と対象(41～46頁)・第4節社会福祉調査でのデータ収集・分析(47～54頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第3章・第3節・第4節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	第3章・第3節・第4節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5 時間
6	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第4章量的調査の方法・第1節量的調査の概要(55～62頁)・第2節量的調査の種類と方法(63～71頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第4章・第1節・第2節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	第4章・第1節・第2節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5 時間
7	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第4章量的調査の方法・第3節質問紙の作成方法と留意点(72～86頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第4章・第3節を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,3,4,5,6	復習	第4章・第3節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5 時間
8	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第4章量的調査の方法・第4節質問紙の配布(配付)と回収(87～93頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第4章・第3節を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,3,4,5,6	復習	第4章・第3節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5 時間
9	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第4章量的調査の方法・第5節量的調査の集計と分析(94～128頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第4章・第5節を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,3,4,5,6	復習	第4章・第5節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5 時間
10	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第5章質的調査の方法・第1節質的調査の概要と方法(129～134頁)・第2節質的調査のサンプリング(135～138頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第5章・第1節・第2節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	第5章・第1節・第2節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5 時間
11	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第5章質的調査の方法・第3節質的調査のデータ収集法(139～154頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第5章・第3節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	第5章・第3節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5 時間
12	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第5章質的調査の方法・第4節質的調査における記録の方法と留意点(155～165頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第5章・第4節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	第5章・第4節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第5章質的調査の方法・第5節質的調査のデータの分析方法(166～198頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第5章・第5節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	第5章・第5節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5 時間
14	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第6章ソーシャルワークにおける評価・第1節ソーシャルワークにおける評価の意義(199～209頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第6章・第1節を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	第6章・第1節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	1.5 時間

15	講義内容	講義に関する小テスト(設問)実施。第 6 章ソーシャルワークにおける評価・第 2 節ソーシャルワークにおける評価対象(210～219 頁)・第 3 節ソーシャルワークにおける評価方法(220～229 頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	第 6 章・第 1 節・第 2 節を読んでおくこと。	3 時間
		復習	第 6 章・第 1 節・第 2 節の内容、提示された概念や技法などを理解しておくこと。	3 時間
合計時間(予習・復習)				48 時間
備考	小テスト(設問)と学期末試験については、対面授業と遠隔授業でやり方等が異なることがある。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	認知症の理解(専門導入科目)						科目ナンバリング	SWI110		
英文名	Study of Dementia						講義形態	講義		
担当教員	松沼 記代									
科目に関連した実務経験	社会福祉士として、デイサービスセンターで3年6か月経験 社会福祉士及び管理者として、グループホームで1年間経験 社会福祉士として、大学在職中に介護予防教室の運営8年間経験 社会福祉法人理事長として、高齢者介護サービスの運営に11年間従事(現在)									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする資格	介護福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				3	学際的な視点から取り組む力			
	3	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	③									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○								○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	近年増加する認知症に関する基礎知識やコミュニケーション及びケアの方法について学修する。福祉サービスに従事する者として、実践での対応方法や家族・地域市民への指導方法を修得する。 授業は、指定したテキストの中から重要な部分をテーマごとに抜粋し、介護現場やソーシャルワーク機関におけるケアや支援の方法について、実践例を示しながら教授する。									
到達目標	1. 認知症の定義や要因、症状等について説明できる。■ 2. 認知症状や BOSD のケアの方法について説明できる。■ 3. 認知症高齢者の思いや置かれている状況について説明できる。■ 4. 認知症の予防方法について説明できる。■									
使用教材	「認知症の理解」(介護福祉士養成講座 13 介護福祉士養成講座編集委員会編集、中央法規、2022)を中心に進めるが、毎回レジメと資料を配布する。									
参考文献										
評価方法	筆記試験(80%)、レポート(10%)、授業参加度(10%)で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートにはコメントを付けて返却する。定期試験の前に出題の範囲や意図を提示する。									
オフィスアワー (研究室)	授業の前後の時間。質問や意見はメールからも、随時受け付ける。				メールアドレス (#→@)	k-matsunuma#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活(ビデオ“ボケなんか恐くない”視聴)■								
	該当到達目標	予習	認知症高齢者の人の特徴や現状について調べる。						1	時間
	1,2	復習	講義内容とビデオの感想をまとめる。到達目標、成績評価方法を確認する。						1	時間
2	講義内容	認知症の定義と特徴■								
	該当到達目標	予習	テキスト第 1 章第 1 節・第 3 節を読んで、定義や特徴を把握する。						1	時間
	1,3	復習	授業範囲を復習し、内容を理解する。						1	時間
3	講義内容	認知症の原因疾患と症状(アルツハイマー型認知症を中心に)■								
	該当到達目標	予習	テキスト第 1 章 3 節と 2 章第 5 節を読んで、認知症の原因疾患と症状について把握する。						1	時間
	1,3	復習	学習した内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。						1	時間

4	講義内容	中核症状：記憶障害の理解とケアの原則■		
	該当到達目標	予習	テキスト第2章第1節を読んで、中核症状と記憶障害について把握する。	1 時間
	1,2,3	復習	学習した内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	1 時間
5	講義内容	中核症状：見当識障害の理解とケアの原則■		
	該当到達目標	予習	テキスト第2章第1節を読んで、見当識障害について把握する。	1 時間
	1,2,3	復習	学習した内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	1 時間
6	講義内容	中核症状：遂行機能障害等の理解とケアの原則■		
	該当到達目標	予習	テキスト第2章第1節を読んで、遂行機能障害や注意障害等について把握する。	1 時間
	2,3	復習	学習した内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	1 時間
7	講義内容	BPSD：心理症状の理解とケアの方法■		
	該当到達目標	予習	テキスト第2章第3節を読んで、心理症状の特徴とケアについて把握する。	1 時間
	1,2,3	復習	学習した内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	1 時間
8	講義内容	BPSD：行動症状の理解とケアの方法■		
	該当到達目標	予習	テキスト第2章第3節を読んで、行動症状の特徴とケアについて把握する。	1 時間
	1,2,3	復習	学習した内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	1 時間
9	講義内容	生活障害の理解とケアの原則■		
	該当到達目標	予習	テキスト第2章第2節を読んで、生活障害の特徴とケアの原則を把握する。	1 時間
	1,2,4	復習	学習した内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	1 時間
10	講義内容	認知症の原因疾患別症状・ケアの原則■		
	該当到達目標	予習	テキスト第2章第5節を読んで、概要を把握する。	1 時間
	1,2	復習	学習した内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	1 時間
11	講義内容	認知症ケアの実践－近年のケアの動向■		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章を読んで、近年の認知症のアプローチの概要を把握する。	1 時間
	2,3	復習	ボランティア先や実習先でのケアのあり方と比較する。	1 時間
12	講義内容	認知症の評価尺度とアセスメント■		
	該当到達目標	予習	テキスト第2章第4節・第6節・第7節を読んで、概要を把握する。。	1 時間
	2,3	復習	学習した内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	1 時間
13	講義内容	施設職員と家族への支援■		
	該当到達目標	予習	テキスト第5章第1・2節を読んで、概要を把握する。	1 時間
	2,3	復習	施設職員や認知症の人の家族から話を聴いて、現状やニーズを理解する。	1 時間
14	講義内容	認知症を取り巻く状況－ケアの歴史と地域生活支援■		
	該当到達目標	予習	テキスト第3・4・6章を読んで、認知症の概念の変遷や近年の施策について把握する。	1 時間
	4	復習	福祉専門職として認知症ケアや予防対策にどのように関わるか考える。	1 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	これまで学んだ認知症ケアの内容と課題について確認する。	1 時間
	1,2,3,4	復習	認知症の概要やケアの方法を実践で活かせるように整理する。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	予習・復習の時間については、試験前の学習で補填すること。 ■：実務経験や講師が執筆した認知症に関する検証に基づく内容を示す。			

科目名	障害の理解(専門導入科目)					科目ナンバリング	SWI111			
英文名	Methodology of People with Disabilities Support					講義形態	講義			
担当教員	大塚 光彦									
科目に関連した実務経験	・ 実務者として、県立身体障害者リハビリテーションセンター(旧称)、県立点字図書館、県立ふれあいスポーツプラザ、県立ゆうあいピック記念温水プールに勤務(経験) ・ 指導員(実習生担当・就労支援担当)として、作業所(就労支援 B 型)及び地域活動支援センターに勤務(経験) ・ 長野冬季パラリンピック日本代表アルペンスキーチーム技術スタッフとして参加(経験) ・ 日本代表スタッフとして、カナダ国際身体障害者スキー大会に参加(経験) ・ 身体障がい者野球「群馬アトム」チームとして「24 時間テレビ」に出演(経験) ・ 高崎市スポーツ推進審議会公募委員(現在)									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする資格	介護福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			3	学際的な視点から取り組む力				
	3	基礎的知識力			1	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	3 10									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
		○		○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	講義の目標 1. 三障がい(身体・知的・精神)について■ ① 日本における定義及び基本法等を習得する。 ② 三障がいの基本的な基礎知識を習得する。 ③ 三障がいを心理的・社会的側面から理解する。 2. 障がいの受容について■ 「後天性障がい」と「先天性障がい」の違いについて理解する。 3. ノーマライゼーション・バリアフリー・ユニバーサルデザイン等について現状と課題を理解する。■ 講義の実施方法 教本に基づき、三障がいの基礎的理解を深めることが出来るように、身体障がいに重点をおき、かつ知的障がい、精神障がいについても各 2 回の講義を行い、総理解を深め知識を習得出来るように進行します。ゲストスピーカー(3 名予定)の都合により、講義の順番に変更が生じる場合があります。なお、ゲストスピーカーは身体障がい(先天性・後天性)の方々(元パラリンピック選手等)をお呼びする予定です。									
到達目標	1. 総合的に三障がいを理解し、障がいの特性を説明できる。 2. 三障がいに対する基本的な専門用語を説明できる。 3. 「ゲストスピーカー」の講義内容を十分に理解し、積極的に質疑することにより、その障がいについて、総合的にミニレポートを書くことが出来る。 4. 身体障がいを中心に三障がいの基礎的知識を深めることにより、障がいの理解に繋げる。									
使用教材	・ 公益財団法人 日本パラスポーツ協会[編] 改訂版 障がいのある人のスポーツ指導教本(初級・中級)2020 年改訂カリキュラム対応 ・ 講義時に関係資料(PP 補足資料等)及び新聞等関係記事のコピー等を配布									
参考文献	著者:栢森 良二「サリドマイド」・編著者:石川 准・長瀬 修「障害学への招待」									
評価方法	成績評価 1. 講義毎及びミニレポート(C-learning の「レポート」に記述する方法)による評価(40%) 2. ゲストスピーカー(3 回)ミニレポート(C-learning の「レポート」に記述する方法)による評価(20%)									

		3. 筆記試験(40%) その他の評価 実習や忌引き等による欠席は届け出(場合により要添付書類)を提出すれば出席扱いとします。 なお、15 分以上の遅刻は欠席とみなします。				
課題・評価に対する フィードバック方法		ミニレポート及び「一言コメント」にある質問や意見については、次回の講義の中で随時取り上げて、学生にフィードバックします。				
オフィスアワー (研究室)		講義前後の教室及び非常勤講師控室 で対応します。		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示します。	
1	講義内容	障がいの定義・「害」と「がい」の違い・オリエンテーション他(進め方・シラバス等)について				
	該当到達目標	予習	事前資料・シラバスを判読し、基本的に「三障がい」について把握する。			2 時間
	1,2	復習	講義内容・到達目標を確認し、三障がいの概要を理解する。			2 時間
2	講義内容	身体の仕組みと障がいの理解(障がいの種類及び四肢の名称)について■				
	該当到達目標	予習	教本(P54～57、P162～163)を判読し、仕組みと部位名称等を確認する。			2 時間
	1,2,4	復習	講義内容・到達目標を確認し、三大関節等、四肢の名称を理解する。			2 時間
3	講義内容	視覚障がい・点字について■・視覚障がい者の事故等の対策(教本記載無・GW)について				
	該当到達目標	予習	教本(P75～80)を判読し、構造等を確認する。転落事故の現状と課題を調べる。			2 時間
	1,2,4	復習	講義内容・到達目標を確認し、点字・接し方・転落事故等対策について理解する。			2 時間
4	講義内容	知的障がい(発達障がいを含む)について				
	該当到達目標	予習	教本(P89～97)を判読し、基本的な考え方を確認する。(参考:P118～123)			2 時間
	1,2,4	復習	講義内容・到達目標等を確認し、知的障がいの具体像を理解すること。			2 時間
5	講義内容	知的障がい・重度知的障がい者とそのあり方について■				
	該当到達目標	予習	教本(P91～92)を判読し、原因別分類を確認する(講義では DVD 視聴)。			2 時間
	1,2,4	復習	講義内容・到達目標等を確認し、相互関係を理解する。			2 時間
6	講義内容	切断(大腿・上下肢等)・離断等(義肢・装具含む)について■				
	該当到達目標	予習	教本(P74～75、102、104～106)を判読し、補装具等の特徴について調べる。			2 時間
	1,2,4	復習	講義内容・到達目標等を確認し、切断部位及び扱い方と留意点を理解する。			2 時間
7	講義内容	膝関節離断・大腿義足の実態について■				
	該当到達目標	予習	前講義内容等を精読し、障がいの内容及び注意すべき点等について確認する。			2 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容・到達目標等を確認し、注意すべき点を理解する。			2 時間
8	講義内容	聴覚・音声言語障がい・手話について■				
	該当到達目標	予習	教本(P81～84)を判読し、構造と働きを確認する。			2 時間
	1,2,4	復習	講義内容・到達目標等を確認し、手話及び接し方についても理解する。			2 時間
9	講義内容	催奇形性について(教本記載無し)				
	該当到達目標	予習	事前資料と併せて、薬害等について調べる。			2 時間
	1,2,4	復習	講義内容・到達目標等を確認し、薬害・公害について理解する。			2 時間
10	講義内容	サリドマイド胎芽症の実態について(教本記載無し)				
	該当到達目標	予習	前回事前資料と併せて、サリドマイド薬害等について調べる。			2 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容・到達目標等を確認し、薬害について理解する。			2 時間
11	講義内容	精神障がいについて				
	該当到達目標	予習	教本(P97～101)を判読し、特殊性を確認する。(参考:P124～127、P216～219)			2 時間
	1,2,4	復習	講義内容・到達目標等を確認し、リハビリテーション・スポーツの効用を理解する。			2 時間
12	講義内容	精神障がい(知的障がい含む)・地域移行・就労支援について(教本に記載無し・GW)■				
	該当到達目標	予習	事前資料と併せて地域移行及び就労支援について調べる。			2 時間
	1,2,4	復習	講義内容・到達目標等を確認し、地域移行・就労支援の現状と課題を理解する。			2 時間

13	講義内容	脊椎損傷・脊髄損傷(種類・原因・特性)について		
	該当到達目標 1,2,4	予習	教本(P70、169)を判読し、障がいの内容・注意すべき点等について確認する。	2 時間
		復習	講義内容・到達目標等を確認し、注意すべき点を理解する。	2 時間
14	講義内容	脊椎損傷・脊髄損傷の実態について		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	前回講義内容等を精読し、障がいの内容及び注意すべき点等について確認する。	2 時間
		復習	講義内容・到達目標等を確認し、注意すべき点を理解する。	2 時間
15	講義内容	その他の障がい(脳性麻痺・内部障がい等)(種類・原因・特性))について		
	該当到達目標 1,2,4	予習	教本(P72、169、P85～P88)を判読し、脳原性麻痺・内部障がいを確認する。	2 時間
		復習	講義内容・到達目標等を確認し、脳原性麻痺・内部障がいを理解する。	2 時間
合計時間(予習・復習)				60 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		発達と老化の理解(専門導入科目)						科目ナンバリング	SWI112		
英文名		Development and Aging						講義形態	講義		
担当教員		角野 善司									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		1 年 前期		選必・単位数		必修 2 単位					
履修を必須とする資格		介護福祉士									
学位授与方針との対応		1 豊かな人間性			3			学際的な視点から取り組む力			
		3 基礎的知識力			1			応用・実践する能力			
		1 問題解決能力・コミュニケーション能力			1			専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連		3 4 5 8 10 11 16 17									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○							○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		①生涯にわたる心理・身体的機能の発達に伴う変化と、それを踏まえた援助に必要な基礎的知識を修得する。 とりわけ、発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を修得することを目指す。 ②授業期間全体を通じた授業の進め方: 毎回の予習が、知識獲得の中心である。その意識を強く持って、取り組んでもらいたい。対面授業は、難解な箇所に関する追加的な解説に重点を置く。また、理解を深めるために必要に応じて視聴覚教材を活用する。授業後には、復習課題に取り組むとともに、授業での学修を基に考察を深め、小レポートを作成し、提出することを求める。									
到達目標		1. 主要な発達理論について説明できる。 2. 生涯発達および各発達段階の概要と課題を説明できる。 3. 老化が及ぼす心理的影響について説明できる。 4. 高齢者の心理への対応を説明できる。									
使用教材		介護福祉士養成講座編集委員会「最新 介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解 第2版」中央法規出版 2022 年 2200 円＋税									
参考文献											
評価方法		毎回の課題・小レポート 45%(3 点×15 回)、学期末筆記試験 30%、学期末レポート 25%									
課題・評価に対するフィードバック方法		毎回の課題・小レポートは授業時に、学期末筆記試験・レポートは事後に講評解説の機会を設ける。									
オフィスアワー (研究室)		初回授業時に告知するとともに、研究室 ドアに掲出する(8 号館 405 室)				メールアドレス (#→@)		zsumino#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	人間の成長と発達の基礎的理解(1) 発達の概念と主要な理論									
	該当到達目標 1	予習	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。							1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。							1.5 時間	
2	講義内容	人間の成長と発達の基礎的理解(2) 生涯発達									
	該当到達目標 1,2	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。							1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。							1.5 時間	
3	講義内容	人間の成長と発達の基礎的理解(3) 発達段階と発達課題									

	該当到達目標 1,2	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間	
4	講義内容	人間の成長と発達の基礎的理解(4)胎児期・乳児期の発達			
	該当到達目標 2	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間	
5	講義内容	人間の成長と発達の基礎的理解(5)幼児期の発達			
	該当到達目標 2	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間	
6	講義内容	人間の成長と発達の基礎的理解(6)児童期の発達			
	該当到達目標 2	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間	
7	講義内容	人間の成長と発達の基礎的理解(7)青年期の発達			
	該当到達目標 2	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間	
8	講義内容	人間の成長と発達の基礎的理解(8)成人期の発達			
	該当到達目標 2	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間	
9	講義内容	老年期の発達と成熟(1)老年期の定義			
	該当到達目標 2,3,4	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間	
10	講義内容	老年期の発達と成熟(2)老年期の発達課題			
	該当到達目標 2,3,4	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間	
11	講義内容	老化に伴うこころとからだの変化と生活(1)老化に伴う心身の変化の特徴			
	該当到達目標 2,3,4	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間	
12	講義内容	老化に伴うこころとからだの変化と生活(2)老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響			
	該当到達目標 2,3,4	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間	
13	講義内容	老化に伴うこころとからだの変化と生活(3)高齢者の心理(1)記憶・知能			
	該当到達目標 2,3,4	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間	
14	講義内容	老化に伴うこころとからだの変化と生活(4)高齢者の心理(2)パーソナリティと適応			
	該当到達目標 2,3,4	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間	
15	講義内容	高齢者の医療制度および保健医療職との連携			
	該当到達目標 2,3,4	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間	
合計時間(予習・復習)					45 時間

備考	仮に諸事情により対面での学期末筆記試験の実施ができない場合には、成績評価にあたっての配点は以下のとおりとする： 毎回の課題・小レポート 75%(5 点 × 15 回)、学期末レポート 25%

科目名	精神医学と精神医療Ⅰ（専門導入科目）							科目ナンバリング	SWI113	
英文名	PsychiatryⅠ							講義形態	講義	
担当教員	上原 徹									
科目に関連した実務経験	精神科医として大学病院等で勤務経験 35 年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている									
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする資格	精神保健福祉士、介護福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性					3	学際的な視点から取り組む力		
	3	基礎的知識力					1	応用・実践する能力		
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力					1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力		
SDGs との関連	③16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
										○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	各回で国家試験形式の小テストを開示し、正解を教示する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①学生が、支援専門職である社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士として必要となる、精神医学や精神医療に関する基本的な知識(成因、症状、診断、治療、経過、支援、動向)を身につけることができる。精神医療機関と治療構造について習得し、チーム医療の視点を生かした援助方法を理解できる。精神保健医療福祉における関連機関の連繋と、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の役割を身につける。 ②授業は DVD 視聴と解説、パワーポイントファイル上映による説明、のハイブリッドで進める。授業の最後に理解度確認のための C-Learning による小テストを行う。									
到達目標	1. 精神機能や心理社会的問題の概要を説明できる 2. 代表的な疾患や障害の基本的概要を理解し解説できる 3. 精神科医療機関における治療構造や治療の内容特性を解説できる 4. 精神障害を援助するために必要な精神保健福祉の知識を整理できる 5. チーム医療の担う専門職の役割と医療福祉連携を理解できる■									
使用教材	教科書は特に指定しない。DVD 教材を視聴する予定。									
参考文献	参考書は、精神保健福祉士養成講座第 1 巻「精神医学と精神医療」中央法規出版									
評価方法	期末筆記試験 90%、C-Learning による小テスト提出 10%で評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	専門職としての必要な課題をフィードバックする。必要に応じて、試験問題の解説を行う。									
オフィスアワー (研究室)	月 4 金 3 研究室:1 号館 5 階 501				メールアドレス (#→@)		授業で提示する			
1	講義内容	精神医学や精神医療のイントロダクション(総論、歴史、診断分類、検査、動向)								
	該当到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。							0.5 時間
	1,2	復習	資料を用いて自習する。							2.5 時間
2	講義内容	統合失調症とは？								
	該当到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。							1 時間
	2,3	復習	資料を用いて自習する。							2 時間
3	講義内容	双極性障害(躁うつ病)とは？								
	該当到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。							1 時間
	2,3	復習	資料を用いて自習する。							2 時間

4	講義内容	うつ病とは？			
	該当到達目標 2,3	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間	
		復習	資料を用いて自習する。	2 時間	
5	講義内容	神経症・不安障害とは？			
	該当到達目標 2,3	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間	
		復習	資料を用いて自習する。	2 時間	
6	講義内容	摂食障害			
	該当到達目標 2,3	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間	
		復習	資料を用いて自習する。	2 時間	
7	講義内容	PTSD やストレスに関連する病			
	該当到達目標 2,3	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間	
		復習	資料を用いて自習する。	2 時間	
8	講義内容	アルコールや物質依存とは？			
	該当到達目標 2,3	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間	
		復習	資料を用いて自習する。	2 時間	
9	講義内容	睡眠障害			
	該当到達目標 2,3	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間	
		復習	資料を用いて自習する。	2 時間	
10	講義内容	認知症			
	該当到達目標 2,3	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間	
		復習	資料を用いて自習する。	2 時間	
11	講義内容	小児の精神疾患			
	該当到達目標 2,3	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間	
		復習	資料を用いて自習する。	2 時間	
12	講義内容	外因性・器質性・症状性疾患など			
	該当到達目標 2,3	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間	
		復習	資料を用いて自習する。	2 時間	
13	講義内容	<u>精神科の治療法や支援</u> について			
	該当到達目標 3,4	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間	
		復習	資料を用いて自習する。	2 時間	
14	講義内容	リハビリテーションや心理社会アプローチ■			
	該当到達目標 3,4,5	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間	
		復習	資料を用いて自習する。	2 時間	
15	講義内容	まとめ■			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	資料を用いて自習する。	2 時間	
		復習	試験問題を復習する。	1 時間	
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	予習・復習に活用できる映像教材や PDF を随時公開する。そのほか、試験前後の学習で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ（専門導入科目）							科目ナンバリング	SWI114	
英文名	Issues in Mental Health and Support SystemⅠ							講義形態	講義	
担当教員	横澤 岳志									
科目に関連した実務経験	精神保健福祉士として精神科病院及び併設する障害福祉サービス事業所に勤務（現在）									
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		必修 2 単位					
履修を必須とする資格	精神保健福祉士、介護福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				3	学際的な視点から取り組む力			
	3	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	①③⑩⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○								○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	精神疾患が国民の 5 大疾病のひとつとして数えられる現代社会において、精神保健への取り組みがますます重要視されている。本講義は、精神保健福祉士を目指す学生が様々な精神保健についての基本的な知識を習得し、様々な課題解決に向けた実践の基礎となることを目指す。精神保健の概要や現代の精神保健分野の動向、基本的な考え方、精神保健の視点から見た家族や学校教育、勤労者の課題とアプローチなどを学ぶ。 講義は、教科書の重要項目をパワーポイントで整理しながら進めていく。									
到達目標	1. 精神保健の概要を理解する 2. 現代の精神保健分野の動向と基本的考え方を理解する■ 3. 家族に関連する精神保健の課題と支援について理解する■ 4. 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチについて理解する 5. 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチについて理解する									
使用教材	最新・精神保健福祉士養成講座 2 現代の精神保健の課題と支援（中央法規出版）									
参考文献										
評価方法	授業態度を 30%、定期試験を 70%の比重で評価し、合計で 60%以上を合格とする。なお、レポートにより評価に加点する場合あり。									
課題・評価に対するフィードバック方法	定期試験後に解答を提示する。 レポートに対して、必要に応じてコメントを提示する。									
オフィスアワー（研究室）	質問等には授業の開始前もしくは終了後にも教室や講師控室で応じる。				メールアドレス（#→@）		tak.yoyo0120#gmail.com			
1	講義内容	精神保健の概要								
	該当到達目標	予習	教科書の第 1 章に目を通す						2 時間	
	1	復習	精神保健の概要について理解する						2 時間	
2	講義内容	現代の精神保健分野の動向と基本的考え方（精神保健の動向）■								
	該当到達目標	予習	教科書の第 2 章第 1 節に目を通す						2 時間	
	2	復習	精神医療の現状と課題、地域精神保健福祉活動について理解する						2 時間	
3	講義内容	現代の精神保健分野の動向と基本的考え方（三つの対象、心的態度）■								
	該当到達目標	予習	教科書の第 2 章第 2 節～第 3 節に目を通す						2 時間	
	2	復習	精神保健活動の三つの対象と精神の健康に関する心的態度について理解する						2 時間	

4	講義内容	現代の精神保健分野の動向と基本的考え方(生活と嗜癖)■		
	該当到達目標	予習	教科書の第2章第4節に目を通す	2 時間
	2	復習	生活と嗜癖について理解する	2 時間
5	講義内容	家族に関連する精神保健の課題と支援(家族関係における暴力、出産・育児)■		
	該当到達目標	予習	教科書の第3章第1節～第2節に目を通す	2 時間
	3	復習	家族関係における暴力と精神保健、出産・育児をめぐる精神保健について理解する	2 時間
6	講義内容	家族に関連する精神保健の課題と支援(介護、社会的ひきこもり)■		
	該当到達目標	予習	教科書の第3章第3節～第4節に目を通す	2 時間
	3	復習	介護をめぐる精神保健、社会的ひきこもりをめぐる精神保健について理解する	2 時間
7	講義内容	家族に関連する精神保健の課題と支援(家族関係の課題)■		
	該当到達目標	予習	教科書の第3章第5節に目を通す	2 時間
	3	復習	家族関係の課題について理解する	2 時間
8	講義内容	家族に関連する精神保健の課題と支援(グリーフケア)		
	該当到達目標	予習	教科書の第3章第6節に目を通す	2 時間
	3	復習	グリーフケアについて理解する	2 時間
9	講義内容	家族に関連する精神保健の課題と支援(精神保健支援を担う機関)■		
	該当到達目標	予習	教科書の第3章第7節に目を通す	2 時間
	3	復習	精神保健支援を担う機関について理解する	2 時間
10	講義内容	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ(学校教育における課題、教員の精神保健)		
	該当到達目標	予習	教科書の第4章第1節～第2節に目を通す	2 時間
	4	復習	学校教育における精神保健的課題と教員の精神保健について理解する	2 時間
11	講義内容	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ(専門職と関係法規、スクールソーシャルワーカー)		
	該当到達目標	予習	教科書の第4章第3節～第4節に目を通す	2 時間
	4	復習	関与する専門職と関係法規、スクールソーシャルワーカーの役割について理解する	2 時間
12	講義内容	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ(社会資源)		
	該当到達目標	予習	教科書の第4章第5節に目を通す	2 時間
	4	復習	学校精神保健にかかわる社会資源について理解する	2 時間
13	講義内容	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ(労働環境、産業精神保健)		
	該当到達目標	予習	教科書の第5章第1節～第2節に目を通す	2 時間
	5	復習	現代日本の労働環境、産業精神保健とその対策について理解する	2 時間
14	講義内容	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ(職場のメンタルヘルス)		
	該当到達目標	予習	教科書の第5章第3節に目を通す	2 時間
	5	復習	職場のメンタルヘルスのための相談について理解する	2 時間
15	講義内容	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ(問題解決のための機関および関係法規)		
	該当到達目標	予習	教科書の第5章第4節に目を通す	2 時間
	5	復習	職場内の問題を解決するための機関および関係法規について理解する	2 時間
合計時間(予習・復習)				60 時間
備考	質問等にはメールでも応じる(上記メールアドレスを参照)。			

	■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	ソーシャルワーク基礎講座(専門導入科目)						科目ナンバリング	SWC201		
英文名	Introduction of Field Study in Social Work						講義形態	演習		
担当教員	金井 敏、永田 理香、根岸 洋人、石坂 公俊、大川 健次郎、加藤 大輔、檜府 憲太									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	社会福祉コース必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			1	応用・実践する能力				
	5	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑪ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○		○	○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 講義の目標 ・ ソーシャルワークの知識と技術が、社会福祉士及び精神保健福祉士、介護福祉士の各資格において、どのように発揮されているのかを学び、専門職としての使命や役割、仕事内容の理解を深める。 ・ 教員の専門性を活かした講義、資格を活かした卒業生の活躍、資格取得に向けた在校生の熱意、ボランティア活動を通じた現場体験など、多角的に学ぶことで、資格取得を目指す気持ちを育む。 ② 講義の実施方法 ・ 前半は関連する教員がオムニバス形式で授業を行う。 ・ 後半は社会福祉士及び精神保健福祉士、介護福祉士として働く卒業生のシンポジウム、資格取得のために勉学や実習に励む在校生との交流(グループワーク)等による授業を行う。 ・ 長期休暇を活かし、ボランティア活動に参加し、現場体験を行う。									
到達目標	1. 社会福祉士及び精神保健福祉士、介護福祉士の国家資格取得を目指す者として、それぞれの専門職の使命や役割、仕事内容を説明できる。 2. 大学での資格取得に向けた授業や実習、国家試験対策等の意義を理解し、卒業後の進路も含めて、自身の将来展望を模索することができる。									
使用教材	必要な教材は、毎回配布する									
参考文献	授業中に随時提示する									
評価方法	授業態度 20%、レポートなどの課題 80%									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業中に解説を行う。									
オフィスアワー (研究室)	備考参照				メールアドレス (#→@)	備考参照				
1	講義内容	前半授業オリエンテーション								
	該当到達目標	予習	シラバス等を読み、授業のねらいを知る						0.5 時間	
	1,2	復習	オリエンテーション内容を振り返り、前半の授業の全体像を把握する。						1 時間	
2	講義内容	オムニバス講義① 教員の専門性を活かした講義(1)								

	該当到達目標 1,2	予習	教員の指示に従って、事前学習を行う	0.5 時間
		復習	講義内容を振り返り、気づきをレポートに整理してまとめる	1 時間
3	該当到達目標 1,2	講義内容 オムニバス講義② 教員の専門性を活かした講義(2)		
		予習	教員の指示に従って、事前学習を行う	0.5 時間
	1,2	復習	講義内容を振り返り、気づきをレポートに整理してまとめる	1 時間
4	該当到達目標 1,2	講義内容 オムニバス講義③ 教員の専門性を活かした講義(3)		
		予習	教員の指示に従って、事前学習を行う	0.5 時間
	1,2	復習	講義内容を振り返り、気づきをレポートに整理してまとめる	1 時間
5	該当到達目標 1,2	講義内容 オムニバス講義④ 教員の専門性を活かした講義(4)		
		予習	教員の指示に従って、事前学習を行う	0.5 時間
	1,2	復習	講義内容を振り返り、気づきをレポートに整理してまとめる	1 時間
6	該当到達目標 1,2	講義内容 オムニバス講義⑤ 教員の専門性を活かした講義(5)		
		予習	教員の指示に従って、事前学習を行う	0.5 時間
	1,2	復習	講義内容を振り返り、気づきをレポートに整理してまとめる	1 時間
7	該当到達目標 1,2	講義内容 オムニバス講義⑥ 教員の専門性を活かした講義(6)		
		予習	教員の指示に従って、事前学習を行う	0.5 時間
	1,2	復習	講義内容を振り返り、気づきをレポートに整理してまとめる	1 時間
8	該当到達目標 1,2	講義内容 オムニバス講義⑦ 教員の専門性を活かした講義(7)		
		予習	教員の指示に従って、事前学習を行う	0.5 時間
	1,2	復習	講義内容を振り返り、気づきをレポートに整理してまとめる	1 時間
9	該当到達目標 1,2	講義内容 オムニバス講義⑧ 教員の専門性を活かした講義(8)		
		予習	教員の指示に従って、事前学習を行う	0.5 時間
	1,2	復習	講義内容を振り返り、気づきをレポートに整理してまとめる	1 時間
10	該当到達目標 1,2	講義内容 オムニバス講義⑨ 教員の専門性を活かした講義(9)		
		予習	教員の指示に従って、事前学習を行う	0.5 時間
	1,2	復習	講義内容を振り返り、気づきをレポートに整理してまとめる	1 時間
11	該当到達目標 1,2	講義内容 在校生が語る就職と大学生活①		
		予習	福祉分野の就職先について概要を調べ、事前学習する	0.5 時間
	1,2	復習	講義内容を振り返り、気づきをレポートに整理してまとめる	1 時間
12	該当到達目標 1,2	講義内容 在校生が語る就職と大学生活②		
		予習	福祉分野の就職先について概要を調べ、事前学習する	0.5 時間
	1,2	復習	講義内容を振り返り、気づきをレポートに整理してまとめる	1 時間
13	該当到達目標 1,2	講義内容 授業のまとめとボランティア活動オリエンテーション		
		予習	教員の指示に従って、事前学習を行う	0.5 時間
	1,2	復習	オリエンテーションを踏まえて、ボランティア活動の調整を行う	1 時間
14	該当到達目標 1,2	講義内容 ボランティア活動による現場体験		
		予習	教員の指示に従って、事前学習を行う	0.5 時間
	1,2	復習	ボランティア活動の内容を振り返り、気づきをレポートに整理してまとめる	1 時間
15	該当到達目標 1,2	講義内容 まとめ		
		予習	これまでの学習を振り返る	0.5 時間
	1,2	復習	レポート課題に取り組む	1.5 時間

合計時間(予習・復習)		23 時間
備考	最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。 不明な点、疑問点、連絡事項がある場合は、まずは担当教員にメールで連絡すること。 担当教員のメールアドレスやオフィスアワーについては、オリエンテーションで配布して周知する。	

科目名	ソーシャルワーク演習(専門基幹科目)						科目ナンバリング	SWC202		
英文名	Seminar in Social Work Practice						講義形態	演習		
担当教員	金井 敏、永田 理香、根岸 洋人、石坂 公俊、大川 健次郎、加藤 大輔									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格	「社会福祉士」「精神保健福祉士」指定科目									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			1	応用・実践する能力				
	5	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	①	③	④	⑤	⑧	⑩	⑪	⑬	⑭	
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。 ・グループダイナミックスを活用した授業展開により、基本的なコミュニケーション能力の習得を目指し、援助関係形成に向けた基礎力を培う。 ・学習プロセスを振り返ることにより、自己理解及び他者理解への視点を獲得することを目指す。									
到達目標	1. ソーシャルワーク演習が社会福祉士養成(科目)の中でどのような位置づけを持っているのかを理解し、学ぶ意義を説明できる。 2. ソーシャルワークの価値と倫理を実践的に理解することができる。 3. ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することができる。 4. ソーシャルワーク実践において求められるプレゼンテーションの技術を習得することができる。 5. 演習を通して学んだ知識・技術を活用し、ソーシャルワークの展開過程を実践的に理解することができる。									
使用教材	演習に必要な教材は、毎回配布する									
参考文献	授業中に随時提示する									
評価方法	担当教員が、演習への取組状況(グループワークやロールプレイへの取組姿勢、提出物、課題作成等)により総合的に評価する。なお、演習課題に対し、主体的に判断し、積極的に参加・発言する姿勢を心がけること。									
課題・評価に対するフィードバック方法	学生からの意見や提出物等について、担当教員がコメントや修正・改善事項を提示して、随時フィードバックする。履修者は返却された提出物等を必ず確認し、復習すること。									
オフィスアワー (研究室)	担当教員のオフィスアワーについては 5 階実習指導室前の掲示板に掲示する				メールアドレス (#→@)	授業時に教員から周知する				
1	講義内容	オリエンテーション・レクリエーション(グループダイナミックスの活用)								
	該当到達目標 1	予習	シラバス等を読み、演習のねらいを知る						0.5	時間
		復習	配布資料等を基にオリエンテーション内容を確認し演習の全体像を把握する。グループメンバーとの関係性を理解し、今後の学びを考える。						1	時間
2	講義内容	レクリエーション(グループダイナミックスの活用)								
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する						0.5	時間
		復習	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる						1	時間
3	講義内容	レクリエーション(グループダイナミックスの活用)								

	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	12,3,4,5	復習	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1 時間
4	講義内容	自己覚知(自己理解と他者理解)、ソーシャルワークの価値と倫理①		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1 時間
5	講義内容	自己覚知(自己理解と他者理解)、ソーシャルワークの価値と倫理②		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1 時間
6	講義内容	自己覚知(自己理解と他者理解)、ソーシャルワークの価値と倫理③		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1 時間
7	講義内容	基本的なコミュニケーション技術と面接技術①		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1 時間
8	講義内容	基本的なコミュニケーション技術と面接技術②		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1 時間
9	講義内容	基本的なコミュニケーション技術と面接技術③		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1 時間
10	講義内容	プレゼンテーション技術①(グループダイナミックスの活用含む)		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1 時間
11	講義内容	プレゼンテーション技術②(グループダイナミックスの活用含む)		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1 時間
12	講義内容	プレゼンテーション技術③(グループダイナミックスの活用含む)		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1 時間
13	講義内容	ソーシャルワークの展開過程(ケースの発見・インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・支援の終結と事後評価・アフターケア)と記録①		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1 時間
14	講義内容	ソーシャルワークの展開過程(ケースの発見・インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・支援の終結と事後評価・アフターケア)と記録②		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1 時間
15	講義内容	ソーシャルワークの展開過程(ケースの発見・インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・支援の終結と事後評価・アフターケア)と記録③		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	配布資料、演習をふりかえり、要点や気づきを整理しまとめる	1 時間

合計時間(予習・復習)		23 時間
備考	グループワークを中心に行うので遅刻、欠席には注意すること。 最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。 不明な点、疑問点、連絡事項がある場合は、担当教員にメール連絡すること。	

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ(専門基幹科目)					科目ナンバリング	SWC203			
英文名	Seminar in Social Work Practice (advanced)Ⅰ					講義形態	演習			
担当教員	金井 敏、永田 理香、根岸 洋人、一柳 大輔									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数	必修 1 単位						
履修を必須とする資格	「社会福祉士」「介護福祉士」指定科目									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	3	基礎的知識力			1	応用・実践する能力				
	3	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑪ ⑬ ⑭ ⑯ ⑰									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化体系立てて行くことができる能力を習得する。社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。具体的な事例等(集団に対する事例を含む)を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。その方法として、①個別指導並びに集団指導を通して、実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行うこと、②事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技指導を行うことで、主体的に活用できることを目標とする。 授業期間全体を通じて、グループワークを中心に学ぶ。									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
到達目標	1. ソーシャルワーク演習が社会福祉士養成(科目)の中でどのような位置づけを持っているのかを理解し、学ぶ意義が説明できる。 2. 事例等を題材にして、ソーシャルワークの展開過程(ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア)を理解し、活用できる。 3. 事例等を題材にして、ソーシャルワークの展開過程において用いられる知識と技術(アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネート、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション)を理解し、活用できる。 4. 演習全体を通して、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチを理解し、活用できる。									
使用教材	演習に必要な教材は、毎回配布する									
参考文献	授業中に随時提示する									
評価方法	担当教員が、演習への取組状況(グループワークやロールプレイングへの取組姿勢、提出物、課題作成等)により総合的に評価する。なお、演習課題に対し、主体的に判断し、積極的に参加・発言する姿勢を心がけること。									
課題・評価に対するフィードバック方法	学生からの意見や提出物等について、担当教員がコメントや修正・改善事項を提示して、随時フィードバックする。履修者は返却された提出物等を必ず確認し、復習すること。									
オフィスアワー (研究室)	担当教員のオフィスアワーは 5 階実習指導室前の掲示板に掲示する				メールアドレス (#→@)		授業時に教員から周知する			

1	講義内容	オリエンテーション、ガイダンス		
	該当到達目標	予習	シラバス等を読み、授業のねらいと手順を理解する	1 時間
	1,4	復習	配布資料等を元に、半期の全体像を理解する	1 時間
2	講義内容	ソーシャルワーカーとしての課題や実践目標を探る		
	該当到達目標	予習	ソーシャルワーカーが所属する機関や施設について事前学習を行う	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	演習から学んだことをレポートにまとめて提出する	1 時間
3	講義内容	地域福祉の基盤整備と開発① 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域アセスメント		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
4	講義内容	地域福祉の基盤整備と開発② 社会資源の活用・調整・開発、組織化		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料や演習を振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
5	講義内容	地域福祉の基盤整備と開発③ 地域福祉の計画、サービスの評価		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
6	講義内容	チームアプローチ・ネゴシエーション①		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
7	講義内容	チームアプローチ・ネゴシエーション②		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
8	講義内容	チームアプローチ・ネゴシエーション③		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
9	講義内容	スーパービジョン・ソーシャルアクション①		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
10	講義内容	スーパービジョン・ソーシャルアクション②		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
11	講義内容	スーパービジョン・ソーシャルアクション③		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
12	講義内容	ファシリテーション・ネットワーキング①		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
13	講義内容	ファシリテーション・ネットワーキング②		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
14	講義内容	ファシリテーション・ネットワーキング③		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間

	1,2,3,4	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
15	講義内容	まとめ、ガイダンス		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、半期の内容・全体像を再確認する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	自己の成長や変化、課題を自己評価する	1 時間
合計時間(予習・復習)				23 時間
備考	最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。 不明な点、疑問点、連絡事項がある場合は、まずは担当教員にメールで連絡してください。 担当教員のオフィスアワーについては5階実習指導室前の掲示板に掲示します。			

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ(専門基幹科目)						科目ナンバリング	SWC204		
英文名	Seminar in Social Work Practice (advanced) Ⅱ						講義形態	演習		
担当教員	金井 敏、永田 理香、根岸 洋人									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数	必修 1 単位						
履修を必須とする資格	「社会福祉士」「介護福祉士」指定科目									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			1	応用・実践する能力				
	5	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	①	③	④	⑤	⑧	⑩	⑪	⑬	⑭	
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化体系立てて行くことができる能力を習得する。社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。具体的な事例等(集団に対する事例を含む)を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。その方法として、①個別指導並びに集団指導を通して、実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行うこと、②事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技指導を行うことで、主体的に活用できることを目標とする。 授業期間全体を通じて、グループワークを中心に学ぶ。									
到達目標	1. 取り上げる事例等において、具体的なソーシャルワークの場面及び過程(ケースの発見、インタビュー、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア)を説明できる。 2. 具体的なソーシャルワークの場面及び過程で、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションを含めた各技術を理解し、活用できる。 3. 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解し、活用できる。 4. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に説明できる。 5. 個人と専門職との価値観の違いについて考察し、自己の成長や変化、課題を明確化することができる。									
使用教材	演習に必要な教材は、毎回配布する									
参考文献	授業中に随時提示する									
評価方法	演習への取組状況(事例シートの作成、事例の発表・ディスカッション、提出物、課題作成等)により総合的に評価する。なお、演習への参加姿勢やゼミへの貢献度も評価の要素として想定している。									
課題・評価に対するフィードバック方法	学生からの意見や提出物等について、担当教員がコメントや修正・改善事項を提示して、随時フィードバック									

		ックする。履修者は返却された提出物等を必ず確認し、復習すること。			
オフィスアワー (研究室)		担当教員のオフィスアワーは 5 階実習指導室前の掲示板に掲示する		メールアドレス (#→@)	授業時に教員から周知する
1	講義内容	オリエンテーション、ソーシャルワーク演習における事例検討の意味と方法			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	シラバス等を読み、事例検討の内容を理解する。		0.5 時間
		復習	配布資料を元に、半期の全体像を理解する。		1 時間
2	講義内容	事例検討(ゲストスピーカー:高齢者分野等)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布資料を読み、ゲストスピーカーの職場での仕事と事例をイメージする。		0.5 時間
		復習	事例を振り返り、ソーシャルワークの場面及び過程を整理する		1 時間
3	講義内容	事例検討(認知症)による総合的かつ包括的な支援の習得			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布資料をもとに、複合的な課題についてアセスメントを行う		0.5 時間
		復習	事例検討で学んだことを振り返り、実習で活かしていくことをまとめる		1 時間
4	講義内容	事例検討(ゲストスピーカー:障害分野)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布資料を読み、ゲストスピーカーの職場での仕事と事例をイメージする。		0.5 時間
		復習	事例を振り返り、ソーシャルワークの場面及び過程を整理する		1 時間
5	講義内容	事例検討(ひきこもり、虐待)による総合的かつ包括的な支援の習得			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布資料をもとに、複合的な課題についてアセスメントを行う		0.5 時間
		復習	事例検討で学んだことを振り返り、実習で活かしていくことをまとめる		1 時間
6	講義内容	事例検討(ゲストスピーカー:児童分野)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布資料を読み、ゲストスピーカーの職場での仕事と事例をイメージする。		0.5 時間
		復習	事例を振り返り、ソーシャルワークの場面及び過程を整理する		1 時間
7	講義内容	事例検討(虐待、貧困)による総合的かつ包括的な支援の習得			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布資料をもとに、複合的な課題についてアセスメントを行う		0.5 時間
		復習	事例検討で学んだことを振り返り、実習で活かしていくことをまとめる		1 時間
8	講義内容	事例検討(ゲストスピーカー:社会福祉協議会分野)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布資料を読み、ゲストスピーカーの職場での仕事と事例をイメージする。		0.5 時間
		復習	事例を振り返り、ソーシャルワークの場面及び過程を整理する		1 時間
9	講義内容	事例検討(災害時、その他の危機状態にある事例)による総合的かつ包括的な支援の習得			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布資料をもとに、複合的な課題についてアセスメントを行う		0.5 時間
		復習	事例検討で学んだことを振り返り、実習で活かしていくことをまとめる		1 時間
10	講義内容	事例検討(ゲストスピーカー:医療分野)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布資料を読み、ゲストスピーカーの職場での仕事と事例をイメージする。		0.5 時間
		復習	事例を振り返り、ソーシャルワークの場面及び過程を整理する		1 時間
11	講義内容	事例検討(終末期ケア)による総合的かつ包括的な支援の習得			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布資料をもとに、複合的な課題についてアセスメントを行う		0.5 時間
		復習	事例検討で学んだことを振り返り、実習で活かしていくことをまとめる		1 時間
12	講義内容	事例検討(ゲストスピーカー:地域包括支援センター分野)			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	配布資料を読み、ゲストスピーカーの職場での仕事と事例をイメージする。		0.5 時間
		復習	事例を振り返り、ソーシャルワークの場面及び過程を整理する		1 時間
13	講義内容	事例検討(終末期ケア)による総合的かつ包括的な支援の習得			
	該当到達目標	予習	配布資料をもとに、複合的な課題についてアセスメントを行う		0.5 時間

令和 6 年度 社会福祉学科シラバス

	1,2,3,4,5	復習	事例検討で学んだことを振り返り、実習で活かしていくことをまとめる	1 時間
14	講義内容	ソーシャルワーク実習Ⅱ 実習報告会参加		
	該当到達目標	予習	配布資料を読み、実習先施設の概要等を調べる	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実習報告会で学んだことを振り返り、レポートを提出する	1 時間
15	講義内容	まとめ、オリエンテーション		
	該当到達目標	予習	半期の事例検討の内容を振り返る。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	社会福祉士の実践的な支援を理解し、実習時に活用できるようまとめる	1 時間
合計時間(予習・復習)				23 時間
備考	最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完してください。 不明な点、疑問点、連絡事項がある場合は、まずは担当教員にメールで連絡してください。 担当教員のオフィスアワーについては 5 階実習指導室前の掲示板に掲示します。			

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ(専門基幹科目)						科目ナンバリング	SWC205		
英文名	Seminar in Social Work Practice (advanced) Ⅲ						講義形態	演習		
担当教員	金井 敏、永田 理香、根岸 洋人、石坂 公俊、大川 健次郎、加藤 大輔、檜府 憲太									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年 前期		選必・単位数		選択 1 単位					
履修を必須とする資格	社会福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			1	応用・実践する能力				
	5	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑫ ⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○	○	○	○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化体系立てて行くことができる能力を習得する。具体的な事例等(集団に対する事例を含む。)を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。その方法として①個別指導並びに集団指導を通して、実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行うこと、②事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技指導を行うこと、③地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し、実技指導を行うことで、主体的に活用できることを目標とする。 本科目は実習指導ゼミと並行して進める。実習計画書づくりと連動していることに留意すること。実習指導ゼミと同じメンバーで進める。									
到達目標	1. 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を持つことができる。 2. 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解することができる。 3. 地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解することができる。 4. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解することができる。									
使用教材	演習に必要な教材は、毎回配布する									
参考文献	授業中に随時提示する									
評価方法	担当教員が、演習への取組状況(グループワークやロールプレイへの取組姿勢、提出物、課題作成等)により総合的に評価する。なお、演習課題に対し、主体的に判断し、積極的に参加・発言する姿勢を心がけること。									
課題・評価に対するフィードバック方法	学生からの意見や提出物等について、担当教員がコメントや修正・改善事項を提示して、随時フィードバックする。履修者は返却された提出物等を必ず確認し、復習すること。									
オフィスアワー(研究室)	担当教員のオフィスアワーは 5 階実習指導室前の掲示板に掲示する				メールアドレス (#→@)		授業時に教員から周知する			
1	講義内容 オリエンテーション									
	該当到達目標	予習 シラバス等を読み、授業のねらいと手順を理解する							1 時間	

	1,2,3,4	復習	配布資料等を元に、半期の全体像を理解する	1 時間
2	講義内容	地域福祉の基盤整備と開発にかかる事例(地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握①)		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、事例をイメージする。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
3	講義内容	地域福祉の基盤整備と開発にかかる事例(地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握②)		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、事例をイメージする。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
4	講義内容	地域福祉の基盤整備と開発にかかる事例(地域アセスメント①)		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、事例をイメージする。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
5	講義内容	地域福祉の基盤整備と開発にかかる事例(地域アセスメント②)		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、事例をイメージする。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
6	講義内容	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例(地域福祉の計画①)		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、事例をイメージする。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
7	講義内容	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例(地域福祉の計画②)		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、事例をイメージする。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
8	講義内容	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例(組織化①)		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、事例をイメージする。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
9	講義内容	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例(組織化②)		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、事例をイメージする。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
10	講義内容	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例(社会資源の活用・調整・開発①)		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、事例をイメージする。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
11	講義内容	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例(社会資源の活用・調整・開発②)		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、事例をイメージする。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
12	講義内容	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例(サービスの評価①)		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
13	講義内容	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例(サービスの評価②)		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料や演習を元に振り返り、気づきや実習に活用する内容を抽出・整理する	1 時間
14	講義内容	ソーシャルワークの視点		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、演習のねらいと手順を理解する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	グループ討議を元に振り返り、個人と専門職との価値観の違いについて考察する。	1 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	配布資料等を読み、半期の内容・全体像を再確認する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ゼミのメンバーと行った振り返りで、半期の学びを整理する。自己の成長や変化、社会福祉士としての課題を自己評価する。	1 時間
合計時間(予習・復習)				23 時間
備考	最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。 不明な点、疑問点、連絡事項がある場合は、まずは担当教員にメールで連絡してください。			

	担当教員のオフィスアワーについては5階実習指導室前の掲示板に掲示します。

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳ(専門基幹科目)						科目ナンバリング	SWC206		
英文名	Seminar in Social Work Practice (advanced) Ⅳ						講義形態	演習		
担当教員	金井 敏、永田 理香、根岸 洋人、石坂 公俊、大川 健次郎、加藤 大輔、檜府 憲太									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格	社会福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			1	応用・実践する能力				
	5	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	①	③	④	⑤	⑧	⑩	⑯			
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○	○	○	○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。その方法として、 <u>ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行うこととする。</u> また、社会福祉士として、ソーシャルワークの価値と倫理、専門性の確立、卒業後のキャリア像形成の一助となるように展開する。 ②本科目は実習指導ゼミと並行して進める。実習計画書づくりと連動していることに留意すること。実習指導ゼミと同じメンバーで進める。									
到達目標	1. ソーシャルワーク実習を通じて体験した事例について、 <u>事例検討</u> や <u>事例研究</u> を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解することができる。 2. <u>スーパービジョン</u> を受けることで体験的に理解し、実践の質の向上を図ることができる。 3. 社会福祉士としての価値と倫理を自分自身の中で確立することができる									
使用教材	演習に必要な教材は、毎回配布する									
参考文献	授業中に随時提示する									
評価方法	演習への参加姿勢やゼミへの貢献度、ワークシートや提出物の記載内容、プレゼンテーション等で総合的に評価する									
課題・評価に対するフィードバック方法	学生からの意見や提出物等について、担当教員がコメントや修正・改善事項を提示して、随時フィードバックする。履修者は返却された提出物等を必ず確認し、復習すること。									
オフィスアワー (研究室)	担当教員のオフィスアワーは 5 階実習指導室前の掲示板に掲示する				メールアドレス (#→@)		授業時に教員から周知する			
1	講義内容	オリエンテーション								
	該当到達目標	予習	実習ノート等の必要資料を整理し揃え、その実践内容を振り返る						1 時間	
	1,2,3	復習	事例研究、事例検討、スーパービジョンのルールを確認する						1 時間	
2	講義内容	ソーシャルワーク実習の振り返り								
	該当到達目標	予習	実習経験をもとに、ソーシャルワーク演習・ソーシャルワーク演習(専門)で学んだ内容と関連付けて考える						1 時間	
	1,2	復習	グループ討議やスーパービジョンをもとに学習内容をまとめる						1 時間	
3	講義内容	<u>事例研究、事例検討、スーパービジョン</u>								
	該当到達目標	予習	個別事例報告の準備。配布資料の発表内容に合わせて制度、社会資源、アプローチ等を確認しておく						1 時間	

	1,2,3	復習	グループ討議やスーパービジョンをもとに学習内容をまとめる	1 時間
4	講義内容	事例研究、事例検討、スーパービジョン		
	該当到達目標	予習	個別事例報告の準備。配布資料の発表内容に合わせて制度、社会資源、アプローチ等を確認しておく	1 時間
	1,2,3	復習	グループ討議やスーパービジョンをもとに学習内容をまとめる	1 時間
5	講義内容	事例研究、事例検討、スーパービジョン		
	該当到達目標	予習	個別事例報告の準備。配布資料の発表内容に合わせて制度、社会資源、アプローチ等を確認しておく	1 時間
	1,2,3	復習	グループ討議やスーパービジョンをもとに学習内容をまとめる	1 時間
6	講義内容	事例研究、事例検討、スーパービジョン		
	該当到達目標	予習	個別事例報告の準備。配布資料の発表内容に合わせて制度、社会資源、アプローチ等を確認しておく	1 時間
	1,2,3	復習	グループ討議やスーパービジョンをもとに学習内容をまとめる	1 時間
7	講義内容	事例研究、事例検討、スーパービジョン		
	該当到達目標	予習	個別事例報告の準備。配布資料の発表内容に合わせて制度、社会資源、アプローチ等を確認しておく	1 時間
	1,2,3	復習	グループ討議やスーパービジョンをもとに学習内容をまとめる	1 時間
8	講義内容	事例研究、事例検討、スーパービジョン		
	該当到達目標	予習	個別事例報告の準備。配布資料の発表内容に合わせて制度、社会資源、アプローチ等を確認しておく	1 時間
	1,2,3	復習	グループ討議やスーパービジョンをもとに学習内容をまとめる	1 時間
9	講義内容	事例研究、事例検討、スーパービジョン		
	該当到達目標	予習	個別事例報告の準備。配布資料の発表内容に合わせて制度、社会資源、アプローチ等を確認しておく	1 時間
	1,2,3	復習	グループ討議やスーパービジョンをもとに学習内容をまとめる	1 時間
10	講義内容	事例研究、事例検討、スーパービジョン		
	該当到達目標	予習	個別事例報告の準備。配布資料の発表内容に合わせて制度、社会資源、アプローチ等を確認しておく	1 時間
	1,2,3	復習	グループ討議やスーパービジョンをもとに学習内容をまとめる	1 時間
11	講義内容	事例研究、事例検討、スーパービジョン		
	該当到達目標	予習	個別事例報告の準備。配布資料の発表内容に合わせて制度、社会資源、アプローチ等を確認しておく	1 時間
	1,2,3	復習	グループ討議やスーパービジョンをもとに学習内容をまとめる	1 時間
12	講義内容	事例研究、事例検討、スーパービジョン		
	該当到達目標	予習	個別事例報告の準備。配布資料の発表内容に合わせて制度、社会資源、アプローチ等を確認しておく	1 時間
	1,2,3	復習	グループ討議やスーパービジョンをもとに学習内容をまとめる	1 時間
13	講義内容	事例研究、事例検討、スーパービジョン		
	該当到達目標	予習	個別事例報告の準備。配布資料の発表内容に合わせて制度、社会資源、アプローチ等を確認しておく	1 時間
	1,2,3	復習	グループ討議やスーパービジョンをもとに学習内容をまとめる	1 時間
14	講義内容	事例研究、事例検討、スーパービジョン		
	該当到達目標	予習	個別事例報告の準備。配布資料の発表内容に合わせて制度、社会資源、アプローチ等を確認しておく	1 時間
	1,2,3	復習	グループ討議やスーパービジョンをもとに学習内容をまとめる	1 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	これまでに発表された資料やグループ討議、スーパービジョンの内容をまとめる	1 時間
	1,2,3	復習	社会福祉士として必要な価値と倫理、専門性、将来像について自分自身の経験と重ねて考える	1 時間

合計時間(予習・復習)		30 時間
備考	最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完してください。 不明な点、疑問点、連絡事項がある場合は、まずは担当教員にメールで連絡してください。 担当教員のオフィスアワーについては5階実習指導室前の掲示板に掲示します。	

科目名	特別講座Ⅰ（専門基幹科目）						科目ナンバリング	SWC207		
英文名	Special LectureshipⅠ						講義形態	演習		
担当教員	社会福祉学科教員									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	4 年 前期		選必・単位数	必修 1 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			1	応用・実践する能力				
	5	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	①③④⑤⑧⑩⑪⑬⑮⑯⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①福祉・介護ニーズは多様化・複雑化しており、質の高いサービスを確保するためには、従事者の確保と共に、専門性の向上を図ることが求められてきている。そこで本科目では、高い倫理性に基づき福祉社会の発展に積極的に関わることができる専門職の育成を目指し、福祉実践に活かせる知識・技術の体系的理解及び応用力の形成を目的とする。 ②段階的に設定した課題への取り組みを中心に学習を進める。単元の終わりには小テスト、期末には総合試験を行い、学習課題の定着度を測定する。									
到達目標	1. 福祉・介護ニーズの多様化・複雑化に伴い求められる福祉の専門性について説明することができる。 2. 福祉専門職に求められる価値・倫理に基づき、利用者理解の視点を言語化することができる。 3. 対人援助に関する理論と実践を統合し、福祉現場で応用する力を身につけることができる。									
使用教材	適宜参考資料等を配布する。									
参考文献	適宜参考資料等を配布する。									
評価方法	定期試験 80%、課題提出 20%で評価する。総合評価 60%以上で合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出された課題については、担当教員が内容を確認しフィードバックを行なう。返却された課題は必ず復習を行なうこと。									
オフィスアワー （研究室）	授業時にアナウンスする。				メールアドレス （#→@）	授業時にアナウンスする。				
講義内容	アクティブラーニングの手法を用い、現在の福祉専門職に求められる能力について多面的な考察を行なう。また、学生が学習過程を省察してまとめるプロセスを通して、将来に向けた自己の課題を明確化できるよう支援する。									
	予習	学習課題における重要語句を調べ、考察の視点を明確化する。							毎 1.5 時間	
	復習	学習過程を省察し、自己の課題を明確化する。							毎 1.5 時間	
合計時間（予習・復習）									45 時間	
備考	予習・復習については、試験前の学習で補完すること。 オンラインで実施する場合は、別途 C ラーニング等で周知する。									

科目名	特別講座Ⅱ（専門基幹科目）						科目ナンバリング	SWC208		
英文名	Special Lectureship Ⅱ						講義形態	演習		
担当教員	社会福祉学科教員									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
	5	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	①	③	④	⑤	⑧	⑩	⑪	⑬	⑭	
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	福祉・介護ニーズは多様化・複雑化しており、質の高いサービスを確保するためには、従事者の確保と共に、専門性の向上を図ることが求められてきている。そこで本科目では、高い倫理性に基づき福祉社会の発展に積極的に関わることができる専門職の育成を目指し、福祉実践に活かせる知識・技術の体系的理解及び応用力の形成を目的とする。 段階的に設定した課題への取り組みを中心に学習を進める。単元の終わりには小テスト、期末には総合試験を行い、学習課題の定着度を測定する。									
到達目標	1. 福祉専門職としてのキャリアを主体的にデザインできる力を身につける。 2. 国家資格取得の意味とキャリア形成との関わりについて説明することができる。 3. 福祉専門職に求められる社会人基礎力について説明することができる。									
使用教材	適宜参考資料等を配布する。									
参考文献	適宜参考資料等を配布する。									
評価方法	定期試験 80%、課題提出 20%で評価する。総合評価 60%以上で合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出された課題については、担当教員が内容を確認しフィードバックを行なう。返却された課題は必ず復習を行なうこと。									
オフィスアワー （研究室）	授業時にアナウンスする。				メールアドレス （#→@）		授業時にアナウンスする。			
講義内容	アクティブラーニングの手法を用い、現在の福祉専門職に求められる能力について多面的な考察を行なう。また、学生が学習過程を省察してまとめるプロセスを通して、将来に向けた自己の課題を明確化できるよう支援する。									
	予習	学習課題における重要語句を調べ、考察の視点を明確化する。							毎 1.5 時間	
	復習	学習過程を省察し、自己の課題を明確化する。							毎 1.5 時間	
								合計時間（予習・復習）		45 時間
備考	予習・復習については、試験前の学習で補完すること。 オンラインで実施する場合は、別途 C ラーニング等で周知する。									

科目名	社会保障Ⅰ（専門展開科目）						科目ナンバリング	SWS301		
英文名	Social SecurityⅠ						講義形態	講義		
担当教員	石坂 公俊									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格	社会福祉士、精神保健福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	①	③	④	⑤	⑧	⑩	⑪	⑫	⑯	
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	1. 社会保障の概念や理念について理解する。 2. 現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解する。 3. 社会保障制度の財政について理解する。 4. 社会保障制度の体系と概要について理解する。（公的年金制度・医療保険制度） 5. 社会福祉士・精神保健福祉士等の業務を遂行するのに必要な社会保障制度の知識の修得を図る。 基本的に講義形式で行うが、講義の中では VTR 等も援用する。									
到達目標	1. 社会保障制度の概要を他の制度と関連付けて有機的に理解できる。 2. 社会保障関連項目の財源構成等を諸外国の比較的視点を併せて理解できる。 3. 公的年金制度を理解できる。 4. 医療保険制度を理解できる。									
使用教材	『社会保障』中央法規出版									
参考文献	特記事項なし									
評価方法	学修意欲(10%)，リアクションペーパー(10%)，中間試験(30%)，期末試験(50%)									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業時に実施する国家試験過去問題は解説を行う 提出されたリアクションペーパーに対してコメントを付けて返却する									
オフィスアワー （研究室）	水曜日 4 時限 質問はメールでも受け付ける。 （1 号館 5 階 503 研究室）				メールアドレス （#→@）		kimi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション								
	該当到達目標 1	予習	シラバスを読み、講義目標、到達目標、講義計画などを理解する。						1.5 時間	
		復習	オリエンテーションで説明した講義目標、到達目標、講義計画、成績評価方法などを確認する。						1 時間	
2	講義内容	現代社会と社会保障								
	該当到達目標	予習	テキスト第 1 章を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。						1 時間	

	1,2	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
3	講義内容	社会保障の概念や対象およびその理念①		
	該当到達目標	予習	テキスト第2章を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
	1,2	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
4	講義内容	社会保障の概念や対象およびその理念②		
	該当到達目標	予習	テキスト第2章を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
	1,2	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
5	講義内容	社会保障の財政		
	該当到達目標	予習	テキスト第3章を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
	1,2	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
6	講義内容	社会保障の概要(中間まとめ)		
	該当到達目標	予習	これまで配付した資料を精読し、要点をまとめておく。	1 時間
	1,2	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
7	講義内容	年金保険制度①沿革と概要		
	該当到達目標	予習	テキスト第5章第3節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
	3	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
8	講義内容	年金保険制度②国民年金制度と厚生年金制度		
	該当到達目標	予習	テキスト第5章第3節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
	3	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
9	講義内容	年金保険制度③年金保険制度をめぐる諸動向		
	該当到達目標	予習	テキスト第5章第3節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
	3	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
10	講義内容	年金保険制度④年金制度まとめ		
	該当到達目標	予習	これまで配付した資料を精読し、要点をまとめておく。	1 時間
	3	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
11	講義内容	医療保険制度①医療保険制度の沿革と概要		
	該当到達目標	予習	テキスト第5章第1節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
	4	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
12	講義内容	医療保険制度②健康保険制度と国民健康保険制度		
	該当到達目標	予習	テキスト第5章第1節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
	4	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
13	講義内容	医療保険制度③国民医療費と医療をめぐる動向		
	該当到達目標	予習	テキスト第5章第1節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
	4	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
14	講義内容	医療保険制度④医療保険制度まとめ		
	該当到達目標	予習	これまで配付した資料を精読し、要点をまとめておく。	1 時間
	1,2,4	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
15	講義内容	講義のまとめ、試験対策など		
	該当到達目標	予習	これまでの学修内容を整理し、疑問点、確認したいことなどをまとめておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。定期テストの準備を行う。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				38 時間
備考	指定した教科書の該当頁は事前に通読しておくこと。またリアクションペーパーを課すことがあるが、提出されたものを受講者で情報共有するケースもあるのでそのつもりで提出すること。 予習・復習については、試験前の学習で補完すること。			

科目名	社会保障Ⅱ（専門展開科目）							科目ナンバリング	SWS302	
英文名	Social SecurityⅡ							講義形態	講義	
担当教員	一柳 大輔									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格	社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	35101116									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○							○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ② 講義の実施方法	①1.社会保障の概念や理念について理解する。 2.現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解する。 3.社会保障制度の財政について理解する。 4.社会保障制度の体系と概要について理解する。（公的年金制度・医療保険制度） 5.社会福祉士・精神保健福祉士等の業務を遂行するのに必要な社会保障制度の知識の修得を図る。 ②基本的に講義形式で行うが、講義の中では VTR 等も援用する。									
到達目標	1. 社会保障制度の概要を他の制度と関連付けて有機的に理解できる。 2. 社会保障関連項目の財源構成等を諸外国の比較的視点を併せて理解できる。 3. 公的年金制度を理解できる。 4. 医療保険制度を理解できる。									
使用教材	『社会保障』中央法規出版									
参考文献	特になし									
評価方法	課題（小テスト、レポートなど）（30％）、期末試験（70％）									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題は、提出期限後に授業内にて解説を行う。 期末試験は、試験終了後に出題意図を説明する。									
オフィスアワー （研究室）	初回授業時に提示する					メールアドレス （#→@）	初回授業時に提示する			
1	講義内容	オリエンテーション／社会保障制度の体系								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標、到達目標、講義計画などを理解する。							1.5 時間
	1	復習	ガイダンスで説明した内容を確認する。							1 時間
2	講義内容	社会保険と民間保険の現状								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、疑問点を質問できるように準備する。							1 時間
	1,2	復習	民間保険の種類と違いについてまとめる。							1.5 時間
3	講義内容	介護保険制度の概要								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、疑問点を質問できるように準備する。							1 時間
	1,2	復習	介護保険制度の沿革と概要をまとめる。							1.5 時間

4	講義内容	労災保険制度			
	該当到達目標 1,2	予習	教科書の該当箇所を読み、疑問点を質問できるように準備する。	1 時間	
		復習	雇用保険と労働保険の違いを整理する。	1.5 時間	
5	講義内容	労働者災害補償保険制度・雇用保険制度			
	該当到達目標 1,2	予習	教科書の該当箇所を読み、疑問点を質問できるように準備する。	1 時間	
		復習	保険の適用範囲と最近の制度改正の趣旨を整理する。	1.5 時間	
6	講義内容	生活保護制度の概要(社会保険と社会扶助の関係)			
	該当到達目標 1,2	予習	教科書の該当箇所を読み、疑問点を質問できるように準備する。	1 時間	
		復習	公的扶助としての生活保護制度についてまとめる。	1.5 時間	
7	講義内容	生活困窮者自立支援法			
	該当到達目標 3	予習	教科書の該当箇所を読み、疑問点を質問できるように準備する。	1 時間	
		復習	セーフティーネットのしくみと概要をまとめる。	1.5 時間	
8	講義内容	社会手当制度の概要			
	該当到達目標 3	予習	教科書の該当箇所を読み、疑問点を質問できるように準備する。	1 時間	
		復習	社会保障全体のなかで社会手当制度の意義をまとめる。	1.5 時間	
9	講義内容	児童手当・児童扶養手当制度・障害児者に対する社会手当等			
	該当到達目標 3	予習	教科書の該当箇所を読み、疑問点を質問できるように準備する。	1 時間	
		復習	それぞれの社会手当制度の特徴を理解する。	1.5 時間	
10	講義内容	社会福祉制度の概要			
	該当到達目標 3	予習	教科書の該当箇所を読み、疑問点を質問できるように準備する。	1 時間	
		復習	社会福祉制度全体の意義と社会福祉制度の基本法についてまとめる。	1.5 時間	
11	講義内容	高齢者、児童、障害分野の福祉制度			
	該当到達目標 4	予習	教科書の該当箇所を読み、疑問点を質問できるように準備する。	1 時間	
		復習	各分野の制度との共通点についてまとめる。	1.5 時間	
12	講義内容	諸外国の社会保障			
	該当到達目標 4	予習	教科書の該当箇所を読み、疑問点を質問できるように準備する。	1 時間	
		復習	各国の特徴と共通点、相違点をまとめる。	1.5 時間	
13	講義内容	社会保障の国際比較			
	該当到達目標 4	予習	教科書の該当箇所を読み、疑問点を質問できるように準備する。	1 時間	
		復習	少子高齢社会、移民問題と社会保障制度の対応を比較してまとめる。	1.5 時間	
14	講義内容	社会保障の国際化			
	該当到達目標 1,2,4	予習	教科書の該当箇所を読み、疑問点を質問できるように準備する。	1 時間	
		復習	教科書に挙げた諸国の歴史的背景と社会保障政策のつながりを整理する。	1.5 時間	
15	講義内容	講義のまとめ、試験対策など			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	この講義をとおしての疑問点を質問できるように準備する。	1.5 時間	
		復習	諸国の労働事情を整理する、この授業全体の不明な点を整理する。	1.5 時間	
合計時間(予習・復習)					38 時間
備考	指定した教科書の該当頁は事前に通読しておくこと。 リアクションペーパーは提出されたものを受講者で情報共有するので、そのつもりで提出すること。 予習・復習については、試験前の学習で補完すること。				

科目名	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ（専門展開科目）						科目ナンバリング	SWS303		
英文名	Community care and Comprehensive support systemⅠ						講義形態	講義		
担当教員	金井 敏									
科目に関連した実務経験	地域福祉の実践主体である社会福祉協議会に勤務し、市町村社会福祉協議会やボランティアセンター、社会福祉法人・施設、民生委員・児童委員、里親などの支援業務に従事していました。現在、行政の福祉計画づくりや包括的支援体制整備事業など実務に携わっています。									
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格	「社会福祉士」「精神保健福祉士」									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑪ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	地域福祉の推進は、今後の社会福祉実践や政策を展開するうえで基調的なものであり、メインストリームとなっています。この講義では、地域福祉の理念や歴史、基盤となる行政組織や計画、地域生活課題の現状、地域共生社会に向けた包括的支援体制、災害時支援体制などを学びます。日々変化する地域福祉の実相をリアルに捉え、将来のソーシャルワーカーとして地域福祉を活用できる力を養います。さらに、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験に合格する学習水準を獲得することを目標とする。毎回の授業は、前回の振り返りまたは地域福祉に関する映像資料の視聴、テーマに基づく講義、ディスカッション、小テストまたは小レポート、次週の予定、という流れで進める。									
到達目標	1. 地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について説明できる。■ 2. 地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を説明できる。■ 3. 地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について説明できる。■ 4. 地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開について説明できる。■ 5. 包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について説明できる。■ 6. 地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を説明できる。■									
使用教材	「最新社会福祉士養成講座 6 地域福祉と包括的支援体制」日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規出版） ISBN 978-4-8058-8236-8									
参考文献	その他、講義に必要な教材・資料は適宜プリントして配付する。									
評価方法	成績評価 ①期末試験による評価 70% ②毎回の授業時に課す小テストまたはレポート等による評価 30% その他の評価 ①授業開講数の 2/3 以上を出席することにより、成績の評価対象とする。 ②忌引きや実習、就職活動などによる欠席は、届け出(要添付書類)を提出すれば出席扱いとする。なお、15 分以上の遅刻は欠席とみなす。									
課題・評価に対するフィードバック方法	質問や相談については Clearning で適時回答するほか、必要に応じて授業時に学生全体にフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	質問や相談は Clearning 等で随時受け付ける。				メールアドレス (#→@)	kanai#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	地域社会の概念と理論								
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。						2 時間	
	1,2,3,4,5,6	復習	地域社会の概念と理論を理解する。						1.5 時間	

2	講義内容	地域社会の変化■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	1 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	地域社会の変化を理解する。	1.5 時間
3	講義内容	多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	1 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズを理解する。	1.5 時間
4	講義内容	地域福祉と社会的孤立■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	2.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	地域福祉と社会的孤立を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	地域共生社会の実現に向けた包括支援体制■(ゲストスピーカーあり)		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	1 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	地域共生社会の実現に向けた包括支援体制を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	生活困窮者自立支援の考え方■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	3 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	生活困窮者自立支援の考え方を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	包括的支援体制・地域共生社会の構築とは■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	1 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	包括的支援体制・地域共生社会の構築とはを理解する。	1.5 時間
8	講義内容	地域共生社会の実現に向けた各種施策■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	3 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	地域共生社会の実現に向けた各種施策を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	地域福祉ガバナンス■(ゲストスピーカーあり)		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	2 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	地域福祉ガバナンスを理解する。	1.5 時間
10	講義内容	多機関協働を促進する仕組み■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	2 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	多機関協働を促進する仕組みを理解する。	1.5 時間
11	講義内容	多職種連携・福祉以外の分野との機関協働の実際■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	2 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	多職種連携・福祉以外の分野との機関協働の実際を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	地域福祉の概念と理論		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	1 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	地域福祉の概念と理論を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	地域福祉の歴史		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	1 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	地域福祉の歴史を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	地域福祉の動向・推進主体■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	2 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	地域福祉の動向・推進主体を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	地域福祉の主体と福祉教育■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	1 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	地域福祉の主体と福祉教育を理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				48 時間
備考	●期末試験の準備として8時間以上の復習時間を確保すること。授業の理解を深めるために現場で活躍するゲストスピーカーから実践を紹介してもらう(2回予定)。学生の地元市町村の福祉の実態を調べるなど予習を課す。また、日ごろから新聞を読む、地域の情報を調べる、ボランティア活動に参加するなど、地域福祉について関心を高めておくこと。 ●シラバス中の■は実務経験に基づく授業内容を表す。			

科目名	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ（専門展開科目）					科目ナンバリング	SWS304			
英文名	Community care and Comprehensive support systemⅡ					講義形態	講義			
担当教員	金井 敏									
科目に関連した実務経験	地域福祉の実践主体である社会福祉協議会に勤務し、市町村社会福祉協議会やボランティアセンター、社会福祉法人・施設、民生委員・児童委員、里親などの支援業務に従事していました。現在、行政の福祉計画づくりや包括的支援体制整備事業など実務に携わっています。									
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする資格	「社会福祉士」「精神保健福祉士」									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑪ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	地域福祉の推進は、今後の社会福祉実践や政策を展開するうえで基調的なものであり、メインストリームとなっている。この講義では、地域福祉の理念や歴史、基盤となる行政組織や計画、地域生活課題の現状、地域共生社会に向けた包括的支援体制、災害時支援体制などを学ぶ。日々変化する地域福祉の実相をリアルに捉え、将来のソーシャルワーカーとして地域福祉を活用できる力を養う。さらに、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験に合格する学習水準を獲得することを目標とする。 毎回の授業は、前回の振り返りまたは地域福祉に関する映像資料の視聴、テーマに基づく講義、ディスカッション、小テストまたは小レポート、次週の予定、という流れで進める。									
到達目標	1. 地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について説明できる。■ 2. 地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を説明できる。■ 3. 地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について説明できる。■ 4. 地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開について説明できる。■ 5. 包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について説明できる。■ 6. 地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を説明できる。■									
使用教材	「最新社会福祉士養成講座 6 地域福祉と包括的支援体制」日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規出版） ISBN 978-4-8058-8236-8									
参考文献	その他、講義に必要な教材・資料は適宜プリントして配付します。									
評価方法	成績評価 ①期末試験による評価 70% ②毎回の授業時に課す小テストまたはレポート等による評価 30% その他の評価 ①授業開講数の 2/3 以上を出席することにより、成績の評価対象とします。 ②忌引きや実習、就職活動などによる欠席は、届け出（要添付書類）を提出すれば出席扱いとします。なお、15 分以上の遅刻は欠席とみなします。									
課題・評価に対するフィードバック方法	質問や相談については Clearning で適時回答するほか、必要に応じて授業時に学生全体にフィードバックする。									
オフィスアワー（研究室）	質問や相談は Clearning 等で随時受け付けます。				メールアドレス（#→@）	kanai#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	地域を基盤としたソーシャルワークの方法■（ゲストスピーカーあり）								
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。					2 時間		
	1、2、3、4、5、6	復習	地域を基盤としたソーシャルワークの方法を理解する。					1.5 時間		

2	講義内容	住民の主体形成に向けたアプローチ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	1 時間
	1、2、3、4、5、6	復習	住民の主体形成に向けたアプローチを理解する。	1.5 時間
3	講義内容	具体的な展開■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	1 時間
	1、2、3、4、5、6	復習	具体的な展開を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	非常時や災害時における法制度■（ゲストスピーカーあり）		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	2.5 時間
	1、2、3、4、5、6	復習	非常時や災害時における法制度を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	1 時間
	1、2、3、4、5、6	復習	非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	福祉計画の提議、目的、機能と歴史的展開■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	3 時間
	1、2、3、4、5、6	復習	福祉計画の提議、目的、機能と歴史的展開を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	1 時間
	1、2、3、4、5、6	復習	市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	福祉計画の策定過程と方法■（ゲストスピーカーあり）		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	3 時間
	1、2、3、4、5、6	復習	福祉計画の策定過程と方法を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	福祉計画におけるニーズ把握の方法・技術■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	2 時間
	1、2、3、4、5、6	復習	福祉計画におけるニーズ把握の方法・技術を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	福祉計画における評価■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	2 時間
	1、2、3、4、5、6	復習	福祉計画における評価を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	国・都道府県の役割■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	2 時間
	1、2、3、4、5、6	復習	国・都道府県の役割を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	市町村の役割■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	1 時間
	1、2、3、4、5、6	復習	市町村の役割を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	国と地方の関係		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	1 時間
	1、2、3、4、5、6	復習	国と地方の関係を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	福祉行政の組織および専門職の役割■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	2 時間

令和 6 年度 社会福祉学科シラバス

	1、2、3、4、 5、6	復習	福祉行政の組織および専門職の役割を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	福祉における財源■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当部分を読む。	1 時間
	1、2、3、4、 5、6	復習	福祉における財源を理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				48 時間
備考	●期末試験の準備として8時間以上の復習時間を確保すること。授業の理解を深めるために現場で活躍するゲストスピーカーから実践を紹介してもらう(3 回予定)。学生の地元市町村の福祉の実態を調べるなど予習を課す。また、日ごろから新聞を読む、地域の情報を調べる、ボランティア活動に参加するなど、地域福祉について関心を高めておくこと。 ●シラバス中の■は実務経験に基づく授業内容を表す。			

科目名		貧困に対する支援(専門展開科目)						科目ナンバリング	SWS305		
英文名		Social Support for Poverty						講義形態	講義		
担当教員		石坂 公俊									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		2 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格		社会福祉士									
学位授与方針との対応		1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
		1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
		1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連		① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑫ ⑯									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		1. 貧困や公的扶助の概念を踏まえ生活に困窮している人びとの生活実態と課題、さらにこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。 2. 貧困の歴史と貧困観の変遷について理解する。 3. 生活保護制度や貧困に関連する他の法制度及び支援の仕組みについて理解する。 4. 貧困による生活課題を踏まえ、社会福祉士として果たすべき役割を理解する。 基本的に講義形式で行うが、講義の中では VTR 等も援用する。									
到達目標		1. 生活に困窮している人びとの生活課題や福祉需要について理解できる。 2. 生活保護制度や関連する制度・対策等を理解できる。 3. 福祉専門職としての役割、他職種との連携等について理解できる。									
使用教材		『貧困に対する支援』中央法規出版									
参考文献		特記事項なし									
評価方法		学修意欲(10%)，リアクションペーパー(20%)，期末試験(70%)									
課題・評価に対するフィードバック方法		授業時に実施する国家試験過去問題は解説を行う 提出されたリアクションペーパーに対してコメントを付けて返却する									
オフィスアワー (研究室)		水曜日 4 時限 質問はメールでも受け付ける。 (1 号館 5 階 503 研究室)				メールアドレス (#→@)		kimi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション									
	該当到達目標 1	予習	シラバスを読み、講義目標、到達目標、講義計画などを理解する。						1.5 時間		
		復習	オリエンテーションで説明した講義目標、到達目標、講義計画、成績評価方法などを確認する。						1 時間		
2	講義内容	公的扶助の概念									
	該当到達目標 1,2	予習	テキスト第 1 章を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。						1 時間		
		復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。						1.5 時間		
3	講義内容	貧困の概念及び社会環境① 貧困の概念									

	該当到達目標 1,2	予習	テキスト第 2 章第 1 節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
		復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
4	講義内容	貧困の概念及び社会環境② 貧困状態にある人の生活実態		
	該当到達目標 1,2	予習	テキスト第 2 章第 2 節及び第 3 節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまと めておく。	1 時間
		復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
	5	講義内容	貧困の歴史	
該当到達目標 1,2		予習	テキスト第 3 章を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
	復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間	
6	講義内容	生活保護制度の仕組み① 生活保護法の目的、原理、原則		
	該当到達目標 2,3	予習	テキスト第 4 章第 1 節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
		復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
	7	講義内容	生活保護制度の仕組み② 生活保護の種類と内容	
該当到達目標 2,3		予習	テキスト第 4 章第 1 節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
		復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
8		講義内容	生活保護制度の仕組み③ 保護施設、被保護者の権利と義務など	
	該当到達目標 2,3	予習	テキスト第 4 章第 1 節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
		復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
	9	講義内容	最低生活保障と生活保護基準	
該当到達目標 2,3		予習	テキスト第 4 章第 1 節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
		復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
10		講義内容	生活保護の動向	
	該当到達目標 2,3	予習	テキスト第 4 章第 2 節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
		復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
	11	講義内容	低所得者に対する法制度①	
該当到達目標 2,3		予習	テキスト第 5 章第 1 節及び第 2 節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまと めておく。	1 時間
		復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
12		講義内容	低所得者に対する法制度②	
	該当到達目標 2,3	予習	テキスト第 5 章第 3 節及び第 4 節を精読し、疑問点、確認したい事項などをまと めておく。	1 時間
		復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
	13	講義内容	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割	
該当到達目標 2		予習	テキスト第 6 章を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
		復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
14		講義内容	貧困に対する支援の実際	
	該当到達目標 2	予習	テキスト第 7 章を精読し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1 時間
		復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。	1.5 時間
	15	講義内容	講義のまとめ、試験対策など	
該当到達目標 1,2,3		予習	これまでの学修内容を整理し、疑問点、確認したい事項などをまとめておく。	1.5 時間
		復習	配付した資料を精読し、講義内容の整理及び確認をする。定期テストの準備を行 う。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				38 時間
備考	指定した教科書の該当頁は事前に精読しておくこと。またリアクションペーパーを課すことがあるが、提出されたものを 受講者で情報共有するケースもあるのでそのつもりで提出すること。 予習・復習については、試験前の学習で補完すること。			

科目名	ソーシャルワークの理論と方法 I (専門展開科目)						科目ナンバリング	SWS306		
英文名	Theory and Method of Social Work I						講義形態	講義		
担当教員	永田 理香									
科目に関連した実務経験	群馬県スクールソーシャルワーカーとして中学校に勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格	「社会福祉士」「精神保健福祉士」「介護福祉士」									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑪ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	多様化・複雑化する福祉ニーズに対応するために必要な、ソーシャルワークの展開過程に関する理論と方法について学習することを目的とする。また、支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、コミュニケーションの基礎について実践的に学ぶ。 ・基本的なソーシャルワークの過程が理解できるよう、事例を交え解説を行う。 ・授業の最後に過去問等の確認問題を課し、講義内容の定着を促す。 ・国家試験で問われるポイントを解説し、受験対策につながる学習方法の習得を目指す。 ・C ラーニングのドリルで学習単元の復習及び知識の補完を行う。									
到達目標	1. 援助関係形成に向けたコミュニケーションについて理解し説明することができる。■ 2. 人と環境との交互作用に関する理論について理解し説明することができる。 3. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解し説明することができる。 4. ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解し説明することができる。■ 5. チームマネジメントと人材育成の基礎的内容について理解し説明することができる。									
使用教材	『最新 社会福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(中央法規出版) ISBN978-4-8058-8242-9 教科書の他、レジュメ・資料等を配布する。									
参考文献	参考文献等は随時紹介する									
評価方法	定期試験 60%、課題提出 40%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回の授業で、予習・復習の状況及び授業内容の理解度、感想、質問について確認しフィードバックを行う。授業の感想については、次の授業の冒頭で紹介し振り返りを行う。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3 時限と水曜日 2 時限 (1 号館 3 階 309)				メールアドレス (#→@)	メールアドレスは初回授業時に提示する。				
1	講義内容	ガイダンス、ソーシャルワークのための理論								
	該当到達目標 1,4	予習	カリキュラムにおける本科目の位置づけ及び、講義目標・到達目標を理解する。 該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。						1.5 時間	
		復習	詳細シラバスにおける講義内容、ソーシャルワーク理論の全体像について理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	システム理論								
	該当到達目標 2	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。						1.5 時間	
		復習	ソーシャルワーク分野におけるシステム理論を理解する。						1.5 時間	

3	講義内容	人と環境との相互作用に関する理論—生態学理論とバイオ・サイコ・ソーシャルモデル—		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	2,4	復習	ソーシャルワーク分野における生態学理論及びバイオ・サイコ・ソーシャルモデルについて理解する。	1.5 時間
4	講義内容	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークと展開過程		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	3,4	復習	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークと目標設定・展開過程について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎■		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	1	復習	援助関係形成に向けたコミュニケーションの実際について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	ソーシャルワークの過程①ケースの発見とエンゲージメント(インテーク)■		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	1,4	復習	ケースの発見とエンゲージメント(インテーク)について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	ソーシャルワークの過程②-1 アセスメントの意義と目的■		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	2,4	復習	アセスメントの意義と目的について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	ソーシャルワークの過程②-2 アセスメント■		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	2,4	復習	アセスメントの方法、留意点について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	ソーシャルワークの過程③-1 プランニング■		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	3,4	復習	プランニングの意義と目的について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	ソーシャルワークの過程③-2 プランニング■		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	3,4	復習	プランニングの方法、留意点について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	ソーシャルワークの過程④支援の実施とモニタリング■		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	3,4	復習	支援の実施とモニタリングについて理解する。	1.5 時間
12	講義内容	ソーシャルワークの過程⑤効果測定■		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	3,4	復習	効果測定について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	ソーシャルワークの過程⑥支援の終結と結果評価、アフターケア■		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	3,4	復習	支援の終結と結果評価、アフターケアについて理解する。	1.5 時間
14	講義内容	チームマネジメントの基礎と人材育成		
	該当到達目標	予習	該当する教科書・資料の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	5	復習	リーダーシップ・フォロワーシップや人材育成マネジメントの実際について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	今までの学習内容を振り返り、知識の定着度を確認する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	期末試験において間違えた箇所を復習する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンラインで実施する場合は、別途 C ラーニング等で学習方法を周知する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ（専門展開科目）							科目ナンバリング	SWS307	
英文名	Theory and Method of Social Work Ⅱ							講義形態	講義	
担当教員	永田 理香									
科目に関連した実務経験	県スクールソーシャルワーカーとして中学校に勤務（経験）									
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格	「社会福祉士」「精神保健福祉士」									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	①	③	④	⑤	⑧	⑩	⑪	⑬	⑭	⑮
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	多様化・複雑化する福祉ニーズに対応するために必要な、ソーシャルワークの実践モデル及びアプローチ等について学び、支援プロセスの実際について理解を深める。また、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションの手法について実践的に学ぶ。 ・ソーシャルワークの展開において求められる様々な実践モデルや面接技法等が習得できるよう、事例を交え解説を行う。 ・授業の最後に過去問等の確認問題を課し、講義内容の定着を促す。 ・国家試験で問われるポイントを解説し、受験対策につながる学習方法の習得を目指す。 ・C ラーニングのドリルで学習単元の復習及び知識の補完を行う。									
到達目標	1.ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解し説明することができる。■ 2.ソーシャルワークにおける面接技法について理解し説明することができる。■ 3.ケアマネジメントの意義と方法について理解し説明することができる。 4.グループワーク及びコミュニティワークの意義と展開過程について理解し説明することができる。 5.ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発について理解し説明することができる。									
使用教材	『最新 社会福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（中央法規出版） ISBN978-4-8058-8242-9 教科書の他、レジュメ・資料等を随時配布する。									
参考文献	参考文献等は随時紹介する									
評価方法	定期試験 60%、課題提出 40%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回の授業で、予習・復習の状況及び授業内容の理解度、感想、質問について確認しフィードバックを行う。授業の感想については、次の授業の冒頭で紹介し振り返りを行う。									
オフィスアワー（研究室）	火曜日 3 時限と水曜日 2 時限 （1 号館 3 階 309）				メールアドレス （#→@）		メールアドレスは初回授業時に提示する。			
1	講義内容	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ①治療モデル、ストレングスモデル、生活モデル								
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。							1.5 時間
	1	復習	治療モデル、ストレングスモデル、生活モデルについて理解する。							1.5 時間
2	講義内容	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ②心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ								
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。							1.5 時間
	1	復習	心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチについて理解する							1.5 時間

			る。	
3	講義内容	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ③課題中心アプローチ、行動変容アプローチ、認知アプローチ		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	1	復習	課題中心アプローチ、行動変容アプローチ、認知アプローチについて理解する。	1.5 時間
4	講義内容	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ④危機介入アプローチ、エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	1	復習	危機介入アプローチ、エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチについて理解する。	1.5 時間
5	講義内容	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ⑤解決指向アプローチ、さまざまなアプローチ		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	1	復習	解決指向アプローチ、さまざまなアプローチについて理解する。	1.5 時間
6	講義内容	ソーシャルワークの面接■		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	面接の意義と目的、方法について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	ソーシャルワークの記録■		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	記録の意義と目的、内容について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	まとめ(中間)		
	該当到達目標	予習	今までの学習範囲を振り返る。	1.5 時間
	1,2	復習	今までの学習内容に関する国家試験問題を解き、間違えた箇所を復習する。	1.5 時間
9	講義内容	ケアマネジメント(ケースマネジメント)		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	3	復習	ケアマネジメント(ケースマネジメント)の原則、意義と方法について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	グループを活用した支援		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	4	復習	グループワークの意義と目的、展開過程等について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	コミュニティワーク		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	4	復習	コミュニティワークの意義と目的、展開過程等について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	ソーシャルアドミニストレーション		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	5	復習	ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義、実践モデル等について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	ソーシャルアクション		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	5	復習	ソーシャルアクションの概念と意義、コミュニティ・オーガナイズイングについて理解する。	1.5 時間
14	講義内容	スーパービジョンとコンサルテーション		
	該当到達目標	予習	該当する教科書の箇所を読み、分からない用語を調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	スーパービジョンとコンサルテーションの意義、目的、方法等について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	今までの学習範囲を振り返る。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	期末試験において間違えた箇所を復習する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンラインで実施する場合は、別途 C ラーニング等で学習方法を周知する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ (専門展開科目)							科目ナンバリング	SWS308		
英文名	Social Work Theory and Methods(Advanced)Ⅰ							講義形態	講義		
担当教員	檜府 憲太										
科目に関連した実務経験	社会福祉士(専門職採用)として生活保護、高齢者福祉、障害者福祉の部署に勤務(合計 13 年)										
学年・開講期	3 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位						
履修を必須とする資格	社会福祉士、介護福祉士										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑪ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
		○							○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要	①社会福祉士として必要なソーシャルワークの理論と方法を、価値、援助関係、援助技術等の様々な側面から学び、習得する。										
①講義の目標											
②講義の実施方法	②予習を前提に講義を行う。毎回授業後にアンケートを実施し、知識の定着をはかる。										
到達目標	1. 社会福祉士に必要なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解し、自らの言葉で説明することができる。 2. 支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解し説明することができる。■ 3. ソーシャルワーク演習やソーシャルワーク実習指導との関連性を意識し、ソーシャルワーク実習と結びつけて考えることができる。■										
使用教材	・『新・MINERVA 社会福祉士養成テキストブック ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』 空閑浩人・白澤政和・和気純子編著 (ISBN 978-4-623-09696-9) ・適宜教員が資料を作成して配布する。										
参考文献	授業内に適宜提示するが、以下の 3 冊を読んでおくことより理解が深まる。 ・山下英三郎(2006)『相談援助』学苑社 ・北川清一・久保美紀編著(2017)『ソーシャルワークへの招待』ミネルヴァ書房 ・奥川幸子(1997)『未知との遭遇 癒しとしての面接』三輪書店										
評価方法	定期試験 55%・課題提出(毎回のアンケート提出)45%で評価する。										
課題・評価に対するフィードバック方法	各回における質問や提出されたアンケートの内容を確認し、適宜フィードバックする。 定期試験後には内容の解説を提示する。										
オフィスアワー (研究室)	・質問及び学習相談には適宜応じる。				メールアドレス (#→@)	narafu#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	オリエンテーション									
	該当到達目標	予習	教科書全体に目を通して今後の流れを把握しておく。また、不明な言葉があった場合には意味を調べておく。							1.5	時間
	1,2,3	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。							1.5	時間
2	講義内容	ソーシャルワークの機能とソーシャルワーカーの役割①									
	該当到達目標	予習	教科書第 1 章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。							1.5	時間
	1,2,3	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。							1.5	時間
3	講義内容	ソーシャルワークの機能とソーシャルワーカーの役割②									
	該当到達目標	予習	教科書第 1 章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。							1.5	時間

	1,2,3	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5 時間
4	講義内容	ソーシャルワークにおける面接①■		
	該当到達目標	予習	教科書第 2 章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5 時間
	1	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5 時間
5	講義内容	ソーシャルワークにおける面接②■		
	該当到達目標	予習	教科書第 2 章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5 時間
	1	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5 時間
6	講義内容	ソーシャルワークと援助関係①■		
	該当到達目標	予習	教科書第 3 章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5 時間
	2,3	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5 時間
7	講義内容	ソーシャルワークと援助関係②■		
	該当到達目標	予習	教科書第 3 章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5 時間
	2,3	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5 時間
8	講義内容	前半のまとめ		
	該当到達目標	予習	教科書第 1～3 章を読んで改めて不明な語句や疑問点等を整理しておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5 時間
9	講義内容	社会資源の開発とソーシャルアクション①■		
	該当到達目標	予習	教科書第 4 章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5 時間
	2,3	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5 時間
10	講義内容	社会資源の開発とソーシャルアクション②■		
	該当到達目標	予習	教科書第 4 章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5 時間
	2,3	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5 時間
11	講義内容	ソーシャルワークの関連技術・方法①～ネットワーキング、コーディネーション等■		
	該当到達目標	予習	教科書第 5 章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5 時間
	1,3	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5 時間
12	講義内容	ソーシャルワークの関連技術・方法②～ネゴシエーション、ファシリテーション等■		
	該当到達目標	予習	教科書第 5 章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5 時間
	1,3	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5 時間
13	講義内容	カンファレンスと事例分析①■		
	該当到達目標	予習	教科書第 6 章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5 時間
	1	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5 時間
14	講義内容	カンファレンスと事例分析②■		
	該当到達目標	予習	教科書第 6 章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5 時間
	1	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5 時間
15	講義内容	後半のまとめ		
	該当到達目標	予習	教科書第 4～6 章を読んで改めて不明な語句や疑問点等を整理しておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・教科書と配布資料を用いながら講義を行うので、教科書は毎回必ず持参してください。 ・講義内では適宜教員から学生に対して質問をしながら進めます。 ・質問等は講義前・講義中・講義後いずれのタイミングでも適宜受け付けます。小さなことでも構いませんので、何かありましたら積極的に質問してください。 ■は実務経験に基づく授業内容であることを示す。			

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ（専門展開科目）						科目ナンバリング	SWS309		
英文名	Social Work Theory and Methods(Advanced)Ⅱ						講義形態	講義		
担当教員	檜府 憲太									
科目に関連した実務経験	社会福祉士（専門職採用）として生活保護、高齢者福祉、障害者福祉の部署に勤務（合計 13 年）									
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格	社会福祉士、介護福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	①	③	④	⑤	⑧	⑩	⑪	⑯	⑰	
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○							○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	①社会福祉士として必要なソーシャルワークの理論と方法を、価値、援助関係、援助技術等の様々な側面から学び、習得する。									
①講義の目標										
②講義の実施方法	②予習を前提に講義を行う。毎回授業後にアンケートを実施し、知識の定着をはかる。									
到達目標	1. 社会福祉士に必要なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解し、自らの言葉で説明することができる。 2. 支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解し説明することができる。■ 3. ソーシャルワーク演習やソーシャルワーク実習指導との関連性を意識し、ソーシャルワーク実習と結びつけて考えることができる。■									
使用教材	・『新・MINERVA 社会福祉士養成テキストブック ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』 空閑浩人・白澤政和・和気純子編著 (ISBN 978-4-623-09696-9) ・適宜教員が資料を作成して配布する。									
参考文献	授業内に適宜提示するが、以下の 3 冊を読んでおくにより理解が深まる。 ・山下英三郎(2006)『相談援助』学苑社 ・北川清一・久保美紀編著(2017)『ソーシャルワークへの招待』ミネルヴァ書房 ・サラ・バンクス著、石倉康次・児島亜紀子・伊藤文人監訳(2016)『ソーシャルワークの倫理と価値』法律文化社									
評価方法	定期試験 55%・課題提出(毎回のアンケート提出)45%で評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	各回における質問や提出されたアンケートの内容を確認し、適宜フィードバックする。 定期試験後には内容の解説を提示する。									
オフィスアワー (研究室)	・質問及び学習相談には適宜応じる。				メールアドレス (#→@)	narafu#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ソーシャルワークにおける ICT と個人情報①■								
	該当到達目標	予習	教科書第 7 章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。						1.5	時間
	2	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。						1.5	時間
2	講義内容	ソーシャルワークにおける ICT と個人情報②■								
	該当到達目標	予習	教科書第 7 章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。						1.5	時間
	2	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。						1.5	時間
3	講義内容	家族支援のソーシャルワーク①■								
	該当到達目標	予習	教科書第 8 章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。						1.5	時間

	1,2,3	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5 時間
4	講義内容	家族支援のソーシャルワーク②■		
	該当到達目標	予習	教科書第 8 章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5 時間
5	講義内容	災害とソーシャルワーク①■		
	該当到達目標	予習	教科書第 9 章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5 時間
6	講義内容	災害とソーシャルワーク②■		
	該当到達目標	予習	教科書第 9 章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5 時間
7	講義内容	前半のまとめ		
	該当到達目標	予習	教科書第 7～9 章を読んで改めて不明な語句や疑問点等を整理しておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5 時間
8	講義内容	スピリチュアリティとソーシャルワーク①		
	該当到達目標	予習	教科書第 10 章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5 時間
	2	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5 時間
9	講義内容	スピリチュアリティとソーシャルワーク②		
	該当到達目標	予習	教科書第 10 章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5 時間
	2	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5 時間
10	講義内容	多文化主義とソーシャルワーク①		
	該当到達目標	予習	教科書第 11 章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5 時間
11	講義内容	多文化主義とソーシャルワーク②		
	該当到達目標	予習	教科書第 11 章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5 時間
12	講義内容	ソーシャルワークにおける総合的・包括的支援の実践■		
	該当到達目標	予習	教科書第 12 章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5 時間
13	講義内容	ソーシャルワークの動向と課題		
	該当到達目標	予習	教科書第終章を読んで不明な語句を調べ、疑問点等を整理しておく。	1.5 時間
	3	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5 時間
14	講義内容	これからのソーシャルワークの学び方		
	該当到達目標	予習	4 年生あるいは社会人になった後にどのようにソーシャルワークを学び続けていくのか、その方法や展望を考えておく。	1.5 時間
	2	復習	配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5 時間
15	講義内容	後半のまとめ		
	該当到達目標	予習	教科書第 10～終章を読んで改めて不明な語句や疑問点等を整理しておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書や配布資料を再読し、アンケート回答等を通して理解度を振り返る。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・教科書と配布資料を用いながら講義を行うので、教科書は毎回必ず持参してください。 ・講義内では適宜教員から学生に対して質問をしながら進めます。 ・質問等は講義前・講義中・講義後いずれのタイミングでも適宜受け付けます。小さなことでも構いませんので、何かありましたら積極的に質問してください。 ■は実務経験に基づく授業内容であることを示す。			

科目名	福祉サービスの組織と経営(専門展開科目)						科目ナンバリング	SWS310		
英文名	Organization and Management of the Welfare Service						講義形態	講義		
担当教員	一柳 大輔									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする資格	社会福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑨ ⑫ ⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①福祉サービスに係る組織や団体(社会福祉法人、特定非営利活動法人、医療法人、営利法人など)、福祉サービスの組織と経営、管理運営に関する基本的事項について理解する。 ②授業は講義形式で行う。国家試験科目であるため、テキストの重点事項を中心に進めていく。同時に、社会福祉法人の経営等について、学問的アプローチを試みる。									
到達目標	1. 社会福祉士国家試験の受験科目として、合格するための必要な知識を身につける。 2. 将来、福祉現場において様々な課題に出会ったときに、主体的に組織変革に取り組めるように、福祉サービスに係る組織と経営に関する基本的事項を修得する。 3. ソーシャルワーカーとして、活躍できる人材を育成することを視野に入れた講義内容とする。									
使用教材	「福祉サービスの組織と経営」(中央法規)。必要に応じて資料配布									
参考文献										
評価方法	レポート課題又は小テスト 30% 期末試験(レポート提出)70% 総合評価 60%以上で合格とする									
課題・評価に対するフィードバック方法	期末試験(レポート)にコメントをつけて返却する。 質問、レポート課題は講義中に回答及び説明する。									
オフィスアワー (研究室)	オフィスアワーは初回授業時に提示する				メールアドレス (#→@)	メールアドレスは初回授業時に提示する				
1	講義内容	ガイダンス、福祉サービス提供組織の存在理由、種類と特徴(第 1 章第 1 節)								
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の第 1 章第 1 節に目を通す。						1.5 時間	
		復習	福祉サービス提供組織や社会市場における経営の概念等を理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	社会福祉構造改革の経緯と概要(第 1 章第 2 節)								
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の第 1 章第 2 節に目を通す。						1.5 時間	
		復習	社会福祉構造改革や公益法人制度改革について理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	組織間連携の必要性(第 1 章第 3 節)								
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の第 1 章第 3 節に目を通す。						1.5 時間	
		復習	なぜ組織間連携が必要なのか等について理解する。						1.5 時間	

4	講義内容	組織集団の特徴と理論(第2章第1節)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の第2章第1節に目を通す。	1.5 時間	
		復習	集団の特徴と理論について理解する。	1.5 時間	
5	講義内容	集団の力学理論(第2章第2節)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の第2章第2節に目を通す。	1.5 時間	
		復習	様々な集団の力学について理解する。	1.5 時間	
6	講義内容	リーダーシップ理論(第2章第3節)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の第2章第3節に目を通す。	1.5 時間	
		復習	様々なリーダーシップ理論について理解する。	1.5 時間	
7	講義内容	非営利法人と営利法人の経営体制とコンプライアンス(第3章第1,2節)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の第3章第1,2節に目を通す。	1.5 時間	
		復習	社会福祉法人、株式会社等の経営体制とコンプライアンスについて理解する。	1.5 時間	
8	講義内容	福祉経営の理論と情報管理(第3章第3,4節)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の第3章第3,4節に目を通す。	1.5 時間	
		復習	福祉経営の特質と情報管理について理解する。	1.5 時間	
9	講義内容	ゲストスピーカーとの対談①(社会福祉法人理事長等)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	社会福祉法人の経営についてこれまでの学習内容を復習する。	1.5 時間	
		復習	実際の社会福祉法人の経営内容を理解する。	1.5 時間	
10	講義内容	福祉人材のマネジメント(第4章第1,2節)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の第4章第1,2節に目を通す。	1.5 時間	
		復習	福祉人材マネジメントについて理解する。	1.5 時間	
11	講義内容	労働環境の整備と労使関係(第4章第3節)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の第4章第3節に目を通す。	1.5 時間	
		復習	福祉経営における労働環境整備と労使関係の特徴について理解する。	1.5 時間	
12	講義内容	ゲストスピーカーとの対談②(NPO 法人理事長等)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	NPO 法人の経営について、これまでの学習内容を復習する。	1.5 時間	
		復習	実際の NPO 法人の経営内容を理解する。	1.5 時間	
13	講義内容	財務管理の考え方①(第3章第5節①)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の第3章第5節に目を通す。	1.5 時間	
		復習	社会福祉法人の財務管理について理解する。	1.5 時間	
14	講義内容	決算書の読み方と財務分析の方法(第3章第5節②)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の第3章第5節に目を通す。	1.5 時間	
		復習	決算書の読み方と財務分析の方法について理解する。	1.5 時間	
15	講義内容	社会福祉法人の財務分析実習(第3章第5節③)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	これまで学習した決算書の読み方と財務分析方法を復習する。	1.5 時間	
		復習	各自が興味のある福祉サービス提供法人の財務分析を実践する。	1.5 時間	
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考					

科目名		保健医療と福祉(専門展開科目)						科目ナンバリング	SWS311		
英文名		Health Care and Welfare						講義形態	講義		
担当教員		加藤 大輔									
科目に関連した実務経験		医療ソーシャルワーカーとして病院に勤務(経験)									
学年・開講期		2 年 前期	選必・単位数		選択 2 単位						
履修を必須とする資格		社会福祉士									
学位授与方針との対応		1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
		1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
		1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連		③ ⑩									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		学生が医療と福祉の関係性を理解し、相談援助場面で必要となる医療保険制度や保健医療システムの基本を学ぶ。現場で的確に専門職と連携をするための基本的な知識を獲得する。 基本的に講義形式で行うが、映像教材等も援用する。具体的な事例や現状の課題などを含め、専門職倫理に基づく実際の支援における視点などを踏まえて進めていく。									
到達目標		1. <u>ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を説明できる。■</u> 2. <u>保健医療に係る政策、制度、サービスを説明できる。■</u> 3. <u>保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働を説明できる。■</u> 4. <u>保健医療の課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援のあり方を説明できる。■</u>									
使用教材		中央法規「保健医療と福祉」を使用。その他資料などを配布。必要に応じ映像教材を使用。									
参考文献											
評価方法		授業態度 10%、小レポート 20%、中間レポート 10%、筆記試験 60%で総合的評価し、60%以上を合格とする。過去問にもとづく小テストを実施する場合、小レポートから 5%、筆記試験から 10%の合計 15%を割り当てる。									
課題・評価に対するフィードバック方法		授業の中で質問時間を設けるなど、随時フィードバックを行う。									
オフィスアワー (研究室)		水曜 4 限 1 号館 5 階研究室				メールアドレス (#→@)		kato-d#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス・序章 <u>保健医療の動向と社会福祉</u>									
	該当到達目標	予習	テキスト序章やシラバスの内容をよく読んで、講義目標と全体概要を確認する。							1.5	時間
	1	復習	講義の内容、進め方、授業に臨む態度、成績評価などについて確認する。科目の全体概要を確認する。							1.5	時間
2	講義内容	<u>保健医療に係る政策・制度・サービスの概要① 医療保険制度・公費負担医療制度■</u>									
	該当到達目標	予習	テキスト第 1・2 章に目を通す。社会保障制度の概要を事前に調べておく。							1.5	時間
	1,2	復習	医療保険制度、公費負担医療制度のしくみを理解する。							1.5	時間
3	講義内容	<u>保健医療に係る政策・制度・サービスの概要② 医療費に関する政策動向・診療報酬■</u>									
	該当到達目標	予習	テキスト第 3・4 章に目を通す。							1.5	時間
	4	復習	医療費政策の動向、診療報酬のしくみを理解する。							1.5	時間
4	講義内容	<u>保健医療に係る政策・制度・サービスの概要③ 保健医療サービスと医療施設■</u>									
	該当到達目標	予習	テキスト第 5 章に目を通す。							1.5	時間
	1,2	復習	保健医療サービス体系と、種類や内容を理解する。							1.5	時間

5	講義内容	保健医療に係る政策・制度・サービスの概要④ 保健医療サービスと保健医療対策■		
	該当到達目標	予習	テキスト第6章に目を通す。	1.5 時間
	3,4	復習	医療法と改正の変遷医療計画を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	保健医療にかかる倫理■		
	該当到達目標	予習	テキスト第7章に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	医療現場における倫理と課題、意思決定支援を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	保健医療領域における専門職の役割と連携① 保健医療サービスにおける専門職の役割■		
	該当到達目標	予習	テキスト第8章に目を通す、	1.5 時間
	1,3,4	復習	保健医療従事者の専門職倫理、身分法、役割を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	保健医療領域における支援の実践① 疾病にともなう生活課題と医療ソーシャルワーカー、医療ソーシャルワーカーの歴史■		
	該当到達目標	予習	テキスト第9・10章に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	医療ソーシャルワークとその歴史について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	保健医療領域における支援の実践② 医療ソーシャルワーカー業務指針とソーシャルワーク実践■		
	該当到達目標	予習	テキスト第11章に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	医療ソーシャルワークの定義と保健医療の場における役割を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	保健医療領域における支援の実践③ 医療ソーシャルワーカー業務指針とソーシャルワーク実践■		
	該当到達目標	予習	テキスト第11章に目を通す。	1.5 時間
	3,4	復習	医療ソーシャルワーカーによる実際の支援について、事例をもとに理解する。	1.5 時間
11	講義内容	保健医療領域における専門職の役割と連携② 保健医療関係者との連携と実際■		
	該当到達目標	予習	テキスト第12章に目を通す。	1.5 時間
	3,4	復習	保健医療の場における多職種連携の意義や類型について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	保健医療領域における専門職の役割と連携③ 保健医療関係者との連携と実際■		
	該当到達目標	予習	テキスト第12章に目を通す。	1.5 時間
	3,4	復習	終末期、救急、災害など、様々な場面における連携の方法を実際を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	保健医療における福祉の未来と展望① ■		
	該当到達目標	予習	テキスト第終章に目を通す。	1.5 時間
	2,3,4	復習	医療ソーシャルワーカーを取り巻く環境、実践スキルと現任人材育成、期待される役割を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	保健医療における福祉の未来と展望② ■		
	該当到達目標	予習	テキスト第終章に目を通す。	1.5 時間
	2,3,4	復習	先行研究や実践事例、職能団体の取り組みから、医療ソーシャルワーカーの専門性、独自性、今後の展望を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	これまでの授業内容、テキスト、配布資料に目を通しておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業と別で実施する試験の自己採点、解答に悩んだ問題などに再度取り組む。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	視聴覚教材を使用する。質問にはメールでも応じる。 本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。副専攻履修者の単位認定時の評価は「認定(N)」となり、GPAの算出や卒業必要単位の対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には対象者に別途案内する。また、履修登録時にCAPのカウントには含めない。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	権利擁護を支える法制度(専門展開科目)							科目ナンバリング	SWS312	
英文名	Laws and systems for Protection of Human Rights							講義形態	講義	
担当教員	小此木 清									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年 前期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする資格	社会福祉士、精神保健福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	①	③	⑤	⑧	⑩	⑪		⑬	⑮	⑯
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①平成 28 年 5 月に「成年後見制度の利用の促進に関する法律」が施行され、社会福祉士が成年後見制度や任意後見制度を理解し、法律等に基づきながら権利擁護実践を行うことが、社会から強く求められている。社会の期待に応えられる社会福祉士を養成するために、法律や制度、権利擁護の意義と支える仕組みを理解し、実践的な知識を修得することを目指す。 ②実践的な知識は、E ラーニング教材を用いて反復学習し、アクティブラーニングを用いて定着させ、修得できるようにする。									
到達目標	1. 社会福祉士が憲法、民法、行政法等を学ぶ必要性について事例を挙げて説明できる。 2. 成年後見制度や任意後見制度、日常生活自立支援事業等をわかりやすく説明できる。 3. 権利擁護にかかわる組織・団体・専門職と社会福祉士がどのように関わるべきか説明できる。 4. 社会福祉士の権利擁護実践における対応上のポイントや基本的視点を説明できる。 5. 「最終 E ラーニングテスト」で全問正解を連続達成し、実践的な知識が定着する。									
使用教材	「権利擁護を支える法制度」中央法規									
参考文献	授業内で随時紹介する。									
評価方法	期末試験結果 100%									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業課題については、提出された課題について授業時にフィードバックを行う。実践的な知識の定着化のために、講義では随時アクティブラーニングによる課題を提示する。課題への取組結果は、その場で教員からフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	初回授業時に提示する				メールアドレス (#→@)		初回授業時に提示する			
1	講義内容	オリエンテーションー講義の到達目標、内容、進め方、成績評価等の説明								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義の目標や内容等を確認する。						1.5 時間	
		復習	講義で教員が提示した授業課題に回答する。						1.5 時間	
2	講義内容	日本国憲法(相談援助活動と法の関わりを含む)、法とは何か								
	該当到達目標	予習	予習用の授業課題に取り組み、提出する。						1.5 時間	
	1,5	復習	復習用の授業課題に取り組み、提出する。						1.5 時間	
3	講義内容	民法① 意思能力、行為能力、契約、代理								
	該当到達目標	予習	予習用の授業課題に取り組み、提出する。						1.5 時間	
	1,3,5	復習	復習用の授業課題に取り組み、提出する。						1.5 時間	
4	講義内容	民法② 親族、婚姻、離婚、親子								
	該当到達目標	予習	予習用の授業課題に取り組み、提出する。						1.5 時間	

	1,3,5	復習	復習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5 時間
5	講義内容	民法③ 養子・親権		
	該当到達目標	予習	予習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5 時間
	1,3,5	復習	復習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5 時間
6	講義内容	民法④ 扶養・相続。遺言		
	該当到達目標	予習	予習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5 時間
	1,3,4,5	復習	復習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5 時間
7	講義内容	成年後見制度等① 成年後見制度とは、任意後見制度とは、成年後見制度利用支援事業		
	該当到達目標	予習	予習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	復習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5 時間
8	講義内容	成年後見制度② 後見・補佐・補助の理解、申立ての手続き、市区町村長申立て		
	該当到達目標	予習	予習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5 時間
	1,2,3,5	復習	復習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5 時間
9	講義内容	成年後見制度③ 同意権・取消権・代理権・任意後見契約		
	該当到達目標	予習	予習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5 時間
	1,2,3,5	復習	復習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5 時間
10	講義内容	任意後見制度 任意後見、未成年後見、日常生活自立支援事業		
	該当到達目標	予習	予習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5 時間
	1,2,3,5	復習	復習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5 時間
11	講義内容	成年後見制度等④ 日常生活自立支援事業、成年後見制度等まとめ		
	該当到達目標	予習	予習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	復習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5 時間
12	講義内容	行政法① 権利擁護活動で直面しうる法的諸問題、行政行為		
	該当到達目標	予習	予習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5 時間
	1,3,5	復習	復習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5 時間
13	講義内容	行政法② 行政事件訴訟法、行政不服審査制度、行政手続法、国家賠償法、行政手続法		
	該当到達目標	予習	予習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5 時間
	1,3,5	復習	復習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5 時間
14	講義内容	社会福祉士の権利擁護実践(虐待対応・権利擁護に係る組織、団体、専門職等の役割と実際)		
	該当到達目標	予習	予習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5 時間
	3,4	復習	復習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5 時間
15	講義内容	社会福祉士に求められる権利擁護実践(虐待やさまざまな権利侵害への対応)		
	該当到達目標	予習	予習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	復習用の授業課題に取り組み、提出する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	授業内容や課題について不明点があれば、教員に確認してください。			

科目名	刑事司法と福祉(専門展開科目)						科目ナンバリング	SWS313		
英文名	Criminal justice and Social Welfare						講義形態	講義		
担当教員	廣川 洋一									
科目に関連した実務経験	保護観察所保護観察官 30 年、少年院法務教官 2 年、地方更生保護委員会委員 4 年									
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格	社会福祉士、精神保健福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	1	3				10	11	16		
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法	C-Learning のアンケートフォームなどを用いて、毎授業後学生の理解度や、反応、感想を書かせる方法									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	近年、刑事司法とかわかる人に様々な支援ニーズがあることが広く認識されるようになった。本講義では、刑事司法制度及び刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境について理解し、「司法と福祉の連携」の必要性和実際の支援を学ぶ。 授業の進め方は講義中心で、第 2 回以降は、前回までの授業を復習し、次の講義につなげていく形式です。毎回、教科書の該当部分を読み、配布する資料では過去の国家試験問題も解いていきます。授業の理解度等を把握するため、毎授業終了後、C-Learning のアンケートフォームなどを用いて、質疑と簡単なアンケートを行う。授業では、毎回、教科書の該当ページを示すので、予習・復習を続けること。期末にレポートの提出を求める。									
到達目標	1. 刑事司法制度の基礎知識を習得し、同制度の仕組みと流れ、近年の動向について説明できる。■ 2. 刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について説明できる。■ 3. 刑事司法の制度に関わる関係機関等の基礎知識を習得し、その役割について説明できる。■ 4. 国家試験問題を解くための知識を学び、問題を読み解けるようになる。■									
使用教材	「更生保護入門 第 6 版」(成文堂) 松本勝編著(令和 4 年 3 月 30 日刊行)定価(本体 2200 円＋税) 毎回、犯罪白書や該当する法令、関連する統計や図表、国家試験問題全問と解説を記したプリント(12～14 頁)を配布する。毎回、学習内容が教科書のどの頁に該当するか明確に示す。									
参考文献	適宜紹介する									
評価方法	平素の授業に対する姿勢とアンケート等への提出(70%)、期末レポート(30%)で評価し、総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回の授業で簡単なアンケートを行い、質疑があればその回答も含めて、次の授業で全員にフィードバックします。期末レポートは個別に評価とコメントを連絡します。									
オフィスアワー(研究室)	授業日は午後1時から非常勤講師室にいます。				メールアドレス(#→@)	nra25159#nifty.com				
1	講義内容	ガイダンス、「刑事司法と福祉」総論(教科書では第1章「更生保護の意義と歴史」)■ 社会福祉士養成課程カリキュラムの「刑事司法と福祉」の教育目標を確認し、社会福祉系の学生が刑事司法を学ぶ理由を理解する。「平成5年版犯罪白書の概要」を学び、教科書第1章で更生保護の意義と歴史を理解する。明治時代以前の刑罰制度と比較する。								
	該当到達目標	予習	教科書の「はじめに」、第 1 章「更生保護の意義と歴史」を読む						1 時間	
	1,2,3	復習	配布資料と教科書を復習し、刑事司法とソーシャルワークの関係を理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	第 2 章「刑事司法手続の概要」■								

		刑事司法と社会福祉の関係を復習し、刑罰の本質と目的、刑罰に関する学説、罪刑法定主義、犯罪の3要件、検察官の役割、更生保護法を理解する。		
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書第2章を読む。	1.5 時間
		復習	配布資料と教科書を復習し、日本の犯罪状況について理解する。	1.5 時間
3	講義内容	第2章「刑事司法手続の概要」成人の刑事司法手続■ 刑罰の目的等について復習し、更生保護法、刑事裁判と成人の刑事司法手続、執行猶予、刑務所の処遇と福祉専門職の関与を理解する。犯罪者処遇の概要を理解し、刑事施設の処遇等を具体的に理解する。		
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書第2章 21 頁以下を読む。刑の一部猶予制度については第 16 章 260 頁以下を読む。	1.5 時間
		復習	配布資料と教科書を復習し、成人の処遇、刑務所の改善指導、刑の一部執行猶予制度の意義について理解する。	1.5 時間
4	講義内容	第2章「刑事司法手続の概要」少年の保護(健全育成)と刑事司法手続■ 刑事施設の処遇と福祉専門職の関与について復習し、少年司法制度の本質、家庭裁判所、少年鑑別所、少年院、児童相談所、試験観察と補導委託、改正少年法と特定少年、少年法の特則、不定期刑について理解する。刑務所職員の生活を理解する。児童自立支援施設と少年院を比較する。		
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書第2章 24 頁以下を読む。改正少年法、特定少年については教科書に説明がないので、授業で詳しく説明する。	1.5 時間
		復習	配布資料と教科書を復習し、少年司法制度の本質と意義、特定少年、少年受刑者について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	前回の続きと第4章「仮釈放等の制度」第6章「生活環境の調整」■ 少年院送致になった事例、逆送されて少年刑務所に収容された事例を検証する。児童自立支援施設、少年院、少年鑑別所、少年刑務所の役割と職員について理解する。矯正教育の歴史を学ぶ。仮釈放の意義と仮釈放許可の基準、その手続について理解する。		
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書第4章から第6章までを読む。	1.5 時間
		復習	配布資料と教科書を復習し、仮釈放制度と生活環境調整の重要性を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	第3章「更生保護の機構」第5章「就労支援」第6章「保護観察概説」■ 少年院の処遇について復習し、理解を深める。更生保護の機構、職員の採用方法、就労支援について学ぶ。更生保護法、保護観察の目的、種類と期間、特定少年の保護処分、遵守事項について学ぶ。		
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書第3章第5章第6章を読む。特定少年の保護処分について教科書では説明がないので、授業で詳しく説明する。	1.5 時間
		復習	配布資料と教科書を復習し、保護観察について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	第7章「保護観察(各論)」■ 保護観察の目的、種類と期間について復習し、良好措置、不良措置を理解する。類型別処遇、CFP(保護観察における事例の公式化)の導入、RNRモデル、ストレングスモデルなど処遇の各論を学ぶ。保護観察の専門的処遇プログラム、しよく罪指導としよく罪指導プログラムについて学ぶ。		
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書第7章を読む。	1.5 時間
		復習	配布資料と教科書を復習し、処遇のあり方と福祉的視点、福祉専門職の業務内容を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	第8章「保護観察対象者の特性」第9章「更生緊急保護」■ CFPを活用した保護観察について詳しく説明し理解を深める。保護観察が付かない更生緊急保護の意義と手続について理解する。国家試験問題の過去問(1～32)を解き、解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書第8章第9章を読む。	1.5 時間
		復習	配布資料と教科書を復習する。過去問から、更生保護と国の責任等について理解を深める。	1.5 時間
9	講義内容	第9章「更生緊急保護」第10章「更生保護事業」■ 更生保護事業に加えて、保護観察における面接技法について学ぶ。生活環境調整の課題、満期釈放者対策、特別調整について学ぶ。国家試験問題の過去問(33～98)を解き、解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書第9章第10章を読む。	1.5 時間
		復習	配布資料と教科書を復習し、過去問から、保護観察官と保護司、仮釈放制度について理解を深める。	1.5 時間
10	講義内容	息の長い社会復帰支援の推進(改正更生保護法等の運用の方向性)、第11章「恩赦」■		

		検察庁の入口支援と満期釈放者対策ガイドラインについて復習し、プリントで、息の長い社会復帰支援の推進について学び、薬物依存からの離脱について具体例を紹介する。恩赦の意義と歴史について説明する。国家試験問題の過去問(99～152)を解き、解説する。		
	該当到達目標	予習	教科書第11章を読む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料と教科書を復習し、恩赦について正しく理解する。過去問から、専門的処遇プログラム、更生緊急保護について理解を深める。	1.5 時間
11	講義内容	第15章「心神喪失者等医療観察制度の概要」その1■ 精神障害者と刑事司法制度の歴史を振り返り、心神喪失者等医療観察制度の意義と目的、制度の流れを理解する。入院医療、通院医療、症状悪化への対応、処遇終了について学ぶ。国家試験問題の過去問(153～195)を解き、解説する。		
	該当到達目標	予習	教科書第15章を読む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料と教科書を復習し、医療観察制度の概要と社会復帰調整官・地域のソーシャルワーカーの役割を理解する。過去問から、更生緊急保護、更生保護施設について理解を深める。	1.5 時間
12	講義内容	第15章「心神喪失者等医療観察制度の概要」その2■ 保護観察所における医療観察制度の運用状況を法務省の資料で確認する。精神保健福祉法による対応、社会復帰調整官の業務、生活環境の調査、調整、精神保健観察、ケア会議、関係機関との連携について学ぶ。国家試験問題の過去問(196～220)を解き、解説する。		
	該当到達目標	予習	教科書第15章を読む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料と教科書を復習し、社会復帰調整官の業務を理解する。過去問から、少年保護について理解を深める。	1.5 時間
13	講義内容	第12章「犯罪被害者等支援活動」■ 医療観察制度の精神保健観察と更生保護の保護観察の違いを理解する。犯罪被害者等支援法と更生保護における犯罪被害者等支援について理解する。刑事和解、損害賠償命令制度、犯罪被害者等基本計画を理解する。更生保護における4つの制度を理解し、その手続を学ぶ。		
	該当到達目標	予習	教科書第12章を読む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料と教科書を復習し、犯罪被害者等施策の重要性を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	第13章「犯罪予防と多機関連携」第17章「再犯防止推進法」■ 医療観察制度を取り上げた国家試験問題の過去問(221～272)を解き、解説する。令和4年に成立した「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」と売春防止法の補導処分の廃止、刑法等の一部改正、被害者等の思いに応える処遇について、プリントで解説し、理解を深める。再犯防止推進法と再犯防止推進計画を理解する。		
	該当到達目標	予習	教科書第13章第17章を読む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料と教科書を復習し、刑法等の改正、犯罪被害者等への支援の課題を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	刑事司法と福祉の総まとめ。■ 刑務所及び保護観察での薬物再乱用防止プログラム、性犯罪再犯防止指導の有効性についての検証、刑事施設における被害者の視点を取り入れた教育について理解する。年末に公表される令和6年版犯罪白書の概要でこれまで学んだことと課題を再確認する。レポートのテーマを示す。		
	該当到達目標	予習	教科書及びこれまでの資料を読む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料と教科書を復習し、これまでの学びを振り返り、期末レポートにまとめる。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	使用する教科書は、14歳未満の触法少年の扱い、改正少年法による特定少年の処遇、刑法改正と犯罪被害者対応等について十分に説明していない部分があるので、講師が関係資料を用意して講義で詳しく説明します。(他社の教科書でも同様です。)授業では、犯罪や非行に関する最新のニュースや話題、重要な事例を取り上げながら、刑事司法と福祉の重要性を説明します。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（専門展開科目）						科目ナンバリング	SWS314		
英文名	Guidance to Social Work PracticumⅠ						講義形態	演習		
担当教員	金井 敏、永田 理香、根岸 洋人、石坂 公俊、大川 健次郎、加藤 大輔									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数	選択 1 単位						
履修を必須とする資格	「社会福祉士」									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑪ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①社会福祉士として求められる役割への理解を深め、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。個別指導と集団指導による実習分野（利用者理解含む）及び実習先に関する基本的理解を通し、ソーシャルワーク展開過程において必要な基礎力の習得を目指す。 ② ・実習計画の作成プロセスにおいて、社会福祉士として求められる役割への理解を促し、実習に向けての動機づけを行う。 ・実習を振り返り、ソーシャルワーク機能を発揮するために必要な自己の課題を整理する。									
到達目標	1. ソーシャルワーク実習及び実習指導の意義について理解し説明できる。 2. 実際に実習を行う分野と施設・機関、地域社会等に関する基本的な内容を理解し説明できる。 3. 実習先で必要とされる基本的なソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術について説明できる。 4. 事前学習の内容を踏まえ課題を明確化し、実習計画書を作成することができる。 5. 実習を振り返り、ソーシャルワーク機能の視点に基づき自らの課題を明確化することができる。									
使用教材	演習に必要な教材は、毎回配布する。									
参考文献	その他、適宜必要な資料を配布する。									
評価方法	授業への取組状況を勘案し総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	実習担当教員が提出物について、コメントや修正・改善事項を提示して、随時フィードバックする。修正・改善等の指示を受けた提出物は、実習担当教員の指示に従って再提出すること。									
オフィスアワー （研究室）	担当教員のオフィスアワーは 5 階実習指導室前の掲示板に掲示する。				メールアドレス （＃→＠）	授業にて担当教員から個別に周知する。				
1	講義内容	全体オリエンテーション（実習と実習指導の意義）、ゼミ別オリエンテーション								
	該当到達目標	予習	実習先について情報収集し、個人票を作成する						4 時間	
	1	復習	配布物や実習の手引きの内容を再確認する						1 時間	
2	講義内容	実習ゼミ別に示された課題に取り組む								
	該当到達目標	予習	オリエンテーション内容を再確認する。						1.5 時間	
	1,2,3	復習	実習ゼミ別に示された課題に取り組む						1 時間	
3	講義内容	実習先概要表の作成等を通じた実習先に関する基本的な理解① 実習先の根拠となる法制度、組織の理念・目的、役割・機能、計画、事業・業務等の情報整理								

	該当到達目標 1,2,3	予習	実習ゼミ別に示された課題に取り組む	1.5 時間
		復習	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。	1 時間
4	講義内容	実習先概要表の作成等を通した実習先に関する基本的な理解② 実習先の利用者、一日の流れ、月間・年間スケジュール、行事の意義、地域特性等の情報整理		
	該当到達目標 1,2,3	予習	実習ゼミ別に示された課題に取り組む	1.5 時間
		復習	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。	1 時間
5	講義内容	実習先の関連業務(介護、保育、看護、医療等)に関する基本的な理解		
	該当到達目標 1,2,3	予習	実習ゼミ別に示された課題に取り組む	1.5 時間
		復習	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。	1 時間
6	講義内容	実習先の相談援助に係る専門的な知識や技術に関する理解① 実習指導者の主な業務内容や専門的技術、利用者(対象者)との関わり方、自己覚知等		
	該当到達目標 1,2,3	予習	実習ゼミ別に示された課題に取り組む。	1.5 時間
		復習	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。	1 時間
7	講義内容	実習先の相談援助に係る専門的な知識や技術に関する理解② 実践力(コミュニケーション、情報収集、ネットワーク、チームアプローチ)や専門職の倫理等		
	該当到達目標 1,2,3	予習	実習ゼミ別に示された課題に取り組む。	1.5 時間
		復習	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。	1 時間
8	講義内容	実習先の相談援助に係る専門的な知識や技術に関する理解③ プロセスレコードの作成方法、評価の方法、スーパービジョン等		
	該当到達目標 1,2,3	予習	実習ゼミ別に示された課題に取り組む。	1.5 時間
		復習	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。	1 時間
9	講義内容	実習計画書の作成指導① 実習計画書の概要、実習プログラムについての理解		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	実習ゼミ別に示された課題に取り組む。	1.5 時間
		復習	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。	1 時間
10	講義内容	実習計画書の作成指導② 実習目標、実習テーマの設定		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	実習ゼミ別に示された課題に取り組む。	1 時間
		復習	講義中に教員から指導があった事項を課題に反映させる。	1.5 時間
11	講義内容	実習先事前訪問(実習計画書の三者協議を含む)		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	実習先と事前訪問の日程調整を行う。事前訪問の準備。	1 時間
		復習	実習中の服装や持ち物等を点検し、事前準備を行う	1.5 時間
12	講義内容	実習直前オリエンテーション		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	『実習の手引き』の内容確認。	1 時間
		復習	オリエンテーションの内容を踏まえ、実習前の準備状況を再確認する。	1.5 時間
13	講義内容	実習後指導(実習報告①)		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	実習報告の準備(情報の整理、資料作成等)	1 時間
		復習	実習報告の振り返りをレポートにまとめ提出する	1.5 時間
14	講義内容	実習後指導(実習報告②)		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	実習報告の準備(情報の整理、資料作成等)	1 時間
		復習	実習報告の振り返りをレポートにまとめ提出する	1.5 時間
15	講義内容	実習後指導(実習報告②)		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	実習報告の準備(情報の整理、資料作成等)	1 時間
		復習	実習報告の振り返りをレポートにまとめ提出する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				40 時間

備考	この科目はソーシャルワーク実習Ⅰに行く学生を対象としている。科目の履修にあたってはさまざまなルールが存在する。詳細はガイダンス等で伝えるので、ガイダンスには必ず出席すること。出席できない場合は実習指導室に事前に連絡すること。 その他、実習にかかわる実習事務等は、実習指導室が担当する。 実習事務に関して、不明な点、疑問点、連絡事項がある場合は、必ず来室して確認すること。 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自補完すること。 実習指導室: 大学 1 号館 5 階 TEL: 027-352-1292(直通) 利用時間: 実習期間外 9 時 00 分～17 時 00 分(月～金)、実習期間中 9 時 00 分～18 時 00 分(月～金※原則)

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（専門展開科目）						科目ナンバリング	SWS315		
英文名	Guidance to Social Work Practicum Ⅱ						講義形態	演習		
担当教員	金井 敏、永田 理香、根岸 洋人、石坂 公俊、大川 健次郎、加藤 大輔、檜府 憲太									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格	社会福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	①	③	④	⑤	⑧	⑩	⑫	⑯		
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○	○	○	○	○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	・ ソーシャルワーク実習に係る個別指導および集団指導を通して、専門的な知識や実践的な技術等を体得する。 ・ 社会福祉士に求められる倫理観や課題把握能力、相談対応力を修得し、専門職としての資質を高める。 ・ 授業期間全体を通じて、ソーシャルワーク実習に必要な知識・技術をグループワーク形式中心に学ぶ。実習指導は実習担当教員がゼミ別に行う。									
到達目標	1. 利用者（対象者）の生活と現在の状況、これまでの経験と今後のこと、抱えている課題等を多くの角度から捉え考察を深めることができる。 2. 社会資源や他の機関（組織）との連携を軸にした問題解決の基礎的な手順や方法を学び、利用者（対象者）の具体的なニーズを発見し、アセスメントを行うことができる。 3. 実習先の法制度上の設置目的や役割を知り、それぞれの援助現場が、歴史の流れの中で法制度とともに存在してきたことの意味を説明できるようになる。 4. 実習指導職員による助言や指導から、社会福祉士に求められる倫理観、価値、行動基準を学び、自らの感情の表出、言動のあり方について考察を深められ、自己覚知できるようになる。									
使用教材	ソーシャルワーク実習の『実習手引き』等、実習指導に必要な共通教材は開講時指示する。									
参考文献	その他、実習ゼミ別に必要な教材を指示・配布する。									
評価方法	事前学習を含めた実習状況を勘案し総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	実習担当教員が提出物について、コメントや修正・改善事項を提示して、随時フィードバックする。修正・改善等の指示を受けた提出物は、実習担当教員の指示に従って再提出すること。									
オフィスアワー（研究室）	担当教員のオフィスアワーは 5 階実習指導室前の掲示板に掲示する。				メールアドレス（#→@）	授業にて実習担当教員から個別に周知する				
1	講義内容	全体オリエンテーション（実習と実習指導の意義：スーパービジョン含む）								
	該当到達目標	予習	ボランティア実施、ボランティア学習報告書作成、個人票作成、実習先情報収集						4 時間	
	1,2	復習	配布物や実習の手引きの内容を再確認する。						1 時間	
2	講義内容	実習ゼミ別に示された課題（個人票修正、概要表作成等）に取り組む。								
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題（個人票修正、概要表作成等）に取り組む。						1.5 時間	
	1,2,3	復習	オリエンテーション内容を再確認する。ボランティア学習報告書のフィードバックがあった場合には、実習に活かせるように気づきを整理する。						1 時間	
3	講義内容	実習先概要表の作成等を通じた実習先に関する基本的な理解 ①実習先の根拠となる法制度、組織の理念・目的、役割・機能、計画、事業・業務等の情報整理								
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題（個人票修正、概要表作成等）に取り組む。						1.5 時間	

	2,3	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1 時間
4	講義内容	実習先概要表の作成等を通した実習先に関する基本的な理解 ②実習先の利用者、一日の流れ、月間・年間スケジュール、行事の意義、地域特性等の情報整理		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(個人票修正、概要表作成等)に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1 時間
5	講義内容	実習先の関連業務(実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解)		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(個人票修正、概要表作成等)に取り組む	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1 時間
6	講義内容	実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 ①実習指導者の主な業務内容や専門的技術、利用者(対象者)との関わり方、自己覚知等		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(実習計画書下案作成等)に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1 時間
7	講義内容	実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 ②実践力(コミュニケーション、情報収集、ネットワーク、チームアプローチ)や専門職の倫理等		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(実習計画書下案作成等)に取り組む。	1.5 時間
	1,2,4	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1 時間
8	講義内容	実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 ③支援計画の策定やモニタリング、評価の方法、スーパービジョン等		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(実習計画書下案作成等)に取り組む。	1.5 時間
	1,2,4	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1 時間
9	講義内容	実習計画書の作成指導① 実習計画書の概要、実習プログラムについての理解		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(実習計画書下案作成等)に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1 時間
10	講義内容	実習計画書の作成指導② 実習プログラムに基づいた実習目標、実習テーマの設定		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(実習計画書作成等)に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1 時間
11	講義内容	実習計画書の作成指導③ 実習テーマに基づいた達成課題・方法の設定		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(実習計画書作成等)に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	実習計画書を完成させる	1 時間
12	講義内容	実習先事前訪問(実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を含む)		
	該当到達目標	予習	実習先と事前訪問の日程調整を行う。事前訪問の準備。	1 時間
	1,2,3	復習	事前訪問を振り返り、気づきや反省点を整理する。	1.5 時間
13	講義内容	実習先事前訪問の振り返り(三者協議を踏まえた実習計画書の作成)		
	該当到達目標	予習	事前訪問の気づきや反省点を、課題(実習計画書等)に反映させる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題(実習計画書等)に反映させる。	1 時間
14	講義内容	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解		
	該当到達目標	予習	『実習の手引き』の「実習記録ノート」の内容確認。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	実習中の服装や持ち物等を点検し、事前準備を行う。	1 時間
15	講義内容	実習直前オリエンテーション		
	該当到達目標	予習	『実習の手引き』の「実習が始まったら」「事務手続き・事後対応」の内容確認。	1 時間
	4	復習	オリエンテーションの内容を踏まえ、実習前の準備状況を再確認する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				40 時間
備考	実習にかかわる実習事務等は、実習指導室が担当します。 実習事務に関して、不明な点、疑問点、連絡事項がある場合は、必ず来室して確認してください。 実習指導室: 大学 1 号館 5 階 TEL:027-352-1292(直通) 利用時間: 実習期間外 9 時 00 分～17 時 00 分(月～金)、実習期間中 9 時 00 分～18 時 00 分(月～金※原則)			

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ(専門展開科目)						科目ナンバリング	SWS316		
英文名	Guidance to Social Work Practicum Ⅲ						講義形態	演習		
担当教員	金井 敏、永田 理香、根岸 洋人、石坂 公俊、大川 健次郎、加藤 大輔、檜府 憲太									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格	社会福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	①	③	④	⑤	⑧	⑩	⑫	⑯		
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○	○	○	○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	・ 実習で経験した援助活動を専門的援助技術として概念化・理念化し、体系立てる力を涵養する。 ・ 実習記録や実習経験を共有し、課題整理を通じて、社会福祉士としての専門的な技術を修得する。 ・ <u>ソーシャルワーク実習指導担当教員は巡回指導等を通して実習生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。</u> ・ グループワークを中心にソーシャルワーク実習の振り返りを行い、実習報告会の発表に向けて準備する。実習指導は実習担当教員がゼミ別に行う。									
到達目標	1. 実習先の業務内容、仕事の流れ、チームワーク、利用者との関わり方等を学び、業務に必要な知識や技術および組織人、個人としての従事者のあり方や役割を説明できるようになる。 2. 利用者との関わり、実習指導職員による助言や指導から、社会福祉士に求められる倫理観、価値、行動基準を学び、自らの感情の表出、言動のあり方について考察を深められ、自己覚知できるようになる。 3. 利用者(対象者)の生活と現在の状況、これまでの経験と今後のこと、抱えている課題等を多くの角度から捉え考察を深めることができる。 4. 社会資源や他の機関(組織)との連携を軸にした問題解決の基礎的な手順や方法を学び、利用者(対象者)の具体的なニーズを発見し、アセスメントを行うことができる。 5. 実習先の法制度上の設置目的や役割を知り、それぞれの援助現場が、歴史の流れの中で法制度とともに存在してきたことの意味を説明できるようになる。 6. 実習全体を通して、新たな学習意欲・目標等を発見し、将来的に社会福祉士として現場に従事することへの希望と展望を見出すことができる。									
使用教材	実習指導に必要な共通教材は開講時指示する。									
参考文献	その他、実習ゼミ別に必要な教材を指示・配布する。									
評価方法	事後学習を含めた実習状況を勘案し総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	実習担当教員が提出物について、コメントや修正・改善事項を提示して、随時フィードバックする。修正・改善等の指示を受けた提出物は、実習担当教員の指示に従って再提出すること。									
オフィスアワー (研究室)	担当教員のオフィスアワーは 5 階実習指導室前の掲示板に掲示する。				メールアドレス (#→@)		授業にて実習担当教員から個別に周知する			
1	講義内容	実習巡回指導① 前半実習の振り返り、実習上の課題についての個別指導								
	該当到達目標	予習	実習記録の振り返り、巡回指導時のゼミ別課題への取組、実習指導教員や実習指導者への質問事項等検討。						2 時間	
	1,2,3,4,5	復習	実習巡回指導の記録作成。実習巡回指導を踏まえた実習課題・内容の見直し、実習指導者との調整等。						2 時間	

2	講義内容	実習巡回指導② 後半実習の振りかえり、実習上の課題についての個別指導		
	該当到達目標	予習	実習記録の振りかえり、巡回指導時のゼミ別課題への取組、実習指導教員や実習指導者への質問事項等検討。	2 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	実習巡回指導の記録作成。実習巡回指導を踏まえた実習課題・内容の見直し、実習指導者との調整等。	2 時間
3	講義内容	全体オリエンテーション		
	該当到達目標	予習	提出物(実習内容(概要)、実習後の自己評価、実習終了届)の作成および実習指導室への提出。実習先へのお礼状の作成・郵送。	2 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	オリエンテーション内容を再確認する。	0.5 時間
4	講義内容	実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理① 実習経験の共有と分かち合い		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(発表準備等)に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	実習報告書及び報告に向けて、共有・分かち合いで得た気づきを整理する。	1 時間
5	講義内容	実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理② 分かち合いによる自己覚知の促し		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(発表準備等)に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	実習報告書及び報告に向けて、自己覚知の内容を整理する。	1 時間
6	講義内容	実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理③ 実習テーマ、実習計画書の評価		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(発表準備等)に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	実習報告書及び報告に向けて、課題の達成、未達成を再整理する。	1 時間
7	講義内容	実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理④ 実習テーマ、達成課題の振りかえり		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(発表準備等)に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	実習報告書及び報告に向けて、実習プログラム別に気づきを整理する。	1 時間
8	講義内容	実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理⑤ 事例検討等を通じた振りかえり		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(発表準備等)に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	講実習報告書及び報告に向けて、事例検討等のポイントを整理する。	1 時間
9	講義内容	実習報告書の作成指導① 実習の目的と課題、実習内容について		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(実習報告書下案作成等)に取り組む。	2 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1 時間
10	講義内容	実習報告書の作成指導② 援助者としての自己理解と課題について		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(実習報告書下案作成等)に取り組む。	2 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1 時間
11	講義内容	実習報告書の作成指導③ (実習総括レポートの作成及び提出)		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(実習報告書作成等)に取り組む。	2 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	2 時間
12	講義内容	実習報告会の準備① 実習報告会の役割分担・発表内容の検討等		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(発表資料作成、内容検討等)に取り組む。	2 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1 時間
13	講義内容	実習報告会の準備② 実習報告会の発表内容の共有、改善点の検討等		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(発表資料作成、内容検討等)に取り組む。	2 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	講義中に教員から指導があった事項を、課題に反映させる。	1 時間
14	講義内容	実習報告会の準備③ 実習報告会の発表内容の共有、リハーサル等		
	該当到達目標	予習	実習ゼミ別に示された課題(発表資料作成、内容検討等)に取り組む。	2 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	発表資料の最終的な見直しを行い、代表者が資料を提出する。	1 時間
15	講義内容	実習報告会(実習の評価及び全体総括会)		
	該当到達目標	予習	実習報告会の準備、リハーサル等。	3 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	実習報告会での気づきを踏まえ、実習後の目標等を考える。	1 時間
合計時間(予習・復習)				46 時間
備考	実習にかかわる実習事務等は、実習指導室が担当します。 実習事務に関して、不明な点、疑問点、連絡事項がある場合は、必ず来室して確認してください。			

	実習指導室:大学 1 号館 5 階 TEL:027-352-1292(直通) 利用時間:実習期間外 9 時 00 分～17 時 00 分(月～金)、実習期間中 9 時 00 分～18 時 00 分(月～金※原則)

科目名	ソーシャルワーク実習Ⅰ（専門展開科目）						科目ナンバリング	SWS317		
英文名	Social Work PracticumⅠ						講義形態	実習		
担当教員	金井 敏、永田 理香、根岸 洋人、石坂 公俊、大川 健次郎、加藤 大輔、檜府 憲太 他 2 名									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格	社会福祉士（介護福祉コースを除く）									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				3	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	①	③	④	⑤	⑧	⑩	⑫	⑯⑰		
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	・ ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する。 ・ 実習は春季休業中に行われる。各自に指導担当教員が割り振られ、<u>実習巡回指導や帰校日指導を通して学生と実習先と連携し十分な個別指導を行う。</u>									
到達目標	1. 実習先の業務内容を理解し実習生として適切に行動できる 2. 実習計画書に従い、目標変更、課題設定をすることができる 3. 実習指導者及び担当教員のスーパービジョンを受け、主体的に実習に取り組むことができる 4. 社会福祉士として必要となる技術を習得し、実践できる									
使用教材	実習の手引き他									
参考文献										
評価方法	実習状況を勘案し総合的に評価する									
課題・評価に対するフィードバック方法	実習巡回指導や帰校日の指導、実習ノートや実習報告会等を通じて行う 実習先の指導者からもフィードバックを受ける									
オフィスアワー （研究室）	担当教員のオフィスアワーは 5 階実習指導室の掲示板に掲示する。				メールアドレス （＃→＠）	担当教員のメールアドレスは 5 階実習指導室の掲示板に掲示する。				
講義内容	<u>実習生は次に掲げる事項について実習指導者による指導を受ける。</u>									
	1. <u>利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成。</u> 2. <u>利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成。</u> 3. <u>利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価</u> 4. <u>多職種連携及びチームアプローチの実践的理解。</u> 5. <u>当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ。</u> 6. <u>地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源活用・調整・開発に関する理解</u>									

	7. <u>施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際(チームマネジメントや人材管理の理解を含む)。</u> 8. <u>社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解。</u> 9. <u>ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解(アウトリーチ・ネットワーキング・コーディネート・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション)。</u>		
	予習	実習の準備をしっかりと行うこと	適宜実施
	復習	実習ノートの作成及び整理	適宜実施
合計時間(予習・復習)			—
備考	この科目を履修するためにはソーシャルワーク実習指導Ⅰを履修済であること。 実習ガイダンスにて詳細を説明するので必ず参加すること。		

科目名	ソーシャルワーク実習Ⅱ（専門展開科目）						科目ナンバリング	SWS318		
英文名	Social Work Practicum Ⅱ						講義形態	実習		
担当教員	金井 敏、永田 理香、根岸 洋人、石坂 公俊、大川 健次郎、加藤 大輔、檜府 憲太									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年 通年		選必・単位数	選択 4 単位						
履修を必須とする資格	社会福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	①③④⑤⑧⑩⑫⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○	○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	・ ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する。 ・ 実習は夏季休業中に行われる。各自に指導担当教員が割り振られ、<u>実習巡回指導や帰校日指導を通して学生と実習先と連携し十分な個別指導を行う。</u>									
到達目標	1. 実習先の業務内容を理解し実習生として適切に行動できる 2. 実習計画書に従い、目標変更、課題設定をすることができる 3. 実習指導者及び担当教員のスーパービジョンを受け、主体的に実習に取り組むことができる 4. 社会福祉士として必要となる技術を習得し、実践できる									
使用教材	実習の手引き他									
参考文献										
評価方法	実習状況を勘案し総合的に評価する									
課題・評価に対するフィードバック方法	実習巡回指導や帰校日の指導、実習ノートや実習報告会等を通じて行う 実習先の指導者からもフィードバックを受ける									
オフィスアワー （研究室）	担当教員のオフィスアワーは 5 階実習指導室の掲示板に掲示する。				メールアドレス （#→@）	担当教員のメールアドレスは 5 階実習指導室の掲示板に掲示する。				
講義内容	ソーシャルワーク実習Ⅰで学んだ内容に加えて本実習では以下の点について学びを深める。 10. <u>利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成。</u> 11. <u>利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成。</u> 12. <u>利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価</u> 13. <u>利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護活動とその評価</u> 14. <u>多職種連携及びチームアプローチの実践的理解。</u> 15. <u>当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ。</u>									

	16. <u>地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源活用・調整・開発に関する理解</u>	
	17. <u>施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際(チームマネジメントや人材管理の理解を含む)。</u>	
	18. <u>社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解。</u>	
	19. <u>ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解(アウトリーチ・ネットワーキング・コーディネート・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション)。</u>	
	<u>ソーシャルワーク実習指導担当教員は巡回指導等を通して実習生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。</u>	
	予習	実習の準備をしっかりと行うこと 適宜実施
	復習	実習ノートの作成及び整理 適宜実施
	合計時間(予習・復習)	
	—	
備考	この科目を履修するためにはソーシャルワーク実習指導Ⅰを履修済であること。また、ソーシャルワーク実習指導ⅡⅢ、ソーシャルワーク演習(専門)ⅢⅣを同時期に履修する必要がある。 実習ガイダンスにて詳細を説明するので必ず参加すること。	

科目名	精神医学と精神医療Ⅱ（専門展開科目）							科目ナンバリング	SWP301	
英文名	PsychiatryⅡ							講義形態	講義	
担当教員	上原 徹									
科目に関連した実務経験	精神科医として大学病院等で勤務経験 35 年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている									
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	社会福祉コース選択 2 単位							
履修を必須とする資格	精神保健福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	③16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①学生が、「精神医学や精神医療Ⅰ」や「現代の精神保健の課題と支援」で学習した総論内容を基盤に、各論として精神保健福祉の知識を深め、精神保健福祉士として必要な知識を高め、真摯な態度を養うことができる。精神医療と人権擁護の歴史を学ぶとともに、精神保健福祉法における精神科病院の入院形態や医療観察法について、法制度の課題を理解する。こうしたチーム医療の一員として、また予防や地域生活の支援等において、精神保健福祉士の役割と専門性を理解する。 ②授業は教科書を使って、要点を解説していく。国家試験に準じたドリルと解説を公開する。									
到達目標	1. 精神疾患の分類を把握するとともに、主な疾患の症状、経過、治療方法などについて適切に説明できる 2. 精神医療と人権擁護の歴史を学ぶとともに、精神保健福祉法における精神科病院の入院形態や医療観察法について理解し、その中での精神保健福祉士の役割と法制度の課題を適切に説明できる 3. 精神科病院 等においてチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割を説明できる■ 4. 早期介入、再発予防や地域生活の支援等における地域の多職種連携・多機関連携における精神保健福祉士の役割について説明できる■ 5. 医療福祉連携に関わる誠実な支援姿勢を培うことができる■									
使用教材	最新・精神保健福祉士養成講座 第 1 巻「精神医学と精神医療」中央法規出版(2021 年度版)、を教科書として用いるので必携。									
参考文献	適宜プリント資料や DVD 上映を加える									
評価方法	国家試験形式に準じた筆記試験 100%で評価するが、授業態度(静粛さや不必要な私語など)に問題がある場合は個別に厳しく減点する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業中に過去の国家試験における精神神経系のドリル問題の解説を行い、専門職としての必要な課題をフィードバックする。必要に応じて、定期試験問題の解説を行う。									
オフィスアワー (研究室)	月 4 金 3 研究室:1 号館 5 階 501				メールアドレス (#→@)		授業で提示する			
1	講義内容	精神医学・医療の歴史								
	該当到達目標	予習	「精神医学・精神医療Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。							0.5 時間
	1	復習	別途準備する資料を用いて復習する。							2.5 時間
2	講義内容	成因と分類、状態と診断、評価と検査■								
	該当到達目標	予習	「同Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。							1 時間
	1	復習	別途準備する資料を用いて復習する。							2 時間
3	講義内容	代表的な疾患とその症状、経過、予後■								

	該当到達目標 1,2,3,4	予習	「同Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1 時間
		復習	別途準備する資料を用いて復習する。	2 時間
4	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容 <u>薬物療法・生物学的療法</u> ■		
		予習	「同Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1 時間
		復習	別途準備する資料を用いて復習する。	2 時間
5	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容 <u>精神心理療法</u> ■		
		予習	「同Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1 時間
		復習	別途準備する資料を用いて復習する。	2 時間
6	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容 <u>作業療法と地域精神医療</u> ■		
		予習	「同Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1 時間
		復習	別途準備する資料を用いて復習する。	2 時間
7	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容 <u>精神医療の動向・医療制度改革</u>		
		予習	「同Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1 時間
		復習	別途準備する資料を用いて復習する。	2 時間
8	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容 <u>医療機関の機能と役割の明確化</u> ■		
		予習	「同Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1 時間
		復習	別途準備する資料を用いて復習する。	2 時間
9	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容 <u>入院治療と人権擁護</u> ■		
		予習	「同Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1 時間
		復習	別途準備する資料を用いて復習する。	2 時間
10	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容 <u>外来治療と在宅療法</u> ■		
		予習	「同Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1 時間
		復習	別途準備する資料を用いて復習する。	2 時間
11	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容 <u>医療観察法における入院・通院治療</u>		
		予習	「同Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1 時間
		復習	別途準備する資料を用いて復習する。	2 時間
12	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容 精神科医療機関における精神保健福祉士の役割		
		予習	「同Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1 時間
		復習	別途準備する資料を用いて復習する。	2 時間
13	該当到達目標 2,3,4,5	講義内容 治療導入、再発予防や地域生活にむけた支援		
		予習	「同Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1 時間
		復習	別途準備する資料を用いて復習する。	2 時間
14	該当到達目標 2,3,4,5	講義内容 <u>医療と福祉及び関連機関専門職との連携</u> ■		
		予習	「同Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。	1 時間
		復習	別途準備する資料を用いて復習する。	2 時間
15	該当到達目標 1,2,3,4,5	講義内容 まとめ■		
		予習	資料を用いて自習する。	2 時間
		復習	試験問題を復習する。	1 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	精神保健福祉士養成コース履修学生は必修である。「精神医学と精神医療Ⅰ」の履修を済ませていることがのぞましい。■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ（専門展開科目）							科目ナンバリング	SWP302	
英文名	Issues in Mental Health and Support System Ⅱ							講義形態	講義	
担当教員	横澤 岳志									
科目に関連した実務経験	精神保健福祉士として精神科病院及び併設する障害福祉サービス事業所に勤務（現在）									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	社会福祉コース選択 2 単位							
履修を必須とする資格	精神保健福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	①	③	⑩				⑯			
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○								○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	精神疾患が国民の 5 大疾病のひとつとして数えられる現代社会において、精神保健への取り組みがますます重要視されている。本講義は、精神保健福祉士を目指す学生が様々な精神保健についての基本的な知識を習得し、様々な課題解決に向けた実践の基礎となることを目指す。同科目Ⅰに引き続き、現代社会の課題とアプローチ、発生予防と対策、地域精神保健に関する偏見・差別、専門職種と国や地方自治体等の役割や連携、諸外国の精神保健活動の現状や対策などを学ぶ。 講義は教科書の重要項目をパワーポイントで整理しながら進めていく。									
到達目標	1. 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチについて理解する■ 2. 精神保健に関する発生予防と対策について理解する■ 3. 地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について理解する■ 4. 精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携について理解する■ 5. 諸外国の精神保健活動の現状および対策について理解する									
使用教材	最新・精神保健福祉士養成講座 2 現代の精神保健の課題と支援(中央法規出版)									
参考文献										
評価方法	出席率を 30%、定期試験を 70%の比重で評価し、合計で 60%以上を合格とする。なお、レポートにより、評価に加点する場合あり。									
課題・評価に対するフィードバック方法	定期試験後に解答を提示する。 レポートにはコメントをつけて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	質問等には、授業の開始前もしくは終了後にも教室や講師控室で応じる。				メールアドレス (#→@)		tak.yoyo0120#gmail.com			
1	講義内容	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ(災害被災者、犯罪被害者等)								
	該当到達目標	予習	教科書の第 6 章第 1 節～第 2 節に目を通す						2 時間	
	1	復習	災害被災者の精神保健や犯罪被害者等の支援について理解する						2 時間	
2	講義内容	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ(自殺予防、身体疾患)■								
	該当到達目標	予習	教科書の第 6 章第 3 節～第 4 節に目を通す						2 時間	

	1	復習	自殺予防や身体疾患に伴う精神保健について理解する	2 時間
3	講義内容	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ(貧困問題、社会的孤立)■		
	該当到達目標	予習	教科書の第6章第5節～第6節に目を通す	2 時間
	1	復習	貧困問題と精神保健、社会的孤立について理解する	2 時間
4	講義内容	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ(性的マイノリティ、多文化)		
	該当到達目標	予習	教科書の第6章第7節～第8節に目を通す	2 時間
	1	復習	性的マイノリティと精神保健および多文化に接することで生じる精神保健上の問題について理解する	2 時間
5	講義内容	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ(反復違法行為、高齢化)■		
	該当到達目標	予習	教科書の第6章第9節～第10節に目を通す	2 時間
	1	復習	反復違法行為と精神保健および高齢化と精神保健について理解する	2 時間
6	講義内容	精神保健に関する発生予防と対策(予防の考え方、アルコール関連問題)■		
	該当到達目標	予習	教科書の第7章第1節～第2節に目を通す	2 時間
	2	復習	精神保健における予防の考え方およびアルコール関連問題に対する対策について理解する	2 時間
7	講義内容	精神保健に関する発生予防と対策(薬物依存、ギャンブル等依存)■		
	該当到達目標	予習	教科書の第7章第3節～第4節に目を通す	2 時間
	2	復習	薬物依存対策やギャンブル等依存対策について理解する	2 時間
8	講義内容	精神保健に関する発生予防と対策(うつ病、子育て支援)■		
	該当到達目標	予習	教科書の第7章第5節～第6節に目を通す	2 時間
	2	復習	うつ病と自殺防止対策および子育て支援と暴力、虐待予防について理解する	2 時間
9	講義内容	精神保健に関する発生予防と対策(認知症高齢者、発達障害者)■		
	該当到達目標	予習	教科書の第7章第7節～第8節に目を通す	2 時間
	2	復習	認知症高齢者や発達障害者に対する対策について理解する	2 時間
10	講義内容	精神保健に関する発生予防と対策(社会的ひきこもり、災害時の精神保健)■		
	該当到達目標	予習	教科書の第7章第9節～第10節に目を通す	2 時間
	2	復習	社会的ひきこもりや災害時の精神保健に対する対策について理解する	2 時間
11	講義内容	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題■		
	該当到達目標	予習	教科書の第8章第1節～第3節に目を通す	2 時間
	3	復習	精神保健に関わる関連法規、人材育成、偏見・差別について理解する	2 時間
12	講義内容	精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携(国の機関、法規、多職種の連携)■		
	該当到達目標	予習	教科書の第9章第1節～第3節に目を通す	2 時間
	4	復習	国の機関、精神保健に関する法規、多職種の連携について理解する	2 時間
13	講義内容	精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携(行政機関、学会や啓発団体)■		
	該当到達目標	予習	教科書の第9章第4節～第5節に目を通す	2 時間
	4	復習	地域精神保健に関わる行政機関の役割や学会、啓発団体について理解する	2 時間
14	講義内容	精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携(セルフヘルプグループと市民団体)、諸外国の精神保健活動の現状および対策(世界の精神保健)■		
	該当到達目標	予習	教科書の第9章第6節および第10章第1節に目を通す	2 時間

	4,5	復習	セルフヘルプグループと市民団体および世界の精神保健の実情について理解する	2 時間
15	講義内容	諸外国の精神保健活動の現状および対策（WHO などの活動、諸外国の精神保健医療）		
	該当到達目標	予習	教科書の第 10 章第 2 節～第 3 節に目を通す	2 時間
	5	復習	WHO などの国際機関の活動や諸外国の精神保健医療の実情について理解する	2 時間
合計時間（予習・復習）				60 時間
備考	質問等にはメールでも応じる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	精神保健福祉の原理Ⅰ（専門展開科目）						科目ナンバリング	SWP303		
英文名	Principles of Mental Health Social WorkⅠ						講義形態	講義		
担当教員	池田 朋広									
科目に関連した実務経験	①精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）として大学病院において 21 年勤務（経験） ②非常勤として精神科クリニックデイケアに 4 年勤務（経験） ③外部講師（精神保健福祉士）として、保護観察所薬物再乱用防止プログラムに不定期参加（現在） ④薬物依存症回復支援施設にて、非常勤プログラム講師（現在）									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	社会福祉コース選択 2 単位							
履修を必須とする資格	精神保健福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	①	③	⑤	⑧	⑩	⑪	⑬	⑮	⑯	
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①「障害」への理解を深め、「精神障害者」の定義と、その障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活について、その対応の歴史を振り返りながら学びを深める。精神疾患・精神障害を多角的に理解し、当事者の社会におけるあるべき姿と、その支援における本来のあり方に目を向ける。 ②精神保健福祉に関するニュースやトピック等がある場合にはそれに言及することもある。また、視聴覚教材を使って、実際の現場で何が生じ、何が行われているのかについても適宜紹介していく。									
到達目標	1. 「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について理解する。 2. 精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。 3. 精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷を踏まえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。■									
使用教材	最新 精神保健福祉士養成講座 5 精神保健福祉の原理 中法法規									
参考文献										
評価方法	出席回数と授業の終わりに行なうリアクションペーパーの割合を 40%、期末試験の成績が 60%で総合評価する									
課題・評価に対するフィードバック方法	リアクションペーパーの内容について、翌週の授業の冒頭にまとめてフィードバックする。									
オフィスアワー （研究室）	火曜日 3, 4 時限 312 研究室				メールアドレス （#→@）	ikedat#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	精神障害とはどのような状態か								
	該当到達目標	予習	不要						0 時間	
	1	復習	教科書序章を読み、今の自分が考える精神障害についてまとめる。						1.5 時間	
2	講義内容	障害者福祉の理念								
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに目を通す						2 時間	
	1	復習	障害福祉の変遷を整理する。						1.5 時間	
3	講義内容	障害者福祉の歴史的展開								
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに目を通す						2 時間	
	1	復習	障害福祉の発展の歴史を振り返って、時系列にまとめる						1.5 時間	

	講義内容	制度における「精神障害者」の定義		
4	該当到達目標 2	予習	精神保健福祉法の対象者について、事前に調べる	1.5 時間
		復習	精神保健福祉法も含めた各制度における精神障害者の定義をまとめる	1.5 時間
	講義内容	国際障害者分類(ICF)		
5	該当到達目標 2	予習	ICFについて、事前に調べる	2 時間
		復習	ICFについて整理して理解し、簡単にまとめる	1.5 時間
	講義内容	精神障害者の障害特性		
6	該当到達目標 2	予習	他の障害と精神障害の違いについて教科書を参考に調べる	1.5 時間
		復習	精神障害の特性を表にまとめる	1.5 時間
	講義内容	支援にかかわる新たな潮流		
7	該当到達目標 3	予習	WRAP について調べる	1.5 時間
		復習	和訳されている SAMHSA の EBP ツールキットの概要を整理する	1.5 時間
	講義内容	「リカバリー」の概念について考える		
8	該当到達目標 3	予習	リカバリーとは何かについて調べる	1.5 時間
		復習	自身の考えるリカバリーの在り方についてまとめる	1.5 時間
	講義内容	諸外国における排除の歴史とその後の展開		
9	該当到達目標 3	予習	ピネルについて調べる	1.5 時間
		復習	バザーリアの精神医療改革についてまとめる	1.5 時間
	講義内容	日本における排除の歴史と構造		
10	該当到達目標 3	予習	相模原障害者施設殺傷事件についてまとめる	1.5 時間
		復習	精神保健福祉士が持つべき視点について考察する	1.5 時間
	講義内容	日本の社会的防壁		
11	該当到達目標 3	予習	教科書の該当ページに目を通す	1.5 時間
		復習	偏見について、自分の考えをまとめる	1.5 時間
	講義内容	精神科医療の特異性と生活への影響■		
12	該当到達目標 2,3	予習	精神科病院の長期入院の歴史と現状について調べる	1.5 時間
		復習	隔離拘束の是非について、自身の考えをまとめる	1.5 時間
	講義内容	精神疾患・精神障害を抱える者の家族について■		
13	該当到達目標 2,3	予習	全国精神障害者家族会連合会の歴史について調べる	1.5 時間
		復習	共依存症について調べて理解する	1.5 時間
	講義内容	精神疾患・精神障害を抱える者の社会生活■		
14	該当到達目標 2,3	予習	就労状況や経済状況について、教科書から調べる	1.5 時間
		復習	精神疾患・精神障害を抱える者の望ましい社会生活について自身の考えをまとめる	1.5 時間
	講義内容	メンタルヘルスをめぐる新たな課題		
15	該当到達目標 1,2,3	予習	自分が思いつくメンタルヘルスに関する課題を箇条書きで列挙する	1.5 時間
		復習	精神保健福祉士としての課題解決の方策についてまとめる	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	視聴覚教材を使用する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	精神保健福祉の原理Ⅱ（専門展開科目）							科目ナンバリング	SWP304	
英文名	Principles of Mental Health Social Work Ⅱ							講義形態	講義	
担当教員	池田 朋広									
科目に関連した実務経験	①精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）として大学病院において 21 年勤務（経験） ②非常勤として精神科クリニックデイケアに 4 年勤務（経験） ③外部講師（精神保健福祉士）として、保護観察所薬物再乱用防止プログラムに不定期参加（現在） ④薬物依存症回復支援施設にて、非常勤プログラム講師（現在）									
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	社会福祉コース選択 2 単位							
履修を必須とする資格	精神保健福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	①	③	⑤	⑧	⑩	⑪	⑬	⑭	⑮	⑯
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①精神保健福祉士とは、どのような立場で何を行うべき専門職であるかを知る。 精神障害者福祉に関する専門職としての独自の価値観・倫理観を体得する。 精神保健福祉士の業務特性を理解し、存在意義と職業アイデンティティの基礎を築く。 ②精神保健福祉に関するニュースやトピック等がある場合にはそれに言及することもある。また、視聴覚教材を使って、実際の現場で何が生じ、何が行われているのかについても適宜紹介していく。									
到達目標	1. 精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く 2. 現在の精神保健福祉士の基本的枠組み（理念・視点・関係性）と倫理綱領に基づく職責について理解する 3. 精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する■ 4. 近年の精神保健福祉士の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する■									
使用教材	最新 精神保健福祉士養成講座 5 精神保健福祉の原理 中法法規									
参考文献										
評価方法	出席回数と授業の終わりに行なうリアクションペーパーの割合を 40%、期末試験の成績が 60%で総合評価する									
課題・評価に対するフィードバック方法	リアクションペーパーの内容について、翌週の授業の冒頭にまとめてフィードバックする。									
オフィスアワー （研究室）	火曜日 3, 4 時限 312 研究室				メールアドレス （#→@）	ikedata#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	精神保健福祉の原理が培われた足跡・過程								
	該当到達目標	予習	「Y 問題」について調べる							0 時間
	1	復習	教科書を読み、我が国における精神科ソーシャルワーカーの歴史を知る							1.5 時間
2	講義内容	精神保健福祉士による実践の価値・原理								
	該当到達目標	予習	「自己決定」について調べる							2 時間
	1,2	復習	精神保健福祉士が大切にしてきたものをまとめる							1.5 時間
3	講義内容	精神保健福祉士による実践の視点								
	該当到達目標	予習	ソーシャルワーカーに共通して求められる役割をおさらいする							2 時間
	1,4	復習	リカバリーに関する、今の自分の考えをまとめる							1.5 時間

	講義内容	援助における関係性			
4	該当到達目標 1,4	予習	援助における関係性について調べる		1.5 時間
		復習	共働創造についての自分の考えをまとめる		1.5 時間
	講義内容	パターナリズムと代理行為の諸問題について			
5	該当到達目標 1,2,3,4	予習	ソーシャルワークにおける権利擁護の国際的な流れを調べる		2 時間
		復習	パターナリズムについて調べてまとめる		1.5 時間
	講義内容	意思決定支援にかかわる精神保健福祉士の専門性			
6	該当到達目標 2,3	予習	意思決定支援について調べる		1.5 時間
		復習	意思決定支援における精神保健福祉士の支援方法についてまとめる		1.5 時間
	講義内容	精神保健福祉士法の理解■			
7	該当到達目標 2,3	予習	精神保健福祉士が国家資格であることの意義について調べる		1.5 時間
		復習	精神保健福祉士が社会福祉の専門職であることへの矛盾についてまとめる		1.5 時間
	講義内容	精神保健福祉士の職業倫理■			
8	該当到達目標 3,4	予習	ソーシャルワーカーの倫理綱領全文を読む		1.5 時間
		復習	バーンアウトについて調べて理解する		1.5 時間
	講義内容	精神障害者の人権擁護と精神保健福祉士の役割について理解する■			
9	該当到達目標 3,4	予習	障害者権利条約における理念と意義についてまとめる		1.5 時間
		復習	精神科医療における精神保健福祉士の位置付の現状と問題点を整理する		1.5 時間
	講義内容	精神保健福祉士の職場・職域			
10	該当到達目標 1,2,3	予習	精神保健福祉士が働くフィールドを思いっただけ挙げる		1.5 時間
		復習	自身が興味を持った精神保健福祉士の仕事についてまとめる		1.5 時間
	講義内容	精神保健福祉活動における包括的な援助を行うための多職種連携について理解する■			
11	該当到達目標 2,3	予習	多職種連携における各職種の役割についてまとめる		1.5 時間
		復習	多職種連携の種類、チームビルディングについてまとめる		1.5 時間
	講義内容	精神保健福祉活動における包括的な援助について理解する■			
12	該当到達目標 2,3,4	予習	ソーシャルワーク理論からみて「総合的かつ包括的」援助の意味するところを理解する		1.5 時間
		復習	地域を基盤としてクライアントのニーズに基づく支援のアセスメントについて事例からまとめる		1.5 時間
	講義内容	ソーシャルワーカーにおけるアプローチの具体例①■			
13	該当到達目標 2,3,4	予習	ストレングス視点による支援の長所を調べる		1.5 時間
		復習	エンパワメントされたクライアントの変化を調べる		1.5 時間
	講義内容	ソーシャルワーカーにおけるアプローチの具体例②■			
14	該当到達目標 2,3,4	予習	ナラティブアプローチについてまとめる		1.5 時間
		復習	グループ活動を通じた支援の在り方のモデルを調べる		1.5 時間
	講義内容	ソーシャルワーカーにおけるアプローチの具体例③■			
15	該当到達目標 2,3,4	予習	ピアサポート活動とフェローシップについて調べる		1.5 時間
		復習	当事者と精神保健福祉士との共働創造についてまとめる		1.5 時間
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	視聴覚教材を使用する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(精神)Ⅰ(専門展開科目)						科目ナンバリング	SWP305		
英文名	Theory and Method of Social Work (in Mental Health)Ⅰ						講義形態	講義		
担当教員	白鳥 浩丈									
科目に関連した実務経験	2001.4 月～精神科病院勤務、2020.4 月～就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所勤務									
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	社会福祉コース選択 2 単位							
履修を必須とする資格	精神保健福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	①	③			⑩	⑪		⑯		
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○				○	○	○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①第一に、精神疾患や精神障害、精神保健の課題がある人の困難や希望などを的確に把握し、取り巻く状況や環境を含めて理解する。第二に、ソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性の基礎について理解する。第三に、精神疾患や精神障害、精神保健の課題がある人のための諸制度、福祉サービスについて、その概念と利用要件や手続きを学び、現場で求められる価値・知識・技法の理解を目標とする。 ②授業は講義形式で行う。しかし、国内外で起こっている精神保健福祉のテーマに応じて、発表の機会を設けることがある。復習は、返却された資料を必ず確認し、現場で求められる価値、知識、技法を説明できるようにすること。									
到達目標	1. 精神障害及び精神保健福祉の課題がある人に対するソーシャルワークの過程を理解する。■ 2. 個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をマイクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。■									
使用教材	最新・精神保健福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[精神専門]日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(中央法規出版) ISBN978-4-8058-8257-3 テーマに合わせて、視聴覚教材の活用を行う場合がある。									
参考文献	テーマに合わせて、文献等の紹介を予定している。									
評価方法	定期試験 80%、レポート 20%で評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出を求めるレポートやリアクションペーパーについては、適宜返却を予定している。履修者は返却された資料を必ず復習すること。									
オフィスアワー (研究室)	火曜 2 時限 (303 研究室)				メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する				
1	講義内容	オリエンテーション(方針等説明)								
	該当到達目標	予習	不要						0	時間
		復習	初回授業において指導教員から説明があった点、今後の授業方針の確認						1	時間
2	講義内容	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの構成要■								
	該当到達目標	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。						1.5	時間
		1	復習	授業で扱った内容を復習する。						1.5
3	講義内容	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開過程■								
	該当到達目標	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。						1.5	時間
		1	復習	授業で扱った内容を復習する。						1.5
4	講義内容	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの基本的視点■								

令和6年度 社会福祉学科シラバス

	該当到達目標 1	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1.5 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。	1.5 時間
5	講義内容		精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程①「インテーク、アセスメント」■	
	該当到達目標 1	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1.5 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。	1.5 時間
6	講義内容		精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程②「グループワーク」■	
	該当到達目標 1	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1.5 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。	1.5 時間
7	講義内容		精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程③「アウトリーチ」■	
	該当到達目標 1	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1.5 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。	1.5 時間
8	講義内容		精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程④「ケアマネジメント」■	
	該当到達目標 1	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1.5 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。	1.5 時間
9	講義内容		精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑤「コミュニティワーク」■	
	該当到達目標 1	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1.5 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。	1.5 時間
10	講義内容		精神保健福祉分野における権利擁護①■	
	該当到達目標 1,2	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1.5 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。	1.5 時間
11	講義内容		精神保健福祉分野における権利擁護②■	
	該当到達目標 1,2	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1.5 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。	1.5 時間
12	講義内容		精神保健福祉分野における意思決定支援	
	該当到達目標 1,2	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1.5 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。	1.5 時間
13	講義内容		精神保健福祉分野におけるソーシャルアクション①	
	該当到達目標 1,2	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1.5 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。	1.5 時間
14	講義内容		精神保健福祉分野におけるソーシャルアクション②	
	該当到達目標 1,2	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1.5 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。	1.5 時間
15	講義内容		総括	
	該当到達目標 1,2	予習	科目全般に関する内容についてレポートにまとめる。	4.0 時間
		復習	総括を踏まえ、自らの考えなどを指定様式に記入する。	2.0 時間
合計時間(予習・復習)				46 時間
備考	・受講するにあたっては、2 年次までに履修できる精神保健福祉士指定科目(精神保健福祉の原理Ⅰ・Ⅱ、精神障害者リハビリテーション論、現代の精神保健の課題と支援Ⅱなど)を履修済みであることが望ましい。 ・授業中に必ず教わったことや調べたことをチェックし、帰宅後は必ず指示されたことや教わったことを書き出すなどの行為が必要である。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(精神)Ⅱ(専門展開科目)						科目ナンバリング	SWP306		
英文名	Theory and Method of Social Work (in Mental Health) Ⅱ						講義形態	講義		
担当教員	白鳥 浩丈									
科目に関連した実務経験	2001.4 月～精神科病院勤務、2020.4 月～就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所勤務									
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	社会福祉コース選択 2 単位							
履修を必須とする資格	精神保健福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	①	③				⑩	⑪	⑬		
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①第一に、精神疾患や精神障害、精神保健の課題がある人を取巻く環境や社会を概括し、こうした人々への差別や偏見を除去し、共生社会を実現するための諸活動を認識する。第二に、政策や制度、関係行政や地域住民に働きかける方法を具体化する。第三に、精神保健福祉援助の事例(集団や地域に関する事例を含む)を活用し、精神保健福祉士としての思考と援助過程における理論と実践について考察を深める。終局的に、精神保健福祉の課題を捉え、その解決に向けた総合的かつ包括的援助に求められる価値・知識・技術を理解する。 ②授業は講義形式で行う。しかし、国内外で起こっている精神保健福祉のテーマに応じて、発表の機会を設けることがある。復習は、返却された資料を必ず確認し、現場で求められる価値、知識、技法を説明できるようにすること。									
到達目標	1. ソーシャルワークの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。■ 2. 精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。■ 3. 精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。■ 4. 精神障害及び精神保健福祉の課題がある人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。■ 5. 精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。■									
使用教材	最新・精神保健福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[精神専門]日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(中央法規出版) ISBN978-4-8058-8257-3 テーマに合わせて、視聴覚教材の活用を行う場合がある。									
参考文献	テーマに合わせて、文献等の紹介を予定している。									
評価方法	定期試験 80%、レポート 20%で評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出を求めるレポートやリアクションペーパーについては、適宜返却を予定している。履修者は返却された資料を必ず復習すること。									
オフィスアワー(研究室)	火曜 2 時限 (303 研究室)				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する			
1	講義内容	オリエンテーション(方針等説明)								
	該当到達目標	予習	不要						0 時間	

		復習	初回授業において指導教員から説明があった点、今後の授業方針の確認	1 時間
2	講義内容	精神保健福祉分野における多職種連携・他機関連携■		
	該当到達目標	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1.5 時間
	1,2	復習	授業で扱った内容を復習する。	1.5 時間
3	講義内容	チームの形態と特徴■		
	該当到達目標	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1.5 時間
	1,2	復習	授業で扱った内容を復習する。	1.5 時間
4	講義内容	精神保健福祉分野におけるソーシャルアドミニストレーション①■		
	該当到達目標	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1.5 時間
	1,3	復習	授業で扱った内容を復習する。	1.5 時間
5	講義内容	精神保健福祉分野におけるソーシャルアドミニストレーション②■		
	該当到達目標	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1.5 時間
	1,3	復習	授業で扱った内容を復習する。	1.5 時間
6	講義内容	精神保健福祉分野における実践展開「災害分野①」		
	該当到達目標	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1.5 時間
	1,5	復習	授業で扱った内容を復習する。	1.5 時間
7	講義内容	精神保健福祉分野における実践展開「災害分野②」		
	該当到達目標	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1.5 時間
	1,5	復習	授業で扱った内容を復習する。	1.5 時間
8	講義内容	精神保健福祉分野における実践展開「災害分野③」		
	該当到達目標	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1.5 時間
	1,5	復習	授業で扱った内容を復習する。	1.5 時間
9	講義内容	精神保健福祉分野における家族支援①■		
	該当到達目標	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1.5 時間
	1,4	復習	授業で扱った内容を復習する。	1.5 時間
10	講義内容	精神保健福祉分野における家族支援②■		
	該当到達目標	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1.5 時間
	1,4	復習	授業で扱った内容を復習する。	1.5 時間
11	講義内容	精神保健福祉分野における家族支援③■		
	該当到達目標	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1.5 時間
	1,4	復習	授業で扱った内容を復習する。	1.5 時間
12	講義内容	精神保健福祉分野における実践展開「学校・教育分野」		
	該当到達目標	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1.5 時間
	1,5	復習	授業で扱った内容を復習する。	1.5 時間
13	講義内容	精神保健福祉分野における実践展開「産業分野」■		
	該当到達目標	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1.5 時間
	1,5	復習	授業で扱った内容を復習する。	1.5 時間
14	講義内容	精神保健福祉分野における実践展開「司法分野」		
	該当到達目標	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	1.5 時間
	1,5	復習	授業で扱った内容を復習する。	1.5 時間
15	講義内容	総括		
	該当到達目標	予習	科目全般に関する内容についてレポートにまとめる。	4.0 時間
	1,2,3,4,5	復習	総括を踏まえ、自らの考えなどを指定様式に記入する。	2.0 時間
合計時間(予習・復習)				46 時間

備考	・受講するにあたっては、「ソーシャルワークの理論と方法(精神)Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。 ・授業中に必ず教わったことや調べたことをチェックし、帰宅後は必ず指示されたことや教わったことを書き出すなどの行為が必要である。 ■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名		精神障害リハビリテーション論(専門展開科目)						科目ナンバリング	SWP307		
英文名		Psychiatric Rehabilitation						講義形態	講義		
担当教員		川口 遼									
科目に関連した実務経験		精神保健福祉士として精神科病院へ勤務(現在)									
学年・開講期		2 年 後期	選必・単位数	社会福祉コース選択 2 単位							
履修を必須とする資格		精神保健福祉士									
学位授与方針との対応		1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
		1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
		1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連		3810									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① ・精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できるよう基礎知識を養う。 ・精神障害リハビリテーションの知識を援助場面で活用できるよう基礎知識を養う。 ・精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解する。 ② ・精神保健福祉に関するニュースやトピック等がある場合にはそれに言及することもある。また、実際の現場で何が生じ、何が行われているのかについても適宜紹介していきたい。									
到達目標		1. 精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。■ 2. 精神障害リハビリテーションプログラムの知識を援助場面で活用できる。■ 3. 精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解し、援助場面で活用できる。■									
使用教材		最新精神保健福祉士養成講座 3 精神障害リハビリテーション論(中央法規) ISBN 978-4-8058-8254-2 このほか、適宜資料を配布する。									
参考文献		NHK 福祉系テレビ番組、DVD、インターネット動画等を用いる場合もある。									
評価方法		定期試験 70%、授業への参加度 30%									
課題・評価に対するフィードバック方法		フィードバックや質問等は随時、直接またはメール等で受け付ける。									
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容	ガイダンス(講義予定、評価方法等の説明)									
	該当到達目標	予習	本科目のシラバスに目を通す							2 時間	
		復習	本科目を履修するか否かの意思を固める。							1 時間	
2	講義内容	精神障害リハビリテーションとソーシャルワークとの関係■									
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに目を通す							1.5 時間	
		1 復習	ソーシャルワーカーから見た精神障害リハビリテーションについて自分なりにまとめる							1.5 時間	

3	講義内容	精神障害者リハビリテーションの理念、歴史、定義、基本原則		
	該当到達目標	予習	精神障害者リハビリテーションについて自分なりに調べてみる	1.5 時間
	1	復習	精神障害者リハビリテーションの定義をまとめる	1.5 時間
4	講義内容	精神障害リハビリテーションの対象■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに目を通す	1.5 時間
	1	復習	精神障害リハビリテーションの対象となる者の表を作成する	1.5 時間
5	講義内容	チームアプローチ		
	該当到達目標	予習	チームアプローチについて調べてまとめる■	1.5 時間
	1	復習	精神保健福祉士としての自分が医療チームにて精神障害リハビリテーションプログラムをやる際の注意点をまとめる	1.5 時間
6	講義内容	地域及びリカバリー概念を基盤としたリハビリテーションの意義■		
	該当到達目標	予習	リカバリーの概念について調べる	1.5 時間
	1	復習	リカバリー支援の視点から見た精神障害リハビリテーションについて自分なりにまとめる	1.5 時間
7	講義内容	精神障害リハビリテーションのプロセス■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに目を通す	1.5 時間
	2	復習	授業で習ったプロセスに沿った実際の場面をいろいろとイメージしてみる	1.5 時間
8	講義内容	医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション■		
	該当到達目標	予習	精神障害者リハビリテーションがどのような機関で行われているか調べる	1.5 時間
	2	復習	各リハビリテーションの特徴を表にする	1.5 時間
9	講義内容	医学的リハビリテーションプログラム■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに目を通す	1.5 時間
	3	復習	それぞれのプログラムを表にまとめ、簡素化して暗記できるようにする	1.5 時間
10	講義内容	職業的リハビリテーションプログラム■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに目を通す	1.5 時間
	3	復習	それぞれのプログラムを表にまとめ、簡素化して暗記できるようにする	1.5 時間
11	講義内容	社会的リハビリテーションプログラム■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに目を通す	1.5 時間
	3	復習	それぞれのプログラムを表にまとめ、簡素化して暗記できるようにする	1.5 時間
12	講義内容	教育的リハビリテーションプログラム■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに目を通す	1.5 時間
	3	復習	それぞれのプログラムを表にまとめ、簡素化して暗記できるようにする	1.5 時間
13	講義内容	家族支援プログラム■		
	該当到達目標	予習	精神保健領域において行われている「家族支援プログラム」を調べる	1.5 時間
	3,4	復習	授業で 1 番興味深かった「家族支援プログラム」についてまとめる	1.5 時間
14	講義内容	精神障害リハビリテーションで用いられる手法・依存症のリハビリテーションプログラム■		
	該当到達目標	予習	精神障害リハビリテーションで用いられる手法・依存症のリハビリテーションについて調べてまとめる	1.5 時間
	4	復習	精神障害リハビリテーションの手法、自助グループの役割、自助グループでのリハビリテーションプログラムについてまとめる	1.5 時間
15	講義内容	精神障害リハビリテーション論の総括・振り返り■		
	該当到達目標	予習	これまでの授業を振り返り、要点を再確認する	6 時間
	1,2,3,4	復習	期末試験対策と復習	2 時間
合計時間(予習・復習)				50 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	精神保健福祉制度論(専門展開科目)							科目ナンバリング	SWP308	
英文名	Systems for Mental Health and Welfare							講義形態	講義	
担当教員	小沼 聖治									
科目に関連した実務経験	障害福祉サービス等事業所で9年間の実践経験がある。									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	社会福祉コース選択 2 単位							
履修を必須とする資格	精神保健福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	①	③	⑤	⑧	⑩	⑪	⑬	⑭	⑮	⑯
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	1. 精神保健福祉法及び精神障害者への医療・支援に関連した制度について学ぶ。 2. 教科書に沿って進めながら、各制度とその制度ごとの関連性についてしっかりと理解を深める。 3. 精神保健福祉に関するニュースやトピック等がある場合にはそれに言及することもある。また、視聴覚教材を使って、実際の現場で何が生じ、何が行われているのかについても適宜紹介していく。									
到達目標	1. 精神障害者に関する法制度の体系について理解する。 2. 精神保健福祉法・医療観察法等の現行法・制度について正しく理解し、現行法・制度の限界と課題を意識する。 3. 制度と関連した精神保健福祉士の役割を理解する。 4. 生活支援制度の概要を理解し、適切な支援のあり方について事例を通して検討する。									
使用教材	最新 精神保健福祉士養成講座 4 精神保健福祉制度論 中央法規出版									
参考文献	図解でわかるソーシャルワーク 中央法規出版、15歳からの社会保障 日本評論社									
評価方法	出席回数と授業の終わりに行なうリアクションペーパーの割合を 50%、期末試験の成績が 50%で総合評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	リアクションペーパーの内容について、翌週の授業の冒頭にまとめてフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	精神障害者に対する法律の体系								
	該当到達目標	予習	不要						0 時間	
	1	復習	精神障害者に関する制度・施策について一覧にまとめる						1.5 時間	
2	講義内容	精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割								
	該当到達目標	予習	精神保健福祉法の入院形態について調べる						1.5 時間	
	1,2,3	復習	精神保健福祉士の役割について各自の考えをまとめる						2 時間	
3	講義内容	医療観察法制度の概要								
	該当到達目標	予習	医療観察制度の概要を調べる						2 時間	
	1,2,3	復習	精神保健参与員の守秘義務についてまとめる						1.5 時間	
4	講義内容	医療観察法制度における精神保健福祉士の役割								
	該当到達目標	予習	医療観察法制における治療・支援の在り方について調べる						1.5 時間	
	2,3	復習	社会復帰調整官の職務についてまとめる						2 時間	

5	講義内容	精神障害者における医療に関する課題			
	該当到達目標 1,2,3	予習	措置入院制度について調べる	1.5 時間	
		復習	措置入院制度の抱える課題について、自身の考えをまとめる	1.5 時間	
6	講義内容	相談支援制度と精神保健福祉士の役割			
	該当到達目標 1,3,4	予習	精神保健福祉士が勤務する地域支援機関には、どのようなところがあるか調べる	1.5 時間	
		復習	相談支援事業所における精神保健福祉士の仕事についてまとめる	1.5 時間	
7	講義内容	居住支援制度と精神保健福祉士の役割			
	該当到達目標 3,4	予習	精神障害者の居住支援制度を調べる	1.5 時間	
		復習	グループホームでの支援事例から、精神保健福祉士の役割をイメージする	1.5 時間	
8	講義内容	就労支援制度と精神保健福祉士の役割			
	該当到達目標 3,4	予習	ジョブコーチについて調べる	1.5 時間	
		復習	精神障害者の就労支援施策を整理し、課題をまとめる	1.5 時間	
9	講義内容	精神障害者の生活支援制度に関する課題			
	該当到達目標 1,3,4	予習	アウトリーチ支援について調べる	1.5 時間	
		復習	精神障害者の生活支援制度に関する課題をまとめる	1.5 時間	
10	講義内容	生活困窮者自立支援制度と精神保健福祉士の役割			
	該当到達目標 3,4	予習	生活保護制度のセーフティネット機能について調べておく	1.5 時間	
		復習	ハウジングファーストについて調べてまとめる	1.5 時間	
11	講義内容	低所得者対策と精神保健福祉士の役割			
	該当到達目標 3,4	予習	教科書の該当頁を読んでおく	1.5 時間	
		復習	低所得にいたる背景について調べ、自分の考えをまとめる	1.5 時間	
12	講義内容	精神障害者の経済的支援制度に関する課題			
	該当到達目標 1,3,4	予習	障害年金制度について調べる	1.5 時間	
		復習	精神障害者の経済的支援制度をまとめる	1.5 時間	
13	講義内容	「違法薬物使用障害の措置入院患者」事例を用いて、現行法制度の活用を検討する			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書または配布資料による事例を読んでおく	1.5 時間	
		復習	支援事例からわかったことと、それに対する自身の考えをまとめる	1.5 時間	
14	講義内容	「長期入院患者の退院支援事例」事例を用いて、現行法制度の活用を検討する			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書または配布資料による事例を読んでおく	1.5 時間	
		復習	支援事例からわかったことと、それに対する自身の考えをまとめる	1.5 時間	
15	講義内容	まとめと振り返り			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	これまで学習した精神障害者に関する制度・施策の限界と課題をまとめる	1.5 時間	
		復習	自身が今後必要と思われる精神障害への支援法・制度をイメージしてみる	1.5 時間	
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	視聴覚教材を使用する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	ソーシャルワーク演習(精神)Ⅰ(専門展開科目)							科目ナンバリング	SWP309	
英文名	Seminar in Social Work (in Mental Health) Ⅰ							講義形態	演習	
担当教員	池田 朋広、白鳥 浩丈、上原 徹									
科目に関連した実務経験	【白鳥】2001.4月～精神科病院勤務、2020.4月～就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所勤務 【池田】精神保健福祉士として大学病院等で20年以上の実務経験があり、現在は非常勤として保護観察所や薬物依存症回復支援施設で実践を行っている 【上原】精神科医として大学病院等で勤務経験30年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている									
学年・開講期	3年 後期		選必・単位数		社会福祉コース選択1単位					
履修を必須とする資格	精神保健福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGsとの関連	①③⑩⑪⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①精神疾患や精神障害、精神保健の課題がある人の困難や希望などを的確に把握し、取り巻く状況や環境を含めて理解する。その理解を踏まえ、ソーシャルワークの展開に向けた精神保健福祉士の専門性の基礎を獲得する。具体的には、精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人に活用できる諸制度、福祉サービスについて、その概念と利用要件や手続きを学び、精神保健福祉の現場で求められる価値・知識・技法を習得する。 ②授業は演習形式で行う。グループワークを中心に行うため、遅刻は厳禁とする。復習は、返却された資料を必ず確認し、長期休暇や実習直前にも行い、技術として活用できるようにすること。									
到達目標	1 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎を獲得する。■ 2 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。■ 3 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。■ 4 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。 5 精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。									
使用教材	「最新・精神保健福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習[精神専門]」日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(中央法規出版) ISBN978-4-8058-8258-0 毎回の授業時に適宜レジュメを配付する。									
参考文献	テーマに合わせて、文献等の紹介を予定している。									
評価方法	活発な議論・活動への貢献度(60%)、レポート課題等(40%)で総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出を求めるレポートやリアクションペーパーについては、適宜返却を予定している。履修者は返却された資料を必ず復習すること。									

オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談には、担当教員が授業時間前もしくは終了後に応じる。その他、メールでも受け付ける。		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。
1	講義内容	オリエンテーション(方針等説明、グループ学習におけるルール説明等)、グループ分け等			
	該当到達目標	予習	不要	0 時間	
		復習	初回授業において指導教員から説明があった点、今後の授業方針の確認		1 時間
2	講義内容	自己覚知「社会的不利の理解」			
	該当到達目標 1,2	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
3	講義内容	自己覚知「グリーフワーク」			
	該当到達目標 1,2	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
4	講義内容	基礎的技能「面接技法」■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
5	講義内容	基礎的技能「記録技法」■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
6	講義内容	基礎的技能「支援計画の作成」■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
7	講義内容	事例検討「社会的排除」■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
8	講義内容	事例検討「地域生活支援」■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
9	講義内容	事例検討「就労・雇用」■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
10	講義内容	事例検討「退院支援・地域移行」■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
11	講義内容	事例検討「ピアサポート」■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
12	講義内容	事例検討「ひきこもり・家族支援」■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
13	講義内容	事例検討「認知症」■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
14	講義内容	事例検討「アウトリーチ」■			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
15	講義内容	討論、総括			
	該当到達目標	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		2 時間

	1,2,3,4,5	復習	討論した内容を踏まえ、自らの考えなどを指定様式に記入する。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	・受講にあたっては、3 年前期までに履修できるすべての「精神保健福祉士指定科目」を履修済みであることが望ましい。 ・演習科目のため、活発な議論・活動に積極的に参加する学生が望ましい。 ・授業中に必ず教わったことや調べたことをチェックし、帰宅後は必ず指示されたことや教わったことを書き出すなどの行 為が必要である。 ・記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ・オンライン授業を行う場合には、資料画像などを用いた動画および音声により講義や事例検討を行う。 ・予習、復習時間は最低限必要な時間を表示するが、期間中は指示されたことや学習したことを確認整理するなどの自 習で補完が必要である。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	ソーシャルワーク演習(精神)Ⅱ(専門展開科目)						科目ナンバリング	SWP310		
英文名	Seminar in Social Work (in Mental Health) Ⅱ						講義形態	演習		
担当教員	白鳥 浩文、池田 朋広、上原 徹									
科目に関連した実務経験	【白鳥】2001.4月～精神科病院勤務、2020.4月～就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所勤務 【池田】精神保健福祉士として大学病院等で20年以上の実務経験があり、現在は非常勤として保護観察所や薬物依存症回復支援施設で実践を行っている 【上原】精神科医として大学病院等で勤務経験30年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている									
学年・開講期	4年 前期	選必・単位数	社会福祉コース選択1単位							
履修を必須とする資格	精神保健福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGsとの関連	① ③ ⑩ ⑪ ⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①第一に、精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を概括し、政策や制度、関係行政や地域住民に働きかける実践方法をイメージできる。第二に、精神保健福祉士の実践場面において展開されるソーシャルワークの価値・知識・技法を学ぶ。第三に、精神保健福祉援助の事例(集団に対する事例を含む)を活用し、精神保健福祉士としての思考と援助過程における理論と実践について考察を深める。終局的に、精神保健福祉の課題を捉え、その解決に向けた総合的かつ包括的援助のありかたを実践的に習得する。 ②授業は演習形式で行う。グループワークを中心に行うため、遅刻は厳禁とする。復習は、返却された資料を必ず確認し、長期休暇や実習直前にも行い、技術として活用できるようにすること。									
到達目標	1 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎を獲得する。■ 2 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。■ 3 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。■ 4 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。 5 精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。									
使用教材	「最新・精神保健福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習[精神専門]」日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(中央法規出版) ISBN978-4-8058-8258-0 毎回の授業時に適宜レジュメを配付する。									
参考文献	テーマに合わせて、文献等の紹介を予定している。									

評価方法		活発な議論・活動への貢献度(60%)、レポート課題等(40%)で総合的に評価する。			
課題・評価に対するフィードバック方法		提出を求めるレポートやリアクションペーパーについては、適宜返却を予定している。履修者は返却された資料を必ず復習すること。			
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談には、担当教員が授業時間前もしくは終了後に応じる。その他、メールでも受け付ける。		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。
1	講義内容	オリエンテーション(方針等説明、グループ学習におけるルール説明等)、グループ分け等			
	該当到達目標	予習	不要		0 時間
		復習	初回授業において指導教員から説明があった点、今後の授業方針の確認		1 時間
2	講義内容	「ソーシャルワーク演習(精神)Ⅰ」の振り返り			
	該当到達目標 1,2	予習	「ソーシャルワーク演習(精神)Ⅰ」で学んだ内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	グループワークの結果を考察する。		1 時間
3	講義内容	社会資源「情報収集、整理①」			
	該当到達目標 1,2	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
4	講義内容	社会資源「情報収集、整理②」			
	該当到達目標 1,2	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
5	講義内容	社会資源「発表」			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
6	講義内容	事例検討「協議会の活用・調整・開発」■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
7	講義内容	事例検討「ケアマネジメント」■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
8	講義内容	事例検討「精神科救急」■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
9	講義内容	事例検討「アルコール依存症」■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
10	講義内容	事例検討「発達障害者」■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
11	講義内容	事例検討「児童虐待」■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
12	講義内容	事例検討「触法障害者」■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
13	講義内容	多職種連携「模擬ケア会議①」■			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
14	講義内容	多職種連携「模擬ケア会議②」■			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間

15	講義内容	討論、総括		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	2 時間
		復習	討論した内容を踏まえ、自らの考えなどを指定様式に記入する。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	・受講にあたっては、「ソーシャルワーク演習(精神)Ⅰ」を履修済みであること。 ・演習科目のため、活発な議論・活動に積極的に参加する学生が望ましい。 ・授業中に必ず教わったことや調べたことをチェックし、帰宅後は必ず指示されたことや教わったことを書き出すなどの行為が必要である。 ・予習、復習時間は最低限必要な時間を表示するが、期間中は指示されたことや学習したことを確認整理するなどの自習で補完が必要である。 ・オンライン授業を行う場合には、資料画像などを用いた動画および音声により講義や事例検討を行う。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	ソーシャルワーク演習(精神)Ⅲ(専門展開科目)						科目ナンバリング	SWP311		
英文名	Seminar in Social Work (in Mental Health) Ⅲ						講義形態	演習		
担当教員	白鳥 浩文、池田 朋広、上原 徹									
科目に関連した実務経験	【白鳥】2001.4月～精神科病院勤務、2020.4月～就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所勤務 【池田】精神保健福祉士として大学病院等で20年以上の実務経験があり、現在は非常勤として保護観察所や薬物依存症回復支援施設で実践を行っている 【上原】精神科医として大学病院等で勤務経験30年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている									
学年・開講期	4年 後期	選必・単位数	社会福祉コース選択1単位							
履修を必須とする資格	精神保健福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGsとの関連	①③⑩⑪⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①第一に、「ソーシャルワーク実習」および「ソーシャルワーク実習(精神)」を経験した学生が、理論と実践の相互関係、自らの傾向、関心をまとめ、卒業後のキャリアパスを明確にする。第二に、精神疾患や精神障害、精神保健の課題がある人に必要な関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームアプローチのコーディネートスキルを涵養する。第三に、精神保健福祉士に共通する原理である、「社会的復権と権利擁護」、「自己決定」、「当事者主体」、「社会正義」、「ごく当たり前の生活」を実践的に考察し、体系的な相談援助事例を通じて、総合的かつ包括的な相談援助を理解する。終局的に、精神保健福祉士としての職業アイデンティティを構築する意義、さらに社会福祉専門職としての社会的責務を理解し、行動ができる基盤の獲得が目標となる。 ②授業は演習形式で行う。グループワークを中心に行うため、遅刻は厳禁とする。復習は、返却された資料を必ず確認し、長期休暇や実習直前にも行い、技術として活用できるようにすること。									
到達目標	1 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎を獲得する。■ 2 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。■ 3 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。■ 4 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。 5 精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。									
使用教材	「最新・精神保健福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習[精神専門]」日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(中央法規出版) ISBN978-4-8058-8258-0 毎回の授業時に適宜レジュメを配付する。									
参考文献	テーマに合わせて、文献等の紹介を予定している。									

評価方法		活発な議論・活動への貢献度(60%)、レポート課題等(40%)で総合的に評価する。			
課題・評価に対するフィードバック方法		提出を求めるレポートやリアクションペーパーについては、適宜返却を予定している。履修者は返却された資料を必ず復習すること。			
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談には、担当教員が授業時間前もしくは終了後に応じる。その他、メールでも受け付ける。		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。
1	講義内容	オリエンテーション(方針等説明、グループ学習におけるルール説明等)、グループ分け等			
	該当到達目標	予習	不要		0 時間
		復習	初回授業において指導教員から説明があった点、今後の授業方針を確認する。		1 時間
2	講義内容	「ソーシャルワーク実習(精神)」の振り返り			
	該当到達目標 1,2	予習	実習での体験をもとに、「ソーシャルワーク演習(精神)Ⅰ・Ⅱ」で学んだ内容も踏まえレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
3	講義内容	事例検討「医療機関」■			
	該当到達目標 1,2	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
4	講義内容	事例検討「障害福祉サービス事業所」■			
	該当到達目標 1,2	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
5	講義内容	事例検討「疾病、障がい別」■			
	該当到達目標 1,2	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
6	講義内容	事例検討「精神障害者の生活の基礎とは①」■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
7	講義内容	事例検討「精神障害者の生活の基礎とは②」■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
8	講義内容	事例検討「精神障害者自身の生活について①」■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
9	講義内容	事例検討「精神障害者自身の生活について②」■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
10	講義内容	事例検討「精神障害者自身と障害の理解について①」■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
11	講義内容	事例検討「精神障害者自身と障害の理解について②」■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
12	講義内容	事例検討「精神障害者の地域生活の充実について①」■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
13	講義内容	事例検討「精神障害者の地域生活の充実について②」■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間
		復習	授業で扱った内容を復習する。		1 時間
14	講義内容	事例検討「精神障害者自身の権利について」■			
	該当到達目標	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。		1 時間

	1,2,3,4,5	復習	授業で扱った内容を復習する。	1 時間
15	講義内容	討論、総括		
	該当到達目標	予習	テーマに関する内容についてレポートにまとめる。	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	討論した内容を踏まえ、自らの考えなどを指定様式に記入する。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	・受講にあたっては、「ソーシャルワーク演習(精神)Ⅱ」を履修済みであること。 ・演習科目のため、活発な議論・活動に積極的に参加する学生が望ましい。 ・授業中に必ず教わったことや調べたことをチェックし、帰宅後は必ず指示されたことや教わったことを書き出すなどの行為が必要である。 ・予習、復習時間は最低限必要な時間を表示するが、期間中は指示されたことや学習したことを確認整理するなどの自習で補完が必要である。 ・オンライン授業を行う場合には、資料画像などを用いた動画および音声により講義や事例検討を行う。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	ソーシャルワーク実習指導(精神)Ⅰ(専門展開科目)							科目ナンバリング	SWP312	
英文名	Guidance to Social Work Practicum (in Mental Health) Ⅰ							講義形態	演習	
担当教員	白鳥浩丈、池田 朋広、上原 徹									
科目に関連した実務経験	【池田】精神保健福祉士として大学病院等で20年以上の実務経験があり、現在は非常勤として保護観察所や薬物依存症回復支援施設で実践を行っている 【白鳥】2001.4月～精神科病院勤務、2020.4月～就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所勤務 【上原】精神科医として大学病院等で勤務経験30年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている									
学年・開講期	3年 後期		選必・単位数		社会福祉コース選択 1単位					
履修を必須とする資格	精神保健福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	3 10 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①精神保健福祉援助実習を行う医療分野及び施設分野に関する基本的な理解を整理することができる。各分野に関する基本的学習を少人数で行う。実習の心構えや実習の動機を明確化し、実習テーマ検討、実習課題の決定、実習計画案の作成を行う。精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解、実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解(精神保健福祉士法及び個人情報保護法を含む)など、実習に向けた具体的な準備を始める。精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験をする。 ②基本は演習形式で授業を行うが、必要に応じて講義形式にて行うこともある。レポートやリアクションペーパーの内容を踏まえ、適宜内容を補足する。視聴覚教材を使用する。									
到達目標	1. ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について理解する。 2. 精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 3. ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。■ 4. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。■ 5. 具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。■									
使用教材	「最新 精神保健福祉士養成 8 ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習[精神専門]」 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(中央法規出版)ISBN978-4-8058-8259-7 資料等は適宜、授業で配布する。									
参考文献	ケースワークの原則 F・P・バイスティック 著 誠信書房									
評価方法	演習の活発な議論・活動への貢献度(50%)、自分の担当のレジュメづくりやグループなどでの発表(50%)、などで総合的に評価します。ただし、演習形式での授業なので、欠席や遅刻の多い学生には									

		20%を超えた比重で(30%程度までの)成績評価の減点をする場合があります。単位取得には、無断欠席がないことなど付帯条件があるため、ガイダンス時に必ず確認すること。			
課題・評価に対する フィードバック方法		提出を求めるレポートや報告書の草稿、発表ファイルについては、各自に校正やコメントを加えた上で返却する。履修者は返却された資料を復習すること。			
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談には、担当教員が授業時間前もしくは終了後に応じる。その他、メールでも受け付ける。		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。
1	講義内容	ガイダンス、グループ分け、個別指導等(ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義)			
	該当到達目標	予習	不要	0 時間	
	1	復習	初回ゼミにおいて指導教員から説明があった点、今後の授業方針の確認		0.5 時間
2	講義内容	精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解の確認(精神保健医療福祉の現状(利用者理解を含む。)に関する基本的な理解)■			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	1,2,3	復習	グループ学習に関するルール確認、グループ内の役割確認、その他		0.5 時間
3	講義内容	精神保健医療福祉の利用者に関する基本的な理解の確認(実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解)■			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	1,2,3	復習	説明を聞いてわからなかった専門用語の確認		0.5 時間
4	講義内容	精神科医療機関と関連問題(精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験)■			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	1,2,3	復習	説明を聞いてわからなかった専門用語の確認		0.5 時間
5	講義内容	精神保健と関連問題■			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	1,2,3	復習	説明を聞いてわからなかった専門用語の確認		0.5 時間
6	講義内容	障害者関係施設と関連問題			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	1,2,3	復習	説明を聞いてわからなかった専門用語の確認		0.5 時間
7	講義内容	行政関係機関と関連問題■			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	1,2,3	復習	説明を聞いてわからなかった専門用語の確認		0.5 時間
8	講義内容	現場体験学習及び見学実習			
	該当到達目標	予習	訪問先のパンフレット及び関連法規の確認		0.5 時間
	1,2,4	復習	グループ担当者間で割り当てられた役割に沿ったまとめ。		0.5 時間
9	講義内容	グループ学習・グループ発表①			
	該当到達目標	予習	自分達の発表内容について分担を再度確認し、詳細を詰めること。		0.5 時間
	2,3,4	復習	他グループの発表を思い出し、自分たちの発表に活かせる手法を検討する。		0.5 時間
10	講義内容	精神保健福祉領域のアセスメントの方法			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	1,2,3,4	復習	説明を聞いてわからなかった専門用語の確認		0.5 時間

	講義内容	アセスメントに基づくプランニングの方法			
11	該当到達目標 1,2,3,4	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5	時間
		復習	説明を聞いてわからなかった専門用語の確認	0.5	時間
	講義内容	グループ学習・グループ発表②			
12	該当到達目標 1,4,5	予習	自分達の発表内容について分担を再度確認し、メンバーと討論を行うこと。	0.5	時間
		復習	他グループの発表を思い出し、自分たちの発表に活かせる手法を検討する。	0.5	時間
	講義内容	精神保健福祉援助介入と評価方法①■			
13	該当到達目標 1,2,3,4	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5	時間
		復習	講義内容を受けて、討論に際して各自で準備を進める。	0.5	時間
	講義内容	精神保健福祉援助介入と評価方法②■			
14	該当到達目標 1,2,3,4	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5	時間
		復習	講義内容を受けて、討論に際して各自で準備を進める。	1.5	時間
	講義内容	まとめと討論			
15	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	最終発表に関する指示を受けているため、内容を確認して予習すること。	1.5	時間
		復習	討論した内容について、各自で感じたことなどを指定様式に記入する。	1.5	時間
合計時間(予習・復習)					17.5 時間
備考	精神保健福祉士国家試験受験資格の取得希望者は必修。履修するためには、必須単位取得済など、付帯条件がある。予め「履修ガイド」を熟読し、必要な単位がすでに取れているか各自で確認すること。 予習、復習時間は最低限必要な時間を表示するが、期間中は指示されたことや学習したことを確認整理するなどの自習で補完が必要である。 履修登録、各指導教員のオフィスアワー、連絡方法は、初回授業(ガイダンス)時に直接案内される。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	ソーシャルワーク実習指導(精神)Ⅱ(専門展開科目)							科目ナンバリング	SWP313	
英文名	Guidance to Social Work Practicum (in Mental Health) Ⅱ							講義形態	演習	
担当教員	池田 朋広、白鳥浩文、上原 徹									
科目に関連した実務経験	【池田】精神保健福祉士として大学病院等で20年以上の実務経験があり、現在は非常勤として保護観察所や薬物依存症回復支援施設で実践を行っている 【白鳥】2001.4月～精神科病院勤務、2020.4月～就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所勤務 【上原】精神科医として大学病院等で勤務経験30年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている									
学年・開講期	4年 前期	選必・単位数	社会福祉コース選択 1単位							
履修を必須とする資格	精神保健福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	3 10 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○	○	○		○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	事前訪問をフィールドワークの一環とする									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	実習を行う医療分野及び施設分野に関する応用的な知識を深めることができる。実際に配属された実習機関や施設に関する情報を収集し、各自が実行可能な実習計画書を作成する。精神保健福祉援助実習に向け必要となる知識や技術を、ゼミにおける個別指導や集団指導を通して身につける。事前訪問を実行し、そこでの指導内容の説明をもとに具体的な準備を主体的に進められる。 基本は演習形式で授業を行うが、必要に応じて講義形式にて行うこともある。レポートやリアクションペーパーの内容を踏まえ、適宜内容を補足する。視聴覚教材を使用する。									
到達目標	1. ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について理解する。 2. 精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 3. ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。■ 4. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。■ 5. 具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。■									
使用教材	「最新 精神保健福祉士養成 8 ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習[精神専門]」 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(中央法規出版)ISBN978-4-8058-8259-7 4月ガイダンスで各自に配布される「実習ノート」「実習の手引き」は必携。									
参考文献	適宜資料などの配布や、DVD 教材も利用する。									
評価方法	個別の実習課題や実習計画書の作成状況(50%)、演習での活発な議論・活動への貢献度(30%)、個別訪問を通じた実習準備(20%)などで総合的に評価します。演習形式での授業なので、遅刻の多い学生には 20%を超えた比重で(30%程度の)成績評価の減点をする場合があります。学内実習運営規定に準拠し、健康問題や気象状況など相応の理由なく1回でも欠席した場合は、実習参加資格(単位)が得									

		られません。			
課題・評価に対する フィードバック方法		提出を求めるレポートや報告書の草稿、発表ファイルについては、各自に校正やコメントを加えた上で返却する。履修者は返却された資料を復習すること。			
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談には、担当教員が授業時間前もしくは終了後に応じる。その他、メールでも受け付ける。		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。
1	講義内容	ガイダンス、配属先確認とオリエンテーションの実施			
	該当到達目標	予習	実習指導Ⅰで課された課題を仕上げる		0 時間
	1,2	復習	初回ゼミにおいて指導教員から説明があった点、今後の授業方針の確認		0.5 時間
2	講義内容	精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解の再確認(実習先で必要とされる精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る専門的知識と技術に関する理解)■			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	1,2	復習	説明を聞いてわからなかった専門用語の確認		0.5 時間
3	講義内容	精神保健医療福祉の利用者に関する基本的な理解の再確認(精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解)■			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	1,2	復習	説明を聞いてわからなかった専門用語の確認		0.5 時間
4	講義内容	精神保健福祉士の職業倫理と法的責務			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	1,2,5	復習	説明を聞いてわからなかった専門用語の確認		0.5 時間
5	講義内容	実習配属先の施設・機関・事業者等に関する概要の説明と確認(実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解(精神保健福祉士法及び個人情報保護法の理解を含む。))			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	1,2,3	復習	説明を聞いてわからなかった専門用語の確認		0.5 時間
6	講義内容	実習配属先の施設・機関・事業者等に関する概要についての情報収集と指導①			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	1,2	復習	説明を聞いてわからなかった専門用語の確認		0.5 時間
7	講義内容	実習配属先の施設・機関・事業者等に関する概要についての情報収集と指導②			
	該当到達目標	予習	自分の実習配属先について確認し、質問を準備すること。		0.5 時間
	1,2	復習	グループ担当者間で割り当てられた役割に沿った準備、設定。		0.5 時間
8	講義内容	実習配属先の施設・機関・事業者等の事前訪問に関する発表			
	該当到達目標	予習	自分の実習配属先について詳細を詰めること。		0.5 時間
	1,2	復習	他グループの発表を思い出し、自分の実習に活かせる手法を検討する。		0.5 時間
9	講義内容	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解■			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	1,4,5	復習	説明を聞いてわからなかった専門用語の確認。		0.5 時間
10	講義内容	精神保健福祉領域のアセスメントの方法			
	該当到達目標	予習	自分の実習内容について確認し、詳細を詰めること。		0.5 時間
	1,2	復習	他グループの発表を思い出し、自分の実習に活かせる手法を検討する。		0.5 時間
11	講義内容	実習計画書の作成指導(実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計			

		画の作成)		
	該当到達目標	予習	自分の計画について確認と修正を行うこと。	0.5 時間
	1,2	復習	他の発表を思い出し、自分の実習に活かせる手法を検討する。	0.5 時間
12	講義内容	実習計画書の完成		
	該当到達目標	予習	自分の計画について再度確認を行うこと。	0.5 時間
	1,2	復習	自分の計画に活かせる事項を検討する。	0.5 時間
13	講義内容	実習先との実習計画書に関する協議■		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間
	1,2,4,5	復習	協議を受けて、討論に際して各自で準備を進める。	0.5 時間
14	講義内容	実習直前オリエンテーション(巡回指導(訪問指導、スーパービジョン)についての説明)		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容を受けて、討論に際して各自で準備を進める。	1.5 時間
15	講義内容	まとめと討論		
	該当到達目標	予習	最終発表に関する指示を受けているため、内容を確認して予習すること。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	討論した内容について、各自で感じたことなどを指定様式に記入する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				17.5 時間
備考	精神保健福祉士国家試験受験資格の取得希望者は必修。履修するためには、必須単位取得済など、付帯条件がある。予め「履修ガイド」を熟読し、必要な単位がすでに取れているか各自で確認すること。 予習、復習時間は最低限必要な時間を表示するが、期間中は指示されたことや学習したことを確認整理するなどの自習で補完が必要である。 履修登録、各指導教員のオフィスアワー、連絡方法は、初回授業(ガイダンス)時に直接案内される。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	ソーシャルワーク実習指導(精神)Ⅲ(専門展開科目)						科目ナンバリング	SWP314		
英文名	Guidance to Social Work Practicum (in Mental Health) Ⅲ						講義形態	演習		
担当教員	池田 朋広、白鳥 浩文、上原 徹									
科目に関連した実務経験	【池田】精神保健福祉士として大学病院等で20年以上の実務経験があり、現在は非常勤として保護観察所や薬物依存症回復支援施設で実践を行っている 【白鳥】2001.4月～精神科病院勤務、2020.4月～就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所勤務 【上原】精神科医として大学病院等で勤務経験30年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている									
学年・開講期	4年 後期	選必・単位数	社会福祉コース選択 1単位							
履修を必須とする資格	精神保健福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	3 10 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○	○			○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	実習での自己覚知や学びのリアクションをミニレポートとして提出									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	精神保健福祉援助実習で得た体験を共有し、実習記録や課題の整理を行うことを通して、精神保健福祉士として必要となる専門的技術の確立を目指す。実習報告会を計画、準備、実施し、実習の総括を行う。個別・集団指導をとおして、各自が精神保健福祉士として自己に求められる課題を考察して報告する。実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括報告書を提出する。 各回において、前半は課題やテーマについて概要を説明し、後半はグループワークやプレゼンテーション、質疑応答、報告書の自主作成といった形式で進める。									
到達目標	1. ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について理解する。 2. 精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 3. ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。■ 4. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。■ 5. 具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。■									
使用教材	「最新 精神保健福祉士養成 8 ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習[精神専門]」 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(中央法規出版)ISBN978-4-8058-8259-7 4月の実習ガイダンスで配布される「実習ノート」「実習の手引き」は必携。									
参考文献	補足資料等は適宜、授業で配布する。昨年度の実習報告書も目を通しておくことが望ましい。									
評価方法	実習報告会でのプレゼンテーション貢献度(50%)、実習報告書の完成度(50%)、などで総合的に評価します。ただし演習形式での授業なので、遅刻の多い学生には 20%を超えた比重で(30%程度までの)成績評価の減点をする場合があります。学内実習運営規定に準拠し、健康問題や気象状況など相応の理由なく1回でも無断欠席した場合は単位が得られません。									

課題・評価に対するフィードバック方法		提出を求めるレポートや報告書の草稿、発表ファイルについては、各自に校正やコメントを加えた上で返却する。履修者は返却された資料を復習し、指導教官と完成に向けたやりとりをすること。			
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談には、担当教員が授業時間前もしくは終了後に応じる。その他、メールでも受け付ける。		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。
1	講義内容	巡回指導(訪問指導、スーパービジョン)			
	該当到達目標	予習	それまでの実習内容、記録などをまとめる		0 時間
	1,2	復習	指導教員から説明があった点、今後の方針をまとめる		0.5 時間
2	講義内容	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理①■			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	1,2	復習	グループ学習に関するルール確認、グループ内の役割確認、その他		0.5 時間
3	講義内容	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理②■			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	1,2	復習	グループ学習に関するルール確認、グループ内の役割確認、その他		0.5 時間
4	講義内容	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理③■			
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。		0.5 時間
	1,2,5	復習	グループ担当者間で割り当てられた役割に沿った準備、設定。		0.5 時間
5	講義内容	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理④■			
	該当到達目標	予習	自分の実習内容について確認し、内容の詳細を詰めること。		0.5 時間
	1,2,3	復習	他グループの説明を聞いてわからなかった専門用語の確認		0.5 時間
6	講義内容	実習総括レポート(報告書原稿)の作成①			
	該当到達目標	予習	自分の報告書について確認し、内容を検討すること。		0.5 時間
	1,2	復習	他メンバーの報告を思い出し、自分の報告に活かせる手法を検討する。		0.5 時間
7	講義内容	実習総括レポート(報告書原稿)の作成②			
	該当到達目標	予習	自分の報告書について確認し、内容を検討すること。		0.5 時間
	1,2	復習	他メンバーの報告を思い出し、自分の報告に活かせる手法を検討する。		0.5 時間
8	講義内容	実習総括レポート(報告書原稿)の作成③			
	該当到達目標	予習	自分の報告書について確認し、詳細を詰めること。		0.5 時間
	1,2	復習	他メンバーの報告を思い出し、自分の報告に活かせる手法を検討する。		0.5 時間
9	講義内容	実習総括レポート(報告書原稿)の作成④■			
	該当到達目標	予習	報告書の内容について再度確認し、詳細を詰めること。		0.5 時間
	1,4,5	復習	自分の報告書を完成させる。		0.5 時間
10	講義内容	実習報告会準備①			
	該当到達目標	予習	自分の実習内容について確認し、詳細を詰めること。		0.5 時間
	1,2	復習	他グループの発表を思い出し、自分たちに活かせる手法を検討する。		0.5 時間
11	講義内容	実習報告会準備②			
	該当到達目標	予習	自分たちの発表について確認し、メンバーと討論を行うこと。		0.5 時間
	1,2	復習	他グループの発表を思い出し、自分たちに活かせる手法を検討する。		0.5 時間
12	講義内容	実習報告会準備③			
	該当到達目標	予習	自分たちの発表について再度確認し、討論を行うこと。		0.5 時間

	1,2	復習	自分たちの発表を完成する。	0.5 時間
13	講義内容	実習報告会(実習評価全体総括会)■		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間
	1,3,4,5	復習	報告会を受けて、討論されたことに際して各自で考察を進める。	0.5 時間
14	講義内容	実習報告会の振り返り		
	該当到達目標	予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	ふりかえりの内容を受けて、各自が自己覚知を深める。	1.5 時間
15	講義内容	まとめと討論		
	該当到達目標	予習	最終発表に関する指示を受けているため、内容を確認して予習すること。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	討論した内容について、各自で感じたことなどを指定様式に記入する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				17.5 時間
備考	精神保健福祉士国家試験受験資格の取得希望者は必修。プレゼンテーションに関しては、学生が自主的自立的に協働して役割を遂行することが求められる。 予習、復習時間は最低限必要な時間を表示するが、期間中は指示されたことや学習したことを確認整理するなどの自習で補完が必要である。 履修登録、各指導教員のオフィスアワーや連絡方法は、初回授業時に直接案内される。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	ソーシャルワーク実習（精神）（専門展開科目）						科目ナンバリング	SWP315		
英文名	Field Study in Social Work（in Mental Health）						講義形態	実習		
担当教員	池田 朋広、白鳥 浩文、上原 徹									
科目に関連した実務経験	【池田】精神保健福祉士として大学病院等で20年以上の実務経験があり、現在は非常勤として保護観察所や薬物依存症回復支援施設で実践を行っている 【白鳥】2001.4月～精神科病院勤務、2020.4月～就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所勤務 【上原】精神科医として大学病院等で勤務経験30年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている									
学年・開講期	4年 前期	選必・単位数	社会福祉コース選択 4単位							
履修を必須とする資格	精神保健福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGsとの関連	3101617									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	学生は、精神科病院等の病院での実習において、患者への個別支援を経験するとともに次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。ソーシャルワークに係る専門的知識と技術の理解に基づき精神保健福祉現場での試行と省察の反復により実践的な技術等を体得する。精神疾患や精神障害、メンタルヘルスの課題をもつ人びとのおかれている現状に関する知識をもとに、その生活実態や生活上の課題についてソーシャルワーク実習を行う実習先において調査し具体的に把握する。 実習指導者からのスーパービジョンを受け、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。以上をもって、クライアントの社会的復権、権利擁護を行う実践者として「職場実習」「職種実習」「精神保健福祉ソーシャルワーク実習」という各過程で研鑽を積む。									
到達目標	1. 受診・入院・退院援助、地域定着移行支援の実際を理解できる（職場実習）■ 2. デイケアやグループワーク業務、生活支援が実践できる（職種実習）■ 3. 就労、在宅、教育その他社会生活上の助言や援助ができる（職種実習）■ 4. 経済的問題、家族問題の調整をはかることができる（ソーシャルワーク実習）■ 5. 地域連携活動の業務を担うことができる（ソーシャルワーク実習）■ 6. クライアントのリハビリを支援し、社会参加の機会を創出する（ソーシャルワーク実習）■									
使用教材	全員に配布する「実習の手引き」、「実習ノート」、中央法規による「精神保健福祉援助実習指導・実習」を参考書として用いる（精神保健福祉士養成講座 9）									
参考文献										
評価方法	実習先からの評価票、連絡報告、実習指導教員による評価、実習報告会での報告レジュメ、集大成として作成される「実習報告書」の内容をもとに総合的に行う。									

課題・評価に対する フィードバック方法	実習後に提出が課される「実習ノート」は、実習指導教員による最終チェックにコメントを付して返却される。「実習報告書」は冊子印刷の後、実習生全員に配布される。		
オフィスアワー (研究室)	各自に指導担当教員が割り振られ、 実習巡回指導や帰校日指導を行う。	メールアドレス (#→@)	授業で提示する
講義内容	基本的な実習時間数は210時間(目安27日間)だが、すでにソーシャルワーク実習Ⅰ及びⅡを修了した者は60時間免除され150時間(目安20日間)となる。精神科医療機関での実習、障害福祉サービス事業所等での実習の二本立てとなる。実習は、規定の要件を満たした実習指定施設(医療機関、障害福祉サービス事業所等)における配属実習で、規定の要件を満たした実習指導職員の下で行う。実習は、基本的に事前学習で作成した「実習計画書」等に沿って展開する。規定の要件を満たした実習指導担当教員は、実習期間中、巡回指導や帰校日等を通して連絡調整、実習中の個別指導を十分に行う。■ ①学生は、精神科病院等の病院での実習において、患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。 ア 受診前や入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助 イ 退院又は地域移行・地域定着支援に向けた、患者及びその家族への相談援助 ウ 入院患者と外来患者及びそれらの家族への多職種連携による支援 エ 病院外の関係機関・団体及び地域住民との連携を通じたソーシャルワーク ②学生は、精神科診療所での実習において患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。 ア 受診前や治療中の患者及びその家族への相談援助 イ 日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助 ウ 外来患者及びそれらの家族への多職種連携による支援 エ 地域の精神科病院や関係機関・団体及び地域住民との連携を通じたソーシャルワーク		
	③学生は、障害福祉サービス事業所や行政機関等、及び精神科病院等の医療機関の実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受けるものとする。 ア 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体・住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 イ 利用者理解と相談支援ニーズの把握及び相談支援計画の作成 ウ 利用者やその関係者(家族・友人・近隣住民等)との相談支援関係の形成 エ 利用者やその関係者(家族・友人・近隣住民等)への権利擁護及び相談支援(エンパワメントを含む。)とその評価 オ 精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする相談支援におけるチームアプローチへの参加 カ 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務の意味の考察と遵守 キ 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定の遵守と組織の一員としての役割と責任への自覚 ク 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の観察 ケ 当該実習先が地域社会で果たす役割の考察と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発場面の観察		

	コ 実習先施設・機関や所屬地域における精神保健福祉向上のための課題発見と政策提言に関する考察 サ 実習体験及び学習成果の考察と記述、プレゼンテーション実習総括と精神保健福祉士としての学習課題の明確化、及び研鑽計画の立案 ④ 学生は、実習体験と考察を記録し、実習指導者によるスーパービジョンと、ソーシャルワーク実習指導担当教員による巡回指導及び帰校日指導等を通して、実習事項について個別指導や集団指導を受ける。 ⑤ 実習指導担当教員より巡回指導等を通して実習指導者との連絡調整を密に行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を行う。		
	予習	既習科目で学んだ内容、事前学習の見直し、実習先の確認を得ながら立案した「実習計画書」の確認等。毎回指示される	8 時間
	復習	実習終了後、提出が義務付けられている所定書式、「実習後の自己評価」等の記入による振り返り、反省等。毎回指示される	8 時間
	合計時間(予習・復習)		16 時間
備考	実習は各機関によるプログラムに従って進み、各日の修了時刻前には振り返りの指導がある。 実習は夏季休業中に行われるので、研究室来室などの相談は事前にメールなどで連絡を取ること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。		

科目名	介護の基本 I (専門展開科目)						科目ナンバリング	SWK301		
英文名	Foundations of Care I						講義形態	講義		
担当教員	富田 俊									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	介護福祉コース必修 2 単位							
履修を必須とする資格	「介護福祉士」									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	3 10 11 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○					○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	授業中にリアクションペーパーに対する振り返りや質疑応答の時間を設ける。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	介護を取り巻く状況を歴史的、制度的な背景を理解して現在求められる介護像を理解する。そのために社会福祉士介護福祉士法、倫理綱領の内容だけではなく、支援を必要とする人の権利擁護を直接支援する専門職としての役割を学ぶ。授業の理解度を確認するため、授業後にリアクションペーパーを提出する。									
到達目標	1. 生活の概念を理解した上で、介護を取り巻く課題を説明できる。 2. 様々な日常生活場面における介護実践を、根拠に基づき説明する重要性を説明できる。 3. 自立支援の在り方と安全で安心できる支援の重要性を説明できる。									
使用教材	介護福祉士養成講座編集委員会編集『介護の基本 I』 第 2 版 中央法規出版 この他に必要な資料は授業時に都度配布あるいは指示をする									
参考文献	特になし									
評価方法	課題(リアクションペーパー)30%, 期末筆記試験 70%									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題は講義で解説し、学習目標の到達度を確認する。 期末試験後は、出題の主旨及び、配点基準等を説明し、個別に対応する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜 2 時限 (504 研究室)				メールアドレス (#→@)	tomita-s#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス, 第 1 章 第 1 節 介護福祉を取り巻く状況 教材p2-20								
	該当到達目標	予習	教科書「介護福祉を取り巻く状況」を確認する						1.5 時間	
	1	復習	介護ニーズの複雑化や多様性など介護福祉を取り巻く状況について理解する						1.5 時間	
2	講義内容	第 1 章 第 2 節 介護福祉の歴史 教材p21-52								
	該当到達目標	予習	教科書「介護福祉の歴史」を確認する						1.5 時間	
	1	復習	老人福祉法が成立した社会背景を理解する						1.5 時間	
3	講義内容	第 1 章 第 2 節 介護福祉の歴史 教材p21-52								
	該当到達目標	予習	教科書「介護福祉の歴史」を確認する						1.5 時間	
	1,2	復習	介護保険によって規定される介護の範囲を理解する						1.5 時間	
4	講義内容	第 1 章 第 3 節 <u>介護福祉の基本理念</u> 教材p53-67								

	該当到達目標	予習	教科書「介護福祉士の基本理念」を確認する	1.5 時間
	2,3	復習	介護福祉の基本となる理念を理解する	1.5 時間
5	講義内容	第2章 第1節 社会福祉及び介護福祉法 教材p68-76		
	該当到達目標	予習	教科書「社会福祉士及び介護福祉士法」を確認する	1.5 時間
	2,3	復習	社会福祉及び介護福祉法の概要を理解する	1.5 時間
6	講義内容	第2章 第2節 <u>介護福祉の活動の場と役割</u> 教材p77-93		
	該当到達目標	予習	教科書「介護福祉の活動の場と役割」を確認する	1.5 時間
	2,3	復習	それぞれの場における介護福祉士の役割と機能を理解する	1.5 時間
7	講義内容	第2章 第3節 <u>介護福祉士に求められる役割とその養成</u> 教材p94-106		
	該当到達目標	予習	教科書「介護福祉士に求められる役割とその養成」を確認する	1.5 時間
	2,3	復習	介護ニーズの変化と介護福祉士に求められる役割を理解する	1.5 時間
8	講義内容	第2章 第4節 介護福祉士を支える団体 教材p107-117		
	該当到達目標	予習	教科書「介護福祉士を支える団体」を確認する	1.5 時間
	2,3	復習	介護福祉士を支える職能団体や養成施設協会のはたらきを理解する	1.5 時間
9	講義内容	第3章 第1節 <u>介護福祉士の倫理</u> 教材p118-135		
	該当到達目標	予習	教科書「介護福祉士会の倫理」を確認する	1.5 時間
	2,3	復習	介護にたずさわる人がもつべき職業倫理を学ぶ	1.5 時間
10	講義内容	第3章 第2節 <u>日本介護福祉会の倫理綱領</u> 教材p136-151		
	該当到達目標	予習	教科書「日本介護福祉会の倫理綱領」を確認する	1.5 時間
	2,3	復習	日本介護福祉会の倫理綱領と行動規範を例に、介護福祉の専門性と倫理を理解する	1.5 時間
11	講義内容	第4章 第1節 <u>介護福祉における自立支援</u> 教材p151-171		
	該当到達目標	予習	教科書「介護福祉における自立支援」を確認する	1.5 時間
	2,3	復習	自立支援の具体的な考え方を理解する	1.5 時間
12	講義内容	第4章 第2章 <u>ICFの考え方</u> 教材p172-179		
	該当到達目標	予習	教科書「ICFの考え方」を確認する	1.5 時間
	2,3	復習	ICFにおける生活機能と各因子との相互作用について理解する	1.5 時間
13	講義内容	第4章 第3節 <u>自立支援とリハビリテーション</u> 教材p180-197		
	該当到達目標	予習	教科書「自立支援とリハビリテーション」について確認する	1.5 時間
	2,3	復習	自立支援とリハビリテーションの基本的な考え方について理解する	1.5 時間
14	講義内容	第4章 第4節 <u>自立支援と介護予防</u> 教材p198-216		
	該当到達目標	予習	教科書「自立支援と介護予防」について確認する	1.5 時間
	2,3	復習	自立支援と介護予防の基本的な考え方を理解する	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	教科書全体から不明な点を確認し、質問を検討する	1.5 時間
	1,2,3	復習	介護福祉士に求められる役割と機能を理解し専門職の態度を復習する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	下線部は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である			

科目名	介護の基本Ⅱ（専門展開科目）						科目ナンバリング	SWK302		
英文名	Foundations of Care Ⅱ						講義形態	講義		
担当教員	富田 俊									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	介護福祉コース必修 2 単位							
履修が必須となる資格	「介護福祉士」指定科目									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	3 10 11 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○				○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	授業中にリアクションペーパーに対する振り返りや質疑応答の時間を設ける。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	自立支援を実践するために必要な理念と課題への対応方法について理解する。具体的には、をサービスの特徴、リスク管理、多職種連携、支援者支援の実際を学ぶ。授業の理解度を確認するため、授業後に毎回リアクションペーパーを提出する。									
到達目標	1. 自立支援のために必要なサービスのしくみと概要を説明できる 2. 介護の実践にともなうリスクの概要を説明できる 3. 多職種連携の必要性和実際の支援状況について説明することができる 4. 支援者支援に必要な環境整備の必要性を説明することができる									
使用教材	介護福祉士養成講座編集委員会編集『介護の基本Ⅱ』第2版 中央法規 この他に必要な資料は授業時に都度配布あるいは指示をする									
参考文献	特になし									
評価方法	課題(リアクションペーパー)30%, 期末筆記試験 70%									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題は講義で解説し、学習目標の到達度を確認する。 期末試験後は、出題の主旨及び、配点基準等を説明し、個別に対応する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜 2 時限 (514 研究室)				メールアドレス (#→@)	tomita-s#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	「私たちの生活の理解」								
	該当到達目標	予習	教科書「私たちの生活の理解」を確認する						1.5	時間
	1	復習	生活の構成要素、特性を理解する						1.5	時間
2	講義内容	「介護福祉を必要とする人たちの暮らし」								
	該当到達目標	予習	教科書「介護福祉を必要とする人たちの暮らし」を確認する						1.5	時間
	1,4	復習	介護福祉を必要とする人たちの多様性を理解する						1.5	時間
3	講義内容	「“その人らしさ”と“生活ニーズ”の理解」、「生活のしづらさの理解とその支援」								
	該当到達目標	予習	教科書「“その人らしさ”と“生活ニーズ”の理解」、「生活のしづらさの理解とその						1.5	時間

			支援」を確認する	
	1,2,4	復習	その人らしさ、生活のニーズにおける多様性を理解する。生活のしづらさ、家族介護者の支援について理解する	1.5 時間
	講義内容	「利用者の生活を支えるしくみ」、「生活を支えるフォーマルサービスとは」		
4	該当到達目標	予習	教科書「利用者の生活を支えるしくみ」、「生活を支えるフォーマルサービスとは」を確認する	1.5 時間
	1,2,4	復習	地域共生社会、地域包括ケアシステム、フォーマルサービスを理解する	1.5 時間
	講義内容	「生活を支えるインフォーマルサービスとは」、「地域連携」		
5	該当到達目標	予習	教科書「生活を支えるインフォーマルサービスとは」、「地域連携」を確認する	1.5 時間
	1,2,4	復習	インフォーマルサービス、地域連携の意義と目的を理解する	1.5 時間
	講義内容	「介護における安全の確保」、「リスクマネジメントとは何か」		
6	該当到達目標	予習	教科書「介護における安全の確保」、「リスクマネジメントとは何か」を確認する	1.5 時間
	1,4	復習	セーフティーマネジメント、リスクマネジメントの重要性を理解する	1.5 時間
	講義内容	「感染症対策」		
7	該当到達目標	予習	教科書「感染症対策」を確認する	1.5 時間
	1,4	復習	感染、感染症対策に必要な知識を理解する	1.5 時間
	講義内容	「多職種連携・協働の必要性」		
8	該当到達目標	予習	教科書「多職種連携・協働の必要性」を確認する	1.5 時間
	2,3,4	復習	多職種連携・協働の必要性を理解する	1.5 時間
	講義内容	「多職種連携・協働に求められる基本的な能力」		
9	該当到達目標	予習	教科書「多職種連携・協働に求められる基本的な能力」を確認する	1.5 時間
	2,3,4	復習	課題解決に対する多職種の視点と受容が必要であることを理解する	1.5 時間
	講義内容	「保健・医療・福祉職の役割と機能」		
10	該当到達目標	予習	教科書「保健・医療・福祉職の役割と機能」を確認する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	協働する多職種の専門性と役割、機能を理解する	1.5 時間
	講義内容	「多職種連携・協働の実際」		
11	該当到達目標	予習	教科書「多職種連携・協働の実際」を確認する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	専門職連携実践の内容と実践タイプを理解する	1.5 時間
	講義内容	「健康管理の意義と目的」		
12	該当到達目標	予習	教科書「健康管理の意義と目的」を確認する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	働く人の健康や生活を守る法制度について理解する	1.5 時間
	講義内容	「こころの健康管理」		
13	該当到達目標	予習	教科書「こころの健康管理」を確認する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ストレスとこころの健康との関係・こころの病気について理解する	1.5 時間
	講義内容	「身体の健康管理」、「労働環境の整備」		
14	該当到達目標	予習	教科書「身体の健康管理」、「労働環境の整備」を確認する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	介護従事者の身体・健康障害の要因を理解する	1.5 時間
	講義内容	まとめ		
15	該当到達目標	予習	教科書、レジュメ及び資料から、これまでの講義内容や不明瞭な箇所を確認する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	教科書、レジュメ及び資料から、これまでの講義内容を習得する。	1.5 時間

合計時間(予習・復習)		45 時間
備考	<u>下線部</u> は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である	

科目名		介護の基本Ⅲ(専門展開科目)					科目ナンバリング	SWK303			
英文名		Foundations of Care Ⅲ					講義形態	講義			
担当教員		内田 幸子									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	介護福祉コース必修2単位							
履修を必須とする資格		「介護福祉士」									
学位授与方針との対応		1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
		1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
		1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連		③⑪⑫									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○								○
「その他」のアクティブラーニング実施方法		授業中に過去の国家試験問題を解き、質疑応答の時間を設ける									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		介護を要する人たちが、その人らしく生活していくことができるよう、潜在能力を引き出し、自立を目指すような生活支援の考え方を理解し、基礎的な知識の習得をめざす。 介護福祉士として利用者の生活支援をしていくうえで必要となる、家事支援(衣生活、住生活)を行うための知識を習得する。 家政学の観点から衣生活の支援、住生活の支援について基本指定教科書の内容に沿って、基本的な知識を学ぶ。 授業の進め方は、到達目標を達成できるよう、板書により詳しく解説、必要に応じてプリント配布、パワーポイントによる講義を進める。また、国家試験の過去問トレーニングを行い、理解度を確認し、解説して知識の定着を図る。									
到達目標		1. 自立に向けた介護の意義と方法について理解できる。 2. 介護を必要とする人を理解し、介護を必要とする人の生活を支えるしくみを理解できる。 3. 家事を自立的に行うことを支援するための基礎的な知識・技術を理解できる。									
使用教材		適宜プリントを配布する 教科書「介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ」介護福祉士養成講座編集委員会(中央法規) ISBN978-4-8058-8395-2									
参考文献		参考図書「福祉のための家政学」中川英子著(建帛社)ISBN978-4-7679-3364-1									
評価方法		定期試験 80%、授業貢献度 20%で評価する 総合評価 60%以上を合格とする									
課題・評価に対するフィードバック方法		定期試験後に掲示で正解を示す									
オフィスアワー(研究室)		月曜日 3 限 水曜日 3 限 505 研究室				メールアドレス(#→@)		uchida#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス 家事援助のための知識									
	該当到達目標 1	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する							1.5 時間	
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。							1.5 時間	
2	講義内容	衣生活の基本知識									
	該当到達目標 1,2	予習	教科書該当ページに目を通す							1.5 時間	
		復習	衣生活の意義(衣生活とは、装うことの意味)について理解する							1.5 時間	

3	講義内容	被服素材の種類と特徴		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す	1.5 時間
	1,2	復習	被服素材の種類と特徴について理解する	1.5 時間
4	講義内容	被服の洗濯		
	該当到達目標	予習	教科書該当ページに目を通す	1.5 時間
	1,2	復習	被服の洗濯について理解する	1.5 時間
5	講義内容	高齢者に適した衣服の選択		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す	1.5 時間
	1,2	復習	高齢者に適した衣服の選択について理解する	1.5 時間
6	講義内容	障害者に適した衣服の選択		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す	1.5 時間
	1,2	復習	障害者に適した衣服の選択について理解する	1.5 時間
7	講義内容	着やすく心地よい被服・ユニバーサルデザインと衣服		
	該当到達目標	予習	教科書該当ページに目を通す	1.5 時間
	1,2	復習	着やすく心地よい被服・ユニバーサルデザインと衣服について理解する	1.5 時間
8	講義内容	居住環境の整備の意義と目的		
	該当到達目標	予習	教科書該当ページに目を通す	1.5 時間
	1, 3	復習	居住環境の整備の意義と目的について理解する	1.5 時間
9	講義内容	快適な居住環境		
	該当到達目標	予習	。配布プリントに目を通す	1.5 時間
	1, 3	復習	快適な居住環境について理解する	1.5 時間
10	講義内容	生活空間と介護		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す	1.5 時間
	1, 3	復習	生活空間と介護について理解する	1.5 時間
11	講義内容	居住環境とアセスメント		
	該当到達目標	予習	教科書該当ページに目を通す	1.5 時間
	1,3	復習	居住環境とアセスメントについて理解する	1.5 時間
12	講義内容	住宅改修の留意点と制度		
	該当到達目標	予習	教科書該当ページに目を通す	1.5 時間
	1,3	復習	住宅改修の留意点と制度について理解する	1.5 時間
13	講義内容	安心して快適な生活の場づくり		
	該当到達目標	予習	教科書該当ページに目を通す	1.5 時間
	1, 3	復習	安心して快適な生活の場づくりについて理解する	1.5 時間
14	講義内容	家庭経営、家計の管理の介護		
	該当到達目標	予習	教科書該当ページに目を通す	1.5 時間
	1,2,3	復習	家庭経営、家計の管理の介護について理解する	1.5 時間
15	講義内容	まとめ及び学習到達度の確認		
	該当到達目標	予習	教科書該当ページに目を通す	1.5 時間
	1,2,3	復習	衣生活、住生活・についての生活支援の知識を習得する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考				

科目名	介護の基本Ⅳ(専門展開科目)							科目ナンバリング	SWK304	
英文名	Foundations of Care Ⅳ							講義形態	講義	
担当教員	河野 敦子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	介護コース必修 2 単位							
履修を必須とする資格	介護福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
										○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	小テストに対して、授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	高齢者のくらしの実際(食生活と家庭経営、生活感、生活様式等)の多様性等を理解する。また、自分自身の生活を理解するための科学的な基礎知識や、高齢者・障害者の生活を理解するための科学的な基礎知識を習得することを目標とする。 授業は、必要事項を板書する。必要に応じて資料を配布。また、グループワークを行う。									
到達目標	1. 介護福祉士が食生活支援をする上で必要な知識について、その概要を説明できる。 2. 家庭生活の営みについて説明できる。 3. 食文化と食生活の変化について説明できる。 4. 主な栄養素の種類と消化・吸収について説明できる。 5. 食品の分類、食事バランスガイド、衛生、購入・保存について説明できる。 6. 調理の基本(調理法、調理器具、食器)および食品の調理性について説明できる。 7. 高齢者・障害者の身体変化および食生活と栄養について説明できる。									
使用教材	講義ごとに資料を配布する。 最新介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ 介護福祉士養成講座編集委員会編集(中央法規)									
参考文献										
評価方法	定期試験 70%、小テスト 30%									
課題・評価に対するフィードバック方法	試験までに小テストを 3 回行い、その解答および解説を実施し理解を深める。									
オフィスアワー (研究室)	授業の前後に質問は受け付けます。					メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	ガイダンス、家庭生活の理解								
	該当到達目標 1	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。							1 時間
		復習	家族の定義、日本の家庭生活の変化について理解する。							1 時間
2	講義内容	家庭を取り巻く経済活動(教科書ⅠP.251～254に目を通す)								
	該当到達目標 2	予習	家庭生活を営む上で必要な資源は何か、調べておく。							1 時間
		復習	高齢者や障害のある人の家庭生活の構成要素を理解する。							1 時間
3	講義内容	食生活の基本知識								
	該当到達目標 3	予習	食文化が作られる条件について、調べておく。							1 時間
		復習	食生活の意義、食文化や食生活の変化を確認し、介護者としての食の支援留意すべき点について理解する。							1 時間
4	講義内容	栄養素の消化と吸収								

4	該当到達目標	予習	5 大栄養素とは何か、調べておく。	1 時間
		復習	主な栄養素の種類と消化・吸収について理解する。	1 時間
5	講義内容	食品の分類、献立の立て方		
	該当到達目標	予習	高齢者の食事の注意点を調べておく(教科書 I P.227～231 に目を通す)	1 時間
		復習	食品成分表、6 つの基礎食品、食事バランスガイドについて理解する。 小テスト①に向けて復習をする。	2 時間
6	該当到達目標	予習	調理時の衛生管理について、注意点を調べておく(教科書 P.231、232 に目を通す)。	1 時間
		復習	食品の変質と食中毒について理解する。	1 時間
	講義内容	食品の購入と保存、小テスト①解説		
7	該当到達目標	予習	身近にある食品の表示について、理解を深めておく。	1 時間
		復習	食品の購入選択、食品の表示、保存について理解する。	1 時間
8	該当到達目標	予習	基本的な調理方法や味付けなどについて調べておく。	1 時間
		復習	調理の準備、調理操作、調理器具・設備について理解する。	1 時間
	講義内容	調理の基本		
9	該当到達目標	予習	各食品の調理方法の違いをまとめておく。	1 時間
		復習	食品ごとの調理における特性を理解する。 小テスト②に向けて復習をする。	2 時間
	講義内容	食品の調理性		
10	該当到達目標	予習	教科書Ⅱ第 1 節 P.74～78 に目を通す。	1 時間
		復習	加齢に伴う身体機能の変化と栄養について理解する。	1 時間
	講義内容	高齢者の身体機能と栄養、小テスト②		
11	該当到達目標	予習	教科書Ⅱ第 2 節 P.79～83 に目を通す。	1 時間
		復習	食品、調理形態による高齢者への配慮について理解する。	1 時間
	講義内容	高齢者の食事と調理、小テスト②解説		
12	該当到達目標	予習	教科書Ⅱ第 2 節 P.83～99 に目を通す。	1 時間
		復習	高齢者や障害のある人への食事における調理形態の配慮、食器の配慮について理解する。	1 時間
	講義内容	高齢者・障がい者の介護と食生活		
13	該当到達目標	予習	高齢期の身体的特徴を調べておく。	1 時間
		復習	高齢期になりやすい疾病と、その予防や対応について理解する。 小テスト③に向けて復習をする。	2 時間
	講義内容	高齢者の疾病と食事		
14	該当到達目標	予習	生活習慣病について調べておく。	1 時間
		復習	健康づくりの 3 要素と、生活習慣病予防のための食生活のポイントについて理解する。	1 時間
	講義内容	食生活と健康、小テスト③		
15	該当到達目標	予習	生活を支えるサービス(仕組み)の現状と課題、小テスト③解説	1 時間
		復習	教科書Ⅱ第 3 節 P.100～105 に目を通す。 食生活に関する施策や高齢者・障がい者を支援する社会的ネットワークについて理解する。	1 時間
	講義内容	生活を支えるサービス(仕組み)の現状と課題、小テスト③解説		
合計時間(予習・復習)				33 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位習得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 オンライン授業の場合、小テストをレポート課題(毎回)に変更する。			

科目名	介護の基本Ⅴ(専門展開科目)					科目ナンバリング	SWK305			
英文名	Foundations of Care Ⅴ					講義形態	講義			
担当教員	佐川 祥吾									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	介護福祉士コース必修 2 単位							
履修を必須とする資格	介護福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			5	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	34891117									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①介護現場におけるロボットの活用について、介護福祉士の立場から検討する場合、主たる目的として人材不足を補うためではなく、ケアの質を向上させる道具であることを前提に考えたい。そのためには機器を使用する介護福祉士が現在行われているケアの課題と改善策を把握し、実践できる能力が必要である。つまり、機器が自動的に介護の質を向上させるものではないことを念頭に置くことが重要である。 ②本講義では、介護ロボットと福祉用具機器全般に関することを取り扱う。まず前半に介護福祉士が目指すケアの質向上と介護ロボットおよび福祉機器の関係について国の施策や先行事例を学ぶ。後半では実践者による実際の運用方法と課題を学ぶ。									
到達目標	1. 福祉用具機器と介護ロボットの導入に関する国の施策を概説することができる 2. 人材不足への対応と介護の質向上と二つの課題に対応する意義を理解する 3. 非接触型睡眠センサーマットの活用方法と実践での効果と課題について理解する 4. コミュニケーションロボットの活用方法と実践での効果と課題について理解する									
使用教材	講義に必要な資料は随時プリントして配布する。 ※ 国や県、業者、先進事例の先行研究から抜粋した資料を用意する。 事前学習の方法など、詳細は初回ガイダンスで説明する。									
参考文献	授業内で随時紹介する。									
評価方法	期末試験 100%									
課題・評価に対するフィードバック方法	試験問題の意図について解説を試験終了後に行いフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	授業の前後で質問を受け付ける				メールアドレス (#→@)	初回授業時に提示する				
1	講義内容	オリエンテーション、国がめざす介護ロボットの活用、 <u>介護福祉士の役割と機能</u>								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義の目標や内容等を確認する。						1.5 時間	
	1,2.	復習	介護ロボットについてインターネット等で調べる						1.5 時間	
2	講義内容	介護用具の発達過程と用途の範囲								
	該当到達目標	予習	第 2 回講義の事前知識を予習する						1.5 時間	
	1,3,4	復習	人工知能(AI)に関わる書籍や映画等を調べて参照する						1.5 時間	
3	講義内容	ロボットと介護助手との効率面での比較検討								
	該当到達目標	予習	第 3 回講義の事前知識を予習する						1.5 時間	
	1,2,3	復習	身近な人に介護ロボットについて説明する						1.5 時間	
4	講義内容	ロボット具体例①夜間見守り <u>介護従事者の安全</u>								

令和6年度 社会福祉学科シラバス

	該当到達目標 1,2,3,4	予習	第 4 回講義の事前知識を予習する。	1.5 時間
		復習	身近な人に介護ロボットに関するニュース記事を説明する	1.5 時間
5	講義内容	ロボット具体例②移乗支援(装着型・非装着型)、排泄支援、協働する多職種の役割と機能		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	第 5 回講義の事前知識を予習する。	1.5 時間
		復習	日常生活において、どのようなロボットが配置されているかを考える	1.5 時間
6	講義内容	まとめ①介護ロボットと介護用具の発達過程と今後の展開 施設ケア		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	第 6 回講義の事前知識を予習する	1.5 時間
		復習	授業の感想をまとめる	1.5 時間
7	講義内容	まとめ②介護ロボットと介護用具の発達過程と今後の展開 在宅ケア		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	第 7 回講義の事前知識を予習する	1.5 時間
		復習	授業の感想をまとめる	1.5 時間
8	講義内容	眠り scan による実践事例①呼吸		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	第 8 回講義の事前知識を予習する	1.5 時間
		復習	演習でのまなびをまとめる	1.5 時間
9	講義内容	眠り scan による実践事例②脈拍		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	第 9 回講義の事前知識を予習する	1.5 時間
		復習	眠り scan の役割をまとめる。	1.5 時間
10	講義内容	眠り scan による実践事例③体動		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	第 10 回講義の事前知識を予習する	1.5 時間
		復習	眠り scan の効果と課題をまとめる。	1.5 時間
11	講義内容	コミュニケーションロボットによる実践事例①歌と踊り		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	第 11 回講義の事前知識を予習する	1.5 時間
		復習	コミュニケーションロボットの種類を調べてまとめる。	1.5 時間
12	講義内容	コミュニケーションロボットによる実践事例②会話		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	第 12 回講義の事前知識を予習する	1.5 時間
		復習	コミュニケーションロボットの活用範囲について検討する。	1.5 時間
13	講義内容	コミュニケーションロボットによる実践事例③活用する時間、タイミング		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	第 13 回講義の事前知識を予習する	1.5 時間
		復習	コミュニケーションロボットの効果と課題について、自分の意見をまとめる。	1.5 時間
14	講義内容	眠り scan、コミュニケーションロボットを活用した運用計画		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	最終課題の発表練習	1.5 時間
		復習	実践的な活用方法をまとめる。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ③介護ロボットを活用したケアのあり方		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	最終課題の反省を授業で説明できるようにする	1.5 時間
		復習	講義の総括	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考				

科目名	介護の基本Ⅵ(専門展開科目)							科目ナンバリング	SWK306	
英文名	Foundations of Care Ⅵ							講義形態	講義	
担当教員	原田 欣宏、片桐 幸司、堀口 美奈子、古郡 理重、山田あずみ									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	介護福祉コース必修 2 単位							
履修を必須とする資格	介護福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	351016									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	介護福祉士として生活支援を行う対象者の危機や障害への予測と対応が必要である。人権擁護、健康の維持向上、幸福感の追求は誰しもが得るべき権利であって、とりわけ支援を必要とする人には専門職としてこれらのことも支援を行う必要がある。本講義では施設や事業所のリスクマネジメントの実践を複合的に理解し、権利擁護、幸福追求権への支援の在り方について学ぶ。 授業は、教員が準備した資料等を使用し、講義等を行う。									
到達目標	1. 様々な生活部面にあるリスクの存在を理解することができる 2. アセスメントに基づき実際の解決につなげるまでのプロセスを理解することができる 3. 介護福祉士倫理綱領にもとづくリスクマネジメントの方法を理解することができる									
使用教材	授業時に資料を随時配布									
参考文献	適宜授業時に紹介する									
評価方法	期末試験 100%									
課題・評価に対するフィードバック方法	期末試験後に出題意図を説明する									
オフィスアワー (研究室)	原田:火曜 1 限 ほかの担当教員は授業時に提示する				メールアドレス (#→@)	harada#takasaki-u.ac.jp ほかの担当教員は授業時に提示する				
1	講義内容	オリエンテーション、介護における安全の確保とリスクマネジメント								
	該当到達目標	予習	「介護の基本Ⅰ」教科書にある該当箇所を読む							1.5 時間
	1,3	復習	リスクの可視化, ケアの質評価, 法制度での対応の範囲について整理する							1.5 時間
2	講義内容	リスク管理の方法、介護福祉士の役割と機能								
	該当到達目標	予習	介護実習で学んだアセスメントの方法を確認する							1.5 時間
	2,3	復習	マニュアルの意義と限界, ケアの質可視化, 予防と事故対応の違い, 評価の利用方法について整理する。							1.5 時間
3	講義内容	リスク管理の場面1ー転倒防止(情報収集・アセス)								
	該当到達目標	予習	身体機能の原因とケアの方法について、これまで学んだことを整理する。							1.5 時間
	1,3	復習	ADL 評価, 施設ケア(環境整備, 社会資源), 専門職によるケアについて整理する							1.5 時間
4	講義内容	リスク管理の場面1ー転倒防止(計画)								
	該当到達目標	予習	これまで他の科目で学んだ環境整備の計画と実践方法を整理する							1.5 時間
	2,3	復習	ケアの質, 家族等への説明責任, 社会的責務について整理する							1.5 時間
5	講義内容	リスク管理の場面2ー誤飲・誤嚥(情報収集・アセス)								

	該当到達目標 1,3	予習	嚥下機能と身体機能の低下によるリスクを生活支援技術の教科書などで確認する	1.5 時間
		復習	嚥下機能に合わせたケアの展開方法を整理する。	1.5 時間
6	該当到達目標 2,3	講義内容	リスク管理の場面2ー誤飲・誤嚥(計画)	
		予習	これまで学んだ嚥下機能に合わせたケアの展開方法を整理する。	1.5 時間
		復習	身体機能の低下に伴うリスクに応じたケアの展開方法について整理する。	1.5 時間
7	該当到達目標 1,3	講義内容	リスク管理の実践1 訪問介護(情報収集・アセス)	
		予習	独居高齢者や障害者の生活リスクをこれまで学んだ教科書などで確認する	1.5 時間
		復習	リスクを回避する介護福祉士の役割について整理する。	1.5 時間
8	該当到達目標 2,3	講義内容	リスク管理の実践1 訪問介護(計画)	
		予習	本人や家族が考えるニーズの範囲について確認する。	1.5 時間
		復習	訪問介護の特徴と生活の質を高めリスクを軽減する視点を整理する。	1.5 時間
9	該当到達目標 1,3	講義内容	リスク管理の実践2 小規模多機能型(情報収集・アセス)	
		予習	小規模多機能型居宅介護とほかのサービスを比較し特徴を理解する。	1.5 時間
		復習	生活歴を踏まえた生活支援の実践方法とサービス提供の体制を整理する。	1.5 時間
10	該当到達目標 2,3	講義内容	リスク管理の実践2 小規模多機能型(計画)	
		予習	小規模多機能型居宅介護の特徴や制度化された背景を整理する。	1.5 時間
		復習	三つの支援方法と地域福祉の連携による効果を整理する。	1.5 時間
11	該当到達目標 1,3	講義内容	運営上のリスク 1 施設ケア(業務改革とリスク管理)	
		予習	実習を通して学んだ施設の業務改善への取り組みを確認する。	1.5 時間
		復習	施設ケアの研修体系や継続的な学習の意義を整理する。	1.5 時間
12	該当到達目標 2,3	講義内容	運営上のリスク 1 施設ケア(ケアの質向上とリスクマネジメント)	
		予習	施設職員が受講できる研修について調べて整理する。	1.5 時間
		復習	施設職員の資質向上と意欲を高める取り組みの意義について整理する。	1.5 時間
13	該当到達目標 1,3	講義内容	事業運営上のリスク 2ー利用者から暴力を振るわれた場合	
		予習	利用者やその家族から職員に対するセクハラやパワハラへの法制度と取り組みについて調べる	1.5 時間
		復習	リスクを回避するための具体的な方法を整理する	1.5 時間
14	該当到達目標 2,3	講義内容	事業運営上のリスク 2ー災害の場合	
		予習	災害時の社会福祉法人として期待される役割について考える。	1.5 時間
		復習	避難先として受け入れることを想定した場合の効果と課題を整理する。	1.5 時間
15	該当到達目標 1,2,3	講義内容	まとめ	
		予習	これまで取り扱った事例をすべて確認する	1.5 時間
		復習	施設管理者から見たリスク管理の流れを整理する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考				

科目名	生活支援技術Ⅰ（専門展開科目）						科目ナンバリング	SWK307		
英文名	Practice Living support Technique in CareⅠ						講義形態	演習		
担当教員	堀口 美奈子									
科目に関連した実務経験	介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務（経験）									
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	介護福祉コース 必修 2単位							
履修を必須とする資格	介護福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGsとの関連	3 4 5 8 10 11									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①介護は、どのような状態の人であっても、その人の自立や自律を尊重しつつ潜在能力を引き出し、その人らしく生活できるよう支援する活動である。そこで本科目では、演習を通して介護を必要とする人の状況に合わせた介護技術について学び、根拠に基づいた介護を提供できる能力を身に付けることを目標とする。 ②授業では、授業回に関する講義の他、事例などを踏まえた演習を行う。演習では個人ワークの他、グループワークを行い、相互作用による学習の定着を図る。									
到達目標	1.利用者のニーズに応じた基礎的な介護技術を実践できる。■ 2.実践する介護技術について、その根拠を自分の言葉で説明できる。■ 3.利用者や介護者にとって、安全安楽に配慮した介護を実践できる。■ 4.利用者との信頼関係構築やチームケアに必要な対人関係能力が獲得できる。									
使用教材	生活支援技術Ⅰ 第2版・介護福祉士養成講座編集委員会・中央法規出版・2022年・2,200円税別 生活支援技術Ⅱ 第2版・介護福祉士養成講座編集委員会・中央法規出版・2022年・2,200円税別 教科書は、授業時演習テーマに沿った部分の学習に使用。その他、適宜レジュメを配布する。									
参考文献										
評価方法	授業ごとの取り組み（活動および授業内課題）40%、提出物の充実度（各レポート）60%									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出を求めるレポートは、適宜コメント等をつけて返却する。質問やフィードバック等は、随時、直接またはメール等にて受け付ける。									
オフィスアワー（研究室）	月曜・水曜 3限				メールアドレス（#→@）	連絡手段は初回授業時に提示する				
1	講義内容	オリエンテーション、生活支援の理解、自立に向けた居住環境の整備①								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで、講義の目標などを理解する					1.5	時間	
	1,2,3	復習	今後の授業内容を確認し、授業で取ったノートを読み返す					1.5	時間	
2	講義内容	休息・睡眠の介護および自立に向けた居住環境の整備②■								
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す					1	時間	
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入					2	時間	
3	講義内容	自立に向けた移動の介護①（人に触れるということ・体位変換）■								
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す					1	時間	
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入					2	時間	
4	講義内容	自立に向けた移動の介護②（体位変換）および自立に向けた居住環境の整備③■								

	該当到達目標 1,2,3,4	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1 時間
		復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2 時間
5	講義内容	自立に向けた移乗・移乗の介護③(起き上がり、立ち上がり、移乗) ■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1 時間
		復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2 時間
6	講義内容	自立に向けた移動の介護④(起き上がり、立ち上がり、移乗) ■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1 時間
		復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2 時間
7	講義内容	自立に向けた移動の介護⑤(移乗) ■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1 時間
		復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2 時間
8	講義内容	自立に向けた移動の介護⑥(移動) ■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1 時間
		復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2 時間
9	講義内容	自立に向けた移動の介護⑦(移動) ■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1 時間
		復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2 時間
10	講義内容	自立に向けた排泄の介護 ■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1 時間
		復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2 時間
11	講義内容	自立に向けた入浴・清潔保持の介護①(部分浴)および自立に向けた身じたくの介護②(整容) ■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1 時間
		復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2 時間
12	講義内容	自立に向けた入浴・清潔保持の介護②(入浴) ■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1 時間
		復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2 時間
13	講義内容	自立に向けた入浴・清潔保持の介護③(入浴) ■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	事前に配布するレジュメをよく読み、授業内容を把握する	1 時間
		復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2 時間
14	講義内容	介護技術総合演習① ■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	事前に配布するレジュメをよく読み、授業内容を把握する	1 時間
		復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2 時間
15	講義内容	介護技術総合演習②・まとめ ■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	前期に行った介護技術項目に関する教科書、配付物を読み返す	1 時間
		復習	検討内容について、各自で感じたことなどを指定様式に記入する	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	授業準備や後片付け、使用教室の掃除は、生活を支える介護を学ぶ授業の一環として、共同で実施する。事前準備の際は、演習時間を確保するため、日毎に担当を決めて行う。 予習・復習についての時間は参考程度であり、 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	生活支援技術Ⅱ（専門展開科目）					科目ナンバリング	SWK308			
英文名	Practice Living support Technique in Care Ⅱ					講義形態	演習			
担当教員	堀口 美奈子									
科目に関連した実務経験	介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務（経験）									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	介護福祉コース 必修 2 単位							
履修を必須とする資格	介護福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	3 4 5 8 10 11									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①介護は、どのような状態の人であっても、その人の自立や自律を尊重しつつ潜在能力を引き出し、その人らしく生活できるよう支援する活動である。そこで本科目では、演習を通して介護を必要とする人の状況に合わせた介護技術について学び、根拠に基づいた介護を提供できる能力を身に付けることを目標とする。 ②授業では、授業回に関する講義の他、事例などを踏まえた演習を行う。演習では個人ワークの他、グループワークを行い、相互作用による学習の定着を図る。									
到達目標	1.多様な生活場面に応じた介護技術を、基礎をふまえて適切に実践できる。■ 2.実践する介護技術について、その根拠を自分の言葉で説明できる。■ 3.利用者と介護者にとって、安全安楽に配慮した介護を実践できる。■ 4.利用者との信頼関係構築やチームケアに必要な対人関係能力を獲得する。									
使用教材	生活支援技術Ⅰ 第 2 版・介護福祉士養成講座編集委員会・中央法規出版・2022 年・2,200 円税別 生活支援技術Ⅱ 第 2 版・介護福祉士養成講座編集委員会・中央法規出版・2022 年・2,200 円税別 教科書は、授業時演習テーマに沿った部分の学習に使用。その他、適宜レジュメを配布する。									
参考文献										
評価方法	授業ごとの取り組み（活動および授業内課題）40%、提出物の充実度（各レポート）60%									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出を求めるレポートは、適宜コメント等をつけて返却する。質問やフィードバック等は、随時、直接またはメール等にて受け付ける。									
オフィスアワー （研究室）	月曜・水曜 3 限				メールアドレス （#→@）	連絡手段は初回授業時に提示する				
1	講義内容	オリエンテーション、前期内容振り返り								
	該当到達目標	予習	シラバス内容、前期内容の確認						1.5 時間	
	1,2,3	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクション						1.5 時間	
2	講義内容	自立に向けた食事の介護および自立に向けた家事の介護■								
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す						1 時間	
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入						2 時間	
3	講義内容	自立に向けた身じたくの介護（口腔ケア、感染症予防）■								
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す						1 時間	
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入						2 時間	

4	講義内容	自立に向けた身じたく介護の実践的展開■		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1 時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2 時間
5	講義内容	自立に向けた移動介護の実践的展開■		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1 時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2 時間
6	講義内容	自立に向けた食事介護の実践的展開■		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1 時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2 時間
7	講義内容	自立に向けた移乗介護の実践的展開■		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1 時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2 時間
8	講義内容	自立に向けた排泄介護の実践的展開■		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1 時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2 時間
9	講義内容	自立に向けた睡眠の介護の実践的展開■		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1 時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2 時間
10	講義内容	終末期の介護①(段階に応じたケアの方法)■		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1 時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2 時間
11	講義内容	終末期の介護②(ケアの方法と考え方)■		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1 時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2 時間
12	講義内容	基礎介護技術総合演習		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1 時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2 時間
13	講義内容	自立に向けた住環境整備と介護技術総合演習①(事例その1)■		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1 時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2 時間
14	講義内容	自立に向けた住環境整備と介護技術総合演習②(事例その2)■		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する教科書の内容に目を通す	1 時間
	1,2,3,4	復習	レジュメ、教科書、実施した演習内容の確認とリフレクションシートの記入	2 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	後期に行った介護技術項目に関する教科書、配付物を読み返す	1 時間
	1,2,3,4	復習	検討内容について、各自で感じたことなどを指定様式に記入する	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	授業準備や後片付け、使用教室の掃除は、生活を支える介護を学ぶ授業の一環として、共同で実施する。事前準備の際は、演習時間を確保するため、日毎に担当を決めて行う。 予習・復習についての時間は参考程度であり、最終的に単位取得に必要な時間との差異は、 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	生活支援技術Ⅲ(専門展開科目)							科目ナンバリング	SWK309	
英文名	Practice Living support Technique in Care Ⅲ							講義形態	演習	
担当教員	内田 幸子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数	介護福祉コース必修 2 単位						
履修を必須とする資格	「介護福祉士」指定科目									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	31112									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○		○	○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	介護を要する人たちがその人らしく生活していくことができるよう、潜在能力を引き出し、自立を目指せるような生活支援の考え方を理解し、家政学の観点から家事支援(衣生活、住生活)を行うための知識と技術を、実習・演習を通して身につける。授業の進め方、到達目標を達成できるようグループワークによる演習のほか、現場における実践力を身につけられるよう衣生活実習、住生活実習を行う。演習・実習内容に沿ったレポートを課す。									
到達目標	1.介護を要する人たちの自立に向けた身じたくの介護に必要な知識と技術を習得できる。 2.介護を要する人たちの自立に向けた居住環境の整備に必要な知識と技術を習得できる。 3.自立に向けた家事の介護に必要な知識と技術を習得できる。									
使用教材	適宜プリントを配布する 教科書「介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ」介護福祉士養成講座編集委員会(中央法規) ISBN978-4-8058-8395-2									
参考文献	参考図書「福祉のための家政学実習」中川英子著(建帛社)ISBN978-4-7679-3605-5									
評価方法	授業実践 30%、製作品 20%、レポート 50%により評価する 総合評価 60%以上を合格とする									
課題・評価に対するフィードバック方法	製作品、レポートは評価して返却する									
オフィスアワー(研究室)	月曜日 3 限 水曜日 3 限 505 研究室				メールアドレス (#→@)	uhida#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス 家事支援の意義と目的 自立に向けた家事の介護								
	該当到達目標 1	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する							1 時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する							1.5 時間
2	講義内容	家庭経営・家計の管理の介護								
	該当到達目標 1,2,3	予習	配布プリントに目を通す							1 時間
		復習	家計管理に関する演習課題についてグループワークして発表する							1.5 時間
3	講義内容	衣服の手入れと管理①(洗濯実習)								

	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す	1 時間
	1,2	復習	衣服の基本的な洗濯方法を身につけ、レポートを作成する	1.5 時間
4	講義内容	衣服の手入れと管理②(しみぬき、アイロンがけ)		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す	1 時間
	1,2	復習	衣服のしみぬき、アイロンがけの技術を身につけ、レポートを作成する	1.5 時間
5	講義内容	縫製の基礎①手縫いの方法、ボタンつけ、スナップつけ		
	該当到達目標	予習	教科書該当ページを読む	1 時間
	1,2	復習	手縫いの方法、ボタンつけ、スナップつけの技術を身につける	1.5 時間
6	講義内容	縫製の基礎②ミシン縫い、三つ折り縫い、マジックテープつけ、ゴムとおし		
	該当到達目標	予習	教科書該当ページを読む	1 時間
	1,2	復習	ミシン縫い、三つ折り縫い、マジックテープつけ、ゴムとおしの技術を身につける	1.5 時間
7	講義内容	高齢者のための衣服(寝具、寝巻き、紙おむつ)		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す	1 時間
	1,2	復習	高齢者のための衣服について理解し、レポートを作成する	1.5 時間
8	講義内容	障害者のための衣服(衣服の工夫事例)		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す	1 時間
	1,2	復習	障害者のための衣服について理解し、レポートを作成する	1.5 時間
9	講義内容	快適な室内環境(温熱環境、照明、騒音、換気)		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す	1 時間
	1,3	復習	快適な室内環境(温熱環境、照明、騒音、換気)について理解する	1.5 時間
10	講義内容	住まいの維持と管理(室内の整理整頓・掃除・衛生管理)		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す	1 時間
	1,3	復習	住まいの維持と管理について理解し、レポートを作成する	1.5 時間
11	講義内容	高齢者の住環境整備の手順とコーディネート(グループワークによる事例検討)		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す	1 時間
	1,3	復習	高齢者の住環境整備の手順の進め方を理解する	1.5 時間
12	講義内容	住宅改修(グループワークによる事例検討)		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す	1 時間
	1,3	復習	住宅改修の事例検討を通して症例別住環境整備を理解し、レポートを作成する	1.5 時間
13	講義内容	防犯と防災(一人暮らしの危険、地震と火災時の対処)		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す	1 時間
	1,3	復習	防犯と防災(一人暮らしの危険、地震と火災時の対処)について理解する	1.5 時間
14	講義内容	福祉住環境マップの作成(グループワークによるマップ作成)		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す	1 時間
	1,3	復習	福祉住環境マップの作成を通してバリアフリーの街づくりを考える	1.5 時間
15	講義内容	家庭経営、家計の管理の介護		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す	1 時間
	1,2,3	復習	家庭経営、家計の管理の介護について理解する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				22.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			

科目名	生活支援技術Ⅳ(専門展開科目)						科目ナンバリング	SKW310		
英文名	Practice Living support Technique in Care Ⅳ						講義形態	演習		
担当教員	河野 敦子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	介護福祉コース必修 2 単位							
履修を必須とする資格	介護福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①介護福祉士として高齢者の自立に向けた食の支援をする上で必要な調理の基礎について、実習を通して習得することを目指す。また、高齢者・障害者のための献立作成を行い、その内容を実習することで、実践力を養うことを目標としている。 ②始めに、調理ポイントのデモンストレーションを行った上で、授業を展開する。									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
						○				○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	最終実習では、班ごとに献立を考え実習を行う 毎回課題に対してコメントを付し返却、実習中に振り返りを行い実習に活かす									
到達目標	1. 衛生に留意し、安全に調理ができる。 2. 日常の基本的な調理ができる。 3. 日常の基本的な献立をたてることができる。									
使用教材	授業でレジュメを配布する。									
参考文献										
評価方法	筆記試験 30%、実技試験 20%、レポート 30%、実習への積極性 20%									
課題・評価に対する フィードバック方法	レポートは毎回コメントをつけて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	授業の前後で質問を受けます。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	オリエンテーション(授業の進め方、実習室の使い方、計量、包丁の扱い方、レポートの書き方) 自立に向けた食事の介護								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで授業目標などを理解しておく。					1 時間		
	1	復習	授業内容のレポートを作成し、提出する。					1 時間		
2	講義内容	基本の調理(和風 1): ご飯、豚肉の生姜焼き、ポテトサラダ、みそ汁								
	該当到達目標	予習	ご飯の炊き方とだし汁の取り方について調べておく。					1 時間		
	1,2	復習	実施内容のレポートを作成し、提出する。					1 時間		
3	講義内容	基本の調理(和風 2): ひじきごはん、ほうれん草のごま和え、沢煮椀、さつま芋の茶巾								
	該当到達目標	予習	味つけご飯の作り方、野菜の茹で方、和え物の作り方について調べておく。					1 時間		
	1,2	復習	実施内容のレポートを作成し提出する。					1 時間		
4	講義内容	基本の調理(和風 3): さつま芋ご飯、筑前煮、酢の物、すまし汁								
	該当到達目標	予習	煮物の作り方、合わせ酢について調べておく。					1 時間		
	1,2	復習	実施内容のレポートを作成し提出する。					1 時間		
5	講義内容	基本の調理(洋風 1): サフランライスとインディアンカレー、サラダ								

	該当到達目標	予習	ソース(ルー)の調理について調べておく。	1 時間
	1,2	復習	実施内容のレポートを作成し提出する。	1 時間
6	講義内容	基本の調理(中華1):中華ちまき、トマトの卵炒め、ワンタンスープ、杏仁豆腐		
	該当到達目標	予習	もち米の扱い方について確認しておく。蒸し料理について調べておく。	1 時間
	1,2	復習	実施内容のレポートを作成し提出する。	1 時間
7	講義内容	基本の調理(和風4):ちらし寿司、青菜のお浸し、豚汁		
	該当到達目標	予習	すし飯の作り方について調べておく。	1 時間
	1,2	復習	実施内容のレポートを作成し提出する。	1 時間
8	講義内容	軟菜食:全がゆ、かぶら蒸し、白和え、かきたま汁、いももち		
	該当到達目標	予習	かゆの炊き方と種類について、軟菜食について調べておく。	1 時間
	1,2	復習	実施内容のレポートを作成し提出する。	1 時間
9	講義内容	介護食(アラカルト):フレンチトースト、卵とじうどん、マッシュポテト、ブラマンジェ		
	該当到達目標	予習	咀嚼、嚥下機能の低下に伴う食事作りについて調べておく。	1 時間
	1,2	復習	実施内容のレポートを作成し提出する。	1 時間
10	講義内容	郷土食(麺):おっきりこみ(手打ち麺)、茶わん蒸し、白玉団子		
	該当到達目標	予習	小麦粉の種類と用途について確認しておく。	1 時間
	1,2	復習	実施内容のレポートを作成し提出する。	1 時間
11	講義内容	行事食1:グラタン、サラダ、チョコマフィン		
	該当到達目標	予習	クリスマス料理の意味について調べておく。	1 時間
	1,2	復習	実施内容のレポートを作成し提出する。	1 時間
12	講義内容	行事食2:松風焼き、栗きんとん、紅白なます、雑煮		
	該当到達目標	予習	おせち料理の意味について調べておく。	1 時間
	1,2	復習	実施内容のレポートを作成し提出する。	1 時間
13	講義内容	高齢者のための献立の作成		
	該当到達目標	予習	高齢者の嗜好に合う献立について調べておく。	1 時間
	1,3	復習	実施内容のレポートを作成し提出する。	1 時間
14	講義内容	自主献立の実習、実技テスト		
	該当到達目標	予習	自主献立の手順を確認しておく。 実技テストに向けて、包丁の練習をしておく。	1 時間
	1,2,3	復習	献立1食分を完成させ提出する。	1 時間
15	講義内容	まとめ、試験、自立に向けた食事の介護		
	該当到達目標	予習	実施献立についてまとめておく。	1 時間
	1,2,3	復習	全レポートを作成し提出する。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			

科目名		生活支援技術Ⅴ（専門展開科目）						科目ナンバリング	SWK311		
英文名		Practice Living support Technique in Care Ⅴ						講義形態	演習		
担当教員		松沼 記代									
科目に関連した実務経験		社会福祉士及び福祉レクリエーションワーカーとして、デイサービスセンターで3年6か月経験 社会福祉士及び福祉レクリエーションワーカーとして、グループホームで1年間経験 社会福祉士及び福祉レクリエーションワーカーとして、大学在職中に介護予防教室の運営8年間経験									
学年・開講期		3年 前期		選必・単位数		介護福祉コース必修 2単位					
履修を必須とする資格		介護福祉士									
学位授与方針との対応		1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
		1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
		1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連		③									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○	○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		介護の実践場面で尊厳を支えるケアを具現化するために、利用者の生活の楽しみや生きがいを支えるレクリエーションサービスの方法について学修する。また、対象者別の支援方法について理解する。 授業は、学生が介護現場で利用者の自立・生きがい支援を行う上で必要な理論や方法、技術を獲得できるように、テーマに応じて講義・演習を行う。									
到達目標		1. 社会福祉及び介護実践におけるレクリエーションの意義と概要及び支援の方法を理解する。■ 2. 福祉レクリエーション支援の方法と技術を理解できる。■ 3. 福祉レクリエーションワーカーの役割を理解できる。■ 4. 福祉レクリエーション支援の方法と技術を習得できる。■ 5. 福祉レクリエーションの課題について理解できる。■									
使用教材		配布資料									
参考文献		『楽しさの追求を支える理論と支援の方法』～理論に根ざした福祉レクリエーション支援の方法～（2014年度第2刷版）									
評価方法		定期試験（40％）、レポート課題（30％）、授業参加度（30％）で評価する。総合評価 60％以上を合格点とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法		レポート課題にはコメントを付けて返却する。定期試験は配布資料の内容から出題し、持込み可とする。									
オフィスアワー (研究室)		授業の前後の時間。 質問や意見は、メールからでも随時受け付ける。				メールアドレス (#→@)		k-matsunuma#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	介護サービスにおける尊厳を支えるケアと福祉レクリエーションのあり方①■ 休息・睡眠の介護、生活支援の理解									
	該当到達目標 1	予習	介護サービスにおけるレクリエーションの実情を確認する。							1 時間	
		復習	尊厳支えるケアとレクリエーションの位置づけを整理する。							1 時間	
2	講義内容	介護サービスにおける尊厳を支えるケアと福祉レクリエーションのあり方②■									

	該当到達目標	予習	介護サービスにおけるレクリエーションの実情を調べる	1 時間
	1	復習	尊厳支えるケアとレクリエーションの位置づけを整理する	1 時間
3	講義内容	福祉レクリエーション支援の理解① 楽しさの追求■		
	該当到達目標	予習	日常の中の楽しい活動について調べる。	1 時間
2	復習	配布資料の内容を確認し、生活の中に活かす。		
				1 時間
4	講義内容	福祉レクリエーション支援の理解② 楽しさを見通すための方法■		
	該当到達目標	予習	日常の中の楽しい活動について調べる。	1 時間
2	復習	配布資料の内容を確認し、生活の中に活かす。		
				1 時間
5	講義内容	福祉レクリエーション支援の理解③ 歩み		
	該当到達目標	予習	レクリエーションが生活の中でどのように活かされているか調べる	1 時間
1,5	復習	レクリエーションの歴史から今後の課題を考える。		
				1 時間
6	講義内容	楽しさ追求のための支援の方法① APIE プロセス		
	該当到達目標	予習	レクリエーションが生活の中でどのように活かされているか調べる。	1 時間
1,2	復習	レクリエーションの歴史から今後の課題を考える。		
				1 時間
7	講義内容	楽しさ追求のための支援の方法② TR サービスモデル 行動変容と自己効力感■		
	該当到達目標	予習	行動変容と自己効力感について調べる。	1 時間
1,2	復習	行動変容を必要とする課題や自己効力感をもつことの意義を考える。		
				1 時間
8	講義内容	福祉レクリエーション支援の方法 支援者のあり方■		
	該当到達目標	予習	実践できるレクリエーション活動を考える。	1 時間
1,2	復習	配布資料の内容を確認し、支援する際のポイントを整理する。		
				1 時間
9	講義内容	高齢者の尊厳を支えるための福祉レクの方法① 在宅サービス編■		
	該当到達目標	予習	高齢者の在宅サービスについて調べる。	1 時間
1,2	復習	高齢者の在宅サービスにおけるレクリエーション支援の方法を確認する。		
				1 時間
10	講義内容	高齢者の尊厳を支えるための福祉レクの方法② 入所施設編■		
	該当到達目標	予習	高齢者の入所施設におけるレクリエーション支援について調べる。	1 時間
1,2	復習	高齢者の入所施設におけるレクリエーション支援の方法を確認する。		
				1 時間
11	講義内容	高齢者の尊厳を支えるための福祉レクの方法③ 介護予防編■		
	該当到達目標	予習	高齢者の介護予防の実施機関について調べる。	1 時間
1,2	復習	高齢者の介護予防のレクリエーション支援の方法を確認する。		
				1 時間
12	講義内容	障がい児・者の尊厳を支えるための福祉レクの方法 入所施設編		
	該当到達目標	予習	障がい児・者の入所施設について調べる。	1 時間
1,2	復習	障がい児・者の入所施設におけるレクリエーション支援の方法を確認する。		
				1 時間
13	講義内容	高齢者入所施設における福祉レク支援の方法と計画① 個別■		
	該当到達目標	予習	第10回で学んだ高齢者入所施設におけるレク支援の方法を確認する。	1 時間
2,3,4	復習	授業中に考えたレク支援計画を見直し、完成させる。		
				1 時間
14	講義内容	高齢者入所施設における福祉レク支援の方法と計画② グループワーク■		
	該当到達目標	予習	作成した計画を他者に説明できるように準備する。	1 時間
2,3,4	復習	グループで決定したレクリエーション計画書を整理し、完成させる。		
				1 時間
15	講義内容	高齢者入所施設における福祉レク支援① 準備過程(グループワーク)■		
	該当到達目標	予習	グループで作成したレクリエーション支援計画書を確認する。	1 時間
2,3,4	復習	準備過程で必要な道具を準備する。		
				1 時間
16	講義内容	高齢者入所施設における福祉レク支援② 準備過程(グループワーク)■		
	該当到達目標	予習	準備過程で必要な道具を準備する。	1 時間

	2,3,4	復習	準備過程で必要な道具を確認し、必要な物を補う。	1 時間
17	講義内容	高齢者入所施設における福祉レク支援③ 展開過程(グループワーク)■		
	該当到達目標	予習	支援計画書を確認し、自分の役割、注意するポイントを整理する。	1 時間
	2,3,4	復習	所属するグループや他のグループの支援について評価する。	1 時間
18	講義内容	高齢者入所施設における福祉レク支援④ 展開過程(グループワーク)■		
	該当到達目標	予習	支援計画書を確認し、自分の役割、注意するポイントを整理する。	1 時間
	2,3,4	復習	所属するグループや他のグループの支援の中で活用できるものを整理する。	1 時間
19	講義内容	高齢者在宅サービスにおける福祉レク支援の方法と計画① 個別■		
	該当到達目標	予習	第9回で学んだ高齢者在宅サービスにおけるレク支援の方法を確認する。	1 時間
	2,3,4	復習	授業中に考えたレク支援計画を見直し、完成させる。	1 時間
20	講義内容	高齢者在宅サービスにおける福祉レク支援の方法と計画② グループワーク■		
	該当到達目標	予習	作成した計画を他者に説明できるように準備する。	1 時間
	2,3,4	復習	グループで決定したレクリエーション計画書を整理し、完成させる。	1 時間
21	講義内容	高齢者在宅サービスにおける福祉レク支援① 準備過程(グループワーク)■		
	該当到達目標	予習	グループで作成したレクリエーション支援計画書を確認する。	1 時間
	2,3,4	復習	準備過程で必要な道具を準備する。	1 時間
22	講義内容	高齢者在宅サービスにおける福祉レク支援② 準備過程(グループワーク)■		
	該当到達目標	予習	準備過程で必要な道具を準備する。	1 時間
	2,3,4	復習	準備過程で必要な道具を確認し、必要な物を補う。	1 時間
23	講義内容	高齢者在宅サービスにおける福祉レク支援③ 展開過程(グループワーク)■		
	該当到達目標	予習	支援計画書を確認し、自分の役割、注意するポイントを整理する。	1 時間
	2,3,4	復習	所属するグループや他のグループの支援について評価する。	1 時間
24	講義内容	高齢者在宅サービスにおける福祉レク支援④ 展開過程(グループワーク)■		
	該当到達目標	予習	支援計画書を確認し、自分の役割、注意するポイントを整理する。	1 時間
	2,3,4	復習	所属するグループや他のグループの支援の中で活用できるものを整理する。	1 時間
25	講義内容	障がい児・者生活介護施設における福祉レク支援の方法と計画 (グループワーク)		
	該当到達目標	予習	第12回で学んだ高齢者入所施設におけるレク支援の方法を確認する。	1 時間
	2,3,4	復習	授業中に考えたレク支援計画を見直し、完成させる。	1 時間
26	講義内容	障がい児・者生活介護施設における福祉レク支援① 準備過程(グループワーク)		
	該当到達目標	予習	グループで作成したレクリエーション支援計画書を確認する。	1 時間
	2,3,4	復習	準備過程で必要な道具を準備する。	1 時間
27	講義内容	障がい児・者生活介護施設における福祉レク支援② 準備過程(グループワーク)		
	該当到達目標	予習	準備過程で必要な道具を準備する。	1 時間
	2,3,4	復習	準備過程で必要な道具を確認し、必要な物を補う。	1 時間
28	講義内容	障がい児・者生活介護施設における福祉レク支援③ 展開過程(グループワーク)		
	該当到達目標	予習	支援計画書を確認し、自分の役割、注意するポイントを整理する。	1 時間
	2,3,4	復習	所属するグループや他のグループの支援について評価する。	1 時間
29	講義内容	障がい児・者生活介護施設における福祉レク支援④ 展開過程(グループワーク)		
	該当到達目標	予習	支援計画書を確認し、自分の役割、注意するポイントを整理する。	1 時間
	2,3,4	復習	所属するグループや他のグループの支援の中で活用できるものを整理する。	1 時間
30	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	これまで学習した内容を整理し、福祉レクリエーションの課題について考える。	1 時間
	5	復習	これまで学習した内容やレク支援におけるポイントを実習等で活かす。	1 時間
合計時間(予習・復習)				60 時間

備考	この科目は、1 回の授業につき 2 時限分連続して学習する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	介護過程Ⅰ（専門展開科目）						科目ナンバリング	SWK312		
英文名	Care ProcessⅠ						講義形態	演習		
担当教員	原田 欣宏									
科目に関連した実務経験	介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	介護福祉コース必修 1 単位							
履修を必須とする資格	介護福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	③⑤⑩⑪⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	生活の場で介護がどのように展開されているか、自分が見てきたことや自然に感じていたことを振り返り、暮らし方や他者との関わりを考察し可視化することで介護過程の基礎を学ぶ。 授業終了時にリアクションペーパーにて講義要約等をまとめて提出させる。それをもとに次回の講義冒頭で補足する。									
到達目標	1. 演習内容をもとに他者の意見を聞き、自分の意見を述べることができる。 2. 生活場面で行われている事象の意味を考察し、文章にまとめることができる。■ 3. あらゆる生活場面での介護を展開する理由を他者に説明できる。									
使用教材	川廷宗之・永野淳子「アクティブラーニングで学ぶ介護過程ワークブック」みらい									
参考文献	授業時に紹介する									
評価方法	授業への貢献度 30%、課題作成 30%、期末試験 50%、総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題作成は、授業内で解説を行う。 期末試験後に、問題出題意図を説明する。									
オフィスアワー （研究室）	火曜 3 時限 研究室：1 号館 5 階 506				メールアドレス （#→@）	harada#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション／考える介護のイメージ（ <u>介護過程の意義と基礎的理解</u> ）								
	該当到達目標	予習	教科書「序章」を読んでおくこと。						1 時間	
	1,2	復習	生活支援技術Ⅰ（排泄介助）と授業内容の関連を確認する。						0.5 時間	
2	講義内容	なぜ「考える介護」を展開するのか（ <u>介護過程とチームアプローチ</u> ）								
	該当到達目標	予習	教科書 1 章第 2 節を読んでおくこと。						1 時間	
	1,2	復習	生活支援技術Ⅰ（排泄介助）と授業内容の関連を確認する。						0.5 時間	
3	講義内容	状況を観察する■								
	該当到達目標	予習	教科書 1 章 3・4 節を読んでおくこと。						1 時間	
	1,2	復習	生活支援技術Ⅰ（移動・家事）と授業内容の関連を確認すること。						0.5 時間	
4	講義内容	聞き取る・聴き取る・他者とのかわり方を確認する・観察結果に基づく背景と展望の推測								

	該当到達目標 1,2	予習	教科書 1 章 5・6 節を読んでおくこと。	1 時間
		復習	生活支援技術 I (コミュニケーション)と授業内容の関連を確認すること。	0.5 時間
5	該当到達目標 1,2	講義内容	自分のものの見方を確認する・問題解決型の思考過程について■	
		予習	教科書 1 章 7・8 節を読んでおくこと。	1 時間
		復習	高齢者の若いころの生活状況と現在のレクリエーション活動を確認する。	0.5 時間
6	該当到達目標 1,2	講義内容	介護過程全体のプロセス(介護過程の展開の理解)	
		予習	教科書 2 章 1 節を読んでおくこと。	1 時間
		復習	介護過程の 7 段階について説明できるように、授業内容を振り返る。	0.5 時間
7	該当到達目標 1,2,3	講義内容	インテーク＜初めての出会い＞	
		予習	教科書 2 章 2 節を読んでおくこと。	1 時間
		復習	共感、受容と肯定の違いについて説明できるようにまとめる。	0.5 時間
8	該当到達目標 1,2,3	講義内容	アセスメント 1＜情報の収集＞	
		予習	教科書 2 章 3 節を読んでおくこと。	1 時間
		復習	言語・非言語コミュニケーションを通して情報収集する理由をまとめる。	0.5 時間
9	該当到達目標 1,2,3	講義内容	アセスメント 2＜情報の統合化＞(知識と技術の統合)	
		予習	教科書 2 章 4 節を読んでおくこと。	1 時間
		復習	構成要素間の矢印の方向ごとの関係性について自分の考えをまとめる。	0.5 時間
10	該当到達目標 1,2,3	講義内容	アセスメント 3＜課題の分析・明確化＞	
		予習	教科書 2 章 5 節を読んでおくこと。	1 時間
		復習	利用者の要望、希望と必要性について分けて説明する意味をまとめる。	0.5 時間
11	該当到達目標 1,2,3	講義内容	介護目標の設定	
		予習	教科書 2 章 6 節を読んでおくこと。	1 時間
		復習	評価可能で具体的に目標を設定するポイントをまとめる。	0.5 時間
12	該当到達目標 1,2,3	講義内容	介護計画の立案・実施	
		予習	教科書 2 章 7・8 節を読んでおくこと。	1 時間
		復習	介護計画を実施するために生じる介護者と利用者の思いのずれをまとめる。	0.5 時間
13	該当到達目標 1,2,3	講義内容	モニタリング・介護記録の作成	
		予習	教科書 2 章 9 節を読んでおくこと。	1 時間
		復習	モニタリングの必要性について説明ができるようにまとめる。	0.5 時間
14	該当到達目標 1,2,3	講義内容	介護計画の評価(介護実践の科学的探究)	
		予習	教科書 2 章 10 節を読んでおくこと。	1 時間
		復習	介護計画と介護過程の評価する内容の違いをまとめる。	0.5 時間
15	該当到達目標 1,2,3	講義内容	まとめ	
		予習	教科書や配布資料を読み、内容と介護過程の意味を再確認する。	1 時間
		復習	演習全体を振り返り、介護過程を展開する理由をまとめる。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				22.5 時間
備考	予習・復習についての時間は参考程度であり、最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名	介護過程Ⅱ（専門展開科目）							科目ナンバリング	SWK313		
英文名	Care Process Ⅱ							講義形態	演習		
担当教員	原田 欣宏										
科目に関連した実務経験	介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務										
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	介護福祉コース必修 1 単位								
履修を必須とする資格	介護福祉士										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	351016										
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
				○		○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要	事例を通して介護の理念とスキルに基づく介護過程の展開方法を理解することが出来る。										
①講義の目標	授業終了時にリアクションペーパーにて講義要約等をまとめて提出させる。それをもとに次回の講義冒頭で補足する。またミニレポートやアンケート回答を課す。										
②講義の実施方法											
到達目標	1. 事例を通して利用者の希望を把握し、生活課題と支援方法を文章にまとめる考え方を理解することができる。 2. 情報の分析、解釈、生活課題、計画の作成に関する基本的な考え方を説明することができる。■ 3. 事例を通して介護福祉士としての理念、価値観、リスクマネジメント、チームケアを実践するための介護過程を展開する方法を説明することができる。										
使用教材	川廷宗之・永野淳子「アクティブラーニングで学ぶ介護過程ワークブック」みらい（2016 年）										
参考文献	とくになし										
評価方法	授業への貢献度 30%、課題提出 30%、期末試験 40%、総合評価 60%以上を合格とする										
課題・評価に対するフィードバック方法	課題作成は、授業内で解説を行う。期末試験後に、問題出題意図を説明する。										
オフィスアワー（研究室）	火曜 3 時限 研究室：1 号館 5 階 506				メールアドレス （#→@）		harada#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション／ <u>介護過程の意義</u> ／独居利用者の在宅生活の継続に向けた事例 1■									
	該当到達目標	予習	第 3 章第 1 節を読んでおくこと。							1.5 時間	
	1	復習	事例における利用者と家族の生活課題についてまとめる。							0.5 時間	
2	講義内容	独居利用者の在宅生活の継続に向けた事例 2■									
	該当到達目標	予習	第 3 章第 1 節を読んでおくこと。							1.5 時間	
	1	復習	誰が読んでもわかりやすい具体的な介護計画に仕上げる。							0.5 時間	
3	講義内容	介護施設から自宅へ外泊する利用者の事例 1									
	該当到達目標	予習	第 3 章第 2 節を読んでおくこと。							1.5 時間	
	1	復習	事例における利用者と家族の生活課題についてまとめる。							0.5 時間	

4	講義内容	介護施設から自宅へ外泊する利用者の事例 2			
	該当到達目標 1,2	予習	第 3 章第 2 節を読んでおくこと。	1.5 時間	
		復習	利用者の希望を重視した介護計画を立案しまとめること。	0.5 時間	
5	講義内容	尊厳を守る介護			
	該当到達目標 1,2,3	予習	第 4 章第 1 節を読んでおくこと。	1.5 時間	
		復習	利用者の尊厳を守るためにどのような心構えが必要かまとめる。	0.5 時間	
6	講義内容	価値の問題と介護過程			
	該当到達目標 1,2,3	予習	第 4 章第 2 節を読んでおくこと。	1.5 時間	
		復習	介護過程の評価の段階で行わなければならないことをまとめること。	0.5 時間	
7	講義内容	倫理的葛藤と介護過程			
	該当到達目標 1,2,3	予習	第 4 章第 3 節を読んでおくこと。	1.5 時間	
		復習	倫理的葛藤の向き合い方、解決方法についてまとめること。	0.5 時間	
8	講義内容	利用者主体の介護過程			
	該当到達目標 1,2,3	予習	第 4 章第 4 節を読んでおくこと。	1.5 時間	
		復習	他者の性格や好み、こだわりを理解して、適切に説明できるようにまとめる。	0.5 時間	
9	講義内容	個別化の実践と介護過程			
	該当到達目標 1,2,3	予習	第 4 章第 5 節を読んでおくこと。	1.5 時間	
		復習	個別化を実践するうえで気を付けることを説明できるようにまとめる。	0.5 時間	
10	講義内容	自立支援に向けた介護過程(介護過程とチームアプローチ)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	第 4 章第 6 節を読んでおくこと。	1.5 時間	
		復習	自己決定の自立を実現するための注意点をまとめる。	0.5 時間	
11	講義内容	人権(権利擁護)と介護過程			
	該当到達目標 1,2,3	予習	第 4 章第 7 節を読んでおくこと。	1.5 時間	
		復習	利用者を守るために必要な法律について説明できるようにまとめる。	0.5 時間	
12	講義内容	リスクマネジメントと介護過程			
	該当到達目標 1,2,3	予習	第 4 章第 8 節を読んでおくこと。	1.5 時間	
		復習	リスクマネジメントにおいて必要な視点をまとめる。	0.5 時間	
13	講義内容	チームケアの実践と介護過程			
	該当到達目標 1,2,3	予習	第 4 章第 9 節を読んでおくこと。	1.5 時間	
		復習	チームケアを行う上での課題の解決方法を提案できるようにまとめる。	0.5 時間	
14	講義内容	多職種連携と介護過程			
	該当到達目標 1,2,3	予習	第 4 章第 10 節を読んでおくこと。	1.5 時間	
		復習	多職種連携を行う上での介護福祉士の専門性を説明できるようにまとめる。	0.5 時間	
15	講義内容	まとめ／介護過程の展開(介護過程の展開の理解)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	介護過程の展開方法と注意点をこれまでの授業内容から振り返る。	1.5 時間	
		復習	介護過程の展開を行うために、現在不足していることをまとめる。	0.5 時間	
合計時間(予習・復習)					22.5 時間
備考	予習・復習についての時間は参考程度であり、最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す				

科目名	介護過程Ⅲ(専門展開科目)							科目ナンバリング	SWK314		
英文名	Care Process Ⅲ							講義形態	演習		
担当教員	堀口 美奈子										
科目に関連した実務経験	介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務(経験)										
学年・開講期	2年 前期	選必・単位数	介護福祉コース 必修 1単位								
履修を必須とする資格	介護福祉士										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	3 4 5 8 10 11										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
			○	○		○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①介護を必要とする人の「QOL(生活、人生、生命の質)」を高めていくためには、介護過程の計画的な実践が欠かせない。そこで本科目では、介護過程の意義を理解し、根拠に基づく介護が展開できるよう、他の科目で学習した知識や技術を統合し、事例から解決すべき生活上の課題を挙げられるようになることを目標とする。 ②授業では、事例を基に、個人ワークやグループワークを実施する。自分でまとめたことの発表や他者意見を聴くことによって、クラスメイトとともに介護過程を展開する力を育てることを目指しているため、遅刻や欠席には注意すること。										
到達目標	1.介護過程の全体像について説明できる。■ 2.事例について専門的視点を基に情報を収集できる。■ 3.収集した情報の分析を行うことができる。■ 4.解決すべき生活上の課題を明確にできる。■ 5.自分の考えた介護過程について、相手に伝わるよう根拠を示しながら説明できる。 6.相手の話を聞き、自分の介護過程に関する思考を深めることができる。										
使用教材	教科書は使用せず、教員作成資料を基に授業を行う。										
参考文献											
評価方法	授業での取り組み(活動および授業内課題)40%、提出物の充実度(事例課題シート)60%										
課題・評価に対するフィードバック方法	提出を求めるレポートは、適宜コメント等をつけて返却する。質問やフィードバック等は、随時、直接またはメール等にて受け付ける。										
オフィスアワー(研究室)	月曜・水曜 3限				メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する					
1	講義内容	オリエンテーション、 <u>介護過程の意義と基本的理解</u> ■									
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで、講義の目標などを理解する							0.5	時間
	1	復習	今後の授業内容を確認し、授業で取ったノートを読み返す							0.5	時間
2	講義内容	<u>プロセスおよび全体像を踏まえた介護過程とチームアプローチの理解</u>									
	該当到達目標	予習	授業で配付する資料を読み、授業内容を把握する							0.5	時間
	1	復習	授業で取ったノートを読み返し、しっかり復習する							0.5	時間
3	講義内容	<u>「介護過程の展開の理解:アセスメント」の実際事例Ⅰ①情報収集</u> ■									
	該当到達目標	予習	授業で配付するレジュメを読み、授業内容を把握する							0.5	時間
	2,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ							0.5	時間

4	講義内容	「介護過程の展開の理解:アセスメント」の実際事例Ⅰ②情報分析■		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	3,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
5	講義内容	「介護過程の展開の理解:アセスメント」の実際事例Ⅰ③生活上課題抽出・優先順決定■		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	4,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
6	講義内容	「介護過程の展開の理解:アセスメント」の実際事例Ⅰ④まとめ		
	該当到達目標	予習	これまでの演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	1,5,6	復習	自分の書いたものと例示を比べる、資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
7	講義内容	「介護過程の展開の理解:アセスメント」の実際事例Ⅱ①情報収集■		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	2,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
8	講義内容	「介護過程の展開の理解:アセスメント」の実際事例Ⅱ②生活の様子項目 A 情報分析■		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	3,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
9	講義内容	「介護過程の展開の理解:アセスメント」の実際事例Ⅱ③生活の様子項目 A 生活上課題抽出■		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	4,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
10	講義内容	「介護過程の展開の理解:アセスメント」の実際事例Ⅱ④生活の様子項目 B 情報分析■		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	3,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
11	講義内容	「介護過程の展開の理解:アセスメント」の実際事例Ⅱ⑤生活の様子項目 B 生活上課題抽出■		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	4,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
12	講義内容	「介護過程の展開の理解:アセスメント」の実際事例Ⅱ⑥生活の様子項目 C 情報分析 ■		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	3,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
13	講義内容	「介護過程の展開の理解:アセスメント」の実際事例Ⅱ⑦生活の様子項目 C 生活上課題抽出■		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	4,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
14	講義内容	「介護過程の展開の理解:アセスメント」の実際事例Ⅱ⑧優先順決定・まとめ■		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	1,5,6	復習	自分の書いたものと例示を比べる、資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	介護過程のアセスメントについて理解できたか自己評価する	0.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	自己評価の結果不十分な所は再度学習する	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	授業時の配布資料は、積み重ねた思考過程を示すものであるため、忘れずに持参する。 予習・復習についての時間は参考程度であり、最終的に単位取得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	介護過程Ⅳ(専門展開科目)						科目ナンバリング	SWK315		
英文名	Care Process IV						講義形態	演習		
担当教員	堀口 美奈子									
科目に関連した実務経験	介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務(経験)									
学年・開講期	2年 後期	選必・単位数	介護福祉コース 必修 1単位							
履修を必須とする資格	介護福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	3 4 5 8 10 11									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①介護を必要とする人の「QOL(生活の質、生命の質)」を高めていくためには、介護過程の計画的な実践が決かせない。そこで本科目では、事例を通して介護過程の展開過程(アセスメント、介護計画の作成、実施、評価)を学び、根拠に基づく介護実践を提供できる能力を身につけることを目標にする。 ②授業では、事例を基に、個人ワークやグループワークを実施する。自分でまとめたことの発表や他者意見を聴くことによって、クラスメイトとともに介護過程を展開する力を育てることを目指しているため、遅刻や欠席には注意すること。									
到達目標	1. 介護過程の展開過程を具体的に説明できる。■ 2. 事例について専門的視点を基にアセスメントを行える。■ 3. 解決すべき生活上の課題を明確にできる。■ 4. 根拠に基づく介護計画を立案し、実施や評価について説明できる。■ 5. 自分の考えた介護過程について、相手に伝わるよう根拠を示しながら説明できる。■ 6. 相手の話を聞き、自分の介護過程に関する思考を深めることができる。■									
使用教材	教科書は使用せず、教員作成資料を基に授業を行う。									
参考文献										
評価方法	授業での取り組み(活動および授業内課題)40%、提出物の充実度(事例課題シート)60%									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出を求めるレポートは、適宜コメント等をつけて返却する。質問やフィードバック等は、随時、直接またはメール等にて受け付ける。									
オフィスアワー (研究室)	月曜・水曜 3限				メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容	オリエンテーション、介護過程Ⅲ振り返り、 <u>介護過程の意義と基礎的理解</u> ■								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで、講義の目標などを理解する						0.5	時間
	1	復習	今後の授業内容を確認し、授業で取ったノートを読み返す						0.5	時間
2	講義内容	「 <u>介護過程とチームアプローチおよび介護過程の展開の理解</u> 」事例Ⅰ ①情報収集								
	該当到達目標	予習	授業で配付する資料を読み、授業内容を把握する						0.5	時間
	2,5,6	復習	授業で取ったノートを読み返し、しっかり復習する						0.5	時間
3	講義内容	「 <u>介護過程の展開の理解</u> 」事例Ⅰ ②情報分析								
	該当到達目標	予習	授業で配付するレジュメを読み、授業内容を把握する						0.5	時間
	2,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ						0.5	時間

4	講義内容	「介護過程の展開の理解」事例Ⅰ③分析検討		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	2,3,5,6	復習	自分の記述と例示を比べる、資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
5	講義内容	「介護過程の展開の理解」事例Ⅰ④計画作成		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	4,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
6	講義内容	「介護過程の展開の理解」事例Ⅰ⑤計画検討		
	該当到達目標	予習	これまでの演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	4,5,6	復習	自分の書いたものと例示を比べる、資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
7	講義内容	「介護過程の展開の理解」事例Ⅰ⑥実施・評価		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	1,4,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
8	講義内容	「介護過程の展開の理解」事例Ⅰ⑦まとめ		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	1,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
9	講義内容	「介護過程とチームアプローチおよび介護過程の展開の理解」事例Ⅱ①情報収集		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	2,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
10	講義内容	「介護過程の展開の理解」事例Ⅱ②情報分析		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	2,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
11	講義内容	「介護過程の展開の理解」事例Ⅱ③分析検討		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	2,3,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
12	講義内容	「介護過程の展開の理解」事例Ⅱ④計画作成		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	4,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
13	講義内容	「介護過程の展開の理解」事例Ⅱ⑤計画検討		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	4,5,6	復習	資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
14	講義内容	「介護過程の展開の理解」事例Ⅱ⑥実施・評価		
	該当到達目標	予習	今週の演習テーマに関する自分の考えをまとめておく	0.5 時間
	1,4,5,6	復習	自分の記載と例示を比べる、資料内容の確認、関連事項等の情報サーチ	0.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	介護過程の一連の思考過程について理解できたか自己評価する	0.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	自己評価の結果不十分な所は再度学習する	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	授業時の配布資料は、積み重ねた思考過程を示すものであるため、忘れずに持参する。 予習・復習についての時間は参考程度であり、最終的に単位取得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		介護過程Ⅴ(専門展開科目)						科目ナンバリング	SWK316		
英文名		Care Process Ⅴ						講義形態	演習		
担当教員		原田 欣宏									
科目に関連した実務経験		介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務									
学年・開講期		3 年 前期	選必・単位数	介護福祉コース必修 1 単位							
履修を必須とする資格		介護福祉士									
学位授与方針との対応		1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
		1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
		1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連		③⑤⑩⑪⑯									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
					○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		実習の経験を踏まえて、専門職として実践的な「介護過程の展開」とは何かを理解し、必要なスキルを身につける。他職種との連携における介護福祉士の役割を自覚する。 授業はグループワークを中心に実施する。									
到達目標		1. アセスメントに基づいた介護過程の展開方法を説明することができる 2. グループワークで他者の意見を理解してアセスメント用紙にまとめることができる 3. 介護過程とチームアプローチの実際と実践方法を説明することができる 4. 本人、家族の意向をふまえながら立案する介護計画の課題について理解することができる■									
使用教材		授業時に資料を配布する									
参考文献											
評価方法		授業参加度 20%、レポート 40%、定期試験 40%									
課題・評価に対するフィードバック方法		課題作成は、授業内で解説を行う。期末試験後に問題の出題意図を説明する。									
オフィスアワー (研究室)		火曜 1 時限 研究室:1 号館 5 階 506				メールアドレス (#→@)		harada#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション・介護過程とチームアプローチの実際とはなにか【介護過程とチームアプローチ】									
	該当到達目標 1,2,3	予習	介護過程Ⅲ・Ⅳまでの授業内容を読み返す。						0.5 時間		
		復習	他の教科で学んだ「多職種連携」「チームアプローチ」に関することと、授業内容を整理する。						0.5 時間		
2	講義内容	事例①「医療ニーズのある独居男性への支援」 アセスメント【介護過程の意義と基礎的理解】									
	該当到達目標 1,2,3	予習	高血圧に関するケアの方法について確認すること。						0.5 時間		
		復習	授業での議論を踏まえてアセスメントの内容を整理する。						0.5 時間		
3	講義内容	事例①「医療ニーズのある独居男性への支援」 情報の統合・分析・解釈									
	該当到達目標 1,2,3	予習	住宅改修に関する情報を事前に確認すること。						0.5 時間		
		復習	授業での議論を踏まえて情報の統合・分析・解釈の文章を整理すること。						0.5 時間		
4	講義内容	事例①「医療ニーズのある独居男性への支援」 目標・サービス内容【介護過程の展開の理解】■									
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	脳梗塞後遺症に対する生活リハビリの方法を確認すること。						0.5 時間		
		復習	授業での議論を踏まえて目標・サービス内容の文章を整理すること。						0.5 時間		

5	講義内容	事例②「老健退所後の意欲を喚起する支援」 アセスメント		
	該当到達目標	予習	老人保健施設で実施可能なケア内容を確認すること。	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業での議論を踏まえてアセスメントの内容を整理する。	0.5 時間
6	講義内容	事例②「老健退所後の意欲を喚起する支援」 情報の統合・分析・解釈		
	該当到達目標	予習	短下肢装具を利用する人のケアについて確認すること。	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業での議論を踏まえて情報の統合・分析・解釈の文章を整理すること。	0.5 時間
7	講義内容	事例②「老健退所後の意欲を喚起する支援」 目標・サービス内容■		
	該当到達目標	予習	興味関心のあることに取り組むための環境整備について情報を確認すること。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業での議論を踏まえて目標・サービス内容の文章を整理すること。	0.5 時間
8	講義内容	事例③「在宅復帰のための本人と家族への支援」 アセスメント		
	該当到達目標	予習	排泄に関する医療介護両面のケアについて確認すること。	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業での議論を踏まえてアセスメントの内容を整理する。	0.5 時間
9	講義内容	事例③「在宅復帰のための本人と家族への支援」 情報の統合・分析・解釈		
	該当到達目標	予習	施設の生活環境を整える方法について確認する。	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業での議論を踏まえて情報の統合・分析・解釈の文章を整理すること。	0.5 時間
10	講義内容	事例③「在宅復帰のための本人と家族への支援」 目標・サービス内容■		
	該当到達目標	予習	在宅に向けた生活動作の支援方法を確認する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業での議論を踏まえて目標・サービス内容の文章を整理すること。	0.5 時間
11	講義内容	事例④「帰宅願望への支援」 アセスメント		
	該当到達目標	予習	転倒防止に向けた生活環境の整備方法について確認すること。	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業での議論を踏まえてアセスメントの内容を整理する。	0.5 時間
12	講義内容	事例④「帰宅願望への支援」 統合・分析・解釈		
	該当到達目標	予習	脳梗塞後遺症と大腸がんの医学的管理について確認すること。	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業での議論を踏まえて情報の統合・分析・解釈の文章を整理すること。	0.5 時間
13	講義内容	事例④「帰宅願望への支援」 目標・サービス内容■		
	該当到達目標	予習	本人と介護者の意向にずれがあるときの支援について整理する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業での議論を踏まえて目標・サービス内容の文章を整理すること。	0.5 時間
14	講義内容	まとめ① アセスメントの実際		
	該当到達目標	予習	事例①～④において検討したアセスメントで残された課題を整理する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業での議論を踏まえてアセスメントを実践するときのポイントを整理する。	0.5 時間
15	講義内容	まとめ② 統合・分析・解釈の実際		
	該当到達目標	予習	事例①～④において検討した情報の統合・分析・解釈で残された課題を整理する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	利用者ニーズと現実の生活を統合するポイントを整理する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	事例検討の進行に合わせて要点を説明する。他者の意見を取り入れながら、より良いケアの提供を目指す姿勢が重要である。 予習・復習についての時間は参考程度であり、最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名	介護総合演習Ⅰ（専門展開科目）						科目ナンバリング	SWK317		
英文名	Guidance of practice care trainingⅠ						講義形態	演習		
担当教員	原田 欣宏、堀口 美奈子、富田 俊									
科目に関連した実務経験	原田：介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務（経験） 堀口：介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務（経験） 富田：看護師として病院に勤務（経験）									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	介護福祉コース 必修 1 単位							
履修を必須とする資格	介護福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	3 4 5 8 10 11									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①介護実習Ⅰにむけて、必要な技術と知識を修得する。また、介護福祉士になるために必要な自己の課題を明確にし、自分で学ぶ力を培う。実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーションなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学修とする。介護総合演習については、知識と技術の統合を目指すため、実習と組み合わせての学修とする。 ②授業は、教員が作成した資料等を使用し、講義やグループワークを行う。また個別指導では、配属先施設等の資料に基づいて個別の学習目標を設定し、介護実習Ⅰにて活用する。									
到達目標	1.基本的な介護の知識・技術・倫理を理解し、具体的な介護につながる過程を説明できる。■ 2.介護実習Ⅰの目的や目標を理解し、実習で学ぶことを具体的に説明できる。 3.現場に活かせる記録等の書き方や作成の方法を説明できる。■ 4.自己の課題を明確にし、現場実践に基本的なコミュニケーションについて説明できる。■									
使用教材	介護実習の手引き、教員作成資料									
参考文献										
評価方法	学習態度 40%（授業中、グループ演習時の態度） 課題の理解度 30%（授業時の演習、課題に対しての理解度） 提出物 30%（個人票、誓約書など必要書類の内容及び提出状況）									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出を求めるレポートは、適宜コメント等をつけて返却する。質問やフィードバック等は、随時、直接またはメール等にて受け付ける。									
オフィスアワー（研究室）	原田：火曜 3 時限 506 研究室 堀口：月曜・水曜 3 時限 502 研究室 富田：月曜 2 時限 514 研究室				メールアドレス （#→@）	連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容	ガイダンス、実習全体の理解								
	該当到達目標	予習	介護福祉士の専門性について確認する。						0.5	時間
	1,2	復習	当日の講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する。						0.5	時間
2	講義内容	介護実習施設の機能及び役割の理解①■								

	該当到達目標	予習	高齢者の入所施設について調べる。	0.5	時間
	1,2	復習	授業の内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	0.5	時間
3	講義内容	介護実習施設の機能及び役割の理解②■			
	該当到達目標	予習	高齢者の居宅サービスについて調べる。	0.5	時間
	1,2	復習	授業の内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	0.5	時間
	講義内容	介護実習施設の機能及び役割の理解③■			
4	該当到達目標	予習	障害者の制度について調べる。	0.5	時間
	1,2	復習	授業の内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	0.5	時間
5	講義内容	介護実習施設の利用者の身体的・精神的・社会的特徴の理解① 入所施設編■			
	該当到達目標	予習	高齢者入所施設の利用者の事例について調べる	0.5	時間
	1,2	復習	授業の内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	0.5	時間
	講義内容	介護実習施設の利用者の身体的・精神的・社会的特徴の理解② 居宅サービス編■			
6	該当到達目標	予習	高齢者の居宅サービスを調べ、利用者の事例を調べる	0.5	時間
	1,2	復習	授業の内容を復習し、理解する。よく理解できなかった内容を調べる。	0.5	時間
7	講義内容	障害をもつ利用者とのコミュニケーションの方法(認知症高齢者含む)■			
	該当到達目標	予習	高齢者や障害者の病気や障害の特徴について確認する。	0.5	時間
	1,2	復習	授業の内容を復習、理解する。自分のコミュニケーションの方法を振り返る。	0.5	時間
	講義内容	他者理解と自己覚知■			
8	該当到達目標	予習	相談援助の基盤と専門職Ⅰで学習した他者・自己理解の方法を確認する	0.5	時間
	4	復習	授業の内容を復習し、理解する。自己覚知のシートを完成する。	0.5	時間
9	講義内容	介護実習Ⅰの目標、課題の明確化:知識と技術の統合① 提出書類の作成方法■			
	該当到達目標	予習	実習の手引きから介護実習の位置づけを確認する。	0.5	時間
	3,4	復習	個人票(目標作成含む)の下書きを完成する。	0.5	時間
	講義内容	介護実習Ⅰの目標、課題の明確化:知識と技術の統合② 提出書類の作成(個別指導)			
10	該当到達目標	予習	実習の手引きから記録用の書類について確認する。	0.5	時間
	3,4	復習	個人票(目標作成含む)のを完成する。	0.5	時間
11	講義内容	介護実習Ⅰの目標、課題の明確化:知識と技術の統合③ 提出書類の作成(個別指導)			
	該当到達目標	予習	自己の課題を明確化する	0.5	時間
	3,4	復習	個人票・誓約書等を実習指導室に提出。必要に応じ担当教員と面談する。	0.5	時間
	講義内容	実習記録の意義と記載方法の理解:知識と技術の統合① 日誌の書き方、目標の立て方■			
12	該当到達目標	予習	相談援助の基盤と専門職Ⅰで学んだ記録の書き方を確認する。	0.5	時間
	3,4	復習	実習記録の書き方を学習するために、日常の1日の記録を作成する	0.5	時間
13	講義内容	実習記録の意義と記載方法の理解:知識と技術の統合② プロセスレコードの書き方■			
	該当到達目標	予習	違和感のあった過去の事例を確認する。	0.5	時間
	3,4	復習	違和感のあった事例をプロセスレコードに沿って記述して、考察する。	0.5	時間
	講義内容	その他の記録類の意義と記載方法及び諸手続きの方法の理解:知識と技術の統合■			
14	該当到達目標	予習	実習の手引きを一読する	0.5	時間
	3	復習	実習の手引きを確認する。実習施設で事前オリエンテーションを受ける	0.5	時間
15	講義内容	実習ガイダンス			
	該当到達目標	予習	事前オリエンテーションの内容を教員に報告する。実習内容を確認する。	0.5	時間
	1,2	復習	実習の手引きを読み、提出用書類について確認する。	0.5	時間
合計時間(予習・復習)				15	時間
備考	予習・復習についての時間は参考程度であり、最終的に単位取得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	介護総合演習Ⅱ（専門展開科目）						科目ナンバリング	SWK318		
英文名	Guidance of practice care training Ⅱ						講義形態	演習		
担当教員	原田 欣宏、堀口 美奈子、富田 俊									
科目に関連した実務経験	原田：介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務 堀口：介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所、デイサービスセンターに勤務 富田：看護師として病院に勤務									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	介護福祉コース必修 1 単位							
履修を必須とする資格	介護福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	3 5 10 11 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	利用者個別のニーズを理解できる能力をつけるための学修を行う。そのためにアセスメントの実施方法について学ぶ。また、介護実習Ⅰの学びを振り返り、次の実習に向けて介護実習前の介護技術の確認や実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学修とする。 授業は、教員が作成した資料等を使用し、講義やグループワークを行う。グループワークを用いて互いに実習の学びを紹介することで学びを深め、教員よりコメントすることで正確な理解につながるように展開する。									
到達目標	1. 利用者やスタッフとのコミュニケーションをより深化したものになるように、ニーズの把握に必要な知識を身に付けることができる 2. 介護過程の展開をふまえた記録の作成について理解することができる■ 3. アセスメント用紙の基本的な使い方や意味について理解することができる 4. 介護実習Ⅱにおける講義目標を理解することができる									
使用教材	介護実習の手引き									
参考文献										
評価方法	学習態度 40%（授業中、グループ演習時の態度）、課題の理解度 30%（授業時の演習、課題に対しての理解度）、提出物 30%（個人票、誓約書など必要書類の内容及び提出状況）									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題の意図は提出前に説明する。提出物に関する書き方の指導を行ったうえで提出を求める。									
オフィスアワー （研究室）	原田：火曜 3 時限 506 研究室 堀口：月曜・水曜 3 時限 502 研究室 富田：月曜 2 時限 514 研究室				メールアドレス （#→@）	harada#takasaki-u.ac.jp ほかの担当教員は授業時に提示				
1	講義内容	介護実習Ⅰのまとめ① 日誌■								
	該当到達目標	予習	介護実習Ⅰで作成した課題を読み返す					0.5 時間		
	1,2	復習	授業で考えた日誌から報告書に記載する項目について検討する					0.5 時間		
2	講義内容	介護実習Ⅰのまとめ② プロセスレコード■								
	該当到達目標	予習	介護実習Ⅰで考えたプロセスレコードについて説明することを準備する					0.5 時間		
	1,2	復習	授業で考えたプロセスレコードからの学びから報告書に記載する内容を検討する					0.5 時間		
3	講義内容	介護実習Ⅰのまとめ③ 評価票■								

	該当到達目標	予習	介護実習Ⅰで学んだことについて報告書に記載する内容を検討する	0.5 時間
	1,2	復習	授業で考えた評価票からの指摘を受けて報告書に記載する内容を検討する	0.5 時間
4	講義内容	介護実習Ⅰのまとめ④ 報告書(知識と技術の統合)		
	該当到達目標	予習	報告書を作成する	0.5 時間
	1,2	復習	授業中に指摘を受けた個所を修正する	0.5 時間
5	講義内容	介護実習施設の機能及び役割、法的位置づけの理解 ①高齢者施設■		
	該当到達目標	予習	他の授業で学んだ内容を調べておく	0.5 時間
	4	復習	実習施設で働いている職員の役割をまとめる	0.5 時間
6	講義内容	介護実習施設の機能及び役割、法的位置づけの理解 ②障害者施設		
	該当到達目標	予習	他の事業で学んだ内容を調べておく	0.5 時間
	4	復習	実習施設で働いている職員の役割をまとめる	0.5 時間
7	講義内容	具体的な介護過程の展開① 食事■(介護実践の科学的探求)		
	該当到達目標	予習	生活支援技術の該当箇所について読んでおく	0.5 時間
	1,2,3	復習	介護を行う上で関係する職員の役割をまとめる	0.5 時間
8	講義内容	具体的な介護過程の展開② 排泄■		
	該当到達目標	予習	生活支援技術の該当箇所について読んでおく	0.5 時間
	1,2,3	復習	介護を行う上で関係する職員の役割をまとめる	0.5 時間
9	講義内容	介護実習Ⅱの目標、課題の明確化①		
	該当到達目標	予習	個人票など、提出物を作成する	0.5 時間
	1,2,3	復習	指導によって修正個所を考え直す	0.5 時間
10	講義内容	介護実習Ⅱの目標、課題の明確化②		
	該当到達目標	予習	個人票など、提出物を作成する	0.5 時間
	1,2,3	復習	指導によって修正個所を考え直す	0.5 時間
11	講義内容	具体的な介護過程の展開③ 入浴		
	該当到達目標	予習	生活支援技術の該当箇所について読んでおく	0.5 時間
	1,2,3	復習	介護を行う上で関係する職員の役割をまとめる	0.5 時間
12	講義内容	具体的な介護過程の展開④ 移動		
	該当到達目標	予習	生活支援技術の該当箇所について読んでおく	0.5 時間
	1,2,3	復習	介護を行う上で関係する職員の役割をまとめる	0.5 時間
13	講義内容	実習中の対応困難の場面討議① 認知症ケア		
	該当到達目標	予習	認知症ケアについて、ほかの科目で学んだことを見直す	0.5 時間
	1,2,3	復習	実際にどのような声かけを行うか、考えてまとめる	0.5 時間
14	講義内容	実習中の対応困難の場面討議② 寝たきり		
	該当到達目標	予習	脳梗塞後遺症、糖尿病に関するケアの注意点を他の教科で学んだことを確認する	0.5 時間
	1,2,3	復習	実際にどのような声かけを行うべきか、考えてまとめる	0.5 時間
15	講義内容	実習直前ガイダンス		
	該当到達目標	予習	実習先として配属された事業所の概要を実習指導室などにある資料で確認する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	実習で行う課題について確認し、必要な資料と教科書を準備しておく	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	個別指導では、配属先施設等の資料に基づいて個別の学習目標を設定し、介護実習Ⅱにて活用する。 予習・復習の時間については、直前ガイダンス前までに自己学習で補填すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名	介護総合演習Ⅲ(専門展開科目)					科目ナンバリング	SWK319			
英文名	Guidance of practice care training Ⅲ					講義形態	演習			
担当教員	原田欣宏、堀口美奈子、富田俊									
科目に関連した実務経験	原田:介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務 堀口:介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所、デイサービスセンターに勤務 富田:看護師として病院に勤務									
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数	介護福祉コース必修 1 単位						
履修を必須とする資格	介護福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と教養			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	3 4 5 8 10 11									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①介護実習Ⅱを振り返り、介護計画や対象者についての理解を深める。一連の介護過程から、利用者のニーズを把握し、個別援助計画(介護計画)を立案・評価・修正するための知識と技術を習得する。介護実習Ⅲにおける事前の知識及び技術の確認、施設等へのオリエンテーション、介護過程の展開を総合的に習得する。 ②レジュメや資料等を参考に講義、グループ演習や討議を行う。また配属施設の資料をもとに施設特性や、学生個人の実習目標を設定し、介護実習に活用する。									
到達目標	1. 介護実習を通し、利用者特性を理解した上で、ニーズの差異を説明できる。 2. 介護実習を通し、個々の利用者に応じた介護方法を説明できる。 3. 様々な介護場面を通して、個々の利用者に応じた介護方法、 4. 様々な介護場面を通して、利用者のニーズに沿った資源及び福祉用具の活用を説明できる。 5. 様々な介護場面を通して、利用者のニーズに沿った他職種連携を説明できる。 6. 個々の利用者に応じた個別援助計画(介護計画)立案、実施、評価できる。■									
使用教材	実習の手引き、レジュメ及び資料を配布する									
参考文献										
評価方法	学習態度 40%(グループ演習や授業への参加度) 課題の理解度 30%(授業時の演習、課題に対しての理解度) 提出物 30%(個人票・誓約書など必要書類の内容及び提出状況)									
課題・評価に対するフィードバック方法	・介護実習Ⅱにおいて、施設評価及び自己評価をもとに、面談し、個々の学生の課題を抽出する。 ・介護実習Ⅲの事前指導において、個々の学生の興味や課題を踏まえ、目標や課題を明確化する。 ・演習において、提出された課題には授業を通してコメントを返し、内容を共有する。グループ討議を通して、多角的な思考を養えるようにフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	原田:火曜 3 時限 506 研究室 堀口:月曜・水曜 3 時限 502 研究室 富田:月曜 2 時限 514 研究室				メールアドレス (#→@)	直前ガイダンス等で、各担当教員からアナウンスします。				
1	講義内容	帰校日指導								

	該当到達目標 1,2	予習	利用者特性を理解した上でニーズの差異や、個々に応じた介護方法を理解する	0.5	時間
		復習	実習日誌及び課題の習熟度を補完する	0.5	時間
2	該当到達目標 1,2	講義内容 介護実習Ⅱまとめ①			
		予習	グループ討議から、利用者特性やニーズの差異を学ぶ	0.5	時間
	1,2	復習	利用者特性を理解した上でニーズの差異や、個々に応じた介護方法を理解する	0.5	時間
3	該当到達目標 1,2	講義内容 介護実習Ⅱまとめ②			
		予習	プロセスレコードから、利用者特性、ニーズの差異や抽出方法を学ぶ	0.5	時間
	1,2	復習	利用者特性を理解した上でニーズの差異や、個々に応じた介護方法を理解する	0.5	時間
4	該当到達目標 1,2	講義内容 介護実習Ⅱまとめ③			
		予習	プロセスレコードから、利用者特性、ニーズの差異や抽出方法を学ぶ	0.5	時間
	1,2	復習	利用者特性を理解した上でニーズの差異や、個々に応じた介護方法を理解する	0.5	時間
5	該当到達目標 1,2	講義内容 介護実習Ⅱまとめ④ 評価フィードバック			
		予習	施設評価及び自己評価を踏まえ、介護実習Ⅱをフィードバックする	0.5	時間
	1,2	復習	介護実習Ⅱをフィードバックし、自己覚知及び課題を理解する	0.5	時間
6	該当到達目標 3,4,5,6	講義内容 個別援助計画の考え方① 介護計画におけるアセスメントの必要性和概要■			
		予習	実習手引き及び自身の実習ファイルを精読する	0.5	時間
	3,4,5,6	復習	介護計画におけるアセスメントの必要性和概要を理解できる	0.5	時間
7	該当到達目標 3,4,5,6	講義内容 個別援助計画の考え方② 介護計画におけるアセスメントのプロセスと実際■			
		予習	レジュメ及び資料を精読する・宿題に取り組む	0.5	時間
	3,4,5,6	復習	介護計画におけるアセスメントのプロセスと実際を理解する	0.5	時間
8	該当到達目標 3,4,5,6	講義内容 介護計画におけるアセスメント演習① 情報の解釈と統合■			
		予習	レジュメ及び資料を精読する・宿題に取り組む	0.5	時間
	3,4,5,6	復習	介護計画における情報の解釈と統合を理解する	0.5	時間
9	該当到達目標 3,4,5,6	講義内容 介護計画におけるアセスメント演習② 情報の解釈と統合■			
		予習	レジュメ及び資料を精読する	0.5	時間
	3,4,5,6	復習	介護計画における情報の解釈と統合を理解する	0.5	時間
10	該当到達目標 1,2	講義内容 介護実習Ⅲ事前指導① 個人目標及び課題の抽出			
		予習	介護実習Ⅱにおける課題を踏まえ、介護実習Ⅲの目標を抽出する	0.5	時間
	1,2	復習	介護実習Ⅲにおける個人目標及び課題を抽出する	0.5	時間
11	該当到達目標 1,2	講義内容 介護実習Ⅲ事前指導② 個人目標及び課題の明確化			
		予習	介護実習Ⅱにおける課題を踏まえ、介護実習Ⅲの目標を明確化する	0.5	時間
	1,2	復習	介護実習Ⅲにおける個人目標及び課題を明確化する	0.5	時間
12	該当到達目標 3,4,5,6	講義内容 介護計画におけるアセスメント演習③ 生活課題及び目標設定の試み■			
		予習	既存の事例を精読する	0.5	時間
	3,4,5,6	復習	介護計画における生活課題及び目標設定の試みを理解する	0.5	時間
13	該当到達目標 3,4,5,6	講義内容 介護計画におけるアセスメント演習④ 生活課題及び目標設定の特定■			
		予習	既存の事例を精読する	0.5	時間
	3,4,5,6	復習	介護計画における生活課題及び目標設定の特定を理解する	0.5	時間
14	該当到達目標	講義内容 介護計画におけるアセスメント演習⑤ 発表及び総括■			
		予習	既存の事例を精読する	0.5	時間

	3,4,5,6	復習	介護計画における様々な生活課題及び目標設定から、多角的な視点を理解する	0.5 時間
15	講義内容	介護実習Ⅲ直前ガイダンス■		
	該当到達目標	予習	事前オリエンテーションの内容を教員に報告する。実習内容を確認する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	実習の手引きを読み、提出用書類について確認する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たない分は各自で補完すること。			

科目名	介護総合演習Ⅳ(専門展開科目)						科目ナンバリング	SWK320		
英文名	Guidance of practice care trainingⅣ						講義形態	演習		
担当教員	堀口 美奈子、原田 欣宏、富田 俊									
科目に関連した実務経験	原田:介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務(経験) 堀口:介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務(経験) 富田:看護師として病院に勤務(経験)									
学年・開講期	3年 前期		選必・単位数	介護福祉コース 必修 1単位						
履修を必須とする資格	介護福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	3 4 5 8 10 11 12									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①将来、幅広く福祉の分野で活躍できる専門職になるためには、学内での学習と介護実習における学びを総合的に振り返り、主体的に考えて介護福祉を実践できる力の獲得が求められる。そこで本科目では、介護実習Ⅲの実習期間中に学生による学内学習日を設け、実習を振り返りながら、介護計画や実践について理解を深める。また、介護実習Ⅲ終了後、実習で展開した介護実践を客観的に振り返り、自己の介護観を養うとともに、学習効果を総合的にまとめて発表することで介護福祉に関する研究姿勢を学ぶことを目標とする。 ②プロセスレコードや事例検討によって実習を振り返りながら事例に関する研究を行い、まとめた研究を介護事例検討発表会で報告する。									
到達目標	1.利用者の状況に応じた介護福祉士としての関わりを思考できる。■ 2.自分の学びを整理し、理論に結び付けて説明することができる。■ 3.他者の学びについて理解し、自分の体験と比較検討することができる。■ 4.自分の考えや学びの結果について、他者に分かりやすく説明できる。 5.学びを分析し、福祉実践における今後の課題を見いだすことができる。■ 6.これまでの学びと自己評価から、自己の介護観を明確にすることができる。■									
使用教材	介護実習の手引き、教員作成資料、介護実習Ⅲで作成した介護計画や実習記録									
参考文献										
評価方法	学習態度 30%(授業中、グループ演習時の態度) 課題の理解度 30%(授業時の演習、課題に対しての理解度) 提出物 40%(実習報告書など必要書類の内容及び提出状況)									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出を求めるレポートは、適宜コメント等をつけて返却する。質問やフィードバック等は、随時、直接またはメール等にて受け付ける。									
オフィスアワー (研究室)	<原田>金曜 1 限 <堀口>月曜・水曜 3 限 <富田>月曜 18 時以降				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	帰校日指導								

	該当到達目標 1,2,3,4	予習	介護実習Ⅲで作成した介護計画や実習記録等を整理する	0.5 時間
		復習	演習内容の確認、介護計画・記録の書き方等の見直し	0.5 時間
2	該当到達目標 1,2	講義内容 介護実習Ⅲまとめ①(グループワークその1) ■		
		予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する	0.5 時間
		復習	演習内容の確認	0.5 時間
3	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容 介護実習Ⅲまとめ②(グループワークその2、個人面談その1) ■		
		予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する	0.5 時間
		復習	演習内容の確認	0.5 時間
4	該当到達目標 1,2,3,4,5	講義内容 介護実習Ⅲプロセスレコード①(グループワークその1、個人面談その2) ■		
		予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する	0.5 時間
		復習	演習内容の確認、全体討議後の要点をまとめておく	0.5 時間
5	該当到達目標 1,2,3,4,5	講義内容 介護実習Ⅲプロセスレコード②(グループワークその2、個人面談その3) ■		
		予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する	0.5 時間
		復習	演習内容の確認、全体討議後の要点をまとめておく	0.5 時間
6	該当到達目標 1,2,4,5	講義内容 事例研究の方法、知識と技術の統合		
		予習	次回の授業に関する指示を受けているため、指示内容を確認して予習する	0.5 時間
		復習	演習内容の確認、関連事項等のサーチ、事例研究の検討	0.5 時間
7	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	講義内容 事例研究①(介護実習事例に基づく研究その1) ■ 介護実践の科学的探究		
		予習	自分の研究内容について詳細をつめる	0.5 時間
		復習	演習内容の確認、授業を踏まえた研究内容の見直し	0.5 時間
8	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	講義内容 事例研究②(介護実習事例に基づく研究その2) ■		
		予習	自分の研究内容について詳細をつめる	0.5 時間
		復習	演習内容の確認、授業を踏まえた研究内容の見直し	0.5 時間
9	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	講義内容 事例研究③(介護実習事例に基づく研究その3) ■		
		予習	自分の研究内容について詳細をつめる	0.5 時間
		復習	演習内容の確認、授業を踏まえた研究内容の見直し	0.5 時間
10	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	講義内容 事例研究④(介護実習事例に基づく研究その4) ■		
		予習	自分の研究内容について詳細をつめる	0.5 時間
		復習	演習内容の確認、授業を踏まえた研究内容の見直し	0.5 時間
11	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	講義内容 事例研究⑤(介護実習事例に基づく研究その5) ■		
		予習	自分の研究内容について詳細をつめる	0.5 時間
		復習	演習内容の確認、授業を踏まえた研究内容の見直し	0.5 時間
12	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	講義内容 事例研究⑥(介護実習事例に基づく研究その6) ■		
		予習	自分の研究内容について詳細をつめる	0.5 時間
		復習	演習内容の確認、授業を踏まえた研究内容の見直し	0.5 時間
13	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	講義内容 事例研究⑦(介護実習事例に基づく研究その7)および事例研究発表準備 ■		
		予習	自分の研究内容について詳細をつめる、自分の発表方法を検討する	0.5 時間
		復習	演習内容の確認、授業を踏まえた研究内容、発表方法の見直し	0.5 時間
14	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	講義内容 「介護事例検討発表会」①(事例研究内容の発表その1)		
		予習	自分でまとめた事例について目を通しておく	0.5 時間
		復習	演習内容の確認、振り返り	0.5 時間
15	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	講義内容 「介護事例検討発表会」②(事例研究内容の発表その2)		
		予習	自分でまとめた事例について目を通しておく	0.5 時間
		復習	演習内容の確認、振り返り	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	予習・復習についての時間は参考程度であり、最終的に単位取得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	介護実習Ⅰ（専門展開科目）						科目ナンバリング	SWK321		
英文名	Practice Care TrainingⅠ						講義形態	実習		
担当教員	原田 欣宏、堀口 美奈子、富田 俊									
科目に関連した実務経験	原田：介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務（経験） 堀口：介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務（経験） 富田：看護師として病院に勤務（経験）									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	介護福祉コース必修 1 単位							
履修を必須とする資格	介護福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	3 4 5 8 10 11									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①実習をとおして、施設の概要や利用者の特性、職員の役割、介護福祉の専門性、記録類の意義について学修する。また、実際の体験から見えた自己の特性や課題について理解する。 ②介護福祉士として求められる生活支援技術やコミュニケーション等を実践し、1 日の出来事を実習日誌等にまとめ、考察する。また、実習全体のまとめとして実習レポートを作成する。									
到達目標	1.施設や事業所の概要と特徴、介護職員の役割を説明できる。■ 2.利用者の生活環境や個別性、特性について説明できる。■ 3.利用者とコミュニケーションを積極的に図ることができる。■ 4.介護福祉士に必要な技術（コミュニケーション、介助）を実施できる。■ 5.毎日の実習を振り返り、自己の課題や介護観を明確にすることができる。■ 6.1 日の出来事を実習日誌等にまとめ、考察することができる。記録の意義を説明することができる。■									
使用教材	介護実習の手引き									
参考文献										
評価方法	実習課題 40%（日誌、レポートなどの記録） 介護実習評価票 30%（施設からの評価票） 教員評価 30%（手引きの「1.目的、2.目標、3.具体的目標と内容」に関する巡回指導時の口頭報告内容）									
課題・評価に対するフィードバック方法	介護総合演習Ⅱの授業内で実習を振り返りながら、口頭指導を行う。									
オフィスアワー （研究室）	＜原田＞火曜 3 限 ＜堀口＞月曜・水曜 3 限 ＜富田＞月曜 2 限				メールアドレス （#→@）		連絡手段は、開始前に提示する			
講義内容	実習期間は 12 日間（96 時間）として実施する。 到達目標に向けて、実習施設の実習指導者によって立案される実習計画により、以下の点を実施する。 1) <u>介護過程の実践的展開方法</u> を学ぶ。■ 2) <u>多職種協働の実践</u> を学ぶ。■ 3) <u>地域における生活支援の実践</u> を学ぶ。■									

	4) 実習施設の概要と特徴について理解する。■ 5) 介護福祉職員の業務内容を理解する。■ 6) 利用者の生活環境について理解する。■ 7) 利用者の個性や特性について理解する。■ 8) コミュニケーションを行うことの効果や意味を学ぶ。■ 9) 生活支援技術の原則に沿った介助を学ぶ。■ 10) 介護関係の記録の様式について学ぶ。■ 11) 利用者のプライバシーの保護、守秘義務の重要性について学ぶ。■ 12) 介護福祉士としての自己の課題を明確にする。■		
	予習	介護総合演習Ⅰおよび関連科目を参考に、実習中の疑問点を見直す。	30 時間
	復習	日誌に記載しながら、不明な点を教科書などで確認する。	30 時間
合計時間(予習・復習)			60 時間
備考	質問などは実習巡回指導時のほか、メールなどを活用して行う。詳細は直前ガイダンスにて説明する。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。		

科目名	介護実習Ⅱ（専門展開科目）						科目ナンバリング	SWK322		
英文名	Practice Care Training Ⅱ						講義形態	実習		
担当教員	原田 欣宏、堀口 美奈子、富田 俊									
科目に関連した実務経験	原田：介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務 堀口：介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所、デイサービスセンターに勤務 富田：看護師として病院に勤務									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	必修 4 単位							
履修を必須とする資格	介護福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	35101116									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	利用者の障害のレベルによるニーズの違い、利用者の特性を理解し、個々に応じた援助技術を修得する。 この授業は現場実習のため、学生は実習先の指導者に対して積極的に質問を行い、なお不明な点や学習の進め方について巡回指導時に教員より指導を受ける。									
到達目標	1. 実習施設的环境や概況を理解する。■ 2. 介護職員の 1 日の業務内容や実習施設の社会的役割について理解する。■ 3. 利用者と積極的に交流を図り、コミュニケーション技術を修得する。■ 4. 高齢者や障害（児）者の特徴を理解した上で、個々に応じた介護技術を修得する。■ 5. 利用者のニーズを把握するためのアセスメントについて理解する。■ 6. 障害者の自立支援と社会資源の活用について理解する。■ 7. 介護職員間及び他の専門職種との連携について理解する。■ 8. 施設における記録の実際について学び、記録の意義について理解する。■ 9. 介護者のあり方及び自己の学習課題を理解する。■									
使用教材	介護実習の手引き									
参考文献										
評価方法	① 実習課題（日誌、レポートなどの記録）40％ ② 介護実習評価票（施設からの評価票）30％ ③ 教員評価（手引きの「1.目的、2.目標、3.具体的目標と内容」に関する巡回指導時の口頭報告内容）30％ 合計 60％以上で単位認定を行う									
課題・評価に対するフィードバック方法	介護総合演習Ⅲの授業内で実習を振り返りながら口頭指導を行う。									
オフィスアワー （研究室）	質問及び学習相談には、実習巡回指導時のほか、実習前後にも応じる。				メールアドレス （#→@）	原田 harada#takasaki-u.ac.jp 堀口 horiguchi-m#takasaki-u.ac.jp 富田 tomita-s#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	実習期間は 22 日間（176 時間）として実施する。 到達目標に向けて、実習施設の実習指導者によって立案される実習計画により、以下の点を実施する。 1) 施設種別の特性や周辺環境を理解する■（ <u>地域における生活支援の実践</u> ） 2) 利用者の施設での生活の理解、介護職員の業務と役割、施設の社会的役割、家族や家族会への対応について学ぶ■（ <u>多職種協働の実践</u> ）									

	3) 利用者の話への傾聴、表情や仕草の観察からニーズの把握、利用者の個性の違いの理解と、聴覚障害、視覚障害、運動障害等のある利用者とのコミュニケーション技術を修得する■ 4) 利用者の障害の程度に応じた環境整備の理解と援助技術の修得を学ぶ■ 5) 利用者の身体的状態、利用者の心理的状況、社会的環境・関係の把握する方法を学ぶ■(介護過程の実践的展開) 6) 障害者の自立への過程や発達保障の視点と人権尊重、自立支援、地域ボランティア、自立生活福祉用具の給付や貸与の制度について理解する■ 7) 介護職員間及び他の専門職種との連携を理解する■		
	予習	介護総合演習Ⅱおよび関連科目を参考に、実習中の疑問点を見直す。	期間中適宜
	復習	日誌に記載しながら、不明な点を教科書などで確認する。	期間中適宜
合計時間(予習・復習)			—
備考	質問などは実習巡回指導時のほか、メールなどを活用して行う。詳細は直前ガイダンスにて説明する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。		

科目名	介護実習Ⅲ(専門展開科目)						科目ナンバリング	SWK323		
英文名	Practice Care Training III						講義形態	実習		
担当教員	原田 欣宏、堀口 美奈子、富田 俊									
科目に関連した実務経験	原田:介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員として特別養護老人ホームなどに勤務(経験) 堀口:介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所、デイサービスセンターに勤務(経験) 富田:看護師として病院に勤務									
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	介護福祉コース必修 4 単位							
履修を必須とする資格	介護福祉士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	③ ④ ⑤ ⑩ ⑪									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①介護実習を通して、知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する。国家資格に求められる資質、技能、倫理、自己課題等、総合的に対応できる能力を身につける。 ②配属された施設において、介護が必要な人々の生活に介入する。様々な技術や知識を習得したことを、帰宅後に再確認し、実習日誌に整理する。また特定のケースをもとに必要な情報を収集し、事例検討に向けて用意周到に準備を行う。									
到達目標	1. 個々の生活リズムや個性を理解できる。■ 2. 様々な生活の場において個別ケアを理解できる。■ 3. 利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割を理解できる。■ 4. 利用者の課題を明確にするために、利用者のニーズに沿った介護計画を作成できる。■ 5. 介護計画実施後の評価、および評価から再アセスメントした計画を導くことができる。■ 6. 一連の介護過程の展開から、他科目で学習した知識や技術を総合し、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得できる。■									
使用教材	学科作成の実習の手引き									
参考文献										
評価方法	① 実習課題(日誌、レポートなどの記録)40% ② 介護実習評価票(施設からの評価票)30% ③ 教員評価(手引きの「1.目的、2.目標、3.具体的目標と内容」に関する巡回指導時の口頭報告内容)30% 合計 60%以上で単位認定を行う									
課題・評価に対するフィードバック方法	巡回指導・帰校日指導の際に、記載された記録物もと実習内容を振り返り、課題・評価に対し口頭でフィードバックを実施する。また、介護総合演習Ⅳの授業内で実習を振り返りながら、口頭指導を行う。									
オフィスアワー (研究室)	原田:火曜 3 時限 506 研究室 堀口:月曜・水曜 3 時限 502 研究室 富田:月曜 2 時限 504 研究室				メールアドレス (#→@)		直前ガイダンス等で、各担当教員からアナウンスします。			
講義内容	上記の到達目標に向けて、実習先に 24 日間(192 時間)通い、実習を行う■ 1. 利用者やその関係者(家族・親族・友人)等、施設・事業者・機関・団体等の職員等との基本的なコミュニケーションをはじめとする円滑な人間関係を形成する■ 2. 利用者やその関係者(家族・親族・友人)等との援助関係を形成する■									

	3. 利用者やその関係者(家族・親族・友人)等への権利擁護及び介護計画の立案及び実施、評価を実践する■ 4. 多職種が連携することで利用者を、多角的に援助するチームアプローチの実際を理解する■ 5. 介護福祉士としての職業倫理、施設・職員の就業規定など、組織の一員としての役割と責任を理解する■ 6. 施設・事業者・機関・団体等の運営やサービス提供のしくみや管理の実際を理解する■ 7. 当該実習先が、地域社会における施設・事業者・機関・団体等としての役割を理解する■ 8. 当該実習先が、地域社会へ働きかけるアウトリーチ、ネットワーク、社会資源の活用等を、具体的に理解する■		
	予習	実習先に関する予習、実習指導で準備した資料の確認	期間中適宜
	復習	実習先で教わったことの再確認、現場で得た実体験のまとめ 報告会用資料準備	期間中適宜
合計時間(予習・復習)			— 時間
備考	質問などは実習巡回指導時のほか、メールなどを活用して行う。詳細は直前ガイダンスにて説明する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。		

科目名	医療的ケア論Ⅰ（専門展開科目）							科目ナンバリング	SWK324		
英文名	Theory of Medical CareⅠ							講義形態	講義		
担当教員	富田 俊										
科目に関連した実務経験	専門看護師として急性期病院での経験を有す										
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	介護福祉コース必修 2 単位								
履修を必須とする資格	「介護福祉士」指定科目										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	③										
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
									○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法	授業中にリアクションペーパーに対する振り返りや質疑応答の時間を設ける。										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①医療的ケアに関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握などを習得する。喀痰吸引・経管栄養に必要な人体の構造と機能、急変状態に対応するための基礎知識を学ぶ。医療的ケアに必要な観察力や異常を察知する能力、医療職員との連携を理解する。 ②使用教材を要約した内容について事例を交え説明する。講義終了時にリアクションペーパーにて講義要約等をまとめて提出する。それをもとに次回の講義冒頭で補足する。										
到達目標	1. 医療的ケアとは何かを理解し、制度の概要や、「社会福祉士及び介護福祉士法」改正との関連を理解できる。 2. 医療的ケアにおける安全な療養生活の必要性やリスクマネジメントの考え方を理解できる。■ 3. 医療的ケアにおける感染予防及び清潔保持の必要性や消毒と滅菌の概念を理解できる。■ 4. 医療的ケアにおける呼吸器系の解剖、生理を正しく理解し、喀痰吸引の技術を理解できる。■ 5. 医療的ケアにおける消化器の解剖、整理を理解し、経管栄養の技術を理解できる■ 6. 医療的ケアにおいる状況に応じた医療職員との連携と緊急時の対応を理解できる。										
使用教材	教科書：中央法規出版社 最新 介護福祉士養成講座 15「医療的ケア」第2版 この他に必要な資料は授業時に配布する										
参考文献	特になし										
評価方法	課題（リアクションペーパー）30％， 期末筆記試験 70％										
課題に対するフィードバック	課題は講義で解説し、学習目標の到達度を確認する。 期末試験後は、出題の主旨及び、配点基準等を説明し、個別に対応する。										
オフィスアワー（研究室）	月曜 2 時限 （504 研究室）					メールアドレス （#→@）	tomita-s#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	医療的ケア概論 〈医療的ケアとは・医療的ケアについて〉									
	該当到達目標 1,2	予習	教科書第 1 章第 1 節〈医療的ケアとは・医療的ケアについて〉を確認する							1.5	時間
		復習	医療的ケアについて整理する							1.5	時間
2	講義内容	医療的ケア概論 〈喀痰吸引制度・医療的ケアと喀痰吸引等の背景〉を確認する									
	該当到達目標 1,2,4,5	予習	教科書第 1 章第 1 節〈喀痰吸引制度・医療的ケアと喀痰吸引等の背景〉を確認する							1.5	時間
		復習	喀痰吸引制度・医療的ケアと喀痰吸引等の背景を整理する							1.5	時間
3	講義内容	医療的ケア概論/安全な療養生活■									

	該当到達目標	予習	教科書第1章第1節〈その他の制度〉・第2節〈喀痰吸引や経管栄養の安全な実施〉を確認する	1.5 時間
	2,3,4,5	復習	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施について整理する	1.5 時間
4	講義内容	安全な療養生活■		
	該当到達目標	予習	第1章第2節〈喀痰吸引や経管栄養の安全な実施〉を整理する	1.5 時間
	2,3	復習	第2節〈喀痰吸引や経管栄養の安全な実施〉を理解する	1.5 時間
5	講義内容	安全な療養生活■		
	該当到達目標	予習	第1章第2節〈救急蘇生〉を確認する	1.5 時間
	2,3	復習	第1章第2節〈救急蘇生〉を理解する	1.5 時間
6	講義内容	清潔保持と感染■		
	該当到達目標	予習	第1章第3節〈感染予防・介護福祉職の感染予防〉を確認する	1.5 時間
	2,3	復習	感染予防・介護福祉職の感染予防を理解する	1.5 時間
7	講義内容	清潔保持と感染■		
	該当到達目標	予習	第1章第3節〈療養環境の清潔、消毒法・消毒と滅菌〉を確認する	1.5 時間
	2,3	復習	療養環境の清潔、消毒法・消毒と滅菌を理解する	1.5 時間
8	講義内容	健康状態の把握■		
	該当到達目標	予習	第1章第4節〈身体、精神の健康・健康状態を知る項目〉を確認する	1.5 時間
	2,6	復習	身体、精神の健康・健康状態を知る項目を理解する	1.5 時間
9	講義内容	健康状態の把握■		
	該当到達目標	予習	第1章第4節〈急変状態〉を確認する■	1.5 時間
	2,6	復習	急変状態を理解する	1.5 時間
10	講義内容	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論〈呼吸のしくみとはたらき〉■		
	該当到達目標	予習	第2章第1節〈呼吸のしくみとはたらき〉を確認する	1.5 時間
	2,4	復習	呼吸のしくみとはたらきを理解する	1.5 時間
11	講義内容	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論〈いつもと違う呼吸状態〉■		
	該当到達目標	予習	第2章第1節〈いつもと違う呼吸状態〉を確認する	1.5 時間
	2,6	復習	いつもと違う呼吸状態を理解する	1.5 時間
12	講義内容	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論〈喀痰吸引とは〉■		
	該当到達目標	予習	第2章第1節〈喀痰吸引とは〉を確認する	1.5 時間
	2,3,4	復習	喀痰吸引を理解する	1.5 時間
13	講義内容	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論〈人工呼吸器と吸引〉■		
	該当到達目標	予習	第2章第1節〈人工呼吸器と吸引〉を確認する	1.5 時間
	2,3,4	復習	人工呼吸器と吸引を理解する	1.5 時間
14	講義内容	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論〈子どもの吸引について〉		
	該当到達目標	予習	第2章第1節〈子どもの吸引について〉を確認する	1.5 時間
	2,3,4	復習	子どもの吸引について理解する	1.5 時間
15	講義内容	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論〈吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応〉■		
	該当到達目標	予習	第2章第1節〈吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応〉を確認する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応を理解する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	下線部は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		医療的ケア論Ⅱ（専門展開科目）						科目ナンバリング	SWK325		
英文名		Theory of Medical CareⅡ						講義形態	講義		
担当教員		富田 俊									
科目に関連した実務経験		専門看護師として急性期病院での経験を有す									
学年・開講期		4 年 前期	選必・単位数	介護福祉コース必修 2 単位							
履修を必須とする資格		「介護福祉士」									
学位授与方針との対応		1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
		1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
		1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連		③									
アクティブラーニング実施方法		PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
							○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法		授業中にリアクションペーパーに対する振り返りや質疑応答の時間を設ける。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		①医療的ケアに関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握などを習得する。喀痰吸引・経管栄養に必要な人体の構造と機能、急変状態に対応するための基礎知識を学ぶ。医療的ケアに必要な観察力や異常を察知する能力、医療職員との連携について理解を深める。 ②使用教材を要約した内容について事例を交え説明する。講義終了時にリアクションペーパーにて講義要約等をまとめて提出する。それをもとに次の講義冒頭で補足する。									
到達目標		1. 医療的ケアとは何かを理解し、制度の概要や、「社会福祉士及び介護福祉士法」改正との関連を理解できる。 2. 医療的ケアにおける安全な療養生活の必要性やリスクマネジメントの考え方を理解できる。■ 3. 医療的ケアにおける感染予防及び清潔保持の必要性や消毒と滅菌の概念を理解できる。■ 4. 医療的ケアにおける呼吸器系の解剖、生理を正しく理解し、喀痰吸引の技術を理解できる。■ 5. 医療的ケアにおける消化器の解剖、整理を理解し、経管栄養の技術を理解できる。■ 6. 医療的ケアにおける状況に応じた医療職員との連携と緊急時の対応を理解できる。■									
使用教材		教科書：中央法規出版社 最新 介護福祉士養成講座 15「医療的ケア」第2版 この他に必要な資料は授業時に都度配布あるいは指示をする									
参考文献		特になし									
評価方法		課題（リアクションペーパー）30％、期末筆記試験 70％									
課題に対するフィードバック		課題は講義で解説し、学習目標の到達度を確認する。 期末試験後は、出題の主旨及び、配点基準等を説明し、個別に対応する。									
オフィスアワー（研究室）		月曜 2 時限（504 研究室）				メールアドレス（#→@）		tomita-s#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論〈呼吸器系の感染と予防・事後の安全確認〉■									
	該当到達目標 2,3,4	予習	第 2 章第 1 節〈呼吸器系の感染と予防・事後の安全確認〉を確認する						1.5	時間	
		復習	呼吸器系の感染と予防・安全確認を理解する						1.5	時間	
2	講義内容	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論〈急変、事故発生時の対応と事前対策〉■ 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順（高齢者及び障害児、者の喀痰吸引手順解説）■									
	該当到達目標	予習	第 2 章第 1 節〈急変、事故発生時の対応と事前対策〉を確認する						1.5	時間	
			第 2 章第 2 節〈高齢者及び障害児、者の喀痰吸引手順解説〉を確認する								

	2,3,4	復習	第2章第1節〈急変、事故発生時の対応と事前対策〉を理解する 第2章第2節〈高齢者及び障害児、者の喀痰吸引手順解説〉を整理する	1.5 時間
3	講義内容	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順〈高齢者及び障害児、者の喀痰吸引手順解説〉■		
	該当到達目標	予習	第2章第2節〈高齢者及び障害児、者の喀痰吸引手順解説〉を整理する	1.5 時間
	2,3,4	復習	第2章第2節〈高齢者及び障害児、者の喀痰吸引手順解説〉を理解する	1.5 時間
4	講義内容	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順〈吸引の技術と留意点〉		
	該当到達目標	予習	第2章第2節〈吸引の技術と留意点〉を確認する	1.5 時間
	2,3,4	復習	吸引の技術と留意点を理解する	1.5 時間
5	講義内容	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順〈喀痰吸引にともなうケア〉■		
	該当到達目標	予習	第2章第2節〈喀痰吸引にともなうケア〉を確認する	1.5 時間
	2,3,4	復習	喀痰吸引にともなうケアを理解する	1.5 時間
6	講義内容	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順〈報告及び記録〉■		
	該当到達目標	予習	第2章第2節〈報告及び記録〉を確認する	1.5 時間
	2,3,4,6	復習	報告及び記録を理解する	1.5 時間
7	講義内容	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順〈まとめ〉■ 高齢者および障害児・者の経管栄養概論〈消化器系のしくみとはたらき〉■		
	該当到達目標	予習	第2章第2節を確認し自己の不明点を明確にする 第3章第1節〈消化器系のしくみとはたらき〉を確認する	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	喀痰吸引実施手順における自己の不明点を理解する 消化器系のしくみとはたらきを理解する	1.5 時間
8	講義内容	高齢者および障害児・者の経管栄養概論〈消化・吸収とよくある消化器症状〉■		
	該当到達目標	予習	第3章第1節〈消化・吸収とよくある消化器症状〉を確認する	1.5 時間
	2,3,5	復習	消化・吸収とよくある消化器症状を理解する	1.5 時間
9	講義内容	高齢者および障害児・者の経管栄養概論〈経管栄養とは〉■		
	該当到達目標	予習	第3章第1節〈経管栄養とは〉を確認する	1.5 時間
	2,3,5	復習	経管栄養とは、を理解する	1.5 時間
10	講義内容	高齢者および障害児・者の経管栄養概論〈注入内容に関する知識・経管栄養実施上の留意点〉■		
	該当到達目標	予習	第3章第1節〈注入内容に関する知識・経管栄養実施上の留意点〉を確認する	1.5 時間
	2,3,5	復習	注入内容に関する知識・経管栄養実施上の留意点を理解する	1.5 時間
11	講義内容	高齢者および障害児・者の経管栄養概論〈子どもの経管栄養・経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意〉■		
	該当到達目標	予習	第3章第1節〈子どもの経管栄養・経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意〉を確認する	1.5 時間
	2,3,5	復習	子どもの経管栄養・経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意を理解する	1.5 時間
12	講義内容	高齢者および障害児・者の経管栄養概論〈経管栄養に関係する感染と予防〉■		
	該当到達目標	予習	第3章第1節〈経管栄養に関係する感染と予防〉を確認する	1.5 時間
	2,3,5	復習	経管栄養に関係する感染と予防を理解する	1.5 時間
13	講義内容	高齢者および障害児・者の経管栄養概論〈経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認〉■		
	該当到達目標	予習	第3章第1節〈経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認〉を確認する	1.5 時間
	2,3,5,6	復習	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認を理解する	1.5 時間
14	講義内容	高齢者および障害児・者の経管栄養概論〈急変・事故発生時の対応と事前対策〉■ 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順〈経管栄養で用いる用具・器材のしくみ、清潔の保持〉■		
	該当到達目標	予習	第3章第1節〈急変・事故発生時の対応と事前対策〉を確認する 第3章第2節〈経管栄養で用いる用具・器材のしくみ、清潔の保持〉を確認する	1.5 時間
	2,3,4,5,6	復習	急変・事故発生時の対応と事前対策を理解する 経管栄養で用いる用具・器材のしくみ、清潔の保持を整理する	1.5 時間
15	講義内容	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順〈経管栄養で用いる用具・器材のしくみ、清潔の保持〉■		

令和 6 年度 社会福祉学科シラバス

	該当到達目標	予習	第 3 章第 2 節〈経管栄養で用いる用具・器材のしくみ、清潔の保持〉を整理する	1.5 時間
	2,3,4	復習	経管栄養で用いる用具・器材のしくみ、清潔の保持を理解する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	下線部は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	医療的ケア論Ⅲ(専門展開科目)							科目ナンバリング	SWK326	
英文名	Theory of Medical CareⅢ							講義形態	講義	
担当教員	富田俊、白井昭裕、迫田由美子									
科目に関連した実務経験	富田俊: 専門看護師として急性期病院での経験を有す 白井昭裕: 訪問看護ステーションの管理者として勤務、医療的ケア教員の経験を有す 迫田由美子: 医療的ケア教員の経験を有す									
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	介護福祉コース必修 1 単位							
履修を必須とする資格	「介護福祉士」									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	③									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
						○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法	授業中にリアクションペーパーに対する振り返りや質疑応答の時間を設ける。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①医療的ケアに関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握などを習得する。喀痰吸引・経管栄養に必要な人体の構造と機能、急変状態に対応するための基礎知識を学ぶ。医療的ケアに必要な観察力や異常を察知する能力、医療職員との連携について理解を深める。 ②使用教材を要約した内容について事例を交え説明する。講義終了時にリアクションペーパーにて講義要約等をまとめて提出する。それをもとに次回の講義冒頭で補足する。5回目以降の講義は、医療的ケアにおける吸引・経管栄養についてシミュレーターを用いて演習を実施する。									
到達目標	1. 医療的ケアとは何かを理解し、制度の概要や、「社会福祉士及び介護福祉士法」改正との関連を理解できる。 2. 医療的ケアにおける安全な療養生活の必要性やリスクマネジメントの考え方を理解できる。■ 3. 医療的ケアにおける感染予防及び清潔保持の必要性や消毒と滅菌の概念を理解できる。■ 4. 医療的ケアにおける消化器の解剖、整理を理解し、経管栄養の技術を理解できる。■ 5. 医療的ケアにおける状況に応じた医療職員との連携と緊急時の対応を理解できる。■ 6. 医療的ケアにおける感染予防及び清潔保持の必要性や消毒と滅菌の概念を理解し、実践できる。■ 7. 医療的ケアにおける呼吸器系の解剖生理を正しく理解し、喀痰吸引の技術を理解し、実践できる。■ 8. 医療的ケアにおける消化器の解剖、整理を理解し、経管栄養の技術を理解し、実践できる。■ 9. 医療的ケアにおける状況に応じた医療職員との連携と緊急時の対応を理解し、実践できる。■									
使用教材	教科書: 中央法規出版社 最新 介護福祉士養成講座 15 「医療的ケア」 第 2 版 この他に必要な資料は授業時に配布する									
参考文献	特になし									
評価方法	課題(リアクションペーパー) 30%, 期末筆記試験 30%, 授業態度 40%									
課題に対するフィードバック	課題は講義で解説し、学習目標の到達度を確認する。 期末試験後は、出題の主旨及び、配点基準等を説明し、個別に対応する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜 2 時限 (504 研究室)				メールアドレス (#→@)		tomita-s#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順 〈経管栄養の技術と留意点〉■								
	該当到達目標	予習	第 3 章第 2 節〈経管栄養の技術と留意点〉を確認する						1.5 時間	

	1,2,3,4	復習	経管栄養の技術と留意点を理解する	1.5 時間
2	講義内容	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順 〈経管栄養に必要なケア〉■		
	該当到達目標	予習	第 3 章第 2 節〈経管栄養に必要なケア〉を確認する	1.5 時間
	2,3,4	復習	経管栄養に必要なケアを理解する	1.5 時間
3	講義内容	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順 〈記録及び報告〉		
	該当到達目標	予習	第 3 章第 2 節〈記録及び報告〉を確認する	1.5 時間
	2,3,4,5	復習	記録及び報告について、理解する。経管栄養の実施手順の不明点を明確にする	1.5 時間
4	講義内容	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順 〈まとめ〉■ 心肺蘇生演習■		
	該当到達目標	予習	救急蘇生法の手引きを確認する。経管栄養の実施手順の不明点を明確にする。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	経管栄養の実施手順の不明点を理解する。 救急蘇生を演習し、自己の課題を見出す。	1.5 時間
5	講義内容	喀痰吸引(口腔、鼻腔、気管)/経管栄養(胃ろう、経鼻経管栄養)の演習■		
	該当到達目標	予習	各演習項目の実施手順を確認する	1.5 時間
	6,7,8,9	復習	自己の演習を振り返り、不足点を明確にして復習をする	1.5 時間
6	講義内容	喀痰吸引(口腔、鼻腔、気管)/経管栄養(胃ろう、経鼻経管栄養)の演習■		
	該当到達目標	予習	各演習項目の実施手順を確認する	1.5 時間
	6,7,8,9	復習	自己の演習を振り返り、不足点を明確にして復習をする	1.5 時間
7	講義内容	喀痰吸引(口腔、鼻腔、気管)/経管栄養(胃ろう、経鼻経管栄養)の演習■		
	該当到達目標	予習	各演習項目の実施手順を確認する	1.5 時間
	6,7,8,9	復習	自己の演習を振り返り、不足点を明確にして復習をする	1.5 時間
	講義内容			
	該当到達目標	予習		時間
		復習		時間
合計時間(予習・復習)				21 時間
備考	・記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たない分は各自で補完すること。 ・下線部は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	医療的ケア演習(専門展開科目)						科目ナンバリング	SWK327		
英文名	Seminar in Medical Care						講義形態	演習		
担当教員	富田俊、白井昭裕、迫田由美子									
科目に関連した実務経験	富田俊: 専門看護師として急性期病院での経験を有す 白井昭裕: 訪問看護ステーションの管理者として勤務、医療的ケア教員の経験を有す 迫田由美子: 医療的ケア教員の経験を有す									
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	介護福祉コース必修 1 単位							
履修を必須とする資格	「介護福祉士」指定科目									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	③									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
						○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法	授業中にリアクションペーパーに対する振り返りや質疑応答の時間を設ける。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職の連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。 ②医療的ケアにおける吸引・経管栄養についてシミュレーターを用いて演習を実施する。									
到達目標	1. 医療的ケアにおける感染予防及び清潔保持の必要性や消毒と滅菌の概念を理解し、実践できる。■ 2. 医療的ケアにおいて呼吸器系の解剖生理を正しく理解し、喀痰吸引の技術を理解し、実践できる。■ 3. 医療的ケアにおいて消化器の解剖、整理を理解し、経管栄養の技術を理解し、実践できる。■ 4. 状況に応じた医療職員との連携と緊急時の対応を理解し、実践できる。■									
使用教材	教科書: 中央法規出版社 最新 介護福祉士養成講座 15 「医療的ケア」 第 2 版 この他に必要な資料は授業時に配布する									
参考文献	特になし									
評価方法	課題(リアクションペーパー)30%, 演習の取り組み状況 30%, 演習の合格基準の到達度 40%									
課題に対するフィードバック	課題は講義で解説し、学習目標の到達度を確認する。 期末試験後は、出題の主旨及び、配点基準等を説明し、個別に対応する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜 2 時限 (504 研究室)				メールアドレス (#→@)	tomita-s#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	喀痰吸引(口腔、鼻腔、気管)/経管栄養(胃ろう、経鼻経管栄養)の演習■								
	該当到達目標	予習	各演習項目の実施手順を確認する						1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	自己の演習を振り返り、不足点を明確にして復習をする						1.5 時間	
2	講義内容	喀痰吸引(口腔、鼻腔、気管)/経管栄養(胃ろう、経鼻経管栄養)の演習■								
	該当到達目標	予習	各演習項目の実施手順を確認する						1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	自己の演習を振り返り、不足点を明確にして復習をする						1.5 時間	
3	講義内容	喀痰吸引(口腔、鼻腔、気管)/経管栄養(胃ろう、経鼻経管栄養)の演習■								
	該当到達目標	予習	各演習項目の実施手順を確認する						1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	自己の演習を振り返り、不足点を明確にして復習をする						1.5 時間	
4	講義内容	喀痰吸引(口腔、鼻腔、気管)/経管栄養(胃ろう、経鼻経管栄養)の演習■								
	該当到達目標	予習	各演習項目の実施手順を確認する						1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	自己の演習を振り返り、不足点を明確にして復習をする						1.5 時間	

5	講義内容	喀痰吸引(口腔、鼻腔、気管)/経管栄養(胃ろう、経鼻経管栄養)の演習■		
	該当到達目標	予習	各演習項目の実施手順を確認する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	自己の演習を振り返り、不足点を明確にして復習をする	1.5 時間
6	講義内容	喀痰吸引(口腔、鼻腔、気管)/経管栄養(胃ろう、経鼻経管栄養)の演習■		
	該当到達目標	予習	各演習項目の実施手順を確認する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	自己の演習を振り返り、不足点を明確にして復習をする	1.5 時間
7	講義内容	喀痰吸引(口腔、鼻腔、気管)/経管栄養(胃ろう、経鼻経管栄養)の演習■		
	該当到達目標	予習	各演習項目の実施手順を確認する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	自己の演習を振り返り、不足点を明確にして復習をする	1.5 時間
8	講義内容	喀痰吸引(口腔、鼻腔、気管)/経管栄養(胃ろう、経鼻経管栄養)の演習■		
	該当到達目標	予習	各演習項目の実施手順を確認する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	自己の演習を振り返り、手順を見直す	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	・記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たない分は各自で補完すること。 ・「演習」の回数は次のとおりとすること。 喀痰吸引: 口腔5回以上、鼻腔5回以上、気管カニューレ内部5回以上 経管栄養: 胃ろう又は腸ろう5回以上、経鼻経管栄養5回以上 ・講義規定回数で演習項目を終了しない場合、補講を実施する。 ・下線部は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	ケアマネジメント論(専門展開科目)					科目ナンバリング	SWA301			
英文名	Care Management Theory					講義形態	講義			
担当教員	河村 俊一									
科目に関連した実務経験	社会福祉士として地域包括支援センター4年(勤務) 介護支援専門員として居宅介護支援事業所2年(勤務) 生活相談員(社会福祉士)として特別養護老人ホーム等8年(勤務) 社会福祉士として医療機関8年(現在) 代表理事(社会福祉士)非営利型一般社団法人として地域活動を8年(現在)									
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	③									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○								○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	ケア実践におけるマネジメントは、介護保険制度を機にその必要性が重要視されている。マネジメントの基本的な理解とケアマネジメントの仕組みと視点について学びを深め、実際の実践場面を通じてその取り組みについて理解を深めることができる。将来の相談援助業務において実践的なマネジメント視点を持つことができる。 授業については、具体的な事例や現状の課題などを含め、仕組みだけでなく、支援活動における視点などを踏まえて進めていく。									
到達目標	1. マネジメントの必要性を理解することができる。■ 2. 他分野におけるマネジメントの活用とケアマネジメントのあり方を理解できる。 3. 相談支援課程におけるケアマネジメントの実践について説明することができる。■ 4. 生活や社会に起こる課題を事例を通じて学び、ケアマネジメントの必要性を説明することができる。■									
使用教材	配布資料及び随時アナウンス									
参考文献	「人間行動理解」で磨くケアマネジメント実践力 中央法規出版									
評価方法	課題 70%、出席状況、受講姿勢 30% 総合評価で 60%以上を合格とする									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題は、提出期限後に授業内にて解説を行う。									
オフィスアワー (研究室)	講義における質問、相談は授業前後にも受け付けます。 予習等で確認が必要な場合は、メールにて相談をお受けします。				メールアドレス (#→@)		講義ガイダンスの際に案内します。			

1	講義内容	ガイダンス、ケアマネジメントとは何か■		
	該当到達目標	予習	他の教科で学んだ「ケアマネジメント」などの用語が出ている箇所を確認する。	1.5 時間
	1	復習	ケアマネジメントの定義について整理する。	1.5 時間
2	講義内容	多用されるマネジメントについて■		
	該当到達目標	予習	どのような分野でマネジメントが使用されているか調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	多分野で活用されているマネジメントとケアマネジメントについて整理する。	1.5 時間
3	講義内容	対人援助職に必要な基本的な姿勢・知識・スキル■		
	該当到達目標	予習	テキストに目を通す。	1.5 時間
	1	復習	対人援助職に要求される力について理解できる。	1.5 時間
4	講義内容	自己覚知、自分を知ること■		
	該当到達目標	予習	テキストに目を通す。	1.5 時間
	1,4	復習	自己覚知について理解し、自己受容、他者受容、自分の考え方を理解できる。	1.5 時間
5	講義内容	職業倫理と価値観■		
	該当到達目標	予習	職業倫理についての解釈を調べる。	1.5 時間
	1,4	復習	ケアマネジャーに求められる職業倫理と考え方を理解できる。	1.5 時間
6	講義内容	暮らしから考えるマネジメントの視点		
	該当到達目標	予習	人の暮らしの構成要素、生活行動について調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	ケアマネジメントの機能、ニーズとディマンドを理解できる。	1.5 時間
7	講義内容	ケアマネジメントにおけるコーディネーション力■		
	該当到達目標	予習	医療、福祉専門職とその職種の役割を調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	援助的関係性において、連携、協働、実践について理解できる。	1.5 時間
8	講義内容	面接のプロセス、統合的アセスメント■		
	該当到達目標	予習	テキストに目を通す。	1.5 時間
	1,4	復習	面接における段階的アプローチのポイントについて理解できる。	1.5 時間
9	講義内容	アセスメント等における面接のあり方■		
	該当到達目標	予習	テキストに目を通す。	1.5 時間
	1,2,4	復習	面接時における注意点や配慮すべき内容について理解できる。	1.5 時間
10	講義内容	ケアマネジメントの過程① ケアマネジメントの仕組みと事例■		
	該当到達目標	予習	テキストに目を通す。	1.5 時間
	1,4	復習	事例を通じて、ケアマネジメントの支援段階を理解できる。	1.5 時間
11	講義内容	ケアマネジメントの過程② アセスメント情報、解決すべき課題の整理、プラン作成■		
	該当到達目標	予習	介護保険制度におけるケアプラン作成の流れについて確認する。	1.5 時間
	1,3,4	復習	アセスメントに必要な情報や視点、課題への視点について理解できる。	1.5 時間
12	講義内容	ケアマネジメントの過程③ モニタリング、再アセスメント■		
	該当到達目標	予習	介護保険サービス利用における課題等について情報収集を行う。	1.5 時間
	1,3,4	復習	モニタリング、再アセスメントにおける視点を理解できる。	1.5 時間
13	講義内容	事例から理解するケアマネジメント(介護者負担軽減と家庭環境の変化)■		
	該当到達目標	予習	テキストに目を通す。	1.5 時間
	1,4	復習	世帯構成やライフステージが及ぼす生活への影響について理解できる。	1.5 時間
14	講義内容	事例から理解するケアマネジメント(虐待事例)■		
	該当到達目標	予習	高齢者虐待防止法等関連する法律について情報収集する。	1.5 時間
	1,3,4	復習	虐待事例へのケアマネジメント視点について理解できる。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ・振り返り		
	該当到達目標	予習	これまでの講義、配布資料等の読み返し。	1.5 時間

	1,2,3,4	復習	講義内容で扱った事例等を再度見直し、自らの視点の変化を確認する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	講義内容や制度等で不明な点や質問がある場合は、授業中に質問を受け、その場で考えていく又は回答をしていくような進め方で行いますので、積極的な授業参加を期待します。 講義にて配布した資料は各自ファイリングしておくことをお勧めします。 本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定(N)」となり、GPAの算出や卒業必要単位の対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する。また、履修登録時にCAPのカウントには含めない。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		リハビリテーション論(専門展開科目)						科目ナンバリング	SWA304		
英文名		Studies in Rehabilitation						講義形態	講義		
担当教員		解良 武士									
科目に関連した実務経験		理学療法士として、大学病院および急性期総合病院、慢性期病院勤務■									
学年・開講期		2 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
		1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
		1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連		③									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○	○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		リハビリテーションチームの一員として、介護を必要とする対象者の特徴や特性に関する知識を身につけるとともに、リハビリテーションの視点を持って介護を提供する実践能力を修得する。 前半の関連する疾病と障害との理解の内容については、各グループで自己学習、プレゼンテーションを行ってもらう。また後半は、4 号館で実技・実習を通じてリハビリテーションについて理解を深める。									
到達目標		【認知領域】リハビリテーションの概念や介護を必要とする対象者の特性を述べるができる。 【精神運動領域】リハビリテーションの視点を持った介護技術を実施してみせることができる。■ 【情意領域】リハビリテーションの視点を持った介護技術についての意見を示すことができる。■									
使用教材		配布資料									
参考文献		指定なし									
評価方法		以下の項目で評価を行い、100 点中 60 点以上を獲得した場合を合格とする。 提出物・グループワーク等(50 点)、筆記試験(50 点)									
課題・評価に対するフィードバック方法		課題発表に対して講義中に随時フィードバックする									
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)		kera#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション、リハビリテーションの概念(協働する多職種の役割と機能)									
	該当到達目標	予習	リハビリテーションの概念を下調べする。							1.5 時間	
	1	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。							1.5 時間	
2	講義内容	障害の概念、ICF、リハビリテーションの流れについて学ぶ(障害の基礎的理解、協働する多職種の役割と機能、連携と協働、障害概念と特性、「障害」と「障害者」の概念、障害概念と特性)									
	該当到達目標	予習	障害の概念およびリハビリテーションチームを構成する専門職種について下調べする。							1.5 時間	
	1	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。							1.5 時間	
3	講義内容	ADL・QOL のとらえ方(生活支援の理解)									
	該当到達目標	予習	ADL および QOL の概念を下調べする。							1.5 時間	
	1	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。							1.5 時間	
4	講義内容	生活不活発病(廃用症候群)の障害構造を ICF で理解し、リハビリテーションについて学ぶ(介護を必要とする人の理解)■									
	該当到達目標	予習	生活不活発病(廃用症候群)について下調べする。							1.5 時間	
	2	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。							1.5 時間	

5	講義内容	高齢者の特徴(老年症候群・認知症)の障害構造をICFで理解し、リハビリテーションについて学ぶ(介護を必要とする人の理解、老化に伴うこととからだの変化と生活、高齢者の定義と特性)■		
	該当到達目標	予習	高齢者の運動および精神特性について下調べする。	1.5 時間
	2	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
6	講義内容	運動器疾患(整形外科疾患)の障害構造をICFで理解し、リハビリテーションについて学ぶ(介護を必要とする人の理解)■		
	該当到達目標	予習	骨折、変形性膝関節症、腰部脊柱管狭窄症の症状について下調べする。	1.5 時間
	2	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
7	講義内容	中枢神経疾患の障害構造をICFで理解し、リハビリテーションについて学ぶ(介護を必要とする人の理解)■		
	該当到達目標	予習	脳卒中やパーキンソン病の症状について下調べする。	1.5 時間
	2	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
8	講義内容	内部障害の症状の障害構造をICFで理解し、リハビリテーションについて学ぶ(介護を必要とする人の理解)■		
	該当到達目標	予習	バランスがよい姿勢と悪い姿勢の違いについて考える。	1.5 時間
	2	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
9	講義内容	実習①姿勢・動作のとらえ方■		
	該当到達目標	予習	姿勢とは何か、意味を調べてくる。	1.5 時間
	3,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
10	講義内容	実習②運動療法(ストレッチ、筋力増強運動など)■		
	該当到達目標	予習	これまでにやったことがあるストレッチ、筋トレを書き出す。	1.5 時間
	3,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
11	講義内容	実習③(ポジショニング・寝返り・起き上がり)【前半】褥瘡と寝返りについて■		
	該当到達目標	予習	他の講義・実習で習った介護方法(ポジショニング・寝返り・起き上がり)の資料を集め、復習する。	1.5 時間
	3,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
12	講義内容	実習④ポジショニング・寝返り・起き上がり【後半】動作を介助する■		
	該当到達目標	予習	車椅子からベッドへの乗り移り(移乗)方法について下調べする。	1.5 時間
	3,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
13	講義内容	実習⑤リハビリテーション介護(歩行補助具・車椅子)(自立に向けた移動の介護)		
	該当到達目標	予習	車椅子の基本的構造、歩行補助具、補装具にはどのようなものがあるのかを下調べする。	1.5 時間
	3,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
14	講義内容	実習⑥リハビリテーション介護(福祉用具)(自立に向けた居住環境の整備、福祉用具の意義と活用)		
	該当到達目標	予習	福祉用具にはどのようなものがあるのかを下調べする。	1.5 時間
	3,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	これまでの配布資料を用いて第1～14回の授業内容を概括する。	1.5 時間
	1-5	復習	これまでの配布資料を整理し、授業内容をまとめる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	グループワーク(プレゼンテーション)を多く行うため、積極的に参加する学生を求めます。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	レクリエーション実技(専門展開科目)						科目ナンバリング	SWA305		
英文名	Practical Recreational Activities						講義形態	演習		
担当教員	大家 千枝子									
科目に関連した実務経験	レクリエーション・インストラクター養成講習会講師として、公認指導者養成事業に従事している。(公益財団法人日本レクリエーション協会公認・群馬県レクリエーション協会主催、2015 年度～)									
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	③									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○		○		○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	人びとの「心を元気にする」ための手助けができるレクリエーション支援の強み(専門性)を理解し、そのための具体的な支援の方法を身につける。 支援の手段として用いるレクリエーション活動を学んだうえで、受講者自身が実際に支援演習を行い、理論と実技の学習成果を実践力へとつなげる。前半は教員によるレクチャーがベースだが、後半は「心を元気にする」ための理論を実践へと結び付けるため、各自でプログラムを立案し、自分以外の受講生や地域住民を対象にレクリエーション支援を行う。									
到達目標	1. あたたかくもてなす意識を持ちながら意思疎通を図ることで信頼関係を構築するホスピタリティを理解し、活用することができる。■ 2. コミュニケーションを段階的に促進することで良好な集団づくりを進めるアイスブレイキングのモデルやプログラムを活用することができる。■ 3. 成功体験によって、仲間との達成感の共有を促し、自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法について理解し、活用することができる。■ 4. レク支援のプログラムの構造を理解し、学習成果を総合的に生かしたプログラムを立案できる。 5. 理論と実技の学習成果を生かし、目的・対象に応じた具体的な支援の演習を行うことができる。									
使用教材	「基本のアイスブレイキング」、監修 宇田川光雄、公益財団法人日本レクリエーション協会、2014 年、2,300 円(税別)									
参考文献	「楽しさをとおした心の元気づくり」、公益財団法人日本レクリエーション協会、2017 年、1,800 円(税別)									
評価方法	授業や授業期間中の取り組みを反映した実践点 35%、レク支援演習 65%									
課題・評価に対するフィードバック方法	自分以外の履修者による課題や感想、評価を知ることが学生相互の刺激になるため、C-Learning やコメントシートを使ってフィードバックする。ただし最終課題は返却する予定はないので、開示を希望するものは本人が直接申し出ること。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)	oie#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス、さまざまな現場でのレク支援について理解を深める(視聴覚教材使用)								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義目標などを理解する。						0.5 時間	
	1,2,3,4	復習	到達目標、学位記授与方針、成績評価方法などを確認する。						0.5 時間	
2	講義内容	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ								
	該当到達目標	予習	これまでの自身が受けてきたレク支援を振り返る。						0.5 時間	
	1,2,3,4	復習	ホスピタリティやアイスブレイキングの方法や展開方法について復習する						0.5 時間	
3	講義内容	良好な集団づくりの方法・アイスブレイキング								

	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布された資料に目を通しておく。	0.5 時間
		復習	C-Learning に回答する。	0.5 時間
4	講義内容	自主的、主体的に楽しむ力を高めるレクリエーション活動の展開方法		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布された資料に目を通しておく。	0.5 時間
		復習	C-Learning に回答する。	0.5 時間
5	講義内容	モデル・プログラムの習得(プログラムを立案する際の見本を体験する)		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布された資料に目を通しておく。	0.5 時間
		復習	C-Learning に回答する。	0.5 時間
6	講義内容	レクリエーション活動の習得(4つの柱を中心に個々の活動について学ぶ)		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布された資料に目を通しておく。	0.5 時間
		復習	C-Learning に回答する。	0.5 時間
7	講義内容	安全管理方法とレク支援演習実施について■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布された資料に目を通しておく。	0.5 時間
		復習	C-Learning に回答する。	0.5 時間
8	講義内容	レクリエーション支援演習の準備 プログラムの立案 その1■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布された資料に目を通しておく。	0.5 時間
		復習	抽選でわりあてられた自身のレク支援課題を検討する。	0.5 時間
9	講義内容	レクリエーション支援演習の準備 プログラムの立案 その2 予行演習		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	企画書・プログラム内容・進行表の作成。	0.5 時間
		復習	企画書・プログラム内容・進行表を作成。担当教員チェックを受ける。	0.5 時間
10	講義内容	レクリエーション支援演習の実施 その1		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	支援者は予行演習。対象者は事前に連絡された指示に従って準備する。	0.5 時間
		復習	支援者は発表後のプログラム進行表の作成、対象者は評価シートの入力。	0.5 時間
11	講義内容	レクリエーション支援演習の実施 その2		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	支援者は予行演習。対象者は事前に連絡された指示に従って準備する。	0.5 時間
		復習	支援者は発表後の書類作成、対象者は評価シートの入力。	0.5 時間
12	講義内容	レクリエーション支援演習の実施 その3		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	支援者は予行演習。対象者は事前に連絡された指示に従って準備する。	0.5 時間
		復習	支援者は発表後の書類作成、対象者は評価シートの入力。	0.5 時間
13	講義内容	レクリエーション支援演習の実施 その4		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	支援者は予行演習。対象者は事前に連絡された指示に従って準備する。	0.5 時間
		復習	支援者は発表後の書類作成、対象者は評価シートの入力。	0.5 時間
14	講義内容	レクリエーション支援演習の実施 その5		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	支援者は予行演習。対象者は事前に連絡された指示に従って準備する。	0.5 時間
		復習	支援者は発表後の書類作成、対象者は評価シートの入力。	0.5 時間
15	講義内容	レクリエーション支援演習の振り返りとまとめ、授業で学んだことの整理。目標到達度の確認。■		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	これまでの授業で学んだこと、自身の支援演習を振り返る。	0.5 時間
		復習	目標到達度の確認。今後のレク支援活動の発展方法を検討する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	【単位修得に必要な時間について】 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			
	【履修条件】 ・この科目は、「レクリエーション論(2年・前期)」を履修していることが望ましい。 ・心を元気にする知識と技術を習得して人前に立つことを目指すため、積極的に参加する学生を求める。			
	【ルール】 次の行為は授業中にしないこと(信頼関係づくりの方法「あたたかくもてなす意識と配慮」の観点より)。 ① ガムを噛む、② 授業と関係のないスマホ使用、③ 私語、わがまま、ふざけた態度をとる			

	■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	福祉レクリエーション論(専門展開科目)						科目ナンバリング	SWA306		
英文名	Welfare and Recreation						講義形態	講義		
担当教員	松沼 記代									
科目に関連した実務経験	社会福祉士及び福祉レクリエーションワーカーとして、デイサービスセンターで3年6か月経験 社会福祉士及び福祉レクリエーションワーカーとして、グループホームで1年間経験 社会福祉士及び福祉レクリエーションワーカーとして、大学在職中に介護予防教室の運営8年間経験									
学年・開講期	2年 後期	選必・単位数	選択 2単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGsとの関連	③									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	社会福祉実践におけるレクリエーションは、利用者や参加者の喜びや生きがいと深く結びつき、日常のQOLの向上に欠かせないものであることを理解する。また、福祉レクリエーションがどのような分野で応用されているか理解する。 授業は、学生が福祉の現場や相談機関、地域で利用者の自立・生きがい支援を行う上で必要な理論や方法、技術を獲得できるように、講義や演習を行う。									
到達目標	1. 社会福祉・医療・保健分野でのレクリエーション・サービスの意義について説明できる。■ 2. レクリエーションの歴史、課題について説明できる。■ 3. 福祉レクリエーションワーカーの役割について説明できる。■ 4. 福祉レクリエーションの実践方法について説明できる。■									
使用教材	資料を毎回配布する。									
参考文献	『楽しさの追求を支える理論と支援の方法』～理論に根ざした福祉レクリエーション支援の方法～ (2014年度第2刷版)									
評価方法	筆記試験(80%)、レポート(15%)、授業参加度(5%)で評価する。総合評価60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートにはコメントを付けて返却する。 定期試験の前に出題の範囲や意図を提示する。									
オフィスアワー (研究室)	授業の前後の時間。質問や意見はメールからも、随時受け付ける。				メールアドレス (#→@)	k-matsunuma#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	福祉レクリエーションとは① 意義と目的■								
	該当到達目標	予習	福祉施設におけるレクリエーションの実情を確認する。						1 時間	
	1	復習	当日の講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する。						1 時間	
2	講義内容	福祉レクリエーションとは② 歩み■								
	該当到達目標	予習	レクリエーションが生活の中でどのように活かされているか調べる。						1 時間	
	1,2	復習	レクリエーションの歴史から今後の課題を考える。						1 時間	

3	講義内容	福祉レクリエーション支援の理解① 楽しさの追求■		
	該当到達目標	予習	日常の中の楽しい活動について調べる。	1 時間
	1,2	復習	配布資料の内容を確認し、生活の中に活かす。	1 時間
4	講義内容	福祉レクリエーション支援の理解② 楽しさを見通すための方法■		
	該当到達目標	予習	日常の中の楽しい活動について調べる。	1 時間
	1,3	復習	配布資料の内容を確認し、生活の中に活かす。	1 時間
5	講義内容	福祉レクリエーション支援の理解③ 支援者のあり方■		
	該当到達目標	予習	実践できるレクリエーション活動を考える。	1 時間
	1,3	復習	配布資料の内容を確認し、支援する際のポイントを整理する。	1 時間
6	講義内容	楽しさ追求のための支援の方法① APIE プロセス■		
	該当到達目標	予習	レクリエーションが生活の中でどのように活かされているか調べる。	1 時間
	1,3	復習	配布資料の内容を確認し、支援する際のポイントを整理する。	1 時間
7	講義内容	楽しさ追求のための支援の方法② TR サービスモデル■		
	該当到達目標	予習	北米のレクリエーション支援の現状について調べる。	1 時間
	1,2,3,4	復習	我が国への TR サービスの応用について考える。	1 時間
8	講義内容	楽しさ追求のための支援の方法③ 行動変容と自己効力感		
	該当到達目標	予習	行動変容と自己効力感について調べる。	1 時間
	3,4	復習	行動変容を必要とする課題や自己効力感をもつことの意義を考える。	1 時間
9	講義内容	高齢者を対象にした福祉サービスでの実践例① デイサービスセンター・小規模多機能型施設■		
	該当到達目標	予習	高齢者の在宅サービスについて調べる。	1 時間
	3,4	復習	高齢者の在宅サービスにおけるレクリエーション支援の方法を確認する。	1 時間
10	講義内容	高齢者を対象にした福祉サービスでの実践例② 特別養護老人ホーム■		
	該当到達目標	予習	高齢者の入所施設におけるレクリエーション支援について調べる。	1 時間
	3,4	復習	高齢者の入所施設におけるレクリエーション支援の方法を確認する。	1 時間
11	講義内容	高齢者のためのレクリエーション体験		
	該当到達目標	予習	高齢者の集団レクリエーション支援について調べる。	1 時間
	3,4	復習	高齢者の集団レクリエーション支援の方法を確認する。	1 時間
12	講義内容	高齢者を対象にした福祉サービスでの実践例③ 介護予防プログラム■		
	該当到達目標	予習	生活習慣病や認知症の予防のためのプログラムについて調べる。	1 時間
	3,4	復習	介護予防のためのレクリエーション支援の在り方について考える。	1 時間
13	講義内容	児童を対象にした福祉サービスでの実践例(障害児童を中心に)		
	該当到達目標	予習	児童の福祉サービスについて確認する。	1 時間
	3,4	復習	障害児入所・通所施設におけるレクリエーション支援の方法を確認する。	1 時間
14	講義内容	障害者を対象とした福祉レクリエーション支援の実践例		
	該当到達目標	予習	障害者を対象としたレクリエーション支援について調べる。	1 時間
	3,4	復習	病院でレクリエーション支援を実践する上での方法と課題を整理する。	1 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	これまで学んだレクリエーション支援の内容と課題について確認する。	1 時間
	1,2,3,4	復習	レクリエーションが生活にどのように活かされるか考える。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	第 11 回はレクリエーション支援の演習授業のため、会場は福祉実習室とする。 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自補完すること。			

	■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	福祉レクリエーション援助論(専門展開科目)					科目ナンバリング	SWA307			
英文名	Welfare and Assistance in Recreation					講義形態	講義			
担当教員	高橋 紀子									
科目に関連した実務経験	元(財)日本レクリエーション協会指導部 現東京レクリエーション協会公認講師・専門委員 東京都社会福祉士会 豊島区社会福祉士会 会長 東京都社会福祉士会 ぱあとなあ 会員 成年後見 未成年後見 未成年 高齢児童 不登校 発達障害に関する支援活動 地域密着型デイサービス介護職員 特別養護老人ホーム・デイサービスでのレクリエーション支援 障がい者施設でのレクリエーション療法 精神科デイケアでのレクリエーション療法 障害者スポーツ指導員 介護予防指導員として関連施設等での支援									
学年・開講期	3 年 前期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑧ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①福祉ニーズを有する人々が生きがいをもって生活できるように、個々の障害やニーズにあったレクリエーションを援助するための知識や方法を修得する。 ②授業は、実際にレクリエーションを実践するなど体験学習を中心に進める。									
到達目標	1. 福祉レクリエーション援助の意義や方法を理解する。 2. 実際の援助場面で対象者に合わせた活動の支援を行うことができる。■ 3. 支援の方法について多職種・他職種と連携して支援することができる。■									
使用教材	随時資料を配布する。									
参考文献	随時授業内で提示									
評価方法	定期試験 50%、レポート(5 回)50%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートについては、随時フィードバックをおこなう。定期試験の後、振り返りまとめを行う。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)	takahashi.noriko@lvnw.jp				
1	講義内容	福祉レクリエーション援助の専門性								
	該当到達目標 1	予習	レクリエーションとは何かについて、今までの復習をする						1.5 時間	
		復習	福祉レクリエーション援助の専門性について理解する						1.5 時間	
2	講義内容	福祉レクリエーション援助の目的								

	該当到達目標 1	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 時間
		復習	援助の目的について復習しておくこと。	1.5 時間
3	講義内容	生きがい支援－生活習慣の視点から		
	該当到達目標 1,2	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 時間
		復習	生きがいとはなにか生活習慣の視点とはどのようなことか、授業中での振り返りと学びを深めておくこと	1.5 時間
4	講義内容	福祉レクリエーション援助過程 アセスメントの方法■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 時間
		復習	アセスメントをする上での福祉職としての知識を深めておくこと。心身機能・身体構造および支援に対する姿勢について。	1.5 時間
5	講義内容	福祉レクリエーション援助計画の方法■		
	該当到達目標 1,2	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 時間
		復習	対象者に即した援助計画とは何かについて、担当部分について理解を深めておくこと。	1.5 時間
6	講義内容	福祉レクリエーション援助の実施方法■		
	該当到達目標 1,2	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 時間
		復習	福祉レクリエーション援助の実施方法とは何が大切か理解を深めておくこと。	1.5 時間
7	講義内容	個別レクリエーションのための方法		
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 時間
		復習	対象に合わせた援助の実施方法の目的・目標とはどのようなものか、その支援の配慮について理解を深めておくこと。	1.5 時間
8	講義内容	グループレクリエーション援助の意義と効果		
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 時間
		復習	集団を介した個別援助について理解を深めておくこと。	1.5 時間
9	講義内容	グループレクリエーション援助計画の方法と実践		
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 時間
		復習	集団を介した個別援助について計画について配慮する点等理解を深めておくこと。	1.5 時間
10	講義内容	福祉レクリエーションの評価の方法■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 時間
		復習	援助の評価方法について復習し自らの課題について調べてくること。	1.5 時間
11	講義内容	レジャーカウンセリングとレジャーエデュケーションの発展		
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 時間
		復習	生きがい支援・レジャー支援・レジャー教育について、講義内容と資料を確認し理解を深めてくること。	1.5 時間
12	講義内容	レジャーエデュケーションの実践例		
	該当到達目標 1,2	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 時間
		復習	対象者に合わせたレジャー教育について理解を深めてくること。	1.5 時間
13	講義内容	福祉レクリエーション援助と社会資源の活用		
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 時間
		復習	社会資源について挙げ、他に何かないか確認してくること。	1.5 時間

14	講義内容	福祉レクリエーション援助におけるイベントプログラムの考え方と活用方法			
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5	時間
		復習	施設・地域のイベントの必要性について理解し活用方法について考察する。	1.5	時間
15	講義内容	まとめ			
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5	時間
		復習	福祉レクリエーション援助の必要性和目的等について理解を深める。	1.5	時間
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	福祉レクリエーション援助技術(専門展開科目)					科目ナンバリング	SWA308			
英文名	Social Work in Welfare and Recreation					講義形態	演習			
担当教員	高橋 紀子									
科目に関連した実務経験	元(財)日本レクリエーション協会指導部 現東京レクリエーション協会公認講師・専門委員 東京都社会福祉士会 豊島区社会福祉士会 会長 東京都社会福祉士会 ぱあとなあ 会員 成年後見 未成年後見 未成年 高齢児童 不登校 発達障害に関する支援活動 地域密着型デイサービス介護職員 特別養護老人ホーム・デイサービスでのレクリエーション支援 障がい者施設でのレクリエーション療法 精神科デイケアでのレクリエーション療法 障害者スポーツ指導員 介護予防指導員として関連施設等での支援									
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①福祉レクリエーション活動の実践について理解し、援助に必要な「活動分析」や「活動アレンジ」の技術、及びコミュニケーションスキルを身につける。また、福祉レクリエーションの援助過程におけるアセスメント・計画・実践・評価の方法を修得する。 ②授業は、実際にレクリエーションを実践するなど体験学習を中心に進める。									
到達目標	1. 医療・福祉現場でレクリエーションを活用するために必要な「活動分析」や「活動アレンジ」ができる。 2. コミュニケーションスキルを修得し、対人援助にレクリエーション活動支援を応用することができる。 3. 福祉レクリエーション援助過程における個別及び集団のアセスメント、計画、実践、評価ができる。■									
使用教材	随時資料を配布する。									
参考文献	授業内で随時提示する									
評価方法	ロールプレイ 50%、レポート(5 回) 50%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートおよびロールプレイについて 随時フィードバックを行う。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)	takahashi.noriko#lvnw.jp				
1	講義内容	福祉レクリエーション援助のためのレクリエーション財の開発とアレンジ ①レクリエーション財の考え方・捉え方								
	該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。						1.5 時間	

	1,2	復習	レク財について理解し、レク財について調べておくこと。	1.5 時間
2	講義内容	福祉レクリエーション援助のためのレクリエーション財の開発とアレンジ ②レクリエーション財分類 ③福祉レクリエーション援助に既存のレクリエーション財をどのように効果的にいかすか		
	該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	レク財の分類とレク財の持つ効果について理解を深めておくこと。	1.5 時間
3	講義内容	レクリエーション活動分析の考え方と方法 ①活動分析の必要性 ②活動分析の視点		
	該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 時間
	1,2,3	復習	活動分析について理解を深めておくこと。	1.5 時間
4	講義内容	レクリエーション活動分析の考え方と方法 ③活動分析の方法 ④活動分析をどのように活用するか		
	該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 時間
	1,2,3	復習	効果ある福祉レク支援を展開するうえでの活動分析について理解を深めておくこと。	1.5 時間
5	講義内容	個人の心身状況に対応したレクリエーション財の選択・開発・アレンジ		
	該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 時間
	1,2,3	復習	対象の理解、疾病の理解を深めた上でのレク財の選択の必要性について理解を深めておく。	1.5 時間
6	講義内容	事例から学ぶレクリエーション財提供の方法		
	該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 時間
	1,2,3	復習	各事例に即したレク財の選択、展開方法等について理解を深めておくこと。	1.5 時間
7	講義内容	福祉レクリエーション援助のための対人援助技術を学ぶ		
	該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 時間
	1,2,3	復習	対人支援に関する方法について理解を深めておくこと。	1.5 時間
8	講義内容	援助者のためのコミュニケーション技法について体得する		
	該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 時間
	1,2,3	復習	コミュニケーション技術についての理解を深めておくこと。	1.5 時間
9	講義内容	ホスピタリティトレーニング		
	該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと	1.5 時間
	1,2,3	復習	気配り配慮等について理解を深め自己覚知をおこなう	1.5 時間
10	講義内容	様々な療法を知る		
	該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 時間
	1,2,3	復習	対象者に大切な様々な療法についての理解と他の職種の理解を深める。	1.5 時間
11	講義内容	福祉レクリエーション援助の実際■ ①老人保健施設の入所者に対するレクリエーション支援について ②特別養護老人ホームの入居者に対するレクリエーション支援について ③デイケアにおけるレクリエーション支援について ④デイサービスにおけるレクリエーション支援について		

	該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。	1.5 時間
	1,2,3	復習	場面における福祉レクリエーション援助についての理解を深める。	1.5 時間
12	講義内容	福祉レクリエーション援助の実際■ ⑤知的障害者施設におけるレクリエーション支援について ⑥児童施設におけるレクリエーション支援について ⑦地域等におけるボランティアとしてのレクリエーション支援について		
		該当到達目標	予習	予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。
	1,2,3	復習	場面における福祉レクリエーション援助についての理解を深める。	1.5 時間
		13	講義内容	福祉レクリエーション援助の実際■ ⑧支援案を作成する
該当到達目標	予習			予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。
1,2,3	復習		支援案作成を完成させる。	1.5 時間
	14		講義内容	福祉レクリエーション援助の実際■ ⑨援助の実際を体験する
該当到達目標		予習		予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。
1,2,3		復習	支援の実際についての振り返りを行い自ら分析評価を行う。	1.5 時間
		15	講義内容	福祉レクリエーション援助の実際■ ⑩振り返りを行い次へのステップとする ⑪まとめ
該当到達目標	予習			予習資料を読み理解を深めて課題点は調べておくこと。
1,2,3	復習		福祉レクリエーション援助に関する必要性和理解を深める。	1.5 時間
	合計時間(予習・復習)			45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	障害のある人を取り巻く環境(専門展開科目)							科目ナンバリング	SWA309	
英文名	Environment surrounding people with disabilities							講義形態	講義	
担当教員	根岸 洋人									
科目に関連した実務経験	高崎市障害者虐待対策協議会会長(現在) 高崎市社会福祉審議会委員(現在)									
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	3451016									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	障害者福祉の理念、諸外国との比較、問題点に焦点を当てて授業を行う。「障害者福祉」で取り上げた内容をさらに深めていくためにひとつひとつの項目に焦点をあて、各論的に構成する。本授業では様々な問題についてトピックス的に取り上げ、毎回テーマが変更するような 90 分完結型の講義で学修していく。 授業は講義形式で進める。パワーポイント及び映像資料を使用する。履修人数によっては学生に発言を求めることがある。									
到達目標	1. 障害のある人々を取り巻く環境を理解しその問題点や課題を指摘できる■ 2. 積極的に授業に参加し、障害のある人をめぐる問題に対して、自分自身の意見をまとめ、発表することができる									
使用教材	プリント配布									
参考文献	授業中に指示する									
評価方法	期末試験(論述形式)80%、C-Learning による授業参加 20%									
課題・評価に対するフィードバック方法	C-Learning を通して行う									
オフィスアワー (研究室)	火曜 5 限及び金曜 5 限 507 研究室				メールアドレス (#→@)		negishi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	障害表記								
	該当到達目標	予習	2 年次の必修科目である障害者自立支援制度の内容をふりかえる							1 時間
	1,2	復習	障害者の差別表現について文献、ネット等で調べる							1 時間
2	講義内容	障害理解の到達点								
	該当到達目標	予習	自身の中高生時代の道徳教育について振り返る							1 時間
	1,2	復習	障害者を上げた絵本、映像などを探し視聴してみる							1 時間
3	講義内容	権利を守る制度■								
	該当到達目標	予習	他教科で学んでいる権利擁護に関する制度を復習しておく							1 時間
	1,2	復習	障害者の権利が侵害されている事例を新聞記事等で探してみる							1 時間
4	講義内容	障害者と犯罪								
	該当到達目標	予習	犯罪白書などの統計を事前に見ておく							1 時間
	1,2	復習	地域生活定着支援センターなどの制度を整理しておく							1 時間
5	講義内容	障害者の地域生活■								

	該当到達目標 1,2	予習	生活のしづらさに関する調査を読む	1 時間
		復習	地域で暮らすことのメリット、デメリットについて自分自身の考えをまとめる	1 時間
6	講義内容	問題行動への対応		
	該当到達目標 1,2	予習	心理学や行動分析などの他教科の学習内容を復習しておく	1 時間
		復習	PDCA サイクルを基にした行動変容について調べてみる	1 時間
7	講義内容	障害者と家族		
	該当到達目標 1,2	予習	障害者家族による手記などの書籍を読んでみる	1 時間
		復習	保育や看護などの視点から障害者家族の支援をどう捉えているか確認する	1 時間
8	講義内容	障害者ときょうだい		
	該当到達目標 1,2	予習	必要なし	1 時間
		復習	授業で紹介する書籍を読む	1 時間
9	講義内容	障害者の余暇支援		
	該当到達目標 1,2	予習	児童館での障害児の受け入れ状況について調べてみる	1 時間
		復習	障害者が余暇のために使える公的制度について調べる	1 時間
10	講義内容	障害者とスポーツ		
	該当到達目標 1,2	予習	パラリンピックの種目にどのようなものがあるか調べまとめておく	1 時間
		復習	障害者スポーツのイベント等に参加してみる	1 時間
11	講義内容	重症心身障害児		
	該当到達目標 1,2	予習	児童福祉法の重症心身障害児施設について調べておく	1 時間
		復習	重症心身障害児の QOL について自身の考えをまとめる	1 時間
12	講義内容	出生前診断		
	該当到達目標 1,2	予習	近年導入された出生前診断についてネット・新聞記事などを調べる	1 時間
		復習	出生前診断についての自分自身の考えをまとめる	1 時間
13	講義内容	発達障害とその支援		
	該当到達目標 1,2	予習	他の授業で学習している発達障害の定義、障害特性についてふりかえる	1 時間
		復習	大人の発達障害者が抱えている問題について整理する	1 時間
14	講義内容	老障介護		
	該当到達目標 1,2	予習	日本の高齢化率、老老介護についてインターネット等で調べておく	1 時間
		復習	老障介護問題を解決するためには何が必要か、自身の考えをまとめる	1 時間
15	講義内容	障害と多様性		
	該当到達目標 1,2	予習	これまでの授業内容を振り返り、多様性について考えておく	1 時間
		復習	多様性と障害に関する参考文献を読む	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	障害のある人について学ぶにあたって、実際に障害のある人と関わりを持つことは非常に大切です。春休み等を利用してボランティア等に参加してください。最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完してください。			
	本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定(N)」となり、GPAの算出や卒業必要単位の対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する。また、履修登録時にCAPのカウントには含めない。			
■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	スクールソーシャルワーク論(専門展開科目)						科目ナンバリング	SWA310		
英文名	School Social Work						講義形態	講義		
担当教員	高木 政代									
科目に関連した実務経験	統括スクールソーシャルワーカーとして教育委員会に勤務(現在)									
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	① ④ ⑤									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①スクールソーシャルワークについて、その沿革からそれが必要とされる背景、視点、機能および役割などとともにスクールソーシャルワークの実践モデルや具体的な支援方法について取り上げ、体系的に学び理解できるようになる。 ②スクールソーシャルワーク概論について、資料や映像を用い、授業を行う。									
到達目標	1. スクールソーシャルワークの概念を述べることができる。 2. 今日の学校教育現場が抱える課題とその実態について述べることができる。 3. 学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性、さらにチーム学校の一員として求められる役割について述べることができる。 4. スクールソーシャルワークの支援方法について自分の考えを示すことができる。■									
使用教材	講義に必要な教材・資料は適宜プリントし配布する。									
参考文献	・『スクール[学校]ソーシャルワーク論』 社団法人日本社会福祉士養成校協会 門田光司・富島喜揮・山下英三郎・山野則子 中央法規 2012 ・「新スクールソーシャルワーク論」 山下英三郎・内田宏明・牧野晶哲 編著 学苑社 2012 その他、授業時に適宜紹介する									
評価方法	成績評価 ① 学期末レポートによる評価(70%) 尚、追再試は実施しない。 ② 毎回の授業時に課す小テストまたはレポート等による評価(30%) その他の評価 ① 授業開講数の 2/3 以上を出席することにより、成績の評価対象とする。 ② 忌引きや実習、就職活動などによる欠席は、届出(添付書類)を提出すれば出席扱いとする。 尚、15 分以上の遅刻は欠席とみなす。									
課題・評価に対するフィードバック方法	リアクションペーパー等による質問や意見については授業の中で回答するなど、随時、学生にフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談等は、授業開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			

1	講義内容	ガイダンス		
	該当到達目標	予習	教科書の全体構成、シラバスの講義目標や内容に目を通し、理解する。	2 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容、到達目標、成績評価の方法などを確認する。	1 時間
2	講義内容	学校の概要		
	該当到達目標	予習	学校組織や教員の役割、関連法について下調べを行う。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
3	講義内容	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の情勢①不登校、非行、児童虐待、子どもの貧困■		
	該当到達目標	予習	教科書第1章 第1節～第3節を読む。	1 時間
	1,2	復習	教科書を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
4	講義内容	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の情勢②外国籍の就学、学習障害、特別支援教育、その他■		
	該当到達目標	予習	教科書第1章 第4節～第8節を読む。	1 時間
	1,2	復習	教科書を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
5	講義内容	スクールソーシャルワークの価値・倫理		
	該当到達目標	予習	教科書第2章 第1節～第2節を読む。子どもの権利条約および児童福祉法について下調べを行う。	1 時間
	1,3	復習	教科書を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
6	講義内容	アメリカや諸外国及び日本のスクールソーシャルワークの発展過程の概要		
	該当到達目標	予習	教科書第3章 第1節～第2節を読む。	1 時間
	1,3	復習	教科書を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
7	講義内容	スクールソーシャルワークの実践プロセス■		
	該当到達目標	予習	アセスメント、プランニング、援助の実行について下調べを行う。教科書第5章 第1節を読む。	1 時間
	3,4	復習	教科書・資料を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
8	講義内容	スクールソーシャルワークの実践モデル①■		
	該当到達目標	予習	実践モデルについて下調べを行う。教科書第5章 第2・第3節を読む。	1 時間
	3,4	復習	教科書を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
9	講義内容	スクールソーシャルワークの実践モデル②■		
	該当到達目標	予習	実践モデルについて下調べを行う。教科書第5章 第4・第5節を読む。	1 時間
	3,4	復習	教科書を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
10	講義内容	マイクロレベルのスクールソーシャルワーク①■		
	該当到達目標	予習	個別支援方法について下調べを行う。教科書第6章 第1節-1を読む。	1 時間
	3,4	復習	教科書を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
11	講義内容	マイクロレベルのスクールソーシャルワーク②■		
	該当到達目標	予習	集団支援方法について下調べを行う。教科書第6章 第1節-2を読む。	1 時間
	3,4	復習	教科書・資料を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
12	講義内容	メゾレベルのスクールソーシャルワーク①■		
	該当到達目標	予習	教科書第6章 第2節-1、2を読む。チームアプローチ、ケース会議について調べる。	1 時間
	3,4	復習	教科書・資料を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
13	講義内容	メゾレベルのスクールソーシャルワーク②■		
	該当到達目標	予習	教科書第6章 第2節-3を読む。要保護児童対策地域協議会について調べる。	1 時間

	3,4	復習	教科書を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
14	講義内容	マクロレベルのスクールソーシャルワーク		
	該当到達目標	予習	教科書第6章 第3節を読む。スクールソーシャルワーカー活用事業について調べる。	1 時間
	3,4	復習	教科書・資料を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
15	講義内容	スクールソーシャルワーカーとスーパービジョン■		
	該当到達目標	予習	教科書第7章を読む。	1 時間
	1,2,3,4	復習	教科書を用いて授業内容を再確認する。これまでの授業内容をまとめる。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。 ・オンラインで授業を実施する場合、成績評価は、初回授業時に提示する。			

科目名	医療ソーシャルワーク論(専門展開科目)						科目ナンバリング	SWA311		
英文名	Social Work in Health Service						講義形態	講義		
担当教員	中井 正江									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑪ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①保健医療分野で社会福祉を実践する職種として「医療ソーシャルワーカー」の存在が挙げられる。しかし、保健医療分野(特に病院)では医師、看護師をはじめとする業務独占国家資格者による医療モデルが未だに主流であり、その中で名称独占の「社会福祉士」「精神保健福祉士」が患者・家族の生活モデルに視点をおいた支援を行うためには、それなりの知識と技術、考え方が必要である。本講では将来「医療ソーシャルワーカー」という職業を視野に入れている学生に、最低限理解しておいてもらいたい基礎的内容を学んでもらうことを目的とする。 ②授業は、テキストに添って進め、特に重要な部分はその都度スライドを作成・表示し、ノートに書き写してもらう。また、その他必要な補足資料などはプリントして教室で配布する。									
到達目標	1. 医療ソーシャルワークの歴史を理解する。 2. 医療ソーシャルワーカーの倫理と価値、業務を理解する。 3. 傷病から生ずる生活問題について理解する。 4. 医療ソーシャルワーカーに必要な医学的知識等を理解する。 5. 連携、チーム医療について理解する。 6. 医療ソーシャルワーカーの支援技術について理解する。									
使用教材	「保健医療ソーシャルワークの基礎―実践力の構築―」 公益社団法人日本医療社会福祉協会編(相川書房) ISBN978-4-7501-039-4									
参考文献	授業の中で随時紹介する									
評価方法	以下の項目で評価を行い、100 点中 60 点以上を獲得した場合を合格とする。 1. 期末試験(筆記)による評価 100% その他の評価 1. 授業開講数の 2/3 以上の出席で評価対象とする。 (但し、実習・忌引き等は届け出により出席扱いとする。) 2. 正当な理由無く 15 分以上遅刻した場合は欠席とみなす。 3. リモート授業の場合は各回のレポート提出を出席扱いとする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業の中で質問時間を設けるなど随時フィードバックを行う。									
オフィスアワー (研究室)	出講日の授業終了時において、質問及び学習相談を受ける。				メールアドレス (#→@)		初回授業時に提示する			
1	講義内容	ガイダンス(医療ソーシャルワーカーの業務紹介並びに授業の進め方等を確認)								
	該当到達目標	予習	医療ソーシャルワーカーについて学習する。						1	時間
	1,2,3,4,5	復習	医療ソーシャルワーカーの全体的イメージを確認する。						2	時間

2	講義内容	医療における社会保障政策の動向			
	該当到達目標 1,5	予習	教科書の第 1 章第 1 節～第 5 節を読む。	1 時間	
		復習	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	2 時間	
3	講義内容	医療ソーシャルワークの成立過程と今後の課題			
	該当到達目標 1,3,5	予習	教科書の第 2 章第 1 節～第 3 節を読む。	1 時間	
		復習	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	2 時間	
4	講義内容	医療ソーシャルワークの倫理と価値			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の第 3 章第 1 節～第 2 節を読む。	1 時間	
		復習	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	2 時間	
5	講義内容	家族の理解と生活機能障害			
	該当到達目標 2,3,4	予習	教科書の第 4 章第 1 節～第 2 節、第 5 章第 1 節～第 3 節を読む。	1 時間	
		復習	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	2 時間	
6	講義内容	必要な医学的知識と傷病の理解			
	該当到達目標 2,3,4,5	予習	教科書の第 6 章第 1 節～第 4 節を読む。	1 時間	
		復習	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	2 時間	
7	講義内容	連携とチーム医療			
	該当到達目標 2,4,5	予習	教科書の第 7 章第 1 節～第 3 節を読む。	1 時間	
		復習	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	2 時間	
8	講義内容	診療報酬とソーシャルワーク			
	該当到達目標 1,4,5	予習	教科書第 8 章第 1 節～第 3 節を読む。	1 時間	
		復習	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	2 時間	
9	講義内容	面接技術①			
	該当到達目標 1,2,4,6	予習	教科書第 9 章第 1 節～第 9 節を読む	1 時間	
		復習	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	2 時間	
10	講義内容	面接技術②(演習含む)			
	該当到達目標 1,2,4,6	予習	教科書第 9 章第 1 節～第 9 節を読む。	1 時間	
		復習	教科書と授業内容と授業内容と演習を振り返り、講義内容を理解する。	2 時間	
11	講義内容	アセスメント①			
	該当到達目標 2,3,4,5,6	予習	教科書第 10 章第 1 節～第 3 節を読む。	1 時間	
		復習	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	2 時間	
12	講義内容	アセスメント②(演習含む)			
	該当到達目標 2,3,4,5,6	予習	教科書第 10 章第 1 節～第 3 節を読む。	1 時間	
		復習	教科書と授業内容と演習を振り返り、講義内容を理解する。	2 時間	
13	講義内容	ソーシャルワーク記録と実践事例検討			
	該当到達目標 2,3,4,5	予習	教科書第 11 章～第 12 章を読む	1 時間	
		復習	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	2 時間	
14	講義内容	実践に必要な社会制度			
	該当到達目標 2,3,4,5	予習	資料等にて知識として必要な社会制度を予習	1 時間	
		復習	教科書と授業内容を振り返り、講義内容を理解する。	2 時間	
15	講義内容	医療ソーシャルワーカー業務のまとめ			
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	医療ソーシャルワークについての振り返りを行う	1 時間	
		復習	医療ソーシャルワークについての理解を深める。	2 時間	
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	こども論(専門展開科目)							科目ナンバリング	SWA312	
英文名	Theory of Child							講義形態	講義	
担当教員	大川 健次郎									
科目に関連した実務経験	市区町村社会福祉協議会(経験)									
学年・開講期	3 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	①③⑩⑪⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①こども論では、社会が子どもをどのように捉えてきたか、子どもの持つ権利とは何かについて学び、その上で、子育て、子育てを支援するための具体的な施策を取り上げて、その現状を把握し、その課題・あり方について考察できるようにする。支援を必要とする子ども・家族に対する援助についても学習する。 ②授業は資料を配布し、それを使用して要点をまとめていく。支援を必要とする子ども・家族に対する援助についても学習する。									
到達目標	1.社会が子どもをどのように捉えてきたのかを理解できる。 2.子どもの権利について理解できる。 3.子どもの権利条約について説明できる。 4.子どもの自立について理解できる。■									
使用教材	講義時に必要な資料を配布する									
参考文献	講義時に指示する									
評価方法	定期試験 80% 授業参加貢献度 20%									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業参加度をミニレポートで測る。ミニレポートにコメントをつけて返却し学生にフィードバックする									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。研究室 508					メールアドレス (#→@)	okawa#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	子ども観(古代・中世)								
	該当到達目標	予習	古代の児童救済事業について調べてくること							1.5 時間
	1	復習	聖徳太子の行った事業についての理解、律令における子どもの位置づけについて理解する							1.5 時間
2	講義内容	子ども観(近世・近代)								
	該当到達目標	予習	江戸時代における子どもの問題について調べてくること							1.5 時間
	1	復習	近世における児童保護についての理解、明治維新と子どもの生活について理解する							1.5 時間
3	講義内容	子ども観(大正から戦前まで)								
	該当到達目標	予習	資本主義社会における子どもの問題について調べてくること							1.5 時間
	1	復習	学制頒布、徴兵制による子どもへの影響について理解する							1.5 時間
4	講義内容	子ども観(戦後から高度経済成長まで)								
	該当到達目標	予習	戦後の荒廃時における子どもの問題について調べてくること							1.5 時間

	1	復習	工業化が進む中での子どもの生活について理解する	1.5 時間
5	講義内容	子ども観(高度経済成長から1970年代まで)		
	該当到達目標	予習	高度経済成長がもたらした子どもの生活のマイナス面について調べてくること	1.5 時間
	1	復習	地域共同体という基盤が不在となった時の家族関係と子どもの生活について理解する	1.5 時間
6	講義内容	子ども観(1980年代から現在まで)		
	該当到達目標	予習	国際家族年が社会に与えた影響について調べてくること	1.5 時間
	1	復習	我が国の少子化対策について理解する	1.5 時間
7	講義内容	権利概念について		
	該当到達目標	予習	自然法的規範説と実定法的規範説について調べてくること	1.5 時間
	2	復習	フランス人権宣言、アメリカ独立宣言における権利概念、対立の調整概念について理解する	1.5 時間
8	講義内容	受動的権利		
	該当到達目標	予習	受動的権利の概念について調べてくること	1.5 時間
	2	復習	受動的権利と社会権的特質の関係について理解する	1.5 時間
9	講義内容	能動的権利		
	該当到達目標	予習	能動的権利の概念について調べてくること	1.5 時間
	2	復習	能動的権利と自由権的特質の関係について理解する	1.5 時間
10	講義内容	子どもの権利の特質		
	該当到達目標	予習	ホワイトハウス会議宣言について調べてくること	1.5 時間
	2	復習	受動的権利の限界と能動的権利の位置づけについて理解する	1.5 時間
11	講義内容	子どもの権利条約		
	該当到達目標	予習	子どもの権利条約の特徴について調べてくること	1.5 時間
	2, 3	復習	子どもの権利条約が採択されるまでの歴史、ウェルビーイング概念について理解する	1.5 時間
12	講義内容	子どもの権利を擁護する		
	該当到達目標	予習	アドボカシー概念について調べてくること	1.5 時間
	2, 3	復習	子どもゆえの権利擁護の必要性、施設職員とアドボカシーの思いのすれ違いについて理解する	1.5 時間
13	講義内容	子どもの権利ノート		
	該当到達目標	予習	子どもの権利ノートとは何か調べてくること	1.5 時間
	2, 3	復習	子どもの権利ノート配布の必要性、役割、特徴について理解する	1.5 時間
14	講義内容	子どもの自立とは何か		
	該当到達目標	予習	自分が考える「子どもの自立」とは何か整理してくる	1.5 時間
	4	復習	日本における子どもの自立概念を理解する	1.5 時間
15	講義内容	子どもの自立支援■		
	該当到達目標	予習	動的調和的共生とは何か調べてくること	1.5 時間
	4	復習	自立支援のために必要と不可欠なことを理解する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	カウンセリング論(専門展開科目)							科目ナンバリング	SWA313	
英文名	Counseling							講義形態	講義	
担当教員	角野 善司									
科目に関連した実務経験	カウンセラーとして臨床心理センターに勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	③ ④ ⑧									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	カウンセリング・心理療法の理論・歴史・方法に関する知識を修得する。 さらに、カウンセラーに求められるクライアントへの関わりについて学び、考察を深める。 授業期間全体を通じた授業の進め方： 1 年後期「心理学」(人間理解科目)での学習内容を基礎として学習を進める。基本的に、毎回の予習が、知識獲得の中心である。その意識を強く持って、取り組んでもらいたい。対面授業は、難解な箇所に関する追加的な解説に重点を置く。また、理解を深めるために必要に応じて視聴覚教材を活用する。授業後には、復習課題に取り組むとともに、授業での学修を基に考察を深め、小レポートを作成し、提出することを求める。									
到達目標	1. 各学派のカウンセリング・心理療法に関する諸概念を説明できる。■ 2. カウンセリングの視点を利用者支援に活用できる。■									
使用教材	加藤伸司ほか「新・MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 17 心理学と心理的支援」ミネルヴァ書房 2022 年 2,800 円+税 ※人間理解科目「心理学」においても使用。									
参考文献										
評価方法	毎回の課題・小レポート 45%(3 点×15 回)、学期末筆記試験 30%、学期末レポート 25%									
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回の課題・小レポートは授業時に、学期末筆記試験・レポートは事後に講評解説の機会を設ける。									
オフィスアワー (研究室)	初回授業時に告知するとともに、研究室 ドアに掲出する(8 号館 405 室)				メールアドレス (#→@)		zsumino#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	カウンセリングの目的、対象、方法■								
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。						1.5 時間	
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。						1.5 時間	
2	講義内容	ピアカウンセリングの目的、方法■								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。						1.5 時間	
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。						1.5 時間	
3	講義内容	カウンセリングとソーシャルワークとの関係■								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。						1.5 時間	

	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
4	講義内容	心理療法の概要と実際(1)精神分析■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
5	講義内容	心理療法の概要と実際(2)来談者中心療法■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
6	講義内容	心理療法の概要と実際(3)行動療法・認知行動療法■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
7	講義内容	心理療法の概要と実際(4)家族療法■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
8	講義内容	心理療法の概要と実際(5)ブリーフ・サイコセラピー■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
9	講義内容	心理療法の概要と実際(6)遊戯療法■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
10	講義内容	心理療法の概要と実際(7)心理劇■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
11	講義内容	心理療法の概要と実際(8)動作療法■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
12	講義内容	心理療法の概要と実際(9)SST(生活技能訓練)■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
13	講義内容	心理療法の概要と実際(10)福祉現場におけるセラピューティック・アクティビティ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
14	講義内容	心理療法の概要と実際(11)その他の心理療法■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ■		
	該当到達目標	予習	これまでの学習内容を振り返る。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・各福祉士の国家試験で頻出の範囲である。履修して、しっかりと学習してほしい。 ・人間理解科目「心理学」を履修済であることを前提に授業を進める。			

	・仮に諸事情により対面での学期末筆記試験の実施ができない場合には、成績評価にあたっての配点は以下のとおりとする： 毎回の課題・小レポート 75%(5 点×15 回)、学期末レポート 25% ・■: 実務経験に基づく内容を示す。

科目名	トータルボディトレーニング(専門展開科目)							科目ナンバリング	SWA314	
英文名	Total Body Training							講義形態	実習	
担当教員	大家 千枝子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		選択 1 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	3 5									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	基本的な運動プログラム作成の知識や機器の活用方法を学び、トレーニングを実践する。また運動前後のストレッチングや機器を使わないレジスタンストレーニングの方法を身につける。 身体組成やエアロバイク、パワーマックスによる測定結果、ウェルラウンドの強度と回数などのデータは各自に用意されたファイルで管理する。授業終了時には、振り返りとして記録カードへ記入が必要とされ、ファイルごと提出してもらう。									
到達目標	1. 機器の名称、使い方やエネルギー消費量の算出方法などについて理解し、説明できる。 2. 前後の体操を含めて、自分に合った適切な負荷(強度や回数)を選んでトレーニングできる。 3. 自分の健康・体力について関心・興味をもち、自らすすんでフィットネス活動を実践できる。 4. 授業の性質や履修者の中での個人の役割を理解、意識し、行動できる。 5. トレーニングの効果を実感できる(体力の向上、筋肉量・体脂肪量の調節、精神面など)。									
使用教材	プリントを適宜配布する。									
参考文献	参考文献を適宜紹介する。									
評価方法	授業ごとの取り組み(記録を含む)70%、半期間のトレーニング成果 15%、最終日のテスト 15%									
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回の授業後にフィジカルデータファイルの提出を求める。ファイルの中の授業記録カードに付したコメントやスタンプは必ずチェックすること。授業期間中に使用したフィジカルデータファイルについては、希望するものには返却する。ただし、試験期間終了日までに自ら取りに来ること。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。					メールアドレス (#→@)	oie#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス・ルーブリックの作成								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。							0.5 時間
	3,4	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。							0.5 時間
2	講義内容	体組成測定、体力テスト(1 回目)								
	該当到達目標	予習	測定項目を確認し、暴飲暴食や寝不足を控える。							0.5 時間
	3,4	復習	測定項目とそれらの正しい測定方法、測定機器の使い方を復習して覚える。							0.5 時間
3	講義内容	結果の評価、機器の正しい使用方法								
	該当到達目標	予習	配布された資料に目を通しておく。							0.5 時間
	1,2,3,4	復習	体組成と体力の結果から、自身の生活を見直し、健康的な生活を心がける。							0.5 時間
4	講義内容	ウォーキング・ジョギングと運動前後の体操								
	該当到達目標	予習	実施内容を確認し、ウォーキングやジョギングについて調べておく。							0.5 時間

	1,2,3,4	復習	学んだストレッチや体操を実践してみる。	0.5 時間
5	講義内容	フリーウエイトでのトレーニング		
	該当到達目標	予習	配布された資料に目を通しておく。	0.5 時間
	2,3,4	復習	学んだトレーニングを実践してみる。	0.5 時間
6	講義内容	フィットネス機器を使ったトレーニング(基本)		
	該当到達目標	予習	配布された資料に目を通しておく。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5 時間
7	講義内容	油圧マシンを使ったウェルラウンドエクササイズ(基本)		
	該当到達目標	予習	配布された資料に目を通しておく。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5 時間
8	講義内容	油圧マシンを使ったウェルラウンドエクササイズ(応用)		
	該当到達目標	予習	配布された資料に目を通しておく。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5 時間
9	講義内容	運動処方の現状とレジスタンストレーニングの実際		
	該当到達目標	予習	配布された資料に目を通しておく。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5 時間
10	講義内容	フィットネスプログラムの作成と実践		
	該当到達目標	予習	フィットネスプログラムを検討する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5 時間
11	講義内容	フィットネスプログラムの作成と実践		
	該当到達目標	予習	フィットネスプログラムを検討する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5 時間
12	講義内容	体組成・体力測定(2回目)		
	該当到達目標	予習	フィットネスプログラムを検討する。	0.5 時間
	3,4	復習	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5 時間
13	講義内容	フィットネスプログラムの作成と実践		
	該当到達目標	予習	フィットネスプログラムを検討する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5 時間
14	講義内容	ウォーキング(大学周辺)または他のエクササイズ体験(TABATAトレーニングなど)		
	該当到達目標	予習	フィットネスプログラムを検討する。	0.5 時間
	1,3,4	復習	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5 時間
15	講義内容	確認テストとまとめ(フィジカルデータファイルの提出・ループリックを使った自己採点)		
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読みなおして、目標の到達度を確認する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	課外活動としてフィットネスルームで運動する。または生活活動を増やす。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	【単位修得に必要な時間について】 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			
	【履修条件】 ウォーミングアップ時間確保のため、余裕をもって登校し、遅刻しないでいただきたい。準備・後片付けなど積極的な姿勢を求める。			
	【受講上の注意】 ① 運動に適した服装(ジャージ、Tシャツなど)とシューズ(屋内)を着用すること。 (※ジーンズ・普段着での受講は不可。スマホや時計、指輪、ブレスレット、ネックレス、ピアスなどは外しておく。) ② 原則として見学は認めない。配慮を必要とする学生は初回ガイダンス終了までに申し出ること。 ③ 貴重品は各自で管理すること。			
	【ルール】			

	授業開始時に、出席をとる。授業終了時には、振り返りとして授業記録カードの提出がある。 次の行為は授業中にしないこと。 ①ガムを噛む、②授業と関係のないスマホの使用。

科目名	こころとからだのしくみⅠ（専門展開科目）						科目 ナンバリング	SWA315		
英文名	Mind and BodyⅠ						講義形態	講義		
担当教員	富田 俊									
科目に関連した 実務経験	専門看護師として急性期病院での経験を有す									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	社会福祉コース選択 2 単位、介護福祉コース必修 2 単位							
履修を必須とする 資格	「介護福祉士」指定科目									
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	③									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○					○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法	授業中にリアクションペーパーに対する振り返りや質疑応答の時間を設ける。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①「こころとからだのしくみⅠ」は、介護サービスを実際に提供する際の根拠を学び、理解していくためのものである。介護を必要とする人は増加し、多様化している。これらに応えられる様、基礎を学び、実践に活用できる力を養うことを目標とする。 ②使用教材を要約した内容について事例を交え説明する。講義終了時にリアクションペーパーにて講義要約等をまとめて提出する。それをもとに次回の講義冒頭で補足する。									
到達目標	1. こころのしくみの基礎概念(人間の基本的欲求・社会的欲求、自己概念と尊厳、学習・記憶・思考感情・動機づけ・適応等)について理解できる。■ 2. からだのしくみの基礎事項(生命維持・恒常性のしくみ、人体各部の臓器・名称、ボデイメカニクス、関節可動域等)について理解できる。■									
使用教材	中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 11「こころとからだのしくみ」第 2 版 この他に必要な資料は授業時に都度配布あるいは指示をする									
参考文献	特になし									
評価方法	課題(リアクションペーパー)30%, 期末筆記試験 70%									
課題に対する フィードバック	課題は講義で解説し、学習目標の到達度を確認する。 期末試験後は、出題の主旨及び、配点基準等を説明し、個別に対応する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜 2 時限 (504 研究室)				メールアドレス (#→@)	tomita-s#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス・「健康とは何か」								
	該当到達目標	予習	序章「健康」とは何かを確認する。						1.5 時間	
	1,2	復習	健康について、生活の質、持続性をふまえて理解する						1.5 時間	
2	講義内容	「こころのしくみを理解する」								
	該当到達目標	予習	教科書「こころのしくみを理解する」(P14～P38)を確認する						1.5 時間	
	1,2	復習	テキストと授業から人間の欲求や自己実現・尊厳について理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	からだのしくみ(身体の構造・機能・細胞)								
	該当到達目標	予習	教科書「からだのしくみを理解する」(P42～P49)を確認する						1.5 時間	
	2	復習	からだのしくみ(身体の構造・機能・細胞)について理解する。						1.5 時間	
4	講義内容	からだのしくみ(脳・神経系)								
	該当到達目標	予習	教科書「からだのしくみを理解する」(P49～P53)を確認する						1.5 時間	

	2	復習	からだのしくみ(脳・神経系)について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	<u>からだのしくみ(感覚器)</u>		
	該当到達目標	予習	教科書「からだのしくみを理解する」(P53～P56)を確認する	1.5 時間
	2	復習	からだのしくみ(感覚器)について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	<u>からだのしくみ(呼吸器)■</u>		
	該当到達目標	予習	教科書「からだのしくみを理解する」(P56～P58)を確認する	1.5 時間
	2	復習	からだのしくみ(呼吸器)について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	<u>からだのしくみ(循環器・血液)■</u>		
	該当到達目標	予習	教科書「からだのしくみを理解する」(P58～P60, P78～80)を確認する	1.5 時間
	2	復習	からだのしくみ(循環器・血液)について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	<u>からだのしくみ(循環器・血液)■</u>		
	該当到達目標	予習	教科書「からだのしくみを理解する」(P58～P60, P78～80)を確認する	1.5 時間
	2	復習	からだのしくみ(循環器・血液)について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	<u>からだのしくみ(消化器)■</u>		
	該当到達目標	予習	教科書「からだのしくみを理解する」(P60～P63)を確認する	1.5 時間
	2	復習	からだのしくみ(消化器)について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	<u>からだのしくみ(消化器)■</u>		
	該当到達目標	予習	教科書「からだのしくみを理解する」(P60～P63)を確認する	1.5 時間
	2	復習	からだのしくみ(消化器)について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	<u>からだのしくみ(泌尿器)■</u>		
	該当到達目標	予習	教科書「からだのしくみを理解する」(P63～P64)を確認する	1.5 時間
	2	復習	からだのしくみ(泌尿器)について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	<u>からだのしくみ(骨・筋肉・関節)■</u>		
	該当到達目標	予習	教科書「からだのしくみを理解する」(P65～P70)を確認する	1.5 時間
	2	復習	からだのしくみ(骨・筋肉・関節)を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	<u>からだのしくみ(生殖器・内分泌)■</u>		
	該当到達目標	予習	教科書「からだのしくみを理解する」(P72～P78)を確認する	1.5 時間
	2	復習	からだのしくみ(生殖器・内分泌)について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	<u>生命を維持するしくみ■</u>		
	該当到達目標	予習	教科書「からだのしくみを理解する」(P81～P86)を確認する	1.5 時間
	2	復習	生命を維持するしくみについて理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	教科書全体から不明な点を確認し、質問を検討する	1.5 時間
	1,2	復習	からだのしくみについて理解する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	<u>下線部は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。</u> ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		こころとからだのしくみⅡ（専門展開科目）						科目ナンバリング	SWA316		
英文名		Mind and BodyⅡ						講義形態	講義		
担当教員		富田 俊									
科目に関連した実務経験		専門看護師として急性期病院での経験を有す									
学年・開講期		2 年 後期	選必・単位数	社会福祉コース選択 2 単位、介護福祉コース必修 2 単位							
履修を必須とする資格		「介護福祉士」									
学位授与方針との対応		1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
		1	基礎的知識力				2	応用・実践する能力			
		1	問題解決能力・コミュニケーション能力				3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連		③									
アクティブラーニング実施方法		PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
					○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法		授業中にリアクションペーパーに対する振り返りや質疑応答の時間を設ける。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		①「こころとからだのしくみⅡ」は、福祉サービスを実際に提供する際の根拠を学び、知識を習得する科目である。福祉を必要とする人は増加し、多様化している。これらに応えられる様、基礎を学び、実践に応用できる力を養うことを目標とする。 ②使用教材を要約した内容について事例を交え説明する。講義終了時にリアクションペーパーにて講義要約等をまとめて提出する。それをもとに次回の講義冒頭で補足する。									
到達目標		1. 実践に直接関連する基礎的知識（移動、身じたく、入浴・清潔保持、食事、排泄、睡眠等、利用者の生活・自立支援に必要な介護等）や、機能低下、障害がおよぼす影響、医療職との連携等について理解できる。 2. 死にゆく人のこころとからだのしくみ(「死」の捉え方、終末期から死に至る体の理解、「死」に対するこころの理解、医療職との連携等)について理解できる。■									
使用教材		中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 11「こころとからだのしくみ」第 2 版 この他に必要な資料は授業時に都度配布あるいは指示をする									
参考文献		特になし									
評価方法		課題(リアクションペーパー)30%, 期末筆記試験 70%									
課題に対するフィードバック		課題は講義で解説し、学習目標の到達度を確認する。 期末試験後は、出題の主旨及び、配点基準等を説明し、個別に対応する。									
オフィスアワー (研究室)		月曜 2 時限 (504 研究室)				メールアドレス (#→@)		tomita-s#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	第 3 章 移動に関連したこころとからだのしくみ 第 1 節 移動のしくみ(P90～P105)■									
	該当到達目標	予習	教科書 第 3 章 第 1 節を確認する							1.5	時間
	1	復習	移動の効果, からだのしくみを理解する							1.5	時間
2	講義内容	第 3 章 移動に関連したこころとからだのしくみ 第 2 節 心身の機能低下が移動に及ぼす影響、第 3 節 変化の気づきと対応(P106～P117)■									
	該当到達目標	予習	教科書 第 3 章 第 2, 3 節を確認する							1.5	時間
	1	復習	移動が不自由になると生じる状態、日常の観察ポイントを理解する							1.5	時間
3	講義内容	第 4 章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ 第 1 節 身じたくのしくみ(P118～P136)									
	該当到達目標	予習	教科書 第 4 章 第 1 節を確認する							1.5	時間
	1	復習	身じたくに関連するからだのしくみを理解する							1.5	時間

4	講義内容	第4章 身じたくに関連したところとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響, 第3節 変化の気づきと対応(P137～P153)		
	該当到達目標	予習	教科書 第4章 第2, 3節を確認する	1.5 時間
	1	復習	身じたくを整えることを妨げる要因、観察ポイントを理解する	1.5 時間
5	講義内容	第5章 食事に関連したところとからだのしくみ 第1節 食事のしくみ(P154～P161)■		
	該当到達目標	予習	教科書 第5章 第1節を確認する	1.5 時間
	1	復習	栄養素とはたらき、摂食の解剖生理、食事の種類を理解する	1.5 時間
6	講義内容	第5章 食事に関連したところとからだのしくみ■ 第2節 心身の機能低下が食事に及ぼす影響, 第3節 変化の気づきと対応(P162～P177)■		
	該当到達目標	予習	教科書 第5章 第2, 3節を確認する	1.5 時間
	1	復習	食事動作に影響する要因の内容、医療職との連携ポイントを理解する	1.5 時間
7	講義内容	第6章 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ 第1節 入浴・清潔のしくみ(P178～P189)		
	該当到達目標	予習	教科書 第6章 第1節を確認する	1.5 時間
	1	復習	心身機能が清潔保持に及ぼす影響について理解する	1.5 時間
8	講義内容	第6章 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響, 第3節 変化の気づきと対応 (P190～P213)		
	該当到達目標	予習	教科書 第6章 第2, 3節を確認する	1.5 時間
	1	復習	心身機能の低下が及ぼす清潔保持への影響を理解する	1.5 時間
9	講義内容	第7章 排泄に関連したところとからだのしくみ 第1節 排泄に関連したしくみ(P214～P226)■		
	該当到達目標	予習	教科書 第7章 第1節を確認する	1.5 時間
	1	復習	排泄に必要な行為、排泄のしくみ・正常を理解する	1.5 時間
10	講義内容	第7章 排泄に関連したところとからだのしくみ■ 第2節 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響, 第3節 変化への気づきと対応(P227～P245)■		
	該当到達目標	予習	教科書 第7章 第2, 3節を確認する	1.5 時間
	1	復習	排泄障害の種類と特徴、タイプ別の対応を理解する	1.5 時間
11	講義内容	第8章 休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ 第1節 休息・睡眠のしくみ(P246～P255)		
	該当到達目標	予習	教科書 第8章 第1節を確認する	1.5 時間
	1	復習	休息・睡眠のしくみを理解する	1.5 時間
12	講義内容	第8章 休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響, 第3節 変化への気づきと対応(P256～P269)		
	該当到達目標	予習	教科書 第8章 第2, 3節を確認する	1.5 時間
	1	復習	加齢が休息・睡眠に与える影響、睡眠障害の種類と特徴を理解する	1.5 時間
13	講義内容	第9章 人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ■ 第1節 人生の最終段階に関する死のとりえ方(P270～P280)■		
	該当到達目標	予習	教科書 第9章 第1節を確認する	1.5 時間
	1, 2	復習	終末期のとりえ方、看取りでの尊厳の保持を理解する	1.5 時間
14	講義内容	第9章 人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ■ 第2節 死に対するこころの理解(P281～P287)■		
	該当到達目標	予習	教科書 第9章 第2節を確認する	1.5 時間
	1, 2	復習	死に直面した心理状況、こころの変化や受け止めたかを理解する	1.5 時間
15	講義内容	第9章 人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ■ 第3節 終末期から危篤状態、死後のからだの理解■ 第4節 終末期における医療職との連携(P288～P306)■		
	該当到達目標	予習	教科書 第9章 第3, 4節を確認する 教科書全体から不明な点を確認し、質問を検討する	1.5 時間
	1,2	復習	終末期から死までの身体機能の特徴、死後のからだの変化を理解する	1.5 時間

		合計時間(予習・復習)	45 時間
備考	下線部は、介護福祉士指定科目における介護福祉士教育に含むべき事項である。 ■:実務経験に基づく内容を示す。		

科目名	パラスポーツ論(専門展開科目)						科目ナンバリング	SWA317		
英文名	Para-Sports Theory						講義形態	講義		
担当教員	大塚 光彦									
科目に関連した実務経験	・ 実務者として、県立身体障害者リハビリテーションセンター(旧称)、県立点字図書館、県立ふれあいスポーツプラザ、県立ゆうあいピック記念温水プールに勤務(経験) ・ 指導員(実習生担当・就労支援担当)として、作業所(就労支援 B 型)及び地域活動支援センターに勤務(経験) ・ 長野冬季パラリンピック日本代表アルペンスキーチーム技術スタッフとして参加(経験) ・ 日本代表スタッフとして、カナダ国際身体障害者スキー大会に参加(経験) ・ 身体障がい者野球「群馬アトム」チームとして「24 時間テレビ」に出演(経験) ・ 高崎市スポーツ推進審議会公募委員(現在)									
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格	初級パラスポーツ指導員									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	3 10									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	講義の目標 パラ(障がい者)スポーツとは、障がいの特性を理解し、一般に親しんでいるスポーツのルールを少し工夫するだけで障がい者(児)のみならず対象者に合わせて、誰にでも楽しく安全に安心して出来るスポーツである。更に東京パラリンピックを契機に、障がい者スポーツに関する報道等は「パラスポーツ」という名称が多様化されて、社会的にも日常化してきており、浸透して来ている。 また、健常者と共にプレイする競技も増え始めている。更にパラリンピックの上部組織である「日本障がい者スポーツ協会」が「日本パラスポーツ協会」に名称変更(2021.10.1 付)となる。誰もが楽しめるスポーツとしての魅力を伝え、競技の普及に繋げ、更に健常者と一緒になって進めていくことが共生社会の実現に向けて望ましい。上記を踏まえて、講義においては三障がい(身体・知的・精神)のスポーツに重点を置き、レクリエーションを含めて幅広く知ることにより、基本的な障がいの種類や特徴を学習する。また、パラ(障がい者)スポーツの歴史や制度等、パラリンピック(夏・冬競技)の DVD による学習と実技も組み入れ、各種パラ競技を知ることにより、指導上の留意点と安全な指導法を習得する。一人でも多くの障がい者またパラスポーツに興味のある健常者にも、パラスポーツの場へ出るキッカケをつくる支援ができるようになることを目指します。 講義の実施方法 パラスポーツの特性に応じた基本的な技術と指導上必要な基礎的な手話(指文字を重点)を習得出来るように進行します。なお、ゲストスピーカーの都合により、講義の順番に変更が生じる場合があります。ゲストスピーカーは元パラリンピック車いすバスケットボール選手(銅メダリスト)を予定しています。									
到達目標	1. 障がいの特性に応じたスポーツの指導ができる。■									

	2. 対象者に合わせて、楽しく安心して安全に指導できる。■ 3. キッカケづくりを支援できる。■ 4. 基本的な技術を習得する。■ 5. 基礎的な手話を習得する。■			
使用教材	(公益財団法人) 日本パラスポーツ協会[編] 改訂版 障がいのある人のスポーツ指導教本(初級・中級)2020 年改訂カリキュラム対応 ・講義時に関係資料(PP 補足資料等)及び新聞等関係記事のコピー等を配布			
参考文献	・アナザー1964 (パラリンピック序章) 著:稲泉 連 ・NHK みんなの手話・監修 深海久美子「すぐ使える手話」・著 豊田直子「やさしい手話」			
評価方法	成績評価 1. 講義毎及びミニレポート(C-Learning の「レポート」に記述する方法)による評価(40%) 2. ゲストスピーカー1 回のミニレポート(C-Learning の「レポート」に記述する方法)による評価(20%) 3. 筆記試験 40% その他の評価 実習や忌引き等による欠席は届け出(場合により要添付書類)を提出すれば出席扱いとします。 なお、15 分以上の遅刻は欠席とみなします。			
課題・評価に対する フィードバック方法	ミニレポート及び「一言コメント」にある質問や意見については、次回の講義の中で随時取り上げて、学生にフィードバックします。			
オフィスアワー (研究室)	質問などがある者は、講義前後の教室 及び非常勤講師控室で対応します。	メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回講義時に提示しま す。	
1	講義内容	障がい者スポーツ競技の紹介(パラリンピック競技夏・冬含む)・その他■		
	該当到達目標	予習	教本(P116～117、P123、P158～161)を判読し、国内大会・国際大会の障がい者の代表的な各種競技を確認する。	2 時間
	1,2,3	復習	講義内容・到達目標等を確認し、特別なルール等を理解する。	2 時間
2	講義内容	障がい者スポーツ推進の取り組み(指導者制度・協議会・組織他)■		
	該当到達目標	予習	教本(P30～33)を判読し、目的・役割・指導者制度等の概要を確認する。 (指文字)ア行予習	2 時間
	1,2,3,5	復習	講義内容・到達目標等を確認して、概要等を理解する。 (指文字)ア行復習	2 時間
3	講義内容	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質(役割・心構え・視点)■		
	該当到達目標	予習	教本(P2～5)を判読し、心得・留意点等、求められる資質について確認する。 (指文字)力行	2 時間
	1,2,3,5	復習	講義内容・到達目標等を確認し、資質について理解する。 (指文字)ア～力行	2 時間
4	講義内容	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫(車いす操作方法及び介助方法他)(実技)■		
	該当到達目標	予習	教本(P108～117)を判読し、工夫や配慮等、基本的な視点・方法を確認する。 (指文字)サ行	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容・到達目標等を確認し、視点・方法等を理解する。 (指文字)ア～サ行	2 時間
5	講義内容	各障がいの理解(精神障がいスポーツ指導時の留意点)■		
	該当到達目標	予習	教本(P124～127、P210～213)を判読し、精神障がいの種類等を確認する。 (指文字)タ行	2 時間

	1,2,3,5	復習	講義内容・到達目標等を確認し、指導法を理解する。 (指文字)ア～タ行	2 時間
6	講義内容	全国障害者スポーツ大会の概要■ (事前説明:車いすバスケのルール他)		
	該当到達目標	予習	教本(P150～153)を判読し、大会の概要・障害区分・競技規則等を確認する。 (次回の交流に備え事前にルール等を周知する。) (指文字)ナ行	2 時間
	1,2,3,5	復習	講義内容・到達目標等を確認し、概要等を理解する。 (指文字)ア～ナ行	2 時間
7	講義内容	障がい者との交流(車いすバスケットボール・実技)■		
	該当到達目標	予習	教本(P22～23)を判読し、交流の必要性等、意義や価値について確認する。 (※ルール参考:P200～203) (指文字)ハ行	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容・到達目標等を確認して必要性を理解する。 (指文字)ア～ハ行	2 時間
8	講義内容	パラスポーツの意義と理念について■		
	該当到達目標	予習	教本(P10～13)を判読し、理念(考え方)について確認する。 (指文字)マ行	2 時間
	1,2,3,5	復習	講義内容・到達目標等を確認し、理念等を理解する。 (指文字)ア～マ行	2 時間
9	講義内容	障がいの理解(視覚障がいの伴走・ガイド他)(実技)■		
	該当到達目標	予習	教本(P152～153、P171)を判読し、変更・工夫された規則の意味を確認する。 (指文字)ヤ行	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容・到達目標等を確認し、伴走方法を理解する。 (指文字)ア～ヤ行	2 時間
10	講義内容	コミュニケーションスキルの基礎■		
	該当到達目標	予習	教本(P16～21)を判読し、要素や工夫等を確認する。 (指文字)ラ行	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容・到達目標等を確認し、要素や工夫等を理解する。 (指文字)ア～ラ行	2 時間
11	講義内容	障がいの理解(身体・知的)(FD 実技)■		
	該当到達目標	予習	教本(P159、P184～187)を判読し、競技FDの基本と留意点を確認する。 (指文字)ワ行	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容・到達目標等を確認し、指導法を理解する。 (指文字)ア～ワ行	2 時間
12	講義内容	各障がいの理解(聴覚・内部の指導上の留意点)(デフリンピック・パラスポーツDVD)■		
	該当到達目標	予習	教本(P114～117)を判読し、障がい別各留意事項を確認する。 手話(50音・数詞)	2 時間
	1,2,3,5	復習	講義内容・到達目標等を確認し、共通留意事項を理解する。 手話(50音・数詞)	2 時間
13	講義内容	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫(ボッチャ・実技)■		
	該当到達目標	予習	教本(P109、P228～231)を判読し、競技ルール等を確認する。 手話(50音・数詞)	2 時間

	1,2,3,4,5	復習	講義内容・到達目標等を確認し、留意事項を理解する。 手話(50音・数詞)	2 時間
14	講義内容	パラスポーツに関する諸施策		
	該当到達目標	予習	教本(P26～29)を判読し、歴史的発展の経緯・諸施策を調べる。 手話の総集編	2 時間
	1,2,3,5	復習	講義内容・到達目標等を確認し、諸施策を理解する。 手話の総集編	2 時間
15	講義内容	安全管理■		
	該当到達目標	予習	教本(P42～52)を判読し、スポーツ指導者としての安全配慮義務について確認する。 手話の総集編	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容・到達目標等を確認し、安全配慮義務を理解する。 手話の総集編	2 時間
合計時間(予習・復習)				60 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	チーム医療アプローチ演習(応用専門科目)						科目ナンバリング	SWA318		
英文名	Interprofessional Practice						講義形態	演習		
担当教員	渡邊秀臣(理学)、小池洋子(看護)、篠原智行(理学)、大林恭子・高橋雄太(薬学)、木村憲洋(情報)、竹内真理(栄養)、加藤大輔(社会福祉)、内田祥子(子ども教育)									
科目に関連した実務経験	渡邊秀臣(理学): 非常勤医師(整形外科医)として病院に勤務 小池(看護): 看護師として一般病院に勤務(経験) 篠原(理学): 理学療法士として急性期、回復期病院に勤務(経験)。生活期病院に非常勤勤務。 大林(薬学): 薬剤師として大学病院に勤務(経験)大学病院に非常勤勤務。 高橋雄太(薬学): 薬剤師として大学病院に勤務(経験)、調剤薬局に非常勤勤務。 木村(情報): 病院経営企画及び診療情報管理にて病院に勤務(経験) 竹内(栄養): 管理栄養士として国立病院機構に勤務(経験)。健大附属クリニック管理栄養士兼務。 加藤(社会福祉): MSWとしてケアミックス病院に勤務(経験) 内田(子ども教育): 保育者養成校での学外実習の指導(経験)									
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	① ③ ④ ⑧ ⑨ ⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○	○		○	○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	チーム医療が必要な事例を用いて、福祉・医療系の各専門職の役割・活動および患者、家族に必要な福祉・医療活動について検討する。さらにチーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性、および専門職の連携の課題について学ぶ。									
①講義の目標										
②講義の実施方法										
到達目標	1.多職種間での情報伝達・共有の必要性を理解し、効果的な情報伝達・共有方法について考えを述べる。■ 2.各専門職の役割と活動について理解し、多職種が連携・協働することの意義を述べる。■ 3.チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の連携・協働の必要性を説明できる。■ 4.チーム医療における専門職の連携を促進するための課題を考察できる。									
使用教材	関連する資料を随時配布する。									
参考文献	指定なし。									
評価方法	1～4回の振り返りシートの記述内容、演習参加への積極性・授業態度 40%、5・6回の模擬症例検討内容等 20%、7・8回の演習参加への積極性・授業態度および発表内容・発表態度 20%、授業後レポート 20% (対面授業・オンライン授業共通)									
課題・評価に対するフィードバック方法	模擬症例検討を行う際には、グループごとに結果をまとめて発表させ、それに対して教員と他チームの学生による検討を行いフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	渡邊(理学): 金曜 3 限、4 号館 2 階学部長室 小池(看護): 月曜 4 限、5 号館 412 研究室 篠原(理学): 水曜 3 限、3 号館 206 研究室 大林(薬学): 月曜 1 限、7 号館 307 研究室 高橋(薬学): 水曜 2 限、7 号館 323 研究室 木村(情報): 月曜 1 限 7 号館 610 研究室 竹内(栄養): 木曜 2 限、1 号館 308 研究室 加藤(社会福祉): 木曜 2 限、1 号館 513 研究室				メールアドレス (#→@)		渡邊(理学): watanabe-h#takasaki-u.ac.jp 小池(看護): koike-y#takasaki-u.ac.jp 篠原(理学): shinohara-t#takasaki-u.ac.jp 大林(薬学): obayashi#takasaki-u.ac.jp 高橋(薬学):			

		内田(子ども教育):月曜1限、8号館410研究室		takahashi-yu#takasaki-u.ac.jp 木村(情報): norihito#takasaki-u.ac.jp 竹内(栄養): mtakeuchi#takasaki-u.ac.jp 加藤(社会福祉): kato-d#takasaki-u.ac.jp 内田(子ども教育): uchida-s#takasaki-u.ac.jp
	講義内容	ガイダンス / チーム医療アプローチについて		
1	該当到達目標	予習	チーム医療について調べておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	演習の目標や進め方、提出物を確認する。	1.5 時間
	講義内容	効果的な情報伝達と共有■		
2	該当到達目標	予習	情報伝達と共有方法について調べて考えておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	情報伝達と共有方法の工夫を整理する。	1.5 時間
	講義内容	多職種連携教育の国内外の動向■		
3	該当到達目標	予習	多職種連携について調べておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	多職種連携教育の動向について整理する。	1.5 時間
	講義内容	チームカンファレンスの目的と方法■		
4	該当到達目標	予習	各専門職の役割について調べておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	チームカンファレンスの目的・方法を整理する。	1.5 時間
	講義内容	模擬症例検討①(模擬症例に対する自職種の役割、アプローチについて)【各学科】		
5	該当到達目標	予習	疾病と治療について学習し、自職種の関わり方をまとめる	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	模擬症例への自職種の役割、アプローチを整理する。	1.5 時間
	講義内容	模擬症例検討②(模擬症例に対する自職種の役割、アプローチについて)【各学科】		
6	該当到達目標	予習	発表の準備をしておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	模擬症例への自職種の役割、アプローチを整理する。	1.5 時間
	講義内容	模擬症例検討③(模擬症例への最善の医療に向けたチーム医療アプローチについて)*グループワーク■【合同】		
7	該当到達目標	予習	模擬症例への自職種の役割、アプローチを他職種に説明する方法について準備しておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	模擬症例への各職種の役割、チーム医療アプローチの意義を整理する。	1.5 時間
	講義内容	模擬症例検討④(模擬症例への最善の医療に向けたチーム医療アプローチについて)*グループワーク発表■【合同】		
8	該当到達目標	予習	発表の準備をしておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	模擬症例への各職種の役割、チーム医療アプローチの意義を整理する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	【履修条件】原則、チーム医療アプローチ論を履修していること。 【授業期間全体を通じた授業の進め方】 1 回目の講義は、テーマについて概要を説明する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。 2～8 回目の講義は、グループワークの形式で進める。 オンライン授業になった際は、ZOOM を使い可能な限りグループワークを行うが、状況に応じてその都度指示する。 (生物生産学科のみ) 【副専攻対象科目】本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム「多職種連携コース」の対象科目である。 副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定(N)」となり、GPA の算出や卒業必要対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する、また、履修登録時に CAP のカウントには含めない。 【キーワード】専門職、チーム医療、多職種連携 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	介護ロボット論(専門展開科目)						科目ナンバリング	SWA319		
英文名	Theory of Nursing Care Robot						講義形態	講義		
担当教員										
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			2	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			3	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	3481117									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○	○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①平成 25 年、日本の成長戦略を示した「日本再興戦略」が閣議決定され、介護ロボットの開発や普及に向けた事業が全国で推進され、平成 29 年には、介護ロボットの導入支援・活用推進等を担う「プロジェクトコーディネーター」の必要性が提唱され、福祉現場での配置が進められている。 ②本講義では、社会福祉士や介護福祉士が専門性と援助技術を駆使して、「プロジェクトコーディネーター」として果たすべき役割を学び、介護ロボットに関する最新の制度や知識、活用方法等を修得し、実践現場での導入支援・活用推進等を行うことができる能力を身につけることを目指す。									
到達目標	1. 専門職が介護ロボットに関する制度や知識、活用方法等を学ぶ必要性を説明できる。 2. 介護ロボットの機能や特徴、導入方法等を分かりやすく説明できる。 3. 介護ロボットの活用意義を QOL 向上の観点から考察し、議論することができる。 4. 高齢者に限らず、児童や障害者等、幅広い領域での活用可能性を説明することができる。									
使用教材	講義に必要な資料は随時 C-Learning にアップする。									
参考文献	授業内で随時紹介する。									
評価方法	【評価点】(100 点満点) 期末試験 (100 点)									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業課題への取組結果は、次の授業で教員からフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)					メールアドレス (#→@)	#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーションー講義の到達目標、内容、進め方、成績評価等の説明								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義の目標や内容等を確認する。						1.5 時間	
	1	復習	介護ロボットについてインターネット等で調べる						1.5 時間	
2	講義内容	人工知能(AI)やロボットに関する基礎知識								
	該当到達目標	予習	第 1 回の動画を再視聴する						1.5 時間	
	1,3,4	復習	人工知能(AI)に関わる動画等を調べて視聴する						1.5 時間	
3	講義内容	人工知能(AI)の歴史的背景と現在の到達点								
	該当到達目標	予習	第 2 回の動画を再視聴する						1.5 時間	
	1,2,3	復習	身近な人工知能(AI)について調べる						1.5 時間	
4	講義内容	人工知能(AI)の将来的展望								
	該当到達目標	予習	第 3 回の動画を再視聴する						1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	福祉分野における人工知能(AI)の活用について考える						1.5 時間	

5	講義内容	海外の介護ロボット事情		
	該当到達目標	予習	第4回講義の動画を再視聴する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業の感想をまとめる(小レポート)	1.5 時間
6	講義内容	最前線の介護ロボット紹介		
	該当到達目標	予習	第5回講義の動画を再視聴する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	福祉分野におけるロボットの活用について考える	1.5 時間
7	講義内容	ロボット開発の最前線		
	該当到達目標	予習	第6回講義の動画を再視聴する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	最前線でロボットを開発する人々が何を重要視しているかを考える	1.5 時間
8	講義内容	介護ロボットの開発と実践の最前線(1)		
	該当到達目標	予習	第7回講義の動画を再視聴する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	福祉の専門職として介護ロボットをどのように活用すべきかを考える	1.5 時間
9	講義内容	介護ロボットの開発と実践の最前線(2)		
	該当到達目標	予習	第8回講義の動画を再視聴する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	福祉の専門職として介護ロボットをどのように活用すべきかを考える	1.5 時間
10	講義内容	「コミュニティワーク」の実践におけるロボット・人工知能(AI)の活用		
	該当到達目標	予習	第9回講義の動画を再視聴する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業の感想をシートにまとめる(小レポート)	1.5 時間
11	講義内容	「ケースワーク」の実践におけるロボット・人工知能(AI)ロボットの活用①		
	該当到達目標	予習	第10回講義の動画を再視聴する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業の感想をまとめる(小レポート)	1.5 時間
12	講義内容	「ケースワーク」の実践におけるロボット・人工知能(AI)ロボットの活用②		
	該当到達目標	予習	第11回講義の動画を再視聴する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業の感想をまとめる(小レポート)	1.5 時間
13	講義内容	「ケースワーク」の実践におけるロボット・人工知能(AI)ロボットの活用③		
	該当到達目標	予習	第12回講義の動画を再視聴する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業の感想をまとめる(小レポート)	1.5 時間
14	講義内容	介護ロボットの開発と研究 ―コミュニケーションロボットの可能性		
	該当到達目標	予習	第13回講義の動画を再視聴する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業の感想をまとめる(小レポート)	1.5 時間
15	講義内容	講義のまとめ		
	該当到達目標	予習	今までの講義動画で最も印象深かった内容を再視聴する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業の感想をシートにまとめる(小レポート)	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考				

科目名		国際福祉事情(専門展開科目)					科目ナンバリング	SWA320			
英文名		International Welfare Situation					講義形態	講義			
担当教員		原田 欣宏、出雲 春明									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		1 豊かな人間性			2 学際的な視点から取り組む力						
		1 基礎的知識力			2 応用・実践する能力						
		1 問題解決能力・コミュニケーション能力			3 専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力						
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○	○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		①福祉に関わる制度やサービスの提供方法は大きく異なる。各国の歴史や文化の違いを理解しながらも海外の福祉政策や課題を理解することは、我が国の福祉政策や実践の在り方を検討するための基盤となる。 ②このため、この講義では主としてヨーロッパ、とくに本学の海外研修派遣先、および受入元の諸国に関する福祉の諸事情について、具体的に状況を紹介していく。 各講義ではテーマについて概要を説明する。授業は PowerPoint により要点を提示する。									
到達目標		1. ヨーロッパ(特にドイツ、フィンランド)の福祉に関する課題を理解することができる。 2. 日本と諸外国の福祉政策と文化の違いについて比較検討することができる。 3. 国際交流によって来日する学生に対して日本と外国の福祉課題を比較説明することができる。									
使用教材		授業時に資料を配布する									
参考文献		授業時に提示する									
評価方法		1. 授業課題への取組状況(30 点)※小レポート・授業内容への質問や感想等 2. 中間課題(20 点)※文献調査レポート 3. 最終プレゼンテーション(50 点)※日本との比較をプレゼンテーションする 総合評価で 60%以上を合格とする									
課題・評価に対するフィードバック方法		課題、レポートは、提出期限後に授業内にて解説を行う。最終プレゼンテーションは、作成過程で指導を行いながら説明する。									
オフィスアワー (研究室)		火曜 3 時限 研究室:1 号館 5 階 506				メールアドレス (#→@)		harada#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス／諸外国と日本との比較の意義									
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標、到達目標、講義計画などを理解する。							1.5 時間	
	1	復習	授業で扱う各国の概要を確認する。							1.5 時間	
2	講義内容	ヨーロッパの風土と歴史①									
	該当到達目標	予習	ドイツの概要(政治体制、面積、人口など基本的な情報)を確認する。							1.5 時間	
	1,2	復習	日本との違いをまとめる。							1.5 時間	
3	講義内容	ヨーロッパの風土と歴史②									
	該当到達目標	予習	ドイツ人の文化(好み、伝統的な行事、など)について調べる。							1.5 時間	
	1,2	復習	家族に対する考え方をまとめる。							1.5 時間	
4	講義内容	日本との比較検討①在宅介護									
	該当到達目標	予習	日本の在宅介護の課題について調べる。							1.5 時間	

令和6年度 社会福祉学科シラバス

	1,2	復習	ヨーロッパとの比較を整理する。	1.5 時間
5	講義内容	日本との比較検討②人権		
	該当到達目標	予習	日本の成年後見制度の課題について調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	ヨーロッパとの比較を整理する。	1.5 時間
6	講義内容	日本との比較検討③児童福祉		
	該当到達目標	予習	日本の児童福祉の課題について調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	ヨーロッパとの比較を整理する。	1.5 時間
7	講義内容	日本との比較検討④家族		
	該当到達目標	予習	日本の家族観についての課題を調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	諸外国と日本の家族支援の考え方を整理する。	1.5 時間
8	講義内容	ヨーロッパの福祉事情①		
	該当到達目標	予習	ドイツの介護保険制度の概要について調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	在宅サービスと施設サービスの違いをまとめる。	1.5 時間
9	講義内容	ヨーロッパの福祉事情②		
	該当到達目標	予習	ドイツの児童福祉について調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	日本との比較を行うために資料を調べまとめる。	1.5 時間
10	講義内容	ヨーロッパの福祉事情③		
	該当到達目標	予習	ドイツの世話人法について調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	日本の成年後見法との違いを理解する。	1.5 時間
11	講義内容	ヨーロッパの福祉事情④まとめ		
	該当到達目標	予習	移民についての現状を新聞記事などから調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	日本の移民難民政策との違いを整理する。	1.5 時間
12	講義内容	現代社会の課題比較①文化や習慣、イデオロギー		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションを行うため、パワーポイントで整理する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	意見交換した内容を整理する。	1.5 時間
13	講義内容	現代社会の課題比較②福祉的課題		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションを行うため、パワーポイントで整理する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	意見交換した内容を整理する。	1.5 時間
14	講義内容	現代社会の課題比較③人権問題		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションを行うため、パワーポイントで整理する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	意見交換した内容を整理する。	1.5 時間
15	講義内容	現代社会の課題比較④まとめ		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションを行うため、パワーポイントで整理する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	意見交換した内容を整理する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考				

科目名	総合演習Ⅰ（卒業研究及び演習）						科目ナンバリング	SWT401		
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅠ						講義形態	演習		
担当教員	安達 正嗣									
科目に関連した実務経験	兵庫県庁の家庭問題研究所において３年間、研究員および主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施して調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。									
学年・開講期	３年 前期	選必・単位数	必修 １単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	１	豊かな人間性				１	学際的な視点から取り組む力			
	１	基礎的知識力				５	応用・実践する能力			
	１	問題解決能力・コミュニケーション能力				１	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGsとの関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①現代の日本社会において、高齢化に関する福祉社会学的ならびに家族社会学的な視点・分析能力の養成は、さまざまな学術分野のみならず、社会福祉・精神保健・介護の現場のなかで重要性を増してきている。本演習では、高齢者福祉のあり方を考えることを通じて、こうした視点・分析能力を身につけることを目指すものである。 ②受講生が主体となって、司会と報告者の役割をおこない、教科書の担当章に関する報告者の報告内容・レジュメをめぐる議論して、担当教員が適宜に助言しながら、教科書の内容の理解を深めるものである。									
到達目標	1. 高齢化の現状と高齢者福祉政策の動向について理解できる。 2. 高齢社会における課題を明確化して認識することができる。 3. 受講生が自らの問題意識から研究テーマを発見でき、プレゼンテーションの能力を養うことができる。 4. 福祉社会学・家族社会学の研究手法（調査方法を含む）を習得できる。■ 5. ゼミ論を作成することによって、卒論を作成する能力を身につけることができる。									
使用教材	直井道子・中野いく子・和気純子『高齢者福祉の世界』有斐閣アルマ（補訂版）									
参考文献	講義中、適宜指示する。									
評価方法	受講生に対する評価の内訳は、演習中の研究課題への取り組みに対する評価（50％）、学期末に提出するレポート（プレ・ゼミ論）の評価（50％）、合計 100％で評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回の報告、提出された学期末レポートについて、コメントをつけて返却して、書き直したレポートを点検する。									
オフィスアワー（研究室）	火曜日 5 限・6 限 510 研究室				メールアドレス （#→@）		adachi-m#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。■									
	予習	各回に指示する。							8 時間	
	復習	各回に指示する。							8 時間	
合計時間（予習・復習）										16 時間
備考	報告者が無断欠席をすると、単位が不可となります。必ず、報告者以外の受講生は、質問や意見を述べるのが義務となっています。 ■:実務経験に基づく内容を示す。									

科目名		総合演習 I（卒業研究及び演習）					科目ナンバリング	SWT401			
英文名		Seminar in Advanced Studies I					講義形態	演習			
担当教員		金井 敏									
科目に関連した実務経験		コミュニティソーシャルワークの実践主体としての社会福祉協議会に勤務経験有。実務を担当するとともに、ソーシャルワーカーの育成にも従事。現在、行政や社協、民生委員協議会、団体の計画づくりや実践の企画・評価にも携わっている。									
学年・開講期		3 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
		1	基礎的知識力			5	応用・実践する能力				
		1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連		1	3	4	5	8	10	11	16 17		
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○	○	○	○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		地域福祉実践を中心としてコミュニティソーシャルワーカーが活用する知識と技術について、現地演習やグループワークを通じて理解する。 ゼミの運営は学生が主体的に協力しながら運営する。研究・実践活動は、歴代のゼミの先輩が実践してきた内容＝ふれあい・いきいきサロン、大類地域福祉教育の会運営、赤い羽共同募金などの企画・運営・振り返りをベースとする。教員は自身の研究テーマと教育スタンスにより、フィールドの実践やアドバイスをを行う。									
到達目標		1.現地演習を通じて、地域住民や団体が抱える生活課題を把握するとともに説明できる。■ 2.現地演習を通じて、地域団体の運営方法や事業の企画、広報、連絡調整の技術を修得する。■ 3.コミュニティソーシャルワーカーが活用している知識や技術を説明できる。■ 4.ゼミ活動を通じて、集団討議や研究方法、プレゼンテーションの技術や方法論を修得する。■									
使用教材		テキストは使用しない。									
参考文献		その他、講義に必要な教材・資料は適宜プリントして配付する。									
評価方法		①専門分野における演習の取り組み(40%)、②地域課題への取り組み(30%)、③グループ学習による取り組み(30%)、による専門的な学修、知識の獲得等により評価します(計 100%)。									
課題・評価に対するフィードバック方法		質問や相談については Clearning で適時回答するほか、必要に応じて授業時に学生全体にフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)		質問や相談は Clearning 等で随時受け付けます。				メールアドレス (#→@)	kanai#takasaki-u.ac.jp				
1～ 15	講義内容	地域福祉実践(地域福祉教育団体運営、ふれあいサロン活動、共同募金活動など)の企画、運営、準備、振り返り、研究を行う。社会福祉学科研究発表会等において研究成果を発表する。■									
	該当到達目標	予習	実践の準備、検討、資料作成等。								8 時間
	1,2,3,4	復習	実践の振り返り、次の課題への準備等。								8 時間
合計時間(予習・復習)											16 時間
備考	●授業時間には、授業時の活動のほか地域に出向いて行う実践時間も含む。 ●国家試験受験の準備や就職活動の支援も適宜行う。 講義内容の■は実務経験に基づく内容を示す。										

科目名	総合演習 I（卒業研究及び演習）						科目ナンバリング	SWT401		
英文名	Seminar in Advanced Studies I						講義形態	演習		
担当教員	池田 朋広									
科目に関連した実務経験	①精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）として大学病院において 21 年勤務（経験） ②非常勤として精神科クリニックデイケアに 4 年勤務（経験） ③外部講師（精神保健福祉士）として、保護観察所薬物再乱用防止プログラムに不定期参加（現在） ④薬物依存症回復支援施設にて、非常勤プログラム講師（現在）									
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			5	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	①	③	⑤	⑧	⑩	⑪	⑬	⑭		
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○		○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①おもに薬物使用者を支援の対象として、精神科医療と刑事司法の境界領域におけるソーシャルワーク実践について考えを深めていく。また、支援対象者への介入手段の一つとして、病院や矯正施設等で行なわれる心理社会的治療プログラムや、精神保健分野における多職種チームアプローチの技法についても、詳しく紹介していく。 基本は演習形式で授業を行うが、外部講師を招いて講義形式にて行うこともある。課外授業やゼミ合宿も含め、授業の進行についてはすべてゼミメンバーで話し合って決める。 ②メンタルヘルス領域・司法福祉領域から各自が関心のある分野や課題を選び、研究報告会にむけての具体的なテーマを決める。学期中はゼミ時間を、施設見学や自主的な学習調査に利用し、月 1～2 回程度進捗状況をゼミで報告する。初回講義で、講義全体（研究活動）のオリエンテーションを行う。									
到達目標	1 これまでの学習の成果を深めていくために、専門分野における演習を実施し、より専門的な学習、知識の獲得することができる。■ 2 社会福学科研究発表会に向けプレゼンテーション、発表会での報告ができる■									
使用教材	必要に応じて指示する。									
参考文献	必要に応じて指示する。									
評価方法	共同創造を目指した授業展開とする。授業における発言内容（50％）、研究活動への貢献度（50％）を目安に、発表内容も含め総合的に評価する。60％以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	学生から提出された成果物の内容を修正し、全体に向けて解説する。									
オフィスアワー （研究室）	火曜日 3, 4 時限 312 研究室				メールアドレス （#→@）	ikedat#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	チーム作り。コミュニケーションをとっていき、お互いに意見を言えるような関係性を構築する。 見学を踏まえて、発表内容を決めて、分担して調べたものをゼミで発表する。■									
	予習	発表の準備・練習。								8 時間
	復習	授業で考察したものをまとめる。発表準備・練習を進める。								8 時間
合計時間（予習・復習）									16 時間	
備考	自分から積極的に教員とアポイント（連絡や相談）を取ることができると望ましい。 ■：実務経験に基づく内容を示す。									

科目名	総合演習Ⅰ（卒業研究及び演習）						科目ナンバリング	SWT401		
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅠ						講義形態	演習		
担当教員	永田 理香									
科目に関連した実務経験	研修担当者として社会福祉研修実施機関（県社会福祉協議会）に勤務（経験）									
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑪ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○	○	○	○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	現在、福祉人材確保政策において人材育成の重要性が注目され、キャリアパスの策定や人材育成認証評価制度等の取組みが進められてきている。本演習では、人材育成を組織的な学習・教育活動と捉え、福祉専門職が将来展望を持ちながらキャリアアップできる人材育成のあり方について実践的に学ぶ。基本的な研究の流れと方法が理解できるよう、個人のニーズに合わせ段階的に演習を進めていく。プレゼンテーションスキルの向上を目指し、スライドの構成・作成方法、発表方法について実践的に指導を行なう。									
到達目標	1. 福祉人材育成の今日的動向について理解できる。■ 2. 福祉人材育成における課題を明確化することができる。■ 3. 研究テーマに基づき研究計画を立案することができる。									
使用教材	必要に応じて指示する									
参考文献	必要に応じて提示する									
評価方法	問題解決学習を中心とした授業展開とするため、段階的に形成的評価を行なう。その内訳は、授業における発言内容（30％）、研究計画の妥当性（30％）、研究活動への貢献度（40％）とし、60％以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出された課題については、出題した意図について解説を行い、コメントを付け返却を行なう。									
オフィスアワー （研究室）	火曜日 3 時限と水曜日 2 時限 （1 号館 3 階 309）				メールアドレス （＃→＠）	メールアドレスは初回授業時に提示する。				
講義内容	初回に研究活動についてのオリエンテーションを行う■									
	予習	毎回指示する								毎 1.5 時間
	復習	毎回指示する								毎 1.5 時間
合計時間（予習・復習）									45 時間	
備考	オンラインで実施する場合は、別途 C ラーニング等で周知する。 ■：実務経験に基づく内容を示す。									

科目名	総合演習Ⅰ（卒業研究及び演習）							科目ナンバリング	SWT401	
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅠ							講義形態	演習	
担当教員	原田 欣宏									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年	前期	選必・単位数	必修 1 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	35101116									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○		○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	①福祉・医療・司法専門職と地域住民との協働による福祉実践を中心としたソーシャルワーカーが活用する知識と技術について、現地演習やグループワークを通じて理解する。									
①講義の目標	②授業では文献や実地調査とグループワーク、ディスカッションを行い、適宜コメントする。									
②講義の実施方法										
到達目標	1. 現地あるいは文献調査等で得られたデータをもとにしての演習を通じて、地域住民が抱える生活課題を把握するとともに説明できる。 2. ソーシャルワーカーが活用している知識や技術を説明できる。									
使用教材	テキストは使用しない									
参考文献	適宜文献を指示する									
評価方法	①専門分野における演習の取り組み、②課題に取り組むことによる、より専門的な学修、知識の獲得等により評価 100%。60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	演習ゼミの運営や学習内容については、ゼミ生による自主的な運営を基本としつつ、教員から随時アドバイスや提案を行うなど学生にフィードバックする。									
オフィスアワー （研究室）	火曜 3 時限 研究室: 1 号館 5 階 506				メールアドレス （#→@）		harada#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動									
	予習	テーマに即したデータ、参考文献を検索し、整理する。								7.5 時間
	復習	ゼミ活動を振り返り、情報と課題の整理を行う。								7.5 時間
合計時間（予習・復習）									15 時間	
備考	ゼミの運営は学生が主体的にかつ協力しながら運営することで、学びがさらに深まることを期待しています。									

科目名	総合演習 I（卒業研究及び演習）							科目 ナンバリング	SWT401		
英文名	Seminar in Advanced Studies I							講義形態	演習		
担当教員	根岸 洋人										
科目に関連した 実務経験	高崎市障害者虐待対策協議会会長（現在） 高崎市社会福祉審議会委員（現在）										
学年・開講期	3 年	前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする 資格											
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	③										
アクティブラーニング 実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
	○		○	○	○		○				
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	障害のある人を取り巻く環境（制度、文化、支援技術等）についてテーマを設定し、文献検索、調査、実践活動などを通して理解を深め、課題を解決する力を培う。 授業はゼミ形式で行う。各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによってはボランティア活動や実態調査などを行う。授業時間以外での学修や活動を行うことが前提となる。										
到達目標	1. 障害のある人を取り巻く環境について理解することができる■ 2. 問題点を発見し、課題解決に向けた研究を行うことができる 3. 自分の取り上げた研究テーマをプレゼンテーションすることができる										
使用教材	適宜指示する										
参考文献	適宜指示する										
評価方法	ゼミ内での研究発表及び活動内容により総合的に評価する（100％）										
課題・評価に対する フィードバック方法	授業内のコメント、議論、研究指導など随時フィードバックを行う										
オフィスアワー （研究室）	火曜 5 限及び金曜 5 限 507 研究室				メールアドレス （#→@）		negishi#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	設定したテーマについて各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによってはボランティア活動や実態調査などを行う。最終的には学科の研究発表会にて研究成果の発表を行う。■										
	予習	適宜指示する								8 時間	
	復習	適宜指示する								8 時間	
							合計時間（予習・復習）		16 時間		
備考	■：実務経験に基づく内容を示す。										

科目名	総合演習Ⅰ（卒業研究および演習）						科目ナンバリング	SWT401		
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅠ						講義形態	演習		
担当教員	石坂 公俊									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数		必修 1 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			5	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	①	③	④	⑤	⑧	⑩	⑫	⑯		
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○	○	○	○		○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	1. 「子どもの貧困」をテーマとし、貧困で何が起きているのか、なぜ貧困があるのかを理解する。 2. 「子どもの貧困」を背景とした多角的な視点を醸成する。 3. フィールドワークに参加しながら、貧困問題などについて自分の目と耳で考える。 「貧困の中でしんどい思いをしている子ども達」、「なぜ貧困があるのか」について中心的に理解する。グループワーク、文献・資料等も活用し、学びを深める方法をとる。									
到達目標	1. 貧困の中で育つ子どもの生活実態を理解することができる。 2. 「子どもの貧困」をめぐる背景や諸動向を理解することができる。 3. 社会福祉の関連事象には背景に貧困問題があるかもしれないという感度を持つことができる。									
使用教材	必要に応じて指示するが、参考文献などは授業中にも適宜紹介していく。 授業内容によっては DVD などを視聴する機会も設け、レジュメや参考資料なども配付する。									
参考文献	特記事項なし									
評価方法	1. 履修の条件として、子どもの貧困やホームレス問題などに関心のある学生を希望する。 2. ゼミ活動としてフィールドワークへの参加に意欲的な学生を希望する。 上記を目安に総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	発表、提出物等に対してコメントする。 必要に応じて面談、個別指導を随時実施する。									
オフィスアワー （研究室）	水曜日 4 時限 質問はメールでも受け付ける。 （1 号館 5 階 503 研究室）				メールアドレス （#→@）		kimi#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	「子どもの貧困問題」がメインテーマとなる。子どもの貧困の実態、困難を抱えた子どもや家族の「声」を社会に発信し、解決への道筋を考えていく。本講座では将来にわたって、貧困問題に対するアンテナを持ち続けられる支援者を目指す。総合演習Ⅲを履修する 4 年生と合同で実施する。									
	予習	毎回提示する。								8 時間
	復習	毎回提示する。								8 時間
合計時間（予習・復習）									16 時間	
備考	フィールドワークとして子ども無料学習会、ホームレス配食（聞き取り調査も実施）の活動にも参加が可能となる。さらにゼミ									

	ミ内で国家試験学習も行っていく。それらの取り組みを通じて、教員、ゼミ生同士の相互交流を図ることが主な目的となる。

科目名	総合演習Ⅰ（卒業研究及び演習）						科目ナンバリング	SWT401		
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅠ						講義形態	演習		
担当教員	堀口 美奈子									
科目に関連した実務経験	介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務（経験）									
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			5	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	③⑤⑧⑩⑪									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①社会福祉は、ひとりよりみんな、他者とともに生きる＝共生社会のなかで育まれる。そこで本科目では、共生社会の原点である「自己」について知り、社会福祉専門職に求められる「社会福祉を構成するから」について検討していく。 ②授業では、経験学習モデルをベースに、講義の他、事例などを踏まえた演習を行う。演習では個人ワークの他、グループワークを行い、相互作用による学習の定着を図る。									
到達目標	1.具体的なワークを通して、チームで働く力や前に踏み出す力、考え抜く力を身につけることができる。■ 2.実践経験から内省的観察を行い、共生社会の構成時に必要となる抽象的概念を抽出、言語化できる。■ 3.得られた概念を、社会の中での能動的実践に活かすことができる。■ 4.ワークや他者との交流を通して、自己についての考えを深めることができる。									
使用教材	必要に応じて資料の配布、参考書の紹介を行う。									
参考文献										
評価方法	実践活動での活発な参加と議論・活動への貢献度 40%、提出物の充実度 60%									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出を求めるレポートやリアクションペーパーについては、適宜コメントを付しての返却を予定している。									
オフィスアワー （研究室）	月曜・水曜 3 限 502 研究室				メールアドレス （#→@）		連絡手段は初回授業時に提示する			
講義内容	初回到授業全体についてのオリエンテーションを行う■ 総合演習Ⅲを履修する 4 年生と合同で実施する。									
	予習	適宜指示する								7.5 時間
	復習	適宜指示する								7.5 時間
合計時間（予習・復習）									15 時間	
備考	■：実務経験に基づく内容を示す。									

科目名	総合演習Ⅰ（卒業研究及び演習）						科目ナンバリング	SWT401		
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅠ						講義形態	演習		
担当教員	大川 健次郎									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			5	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○	○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①児童家庭福祉の諸問題を中心に扱う。現在の児童や家庭、女性問題などに焦点を当てて、これまでの大学の講義や演習等で学んだことを、自分の興味範囲を定めて深めて研究することを目的とする。そして、それらを他者に分かりやすく伝える力をつける。また、ゼミ内でお互いに学び合い自分の興味範囲を深めてく。 ②授業は、学生の児童家庭福祉に関する問題意識を基に、質疑応答形式で進め、それをゼミとしてまとめていく。									
到達目標	1. 自分たちの考えを他者に分かりやすく伝える技術を学ぶことができる。 2. 他者の学びを、自らの問題としてとらえ、深めることを学ぶことができる。 3. 大学卒業後の進路を考え具体的な目標を立てることができる。									
使用教材	教科書は使用しないが、ゼミにおいて資料の配布、参考書の紹介などを予定している。									
参考文献										
評価方法	研究計画書・発表文書（60％）、他のゼミ生への提案（20％）、ゼミ活動への貢献度（20％）									
課題・評価に対するフィードバック方法	研究計画書・発表文書作成段階で、個別指導を実施する。									
オフィスアワー （研究室）	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。研究室 508				メールアドレス （#→@）	okawa#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	ゼミ内で議論しテーマを設定して、各自問題意識をもってテーマを深めたうえで、ゼミ内で共有する									
	予習	毎回指示する							8 時間	
	復習	毎回指示する							8 時間	
合計時間（予習・復習）									16 時間	
備考	各自主体的に参加し、協同して、さらなる深い学習となることを期待する。									

科目名	総合演習 I (卒業研究および演習)						科目ナンバリング	SWT401		
英文名	Seminar in Advanced Studies I						講義形態	演習		
担当教員	白鳥 浩丈									
科目に関連した実務経験	2001.4 月～精神科病院勤務、2020.4 月～就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所勤務									
学年・開講期	3 年 前期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	③ ⑧ ⑪ ⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①働くメンタルヘルス不調者・精神障害者への支援についてテーマを設定し、文献検索、調査、実践活動などを通して理解を深め、課題を解決する力を培う。働くこととメンタルヘルスの両立を支援するための専門知識や、支援現場で行われている心理社会的アプローチについても紹介していく。 ②授業はゼミ形式で行う。学生の問題意識をもとに、ゼミ内での報告、発表、対話、討議等により、現場課題や支援の理解を深めていく。									
到達目標	1. メンタルヘルス不調者・精神障害者への支援について理解することができる■ 2. 問題・課題を発見し、自身の研究テーマを決め、研究を行うことができる。 3. 研究成果をプレゼンテーションすることができる。									
使用教材	必要に応じて指示する									
参考文献	必要に応じて指示する									
評価方法	ゼミ内での研究発表及び活動内容により総合的に評価する(100%)									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業内のコメント、議論、研究指導などにより随時学生にフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	火曜 2 時限 (303 研究室)				メールアドレス (#→@)		shiratori#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	グループや各自の目標・テーマ等に沿って企画や研究を行い、発表により研究成果を共有しながら進めていく。■									
	予習	毎回指示する							毎 1.5 時間	
	復習	毎回指示する							毎 1.5 時間	
合計時間(予習・復習)									45 時間	
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。									

科目名	総合演習Ⅰ（卒業研究および演習）						科目 ナンバリング	SWT401		
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅠ						講義形態	演習		
担当教員	出雲 春明									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			5	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	①	②	③	④	⑤	⑩	⑪	⑯	⑰	
アクティブラーニング実 施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○		○			
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 医療・福祉の分野では、キュア（治療）だけでなく、QOL（生の質）へのケア（配慮）が重要な位置を占めている。しかしながら、「高い QOL とは何か」は人それぞれで違う。本演習では、QOL に直結している「多様性」の問題について理解を深めることを目標とする。 ② 本演習では、学生が自分の興味範囲のなかから課題を設定し、研究発表、議論を行ってもらう。教員からも適宜、問題提起や情報提供を行う。									
到達目標	1. さまざまな QOL の在り方について理解し、説明することができる。 2. 自分の研究テーマを設定し、自らの関心を他者に伝えることができる。 3. 適切に文献等の資料を利用することができる。 4. 自分の考えをまとめることができる。 5. 議論を通じて、考えを深めることができる。									
使用教材	教科書は使用しない。ゼミ生の関心に合わせて、資料を配布する。									
参考文献	必要に応じて指示する。									
評価方法	調査、研究発表などへの出席や参加度から評価する（100％）。									
課題・評価に対する フィードバック方法	ゼミでの研究発表に対して、適宜指導を行う。									
オフィスアワー （研究室）	1 号館 511 研究室 面談希望の場合は C-Learning「連絡・ 相談」あるいは右記アドレスまで。				メールアドレス （＃→＠）		izumo-s#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	各自の関心に基づいたゼミ研究活動									
	予習	適宜指示する。							1.5 時間	
	復習	適宜指示する。							1.5 時間	
合計時間（予習・復習）								45 時間		
備考	日頃から、社会問題に関心を持ち、報道などを見るようにしましょう。									

科目名	総合演習Ⅰ（卒業研究及び演習）						科目ナンバリング	SWT401		
英文名	Seminar in advanced studiesⅠ						講義形態	演習		
担当教員	檜府 憲太									
科目に関連した実務経験	社会福祉士（専門職採用）として生活保護、高齢者福祉、障害者福祉の部署に勤務（合計13年）									
学年・開講期	3年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○	○	○	○	○	○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①「貧困」をキーワードに国内外の貧困の現状を把握し、その解決方法について考察する。また、そうした貧困が生じる現代社会の特徴や課題、今後の社会のあるべき形について、文献、映画、演劇その他様々な媒体を用いて複眼的に考察する。 ②文献講読、グループディスカッション、グループに分かれての研究・調査、フィールドワーク、映画・演劇鑑賞などの方法を適宜組み合わせる。									
到達目標	1. 「貧困」を切り口にして現代社会の構造やあり方について考察することができる。■ 2. 社会福祉・ソーシャルワークを多様な方法、幅広い視点で学び、視野の広い思考を身につける。 3. 研究・調査の初歩的な部分を学び、学士として最低限の知識・技術を備える。									
使用教材	適宜提示する。									
参考文献	適宜提示する。									
評価方法	授業内における課題への取り組み態度、研究・調査に対する意欲、研究成果の内容などを総合的に判断する(100%)。特に学びに対する積極性・主体性は高く評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業内の他、メールや対面などで適宜フィードバックを行う。									
オフィスアワー （研究室）	質問及び学習相談には適宜応じる。				メールアドレス （＃→＠）	narafu#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	文献講読、グループディスカッション、グループに分かれての研究・調査、フィールドワーク、映画・演劇鑑賞などの方法を適宜組み合わせる。■									
	予習	適宜提示する。							1.5 時間	
	復習	適宜提示する。							1.5 時間	
合計時間（予習・復習）									45 時間	
備考	・フィールドワーク等、内容によっては科目として定められている日時以外の時間を用いて行うことがある。 ・授業の内容や形態は学生の関心に応じて柔軟に変更するので、主体的に参加し、積極的に意見を述べること。 ■は実務経験に基づく授業内容であることを示しています。									

科目名	総合演習Ⅰ（卒業研究および演習）						科目ナンバリング	SWT401		
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅠ						講義形態	演習		
担当教員	富田 俊									
科目に関連した実務経験	専門看護師として病院に勤務（経験）									
学年・開講期	3 年 前期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	3481116									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①人生の最終段階・終末期・看取りの関する支援、倫理等についてテーマを設定し、文献検索、調査、実践活動などを通して理解を深め、課題を解決する力を養う。自身の死生観や人生の最終段階・終末期・看取りに関する価値観を養い、他者の価値観を理解する。 ②ゼミ活動を通して授業はゼミ形式で行う。各自の研究成果を報告、発表しながら進め、研究発表会に向けてプレゼンテーション技術や発表方法について実践的に指導する。									
到達目標	1. 研究計画に基づき研究活動を展開することができる。 2. 調査結果を検討し、研究目的に基づいた考察ができる。■ 3. 研究の成果を整理し、研究発表会においてプレゼンテーションすることができる。									
使用教材	必要に応じて指示する									
参考文献	必要に応じて指示する									
評価方法	演習／課題の取り組み（30％）、ディスカッションにおける発言内容（30％）、研究活動の貢献度（40％）として、60％以上を合格とする									
課題・評価に対するフィードバック方法	演習ゼミの運営や学習内容については、ゼミ生による自主的な運営を基本としつつ、教員から随時アドバイスや提案を行うなど学生にフィードバックする。									
オフィスアワー （研究室）	月曜 2 時限 （504 研究室）				メールアドレス （#→@）		tomita-s#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	グループや各自の目標・テーマ等に沿って、企画や研究を行い、実践活動や研究成果を共有しながら進めていく。最終的には社会福祉学科研究発表会にて研究成果の発表を行う。■									
	予習	毎回指示する							8 時間	
	復習	毎回指示する							8 時間	
合計時間（予習・復習）									16 時間	
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。									

科目名	総合演習Ⅰ（卒業研究及び演習）							科目ナンバリング	SWT401		
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅠ							講義形態	演習		
担当教員	加藤 大輔										
科目に関連した実務経験	医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）として病院に勤務（経験）										
学年・開講期	3 年 前期		選必・単位数		必修 1 単位						
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	③⑩										
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
	○		○	○	○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	医療福祉、医療ソーシャルワーカーの実践についてテーマを設定し、医療ソーシャルワーカーの専門性や役割を理解する。また実践の基盤となる価値、医療・福祉に関する専門知識・援助技術を身に着ける。活動を通じ、企画、研究、プレゼンテーションにかかわる力量を養う。 学生の問題意識を基に文献調査、実践理解を意図した企画などを実施し、学習内容のゼミ内での発表、討議により、理解を深めていく。										
到達目標	1. 医療分野における福祉の役割を理解することができる■ 2. 研究活動の展開について理解することができる 3. 研究成果をゼミでの討論により整理できる 4. 研究成果を研究発表会においてプレゼンテーションすることができる										
使用教材	必要に応じて指示する										
参考文献	必要に応じて指示する										
評価方法	ゼミ内での研究発表、活動内容、研究活動への貢献度による総合的に評価する。										
課題・評価に対するフィードバック方法	授業内のコメント、議論、研究指導など随時フィードバックを行う										
オフィスアワー （研究室）	水曜 4 限 5 階 513 研究室				メールアドレス （#→@）		kato-d#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	設定したテーマについて各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによっては現任者の実践理解を意図した企画を行う。最終的には学科の研究発表会にて研究成果の発表を行う。■										
	予習	毎回指示する								8 時間	
	復習	毎回指示する								8 時間	
								合計時間（予習・復習）		16 時間	
備考	■：実務経験に基づく内容を示す。										

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究及び演習）						科目ナンバリング	SWT402				
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅱ						講義形態	演習				
担当教員	安達 正嗣											
科目に関連した実務経験	兵庫県庁の家庭問題研究所において３年間、研究員および主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施して調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。											
学年・開講期	３年 後期	選必・単位数	必修 １ 単位									
履修を必須とする資格												
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力					
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力					
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力					
SDGs との関連	①	②	③	④	⑤	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑯	⑰
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他		
			○		○	○						
「その他」のアクティブラーニング実施方法												
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	現代の日本社会において、高齢化に関する福祉社会学的ならびに家族社会学的な視点・分析能力の養成は、さまざまな学術分野のみならず、社会福祉・精神保健・介護の現場のなかで重要性を増してきている。本演習では、高齢者福祉のあり方を考えることを通じて、こうした視点・分析能力を身につけることを目指すものである。 受講生が主体となって、司会と報告者の役割をおこない、教科書の担当章に関する報告者の報告内容・レジュメをめぐって議論して、担当教員が適宜に助言しながら、教科書の内容の理解を深めるものである。											
到達目標	1. 高齢化の現状と高齢者福祉政策の動向について理解できる。 2. 高齢社会における課題を明確化して認識することができる。 3. 受講生が自らの問題意識から研究テーマを発見でき、プレゼンテーションの能力を養うことができる。 4. 福祉社会学・家族社会学の研究手法（調査方法を含む）を習得できる。■ 5. ゼミ論を作成することによって、卒論を作成する能力を身につけることができる。											
使用教材	G・エスピン＝アンデルセン『アンデルセン、福祉を語る』NTT 出版											
参考文献	講義中、適宜指示する。											
評価方法	受講生に対する評価の内訳は、演習中の研究課題への取り組みに対する評価（50％）、学期末に提出するレポート（プレ・ゼミ論）の評価（50％）、合計 100％で評価する。											
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回の報告、提出された学期末レポートについて、コメントをつけて返却して、書き直したレポートを点検する。											
オフィスアワー （研究室）	火曜日 5 限・6 限 510 研究室					メールアドレス （#→@）	adachi-m#takasaki-u.ac.jp					
講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評後、質疑応答と議論をする。学期末には、自分の問題関心に基づいてゼミ論を提出する。■											
	予習	各回に指示する。										8 時間
	復習	各回に指示する。										8 時間
合計時間（予習・復習）											16 時間	
備考	報告者が無断欠席をすると、単位が不可となります。必ず、報告者以外の受講生は、質問や意見を述べるのが義務となっています。 ■：実務経験に基づく内容を示す。											

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究及び演習）						科目ナンバリング	SWT402		
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅡ						講義形態	演習		
担当教員	金井 敏									
科目に関連した実務経験	コミュニティソーシャルワークの実践主体としての社会福祉協議会に勤務経験有。実務を担当するとともに、ソーシャルワーカーの育成にも従事。現在、行政や社協、民生委員協議会、団体の計画づくりや実践の企画・評価に携わっている。									
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数		必修 1 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			5	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑪ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○	○	○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	地域福祉実践を中心としてコミュニティソーシャルワーカーが活用する知識と技術について、現地演習やグループワークを通じて理解する。 ゼミの運営は学生が主体的に協力しながら運営する。研究・実践活動は、歴代のゼミの先輩が実践してきた内容＝ふれあい・いきいきサロン、大類地域福祉教育の会運営、赤い羽共同募金などの企画・運営・振り返りをベースとする。教員は自身の研究テーマと教育スタンスにより、フィールドの実践やアドバイスをを行う。									
到達目標	1.現地演習を通じて、地域住民や団体が抱える生活課題を把握するとともに説明できる。■ 2.現地演習を通じて、地域団体の運営方法や事業の企画、広報、連絡調整の技術を修得する。■ 3.コミュニティソーシャルワーカーが活用している知識や技術を説明できる。■ 4.ゼミ活動を通じて、集団討議や研究方法、プレゼンテーションの技術や方法論を修得する。■									
使用教材	テキストは使用しない。									
参考文献	その他、講義に必要な教材・資料は適宜プリントして配付する。									
評価方法	①専門分野における演習の取り組み(40%)、②地域課題への取り組み(30%)、③グループ学習による取り組み(30%)、による専門的な学修、知識の獲得等により評価します(計 100%)。									
課題・評価に対するフィードバック方法	質問や相談については Clearning で適時回答するほか、必要に応じて授業時に学生全体にフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	質問や相談は Clearning 等で随時受け付ける。				メールアドレス (#→@)	kanai#takasaki-u.ac.jp				
1～15	講義内容	地域福祉実践(地域福祉教育団体運営、ふれあいサロン活動、共同募金活動など)の企画、運営、準備、振り返り、研究を行う。社会福祉学科研究発表会等において研究成果を発表する。■								
	該当到達目標	予習	実践の準備、検討、資料作成等。						8 時間	
	1,2,3,4	復習	実践の振り返り、次の課題への準備等。						8 時間	
合計時間(予習・復習)									16 時間	
備考	●授業時間には、授業時の活動のほか地域に出向いて行う実践時間も含む。 ●国家試験受験の準備や就職活動の支援も適宜行う。 講義内容の■は実務経験に基づく内容を示す。									

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究及び演習）						科目ナンバリング	SWT402		
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅱ						講義形態	演習		
担当教員	池田 朋広									
科目に関連した実務経験	①精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）として大学病院において 21 年勤務（経験） ②非常勤として精神科クリニックデイケアに 4 年勤務（経験） ③外部講師（精神保健福祉士）として、保護観察所薬物再乱用防止プログラムに不定期参加（現在） ④薬物依存症回復支援施設にて、非常勤プログラム講師（現在）									
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			5	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	1	3	5	8	10	11	16	17		
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○		○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①おもに薬物使用者を支援の対象として、精神科医療と刑事司法の境界領域におけるソーシャルワーク実践について考えを深めていく。また、支援対象者への介入手段の一つとして、病院や矯正施設等で行なわれる心理社会的治療プログラムや、精神保健分野における多職種チームアプローチの技法についても、詳しく紹介していく。 基本は演習形式で授業を行うが、外部講師を招いて講義形式にて行うこともある。課外授業やゼミ合宿も含め、授業の進行についてはすべてゼミメンバーで話し合って決める。 ②メンタルヘルス領域・司法福祉領域から各自が関心のある分野や課題を選び、研究報告会にむけての具体的なテーマを決める。学期中はゼミ時間を、施設見学や自主的な学習調査に利用し、月 1～2 回程度進捗状況をゼミで報告する。初回講義で、講義全体（研究活動）のオリエンテーションを行う。									
到達目標	1 これまでの学習の成果を深めていくために、専門分野における演習を実施し、より専門的な学習、知識の獲得することができる。■ 2 社会福学科研究発表会に向けプレゼンテーション、発表会での報告ができる■									
使用教材	必要に応じて指示する。									
参考文献	必要に応じて指示する。									
評価方法	共同創造を目指した授業展開とする。授業における発言内容（50％）、研究活動への貢献度（50％）を目安に、発表内容も含め総合的に評価する。60％以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	学生から提出された成果物の内容を修正し、全体に向けて解説する。									
オフィスアワー（研究室）	火曜日 3, 4 時限 312 研究室				メールアドレス （#→@）	ikeda-t#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	前期に調べて、発表したものをまとめる。全員で発表の振り返りをして、次年度への参考とする。■									
	予習	発表の準備・練習。							8 時間	
	復習	授業で考察したものをまとめる。発表準備・練習を進める。							8 時間	
合計時間（予習・復習）									16 時間	
備考	自分から積極的に教員とアポイント（連絡や相談）を取ることができると望ましい。 ■：実務経験に基づく内容を示す。									

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究及び演習）						科目ナンバリング	SWT402		
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅡ						講義形態	演習		
担当教員	永田 理香									
科目に関連した実務経験	研修担当者として社会福祉研修実施機関（県社会福祉協議会）に勤務（経験）									
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				2	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				3	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				2	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	①	③	④	⑤	⑧	⑩	⑪	⑯	⑰	
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○	○	○	○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	現在、福祉人材確保政策において人材育成の重要性が注目され、キャリアパスの策定や人材育成認証評価制度等の取組みが進められてきている。本演習では、人材育成を組織的な学習・教育活動と捉え、福祉専門職が将来展望を持ちながらキャリアアップできる人材育成のあり方について実践的に学ぶ。 基本的な研究の流れと方法が理解できるよう、個人のニーズに合わせ段階的に演習を進めていく。プレゼンテーションスキルの向上を目指し、スライドの構成・作成方法、発表方法について実践的に指導を行なう。									
到達目標	1. 研究計画に基づき研究活動を展開することができる。 2. 調査結果を検討し、研究目的に基づいた考察ができる。■ 3. 研究の成果を整理し、研究発表会においてプレゼンテーションすることができる。									
使用教材	必要に応じて指示する									
参考文献	必要に応じて提示する									
評価方法	問題解決学習を中心とした授業展開とするため、段階的に形成的評価を行なう。その内訳は、授業における発言内容（30％）、研究活動への貢献度（40％）、プレゼンテーション（30％）とし、60％以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出された課題については、出題した意図について解説を行い、コメントを付け返却を行なう。									
オフィスアワー （研究室）	火曜日 3 時限と水曜日 2 時限 （1 号館 3 階 309）				メールアドレス （＃→＠）	メールアドレスは初回授業時に提示する。				
講義内容	初回に研究活動についてのオリエンテーションを行う■									
	予習	毎回指示する							毎 1.5 時間	
	復習	毎回指示する							毎 1.5 時間	
合計時間（予習・復習）								45 時間		
備考	オンラインで実施する場合は、別途 C ラーニング等で周知する。 ■：実務経験に基づく内容を示す。									

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究及び演習）							科目ナンバリング	SWT402		
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅱ							講義形態	演習		
担当教員	原田 欣宏										
科目に関連した実務経験											
学年・開講期	3 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位						
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	35101116										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
			○	○	○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要	福祉・医療・司法専門職と地域住民との協働による福祉実践を中心としたソーシャルワーカーが活用する知識と技術について、現地演習やグループワークを通じて理解する。										
①講義の目標	授業では文献や実地調査とグループワーク、ディスカッションを行い、適宜コメントする。										
②講義の実施方法											
到達目標	1. 現地あるいは文献調査で得られたデータによる演習を通じて、地域住民が抱える生活課題を把握するとともに説明できる。 2. ソーシャルワーカーが活用している知識や技術を説明できる。 3. ゼミ活動を通じて、集団討議や研究方法、プレゼンテーションの技術や方法論を修得する。										
使用教材	テキストは使用しない										
参考文献	適宜文献を指示する										
評価方法	①専門分野における演習の取り組み、②課題に取り組むことによる、より専門的な学修、知識の獲得等により評価 100%。60%以上を合格とする。										
課題・評価に対するフィードバック方法	演習ゼミの運営や学習内容については、ゼミ生による自主的な運営を基本としつつ、教員から随時アドバイスや提案を行うなど学生にフィードバックする。										
オフィスアワー (研究室)	火曜 3 時限 研究室:1 号館 5 階 506				メールアドレス (#→@)		harada#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動										
	予習	テーマに即したデータ、参考文献を検索し、整理する。								7.5	時間
	復習	ゼミ活動を振り返り、情報と課題の整理を行う。								7.5	時間
合計時間(予習・復習)										15	時間
備考	ゼミの運営は学生が主体的にかつ協力しながら運営することで、学びがさらに深まることを期待しています。										

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究及び演習）						科目ナンバリング	SWT402		
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅱ						講義形態	演習		
担当教員	根岸 洋人									
科目に関連した実務経験	高崎市障害者虐待対策協議会会長（現在） 高崎市社会福祉審議会委員（現在）									
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			5	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	③									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○	○		○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	障害のある人を取り巻く環境（制度、文化、支援技術等）についてテーマを設定し、文献検索、調査、実践活動などを通して理解を深め、課題を解決する力を培う。 授業はゼミ形式で行う。各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによってはボランティア活動や実態調査などを行う。授業時間以外での学修や活動を行うことが前提となる。									
到達目標	1. 障害のある人を取り巻く環境について理解することができる■ 2. 問題点を発見し、課題解決に向けた研究を行うことができる 3. 自分の取り上げた研究テーマをプレゼンテーションすることができる									
使用教材	適宜指示する									
参考文献	適宜指示する									
評価方法	ゼミ内での研究発表及び活動内容により総合的に評価する（100％）									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業内のコメント、議論、研究指導など随時フィードバックを行う									
オフィスアワー （研究室）	火曜 5 限及び金曜 5 限 507 研究室				メールアドレス （#→@）	negishi#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	設定したテーマについて各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによってはボランティア活動や実態調査などを行う。最終的には学科の研究発表会にて研究成果の発表を行う。■									
	予習	適宜指示する							8 時間	
	復習	適宜指示する							8 時間	
合計時間（予習・復習）									16 時間	
備考	■：実務経験に基づく内容を示す。									

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究および演習）						科目ナンバリング	SWT402		
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅱ						講義形態	演習		
担当教員	石坂 公俊									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			5	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	①	③	④	⑤	⑧	⑩	⑫	⑯		
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○	○	○	○		○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	1. 「子どもの貧困」をテーマとし、貧困で何が起きているのか、なぜ貧困があるのかを理解する。 2. 「子どもの貧困」を背景とした多角的な視点を醸成する。 3. フィールドワークに参加しながら、貧困問題などについて自分の目と耳で考える。 「貧困の中でしんどい思いをしている子ども達」、「なぜ貧困があるのか」について中心的に理解する。グループワーク、文献・資料等も活用し、学びを深める方法をとる。									
到達目標	1. 貧困の中で育つ子どもの生活実態を理解することができる。 2. 「子どもの貧困」をめぐる背景や諸動向を理解することができる。 3. 社会福祉の関連事象には背景に貧困問題があるかもしれないという感度を持つことができる。									
使用教材	必要に応じて指示するが、参考文献などは授業中にも適宜紹介していく。 授業内容によっては DVD などを視聴する機会も設け、レジュメや参考資料なども配付する。									
参考文献	特記事項なし									
評価方法	1. 履修の条件として、子どもの貧困やホームレス問題などに関心のある学生を希望する。 2. ゼミ活動としてフィールドワークへの参加に意欲的な学生を希望する。 上記を目安に総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	発表、提出物等に対してコメントする。 必要に応じて面談、個別指導を随時実施する。									
オフィスアワー （研究室）	水曜日 4 時限 質問はメールでも受け付ける。 （1 号館 5 階 503 研究室）				メールアドレス （#→@）		kimi#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	「子どもの貧困問題」がメインテーマとなる。子どもの貧困の実態、困難を抱えた子どもや家族の「声」を社会に発信し、解決への道筋を考えていく。本講座では将来にわたって、貧困問題に対するアンテナを持ち続けられる支援者を目指す。総合演習Ⅲを履修する 4 年生と合同で実施する。									
	予習	毎回提示する。								8 時間
	復習	毎回提示する。								8 時間
合計時間（予習・復習）									16 時間	
備考	フィールドワークとして子ども無料学習会、ホームレス配食（聞き取り調査も実施）の活動にも参加が可能となる。さらにゼ									

	ミ内で国家試験学習も行っていく。それらの取り組みを通じて、教員、ゼミ生同士の相互交流を図ることが主な目的となる。

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究及び演習）						科目ナンバリング	SWT402		
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅱ						講義形態	演習		
担当教員	堀口 美奈子									
科目に関連した実務経験	介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務（経験）									
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	3 5 8 10 11									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①社会福祉は、ひとりよりみんな、他者とともに生きる＝共生社会のなかで育まれる。そこで本科目では、社会のなかでのフィールドワークや実証研究を通して、前期で学んだ社会福祉専門職に求められる「社会福祉を構成するちから」の理解をより深め、卒後、共生社会で生きる社会人としての力の獲得を目指していく。 ②授業では、これまで行ってきた実証研究を発表するための準備を行い、発表する。発表後は、実施内容に関する振り返りを行う。そのほか経験学習モデルをベースに、学生自身の興味関心に応じた個人もしくはグループ学習を行う。									
到達目標	1.教員と参加学生による関心や問題意識を基に、フィールドワークや実証研究を実践できる。■ 2.具体的な実践を通して、チームで働く力や前に踏み出す力、考え抜く力を身につけることができる。■ 3.実践経験から内省的観察を行い、共生社会の構成時に必要となる抽象的概念を抽出、言語化できる。■ 4.得られた概念を、社会の中での能動的実践に活かすことができる。■ 5.実践や他者との交流を通して、自己についての考えを深めることができる。 6.社会福祉学科研究発表会にて、学生全体でまとめた学習成果をプレゼンテーションできる。									
使用教材	必要に応じて資料の配布、参考書の紹介を行う。									
参考文献										
評価方法	実践活動での活発な参加と議論・活動への貢献度 40%、提出物の充実度 60%									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出を求めるレポートやリアクションペーパーについては、適宜コメントを付しての返却を予定している。									
オフィスアワー（研究室）	月曜・水曜 3 限				メールアドレス（#→@）	連絡手段は初回授業時に提示する				
講義内容	初回到授業全体についてのオリエンテーションを行う■ 総合演習Ⅳを履修する 4 年生と合同で実施する。									
	予習	適宜指示する							7.5 時間	
	復習	適宜指示する							7.5 時間	
合計時間（予習・復習）									15 時間	
備考	■：実務経験に基づく内容を示す。									

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究及び演習）						科目 ナンバリング	SWT402		
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅱ						講義形態	演習		
担当教員	大川 健次郎									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	3 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤									
アクティブラーニング実 施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○	○	○	○				
「その他」のアクティブ ラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①児童家庭福祉の諸問題を中心に扱う。現在の児童や家庭、女性問題などに焦点を当てて、これまでの大学の講義や演習等で学んだことを、自分の興味範囲を定めて深めて研究することを目的とする。前期の総合演習の学習内容を踏まえ、それらを他者に分かりやすく伝える力をつける。ゼミ内でお互いに学び合い自分の興味範囲を深めていく。 ②授業は、学生の児童家庭福祉に関する問題意識を基に、質疑応答形式で進め、それをゼミとしてまとめていく。									
到達目標	1. 自分たちの考えを他者に分かりやすく伝える技術を学ぶことができる。 2. 他者の学びを、自らの問題としてとらえ、深めることを学ぶことができる。 3. 大学卒業後の進路を考え具体的な目標を立てることができる。									
使用教材	教科書は使用しないが、ゼミにおいて資料の配布、参考書の紹介などを予定している。									
参考文献										
評価方法	研究計画書・発表文書(60%)、他のゼミ生への提案(20%)、ゼミ活動への貢献度(20%)									
課題・評価に対する フィードバック方法	研究計画書・発表文書作成段階で、個別指導を実施する。									
オフィスパワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。研究室 508				メールアドレス (#→@)		okawa#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	ゼミ内で議論しテーマを設定して、各自問題意識をもってテーマを深めたうえで、ゼミ内で共有する									
	予習	毎回指示する							8 時間	
	復習	毎回指示する							8 時間	
合計時間(予習・復習)									16 時間	
備考	各自主体的に参加し、協同して、さらなる深い学習となることを期待する。									

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究および演習）						科目 ナンバリング	SWT402		
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅡ						講義形態	演習		
担当教員	白鳥 浩丈									
科目に関連した 実務経験	2001.4 月～精神科病院勤務、2020.4 月～就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所勤務									
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	38116									
アクティブラーニング 実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験実 習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○				○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①働くメンタルヘルス不調者・精神障害者への支援についてテーマを設定し、文献検索、調査、実践活動などを通して理解を深め、課題を解決する力を培う。働くこととメンタルヘルスの両立を支援するための専門知識や、支援現場で行われている心理社会的アプローチについても紹介していく。 ②授業はゼミ形式で行う。学生の問題意識をもとに、ゼミ内での報告、発表、対話、討議等により、現場課題や支援の理解を深めていく。									
到達目標	1. メンタルヘルス不調者・精神障害者への支援について理解することができる■ 2. 問題・課題を発見し、自身の研究テーマを決め、研究を行うことができる。 3. 研究成果をプレゼンテーションすることができる。									
使用教材	必要に応じて指示する									
参考文献	必要に応じて指示する									
評価方法	ゼミ内での研究発表及び活動内容により総合的に評価する(100%)									
課題・評価に対する フィードバック方法	授業内のコメント、議論、研究指導などにより随時学生にフィードバックする。									
オフィスアワー （研究室）	火曜 2 時限 （303 研究室）				メールアドレス （#→@）		shiratori#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	前期に調べ、発表したものをまとめ、最終的には社会福祉学科研究発表会にて研究成果の発表を行う。■									
	予習	毎回指示する							毎 1.5 時間	
	復習	毎回指示する							毎 1.5 時間	
合計時間(予習・復習)									45 時間	
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。									

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究および演習）						科目ナンバリング	SWT402		
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅱ						講義形態	演習		
担当教員	白鳥 浩丈									
科目に関連した実務経験	2001.4 月～精神科病院勤務、2020.4 月～就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所勤務									
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	381116									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	働くメンタルヘルス不調者・精神障害者への支援についてテーマを設定し、文献検索、調査、実践活動などを通して理解を深め、課題を解決する力を培う。働くこととメンタルヘルスの両立を支援するための専門知識や、支援現場で行われている心理社会的アプローチについても紹介していく。 授業はゼミ形式で行う。学生の問題意識をもとに、ゼミ内での報告、発表、対話、討議等により、現場課題や支援の理解を深めていく。									
到達目標	1. メンタルヘルス不調者・精神障害者への支援について理解することができる■ 2. 問題・課題を発見し、自身の研究テーマを決め、研究を行うことができる。 3. 研究成果をプレゼンテーションすることができる。									
使用教材	必要に応じて指示する									
参考文献	必要に応じて指示する									
評価方法	ゼミ内での研究発表及び活動内容により総合的に評価する（100％）									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業内のコメント、議論、研究指導などにより随時学生にフィードバックする。									
オフィスアワー （研究室）	火曜 2 時限 （303 研究室）				メールアドレス （#→@）	shiratori#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	前期に調べ、発表したものをまとめ、最終的には社会福祉学科研究発表会にて研究成果の発表を行う。									
	予習	毎回指示する							毎 1.5 時間	
	復習	毎回指示する							毎 1.5 時間	
合計時間（予習・復習）									45 時間	
備考	■：実務経験に基づく内容を示す。									

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究及び演習）						科目ナンバリング	SWT402					
英文名	Seminar in advanced studies Ⅱ						講義形態	演習					
担当教員	檜府 憲太												
科目に関連した実務経験	社会福祉士（専門職採用）として生活保護、高齢者福祉、障害者福祉の部署に勤務（合計 13 年）												
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位										
履修を必須とする資格													
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力						
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力						
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力						
SDGs との関連	①	②	③	④	⑤		⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他			
	○	○	○	○	○	○	○						
「その他」のアクティブラーニング実施方法													
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①「貧困」をキーワードに国内外の貧困の現状を把握し、その解決方法について考察する。また、そうした貧困が生じる現代社会の特徴や課題、今後の社会のあるべき形について、文献、映画、演劇その他様々な媒体を用いて複眼的に考察する。 ②文献講読、グループディスカッション、グループに分かれての研究・調査、フィールドワーク、映画・演劇鑑賞などの方法を適宜組み合わせる。												
到達目標	1. 「貧困」を切り口にして現代社会の構造やあり方について考察することができる。■ 2. 社会福祉・ソーシャルワークを多様な方法、幅広い視点で学び、視野の広い思考を身につける。 3. 研究・調査の初歩的な部分を学び、学士として最低限の知識・技術を備える。												
使用教材	適宜提示する。												
参考文献	適宜提示する。												
評価方法	授業内における課題への取り組み態度、研究・調査に対する意欲、研究成果の内容、総合演習Ⅰでの学びからの発展的考察ができているかなどを総合的に判断して決定する（100%）。特に学びに対する積極性・主体性は高く評価する。												
課題・評価に対するフィードバック方法	授業内の他、メールや対面などで適宜フィードバックを行う。												
オフィスアワー （研究室）	質問及び学習相談には適宜応じる。				メールアドレス （#→@）		narafu#takasaki-u.ac.jp						
講義内容	文献講読、グループディスカッション、グループに分かれての研究・調査、フィールドワーク、映画・演劇鑑賞などの方法を適宜組み合わせる。■												
	予習	適宜提示する。								1.5 時間			
	復習	適宜提示する。								1.5 時間			
合計時間（予習・復習）										45 時間			
備考	・フィールドワーク等、内容によっては科目として定められている日時以外の時間を用いて行うことがある。 ・授業の内容や形態は学生の関心に応じて柔軟に変更するので、主体的に参加し、積極的に意見を述べること。 ■は実務経験に基づく授業内容であることを示しています。												

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究および演習）						科目ナンバリング	SWT402		
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅡ						講義形態	演習		
担当教員	富田 俊									
科目に関連した実務経験	専門看護師として病院に勤務（経験）									
学年・開講期	3 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	③④⑧⑩⑪⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①人生の最終段階・終末期・看取りの関する支援、倫理等についてテーマを設定し、文献検索、調査、実践活動などを通して理解を深め、課題を解決する力を養う。自身の死生観や人生の最終段階・終末期・看取りに関する価値観を養い、他者の価値観を理解する。 ②ゼミ活動を通して授業はゼミ形式で行う。各自の研究成果を報告、発表しながら進め、研究発表会に向けてプレゼンテーション技術や発表方法について実践的に指導する。									
到達目標	1. 研究計画に基づき研究活動を展開することができる。 2. 調査結果を検討し、研究目的に基づいた考察ができる。■ 3. 研究の成果を整理し、研究発表会においてプレゼンテーションすることができる。									
使用教材	必要に応じて指示する									
参考文献	必要に応じて指示する									
評価方法	演習／課題の取り組み（30％）、ディスカッションにおける発言内容（30％）、研究活動の貢献度（40％）として、60％以上を合格とする									
課題・評価に対するフィードバック方法	演習ゼミの運営や学習内容については、ゼミ生による自主的な運営を基本としつつ、教員から随時アドバイスをや提案を行うなど学生にフィードバックする。									
オフィスアワー（研究室）	月曜 2 時限（514 研究室）				メールアドレス（＃→＠）		tomita-s#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	グループや各自の目標・テーマ等に沿って、企画や研究を行い、実践活動や研究成果を共有しながら進めていく。最終的には社会福祉学科研究発表会にて研究成果の発表を行う。■									
	予習	毎回指示する							8 時間	
	復習	毎回指示する							8 時間	
合計時間（予習・復習）									16 時間	
備考	■：実務経験に基づく内容を示す。									

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究及び演習）						科目ナンバリング	SWT402		
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅱ						講義形態	演習		
担当教員	加藤 大輔									
科目に関連した実務経験	医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）として病院に勤務（経験）									
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	③ 10									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○	○		○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	医療福祉、医療ソーシャルワーカーの実践についてテーマを設定し、医療ソーシャルワーカーの専門性や役割を理解する。また実践の基盤となる価値、医療・福祉に関する専門知識・援助技術を身に着ける。活動を通じ、企画、研究、プレゼンテーションにかかわる力を養う。 学生の問題意識を基に文献調査、実践理解を意図した企画などを実施し、学習内容のゼミ内での発表、討議により、理解を深めていく。									
到達目標	1. 医療分野における福祉の役割を理解することができる■ 2. 研究活動の展開について理解することができる 3. 研究成果をゼミでの討論により整理できる 4. 研究成果を研究発表会においてプレゼンテーションすることができる。									
使用教材	必要に応じて指示する									
参考文献	必要に応じて指示する									
評価方法	ゼミ内での研究発表、活動内容、研究活動への貢献度により総合的に評価する（100％）									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業内のコメント、議論、研究指導など随時フィードバックを行う									
オフィスアワー （研究室）	水曜 4 限 5 階 513 研究室				メールアドレス （#→@）		kato-d#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	設定したテーマについて各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによっては現任者の実践理解を意図した企画を行う。最終的には学科の研究発表会にて研究成果の発表を行う。■									
	予習	毎回指示する								8 時間
	復習	毎回指示する								8 時間
合計時間（予習・復習）									16 時間	
備考	■：実務経験に基づく内容を示す。									

科目名	総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)						科目ナンバリング	SWT403				
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅲ						講義形態	演習				
担当教員	安達 正嗣											
科目に関連した実務経験	兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員および主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施して調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。											
学年・開講期	4年 前期	選必・単位数	必修 1単位									
履修を必須とする資格												
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力						
	1	基礎的知識力			5	応用・実践する能力						
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力						
SDGs との関連	1	2	3	4	5	8	9	10	11	12	16	17
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他		
			○		○	○						
「その他」のアクティブラーニング実施方法												
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	現代の日本社会において、高齢化に関する福祉社会学的ならびに家族社会学的な視点・分析能力の養成は、さまざまな学術分野のみならず、社会福祉・精神保健・介護の現場のなかで重要性を増してきている。本演習では、高齢者福祉のあり方を考えることを通じて、こうした視点・分析能力を身につけることを目指すものである。 受講生が主体となって、司会と報告者の役割をおこない、教科書の担当章に関する報告者の報告内容・レジュメをめぐって議論して、担当教員が適宜に助言しながら、教科書の内容の理解を深めるものである。											
到達目標	1. 高齢化の現状と高齢者福祉政策の動向について理解できる。 2. 高齢社会における課題を明確化して認識することができる。 3. 受講生が自らの問題意識から研究テーマを発見でき、プレゼンテーションの能力を養うことができる。 4. 福祉社会学・家族社会学の研究手法(調査方法を含む)を習得できる。■ 5. 卒論を作成する能力を身につけることができる。											
使用教材	直井道子・中野いく子・和気純子『高齢者福祉の世界』有斐閣アルマ(補訂版)											
参考文献	講義中、適宜指示する。											
評価方法	受講生に対する評価の内訳は、演習中の研究課題への取り組みに対する評価(50%)、学期末に提出する卒業論文作成に関する評価(50%)、合計 100%で評価する。											
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回の報告、卒業論文の中間作成に対して、コメントをつけて返却する。											
オフィスアワー (研究室)	火曜日 5限・6限				メールアドレス (#→@)		adachi-m#takasaki-u.ac.jp					
講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。学期末には、卒業論文の中間報告を提出する。 ■											
	予習	各回に指示する。									8 時間	
	復習	各回に指示する。									8 時間	
合計時間(予習・復習)											16 時間	
備考	報告者が無断欠席をすると、単位が不可となります。必ず、報告者以外の受講生は、質問や意見を述べるのが義務となっています。 科目「卒業論文」を登録して、単位を取得する必要があります。 ■:実務経験に基づく内容を示す。											

科目名	総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)						科目ナンバリング	SWT403		
英文名	Seminar in Advanced StudiesⅢ						講義形態	演習		
担当教員	金井 敏									
科目に関連した実務経験	コミュニティソーシャルワークの実践主体としての社会福祉協議会に勤務経験有。実務を担当するとともに、ソーシャルワーカーの育成にも従事。現在、行政や社協、民生委員協議会、団体の計画づくりや実践の企画・評価に携わっている。									
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			5	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑪ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○	○	○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	地域福祉実践を中心としてコミュニティソーシャルワーカーが活用する知識と技術について、現地演習やグループワークを通じて理解する。 ゼミの運営は学生が主体的に協力しながら運営する。研究・実践活動は、歴代のゼミの先輩が実践してきた内容＝ふれあい・いきいきサロン、大類地域福祉教育の会運営、赤い羽共同募金などの企画・運営・振り返りをベースとする。教員は自身の研究テーマと教育スタンスにより、フィールドの実践やアドバイスをを行う。									
到達目標	1.現地演習を通じて、地域住民や団体が抱える生活課題を把握するとともに説明できる。■ 2.現地演習を通じて、地域団体の運営方法や事業の企画、広報、連絡調整の技術を修得する。■ 3.コミュニティソーシャルワーカーが活用している知識や技術を説明できる。■ 4.ゼミ活動を通じて、集団討議や研究方法、プレゼンテーションの技術や方法論を修得する。■									
使用教材	テキストは使用しない。									
参考文献	その他、講義に必要な教材・資料は適宜プリントして配付する。									
評価方法	①専門分野における演習の取り組み(40%)、②地域課題への取り組み(30%)、③グループ学習による取り組み(30%)、による専門的な学修、知識の獲得等により評価する(計 100%)。									
課題・評価に対するフィードバック方法	質問や相談については Clearning で適時回答するほか、必要に応じて授業時に学生全体にフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	質問や相談は Clearning 等で随時受け付ける。				メールアドレス (#→@)	kanai#takasaki-u.ac.jp				
1～15	講義内容	地域福祉実践(地域福祉教育団体運営、ふれあいサロン活動、共同募金活動など)の企画、運営、準備、振り返り、研究を行う。社会福祉学科研究発表会等において研究成果を発表する。■								
	該当到達目標	予習	実践の準備、検討、資料作成等。						8	時間
	1,2,3,4	復習	実践の振り返り、次の課題への準備等。						8	時間
合計時間(予習・復習)									16	時間
備考	●授業時間には、授業時の活動のほか地域に出向いて行う実践時間も含む。 ●国家試験受験の準備や就職活動の支援も適宜行う。 講義内容の■は実務経験に基づく内容を示す。									

科目名	総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)					科目ナンバリング	SWT403			
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅲ					講義形態	演習			
担当教員	池田 朋広									
科目に関連した実務経験	①精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)として大学病院において 21 年勤務(経験) ②非常勤として精神科クリニックデイケアに 4 年勤務(経験) ③外部講師(精神保健福祉士)として、保護観察所薬物再乱用防止プログラムに不定期参加(現在) ④薬物依存症回復支援施設にて、非常勤プログラム講師(現在)									
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	①	③	⑤	⑧	⑩	⑪	⑬ ⑭			
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○		○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	①おもに薬物使用者を支援の対象として、精神科医療と刑事司法の境界領域におけるソーシャルワーク実践について考えを深めていく。また、支援対象者への介入手段の一つとして、病院や矯正施設等で行なわれる心理社会的治療プログラムや、精神保健分野における多職種チームアプローチの技法についても、詳しく紹介していく。 基本は演習形式で授業を行うが、外部講師を招いて講義形式にて行うこともある。課外授業やゼミ合宿も含め、授業の進行についてはすべてゼミメンバーで話し合って決める。 ②メンタルヘルス領域・司法福祉領域から各自が関心のある分野や課題を選び、研究報告会にむけての具体的なテーマを決める。学期中はゼミ時間を、施設見学や自主的な学習調査に利用し、月 1～2 回程度進捗状況をゼミで報告する。初回講義で、講義全体(研究活動)のオリエンテーションを行う。									
到達目標	1 これまでの学習の成果を深めていくために、専門分野における演習を実施し、より専門的な学習、知識の獲得することができる。■ 2 社会福学科研究発表会に向けプレゼンテーション、発表会での報告ができる■									
使用教材	必要に応じて指示する。									
参考文献	必要に応じて指示する。									
評価方法	共同創造を目指した授業展開とする。授業における発言内容(50%)、研究活動への貢献度(50%)を目安に、発表内容も含め総合的に評価する。60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	学生から提出された成果物の内容を修正し、全体に向けて解説する。									
オフィスアワー(研究室)	火曜日 3, 4 時限 312 研究室				メールアドレス (#→@)	ikedat#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	見学を踏まえて、発表内容を決めて、分担して調べたものをゼミで発表する。■									
	予習	発表の準備・練習。							8	時間
	復習	授業で考察したものをまとめる。発表準備・練習を進める。							8	時間
合計時間(予習・復習)								16	時間	
備考	自分から積極的に教員とアポイント(連絡や相談)を取ることができると望ましい。 ■:実務経験に基づく内容を示す。									

科目名	総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)						科目ナンバリング	SWT403		
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅲ						講義形態	演習		
担当教員	永田 理香									
科目に関連した実務経験	研修担当者として社会福祉研修実施機関(県社会福祉協議会)に勤務(経験)									
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	①	③	④	⑤	⑧	⑩	⑪	⑬	⑭	
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○	○	○	○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	現在、福祉人材確保政策において人材育成の重要性が注目され、キャリアパスの策定や人材育成認証評価制度等の取組みが進められてきている。本演習では、人材育成を組織的な学習・教育活動と捉え、福祉専門職が将来展望を持ちながらキャリアアップできる人材育成のあり方について実践的に学ぶ。 基本的な研究の流れと方法が理解できるよう、個人のニーズに合わせ段階的に演習を進めていく。プレゼンテーションスキルの向上を目指し、スライドの構成・作成方法、発表方法について実践的に指導を行なう。									
到達目標	1. 福祉人材育成の今日的動向について理解できる。■ 2. 福祉人材育成における課題を明確化することができる。■ 3. 研究テーマに基づき研究計画を立案することができる。									
使用教材	必要に応じて指示する									
参考文献	必要に応じて提示する									
評価方法	問題解決学習を中心とした授業展開とするため、段階的に形成的評価を行なう。その内訳は、授業における発言内容(30%)、研究計画の妥当性(30%)、研究活動への貢献度(40%)とし、60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出された課題については、出題した意図について解説を行い、コメントを付け返却を行なう。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3 時限と水曜日 2 時限 (1 号館 3 階 309)				メールアドレス (#→@)	メールアドレスは初回授業時に提示する。				
講義内容	初回に研究活動についてのオリエンテーションを行う■									
	予習	毎回指示する。							毎 1.5 時間	
	復習	毎回指示する。							毎 1.5 時間	
合計時間(予習・復習)								45 時間		
備考	オンラインで実施する場合は、別途 C ラーニング等で周知する。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。									

科目名	総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)							科目ナンバリング	SWT403	
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅲ							講義形態	演習	
担当教員	原田 欣宏									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	4 年 前期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	35101116									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○		○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	福祉・医療・司法専門職と地域住民との協働による福祉実践を中心としたシャルワーカーが活用する知識と技術について、現地演習やグループワークを通じて理解する。									
①講義の目標	授業では文献や実地調査とグループワーク、ディスカッションを行い、適宜コメントする。									
②講義の実施方法										
到達目標	1. 演習を通じて、地域住民が抱える生活課題を把握するとともに説明できる。 2. 演習を通じて、ソーシャルワーカーのソーシャルアクションに関する企画、広報、連絡調整の技術を修得する。 3. ソーシャルワーカーが活用している知識や技術を説明できる。 4. ゼミ活動を通じて、集団討議や研究方法、プレゼンテーションの技術や方法論を修得する。									
使用教材	テキストは使用しない									
参考文献	適宜文献を指示する									
評価方法	①専門分野における演習の取り組み、②課題に取り組むことによる、より専門的な学修、知識の獲得、等により評価 100%。60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	演習ゼミの運営や学習内容については、ゼミ生による自主的な運営を基本としつつ、教員から随時アドバイスや提案を行うなど学生にフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	火曜 3 時限 研究室:1 号館 5 階 506				メールアドレス (#→@)		harada#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動									
	予習	テーマに即したデータ、参考文献を検索し、整理する。								7.5 時間
	復習	ゼミ活動を振り返り、情報と課題の整理を行う。								7.5 時間
合計時間(予習・復習)									15 時間	
備考	ゼミの運営は学生が主体的にかつ協力しながら運営することで、学びがさらに深まることを期待しています。									

科目名	総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)							科目 ナンバリング	SWT403		
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅲ							講義形態	演習		
担当教員	根岸 洋人										
科目に関連した 実務経験	高崎市障害者虐待対策協議会会長(現在) 高崎市社会福祉審議会委員(現在)										
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位								
履修を必須とする 資格											
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	③										
アクティブラーニング実 施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
	○		○	○	○		○				
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	障害のある人を取り巻く環境(制度、文化、支援技術等)についてテーマを設定し、文献検索、調査、実践活動などを通して理解を深め、課題を解決する力を培う。 授業はゼミ形式で行う。各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによってはボランティア活動や実態調査などを行う。授業時間以外での学修や活動を行うことが前提となる。										
到達目標	1. 障害のある人を取り巻く環境について理解することができる■ 2. 問題点を発見し、課題解決に向けた研究を行うことができる 3. 自分の取り上げた研究テーマをプレゼンテーションすることができる										
使用教材	適宜指示する										
参考文献	適宜指示する										
評価方法	ゼミ内での研究発表及び活動内容により総合的に評価する(100%)										
課題・評価に対する フィードバック方法	授業内のコメント、議論、研究指導など随時フィードバックを行う										
オフィスアワー (研究室)	火曜 5 限及び金曜 5 限				メールアドレス (#→@)		negishi#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	設定したテーマについて各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによってはボランティア活動や実態調査などを行う。最終的には学科の研究発表会にて研究成果の発表を行う。■										
	予習	適宜指示する								8 時間	
	復習	適宜指示する								8 時間	
							合計時間(予習・復習)		16 時間		
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。										

科目名	総合演習Ⅲ(卒業研究および演習)						科目 ナンバリング	SWT403			
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅲ						講義形態	演習			
担当教員	石坂 公俊										
科目に関連した 実務経験											
学年・開講期	4 年 前期		選必・単位数		必修 1 単位						
履修を必須とする 資格											
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑫ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿										
アクティブラーニング実 施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
	○	○	○	○	○		○		○		
「その他」のアクティブ ラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	1. 「子どもの貧困」をテーマとし、貧困で何が起きているのか、なぜ貧困があるのかを理解する。 2. 「子どもの貧困」を背景とした多角的な視点を醸成する。 3. フィールドワークに参加しながら、貧困問題などについて自分の目と耳で考える。 「貧困の中でしんどい思いをしている子ども達」、「なぜ貧困があるのか」について中心的に理解する。グ ループワーク、文献・資料等も活用し、学びを深める方法をとる。										
到達目標	1. 貧困の中で育つ子どもの生活実態を理解することができる。 2. 「子どもの貧困」をめぐる背景や諸動向を理解することができる。 3. 社会福祉の関連事象には背景に貧困問題があるかもしれないという感度を持つことができる。										
使用教材	必要に応じて指示するが、参考文献などは授業中にも適宜紹介していく。 授業内容によっては DVD などを視聴する機会も設け、レジュメや参考資料なども配付する。										
参考文献	特記事項なし										
評価方法	1. 履修の条件として、子どもの貧困やホームレス問題などに関心のある学生を希望する。 2. ゼミ活動としてフィールドワークへの参加に意欲的な学生を希望する。 上記を目安に総合的に評価する。										
課題・評価に対する フィードバック方法	発表、提出物等に対してコメントする。 必要に応じて面談、個別指導を随時実施する。										
オフィスアワー (研究室)	水曜日 4 時限 質問はメールでも受け付ける。 (1 号館 5 階 503 研究室)				メールアドレス (#→@)		kimi#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	「子どもの貧困問題」がメインテーマとなる。子どもの貧困の実態、困難を抱えた子どもや家族の「声」を社 会に発信し、解決への道筋を考えていく。本講座では将来にわたって、貧困問題に対するアンテナを持ち 続けられる支援者を目指す。総合演習Ⅲを履修する 4 年生と合同で実施する。										
	予習	毎回提示する。								8 時間	
	復習	毎回提示する。								8 時間	
合計時間(予習・復習)									16 時間		
備考	フィールドワークとして子ども無料学習会、ホームレス配食(聞き取り調査も実施)の活動にも参加が可能となる。さらにゼ										

	ミ内で国家試験学習も行っていく。それらの取り組みを通じて、教員、ゼミ生同士の相互交流を図ることが主な目的となる。

科目名	総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)						科目ナンバリング	SWT403		
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅲ						講義形態	演習		
担当教員	堀口 美奈子									
科目に関連した実務経験	介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務(経験)									
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			5	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	③⑤⑧⑩⑪									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①社会福祉は、ひとりよりみんな、他者とともに生きる＝共生社会のなかで育まれる。そこで本科目では、共生社会の原点である「自己」について知り、社会福祉専門職に求められる「社会福祉を構成するから」について検討していく。 ②授業では、経験学習モデルをベースに、講義の他、事例などを踏まえた演習を行う。演習では個人ワークの他、グループワークを行い、相互作用による学習の定着を図る。									
到達目標	1.具体的なワークを通して、チームで働く力や前に踏み出す力、考え抜く力を身につけることができる。■ 2.実践経験から内省的観察を行い、共生社会の構成時に必要となる抽象的概念を抽出、言語化できる。■ 3.得られた概念を、社会の中での能動的実践に活かすことができる。■ 4.ワークや他者との交流を通して、自己についての考えを深めることができる。									
使用教材	必要に応じて資料の配布、参考書の紹介を行う。									
参考文献										
評価方法	実践活動での活発な参加と議論・活動への貢献度 40%、提出物の充実度 60%									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出を求めるレポートやリアクションペーパーについては、適宜コメントを付しての返却を予定している。									
オフィスアワー (研究室)	月曜・水曜 3 限 502 研究室				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する			
講義内容	初回到授業全体についてのオリエンテーションを行う■ 総合演習Ⅰを履修する3年生と合同で実施する。									
	予習	適宜指示する								7.5 時間
	復習	適宜指示する								7.5 時間
合計時間(予習・復習)									15 時間	
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。									

科目名	総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)						科目ナンバリング	SWT403		
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅲ						講義形態	演習		
担当教員	大川 健次郎									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			5	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○	○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①児童家庭福祉の諸問題を中心に扱う。現在の児童や家庭、女性問題などに焦点を当てて、これまでの大学の講義や演習等で学んだことを、自分の興味範囲を定めて深めて研究することを目的とする。そして、それらを他者に分かりやすく伝える力をつける。また、ゼミ内でお互いに学び合い自分の興味範囲を深めてく。 ②授業は、学生の児童家庭福祉に関する問題意識を基に、質疑応答形式で進め、それをゼミとしてまとめていく。									
到達目標	1. 自分たちの考えを他者に分かりやすく伝える技術を学ぶことができる。 2. 他者の学びを、自らの問題としてとらえ、深めることを学ぶことができる。 3. 大学卒業後の進路を考え具体的な目標を立てることができる。									
使用教材	教科書は使用しないが、ゼミにおいて資料の配布、参考書の紹介などを予定している。									
参考文献										
評価方法	研究計画書・発表文書(60%)、他のゼミ生への提案(20%)、ゼミ活動への貢献度(20%)									
課題・評価に対するフィードバック方法	研究計画書・発表文書作成段階で、個別指導を実施する。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。研究室 508				メールアドレス (#→@)		okawa#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	ゼミ内で議論しテーマを設定して、各自問題意識をもってテーマを深めたうえで、ゼミ内で共有する									
	予習	毎回指示する								8 時間
	復習	毎回指示する								8 時間
合計時間(予習・復習)										16 時間
備考	各自主体的に参加し、協同して、さらなる深い学習となることを期待する。									

科目名	総合演習Ⅲ(卒業研究および演習)						科目 ナンバリング	SWT403		
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅲ						講義形態	演習		
担当教員	白鳥 浩丈									
科目に関連した 実務経験	2001.4 月～精神科病院勤務、2020.4 月～就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所勤務									
学年・開講期	3 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性				5	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				1	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	③ ⑧ ⑪ ⑯									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○				○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①働くメンタルヘルス不調者・精神障害者への支援についてテーマを設定し、文献検索、調査、実践活動などを通して理解を深め、課題を解決する力を培う。働くこととメンタルヘルスの両立を支援するための専門知識や、支援現場で行われている心理社会的アプローチについても紹介していく。 ②授業はゼミ形式で行う。学生の問題意識をもとに、ゼミ内での報告、発表、対話、討議等により、現場課題や支援の理解を深めていく。									
到達目標	1. メンタルヘルス不調者・精神障害者への支援について理解することができる■ 2. 問題・課題を発見し、自身の研究テーマを決め、研究を行うことができる。 3. 研究成果をプレゼンテーションすることができる。									
使用教材	必要に応じて指示する									
参考文献	必要に応じて指示する									
評価方法	ゼミ内での研究発表及び活動内容により総合的に評価する(100%)									
課題・評価に対する フィードバック方法	授業内のコメント、議論、研究指導などにより随時学生にフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	火曜 2 時限 (303 研究室)				メールアドレス (#→@)		shiratori#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	グループや各自の目標・テーマ等に沿って企画や研究を行い、発表により研究成果を共有しながら進めていく。■									
	予習	毎回指示する							毎 1.5 時間	
	復習	毎回指示する							毎 1.5 時間	
合計時間(予習・復習)									45 時間	
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。									

科目名	総合演習Ⅲ(卒業研究および演習)						科目ナンバリング	SWT403		
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅲ						講義形態	演習		
担当教員	出雲 春明									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	4 年 前期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	1234510111617									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○		○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	① 医療・福祉の分野では、キュア(治療)だけでなく、QOL(生の質)へのケア(配慮)が重要な位置を占めている。しかしながら、「高い QOL とは何か」は人それぞれで違う。本演習では、QOL に直結している「多様性」の問題について理解を深めることを目標とする。									
①講義の目標										
②講義の実施方法	② 本演習では、学生が自分の興味範囲のなかから課題を設定し、研究発表、議論を行ってもらう。教員からも適宜、問題提起や情報提供を行う。									
到達目標	1. さまざまな QOL の在り方について理解し、説明することができる。 2. 自分の研究テーマを設定し、自らの関心を他者に伝えることができる。 3. 適切に文献等の資料を利用することができる。 4. 自分の考えをまとめることができる。 5. 議論を通じて、考えを深めることができる。									
使用教材	教科書は使用しない。ゼミ生の関心に合わせて、資料を配布する。									
参考文献	必要に応じて指示する。									
評価方法	調査、研究発表などへの出席や参加度から評価する(100%)。									
課題・評価に対するフィードバック方法	ゼミでの研究発表に対して、適宜指導を行う。									
オフィスアワー (研究室)	1 号館 511 研究室 面談希望の場合は C-Learning「連絡・相談」あるいは右記アドレスまで。				メールアドレス (#→@)		izumo-s#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	各自の関心に基づいたゼミ研究活動									
	予習	適宜指示する。							1.5 時間	
	復習	適宜指示する。							1.5 時間	
							合計時間(予習・復習)		45 時間	
備考	日頃から、社会問題に関心を持ち、報道などを見るようにしましょう。									

科目名	総合演習Ⅲ（卒業研究及び演習）						科目ナンバリング	SWT403				
英文名	Seminar in advanced studies Ⅲ						講義形態	演習				
担当教員	檜府 憲太											
科目に関連した実務経験	社会福祉士（専門職採用）として生活保護、高齢者福祉、障害者福祉の部署に勤務（合計 13 年）											
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位									
履修を必須とする資格												
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力						
	1	基礎的知識力			5	応用・実践する能力						
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力						
SDGs との関連	①	②	③	④	⑤	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他		
	○	○	○	○	○							
「その他」のアクティブラーニング実施方法												
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①「貧困」をキーワードに国内外の貧困の現状を把握し、その解決方法について考察する。また、そうした貧困が生じる現代社会の特徴や課題、今後の社会のあるべき形について、文献、映画、演劇その他様々な媒体を用いて複眼的に考察する。 ②文献講読、グループディスカッション、グループに分かれての研究・調査、フィールドワーク、映画・演劇鑑賞などの方法を適宜組み合わせる。											
到達目標	1. 「貧困」を切り口にして現代社会の構造やあり方について考察することができる。■ 2. 社会福祉・ソーシャルワークを多様な方法、幅広い視点で学び、視野の広い思考を身につける。 3. 研究・調査の初歩的な部分を学び、学士として最低限の知識・技術を備える。											
使用教材	適宜提示する。											
参考文献	適宜提示する。											
評価方法	授業内における課題への取り組み態度、研究・調査に対する意欲、研究成果の内容、総合演習Ⅰ・Ⅱでの学びからの発展的考察ができているかなどを総合的に判断して決定する（100％）。特に学びに対する積極性・主体性は高く評価する。											
課題・評価に対するフィードバック方法	授業内の他、メールや対面などで適宜フィードバックを行う。											
オフィスアワー （研究室）	質問及び学習相談には適宜応じる。				メールアドレス （#→@）		narafu#takasaki-u.ac.jp					
講義内容	文献講読、グループディスカッション、グループに分かれての研究・調査、フィールドワーク、映画・演劇鑑賞などの方法を適宜組み合わせる。■											
	予習	適宜提示する。									1.5	時間
	復習	適宜提示する。									1.5	時間
合計時間（予習・復習）											45	時間
備考	・フィールドワーク等、内容によっては科目として定められている日時以外の時間を用いて行うことがある。 ・授業の内容や形態は学生の関心に応じて柔軟に変更するので、主体的に参加し、積極的に意見を述べること。 ■は実務経験に基づく授業内容であることを示しています。											

科目名	総合演習Ⅲ(卒業研究および演習)						科目ナンバリング	SWT403		
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅲ						講義形態	演習		
担当教員	富田 俊									
科目に関連した実務経験	専門看護師として病院に勤務(経験)									
学年・開講期	4 年 前期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	3481116									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①人生の最終段階・終末期・看取りの関する支援、倫理等についてテーマを設定し、文献検索、調査、実践活動などを通して理解を深め、課題を解決する力を養う。自身の死生観や人生の最終段階・終末期・看取りに関する価値観を養い、他者の価値観を理解する。 ②ゼミ活動を通して授業はゼミ形式で行う。各自の研究成果を報告、発表しながら進め、研究発表会に向けてプレゼンテーション技術や発表方法について実践的に指導する。									
到達目標	1. 研究計画に基づき研究活動を展開することができる。 2. 調査結果を検討し、研究目的に基づいた考察ができる。■ 3. 研究の成果を整理し、研究発表会においてプレゼンテーションすることができる。									
使用教材	必要に応じて指示する									
参考文献	必要に応じて指示する									
評価方法	演習／課題の取り組み(30%)、ディスカッションにおける発言内容(30%)、研究活動の貢献度(40%)として、60%以上を合格とする									
課題・評価に対するフィードバック方法	演習ゼミの運営や学習内容については、ゼミ生による自主的な運営を基本としつつ、教員から随時アドバイスや提案を行うなど学生にフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	月曜 2 時限 (514 研究室)				メールアドレス (#→@)		tomita-s#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	グループや各自の目標・テーマ等に沿って、企画や研究を行い、実践活動や研究成果を共有しながら進めていく。最終的には社会福祉学科研究発表会にて研究成果の発表を行う。■									
	予習	毎回指示する							8 時間	
	復習	毎回指示する							8 時間	
合計時間(予習・復習)									16 時間	
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。									

科目名	総合演習Ⅲ(卒業研究及び演習)							科目 ナンバリング	SWT403		
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅲ							講義形態	演習		
担当教員	加藤 大輔										
科目に関連した 実務経験	医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)として病院に勤務(経験)										
学年・開講期	4 年 前期		選必・単位数		必修 1 単位						
履修を必須とする 資格											
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	③ ⑩										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
	○		○	○	○		○				
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	医療福祉、医療ソーシャルワーカーの実践についてテーマを設定し、医療ソーシャルワーカーの専門性 や役割を理解する。また実践の基盤となる価値、医療・福祉に関する専門知識・援助技術を身に着ける。 活動を通じ、企画、研究、プレゼンテーションにかかわる力量を養う。 学生の問題意識を基に文献調査、実践理解を意図した企画などを実施し、学習内容のゼミ内での発 表、討議により、理解を深めていく。										
到達目標	1. 医療分野における福祉の役割を理解することができる■ 2. 研究活動の展開について理解することができる 3. 研究成果をゼミでの討論により整理できる 4. 研究成果を研究発表会においてプレゼンテーションすることができる。										
使用教材	必要に応じて指示する										
参考文献	必要に応じて指示する										
評価方法	ゼミ内での研究発表、活動内容、研究活動への貢献度により総合的に評価する(100%)										
課題・評価に対する フィードバック方法	授業内のコメント、議論、研究指導など随時フィードバックを行う										
オフィスアワー (研究室)	水曜 4 限 5 階 513 研究室				メールアドレス (#→@)		kato-d#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	設定したテーマについて各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによっては現任者の実 践理解を意図した企画を行う。最終的には学科の研究発表会にて研究成果の発表を行う。■										
	予習	毎回指示する								8 時間	
	復習	毎回指示する								8 時間	
合計時間(予習・復習)									16 時間		
備考	■: 実務経験に基づく内容を示す。										

科目名	総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)						科目ナンバリング	SWT404				
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅳ						講義形態	演習				
担当教員	安達 正嗣											
科目に関連した実務経験	兵庫県庁の家庭問題研究所において 3 年間、研究員および主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施して調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。											
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位									
履修を必須とする資格												
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力					
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力					
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力					
SDGs との関連	1	2	3	4	5	8	9	10	11	12	16	17
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他		
			○		○	○						
「その他」のアクティブラーニング実施方法												
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	現代の日本社会において、高齢化に関する福祉社会学的ならびに家族社会学的な視点・分析能力の養成は、さまざまな学術分野のみならず、社会福祉・精神保健・介護の現場のなかで重要性を増してきている。本演習では、高齢者福祉のあり方を考えることを通じて、こうした視点・分析能力を身につけることを目指すものである。 受講生が主体となって、司会と報告者の役割をおこない、教科書の担当章に関する報告者の報告内容・レジュメをめぐるって議論して、担当教員が適宜に助言しながら、教科書の内容の理解を深めるものである。											
到達目標	1. 高齢化の現状と高齢者福祉政策の動向について理解できる。 2. 高齢社会における課題を明確化して認識することができる。 3. 受講生が自らの問題意識から研究テーマを発見でき、プレゼンテーションの能力を養うことができる。 4. 福祉社会学・家族社会学の研究手法(調査方法を含む)を習得できる。■ 5. 卒論を作成する能力を身につけることができる。											
使用教材	G・エスピン＝アンデルセン『アンデルセン、福祉を語る』NTT 出版											
参考文献	講義中、適宜指示する。											
評価方法	受講生に対する評価の内訳は、演習中の研究課題への取り組みに対する評価(50%)、学期末に提出する卒業論文作成(卒業論文提出を含む)に関する評価(50%)、合計 100%で評価する。											
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回の報告、卒業論文の中間作成に対して、コメントをつけて返却する。											
オフィスアワー (研究室)	火曜日 5 限・6 限				メールアドレス (#→@)		adachi-m#takasaki-u.ac.jp					
講義内容	決定された順番にしたがって、受講生が選んだ教科書の章に関する報告レジュメを配布して、該当章に関して解説と論評する。その後、質疑応答と議論をする。学期末には、卒業論文を提出する。■											
	予習	各回に指示する。									8 時間	
	復習	各回に指示する。									8 時間	
合計時間(予習・復習)											16 時間	
備考	報告者が無断欠席をすると、単位が不可となります。必ず、報告者以外の受講生は、質問や意見を述べるのが義務となっています。 科目「卒業論文」を登録して、単位を取得する必要があります。 ■:実務経験に基づく内容を示す。											

科目名		総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)						科目 ナンバリング		SWT404		
英文名		Seminar in Advanced StudiesⅣ						講義形態		演習		
担当教員		金井 敏										
科目に関連した 実務経験		コミュニティソーシャルワークの実践主体としての社会福祉協議会に勤務経験有。実務を担当するとともに、ソーシャルワーカーの育成にも従事。現在、行政や社協、民生委員協議会、団体の計画づくりや実践の企画・評価に携わっている。										
学年・開講期		4 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位						
履修を必須とする 資格												
学位授与方針 との対応		1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力				
		1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力				
		1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連		① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑪ ⑯ ⑰										
アクティブラーニング 実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
				○	○	○	○	○		○		
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法												
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		地域福祉実践を中心としてコミュニティソーシャルワーカーが活用する知識と技術について、現地演習やグループワークを通じて理解する。 ゼミの運営は学生が主体的に協力しながら運営する。研究・実践活動は、歴代のゼミの先輩が実践してきた内容＝ふれあい・いきいきサロン、大類地域福祉教育の会運営、赤い羽共同募金などの企画・運営・振り返りをベースとする。教員は自身の研究テーマと教育スタンスにより、フィールドの実践やアドバイスをを行う。										
到達目標		1.現地演習を通じて、地域住民や団体が抱える生活課題を把握するとともに説明できる。■ 2.現地演習を通じて、地域団体の運営方法や事業の企画、広報、連絡調整の技術を修得する。■ 3.コミュニティソーシャルワーカーが活用している知識や技術を説明できる。■ 4.ゼミ活動を通じて、集団討議や研究方法、プレゼンテーションの技術や方法論を修得する。■										
使用教材		テキストは使用しない。										
参考文献		その他、講義に必要な教材・資料は適宜プリントして配付する。										
評価方法		①専門分野における演習の取り組み(40%)、②地域課題への取り組み(30%)、③グループ学習による取り組み(30%)、による専門的な学修、知識の獲得等により評価する(計 100%)。										
課題・評価に対する フィードバック方法		質問や相談については Clearning で適時回答するほか、必要に応じて授業時に学生全体にフィードバックする。										
オフィスアワー (研究室)		質問や相談は Clearning 等で随時受け付ける。				メールアドレス (#→@)		kanai#takasaki-u.ac.jp				
1～ 15	講義内容	地域福祉実践(地域福祉教育団体運営、ふれあいサロン活動、共同募金活動など)の企画、運営、準備、振り返り、研究を行う。社会福祉学科研究発表会等において研究成果を発表する。■										
	該当到達目標	予習	実践の準備、検討、資料作成等。								8 時間	
	1,2,3,4	復習	実践の振り返り、次の課題への準備等。								8 時間	
合計時間(予習・復習)											16 時間	
備考		●授業時間には、授業時の活動のほか地域に出向いて行う実践時間も含まれます。 ●国家試験受験の準備や就職活動の支援も適宜行います。 講義内容の■は実務経験に基づく内容を示めています。										

科目名	総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)						科目ナンバリング	SWT404		
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅳ						講義形態	演習		
担当教員	池田 朋広									
科目に関連した実務経験	①精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)として大学病院において 21 年勤務(経験) ②非常勤として精神科クリニックデイケアに 4 年勤務(経験) ③外部講師(精神保健福祉士)として、保護観察所薬物再乱用防止プログラムに不定期参加(現在) ④薬物依存症回復支援施設にて、非常勤プログラム講師(現在)									
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			5	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	①	③	⑤	⑧	⑩	⑪	⑯	⑰		
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○		○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①おもに薬物使用者を支援の対象として、精神科医療と刑事司法の境界領域におけるソーシャルワーク実践について考えを深めていく。また、支援対象者への介入手段の一つとして、病院や矯正施設等で行なわれる心理社会的治療プログラムや、精神保健分野における多職種チームアプローチの技法についても、詳しく紹介していく。 基本は演習形式で授業を行うが、外部講師を招いて講義形式にて行うこともある。課外授業やゼミ合宿も含め、授業の進行についてはすべてゼミメンバーで話し合って決める。 ②メンタルヘルス領域・司法福祉領域から各自が関心のある分野や課題を選び、研究報告会にむけての具体的なテーマを決める。学期中はゼミ時間を、施設見学や自主的な学習調査に利用し、月 1～2 回程度進捗状況をゼミで報告する。初回講義で、講義全体(研究活動)のオリエンテーションを行う。									
到達目標	1 これまでの学習の成果を深めていくために、専門分野における演習を実施し、より専門的な学習、知識の獲得することができる。■ 2 社会福学科研究発表会に向けプレゼンテーション、発表会での報告ができる■									
使用教材	必要に応じて指示する。									
参考文献	必要に応じて指示する。									
評価方法	共同創造を目指した授業展開とする。授業における発言内容(50%)、研究活動への貢献度(50%)を目安に、発表内容も含め総合的に評価する。60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	学生から提出された成果物の内容を修正し、全体に向けて解説する。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3, 4 時限 312 研究室				メールアドレス (#→@)	ikedat#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	前期に調べて、発表したものをまとめる。全員で発表の振り返りをする。■									
	予習	発表の準備・練習。							8 時間	
	復習	授業で考察したものをまとめる。発表準備・練習を進める。							8 時間	
合計時間(予習・復習)									16 時間	
備考	自分から積極的に教員とアポイント(連絡や相談)を取ることができると望ましい。 ■:実務経験に基づく内容を示す。									

科目名	総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)						科目ナンバリング	SWT404		
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅳ						講義形態	演習		
担当教員	永田 理香									
科目に関連した実務経験	研修担当者として社会福祉研修実施機関(県社会福祉協議会)に勤務(経験)									
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	①	③	④	⑤	⑧	⑩	⑪	⑯	⑰	
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○	○	○	○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	現在、福祉人材確保政策において人材育成の重要性が注目され、キャリアパスの策定や人材育成認証評価制度等の取組みが進められてきている。本演習では、人材育成を組織的な学習・教育活動と捉え、福祉専門職が将来展望を持ちながらキャリアアップできる人材育成のあり方について実践的に学ぶ。 基本的な研究の流れと方法が理解できるよう、個人のニーズに合わせ段階的に演習を進めていく。プレゼンテーションスキルの向上を目指し、スライドの構成・作成方法、発表方法について実践的に指導を行なう。									
到達目標	1. 研究計画に基づき研究活動を展開することができる。 2. 調査結果を検討し、研究目的に基づいた考察ができる。■ 3. 研究の成果を整理し、研究発表会においてプレゼンテーションすることができる。									
使用教材	必要に応じて指示する									
参考文献	必要に応じて提示する									
評価方法	問題解決学習を中心とした授業展開とするため、段階的に形成的評価を行なう。その内訳は、授業における発言内容(30%)、研究活動への貢献度(40%)、プレゼンテーション(30%)とし、60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出された課題については、出題した意図について解説を行い、コメントを付け返却を行なう。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3 時限と水曜日 2 時限 (研究室:1 号館 3 階 309)				メールアドレス (#→@)	メールアドレスは初回授業時に提示する。				
講義内容	初回に研究活動についてのオリエンテーションを行う■									
	予習	毎回指示する								毎 1.5 時間
	復習	毎回指示する								毎 1.5 時間
合計時間(予習・復習)									45 時間	
備考	オンラインで実施する場合は、別途 C ラーニング等で周知する。 最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。									

科目名	総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)						科目ナンバリング	SWT404		
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅳ						講義形態	演習		
担当教員	原田 欣宏									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	4 年	後期	選必・単位数	必修 1 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			5	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	③⑤⑩⑪⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○		○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	福祉・医療・司法専門職と地域住民との協働による福祉実践を中心としたシャルワーカーが活用する知識と技術について、現地演習やグループワークを通じて理解する。									
①講義の目標	授業では文献や実地調査とグループワーク、ディスカッションを行い、適宜コメントする。									
②講義の実施方法										
到達目標	1. 現地での演習を通じて、地域住民が抱える生活課題を把握するとともに説明できる。 2. 現地での演習を通じて、ソーシャルワーカーのソーシャルアクションに関する企画、広報、連絡調整の技術を修得する。 3. ソシャルワーカーが活用している知識や技術を説明できる。 4. ゼミ活動を通じて、集団討議や研究方法、プレゼンテーションの技術や方法論を修得する。 5. 報告書の作成を通して、論理的な文章の作成を行うことができる。									
使用教材	テキストは使用しない									
参考文献	適宜文献を指示する									
評価方法	①専門分野における演習の取り組み、②課題に取り組むことによる、より専門的な学修、知識の獲得、等により評価 100%。60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	演習ゼミの運営や学習内容については、ゼミ生による自主的な運営を基本としつつ、教員から随時アドバイスや提案を行うなど学生にフィードバックする。									
オフィスアワー(研究室)	火曜 3 時限 研究室:1 号館 5 階 506				メールアドレス (#→@)	harada#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	テーマに即したゼミ研究・実践活動									
	予習	テーマに即したデータ、参考文献を検索し、整理する。								7.5 時間
	復習	ゼミ活動を振り返り、情報と課題の整理を行う。								7.5 時間
合計時間(予習・復習)										15 時間
備考	ゼミの運営は学生が主体的にかつ協力しながら運営することで、学びがさらに深まることを期待しています。									

科目名	総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)						科目 ナンバリング	SWT404			
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅳ						講義形態	演習			
担当教員	根岸 洋人										
科目に関連した 実務経験	高崎市障害者虐待対策協議会会長(現在) 高崎市社会福祉審議会委員(現在)										
学年・開講期	4 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位						
履修を必須とする 資格											
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	③										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
	○		○	○	○		○				
「その他」のアクティブ ラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	障害のある人を取り巻く環境(制度、文化、支援技術等)についてテーマを設定し、文献検索、調査、実践活動などを通して理解を深め、課題を解決する力を培う。 授業はゼミ形式で行う。各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによってはボランティア活動や実態調査などを行う。授業時間以外での学修や活動を行うことが前提となる。										
到達目標	1. 障害のある人を取り巻く環境について理解することができる■ 2. 問題点を発見し、課題解決に向けた研究を行うことができる 3. 自分の取り上げた研究テーマをプレゼンテーションすることができる										
使用教材	適宜指示する										
参考文献	適宜指示する										
評価方法	ゼミ内での研究発表及び活動内容により総合的に評価する(100%)										
課題・評価に対する フィードバック方法	授業内のコメント、議論、研究指導など随時フィードバックを行う										
オフィスアワー (研究室)	火曜 5 限及び金曜 5 限				メールアドレス (#→@)		negishi#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	設定したテーマについて各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによってはボランティア活動や実態調査などを行う。最終的には学科の研究発表会にて研究成果の発表を行う。■										
	予習	適宜指示する								8 時間	
	復習	適宜指示する								8 時間	
合計時間(予習・復習)									16 時間		
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。										

科目名	総合演習Ⅳ(卒業研究および演習)						科目ナンバリング	SWT404			
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅳ						講義形態	演習			
担当教員	石坂 公俊										
科目に関連した実務経験											
学年・開講期	4 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位						
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			2	学際的な視点から取り組む力					
	1	基礎的知識力			3	応用・実践する能力					
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			2	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力					
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑫ ⑯ ⑰										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
	○	○	○	○	○		○		○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	1. 「子どもの貧困」をテーマとし、貧困で何が起きているのか、なぜ貧困があるのかを理解する。 2. 「子どもの貧困」を背景とした多角的な視点を醸成する。 3. フィールドワークに参加しながら、貧困問題などについて自分の目と耳で考える。 「貧困の中でしんどい思いをしている子ども達」、「なぜ貧困があるのか」について中心的に理解する。グループワーク、文献・資料等も活用し、学びを深める方法をとる。										
到達目標	1. 貧困の中で育つ子どもの生活実態を理解することができる。 2. 「子どもの貧困」をめぐる背景や諸動向を理解することができる。 3. 社会福祉の関連事象には背景に貧困問題があるかもしれないという感度を持つことができる。										
使用教材	必要に応じて指示するが、参考文献などは授業中にも適宜紹介していく。 授業内容によっては DVD などを視聴する機会も設け、レジュメや参考資料なども配付する。										
参考文献	特記事項なし										
評価方法	1. 履修の条件として、子どもの貧困やホームレス問題などに関心のある学生を希望する。 2. ゼミ活動としてフィールドワークへの参加に意欲的な学生を希望する。 上記を目安に総合的に評価する。										
課題・評価に対するフィードバック方法	発表、提出物等に対してコメントする。 必要に応じて面談、個別指導を随時実施する。										
オフィスアワー (研究室)	水曜日 4 時限 質問はメールでも受け付ける。 (1 号館 5 階 503 研究室)				メールアドレス (#→@)		kimi#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	「子どもの貧困問題」がメインテーマとなる。子どもの貧困の実態、困難を抱えた子どもや家族の「声」を社会に発信し、解決への道筋を考えていく。本講座では将来にわたって、貧困問題に対するアンテナを持ち続けられる支援者を目指す。総合演習Ⅲを履修する 4 年生と合同で実施する。										
	予習	毎回提示する。								8 時間	
	復習	毎回提示する。								8 時間	
合計時間(予習・復習)									16 時間		
備考	フィールドワークとして子ども無料学習会、ホームレス配食(聞き取り調査も実施)の活動にも参加が可能となる。さらにゼ										

	ミ内で国家試験学習も行っていく。それらの取り組みを通じて、教員、ゼミ生同士の相互交流を図ることが主な目的となる。

科目名	総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)						科目ナンバリング	SWT404			
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅳ						講義形態	演習			
担当教員	堀口 美奈子										
科目に関連した実務経験	介護福祉士等として特別養護老人ホーム、訪問介護事業所などに勤務(経験)										
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位								
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力					
	1	基礎的知識力			5	応用・実践する能力					
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力					
SDGs との関連	3581011										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
			○	○		○			○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①社会福祉は、ひとりよりみんな、他者とともに生きる＝共生社会のなかで育まれる。そこで本科目では、社会のなかでのフィールドワークや実証研究を通して、前期で学んだ社会福祉専門職に求められる「社会福祉を構成するちから」の理解をより深め、卒後、共生社会で生きる社会人としての力の獲得を目指していく。 ②授業では、これまで行ってきた実証研究を発表するための準備を行い、発表する。発表後は、実施内容に関する振り返りを行う。そのほか経験学習モデルをベースに、学生自身の興味関心に応じた個人もしくはグループ学習を行う。										
到達目標	1.教員と参加学生による関心や問題意識を基に、フィールドワークや実証研究を実践できる。■ 2.具体的な実践を通して、チームで働く力や前に踏み出す力、考え抜く力を身につけることができる。■ 3.実践経験から内省的観察を行い、共生社会の構成時に必要となる抽象的概念を抽出、言語化できる。■ 4.得られた概念を、社会の中での能動的実践に活かすことができる。■ 5.実践や他者との交流を通して、自己についての考えを深めることができる。 6.社会福祉学科研究発表会にて、学生全体でまとめた学習成果をプレゼンテーションできる。										
使用教材	必要に応じて資料の配布、参考書の紹介を行う。										
参考文献											
評価方法	実践活動での活発な参加と議論・活動への貢献度 40%、研究発表会での事前準備・プレゼンテーション 60%										
課題・評価に対するフィードバック方法	提出を求めるレポートやリアクションペーパーについては、適宜コメントを付しての返却を予定している。										
オフィスアワー (研究室)	月曜・水曜 3 限				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する				
講義内容	初回到授業全体についてのオリエンテーションを行う■ 総合演習Ⅳを履修する 4 年生と合同で実施する。										
	予習	適宜指示する								7.5 時間	
	復習	適宜指示する								7.5 時間	
合計時間(予習・復習)									15 時間		
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。										

科目名	総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)						科目 ナンバリング	SWT404		
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅳ						講義形態	演習		
担当教員	大川 健次郎									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤									
アクティブラーニング実 施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○	○	○	○				
「その他」のアクティブ ラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①児童家庭福祉の諸問題を中心に扱う。現在の児童や家庭、女性問題などに焦点を当てて、これまでの大学の講義や演習等で学んだことを、自分の興味範囲を定めて深めて研究することを目的とする。前期の総合演習の学習内容を踏まえ、それらを他者に分かりやすく伝える力をつける。ゼミ内でお互いに学び合い自分の興味範囲を深めていく。 ②授業は、学生の児童家庭福祉に関する問題意識を基に、質疑応答形式で進め、それをゼミとしてまとめていく。									
到達目標	1. 自分たちの考えを他者に分かりやすく伝える技術を学ぶことができる。 2. 他者の学びを、自らの問題としてとらえ、深めることを学ぶことができる。 3. 大学卒業後の進路を考え具体的な目標を立てることができる。									
使用教材	教科書は使用しないが、ゼミにおいて資料の配布、参考書の紹介などを予定している。									
参考文献										
評価方法	研究計画書・発表文書(60%)、他のゼミ生への提案(20%)、ゼミ活動への貢献度(20%)									
課題・評価に対する フィードバック方法	研究計画書・発表文書作成段階で、個別指導を実施する。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。研究室 508				メールアドレス (#→@)	okawa#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	ゼミ内で議論しテーマを設定して、各自問題意識をもってテーマを深めたうえで、ゼミ内で共有する									
	予習	毎回指示する							8 時間	
	復習	毎回指示する							8 時間	
合計時間(予習・復習)									16 時間	
備考	各自主体的に参加し、協同して、さらなる深い学習となることを期待する。									

科目名	総合演習Ⅳ(卒業研究および演習)						科目 ナンバリング	SWT404		
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅳ						講義形態	演習		
担当教員	白鳥 浩丈									
科目に関連した 実務経験	2001.4 月～精神科病院勤務、2020.4 月～就労移行支援・リワーク・就労定着支援事業所勤務									
学年・開講期	4 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	③81116									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○				○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	働くメンタルヘルス不調者・精神障害者への支援についてテーマを設定し、文献検索、調査、実践活動などを通して理解を深め、課題を解決する力を培う。働くこととメンタルヘルスの両立を支援するための専門知識や、支援現場で行われている心理社会的アプローチについても紹介していく。 授業はゼミ形式で行う。学生の問題意識をもとに、ゼミ内での報告、発表、対話、討議等により、現場課題や支援の理解を深めていく。									
到達目標	1. メンタルヘルス不調者・精神障害者への支援について理解することができる■ 2. 問題・課題を発見し、自身の研究テーマを決め、研究を行うことができる。 3. 研究成果をプレゼンテーションすることができる。									
使用教材	必要に応じて指示する									
参考文献	必要に応じて指示する									
評価方法	ゼミ内での研究発表及び活動内容により総合的に評価する(100%)									
課題・評価に対する フィードバック方法	授業内のコメント、議論、研究指導などにより随時学生にフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	火曜 2 時限 (303 研究室)				メールアドレス (#→@)		shiratori#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	前期に調べ、発表したものをまとめ、最終的には社会福祉学科研究発表会にて研究成果の発表を行う。 ■									
	予習	毎回指示する							毎 1.5 時間	
	復習	毎回指示する							毎 1.5 時間	
合計時間(予習・復習)								45 時間		
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。									

科目名	総合演習Ⅳ(卒業研究および演習)						科目ナンバリング	SWT404		
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅳ						講義形態	演習		
担当教員	出雲 春明									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	4 年 後期		選必・単位数	必修 1 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			5	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	①	②	③	④	⑤	⑩	⑪	⑯	⑰	
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○		○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 医療・福祉の分野では、キュア(治療)だけでなく、QOL(生の質)へのケア(配慮)が重要な位置を占めている。しかしながら、「高い QOL とは何か」は人それぞれで違う。本演習では、QOL に直結している「多様性」の問題について理解を深めることを目標とする。 ② 本演習では、学生が自分の興味範囲のなかから課題を設定し、研究発表、議論を行ってもらう。教員からも適宜、問題提起や情報提供を行う。									
到達目標	1. さまざまな QOL の在り方について理解し、説明することができる。 2. 自分の研究テーマを設定し、自らの関心を他者に伝えることができる。 3. 適切に文献等の資料を利用することができる。 4. 自分の考えをまとめることができる。 5. 議論を通じて、考えを深めることができる。									
使用教材	教科書は使用しない。ゼミ生の関心に合わせて、資料を配布する。									
参考文献	必要に応じて指示する。									
評価方法	調査、研究発表などへの出席や参加度から評価する(100%)。									
課題・評価に対するフィードバック方法	ゼミでの研究発表に対して、適宜指導を行う。									
オフィスアワー (研究室)	1 号館 511 研究室 面談希望の場合は C-Learning「連絡・相談」あるいは右記アドレスまで。				メールアドレス (#→@)	izumo-s#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	各自の関心に基づいたゼミ研究活動									
	予習	適宜指示する。							1.5 時間	
	復習	適宜指示する。							1.5 時間	
合計時間(予習・復習)								45 時間		
備考	日頃から、社会問題に関心を持ち、報道などを見るようにしましょう。									

科目名	総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)						科目ナンバリング	SWT404						
英文名	Seminar in advanced studies Ⅳ						講義形態	演習						
担当教員	檜府 憲太													
科目に関連した実務経験	社会福祉士(専門職採用)として生活保護、高齢者福祉、障害者福祉の部署に勤務(合計 13 年)													
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位											
履修を必須とする資格														
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力							
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力							
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力							
SDGs との関連	①	②	③	④	⑤		⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他				
	○	○	○	○	○	○	○							
「その他」のアクティブラーニング実施方法														
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①「貧困」をキーワードに国内外の貧困の現状を把握し、その解決方法について考察する。また、そうした貧困が生じる現代社会の特徴や課題、今後の社会のあるべき形について、文献、映画、演劇その他様々な媒体を用いて複眼的に考察する。 ②文献講読、グループディスカッション、グループに分かれての研究・調査、フィールドワーク、映画・演劇鑑賞などの方法を適宜組み合わせる。													
到達目標	1. 「貧困」を切り口にして現代社会の構造やあり方について考察することができる。■ 2. 社会福祉・ソーシャルワークを多様な方法、幅広い視点で学び、視野の広い思考を身につける。 3. 研究・調査の初歩的な部分を学び、学士として最低限の知識・技術を備える。													
使用教材	適宜提示する。													
参考文献	適宜提示する。													
評価方法	授業内における課題への取り組み態度、研究・調査に対する意欲、研究成果の内容、総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでの学びからの発展的考察ができているかなどを総合的に判断して決定する(100%)。特に学びに対する積極性・主体性は高く評価する。													
課題・評価に対するフィードバック方法	授業内の他、メールや対面などで適宜フィードバックを行う。													
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には適宜応じる。					メールアドレス (#→@)		narafu#takasaki-u.ac.jp						
講義内容	文献講読、グループディスカッション、グループに分かれての研究・調査、フィールドワーク、映画・演劇鑑賞などの方法を適宜組み合わせる。■													
	予習	適宜提示する。										1.5	時間	
	復習	適宜提示する。										1.5	時間	
											合計時間(予習・復習)		45	時間
備考	・フィールドワーク等、内容によっては科目として定められている日時以外の時間を用いて行うことがある。 ・授業の内容や形態は学生の関心に応じて柔軟に変更するので、主体的に参加し、積極的に意見を述べること。 ■は実務経験に基づく授業内容であることを示しています。													

科目名	総合演習Ⅳ(卒業研究および演習)						科目ナンバリング	SWT404		
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅳ						講義形態	演習		
担当教員	富田 俊									
科目に関連した実務経験	専門看護師として病院に勤務(経験)									
学年・開講期	4 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力			
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力			
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	3481116									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①人生の最終段階・終末期・看取りの関する支援、倫理等についてテーマを設定し、文献検索、調査、実践活動などを通して理解を深め、課題を解決する力を養う。自身の死生観や人生の最終段階・終末期・看取りに関する価値観を養い、他者の価値観を理解する。 ②ゼミ活動を通して授業はゼミ形式で行う。各自の研究成果を報告、発表しながら進め、研究発表会に向けてプレゼンテーション技術や発表方法について実践的に指導する。									
到達目標	1. 研究計画に基づき研究活動を展開することができる。 2. 調査結果を検討し、研究目的に基づいた考察ができる。■ 3. 研究の成果を整理し、研究発表会においてプレゼンテーションすることができる。									
使用教材	必要に応じて指示する									
参考文献	必要に応じて指示する									
評価方法	演習／課題の取り組み(30%)、ディスカッションにおける発言内容(30%)、研究活動の貢献度(40%)として、60%以上を合格とする									
課題・評価に対するフィードバック方法	演習ゼミの運営や学習内容については、ゼミ生による自主的な運営を基本としつつ、教員から随時アドバイスや提案を行うなど学生にフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	月曜 2 時限 (514 研究室)				メールアドレス (#→@)		tomita-s#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	グループや各自の目標・テーマ等に沿って、企画や研究を行い、実践活動や研究成果を共有しながら進めていく。最終的には社会福祉学科研究発表会にて研究成果の発表を行う。■									
	予習	毎回指示する							毎 8 時間	
	復習	毎回指示する							毎 8 時間	
合計時間(予習・復習)									16 時間	
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。									

科目名	総合演習Ⅳ(卒業研究及び演習)						科目 ナンバリング	SWT404			
英文名	Seminar in Advanced Studies Ⅳ						講義形態	演習			
担当教員	加藤 大輔										
科目に関連した 実務経験	医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)として病院に勤務(経験)										
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位								
履修を必須とする 資格											
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性				1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力				5	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力				1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	③ 10										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
	○		○	○	○		○				
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	医療福祉、医療ソーシャルワーカーの実践についてテーマを設定し、医療ソーシャルワーカーの専門性や役割を理解する。また実践の基盤となる価値、医療・福祉に関する専門知識・援助技術を身に着ける。活動を通じ、企画、研究、プレゼンテーションにかかわる力を養う。 学生の問題意識を基に文献調査、実践理解を意図した企画などを実施し、学習内容のゼミ内での発表、討議により、理解を深めていく。										
到達目標	1. 医療分野における福祉の役割を理解することができる■ 2. 研究活動の展開について理解することができる 3. 研究成果をゼミでの討論により整理できる 4. 研究成果を研究発表会においてプレゼンテーションすることができる。										
使用教材	必要に応じて指示する										
参考文献	必要に応じて指示する										
評価方法	ゼミ内での研究発表、活動内容、研究活動への貢献度により総合的に評価する(100%)										
課題・評価に対する フィードバック方法	授業内のコメント、議論、研究指導など随時フィードバックを行う										
オフィスアワー (研究室)	水曜 4 限 5 階 513 研究室				メールアドレス (#→@)		kato-d#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	設定したテーマについて各自の研究成果を報告、発表しながら進めていく。テーマによっては現任者の実践理解を意図した企画を行う。最終的には学科の研究発表会にて研究成果の発表を行う。■										
	予習	毎回指示する								8 時間	
	復習	毎回指示する								8 時間	
							合計時間(予習・復習)			16 時間	
備考	■: 実務経験に基づく内容を示す。										

科目名	卒業研究(卒業論文)(卒業研究及び演習)						科目 ナンバリング	SWT405		
英文名	Seminars in Graduation Studies						講義形態	演習		
担当教員	社会福祉学科教員									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	4 年 通年		選必・単位数		選択 4 単位					
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			5	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑪ ⑫ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①卒業研究は、4 年間の講義や現場実習等の成果の集大成として、学生が自分で選択した分野に関わるテーマについてさらに深く研究し、その成果をまとめるものである。その過程を通じ、社会福祉の専門職として求められる研究能力や課題解決・改善能力を身につける。 ②各自が研究テーマを設定し、研究計画を立案、文献検索や調査、フィールドワーク等さまざまな過程を経て、最終的には研究結果を論文としてまとめる。担当教員は適宜その内容についてレポート、あるいは口頭で発表、報告により論文作成に必要な指導を行う。									
到達目標	1. 社会福祉分野における課題を発見することができる。 2. 発見した課題に対し研究計画を立案することができる。 3. 立案した研究計画に基づき、課題についてさまざまな手法を用いて探求することができる。 4. 研究の結果を論文としてまとめることができる									
使用教材	研究の過程で適時指示する。									
参考文献	研究の過程で随時紹介する。									
評価方法	研究の過程で行う報告 30%、提出された論文 70%									
課題・評価に対する フィードバック方法	研究の過程で随時行う。									
オフィスアワー (研究室)	総合演習Ⅰ～Ⅳと同様				メールアドレス (#→@)	メールアドレスは初回授業時に提示する				
講義内容	自ら選んだテーマをもとに研究計画を立案し、文献調査、フィールドワーク、アンケート調査に必要な準備と実施、評価、考察、結論をまとめ、論文を執筆する。									
	予習	論文を執筆する過程に合わせて教員から課されたレポートなどを行うとともに、論文の執筆に必要な文献検索、フィールドワークやアンケートに必要な情報の整理を行う。								45 時間
	復習	授業内で指摘された内容をもとにレポートなどの加筆修正を行うとともに、研究に関連する文献、情報を整理して、論文に必要な情報収集と研究に必要な知識と技術を得る。								45 時間
合計時間(予習・復習)										90 時間
備考	履修を希望する学生は事前に担当教員(総合演習の担当教員)へ相談すること。									

科目名	生涯学習社会と図書館(司書科目)						科目ナンバリング	—		
英文名	Lifelong Learning Society and Library						講義形態	講義		
担当教員	秋山 美和子									
科目に関連した実務経験	地方公務員(管理職)として社会教育課、公共図書館に勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格	司書									
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と幅広い教養			—	コミュニケーションスキル				
	—	健康・医療および情報に関する知識・技能			—	生涯学習力				
	—	問題解決力								
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○		○			○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	ゲストスピーカー(司書、公民館主事など)による実践的な学習を実施。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本について理解できることを目標とする。 ② 講義は教科書を中心とするが、参考資料も適宜配付しながら、授業毎に配付するレジュメに沿って進めていく。また、第 3 回～第 13 回講義(第 10 回講義を除く)では、講義内容に合わせたグループワークまたはディスカッションを行い、課題の提出を求める。8 月にフィールドワーク(公共図書館)を実施する。									
到達目標	1. 社会教育・生涯学習の役割と意義について理解する。■ 2. 生涯学習社会における図書館の役割について理解する。■ 3. 社会教育施設(図書館・博物館・公民館)、社会教育職員、委員等の役割について理解する。■									
使用教材	馬場祐次朗執筆・編集代表『二訂 生涯学習概論』(ぎょうせい) ISBN 978-4-324-10464-4 必要に応じて資料を配付									
参考文献	授業中に提示									
評価方法	最終レポート・プレゼンテーション 20%、課題 2 回 20%、授業への参加態度 60%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	各授業終了時に学生から意見・感想・質問等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次回の授業で解説する。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。				メールアドレス (#→@)	メールアドレスは初回授業時に提示する。				
1	講義内容	ガイダンス(授業の進め方、評価方法)、社会教育、生涯教育、生涯学習について								
	該当到達目標 1	予習	シラバス、授業の進め方及び評価方法、教科書の「はじめに」から第 1 章 1 までを読み、本講義の実施概要、到達目標、評価方法等を確認する。					1 時間		
		復習	講義の実施概要、到達目標、評価方法を理解し、自分なりの学習計画を立てる。社会教育、生涯教育、生涯学習の違いについて理解する。					2 時間		
2	講義内容	生涯学習の意義と生涯学習振興政策								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。					1.5 時間		

	1	復習	生涯学習の意義は何か、どのような政策が実施されているのを理解する。	1.5 時間
3	講義内容	社会教育の意義と特質		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2	復習	社会教育の歴史を踏まえ、生涯学習社会における社会教育の今日的な意義と課題について理解する。	1.5 時間
4	講義内容	社会教育の歴史的展開		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,3	復習	社会教育(生涯学習)に関する法律と国の答申(政策)について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	社会教育行政の組織と役割■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,3	復習	社会教育行政を担う国及び地方公共団体の組織と役割について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	社会教育行政における委員■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,3	復習	社会教育行政に関わる委員の役割と職務について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	社会教育主事の役割と職務■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1	復習	社会教育主事(士)の仕事の内容、意義について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	社会教育に関する団体と指導者■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1	復習	社会教育に関わる委員の職務・役割、社会教育の団体・指導者に求められる役割について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	社会教育施設の意義と役割■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	図書館、博物館、公民館、その他の社会教育施設の意義と役割、課題について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	公民館の役割と機能■ ゲストスピーカー(公民館主事)によると特別講義		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。ゲストスピーカー(公民館主事)が勤務する公民館の取組について調べる。	1.5 時間
	1,3	復習	ゲストスピーカー(公民館主事)による講義のふりかえりを行う。公民館の役割と機能について理解し、講義で紹介した取組事例についてさらに調べてみる。	1.5 時間
11	講義内容	図書館の役割と機能■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて	1.5 時間

			て関連する文献・資料などで調べておく。フィールドワークで訪れる図書館について、インターネット等で調べておく。	
	1,2,3	復習	図書館の役割と機能について理解し、講義で紹介した取組事例についてさらに調べてみる。フィールドワークで訪れる図書館について、質問事項を整理する。	1.5 時間
12	講義内容	博物館、その他社会教育施設の役割と機能		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,3	復習	博物館、その他社会教育施設の役割と機能について理解し、講義で紹介した取組事例、MLA 連携についてさらに調べてみる。	1.5 時間
13	講義内容	生涯学習社会と家庭・学校・地域		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	生涯学習社会における家庭・学校・地域の連携について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	最終レポートのプレゼンテーション及びディスカッション(発表に対する質問・意見・感想)		
	該当到達目標	予習	最終レポートを作成し、プレゼンテーションの準備をする。 最終レポートは事前に提出し、冊子を作成する。	2 時間
	1,2,3	復習	最終レポートについて各自がプレゼンテーションし、学生同士でディスカッションした結果を踏まえ、テーマについての理解をさらに深める。	1 時間
15	講義内容	講義のまとめ		
	該当到達目標	予習	教科書、配付資料、ノート等を確認し、自分の関心・疑問を整理し、疑問点や質問事項があれば講師に事前に連絡する。	2 時間
	1,2,3	復習	講義を踏まえ、生涯学習社会における図書館の意義について論述できるようにする。	1 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	授業では、積極的に発言することを期待する。 社会教育施設(図書館、博物館、美術館、公民館など)を積極的に活用して、理解を深めること。 ※オンライン(オンデマンド)で授業を行う場合 ① 教材のデータを授業日の前日までに C-learning に配信する。 ② 配信された教材の内容を理解し、提示された課題のレポートを C-learning で提出する。 ③ 提出されたレポートについては、コメントをつけてフィードバックする。 ④ レポートの提出をもって「出席」とする。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	図書館概論(司書科目)						科目ナンバリング	—		
英文名	Introduction to Librarianship						講義形態	講義		
担当教員	秋山 美和子									
科目に関連した実務経験	地方公務員(管理職)として公共図書館に勤務(経験)									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格	司書									
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と幅広い教養			—	コミュニケーションスキル				
	—	健康・医療及び情報に関する知識・技能			—	生涯学習力				
	—	問題解決力								
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 図書館情報学の入門として、図書館の歴史、社会的意義、機能、役割、組織の運営、図書館の課題と展望までを概観し、図書館とは何かを理解できるようにする。 ② 授業は教科書を中心とするが、参考資料も適宜配付しながら、授業毎に配付するレジュメに沿って進めていく。また、第 3 回～第 13 回講義では、講義内容に合わせたグループワークまたはディスカッションを行い、課題の提出を求める。									
到達目標	1. 図書館の社会的意義、機能、役割等について論述できるようにする。■ 2. 図書館の歴史から将来展望までを、社会の変化に合わせて理解する。■ 3. 図書館の組織の運営について理解する。■									
使用教材	高山正也・岸田和明編著『改訂 図書館概論』(樹村房) ISBN 978-4-88367-271-4 必要に応じて資料を配付									
参考文献	授業中に提示									
評価方法	最終レポート・プレゼンテーション 20%、課題 2 回 20%、授業への参加態度 60%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	各授業終了時に学生から意見・感想・質問等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次回の講義で解説する。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。				メールアドレス (#→@)	メールアドレスは初回授業時に提示する。				
1	講義内容	ガイダンス(授業の進め方、評価方法)、図書館の社会的意義								
	該当到達目標	予習	シラバス、授業の進め方、教科書の監修者の言葉から 1 章の該当箇所までを読み、本講義の実施概要、到達目標、評価方法等を確認する。						1 時間	
	1	復習	講義の実施概要、到達目標、評価方法等を理解し、自分なりの学習計画を立てる。図書館の社会的意義について理解する。						2 時間	
2	講義内容	図書館の歴史								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、図書館の歴史について表にまとめるなどして整理し、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。						1.5 時間	
	1,2	復習	図書館の歴史と社会の変化を、関連づけて考えられるようにする。						1.5 時間	
3	講義内容	図書館の機能とサービス■								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。						1.5 時間	
	1	復習	図書館資料を知り、図書館の機能とサービスの基本的な考え方について理解する。						1.5 時間	
4	講義内容	パブリックサービスとテクニカルサービス■								

	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。公共図書館の読書週間のイベントについて調べる。	1.5 時間
	1	復習	利用者への直接サービス(パブリックサービス)と、それを支える間接的な業務(テクニカルサービス)について理解する。図書館を利用し、確認してみる。	1.5 時間
5	講義内容	図書館員の倫理、コンプライアンス■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1	復習	図書館員の基本理念となる宣言等について、制定された社会的背景や意義、事例等を調べて図書館員のあるべき姿について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	公共図書館(存在意義とあるべき姿)■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。よく利用する公共図書館の読書週間の取組にについて調べる。	1.5 時間
	1,3	復習	公共図書館の存在意義とあるべき姿について、基本的な考え方を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	公共図書館(日本における公共図書館)■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。自分が興味・関心のある公共図書館について調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	近代公共図書館の変遷と、図書館改革の動きについて理解する。	1.5 時間
8	講義内容	各種図書館(国立図書館、学校図書館)■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,3	復習	国立国会図書館のサイトを実際に利用し、国立図書館としての機能と役割について理解する。また、学校図書館の意義について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	各種図書館(大学図書館、専門図書館)■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。大学図書館を事前に利用して概要を把握しておく。	1.5 時間
	1,3	復習	大学図書館の機能と役割について、体験を通して理解する。また、専門図書館、図書館類縁施設等の機能と役割について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	図書館の経営、連携・協力■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	図書館経営と図書館の連携・協力の種類及びプレゼンスの向上のための取組について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	図書館の職員と組織■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	図書館の職員(体制、職務、資質向上に関すること)及び図書館の組織構造について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	図書館の施設・設備■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義内容を参考にしながら、実際に公共図書館を訪問して施設・設備について調査し、理解する。	1.5 時間
13	講義内容	図書館に関連する機関・団体■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	図書館関連団体、出版・書店・取次の制度、その他の関連組織・団体等について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	最終レポートのプレゼンテーション及びディスカッション(発表に対する質問・意見・感想)		
	該当到達目標	予習	最終レポートを作成し、プレゼンテーションの準備をする。	2 時間

			最終レポートは事前に提出し、冊子を作成する。	
	1	復習	最終レポートについて各自がプレゼンテーションし、学生同士でディスカッションした結果を踏まえ、テーマについての理解をさらに深める。	1 時間
	講義内容	講義のまとめ		
15	該当到達目標	予習	教科書、配付資料、ノート等を確認し、自分の関心・疑問を整理し、疑問点や質問事項があれば講師に事前にメールで連絡する。	2 時間
	1,2,3	復習	図書館とは何かを自ら考え、論述できるようにする。	1 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	授業では、積極的に発言することを期待する。 できるだけ多くの図書館を訪ねたり、インターネットで検索したりして実際に体験してみること。 ※オンライン(オンデマンド)で授業を行う場合 ① 教材のデータを授業日の前日までに C-learning に配信する。 ② 配信された教材の内容を理解し、提示された課題のレポートを C-learning で提出する。 ③ 提出されたレポートについては、コメントをつけてフィードバックする。 ④ レポートの提出をもって「出席」とする。 ■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名		図書館制度・経営論(司書科目)						科目ナンバリング	—		
英文名		Introduction to Library Administration and Management						講義形態	講義		
担当教員		秋山 美和子									
科目に関連した実務経験		地方公務員(管理職)として公共図書館に勤務(経験)									
学年・開講期		2 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格		司書									
学位授与方針との対応		—	豊かな人間性と幅広い教養			—	コミュニケーションスキル				
		—	健康・医療及び情報に関する知識・技能			—	生涯学習力				
		—	問題解決力								
SDGs との関連		4									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○	○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 図書館職員となるための知識として、図書館に関する法律、自治体行政の制度・図書館政策について学ぶ。また、「図書館学は実学である」という視点に立ち、できる限り実際の図書館の状況を交えながら図書館経営の考え方、職員、施設・設備等の経営資源、サービス計画、調査と評価、管理形態等について解説する。 ② 授業は、参考資料も適宜配付しながら、授業毎に配付するレジュメに沿って進めていく。本講義では使用教材を指定しないが、参考文献として提示された資料については積極的に活用して学習を進めること。また、第 3 回～第 13 回講義では、講義内容に合わせたグループワークまたはディスカッションを行い、課題の提出を求める。									
到達目標		1. 図書館に関する法制度、自治体行政の制度・政策について理解する。■ 2. 図書館の理念を踏まえ、それが実際の図書館の運営にどのように反映されているか理解する。■ 3. 図書館職員の職務を学び、経営的な視点を身につける。■									
使用教材											
参考文献		糸賀雅児・葉袋秀樹編集『図書館制度・経営論』(樹村房) ISBN 978-4-88367-202-8 必要に応じて資料を配付 その他の参考文献は授業中に提示									
評価方法		最終レポート・プレゼンテーション 20%、課題 2 回 20%、授業への参加態度 60%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法		各授業終了時に学生から意見・感想・質問等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次回の授業で解説する。									
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。				メールアドレス (#→@)	メールアドレスは初回授業時に提示する。				
1	講義内容	ガイダンス(授業の進め方、評価方法)、図書館における制度と経営									
	該当到達目標 1	予習	シラバスを読み、本講義の実施概要、到達目標、評価方法等を確認する。							1 時間	
		復習	講義の実施概要、到達目標、評価方法等を理解し、自分なりの学習計画を立てる。図書館における制度と経営を学ぶ必要性を理解する。							2 時間	
2	講義内容	図書館制度の概観■									
	該当到達目標 1	予習	事前に配付する資料を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。							1.5 時間	
		復習	図書館関係法規の体系等を理解する。							1.5 時間	
3	講義内容	図書館に関する法制度(日本国憲法、教育基本法、社会教育法)									

	該当到達目標	予習	日本国憲法の基本的人権に関する条文及び教育基本法、社会教育法を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1	復習	各法律と図書館法との関係を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	図書館に関する法制度(図書館法)■		
	該当到達目標	予習	図書館法を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1	復習	図書館関係法規と図書館法の関係について確認し、図書館の役割と機能について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	図書館に関する法制度(学校図書館法、大学設置基準)■		
	該当到達目標	予習	学校図書館法、大学設置基準の図書館該当箇所等について読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1	復習	公共図書館以外のお館種の法律について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	読書活動に関する法制度(子ども読書活動推進法・文字活字文化振興法)■		
	該当到達目標	予習	事前に配付する資料を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2	復習	子供の読書活動の推進に関する法規等の成立過程及びその意義を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	図書館サービス及び経営関係の法制度		
	該当到達目標	予習	事前に配付する資料を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2	復習	図書館サービスや経営に関連した法規(著作権法など)を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	国・地方自治体の図書館政策■		
	該当到達目標	予習	事前に配付する資料を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2	復習	国の図書館政策として主な基準・答申・報告及び地方公共団体の図書館政策について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	図書館の公共性■		
	該当到達目標	予習	地元の図書館の概要について調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	図書館の公共性と経営について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	図書館と書店■		
	該当到達目標	予習	事前に配付する資料を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	館種ごとの経営論及びガバナンスについて理解する。	1.5 時間
11	講義内容	図書館の組織と職員■		
	該当到達目標	予習	事前に配付する資料を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	図書館を運営していくための組織、職員体制、職員の役割について理解する。また、図書館ボランティアの活動についても調べてみる。	1.5 時間
12	講義内容	図書館の財政・予算・マーケティング・経営評価■		
	該当到達目標	予習	事前に配付する資料を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	図書館経営を可能にする予算確保の方法、マーケティング、経営評価の目的、方法、課題について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	図書館の管理形態の多様化■		
	該当到達目標	予習	指定管理者制度について資料を読み、地元自治体の公共図書館の管理形態について調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	図書館の管理形態の多様化により、図書館サービスがどのように変化したか、そのメリット・デメリットについて理解する。	1.5 時間
14	講義内容	最終レポートのプレゼンテーション及びディスカッション(発表に対する質問・意見・感想)		
	該当到達目標	予習	最終レポートを作成し、発表の準備をする。	2 時間

	1,2,3	復習	最終レポートについて各自がプレゼンテーションし、学生同士でディスカッションした結果を踏まえ、テーマについての理解をさらに深める。	1 時間
15	講義内容	講義のまとめ		
	該当到達目標	予習	教科書、配付資料、ノート等を確認し、自分の関心・疑問を整理し、疑問点や質問事項があれば講師にメールで連絡する。	2 時間
	1,2,3	復習	図書館の制度・経営論について自ら考え、論述できるようにする。	1 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	授業では、積極的に発言することを期待する。 できるだけ多くの図書館を訪ねたり、インターネットで検索したりして実際に体験してみること。 ※オンライン(オンデマンド)で授業を行う場合 ① 教材のデータを授業日の前日までに C-learning に配信する。 ② 配信された教材の内容を理解し、提示された課題のレポートを C-learning で提出する。 ③ 提出されたレポートについては、コメントをつけてフィードバックする。 ④ レポートの提出をもって「出席」とする。 ■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名	図書館情報技術論(司書科目)						科目ナンバリング	—		
英文名	Introduction to Library Service Technology						講義形態	講義		
担当教員	田村 拓郎									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年	前期	選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする資格	司書									
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と幅広い教養				—	コミュニケーションスキル			
	—	健康・医療および情報に関する知識・技能				—	生涯学習力			
	—	問題解決力								
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○			○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 近年の情報機器の多様化や進歩には目覚ましいものがある。図書館においても CD、DVD、コンピュータソフトなどの多様なメディアやコンピュータに代表される各種の情報機器が整備されてきている。また、これらの図書館資料にネットワーク情報資源を加えて、図書館情報資源としてとらえる必要がある。図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説し、利用法について学修する。 ② 授業では、教員が各回の内容を教材や実演を通じて説明し、学生は指示された課題を実施しファイルにまとめて提出する。									
到達目標	1. 図書館業務やサービスに必要な、情報機器やコンピュータシステムの知識を習得できる。 2. 実際にコンピュータ等を利用し検索などができる。									
使用教材	『図書館情報技術論』 二村健・齋藤ひとみ 編著 学文社 2012 年									
参考文献										
評価方法	課題提出状況(70%)、学習姿勢(30%)で評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題発表を行い、受講生同士の質疑応答を行なう。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3, 4 限 (研究室 1 号館 6 階 604)				メールアドレス (#→@)		tamura-t#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	講義全体のガイダンス								
	該当到達目標	予習	シラバスを確認しておく。						0 時間	
	1	復習	講義内容・到達目標・学位授与方針・成績評価方法などを理解する。						0.5 時間	
2	講義内容	コンピュータとネットワークの基礎								
	該当到達目標	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。						0.5 時間	
	1	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。						2 時間	
3	講義内容	LAN の構成、プロトコル								
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。						1 時間	
	1	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。						2 時間	

4	講義内容	コンピュータシステムの管理		
	該当到達目標	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	0.5 時間
	1	復習	授業の課題の再確認を行い、発表の準備をする。	1 時間
5	講義内容	データベースの仕組み		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
6	講義内容	図書館業務システムの仕組み		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1,2	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
7	講義内容	図書館における情報技術活用の現状		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1,2	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
8	講義内容	電子資料		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1,2	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
9	講義内容	電子資料の管理技術		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
10	講義内容	電子図書館とデジタルアーカイブ		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1,2	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
11	講義内容	情報技術と社会		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1,2	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
12	講義内容	インターネットと図書館		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1,2	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
13	講義内容	最新の情報技術と図書館		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
14	講義内容	Web2.0 と Library2.0		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1,2	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
15	講義内容	展望、まとめ		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1,2	復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	4 時間
合計時間(予習・復習)				42.5 時間
備考	予習・復習の時間は参考程度であり、自らの習熟状況をふまえ各自で補完すること。			

科目名	図書館サービス概論(司書科目)						科目ナンバリング	—		
英文名	Introduction to Library Services						講義形態	講義		
担当教員	太田 克子									
科目に関連した実務経験	司書として県立図書館(公共図書館)に勤務(経験)、学校司書として県立高校(学校図書館)に勤務(経験)、県総合教育センターにて教育専門図書館を担当(経験)									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格	司書									
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と幅広い教養			—	コミュニケーションスキル				
	—	健康・医療および情報に関する知識・技能			—	生涯学習力				
	—	問題解決力								
SDGs との関連	③ ④									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 図書館サービスの考え方と構造の理解を図る。そのサービスを担ってきた歴史的経緯や背景を理解し、現在取り組まれている各種サービス、著作権、接遇・コミュニケーション等の基本を、様々な事例を通して理解し今後の図書館が果たしていくサービスを考察する。 ② 授業は、教科書とパワーポイントにより説明し、グループワークで意見交換をする。また、課題についても学生によるプレゼンテーションののち、意見交換をする。									
到達目標	1. 公立図書館が行っているサービスの意義を理解する■ 2. 図書館サービスの歴史的経緯と背景を理解する■ 3. 各種サービス、著作権などの基本を理解する■									
使用教材	『図書館サービス概論』 高山 正也・村上篤太郎 編著 樹村房 2019 年 2000 円									
参考文献	『図書館情報学基礎資料』今まどり・小山 憲司編著 樹村房 第 3 版 2021 年 1000 円 『図書館のめざすもの』 竹内愼著 日本図書館協会 2014 年 『生きるための図書館』(岩波新書) 竹内愼著 岩波書店 2019 年 780 円									
評価方法	試験 50% 課題・確認テスト 50% 総合評価 60%以上を合格とする									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出課題にコメント等を付けて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	木 2 限(研究室 1 号館 5 階 509)				メールアドレス (#→@)	ota-y#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス 図書館サービスの意義と理念								
	該当到達目標 1	予習	教科書 p i ～pviiiを読んでおく。						1.5 時間	
		復習	「図書館のめざすもの」を理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	図書館サービスの意義と理念								
	該当到達目標 1	予習	教科書 p1～p20 を読んでおく。						1.5 時間	
		復習	「図書館員の倫理綱」「図書館の自由に関する宣言」を理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	公共図書館サービスの変遷								
	該当到達目標 1,2	予習	教科 p21～p51 を読んでおく。						1.5 時間	
		復習	『市民の図書館』と日野市立図書館について調べる。						1.5 時間	
4	講義内容	課題発表とグループワーク								

	該当到達目標	予習	図書館や図書館資料などが意図的に破壊された事例を調べ、PowerPoint にまとめる。	2.5 時間
	1,2	復習	振り返りシートに回答する。	0.5 時間
5	講義内容	図書館サービスとコンプライアンス		
	該当到達目標	予習	教科書 p52～p67 を読んでおくこと。図書館において予想される著作権に関する問題を考えてくる。	2.5 時間
	3	復習	振り返りシートに回答する。	0.5 時間
6	講義内容	資料提供サービス 相互貸借の実際■		
	該当到達目標	予習	教科書 p58～p79 を読んでおくこと。	1.5 時間
	3	復習	特徴ある図書館サービスを(日本)を調べ、PowerPoint にまとめる。	1.5 時間
7	講義内容	図書館サービスの観点から図書館(日本)を紹介し合いグループワークを行う。■		
	該当到達目標	予習	特徴ある図書館サービスを(日本)を調べ、PowerPoint にまとめる。	1.5 時間
	3	復習	振り返りシートに回答する。	1.5 時間
8	講義内容	資料提供サービス■		
	該当到達目標	予習	教科書 p68～p88 を読んでおく。	1.5 時間
	3	復習	「図書館利用券」の種類を調べる。	1.5 時間
9	講義内容	情報提供サービス■ 図書館サービスの協力と連携■		
	該当到達目標	予習	教科書 p89～p118 を読んでおく。	1.5 時間
	3	復習	大学の電子書籍の利用を体験してレポートする。	0.5 時間
10	講義内容	図書館サービスの観点から図書館(世界)を紹介し合いグループワークを行う。■		
	該当到達目標	予習	特徴ある図書館サービスを(世界)を調べ、PowerPoint にまとめる。	2.5 時間
	3	復習	「公貸権」について調べる。振り返りシートに回答する。	1.5 時間
11	講義内容	課題解決支援サービス■		
	該当到達目標	予習	教科書 p119～p137 を読んでおく。	1.5 時間
	3	復習	課題解決サービスを企画して提出する(対象者とサービス内容)。	1.5 時間
12	講義内容	図書館利用に障害のある人へのサービス・超高齢社会における図書館高齢者サービス■		
	該当到達目標	予習	教科書 p128～p181 を読んでおく。	1.5 時間
	3	復習	NY 公共図書館について、図書館サービスの観点からレポートを作成する。	1.5 時間
13	講義内容	ニューヨーク公共図書館を図書館サービスの観点から、発表とグループワーク		
	該当到達目標	予習	NY 公共図書館について、図書館サービスの観点からレポートを作成する。	2.5 時間
	2,3	復習	振り返りシートに回答する。	0.5 時間
14	講義内容	利用者とのコミュニケーション■ 図書館サービスの課題と展望 ■		
	該当到達目標	予習	教科書 p182～p195 を読んでおく。	1.5 時間
	1,3	復習	図書館サービスを踏まえ、「図書館のキャッチコピー」を考える。	1.5 時間
15	講義内容	図書館サービスと図書館員の心得 まとめ		
	該当到達目標	予習	指定管理者制度と直営図書館について調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	市民にとっての図書館サービスを考え、振り返りシートに回答する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	情報サービス論(司書科目)							科目ナンバリング	—	
英文名	Introduction to Information Services							講義形態	講義	
担当教員	太田 克子									
科目に関連した実務経験	司書として県立図書館に勤務(経験)、学校司書として県立高校に勤務(経験) 司書として県総合教育センターにて教育専門図書館を担当(経験)									
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格	司書									
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と幅広い教養				—	コミュニケーションスキル			
	—	健康・医療および情報に関する知識・技能				—	生涯学習力			
	—	問題解決力								
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ② 講義の実施方法	① 図書館における情報サービスの意義を理解し、情報サービスの種類と方法、情報資源、図書館利用教育、発信型情報サービスを理解する。 ② 授業は、教科書とパワーポイントにより説明する。扱う内容により実際の情報サービスを想定してグループワークを行い、課題発表ののち意見交換する。									
到達目標	1. 図書館における情報サービスの意義を理解する■ 2. 情報サービスの種類と内容を理解する■ 3. 各種情報源の特徴と利用法を理解する■ 4. レファレンスサービスの実際を理解する■ 5. 図書館利用教育や発信型情報サービスの意義を理解する■									
使用教材	『情報サービス論』竹之内禎編著 学文社 2013 年									
参考文献	『情報サービス論』 山口真也[ほか]編著 ミネルヴァ書房 2018 年 『情報サービス論』山崎久道編 樹村房 2019 年 『夜明けの図書館 1～5』 埜納タオ著 双葉社 2011 年～2017 年 『レファレンスサービス』 長澤雅男著 丸善 1995 年									
評価方法	筆記試験 50% 課題・授業貢献度等 50% 総合評価 60%以上を合格とする									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題にコメントを付けて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	木 2 限(研究室 1 号館 5 階 509)				メールアドレス (#→@)	ota-y#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス 情報社会と図書館の情報サービス								
	該当到達目標	予習	教科書 p1～p11 を読んでおく。							1.5 時間
	1	復習	価値ある「情報サービス」の例を考える。							1.5 時間
2	講義内容	図書館における情報サービスの種類								
	該当到達目標	予習	教科書 p12～p17 を読んでおく。							1.5 時間
	1,2	復習	情報サービスの直接サービスと間接サービスを理解する。							1.5 時間
3	講義内容	図書館における情報サービスの理論的展開								
	該当到達目標	予習	教科書 p18～p23 を読んでおく。							1.5 時間

	1,2	復習	保守理論、自由理論を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	レファレンスサービスの理論と実践■		
	該当到達目標	予習	教科書 p24～p31 を読んでおく。	1.5 時間
	2,4	復習	参考業務の業務構成と参考質問の類型を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	レファレンスサービスの実際■		
	該当到達目標	予習	教科書 p32～p37 を読んでおく。	1.5 時間
	2,4	復習	レファレンスインタビューにおけるコーチングの技法を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	情報検索サービスの理論と方法■		
	該当到達目標	予習	教科書 p38～p43 を読んでおく。	1.5 時間
	2	復習	検索における精度と再現率を理解する。自由語検索と統制語検索を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	各種情報資源の特質と利用法(1)■		
	該当到達目標	予習	教科書 p44～p51 を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	情報メディア・文献調査の種類と特性を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	各種情報資源の特質と利用法(2)■		
	該当到達目標	予習	教科書 p52～p57 を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	論文・記事調査の種類と特性を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	各種情報資源の特質と利用法(3)■		
	該当到達目標	予習	教科書 p58～p63 を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	事項・事実調査の種類と特性を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	各種情報源の評価と解説■		
	該当到達目標	予習	教科書 p64～p71 を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	各自図書館に赴き、レファレンスツールを確認する。	1.5 時間
11	講義内容	各種情報源の組織化■		
	該当到達目標	予習	教科書 p72～p77 を読んでおく。	1.5 時間
	3	復習	Web 上の情報源の組織化を理解する。次世代 OPAC の特徴を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	発信型情報サービスの意義と方法■		
	該当到達目標	予習	教科書 p78～p85 を読んでおく。	1.5 時間
	3	復習	発信型情報サービスの種類と特性を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	情報サービスにかかわる知的財産権の基礎知識■		
	該当到達目標	予習	教科書 p86～p91 を読んでおく。	1.5 時間
	4,5	復習	発信型情報サービスの種類を理解する	1.5 時間
14	講義内容	図書館利用教育と情報リテラシーの育成■		
	該当到達目標	予習	教科書 p92～p97 を読んでおく。	1.5 時間
	2,5	復習	公共図書館における図書館利用教育と情報リテラシー育成を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	展望 これからの情報サービス担当者としての役割		
	該当到達目標	予習	教科書 p98～p104 を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,4,5	復習	レファレンスサービスと利用者サービスの担当者の条件を確認する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		児童サービス論(司書科目)						科目 ナンバリング		—	
英文名		Library Service for Children						講義形態		講義	
担当教員		小柳 聡美									
科目に関連した 実務経験		学校図書館司書として公立小中学校に勤務(現在) 教務職員として進学塾に勤務(経験)									
学年・開講期		2 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする 資格		司書									
学位授与方針 との対応		—	豊かな人間性と幅広い教養				—	コミュニケーションスキル			
		—	健康・医療および情報に関する知識・技能				—	生涯学習力			
		—	問題解決力								
SDGs との関連		③④									
アクティブラーニング 実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
						○				○	
「その他」のアクティブ ラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 児童サービス(対象は乳幼児からヤングアダルトまで)の概要と意義、担当者の専門的職務、歴史的変遷と発展内容、児童資料の特色と選択、発達と学習への「読書」の役割、児童コレクションの形成と管理、さらにヤングアダルトサービスの概要と資料の特色を認識する。 ② 生涯学習の一環としての児童サービスの重要性を理解するとともに、どのようにすれば子ども達に読書の楽しさと喜びを伝えられるかについて学ぶ科目です。特に各自がオリジナルの図書館案内を作成することによって、児童サービスの内容を認識でき、キャリアプランへの構築へと繋がります。									
到達目標		1. 公共図書館における児童サービスの重要性を理解する。 2. 児童資料の類型について理解し、選択・評価できる。 3. 公共図書館を利用する児童のニーズを理解し、対応できる能力を身につける。■ 4. 子どもと本を結びつけることの重要性を理解し、援助できる。									
使用教材		『児童サービス論 新訂版』JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ6 堀川照代 編著 (日本図書館協会) ISBN9784820419099									
参考文献		『児童サービス論』JAL 図書館情報学テキストシリーズⅢ6 堀川照代 編著(日本図書館協会) ISBN9784820413158									
評価方法		筆記試験 60%、オリジナル図書館案内(児童向け)の作成及び読み聞かせ発表 30%、授業への参加 態度 10%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。なお詳しい評価基準は、初回講義時に提示する。									
課題・評価に対する フィードバック方法		提出物は講義内で発表時間を設け、講評する。 筆記試験の意図は、第 1 回の講義で説明する。									
オフィスアワー (研究室)		質問には講義開始前もしくは終了後に 教室等で応じます。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回に提示します。			
1	講義内容	児童サービスの概要と意義									
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。 なぜ司書資格を取得しようと考えたか、という点を交えて自己紹介が出来るよう にしておく。							1.5 時間	

	1	復習	教科書 p.9～p.18 を読む。	1.5 時間
2	講義内容	児童サービス担当者の専門的職務		
	該当到達目標	予習	教科書 p.19～p.35 に目を通す。	1.5 時間
	1	復習	児童サービス担当者の専門性を理解する。 教科書 p.254～p.261 を読む。	1.5 時間
3	講義内容	児童資料の類型		
	該当到達目標	予習	教科書 p.36～p.38 に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	児童資料の形態と内容を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	児童資料の特色と選択 1 絵本の種類とグレード		
	該当到達目標	予習	教科書 p.39～p.44 に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	学んだ種類の絵本を、図書館等で探し、読む。	1.5 時間
5	講義内容	児童資料の特色と選択 2 児童文学・創作児童文学、昔話・伝承文学、詩		
	該当到達目標	予習	教科書 p.45～p.54 に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	紹介された作品の中から 1 作品を選び、読む。	1.5 時間
6	講義内容	児童資料の特色と選択 3 ノンフィクション、レファレンスブック		
	該当到達目標	予習	教科書 p.55～p.75 に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	レファレンスブックとは何か理解する。 図書館においてレファレンスブックの位置を確認する。	1.5 時間
7	講義内容	児童資料の特色と選択 4 児童資料の出版と流通		
	該当到達目標	予習	児童資料に限らず、現在の出版と流通について調べておく。	1.5 時間
	1,2	復習	児童資料の出版と流通について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	児童資料の特色と選択 5 児童コレクションの形成と評価		
	該当到達目標	予習	教科書 p.76～p.88 に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	児童コレクションの形成について理解し、評価できるようにする。	1.5 時間
9	講義内容	児童サービスの業務 1 資料提供サービス		
	該当到達目標	予習	教科書の p.89～p.94 に目を通す。	1.5 時間
	1,3,4	復習	資料提供サービスについて理解する。	1.5 時間
10	講義内容	児童サービスの業務 2 情報サービス		
	該当到達目標	予習	教科書の p.95～p.100 に目を通す。	1.5 時間
	1,3	復習	情報サービスについて理解する。	1.5 時間
11	講義内容	児童サービスの業務 3 乳幼児サービス		
	該当到達目標	予習	教科書の p.173～p.185 に目を通す。	1.5 時間
	1,3	復習	乳幼児サービスについて理解する。	1.5 時間
12	講義内容	児童サービスの方法・技術(読み聞かせとストーリーテリング)■		
	該当到達目標	予習	教科書の p.154～p.177 に目を通す。	1.5 時間
	1,3,4	復習	次週、読み聞かせの実践で使用する絵本(1～3 冊)と、ストーリーテリングしてみたい作品を選ぶ。	1.5 時間
13	講義内容	絵本読み聞かせ指導■		
	該当到達目標	予習	選んだ絵本、作品を読む練習をする。	1.5 時間
	1,4	復習	読み聞かせの方法について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	ヤングアダルトサービスの概要と資料の特色		
	該当到達目標	予習	教科書 p.186～p.204 に目を通す。	1.5 時間
	1,3	復習	ヤングアダルトサービスとは何か理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ 児童サービス対象者向けオリジナル図書館案内の提出・発表		

	該当到達目標	予習	図書館案内の作成。	1.5 時間
	1,3	復習	全講義の振り返り。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	可能であれば近隣の公共図書館を訪問し、現在の児童サービスの現状を実際に見聞すること。 基本的にはシラバスの順序に従って教科書を用い、講師オリジナルの内容説明資料や読み聞かせ実践資料を配信する。連絡・相談にも随時応じる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		情報サービス演習(司書科目)						科目ナンバリング	—		
英文名		Practicum of Information Retrieval						講義形態	講義		
担当教員		太田 克子、田村 拓郎									
科目に関連した実務経験		(太田)司書として県立図書館に勤務(経験)、学校司書として県立高校に勤務(経験) 司書として県総合教育センターにて教育専門図書館を担当(経験)									
学年・開講期		3 年 通年		選必・単位数		選択 4 単位					
履修を必須とする資格		司書									
学位授与方針との対応		—	豊かな人間性と幅広い教養				—	コミュニケーションスキル			
		—	健康・医療および情報に関する知識・技能				—	生涯学習力			
		—	問題解決力								
SDGs との関連		③ ④									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○	○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 「情報サービス論」の理論を基に情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、利用者の質問に対する情報サービス、発信型情報サービスの演習を通して実践的な能力を養成する。 ② 授業は教科書とパワーポイントを使って説明し、その内容についての課題を実習する。毎回、学生は課されたレファレンスワーク及び情報源の評価をグループワークで共有、意見を行う。ほかに、学生は課された制作物のプレゼンテーションを行い、意見交換をする。この過程を通して利用者の立場に立った情報ニーズや図書館のあり方を考える。									
到達目標		1. 情報サービスの設計とレファレンスコレクションの構築等の準備を理解する。■ 2. 情報検索の技法を理解し、インターネット情報を活用する。■ 3. 質問に対する検索と回答(質問分析と情報源の選択)をする。■ 4. レファレンス質問をめぐる図書館利用者とのコミュニケーションを想定する。■ 5. 発信型情報サービスを行う。■ 6. 情報サービスの評価を行う。■									
使用教材		情報サービス演習(現代図書館情報学シリーズ 7)三訂 2021 年									
参考文献		(太田)『レファレンスブックス』 長澤雅男・石黒祐子共著 日本図書館協会 2016									
評価方法		(太田)課題 3 回 30%、毎回の課題・授業貢献度 70% (田村)毎回の課題 80%、講義中の質疑応答等 20% 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法		(太田)課題にコメントをつけて返却する (田村)課題発表を行い、受講生も含めた質疑応答等を行う									
オフィスアワー (研究室)		(太田) 木 2 限(研究室 1 号館 5 階 509) (田村) 月曜日 4,5 限(研究室 1 号館 6 階 604)				メールアドレス (#→@)		(太田)ota-y#takasaki-u.ac.jp (田村)tamura-t#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス 情報サービスの設計と評価から準備まで■									
	該当到達目標 1	予習	教科書 P2~P21 を読む。							1.5 時間	
		復習	P24 例題 1 と P27 の例題 2 を検索して確認する。							1.5 時間	
2	講義内容	情報資源の探し方■・レファレンス記録の書き方■									
	該当到達目標	予習	P34~P41 を読む。							1.5 時間	

	2	復習	P40 の図書館のリンク集を確認する。	1.5 時間
3	講義内容	Web ページ・Web サイトの探し方■		
	該当到達目標	予習	P42～P52 を読む。	1.5 時間
	2	復習	POP を作成する。	1.5 時間
4	講義内容	プレゼンテーション(POP)■・図書情報の探し方・雑誌及び雑誌記事の探し方■		
	該当到達目標	予習	POP を作成する。	3 時間
	2,3,4,5	復習		0 時間
5	講義内容	新聞記事の探し方■		
	該当到達目標	予習	P86～P95 を読む。	1.5 時間
	2,3,4	復習	P94 の例題を確認する。	1.5 時間
6	講義内容	言葉・事柄・統計の探し方■		
	該当到達目標	予習	P96～P116 を読む。	1.5 時間
	2,3,4	復習	P100 の例題を確認する。	1.5 時間
7	講義内容	歴史・日時の探し方■		
	該当到達目標	予習	P117～P126 を読む。	1.5 時間
	2,3,4	復習	本の紹介を作成する。	1.5 時間
8	講義内容	テーマを決めて本の紹介をしよう■		
	該当到達目標	予習	本の紹介を作成する	3 時間
	5	復習		0 時間
9	講義内容	地理・地名・地図の探し方■		
	該当到達目標	予習	P127～P133 を読む。	1.5 時間
	2,3,4	復習	課題を解いて提出する。	1.5 時間
10	講義内容	人物・企業・団体の探し方■		
	該当到達目標	予習	P134～P148 を読む。	1.5 時間
	2,3,4	復習	P140 の例題を確認する。	1.5 時間
11	講義内容	レファレンスインタビューの準備と実演■		
	該当到達目標	予習	レファレンスインタビューのストーリーを考えレファレンスブックを選択する。	1.5 時間
	2,3,4,6	復習	実際のレファレンスインタビューを想定して動画または PowerPoint を作成	1.5 時間
12	講義内容	プレゼンテーション(レファレンスインタビュー)■		
	該当到達目標	予習	レファレンスインタビューの動画または PowerPoint で作成提出。発表練習。	3 時間
	2,3,4,6	復習		0 時間
13	講義内容	法令・判例・特許の探し方■		
	該当到達目標	予習	P149～p169 を読んでおく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	P151 の例題を確認する。	1.5 時間
14	講義内容	レファレンスコレクションの整備■		
	該当到達目標	予習	課されたレファレンスブックの評価を行う。	1 時間
	1,6	復習	パスファインダーを作成する。	2 時間
15	講義内容	発信型情報サービスの構築と維持管理■プレゼンテーション(パスファインダー)		
	該当到達目標	予習	パスファインダーを作成する。	3 時間
	2,3,4,5,6	復習		0 時間
16	講義内容	ガイダンス 後期講義説明		
	該当到達目標	予習	特になし	0 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
17	講義内容	Web 検索の概要		
	該当到達目標	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
	1,2	復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
18	講義内容	Web による情報の収集 1		

	該当到達目標 1,2	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
		復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
19	講義内容	Web による情報の収集 2		
	該当到達目標 1,2	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
		復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
20	講義内容	Web による情報の収集 3		
	該当到達目標 1,2	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
		復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
21	講義内容	論文検索の概要		
	該当到達目標 1,2	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
		復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
22	講義内容	論文検索		
	該当到達目標 1,2	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
		復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
23	講義内容	論文検索の実際 1		
	該当到達目標 1,2	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
		復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
24	講義内容	論文検索の実際 2		
	該当到達目標 1,2	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
		復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
25	講義内容	論文検索の実際 3		
	該当到達目標 1,2	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
		復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
26	講義内容	論文検索のまとめ 1		
	該当到達目標 1,2	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
		復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
27	講義内容	論文検索のまとめ 2		
	該当到達目標 1,2	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
		復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
28	講義内容	情報サービスの現状		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
		復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
29	講義内容	新しい発信型情報サービス		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
		復習	授業の課題を行い、発表資料の作成を行う。	2 時間
30	講義内容	講義のまとめ		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	課題の発表の準備をする。	1 時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	3 時間
合計時間(予習・復習)				90 時間
備考	この科目は「情報サービス論」を履修していなければ受講できません この科目は課題提出等で基本的なパソコンの操作が必要です。各自で習得しておいてください。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	図書館情報資源概論(司書科目)							科目ナンバリング	—	
英文名	Introduction to Library Information Resources							講義形態	講義	
担当教員	小柳 聡美									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年 前期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする資格	司書									
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と幅広い教養				—	コミュニケーションスキル			
	—	健康・医療および情報に関する知識・技能				—	生涯学習力			
	—	問題解決力								
SDGs との関連	③ ④									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 高度情報化社会の進展に伴い、図書館環境も大きく変わりつつある。ここでは、印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源について、類型と特質、選択・収集・保存等、図書館業務に必要な情報資源に関する知識の基本について理解できることを目標にする。 ② 授業では、テキストを単元ごとに読解し要約する。随時、図書館に関連する資料やニュースを紹介していく。									
到達目標	1. 多様化する図書館情報資源(印刷メディア)の有効活用を考えることができる。 2. 多様化する図書館情報資源(非印刷メディア)の有効活用を考えることができる。 3. 多様化する図書館情報資源(電子メディア)の有効活用を考えることができる。									
使用教材	『図書館情報資源概論 新訂版』JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ8 馬場俊明 編著 (日本図書館協会) ISBN9784820418085									
参考文献										
評価方法	筆記試験 60%、授業時間内発表及び提出物 30%、授業参加態度 10%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。なお詳しい評価基準は、初回講義時に提示する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出物は講義内で発表時間を設け、講評する。 筆記試験の意図は、第 1 回の講義で説明する。									
オフィスアワー (研究室)	質問には講義開始前もしくは終了後に 教室等で応じる。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回に提示する。			
1	講義内容	図書館情報資源概論について								
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで、講義の目標などを理解する。						1.5 時間	
	1,2,3	復習	UNIT 0 を読み、図書館情報資源概論の学習計画を立てる。						1.5 時間	
2	講義内容	図書館情報資源の意義								
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT 1～4 に目を通す。						1.5 時間	
	1,2,3	復習	図書館情報資源の定義と類型について理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	印刷資料の類型と特質 1								
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT 5 に目を通す。						1.5 時間	
	1	復習	図書の特質を理解する。						1.5 時間	
4	講義内容	印刷資料の類型と特質 2								

	該当到達目標	予習	教科書の UNIT 6～8 に目を通す。		1.5 時間
	3	復習	雑誌・新聞等の特質を理解する。		1.5 時間
5	講義内容	非印刷資料の類型と特質			
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT 9～12 に目を通す。		1.5 時間
	3	復習	各資料の特質を理解する。		1.5 時間
6	講義内容	電子資料の類型と特質			
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT 13～17 に目を通す。		1.5 時間
	3	復習	電子メディアの特質を理解する。		1.5 時間
7	講義内容	図書館情報資源と図書館の自由			
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT 27～30 に目を通す。		1.5 時間
	1,2	復習	表現の自由と検閲の問題を理解する。		1.5 時間
8	講義内容	蔵書論			
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT 31 に目を通す。		1.5 時間
	1,2	復習	蔵書の概念について理解する。		1.5 時間
9	講義内容	蔵書論			
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT 32～34 に目を通す。		1.5 時間
	1,2	復習	蔵書の収集方針から更新までについて理解する。		1.5 時間
10	講義内容	収集と選択			
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT 35 に目を通す。		1.5 時間
	1,2	復習	選書の意義について理解する。		1.5 時間
11	講義内容	収集と選択			
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT 36～38 に目を通す。		1.5 時間
	3	復習	様々な選書論について理解する。		1.5 時間
12	講義内容	蔵書管理			
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT 39～43 に目を通す。		1.5 時間
	1,2,3	復習	蔵書評価ができるように、基本知識を身につける。		1.5 時間
13	講義内容	資料の組織化			
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT 44～47 に目を通す。		1.5 時間
	1,2,3	復習	資料組織化のための業務について理解する。		1.5 時間
14	講義内容	書庫管理			
	該当到達目標	予習	教科書の UNIT 48～50 に目を通す。		1.5 時間
	1,2,3	復習	蔵書点検の意義について理解する。		1.5 時間
15	講義内容	まとめ・学習の整理と展望			
	該当到達目標	予習	キーワードについて確認する。		1.5 時間
	1,2,3	復習	近未来の図書館構想も視野に入れて理解を深める。		1.5 時間
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	基本的にはシラバスの順序に従って教科書を用い、講師オリジナルの内容説明資料を配信する。連絡・相談にも随時応じる。				

科目名	情報資源組織論(司書科目)							科目 ナンバリング	—	
英文名	Introduction to Library Information Resources Organization							講義形態	講義	
担当教員	太田 克子									
科目に関連した 実務経験	司書として県立図書館に勤務(経験)、学校司書として県立高校に勤務(経験) 司書として県総合教育センターにて教育専門図書館を担当(経験)									
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする 資格	司書									
学位授与方針 との対応	—	豊かな人間性と幅広い教養				—	コミュニケーションスキル			
	—	健康・医療および情報に関する知識・技能				—	生涯学習力			
	—	問題解決力				—				
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○		○		○	
「その他」のアクティブ ラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 図書館情報資源(印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源など)の組織化の理論と 技術を理解する。 ② 授業は、教科書とパワーポイントを使って説明する。									
到達目標	1. 情報資源を組織化する意義と概念を理解する■ 2. 記述目録法と主題目録法(分類・件名)の基礎的知識を理解する■ 3. コンピュータ技術を利用した書誌コントロール,書誌データの活用法等を理解する■ 4. 多様な情報資源の組織化を理解する■									
使用教材	『情報資源組織論』 榎本裕希子[ほか]著 学文社 2019 年 1,900 円									
参考文献	『日本目録規則 2018 年版』 日本図書館協会 2018 年 『日本目録規則 1987 年版改訂 3 版』 日本図書館協会 2006 年 『日本十進分類法 新訂 10 版』 もりきよし原著 日本図書館協会 2015 年 『基本件名標目表 第 4 版』 日本図書館協会 1999 年									
評価方法	試験 70%、課題・確認テスト・授業貢献度等 30% 総合評価 60%以上を合格とする									
課題・評価に対する フィードバック方法	課題にコメントを付けて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	木 2 限(研究室 1 号館 5 階 509)				メールアドレス (#→@)		ota-y#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス 情報資源組織化の意義と理論								
	該当到達目標	予習	教科書 p1～p11 を読んでおくこと						1.5 時間	
	1	復習	授業の復習をする。						1.5 時間	
2	講義内容	書誌コントロールの標準化								
	該当到達目標	予習	教科書 p12～p17 を読んでおくこと						1.5 時間	
	3	復習	授業の復習をする。						1.5 時間	
3	講義内容	書誌記述法■								
	該当到達目標	予習	教科書 p18～p23 を読んでおくこと						1.5 時間	

	2	復習	授業の復習をする。	1.5 時間
4	講義内容	日本目録規則(1)■		
	該当到達目標	予習	教科書 p24～p29 を読んでおくこと	1.5 時間
	2	復習	授業の復習をする。	1.5 時間
5	講義内容	日本目録規則(2)■		
	該当到達目標	予習	教科書 p30～p35 を読んでおくこと	1.5 時間
	2	復習	次回小テストのため p1～p35 まで復習しておく。	1.5 時間
6	講義内容	主題分析の意義と考え方■		
	該当到達目標	予習	教科書 p38～p42 を読んでおくこと	1.5 時間
	2	復習	授業の復習をする。	1.5 時間
7	講義内容	主題分析と索引法■		
	該当到達目標	予習	教科書 p44～p49 を読んでおくこと	1.5 時間
	2	復習	授業の復習をする。	1.5 時間
8	講義内容	基本件名標目表■		
	該当到達目標	予習	教科書 p50～p55 を読んでおくこと	1.5 時間
	2	復習	授業の復習をする。	1.5 時間
9	講義内容	主題分析と分類法■		
	該当到達目標	予習	教科書 p56～p61 を読んでおくこと	1.5 時間
	2	復習	授業の復習をする。	1.5 時間
10	講義内容	日本十進分類法(1)■		
	該当到達目標	予習	教科書 p67～p69 を読んでおくこと	1.5 時間
	2	復習	授業の復習をする。	1.5 時間
11	講義内容	日本十進分類法(2)■		
	該当到達目標	予習	教科書 p67～p69 を読んでおくこと	1.5 時間
	2	復習	次回小テストのため p38～p69 まで復習しておく。	1.5 時間
12	講義内容	書誌情報の作成と流通■		
	該当到達目標	予習	教科書 p70～p74 を読んでおくこと	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業の復習をする。	1.5 時間
13	講義内容	書誌情報の提供■		
	該当到達目標	予習	教科書 p76～p80 を読んでおくこと	1.5 時間
	3,4	復習	授業の復習をする。	1.5 時間
14	講義内容	ネットワーク資源の組織化とメタデータ		
	該当到達目標	予習	教科書 p82～p86 を読んでおくこと	1.5 時間
	3,4	復習	授業の復習をする。	1.5 時間
15	講義内容	多様な情報資源の組織化■		
	該当到達目標	予習	教科書の p88～p92 を読んでおくこと	1.5 時間
	1,4	復習	授業の復習をする。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	情報資源組織演習(司書科目)							科目ナンバリング	—		
英文名	Library Information Resources Organization Practice							講義形態	講義		
担当教員	太田 克子										
科目に関連した実務経験	司書として県立図書館に勤務(経験)、学校司書として県立高校に勤務(経験) 司書として県総合教育センター教育専門図書館を担当(経験)										
学年・開講期	2 年 通年	選必・単位数	選択 4 単位								
履修を必須とする資格	司書										
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と幅広い教養				—	コミュニケーションスキル				
	—	健康・医療および情報に関する知識・技能				—	生涯学習力				
	—	問題解決力									
SDGs との関連	3 4										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
			○	○	○	○			○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 「情報資源組織論」の理論を基に情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。 ② 前半は、教科書を使って要点をまとめ説明する。後半は、学生に演習問題の解答を板書して発表してもらう。特に分類作業については、グループで主題分析の検討をしてもらい、その結果を説明してもらう。この過程を通して利用者の立場に立った資料・情報探索のニーズを考え、図書館のあり方を考える。										
到達目標	1. 『日本目録規則』に準拠し情報資源の書誌データの作成をする。■ 2. 見出し項目の排列をする。■ 3. 『日本十進分類法』と『基本件名標目表』に準拠し、主題分析と分類作業・統制語彙の適用を行う。■ 4. 『日本著者記号表』を理解し請求記号を付与する。■ 5. 書誌ユーティリティにおける目録作業とネットワーク情報資源のメタデータ作成を理解する。										
使用教材	『目録法キイノート』 宮沢厚雄著 樹村房 2016 年 1,500 円 『分類法キイノート』 宮沢厚雄著 樹村房 2019 年 1,500 円										
参考文献	『日本目録規則 2018 年版』 日本図書館協会 2018 年 『日本目録規則 1987 年版改訂 3 版』 日本図書館協会 2006 年 『日本十進分類法 新訂 10 版』 もりきよし原著 日本図書館協会 2015 年 『日本十進分類法 新訂 10 版簡易版』 もりきよし原編 日本図書館協会 2018 年 『基本件名標目表 第 4 版』 日本図書館協会 1999 年 『日本著者記号表』 もりきよし著 日本図書館協会 1985 年										
評価方法	試験 50% 小テスト・授業貢献度等 50% 総合評価 60%以上を合格										
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回の演習で質疑応答を行う。小テストを添削して返却する。										
オフィスアワー (研究室)	木 2 限(研究室 1 号館 5 階 509)				メールアドレス (#→@)		ota-y#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス 目録の意義 目録の種類■									
	該当到達目標 1	予習	教科書『目録法キイノート』の第 1 章を読む。							1.5 時間	
		復習	目録の種類と書誌の種類をまとめる。							1.5 時間	

2	講義内容	日本目録規則■		
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第2章を読んで演習問題を解く。	1.5 時間
	1	復習	書誌事項のエリアを把握する。記述の情報源の優先順を理解する。	1.5 時間
3	講義内容	タイトルと責任表示(1)■		
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第3章を読んで演習問題を解く。	2.5 時間
	1	復習	責任表示の役割の種類を理解する。	0.5 時間
4	講義内容	タイトルと責任表示(2)■		
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第4章を読んで演習問題を解く。	2.5 時間
	1	復習	部編名、別タイトル、複数作品を収録する図書の記述を理解する。	0.5 時間
5	講義内容	タイトルと責任表示に関する総合演習問題■		
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第5章の演習問題を解く。	3 時間
	1	復習		0 時間
6	講義内容	版表示、出版・頒布等の事項■		
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第6章を読んで演習問題を解く。	2.5 時間
	1	復習	版と刷、出版地の記述の規則を理解する。	0.5 時間
7	講義内容	形態、注記、ISBN■		
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第7章を読んで演習問題を解く。	2.5 時間
	1	復習	形態、注記の記述の規則を理解する。	0.5 時間
8	講義内容	単行書に関する総合演習問題■		
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第8章の演習問題を解く。	3 時間
	1	復習		0 時間
9	講義内容	書誌単位(1)■		
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第9章を読んで演習問題を解く。	2.5 時間
	1	復習	単行(基礎)単位と集合単位を理解する。	0.5 時間
10	講義内容	書誌単位(2)■		
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第10章を読んで演習問題を解く。	2.5 時間
	1	復習	シリーズものとセットものの違いを理解する。	0.5 時間
11	講義内容	3層の書誌階層(1) 構成単位の例■		
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第11章を読んで演習問題を解く。	2.5 時間
	1	復習	単行(基礎)単位、集合単位、構成単位の3層を理解する。	0.5 時間
12	講義内容	3層の書誌階層(2)■		
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第12章を読んで演習問題を解く。	2.5 時間
	1	復習	本シリーズと下位シリーズの構造を理解する。	0.5 時間
13	講義内容	書誌単位に関する総合演習問題 雑誌,灰色文献,郷土資料,地図の書誌記述■		
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第13章の演習問題を解く。	3 時間
	1	復習		0 時間
14	講義内容	目録法に関する総合演習問題 見出し項目の選出と編成■		
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第14・15章の演習問題を解く。	3 時間
	1,2	復習		0 時間
15	講義内容	見出し項目の選出と編成 書誌ユーティリティにおける目録作業■		
	該当到達目標	予習	教科書『目録法キイノート』の第15章の演習問題を解く。	1.5 時間
	2,5	復習	NACSIS-CATの目録作業を理解する。	1.5 時間
16	講義内容	分類記号の位置づけと日本十進分類法■		
	該当到達目標	予習	教科書『分類法キイノート』の第1・2章を読む。	1.5 時間

	3	復習	主要な図書館分類法を理解する。	1.5 時間
17	講義内容	主題分析 本表の見方と階層構造■		
	該当到達目標	予習	教科書『分類法キイノート』の第3章を読んで演習問題を解く。	2.5 時間
	3	復習	『日本十進分類表』(本表)の見方を理解する。	0.5 時間
18	講義内容	主題分析 主題の特定と相関関係■		
	該当到達目標	予習	教科書『分類法キイノート』の第4章を読んで演習問題を解く。	2.5 時間
	3	復習	分類記号付与の注意点を理解する。	0.5 時間
19	講義内容	補助表 形式区分■		
	該当到達目標	予習	教科書『分類法キイノート』の第5章を読んで演習問題を解く。	2.5 時間
	3	復習	形式区分を理解する。	0.5 時間
20	講義内容	補助表 地理区分・海洋区分■		
	該当到達目標	予習	教科書『分類法キイノート』の第6章を読んで演習問題を解く。	2.5 時間
	3	復習	地理区分・日本地方区分・海洋区分を理解する	0.5 時間
21	講義内容	補助表 言語区分・言語共通区分■		
	該当到達目標	予習	教科書『分類法キイノート』の第6章を読んで演習問題を解く。	2.5 時間
	3	復習	言語区分・言語共通区分を理解する。	0.5 時間
22	講義内容	補助表 文学共通区分・地域的論述の細区分・その他の固有補助表■		
	該当到達目標	予習	教科書『分類法キイノート』の第8章を読んで演習問題を解く。	2.5 時間
	3	復習	文学における日本の時代区分と海外の時代区分を理解する。	0.5 時間
23	講義内容	補助表に関する総合演習問題■		
	該当到達目標	予習	教科書『分類法キイノート』の第9章の演習問題を解く。	3 時間
	3	復習		0 時間
24	講義内容	分類規程 複数主題(対等と相互作用)■		
	該当到達目標	予習	教科書『分類法キイノート』の第10章を読んで演習問題を解く。	2.5 時間
	3	復習	分類規程 複数主題(対等と相互作用)を理解する。	0.5 時間
25	講義内容	分類規程 複数主題(重点処置)■		
	該当到達目標	予習	教科書『分類法キイノート』の第11章を読んで演習問題を解く。	2.5 時間
	3	復習	分類規程 複数主題(重点処置)を理解する。	0.5 時間
26	講義内容	分類規程 伝記■		
	該当到達目標	予習	教科書『分類法キイノート』の第12章を読んで演習問題を解く。	2.5 時間
	3	復習	分類規程 伝記を理解する。	0.5 時間
27	講義内容	分類規程に関する総合演習問題 館種による分類について■		
	該当到達目標	予習	教科書『分類法キイノート』の第13章の演習問題を解く。	2.5 時間
	3	復習	p.90 の分類法の心得 25 選を理解する。	0.5 時間
28	講義内容	分類法に関する総合演習問題■		
	該当到達目標	予習	教科書『分類法キイノート』の第14章の演習問題を解く。	3 時間
	3	復習		0 時間
29	講義内容	請求記号 ネットワーク情報資源のメタデータ作成■		
	該当到達目標	予習	最寄りの公共図書館に出向いて、所在記号や別置記号を見ておく。	1.5 時間
	4,5	復習	『日本著者記号表』の使用方法を理解する。 ネットワーク情報資源のメタデータ作成を理解する。	1.5 時間
30	講義内容	ネットワーク情報資源のメタデータ作成 まとめ		
	該当到達目標	予習	課題に従って J-STAGE を実際に検索する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	情報資源組織化の意義を再確認する。	1.5 時間

		合計時間(予習・復習)	90 時間
備考	この科目は「情報資源組織論」を履修していなければ受講できない。 『日本十進分類法第 10 版』第 2 区分表を必ず覚えてから受講すること。 各章の演習問題を解いて授業に臨むこと。 ■:実務経験に基づく内容を示す。		

科目名		図書館サービス特論(司書科目)						科目ナンバリング		—	
英文名		Lecture on Library Services						講義形態		講義	
担当教員		小柳 聡美									
科目に関連した実務経験		学校図書館司書として公立小中学校に勤務(現在) 教務職員として進学塾に勤務(経験)									
学年・開講期		3 年 後期		選必・単位数		選択 1 単位					
履修を必須とする資格		司書									
学位授与方針との対応		—	豊かな人間性と幅広い教養				—	コミュニケーションスキル			
		—	健康・医療および情報に関する知識・技能				—	生涯学習力			
		—	問題解決力								
SDGs との関連		③ ④									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○	○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 司書資格取得必修科目で学んだ内容を実際に司書業務の中に活かすには、カウンターサービス並びにフロアワークに必要なコミュニケーション能力を伸ばすことが不可欠である。特に日本人に固有なノンバーバル・コミュニケーションの理解と将来の超高齢化・少子化を考慮しながらのコミュニケーション能力の育成により、生涯学習としての図書館利用を促せるサービス環境の構築を目指す。 ② 第 2 回より、導入で前回の講義内容を 400 字にまとめて発表してもらう。									
到達目標		1. 対人業務に必要なコミュニケーション能力を学び、その能力を具体的に修得できる。■ 2. コミュニケーションの定義を正確に理解する。 3. 多種多様な利用者に対し、円滑なコミュニケーションが実現できる対応力を身につける。■									
使用教材		なし(講義内で適宜紹介)									
参考文献		『コミュニケーション学入門』大田信男(大修館書店) ISBN9784469211863									
評価方法		筆記試験 60%、授業時間内発表、及び提出物 30%、授業参加態度 10%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。なお詳しい評価基準は、初回講義時に提示する。									
課題・評価に対するフィードバック方法		提出物は講義内で発表時間を設け、講評する。 筆記試験の意図は、第 1 回の講義で説明する。									
オフィスアワー (研究室)		質問には講義開始前もしくは終了後に 教室等で応じます。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回に提示します。			
1	講義内容	コミュニケーションの必要性									
	該当到達目標 1,2	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。 なぜ司書資格を取得しようと考えたか、という点を交えて自己紹介が出来るようにしておく。							2 時間	
		復習	コミュニケーションとは何かを理解する。							2 時間	
2	講義内容	ノンバーバル・コミュニケーションのメッセージ性									
	該当到達目標 1,2	予習	ノンバーバル・コミュニケーションのメッセージ性について考える。							2 時間	
		復習	バーバル・コミュニケーション、ノンバーバル・コミュニケーションとは何か理解する。							2 時間	

3	講義内容	マス・コミュニケーションと社会			
	該当到達目標	予習	マス・コミュニケーションと社会について考える。	1.5 時間	
	1	復習	マス・コミュニケーション、マス・メディアとは何か理解する。	2 時間	
4	講義内容	若者文化とコミュニケーション			
	該当到達目標	予習	若者文化とコミュニケーションについて考える。	1.5 時間	
	1,3	復習	(現在「若者」である)自分にとっての若者文化とは何か考察する。	2 時間	
5	講義内容	図書館サービスとコミュニケーションの関係			
	該当到達目標	予習	図書館における自身の「コミュニケーション」体験について発表できるように準備しておく。	1.5 時間	
	1	復習	図書館において必要なコミュニケーションとは何か考察する。	1.5 時間	
6	講義内容	カウンターサービスとフロアワークの目的と意義■			
	該当到達目標	予習	カウンターサービスとフロアワークについて考える。	1.5 時間	
	1	復習	カウンターサービス、フロアワークとは何か、違いも含めて理解する。	1.5 時間	
7	講義内容	情報化の進展と図書館サービス			
	該当到達目標	予習	図書館サービスにおける情報の進展について考える。	2 時間	
	1	復習	図書館における情報化の必要性について理解する。	2 時間	
8	講義内容	「モノ」と「コト」に付けられた「名前」			
	該当到達目標	予習	なぜ「名前」をつけるのか、について考える。	2 時間	
	1	復習	全講義の振り返り。	2 時間	
合計時間(予習・復習)					29 時間
備考	キーワード:「ノンバーバル・コミュニケーション」「フロアワーク」「カウンターサービス」「生涯学習」 基本的にはシラバスの順序に従って教科書を用い、講師オリジナルの内容説明資料を配信する。連絡・相談にも随時応じる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	図書館情報資源特論(司書科目)							科目ナンバリング	—	
英文名	Lecture on Library Information Resources							講義形態	講義	
担当教員	小柳 聡美									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格	司書									
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と幅広い教養				—	コミュニケーションスキル			
	—	健康・医療および情報に関する知識・技能				—	生涯学習力			
	—	問題解決力								
SDGs との関連	③ ④									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 「図書館情報資源概論」で学んだ内容をさらに発展的に学習し理解を深める観点から、図書館情報資源に関する領域の課題を選択し、高度化・多様化する利用者のニーズに応えられることを目標にする。 ② 授業では、テキストを單元ごとに読解し要約する。随時、図書館に関連する資料やニュースを紹介していく。									
到達目標	1. 各分野の情報資源の特性を知る。 2. 各分野の情報資源にアクセスできる。									
使用教材	『図書館情報資源概論 新訂版』JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ8 馬場俊明 編著 (日本図書館協会) ISBN9784820418085 (前期「図書館情報資源概論」から継続使用)									
参考文献										
評価方法	筆記試験 60%、授業時間内発表及び提出物 30%、授業参態度 10%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。なお詳しい評価基準は、初回講義時に提示する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出物は講義内で発表時間を設け、講評する。 筆記試験の意図は、第 1 回の講義で説明する。									
オフィスアワー (研究室)	質問には講義開始前もしくは終了後に 教室等で応じる。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回に提示する。			
1	講義内容	資料特論(灰色文献)								
	該当到達目標	予習	教科書 UNIT 18 に目を通す。							2 時間
	1,2	復習	灰色文献にアクセスし、理解を深める。							2 時間
2	講義内容	資料特論(政府刊行物)								
	該当到達目標	予習	教科書 UNIT 19 に目を通す。							1 時間
	1,2	復習	政府刊行物にアクセスし、理解を深める。							1.5 時間
3	講義内容	資料特論(地域資料)								
	該当到達目標	予習	教科書 UNIT 20 に目を通す。							1 時間
	1,2	復習	地域社会分野の情報資源にアクセスし、理解を深める。							1.5 時間
4	講義内容	人文・社会科学分野の情報資源								

令和 6 年度 社会福祉学科シラバス

	該当到達目標 1,2	予習	教科書 UNIT 21 に目を通す。	1 時間
		復習	人文・社会科学分野の情報資源にアクセスし、理解を深める。	1.5 時間
5	該当到達目標 1,2	講義内容 自然科学・技術分野の情報資源		
		予習	教科書 UNIT 22 に目を通す。	1 時間
		復習	自然科学・技術分野の情報資源にアクセスし、理解を深める。	1.5 時間
6	該当到達目標 1,2	講義内容 出版流通システム		
		予習	教科書 UNIT 23～26 に目を通す。	1.5 時間
		復習	出版流通システムについて、理解を深める。	1.5 時間
7	該当到達目標 1,2	講義内容 NIE(教育に新聞を！)の活動報告		
		予習	新聞を読む。	1.5 時間
		復習	新聞記事をスクラップにまとめることについて、理解を深める。	1.5 時間
8	該当到達目標 1	講義内容 まとめ・筆記試験		
		予習	キーワードについて確認する。	2 時間
		復習	全講義を振り返る。	2 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	基本的にはシラバスの順序に従って教科書を用い、講師オリジナルの内容説明資料を配信する。連絡・相談にも随時応じる。			